



バージョン 17.0: Salesforce Winter '10

# Force.com Web Services API Developer's Guide



Last updated: January 25, 2010

Copyright 2000-2009 salesforce.com, inc. All rights reserved. Salesforce.com、"no software" ロゴ、および Team Edition は、salesforce.com, inc. の登録商標です。また、AppExchange、"Success On Demand"、および "The Business Web" は、salesforce.com, inc. の商標です。本ドキュメントに記載されたその他の商標は、各社に所有権があります。



# 目次

はじめに .....	9
<b>第 1 章: Force.com API の導入.....</b>	<b>9</b>
Force.com Web サービス API はいつ使用するのですか?.....	10
Salesforce.com ソリューションのカスタマイズ、統合、および拡張.....	11
サポートされている Salesforce.com Edition.....	11
基準への準拠.....	12
開発プラットフォーム.....	12
API サポートポリシー.....	12
WSDL の選択.....	13
関連リソース .....	14
バージョン 17.0 の最新情報.....	14
クイックスタート .....	16
<b>第 2 章: 標準オブジェクトとカスタムオブジェクトの基礎 .....</b>	<b>26</b>
プリミティブデータ型.....	27
項目のデータ型.....	29
API データ型および Salesforce.com 項目のデータ型.....	34
API コールで使用されるコアデータ型.....	35
システム項目.....	53
必須項目.....	55
頻繁に指定される項目.....	55
API 項目プロパティ.....	57
オブジェクト間のリレーション.....	57
項目、タブ、API の再ラベル付け.....	58
Force.com AppExchange オブジェクトプレフィックスと API.....	59
カスタムオブジェクト .....	59
<b>第 3 章: Apex コール基礎 .....</b>	<b>63</b>
API コールの特徴.....	64
データアクセスに影響する要素.....	64
パッケージバージョン設定.....	66
<b>第 4 章: エラー処理.....</b>	<b>69</b>
セッション終了のエラー処理 .....	70
エラー処理の詳細.....	70
<b>第 5 章: セキュリティと API.....</b>	<b>71</b>
ユーザ認証.....	72

ユーザプロファイル構成.....	72
セキュリティトークン.....	72
共有.....	74
オブジェクトおよび項目の暗黙的な制限.....	75
Force.com AppExchange パッケージの API アクセス.....	75
送信ポートの制限.....	77
<b>第 6 章: Partner WSDL の使用.....</b>	<b>78</b>
Partner WSDL ファイルの取得.....	79
コールと Partner WSDL .....	79
オブジェクト、項目、項目データおよび Partner WSDL.....	80
クエリと Partner WSDL.....	80
Partner WSDL の名前空間.....	80
パッケージバージョンと Partner WSDL.....	81
ユーザインターフェースのテーマ.....	81
例.....	82
<b>参照.....</b>	<b>86</b>
<b>第 7 章: データモデル.....</b>	<b>86</b>
営業オブジェクト .....	86
タスクオブジェクトとイベントオブジェクト .....	87
サポートオブジェクト .....	87
ドキュメント、ノート、添付ファイルオブジェクト .....	87
ユーザおよびプロファイルオブジェクト .....	87
レコードタイプオブジェクト .....	87
商品およびスケジュールオブジェクト .....	87
共有およびチーム営業オブジェクト .....	87
カスタマイザブル売上予測オブジェクト .....	88
テリトリリー管理 .....	88
プロセスオブジェクト .....	88
コンテンツオブジェクト .....	88
<b>第 8 章: 標準オブジェクト .....</b>	<b>89</b>
Account.....	98
AccountContactRole.....	107
AccountHistory.....	108
AccountOwnerSharingRule.....	108
AccountPartner.....	110
AccountShare.....	111
AccountTag.....	113
AccountTeamMember.....	114
AccountTerritoryAssignmentRule.....	116
AccountTerritoryAssignmentRuleItem.....	117

AccountTerritorySharingRule.....	118
ActivityHistory.....	119
AdditionalNumber.....	122
ApexClass.....	124
ApexComponent.....	126
ApexPage.....	128
ApexTrigger.....	130
Approval.....	132
Asset.....	134
AssetTag.....	137
AssignmentRule.....	137
AsyncApexJob.....	138
Attachment.....	139
Bookmark.....	142
BrandTemplate.....	143
BusinessHours.....	145
BusinessProcess.....	148
CallCenter.....	149
キャンペーン.....	150
CampaignMember.....	155
CampaignMemberStatus.....	158
CampaignOwnerSharingRule.....	159
CampaignShare.....	160
CampaignTag.....	161
ケース.....	162
CaseComment.....	167
CaseContactRole .....	168
CaseHistory.....	169
CaseOwnerSharingRule.....	170
CaseShare.....	171
CaseSolution.....	173
CaseStatus.....	173
CaseTag.....	174
CaseTeamMember.....	175
CaseTeamRole.....	176
CaseTeamTemplate.....	176
CaseTeamTemplateMember.....	177
CaseTeamTemplateRecord.....	177
CategoryData.....	178
CategoryNode.....	179
CategoryNodeLocalization.....	180
コミュニティ .....	182
取引先責任者.....	183
ContactHistory.....	188
ContactOwnerSharingRule.....	189

ContactShare.....	190
ContactTag.....	192
ContentDocument.....	193
ContentDocumentHistory.....	194
ContentVersion.....	195
ContentVersionHistory.....	201
ContentWorkspace.....	202
ContentWorkspaceDoc.....	203
契約.....	205
ContractContactRole .....	209
ContractHistory.....	210
ContractStatus.....	210
ContractTag.....	211
CronTrigger.....	212
CurrencyType.....	214
DatedConversionRate.....	215
ディビジョン.....	215
DivisionLocalization.....	217
ドキュメント.....	218
DocumentAttachmentMap.....	222
DocumentTag.....	222
EmailMessage.....	223
EmailServicesAddress.....	225
EmailServicesFunction.....	227
EmailStatus.....	231
EmailTemplate.....	232
EntityHistory.....	235
行動.....	236
EventAttendee.....	244
EventTag.....	245
FiscalYearSettings.....	246
フォルダ.....	247
ForecastShare.....	250
グループ.....	251
GroupMember.....	252
休日.....	253
アイデア.....	256
IdeaComment.....	258
リード.....	259
LeadHistory.....	268
LeadOwnerSharingRule.....	269
LeadShare.....	270
LeadStatus.....	271
LeadTag.....	272

LineitemOverride.....	273
MailMergeTemplate.....	274
Name.....	275
メモ.....	277
NoteAndAttachment.....	278
NoteTag.....	279
OpenActivity.....	280
Opportunity.....	283
OpportunityCompetitor.....	289
OpportunityContactRole.....	290
OpportunityFieldHistory.....	291
OpportunityHistory.....	292
OpportunityLineItem.....	293
OpportunityLineItemSchedule.....	297
OpportunityOverride.....	300
OpportunityOwnerSharingRule.....	301
OpportunityPartner.....	302
OpportunityShare.....	303
OpportunityStage.....	304
OpportunityTeamMember.....	306
OpportunityTag.....	307
Organization.....	308
OrgWideEmailAddress.....	317
パートナー.....	317
PartnerNetworkConnection.....	319
PartnerNetworkRecordConnection.....	320
PartnerRole .....	323
Period.....	324
Pricebook2.....	325
PricebookEntry .....	327
ProcessInstance.....	329
ProcessInstanceHistory.....	330
ProcessInstanceState.....	331
ProcessInstanceWorkitem.....	332
Product2 .....	333
Profile.....	338
QuantityForecast.....	341
QuantityForecastHistory.....	345
Question.....	347
QueueSobject.....	348
RecordType.....	348
RecordTypeLocalization.....	351
Reply.....	352
RevenueForecast .....	353
RevenueForecastHistory .....	358

Scontrol.....	360
ScontrolLocalization.....	362
SelfServiceUser .....	365
ソリューション.....	367
SolutionHistory.....	369
SolutionStatus.....	370
SolutionTag.....	371
StaticResource.....	372
TagDefinition.....	374
Task.....	376
TaskPriority.....	381
TaskStatus.....	382
TaskTag.....	383
テリトリー.....	384
User.....	386
UserAccountTeamMember.....	397
UserLicense.....	399
UserPreference.....	401
UserRole.....	402
UserTeamMember.....	404
UserTerritory.....	405
Vote.....	406
WebLink.....	407
WebLinkLocalization.....	411
<b>第 9 章: コアコール.....</b>	<b>414</b>
convertLead().....	415
create().....	420
delete().....	424
emptyRecycleBin().....	426
getDeleted().....	428
getUpdated().....	432
invalidateSessions().....	434
login().....	435
logout().....	438
merge().....	439
process().....	442
query().....	444
queryAll().....	473
queryMore().....	475
retrieve().....	478
search().....	479
undelete().....	499
update().....	500
upsert().....	504

<b>第 10 章: Describe コール.....</b>	<b>509</b>
describeGlobal().....	509
describeLayout().....	512
describeSObject().....	520
describeSObjects().....	522
describeSoftphoneLayout().....	533
describeTabs().....	535
<b>第 11 章: ユーティリティコール.....</b>	<b>538</b>
getServerTimestamp().....	538
getUserInfo().....	539
resetPassword().....	542
sendEmail().....	543
setPassword().....	551
<b>第 12 章: SOAP ヘッダー.....</b>	<b>553</b>
AllowFieldTruncationHeader.....	554
AssignmentRuleHeader .....	555
CallOptions.....	556
EmailHeader.....	557
LocaleOptions.....	559
LoginScopeHeader.....	559
MrUHeader.....	560
PackageVersionHeader.....	561
QueryOptions.....	562
SessionHeader.....	563
UserTerritoryDeleteHeader .....	563
<b>Salesforce 機能での API の使用.....</b>	<b>565</b>
<b>第 13 章: 実装時の検討事項.....</b>	<b>565</b>
ログインサーバの URL.....	566
ログインサーバへのログインによる開始.....	566
一般的な API コールシーケンス.....	567
Salesforce.com Sandbox.....	567
Salesforce.com データベースサーバの複数インスタンス.....	567
コンテンツタイプの要件.....	567
API トラフィックの監視.....	567
API 使用率の測定.....	568
圧縮.....	569
HTTP 永続接続.....	570
HTTP のチャンク.....	570
国際化と文字コード.....	570
XML 準拠.....	571

.Net、非文字列項目および Enterprise WSDL.....	571
<b>第 14 章: アウトバウンドメッセージ.....</b>	<b>572</b>
アウトバウンドメッセージについて.....	573
通知について.....	573
アウトバウンドメッセージの設定.....	574
重要なセキュリティの検討事項.....	576
Outbound Messaging WSDL について.....	577
リスナーの構築.....	578
<b>第 15 章: データのロードと統合.....</b>	<b>580</b>
クライアントアプリケーションのデザイン.....	581
Salesforce.com の設定.....	582
すべてのデータローダでのベストプラクティス .....	583
統合とシングルサインオン.....	584
<b>第 16 章: データ複製.....</b>	<b>585</b>
データ複製のための API コール.....	586
データ複製の範囲.....	586
データ複製手順.....	586
データ複製のオブジェクト固有の要件.....	587
変更のポーリング .....	587
オブジェクトの構造変更のチェック .....	588
<b>第 17 章: 機能固有の考慮事項.....</b>	<b>589</b>
アーカイブ済みの活動.....	590
個人取引先のレコードタイプ .....	590
商談売上予測上書きのビジネスルール.....	592
コールセンターと API.....	595
Force.com の Salesforce.com 統合の実行.....	597
<b>用語集.....</b>	<b>598</b>
<b>索引.....</b>	<b>614</b>

# はじめに

## 第 1 章

### Force.com API の導入

#### トピック:

- Force.com Web サービス API はいつ使用するのですか?
- Salesforce.com ソリューションのカスタマイズ、統合、および拡張
- サポートされている Salesforce.com Edition
- 基準への準拠
- 開発プラットフォーム
- API サポートポリシー
- WSDL の選択
- 関連リソース
- バージョン 17.0 の最新情報
- クイックスタート

Salesforce.com では、使いやすく、強力で安全なアプリケーションプログラミングインターフェース、Force.com Web サービス API (API) を使用した組織の情報へのプログラム的なアクセスを提供しています。このドキュメントを使用するには、ソフトウェア開発、Web サービス、そして Salesforce.com ユーザインターフェースについての基本的な知識が必要です。

このガイドで説明されている機能は、組織で API 機能が有効化されている場合にのみ使用できます。この機能は、Unlimited、Enterprise、Developer Edition のデフォルトで有効化されています。一部の Professional Edition 組織でも、API が有効化されています。このガイドに記載されている機能にアクセスできない場合は、salesforce.com にご連絡ください。



メモ: Salesforce.com Education Services では、開発者が Apex プラットフォームで構築されるアプリケーションを設計、作成、統合、および拡張できるトレーニングコースが設けられています。詳細は、<http://www.salesforce.com/training> を参照してください。

## Force.com Web サービス API はいつ使用するのですか?

Salesforce.com では、強力なCRM機能を提供するアプリケーションが組み込まれています。また、組織に応じて組み込みアプリケーションをカスタマイズする機能も用意しています。ただし、組織には、既存の機能ではサポートされていない複雑なビジネスプロセスがあります。この場合、Force.com プラットフォームには、高度な管理者や開発者がカスタム機能を実装できるさまざまな方法が搭載されています。搭載されている機能は、Force.com Web サービス API、Apex、および Visualforce です。

### Force.com Web サービス API

API を使用して、取引先、リード、およびカスタムオブジェクトなどのレコードを作成、取得、更新または削除します。20 を超えるコール数で、API を使用し、パスワードを保持、検索を実行などを行うことができます。Web サービスをサポートする言語で、API を使用できます。

### Force.com Bulk API

REST ベースの Bulk API は、大きいセットのデータの読み込みに最適化されています。これを使用して、Salesforce.com によってバックグラウンドで処理される多くのバッチを送信して、多くのレコードを非同期で挿入または更新することができます。

一方、SOAPベースの API は、少数のレコードを一度に更新するリアルタイムクライアントアプリケーションに最適化されています。SOAPベースの API を使用して多くのレコードを読み込むことができますが、データセットに数百、数千のレコードが含まれる場合、あまり役に立ちません。Bulk API は、数千から数百万のレコードを読み込むことが容易になるよう、設計されています。

### Force.com Metadata API

メタデータ API を使用して、カスタムオブジェクト定義、ページレイアウトなど、組織のカスタマイズ情報を取得、デプロイ、作成、更新または削除します。最も一般的な使用方法は、Sandbox またはテスト組織から運用組織に変更を移行することです。メタデータ API はカスタマイズを管理し、データ自体ではなくメタデータモデルを管理できるツールを構築するためのものです。取引先またはリードなど、レコードを作成、取得、更新または削除するには、API を使用してデータを管理します。

Force.com IDE または Force.com 移行ツールを使用すると、最も簡単にメタデータ API の機能を使用できます。これらのツールはメタデータ API の上位に構築され、メタデータ API との連携タスクを簡略化するために標準 Eclipse および Ant ツールを使用します。Eclipse プラットフォームに構築された Force.com IDE は、統合された開発環境に精通したプログラマにとって快適な環境を提供し、IDE 内のすべてのコード化、コンパイル、テスト、デプロイすることができます。Force.com 移行ツールは、ローカルディレクトリと Salesforce.com 組織との間でメタデータを移動するためにスクリプトまたはコマンドラインユーティリティを使用する場合に理想的です。

### Apex

次のような場合に Apex を使用します。

- Web サービスを作成する
- 電子メールサービスを作成する
- 複数のオブジェクトに複雑な検証を実行する
- ワークフローでサポートされていない複雑なビジネスプロセスを作成する

- カスタムトランザクションロジック (1つのレコードやオブジェクトだけでなく、トランザクション全体で発生するロジック) を作成する
- 操作がユーザインターフェース、Visualforce ページ、または Web サービス API のどこで行われているかに関係なく、操作が実行されるといつでも行われるよう、レコードの保存などの別の操作にカスタムロジックを添付する

詳細は、『[Force.com Apex Code Developer's Guide](#)』を参照してください。

## Visualforce

Visualforce では、タグベースのマークアップ言語を使用して、開発者はより効果的にアプリケーションを開発したり、Salesforce.com のユーザインターフェースをカスタマイズしたりできます。Visualforce を使用して、次のことができます。

- ウィザードやその他のマルチステッププロセスの構築
- アプリケーションを介した独自のカスタムフローコントロールの作成
- 最適かつ効果的なアプリケーションの相互作用を目的とした、ナビゲーションパターンやデータ固有ルールの定義

詳細については、『[Visualforce Developer's Guide](#)』を参照してください。

## Salesforce.com ソリューションのカスタマイズ、統合、および拡張

---

Force.com を使用すると、選択した言語およびプラットフォームを使用して、ご使用の Salesforce.com 組織を次のようにカスタマイズ、統合、および拡張します。

- Salesforce.com のカスタマイズカスタム項目、カスタムリンク、カスタムページ、カスタムレイアウト、カスタムボタン、カスタムレコードタイプ、カスタム S コントロール、カスタムタブを使用して、特定のビジネス要件を満たします。
- Salesforce.com の統合組織の ERP や会計システムを使用して統合します。リアルタイムの販売情報やサポート情報を会社のポータルに配信し、重要なビジネスシステムに顧客情報を投入します。
- Salesforce.com の拡張組織のビジネス要件を反映する新機能により、プレゼンテーション、ビジネスロジック、およびデータサービスの面で拡張します。

Force.com ソリューション、開発者のリソース、コミュニティリソースの詳細については、Developer Force にアクセスしてください。

## サポートされている Salesforce.com Edition

---

API を使用するには、Enterprise Edition、Unlimited Edition、または Developer Edition を使用する必要があります。既存の Salesforce.com のお客様で Enterprise Edition または Unlimited Edition のいずれかにアップグレードする場合は、担当者にご連絡ください。

Web サービスクライアントアプリケーションを開発するために、すべてのカスタマイズやデータを含む、Salesforce.com 展開の完全なレプリカである Developer Sandbox を使用することをお勧めします。詳細は、<http://www.salesforce.com/products/sandbox.jsp> を参照してください。

Developer Edition では、Enterprise Edition で使用できるすべての機能にアクセスできます。Developer Edition で制約されているのは、ユーザ数とディスク容量のみです。Developer Edition では、組織の生のデータに影響を与えることなくソリューションを構築およびテストできる開発コンテキストを用意しています。Developer Edition アカウントは、[http://wiki.apexdevnet.com/index.php/Getting\\_Started](http://wiki.apexdevnet.com/index.php/Getting_Started) で無料で入手できます。

## 基準への準拠

API は、次の指定に準拠するよう実装されています。

基準名	Website
Simple Object Access Protocol (SOAP) 1.1	<a href="http://www.w3.org/TR/2000/NOTE-SOAP-20000508/">http://www.w3.org/TR/2000/NOTE-SOAP-20000508/</a>
Web Service Description Language (WSDL) 1.1	<a href="http://www.w3.org/TR/2001/NOTE-wsdl-20010315">http://www.w3.org/TR/2001/NOTE-wsdl-20010315</a>
WS-I Basic Profile 1.1	<a href="http://www.ws-i.org/Profiles/BasicProfile-1.1-2004-08-24.html">http://www.ws-i.org/Profiles/BasicProfile-1.1-2004-08-24.html</a>

## 開発プラットフォーム

API は、Visual Studio .NET 2005、および Apache Axis を含む最新の SOAP 開発環境で動作します。本ドキュメントでは、Java および C# (.NET) の例を示しています。Java の例は Apache Axis 1.3 および JDK 5.0 (Java 2 Platform Standard Edition Development Kit 5.0) に基づいています。Apache Axis 1.3 の使用の詳細については、<http://ws.apache.org/axis/> を参照してください。互換性のある開発プラットフォームの詳細やさらなるサンプルコードについては、[developer.force.com](http://developer.force.com) にアクセスしてください。



メモ: 開発プラットフォームは、SOAP の実装によって異なります。特定の開発プラットフォームにおける実装の相違点により、API の一部またはすべての機能にアクセスできません。.NET 開発に Visual Studio を使用している場合、Visual Studio 2003 以上の使用をお勧めします。

## API サポートポリシー

クライアントアプリケーションでは、より豊富な機能と優れた効率性の利点を十分に生かすよう、最新バージョンの Force.com WSDL ファイルを使用することをお勧めします。[設定] > [開発者] > [API] をクリックして、組織の最新の WSDL に移動することができます。新しいバージョンがリリースされた場合は、[クイックスタート](#) で次のステップを実行してご使用の WSDL を更新してください。

- WSDL ファイルを再生成する ([ステップ 2: Web サービス WSDL を生成または取得](#))
- WSDL ファイルをご使用の環境にインポートする ([ステップ 3: 開発プラットフォームへの WSDL ファイルのインポート](#))

## 後方互換性

Salesforce.com では、Force.com プラットフォームを使用している場合の後方互換性を容易にできるよう努めています。

新しい Salesforce.com リリースは、次の 2 つのコンポーネントで構成されています。

- salesforce.com システムにある新しいリリースのプラットフォームソフトウェア
- 新しいバージョンの API

たとえば、Winter '07 リリースには API version 9.0 が、Summer '07 リリースには API version 10.0 が含まれていました。

プラットフォームソフトウェアのリリースにわたって、各 API バージョンのサポートを維持しています。指定された API バージョンを処理するよう作成されたアプリケーションが、今後のプラットフォームソフトウェアのリリースで同じバージョンの API を継続して処理するよう、API には後方互換性があります。

あるバージョンの API に対して作成されたアプリケーションが将来の API バージョンを使用することは保証されません。API が拡張し続けているため、メソッド署名およびデータ表示の変更が必要な場合が多くあります。ただし、変更を新しい API バージョンに移行する必要がある場合、バージョン間の API の一貫性を最小限に保持します。

Winter '07 リリースに付属する API version 9.0 を使用して作成されたアプリケーションは、Summer '07 リリースの API version 9.0、また今後のリリースにも対応し続けます。ただし、アプリケーションを変更せずに、同じアプリケーションで API バージョン 10 を使用することはできません。

## API の有効期限

Salesforce.com では、最初のリリース日から最低 3 年 API バージョンをサポートします。API の品質およびパフォーマンスを改善するために、3 年を超えるバージョンはサポートが停止されます。

API バージョンのサポートが廃止される予定の場合、事前の有効期限に関する通知が、API バージョンのサポートが終了する最低 1 年前に送付されます。Salesforce.com は、廃止が予定されている API バージョンを使用するお客様に直接通知します。

## WSDL の選択

API アクセスの WSDL ファイルを取得できる Force.com Web サービスは、次の 2 つです。

- **Force.com Enterprise WSDL** この API は、組織のクライアントアプリケーションを開発する多くのエンタープライズユーザ向けのものです。Enterprise WSDL ファイルは、組織データを強力に定型化して表示します。開発環境にスキーマ、データ型、項目に関する情報を提供し、開発環境と Force.com Web サービスとのより緊密な統合を実現できます。組織の Salesforce.com 構成でカスタム項目またはカスタムオブジェクトが追加、名前変更、または削除された場合、WSDL が変更します。エンタープライズ WSDL をダウンロードし、管理パッケージを組織にインストールする場合、生成された WSDL に追加するインストールパッケージのバージョンを選択するという、追加のステップを実行する必要があります。

Enterprise WSDL を生成する場合は、次の点に注意してください。

- 新しいカスタム項目またはカスタムオブジェクトが組織の情報で追加、名前変更または削除する場合、WSDL ファイルを再生成して項目やオブジェクトにアクセスする必要があります。

- 生成された WSDL には、選択されたバージョンのインストールパッケージで使用できるものなど、組織内のオブジェクトや項目が含まれています。項目またはオブジェクトが今後のパッケージバージョンに追加される場合、API 統合のオブジェクトまたは項目と連動するよう、そのパッケージバージョンで Enterprise WSDL を生成する必要があります。
- **Force.com Partner WSDL** この API は、組織のクライアントアプリケーションを開発する salesforce.com パートナー向けのものです。Salesforce.com オブジェクトモデルはあまり強く定型化されていないため、この [Partner WSDL](#) を使用して、組織内のデータにアクセスすることができます。

## 関連リソース

salesforce.com 開発者 Web サイトでは、開発者ツールキット、サンプルコード、サンプル SOAP メッセージ、コミュニティベースのサポート、およびその他のリソースの完全パッケージを提供して、開発プロジェクトを支援します。詳細は [https://wiki.apexdevnet.com/index.php/Getting\\_Started](https://wiki.apexdevnet.com/index.php/Getting_Started) に、無料の Developer Edition アカウントに登録するには <http://developer.force.com/join> にアクセスしてください。

これらの Web サイトにアクセスすると、Salesforce.com アプリケーションの詳細情報を入手できます。

- [Salesforce.com](#) では、Salesforce.com アプリケーションの詳細情報が提供されています。
- [Force.com AppExchange](#) では、Salesforce.com 向けに作成されたアプリケーションへ二アクセスできます。
- [Salesforce.com Community](#) では、Salesforce.com のお客様の成功を実現するサービスが提供されています。

## バージョン 17.0 の最新情報

### 正式リリースされる機能

Winter '10 では、Force.com Web サービス API が改良されています。

#### 新しいログインのエンドポイント

[https://login.salesforce.com/services/Soap/c/api\\_version](https://login.salesforce.com/services/Soap/c/api_version) は、API ログイン要求の新しい推奨エンドポイントです。17.0 など、`api_version` は API バージョンを指定します。

[https://login.salesforce.com/services/Soap/c/api\\_version](https://login.salesforce.com/services/Soap/c/api_version) に非ログイン要求を送信すると、エラーが返されます。安全でないバージョンの URL

[http://login.salesforce.com/services/Soap/c/api\\_version](http://login.salesforce.com/services/Soap/c/api_version) もサポートしていますが、お勧めできません。プロキシサーバ経由でデバッグする場合に役立ちます。

以前の推奨エンドポイント [https://www.salesforce.com/services/Soap/c/api\\_version](https://www.salesforce.com/services/Soap/c/api_version) にログイン要求を送信すると、正常にログインできますが、

[https://login.salesforce.com/services/Soap/c/api\\_version](https://login.salesforce.com/services/Soap/c/api_version) が望ましいオプションです。

#### 新しいオブジェクト

次の新しいオブジェクトが API バージョン 17.0 に追加されました。

- 次の新しいオブジェクトが Salesforce CRM Content 用に追加されました。
  - ContentDocument オブジェクトは、ワークスペースにアップロードされたドキュメントを表します。

- ContentDocumentHistory オブジェクトはドキュメントの履歴を表します。
  - ContentVersion オブジェクトはドキュメントの特定のバージョンを表します。
  - ContentVersionHistory オブジェクトはドキュメントの特定のバージョンの履歴を表します。
  - ContentWorkspace オブジェクトは公開ワークスペースを表します。
  - ContentWorkspaceDoc オブジェクトはドキュメントとワークスペースの間のリンクを表します。
- CronTrigger オブジェクトは Apex のスケジュール済みジョブを表します。
  - Question オブジェクトはユーザが参照または返信できるトピックを表します。
  - Reply オブジェクトはユーザが質問に対して送信した返信を表します。



メモ: Question および Reply オブジェクトは応答パイロット機能の一部で、デフォルトで無効になっています。これらのオブジェクトは応答が有効にするまで表示されません。

## 変更されたオブジェクト

次のオブジェクトは、API バージョン 17.0 で変更されました。

- Attachment オブジェクトには、Salesforce to Salesforce をサポートするための新しい項目が含まれています。
  - ConnectionReceivedID
  - ConnectionSentID
  - IsPartnerShared
- Campaign オブジェクトには [CampaignMemberRecordTypeId] 項目が含まれています。これは、キャンペーンに関連付けられている CampaignMember レコードのレコードタイプを設定するために使用します。
- CampaignMember オブジェクトには、CampaignMember レコードの通貨の変更をサポートする [通貨 Iso コード] 項目と、CampaignMember に関連付けられているレコードタイプを表示する [RecordTypeId] 項目が含まれています。CampaignMember レコードタイプは、関連付けられている Campaign の [CampaignMemberRecordTypeId] 項目を使用して設定します。
- CategoryNodeLocalization、ScontrolLocalization、および WebLinkLocalization オブジェクトで [LanguageLocaleKey] 項目の名前が変更され、[言語] 項目と呼ばれるようになりました。[言語] 項目はバージョン 17.0 以降で使用できます。[LanguageLocaleKey] 項目はバージョン 16.0 以前で使用できます。
- EmailServicesFunction オブジェクトには、次の項目が含まれています。
  - 送信者に通知する代わりに選択した電子メールアドレスにエラーを通知する電子メールメッセージの送信をサポートする [IsErrorRoutingEnabled] と [ErrorRoutingAddress]
  - サイズが大きすぎる電子メールの切り捨てをサポートする [IsTextTruncated]
- User オブジェクトには、大容量カスタマーポータルユーザをサポートする [AccountId] 項目が含まれています。
- 新しい Reply オブジェクトで投票するための Vote オブジェクトが使用できるようになりました。

## 変更されたコール



You asked for it! この拡張機能は、IdeaExchange の[アイデア](#)です。

`describeGlobal()` コールによって返される `DescribeGlobalResult` オブジェクトでは、`types` プロパティがサポートされなくなりました。代わりに、`DescribeGlobalResult` には、`[types]` プロパティで以前使用可能だった情報を向上する新しい `[sobjects]` プロパティがあります。この新しいプロパティには追加情報が含まれているので、詳細情報を取得するために後続の `describeSObjects()` コールを実行する必要性が軽減されるため、多くの場合パフォーマンスが向上します。

`DescribeSObjectResult` および `DescribeGlobalSObjectResult` オブジェクトには、カスタム設定オブジェクトをサポートする `[customSetting]` 項目が含まれています。

`sendEmail()` コールには、次を含めることができますようになりました。

- 電子メール添付ファイルの Content-Types および Content-Dispositions を指定するための `EmailFileAttachment` の `[contentType]` および `[inline]` プロパティ
- 電子メールスレッドの追跡をサポートする `SingleEmailMessage` の `[inReplyTo]` および `[references]` 引数

## 以前のバージョン

以前のバージョンの変更に関する情報が次に記載されています。

- Force.com Web Services API Spring '09: Version 16.0 の最新情報
- Force.com Web Services API Summer '09: Version 15.0 の最新情報
- Force.com Web Services API Winter '09: Version 14.0 の最新情報
- Force.com Web Services API Summer '08: Version 13.0 の最新情報
- Force.com Web Services API Spring '08: Version 12.0 の最新情報
- Force.com Web Services API Winter '08: Version 11.0 の最新情報
- Force.com Web Services API Summer '07: Version 10.0 の最新情報
- Force.com Web Services API Spring '07: Version 9.0 の最新情報
- Force.com Web Services API Winter '07: Version 8.0 の最新情報
- Winter '06: Version 7.0 の最新情報
- Summer '05: Version 6.0 の最新情報
- Winter '05: Version 5.0 の最新情報
- Summer '04: Version 4.0 の最新情報

## クイックスタート

ここで、ご使用の開発環境でサンプルアプリケーションを作成します。



メモ: 統合またはその他のクライアントアプリケーションを作成する前に、次のことを実行してください。

- 製品マニュアルに従って、開発プラットフォームをインストールする。

- このクイックスタートを開始する前に、すべての手順に目を通す。用語およびコンセプトについて理解するために、このマニュアルの残りの部分を確認する必要があります。

## 手順 1: Salesforce.com Developer Edition アカウントの取得

まだ開発者コミュニティのメンバーでない場合、<http://developer.force.com/join>にアクセスし、Developer Edition アカウントのサインアップの指示に従ってください。すでに Enterprise Edition アカウントまたは Unlimited Edition アカウントがある場合でも、組織の生のデータを保護するためのサンプルデータに対するソリューションを開発、ステージングおよびテストする Developer Edition を使用することを強くお勧めします。これは、(データをただ読み込むだけのアプリケーションに対し) データを挿入、更新または削除するアプリケーションに当てはまります。

Developer Edition アカウントを取得する前に、ユーザプロファイルに「API の有効化」権限が選択されている必要があります。デフォルトでは、この権限が有効になっています。詳細は、Salesforce.com ユーザインターフェースのヘルプを参照してください。

## ステップ 2: Web サービス WSDL を生成または取得

Force.com Web サービスにアクセスするには、Web Service Description Language (WSDL) ファイルが必要です。WSDL ファイルは、使用できる Web サービスを定義します。開発プラットフォームではこの WSDL を使用して API を生成し、WSDL が定義する Force.com Web サービスにアクセスします。組織の Salesforce.com 管理者から WSDL ファイルを取得することも、WSDL ダウンロードページへのアクセス権限がある場合は Salesforce.com ユーザインターフェースで自分で生成することもできます。[設定] ▶ [開発者] ▶ [API] をクリックして、組織の最新の WSDL に移動することができます。

WSDL の詳細は、<http://www.w3.org/TR/wsdl> を参照してください。

### 組織の WSDL ファイルの生成

「すべてのデータを変更する」権限を持つユーザなら誰でも Web Services Description Language (WSDL) ファイルをダウンロードし、API を使用して Salesforce.com を統合および拡張できます。(システム管理者プロファイルにこの権限が与えられます。)

WSDL ファイルは、ダウンロードする WSDL ファイル (Enterprise または Partner) の種類に基づいて、動的に生成されます。生成された WSDL は組織の API アクセスに使用できるすべての API コール、オブジェクト (標準オブジェクトおよびカスタムオブジェクト)、および項目を定義します。

組織の WSDL ファイルの生成するには、次の手順を行います。

- Enterprise Edition、Unlimited Edition、または Developer Edition の Salesforce.com アカウントにログインします。「すべてのデータの編集」権限を持つ管理者またはユーザとしてログインします。既知の IP アドレスからログインされていることが確認されます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「ログイン制限の設定」を参照してください。
- [設定] ▶ [開発] ▶ [API] をクリックして、WSDL ダウンロードページを表示します。
- 適切な WSDL をダウンロードします。
  - Enterprise WSDL をダウンロードして組織に管理パッケージをインストールしている場合は、[Enterprise WSDL の生成] をクリックします。Salesforce.com によって、生成された WSDL に含める各インストール済みパッケージのバージョンを選択するように要求されます。

- それ以外の場合、適切な WSDL ドキュメントのリンクを右クリックして、ローカルディレクトリに保存します。右クリックで表示されるメニューから、Internet Explorer ユーザは [対象をファイルに保存] を、Mozilla ユーザは [リンク先を名前を付けて保存] を選択します。

### ステップ 3: 開発プラットフォームへの WSDL ファイルをインポート

WSDL ファイルを作成または取得すると、開発環境内のクライアント Web サービスアプリケーション構築に必要なオブジェクトを生成できるよう、WSDL ファイルを開発プラットフォームにインポートする必要があります。ここでは、Apache Axis および Microsoft Visual Studio についてのサンプルの方法について説明します。その他の開発環境の指示については、プラットフォームの製品マニュアルを参照してください。



メモ: WSDL ファイルをインポートするプロセスは、Enterprise WSDL ファイルおよび Partner WSDL ファイルで同じです。

#### Java 環境での使用方法 (Apache Axis)

Java 環境は、サーバ側でプロキシとして機能する Java オブジェクトを使用して、API にアクセスします。API を使用する前に、まず組織の WSDL ファイルからこれらのオブジェクトを生成する必要があります。

SOAP クライアントには、このプロセスで使用する独自のツールがあります。Apache Axis の場合、WSDL2Java ユーティリティを使用します。



メモ: WSDL2Java を実行する前に、Axis をシステムにインストールし、すべてのコンポーネント JAR ファイルがクラスパスで参照されている必要があります。

WSDL2Java の基本構文は次のとおりです。

```
java -classpath pathToJAR/Filename org.apache.axis.wsdl.WSDL2Java -a pathToWsdl/WsdlFilename
```

-a スイッチは、すべての要素のコードを生成します。参照されているかされていないかにかかわらず、WSDL に応じて必要です。詳細は、WSDL2Java のマニュアルを参照してください。

複数の場所に JAR ファイルがある場合、セミコロンでファイルを区切れます。たとえば、Axis JAR ファイルが C:\axis-1.3 にインストールされ、WSDL の名前が my\_enterprise.wsdl で、C:\mywsdls に保存されている場合、次のようにになります。

```
java -classpath
c:\axis-1.3\lib\axis.jar;c:\axis-1.3\lib\axis-ant.jar;c:\axis-1.3\lib\axis-schema.jar;
c:\axis-1.3\lib\commons-discovery-0.2.jar;c:\axis-1.3\lib\commons-logging-1.0.4.jar;
c:\axis-1.3\lib\jaxrpc.jar;c:\axis-1.3\lib\log4j-1.2.8.jar;c:\axis-1.3\lib\saaj.jar;
c:\axis-1.3\lib\wsdl4j-1.5.2.jar;c:\axis-1.3\mail.jar;c:\axis-1.3\activation.jar;c:\axis-1.3\wsdl4j.jar;
org.apache.axis.wsdl.WSDL2Java -a C:\mywsdls\my_enterprise.wsdl
```

このコマンドは、一連のフォルダと Java ソースコードファイルを実行されたディレクトリと同じディレクトリに生成します。これらのファイルがコンパイルされた後、クライアントアプリケーションで使用するために Java プログラムに追加することができます。

多くの Java 開発環境では、このプロセスにはコマンドラインの代わりにウィザードベースのツールを使用できます。WSDL2Java の使用の詳細については、<http://ws.apache.org/axis/java/reference.html> を参照してください。Force.com での WSDL2Java の使用での詳細については、

<http://www.salesforce.com/developer/boards.jsp> の掲示板を参照してください。

## Microsoft Visual Studio での使用方法

Visual Studio 言語は、サーバ側でプロキシとして機能するオブジェクトを使用して API にアクセスします。API を使用する前に、まず組織の WSDL ファイルからこれらのオブジェクトを生成する必要があります。

Visual Studio には、WSDL ファイルをインポートして XML Web サービスクライアントを生成する 2 つの方法があります。IDE ベースの方法と、コマンドラインを使用する方法です。



メモ: 始める前に、まず新しいアプリケーションを使用するか、Visual Studio で既存のアプリケーションを開きます。また、「[組織の WSDL ファイルの生成](#)」で説明されているように WSDL ファイルを生成する必要があります。

XML Web サービスクライアントは、XML Web サービスを参照して使用するコンポーネントまたはアプリケーションです。必ずしもクライアントベースのアプリケーションである必要はありません。実際多くの場合、ご使用の XML Web サービスクライアントは、Web Forms またはその他の XML Web サービスなど、その他の Web アプリケーションお場合があります。管理コードで XML Web サービスにアクセスする場合、プロキシクラスと .NET Framework はすべてのインフラストラクチャコードを処理します。

管理コードから XML Web サービスにアクセスするには、次の手順を行います。

1. プロジェクト `Walkthrough` に名前を付けるか、次のサンプルの `using` ディレクティブを `your_project_name.web_reference_name` に変更します。Web リファレンスを、アクセスする XML Web サービスのプロジェクトに追加します。Web リファレンスは、XML Web サービスの公開されたメソッドのプロキシとして機能するメソッドでプロキシクラスを作成します。
2. Web リファレンスの名前空間を追加します。
3. プロキシクラスのインスタンスを作成し、その他のクラスのメソッドと同様にそのクラスのメソッドにアクセスします。

Web リファレンスを追加するには、次の手順を行います。

1. [プロジェクト] メニューで、[Web リファレンスを追加] を選択します。
2. [Web リファレンスを追加] ダイアログボックスの URL ボックスに、次のように、アクセスする XML Web サービスについてのサービス説明を取得する URL を入力します。  
`file:///c:\WSDLFiles\enterprise.wsdl`
3. [実行] をクリックして、XML Web サービスの情報を取得します。
4. Web リファレンス名のボックスで、Web リファレンスに使用する名前である、`sforce` への Web リファレンスの名前を変更します。
5. [リファレンスの追加] をクリックして、対象 XML Web サービスの Web リファレンスを追加します。詳細は、Visual Studio マニュアルの、「[Web リファレンスの追加と削除](#)」を参照してください。
6. Visual Studio は、サービスの説明を取得し、プロキシクラスを生成して、アプリケーションと XML Web サービス間を接続します。



メモ: Visual Basic .Net 1.1 と Enterprise WSDL を使用する場合、生成された Web サービスを変更して、Visual Studio のクライアント生成ユーティリティのバグを解決する必要があります。API は、名前が Visual Basic キーワードと競合する 2 つのオブジェクト ([ケース](#) と [イベント](#)) を公開します。これらのオブジェクトを表すクラスが作成されると、Visual Studio はクラス名を大かっこで囲みます (`[Case]` と `[Event]`)。これは、キーワードを再利用するメソッドです。

`sObject` クラスの定義では、Visual Studio は、`sObject` 定義の一部である

`System.Xml.Serialization.XmlIncludeAttribute` のクラスリファレンスにクラス名をラップします。Visual

Studio のこの問題を回避するには。以下のようにケースや行動 `XmlIncludeAttribute` 設定を編集する必要があります。C# には適用されず、Enterprise WSDL を使用する場合にのみ適用されます。

```
System.Xml.Serialization.XmlIncludeAttribute(GetType([Event])),  
System.Xml.Serialization.XmlIncludeAttribute(GetType([Case])), _
```

## ステップ 4: サンプルコードの説明

WSDL file をインポートすると、API を使用するクライアントアプリケーションの構築を解しできます。次のサンプルを使用して、基本のクライアントアプリケーションを作成します。サンプルに埋め込まれたコメントは、コードの各セクションを説明します。

### Java サンプルコード

ここでは、Apache Axis SOAP クライアントを使用する、Java クライアントアプリケーションのサンプルについて説明します。このサンプルアプリケーションでは、ログインサーバにログインするために必要なステップを示し、いくつかのAPI コールを起動してその後処理する方法を説明します。このサンプルアプリケーションでは、次の主要なタスクを実行します。

1. Salesforce.com のユーザ名とパスワードを求めるプロンプトを表示する。
2. `login()` を呼び出して、單一ログインサーバにログインする。ログインが成功したら、次を実行する。
  - 返された `sessionId` を、後続の API コールのセッション認証に必要なセッションヘッダーに設定する。
  - エンドポイントを、後続の API コールの対象となる返された `serverUrl` にリセットする。

API にアクセスするすべてのクライアントアプリケーションは、後続の API コールを実行する前に、このステップでタスクを完了する必要があります。
3. `describeGlobal()` をコールし、組織のデータで使用できるすべてのオブジェクトの一覧を取得する。
4. `describeSObject()` をコールして、指定されたオブジェクトのメタデータ (項目リストとオブジェクトプロパティ) を取得する。
5. `query()` をコールし、簡単なクエリ文字列 ("取引先責任者から FirstName、LastName を選択") を渡して、返された `QueryResult` を反復する。

API コールに続く、エラー処理コードに注意してください。

```
//必要なパッケージとオブジェクトをインポートしてサンプルクライアントアプリケーションが開始します。 package  
com.doc.samples;  
  
import java.io.*; import java.rmi.RemoteException;  
  
import javax.xml.rpc.ServiceException;  
  
import com.sforce.soap.enterprise.*; import com.sforce.soap.enterprise.fault.ExceptionCode;  
import com.sforce.soap.enterprise.fault.LoginFault; import  
com.sforce.soap.enterprise.sobject.Contact;  
  
/** * Title: Login Sample * * Description: Console application illustrating login, session  
management, * and server redirection.* * Copyright: Copyright (c) 2005- 2008 * Company:  
salesforce.com * * @version 14.0 */ public class Samples { private SoapBindingStub binding;  
static BufferedReader rdr = new BufferedReader(new InputStreamReader(System.in));
```

```
public Samples() { }

public static void main(String[] args) throws ServiceException { Samples samples1 = new Samples(); samples1.run(); }

//サンプルクライアントアプリケーションは、ユーザのログイン資格情報を取得します。// コンソールからユーザ入力を取得するヘルパー関数 String getUserInput(String prompt) { System.out.print(prompt); try { return rdr.readLine(); } catch (IOException ex) { return null; } }

/** * ログインコールを使用して、Salesforce からトークンを取得します。* このトークンは * 認証を提供するためにその他のすべてのコールに渡す必要があります。*/ private boolean login() throws ServiceException { String userName = getUserInput("Enter username: "); String password = getUserInput("Enter password: "); /** 次に、サンプルクライアントアプリケーションは分割スタブを初期化します。* これはすべてのコールを作成する API へのメイン * インターフェースです。The getSoap method takes an optional parameter, * (a java.net.URL) which is the endpoint.* For the login call, the parameter always starts with * http(s)://login.salesforce.com. After logging in, the sample * client application changes the endpoint to the one specified * in the returned loginResult object.*/ binding = (SoapBindingStub) new SforceServiceLocator().getSoap();

// Time out after a minute binding.setTimeout(60000); // Test operation LoginResult loginResult; try { System.out.println("LOGGING IN NOW...."); loginResult = binding.login(userName, password); } catch (LoginFault ex) { // The LoginFault derives from AxisFault ExceptionCode exCode = ex.getExceptionCode(); if (exCode == ExceptionCode.FUNCTIONALITY_NOT_ENABLED || exCode == ExceptionCode.INVALID_CLIENT || exCode == ExceptionCode.INVALID_LOGIN || exCode == ExceptionCode.LOGIN_DURING_RESTRICTED_DOMAIN || exCode == ExceptionCode.LOGIN_DURING_RESTRICTED_TIME || exCode == ExceptionCode.ORG_LOCKED || exCode == ExceptionCode.PASSWORD_LOCKOUT || exCode == ExceptionCode.SERVER_UNAVAILABLE || exCode == ExceptionCode.TRIAL_EXPIRED || exCode == ExceptionCode.UNSUPPORTED_CLIENT) { System.out.println("Please be sure that you have a valid username " + "and password."); } else { // Write the fault code to the console System.out.println(ex.getExceptionCode()); // Write the fault message to the console System.out.println("An unexpected error has occurred." + ex.getMessage()); } return false; } catch (Exception ex) { System.out.println("An unexpected error has occurred: " + ex.getMessage()); ex.printStackTrace(); return false; } // パスワードの期限が切れているかどうか確認します。 if (loginResult.isPasswordExpired()) { System.out.println("An error has occurred. Your password has expired."); return false; } /** クライアントアプリケーションが正常にログインすると、* ログインコールの結果を使用して組織にサービスを提供する仮想サーバインスタンスへ * サービスのエンドポイントをリセットします。* これを実行するには、LoginResult から返された URL を使用して分割オブジェクトの * ENDPOINT_ADDRESS_PROPERTY を設定します。*/ binding._setProperty(SoapBindingStub.ENDPOINT_ADDRESS_PROPERTY, loginResult.getServerUrl()); /** サンプルアプリケーションには、適切なエンドポイントを示す * SoapBindingStub のインスタンスがあります。次に、サンプルアプリケーションは * ログイン資格情報の有効な sessionId を含む永続 * SOAP ヘッダーを設定します (SoapBindingStub で作成されるすべての * 後続コールに含まれます) これを実行するために、サンプルアプリケーションは新しい * SessionHeader オブジェクトを作成してその sessionId プロパティを LoginResult オブジェクト * の sessionId プロパティに設定します。*/ // Create a new session header object and add the session id // from the login return object _SessionHeader sh = new _SessionHeader(); sh.setSessionId(loginResult.getSessionId()); /** Next, the sample client application calls the setHeader method of the * SoapBindingStub to add the header to all subsequent method calls.この * ヘッダーは、ヘッダーが明示的に削除され * SoapBindingStub が破棄されるまで継続します。 「SessionHeade」パラメータは、* 追加されるヘッダーの名前です。*/ // 後続するコール認証のセッションヘッダーを設定します binding.setHeader(new SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(), "SessionHeader", sh); // 真を返して、ログインし正しい URL にアクセスして // セキュリティトークンを持っていることを示します。 return true; }

/** * ログインユーザが使用できるオブジェクトを指定するために、 * サンプルクライアントアプリケーションは describeGlobal コールを実行し、ログインユーザに表示されるすべての * オブジェクトを返します。コールから返されるデータは頻繁に変更されないため、* このコールは、セッションごとに複数回 * 行う必要があります。 DescribeGlobalResult は、コンソールにエコーとして返されます。*/ private void describeGlobalSample() { try { DescribeGlobalResult describeGlobalResult = null; describeGlobalResult = binding.describeGlobal(); DescribeGlobalSObjectResult[] sobjectResults = describeGlobalResult.getObjects(); for (int i=0;i<sobjectResults.length;i++) { System.out.println(sobjectResults[i].getName()); } } catch (Exception ex) { }
```

```
System.out.println("\nFailed to return types, error message was: \n" + ex.getMessage()); }
```

/\*\* \* 次のコードセグメントは、ユーザが使用できる各オブジェクトに \* 取得できるメタデータ情報の種類について説明しています。サンプルクライアントアプリケーションは \* 指定されたオブジェクトに describeSObject コールを実行し、返されたメタデータ情報を \* コンソールにエコーとして返します。オブジェクトメタデータ情報には、権限、 \* データ型、選択リスト項目の長さと使用できる値、referenceTo 項目 \* のデータ型が記載されています。\*/

```
private void describeSample() { String objectToDescribe = getUserInput("\nType the name of the object to " + "describe (try Account): "); try { DescribeSObjectResult descSObjectRslt; descSObjectRslt = binding.describeSObject(objectToDescribe); if (descSObjectRslt != null) { // Report object level information Field[] fields = descSObjectRslt.getFields(); String objectName = descSObjectRslt.getName(); System.out.println("Metadata for " + objectToDescribe + " object:\n"); System.out.println("Object name = " + objectName); System.out.println("Number of fields = " + fields.length); System.out.println("Object can be activated = " + descSObjectRslt.isActivateable()); System.out.println("Can create rows of data = " + descSObjectRslt.isCreateable()); System.out.println("Object is custom object = " + descSObjectRslt.isCustom()); System.out.println("Can delete rows of data = " + descSObjectRslt.isDeletable()); System.out.println("Can query for rows of data = " + descSObjectRslt.isQueryable()); System.out.println("Object used in replication = " + descSObjectRslt.isReplicable()); System.out.println("Can retrieve object = " + descSObjectRslt.isRetrievable()); System.out.println("Can search object = " + descSObjectRslt.isSearchable()); System.out.println("Can un-delete = " + descSObjectRslt.isUndeletable()); System.out.println("Can update = " + descSObjectRslt.isUpdateable()); System.out.println("\nField metadata for " + objectToDescribe + " object:\n"); // Report information about each field if (fields != null) { for (Field field : fields) { PicklistEntry[] picklistValues = field.getPicklistValues(); String[] referenceTos = field.getReferenceTo(); System.out.println("***** New Field *****"); System.out.println("Name = " + field.getName()); System.out.println("Label = " + field.getLabel()); System.out.println("Length = " + field.getLength()); System.out.println("Bytelenlength = " + field.getByteLength()); System.out.println("Digits = " + field.getDigits()); System.out.println("Precision = " + field.getPrecision()); System.out.println("Scale = " + field.getScale()); System.out.println("Field type = " + field.getType()); // field properties System.out.println("Custom field = " + field.isCustom()); System.out.println("Name field = " + field.isNameField()); System.out.println("Can set field value on Create = " + field.isCreateable()); System.out.println("Can set field value on Update = " + field.isUpdateable()); System.out.println("Can be used to filter results = " + field.isFilterable()); System.out.println("Field value can be empty = " + field.isNillable()); System.out.println("Field value is defaulted on Create = " + field.isDefaultedOnCreate()); System.out.println("Field value is calculated = " + field.isCalculated()); System.out.println("Field value is a restricted picklist = " + field.isRestrictedPicklist()); if (picklistValues != null) { System.out.println("Picklist values = "); for (PicklistEntry picklistValue : picklistValues) { if (picklistValue.getLabel() != null) System.out.print(" item: " + picklistValue.getLabel()); else System.out.print(" item: " + picklistValue.getValue()); System.out.print(", value = " + picklistValue.getValue()); } System.out.println(", is default = " + picklistValue.isDefaultValue()); } } if (referenceTos != null) { System.out.println("Field references the following objects:"); for (String referenceTo : referenceTos) System.out.println(" " + referenceTo); } System.out.println(""); } getUserInput("\nDescribe " + objectToDescribe + " was successful.\n\nHit the enter key to continue...."); } } catch (Exception ex) { System.out.println("\nFailed to get " + objectToDescribe + " description, error message was: \n" + ex.getMessage()); getUserInput("\nHit return to continue..."); } }
```

/\*\* \* クエリコールを起動し、簡単なクエリ文字列（「取引先責任者から FirstName、LastName を選択」）を渡して、返された QueryResult を統合して、クエリを実行します。\*/

```
private void querySample() { _QueryOptions qo = new _QueryOptions(); qo.setBatchSize(200); binding.setHeader(new SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(), "QueryOptions", qo); try { QueryResult qr = binding.query("select FirstName, LastName from Contact");

if (qr.getSize() > 0) { System.out.println("Logged in user can see " + qr.getRecords().length + " contact records."); do { // 取引先責任者レコードを出力 for (int i = 0; i < qr.getRecords().length; i++) { Contact con = (Contact) qr.getRecords(i); String fName = con.getFirstName(); String lName = con.getLastName(); if (fName == null) { System.out.println("Contact " + (i + 1) + ": " + lName); } else { System.out.println("Contact " + (i + 1) + ": " + fName + " " + lName); } } }
```

```
if (!qr.isDone()) { qr = binding.queryMore(qr.getQueryLocator()); } else { break; } } while  
(qr.getSize() > 0); } else { System.out.println("No records found."); }  
  
getUserInput("Query successfully executed.\nHit return to continue..."); } catch  
(RemoteException ex) { System.out.println("\nFailed to execute query successfully, error  
message was:" + "\n" + ex.getMessage()); getUserInput("\nHit return to continue..."); } }  
  
private void run() throws ServiceException { if (login()) { getUserInput("SUCCESSFUL LOGIN! Hit  
the enter key to continue."); describeGlobalSample(); describeSample(); querySample(); } }
```

## C# サンプルコード

ここでは、サンプル C# クライアントアプリケーションについて説明します。このサンプルアプリケーションでは、ログインするために必要なステップを示し、いくつかのAPIコールを起動してその後処理する方法を説明します。

このサンプルアプリケーションでは、次の主要なタスクを実行します。

1. Salesforce.com のユーザ名とパスワードを求めるプロンプトを表示する。
2. `login()` を呼び出して、單一ログインサーバにログインする。ログインが成功したら、次を実行する。
  - 返された `sessionId` を、後続の API コールのセッション認証に必要なセッションヘッダーに設定する。
  - Force.com エンドポイントを、後続の API コールの対象となる返された `serverUrl` にリセットする。
- API にアクセスするすべてのクライアントアプリケーションは、後続の API コールを実行する前に、このステップでタスクを完了する必要があります。
3. `describeGlobal()` をコールし、組織のデータで使用できるすべてのオブジェクトの一覧を取得する。  
`describeGlobal` メソッドは、[ログインユーザが使用できるオブジェクト](#)を指定します。コールから返されるデータは頻繁に変更されないため、このコールは、セッションごとに複数回行う必要があります。  
`DescribeGlobalResult` コンソールにエコーとして返されます。
4. `describeSObject()` をコールして、指定されたオブジェクトのメタデータ（項目リストとオブジェクトプロパティ）を取得する。`describeSObject` メソッドは、ユーザが使用できる各オブジェクトに取得できるメタデータ情報の種類について説明しています。サンプルクライアントアプリケーションは指定されたオブジェクトに `describeSObject()` コールを実行し、返されたメタデータ情報をコンソールにエコーとして返します。オブジェクトメタデータ情報には、権限、データ型、選択リスト項目の長さと使用できる値、`referenceTo` 項目のデータ型が記載されています。
5. `query()` をコールし、簡単なクエリ文字列（”取引先責任者から FirstName、LastName を選択”）を渡して、返された `QueryResult` を反復する。

次のサンプルコードでは、API コールとその他の重要なコードは太字フォントで識別されます。また、各 API コールに続く、エラー処理コードに注意してください。

次のコードで、サンプル C# クライアントアプリケーションを開始します。

```
using System; using System.Collections.Generic; using System.Text; using  
System.Web.Services.Protocols; using Walkthrough.sforce;  
  
namespace Walkthrough { class WalkthroughSample { private SforceService binding; static  
private WalkthroughSample walkthroughSample; [STAThread] static void Main(string[] args) {  
    walkthroughSample = new WalkthroughSample(); walkthroughSample.run(); }  
  
    public void run() { //ログインコールをコール if ( login() ) { //グローバルの説明を実行  
        describeGlobal(); } }
```

```
//取引先オブジェクトを説明 describeSObject("account");

//クエリを使用していくつかのデータを取得 querySample(); } }

private bool login() { Console.WriteLine("Enter username: "); string username =
Console.ReadLine(); Console.WriteLine("Enter password: "); string password = Console.ReadLine();

// Create a service object binding = new SforceService();

// Timeout after a minute binding.Timeout = 60000;

// Try logging in LoginResult lr; try { Console.WriteLine("LOGGING IN NOW..."); lr =
binding.login(username, password); } // ApiFault is a proxy stub generated from the WSDL
contract when // the web service was imported catch (SoapException e) { // Write the fault
code to the console Console.WriteLine(e.Code);

// Write the fault message to the console Console.WriteLine("An unexpected error has occurred:
" + e.Message);

// Write the stack trace to the console Console.WriteLine(e.StackTrace);

// Return False to indicate that the login was not successful return false; }

// Check if the password has expired if (lr.passwordExpired) { Console.WriteLine("An error
has occurred.Your password has expired."); return false; }

/** Once the client application has logged in successfully, it will use * the results of
the login call to reset the endpoint of the service * to the virtual server instance that
is servicing your organization */ binding.Url = lr.serverUrl;

/** The sample client application now has an instance of the SforceService * that is pointing
to the correct endpoint.Next, the sample client * application sets a persistent SOAP header
(to be included on all * subsequent calls that are made with SforceService) that contains
the * valid sessionId for our login credentials.To do this, the sample * client application
creates a new SessionHeader object and persist it to * the SforceService.Add the session
ID returned from the login to the * session header */ binding.SessionHeaderValue = new
SessionHeader(); binding.SessionHeaderValue.sessionId = lr.sessionId;

// Return true to indicate that we are logged in, pointed // at the right URL and have our
security token in place. return true; }

private void describeGlobal() { //describeGlobal returns an array of object results that
//includes the object names that are available to the logged-in user DescribeGlobalResult
dgr = binding.describeGlobal(); Console.WriteLine("\nDescribe Global Results:\n");

//Loop through the array echoing the object names to the console for (int i = 0; i <
dgr.sobjects.Length; i++) { Console.WriteLine(dgr.sobjects[i].name); }
Console.WriteLine("\n\nHit enter to continue..."); Console.ReadLine(); }

private void describeSObject(string objectType) { //Call the describeSObject passing in the
object type name DescribeSObjectResult dsr = binding.describeSObject(objectType);

//エコーする最初のプロパティはオブジェクト自体にあります //まずオブジェクトの記述情報を出力します。
Console.WriteLine("\n\nObject Name: " + dsr.name); if (dsr.custom) Console.WriteLine("Custom
Object"); if (dsr.label != null) Console.WriteLine("Label: " + dsr.label);

//オブジェクトの権限 if (dsr.activateable) Console.WriteLine("Activateable"); if (dsr.createable)
Console.WriteLine("Createable"); if (dsr.deletable) Console.WriteLine("Deleteable"); if
(dsr.queryable) Console.WriteLine("Queryable"); if (dsr.replicable)
Console.WriteLine("Replicable"); if (dsr.retrieveable) Console.WriteLine("Retrieveable");
if (dsr.searchable) Console.WriteLine("Searchable"); if (dsr.undeletable)
Console.WriteLine("Undeleteable"); if (dsr.updateable) Console.WriteLine("Updateable");
```

```
//Now we will retrieve meta-data about each of the fields for (int i = 0; i <
dsr.fields.Length; i++) { //Create field object for readability Field field = dsr.fields[i];

//一部の有用な情報をエコーで返します。 Console.WriteLine("Field name: " + field.name);
Console.WriteLine("\tField Label: " + field.label); //次のプロパティは SOSL の名前検索グループを
//使用して、この項目が検索されて //いることを示します。 if (field.nameField)
Console.WriteLine("\tThis is a name field."); if (field.restrictedPicklist)
Console.WriteLine("This is a RESTRICTED picklist field."); Console.WriteLine("\tType is: "
+ field.type.ToString()); if (field.length > 0) Console.WriteLine("\tLength: " +
field.length); if (field.scale > 0) Console.WriteLine("\tScale: " + field.scale); if
(field.precision > 0) Console.WriteLine("\tPrecision: " + field.precision); if (field.digits
> 0) Console.WriteLine("\tDigits: " + field.digits); if (field.custom)
Console.WriteLine("\tThis is a custom field."); //この項目の権限を出力します。 if (field.nullable)
Console.WriteLine("\tCan be nulled."); if (field.createable)
Console.WriteLine("\tCreateable"); if (field.filterable) Console.WriteLine("\tFilterable");
if (field.updateable) Console.WriteLine("\tUpdateable");

//If this is a picklist field, we will show the values if
(field.type.Equals(fieldType.picklist)) { Console.WriteLine("\tPicklist Values"); for (int
j = 0; j < field.picklistValues.Length; j++) Console.WriteLine("\t\t" +
field.picklistValues[j].value); }

//If this is a foreign key field (reference), //we will show the values if
(field.type.Equals(fieldType.reference)) { Console.WriteLine("\tCan reference these
objects:"); for (int j = 0; j < field.referenceTo.Length; j++) Console.WriteLine("\t\t" +
field.referenceTo[j]); } Console.WriteLine("");

}

Console.WriteLine("\n\nHit enter to continue..."); Console.ReadLine(); } private void
querySample() { //The results will be placed in qr QueryResult qr = null;

//We are going to increase our return batch size to 250 items //Setting is a recommendation
only, different batch sizes may //be returned depending on data, to keep performance
optimized. binding.QueryOptionsValue = new QueryOptions(); binding.QueryOptionsValue.batchSize
= 250; binding.QueryOptionsValue.batchSizeSpecified = true;

try { qr = binding.query("select FirstName, LastName from Contact"); bool done = false; if
(qr.size > 0) { Console.WriteLine("Logged-in user can see " + qr.records.Length + " contact
records."); while (!done) { Console.WriteLine(""); for (int i = 0; i < qr.records.Length;
i++) { Contact con = (Contact)qr.records[i]; string fName = con.FirstName; string lName =
con.LastName; if (fName == null) Console.WriteLine("Contact " + (i + 1) + ":" + lName);
else Console.WriteLine("Contact " + (i + 1) + ":" + fName + " " + lName); } if (qr.done)
{ done = true; } else { qr = binding.queryMore(qr.queryLocator); } } } else {
Console.WriteLine("No records found."); } } catch (Exception ex) { Console.WriteLine("\nFailed
to execute query successfully," + "error message was: \n{0}", ex.Message); }
Console.WriteLine("\n\nHit enter to exit..."); Console.ReadLine(); } }
```

## 第 2 章

### 標準オブジェクトとカスタムオブジェクトの基礎

トピック:

- [プリミティブデータ型](#)
- [項目のデータ型](#)
- [API データ型および Salesforce.com 項目のデータ型](#)
- [API コールで使用されるコアデータ型](#)
- [システム項目](#)
- [必須項目](#)
- [頻繁に指定される項目](#)
- [API 項目プロパティ](#)
- [オブジェクト間のリレーション](#)
- [項目、タブ、API の再ラベル付け](#)
- [Force.com AppExchange オブジェクトプレフィックスと API](#)
- [カスタムオブジェクト](#)

一般的に、API オブジェクトは、組織の情報を含むデータベース表を表します。たとえば、Salesforce.com データモデルの中心オブジェクトは、顧客、パートナー、競合会社など、ビジネスにかかわる会社や組織、といった取引先を表します。「レコード」という用語は、オブジェクトの特定の発生(取引先オブジェクトで表される「IBM」または「United Airlines」のような特定の取引先など)について表します。レコードは、データベース表の行と似ています。

Salesforce.com すでに作成されているオブジェクトは、標準オブジェクトと呼ばれます。組織内で作成するオブジェクトは、カスタムオブジェクトと呼ばれます。標準オブジェクトの一覧は、「[標準オブジェクト](#)」を参照してください。

このマニュアルでは、API で使用できるすべてのオブジェクトについて説明していますが、ご使用のアプリケーションでは、アクセス権限が与えられたオブジェクトのみを使用します。オブジェクトに対するプログラム上のアクセス権限は、Enterprise WSDL ファイルで定義されたオブジェクト、組織の構成、セキュリティアクセス(個人プロファイルで組織のシステム管理者によって設定)、データ共有モデルによって決まります。詳細は、「[データアクセスに影響する要素](#)」を参照してください。

API を使用してアクセスできるオブジェクトの多くは、参照・更新オブジェクトです。ただし、参照専用のオブジェクトもあります。オブジェクトの説明に記述されています。



メモ: 價格表および商品のオブジェクトは今後使用できず、このマニュアルから削除されています。

## プリミティブデータ型

API は次のプリミティブデータ型を使用します。

値	説明
base64	Base64 でエンコーディングされたバイナリデータ。この型の項目は、 <a href="#">添付ファイル</a> 、 <a href="#">ドキュメント</a> および <a href="#">Scontrol</a> レコードのバイナリファイルの保存に使用します。これらのオブジェクトでは、Body または Binary 項目に Base64 でエンコーディングされたデータを保存し、BodyLength 項目は Body または Binary 項目のデータ長を保存します。 <a href="#">ドキュメント</a> オブジェクトには、ドキュメントを直接レコードに保存する代わりに、ドキュメントのある URL を保存することができます。
boolean	Boolean 項目の値は true (または 1) または false (または 0) のいずれかです。
byte	ビットの集合。
date	日付データ。この型の項目は、 <a href="#">イベント</a> オブジェクトの ActivityDate などの日付の値を保存します。dateTime 項目とは異なり、日付項目には時間の値は含まれません。date 項目の時間は常に協定世界時 (UTC) の深夜 12 時に設定されます。 クエリで date 値を指定する場合、date 項目のみを絞り込むことができます。
dateTime	日付/時間の値(タイムスタンプ)。この型の項目は、 <a href="#">イベント</a> オブジェクトの ActivityDateTime や、多くのオブジェクトの createdDate、LastModifiedDate および SystemModstamp などの日付/時間の値(タイムスタンプ)を保存します。通常の dateTime 項目は精度が 1 秒の完全なタイムスタンプを保存する項目です。この値は常に協定世界時 (UTC) で保存されます。タイムスタンプのローカル時間との変換は、クライアントアプリケーションで処理する必要があります。 クエリで dateTime 値を指定する場合、dateTime 項目のみを絞り込むことができます。 時間データの処理方法は、開発ツールごとに異なります。開発ツールによってはローカル時間を表示するものも、協定世界時 (UTC) を表示するものもあります。開発ツールごとの時間の処理方法はツールのドキュメントを参照してください。  メモ: <a href="#">イベント</a> オブジェクトには、イベントの期間を分数で指定する DurationInMinutes 項目があります。一時的な値ですが、dateTime 型ではなく integer 型です。
double	double 値。この型の項目には、 <a href="#">CurrencyType</a> の ConversionRate などの小数点以下の値(小数点の右側の桁)を保存できます。API では、 <a href="#">Currency データ型</a> および <a href="#">Percent データ型</a> などの非整数値には double 型の値が保存されます。double 値には次のような制限が適用されます。 <ul style="list-style-type: none"><li><a href="#">scale</a>: 小数点の右側の最大桁数。</li><li><a href="#">precision</a>: 小数点の左および右の両方を含めた、数値全体の桁数。</li></ul>

値	説明
	<p>小数点の左方の桁数の最大値は、<a href="#">precision-scale</a> となります。オンラインアプリケーションでは、精度の定義は異なり、小数点の左側の最大桁数となります。</p> <p>『<a href="#">W3C XML Schema Part 2: Datatypes Second Edition specification</a>』で示すとおり、十分大きい数値の場合、値を科学的記数法で保存できます。</p>
int	<p>この型の項目には、<a href="#">取引先</a>の NumberOfEmployees などの小数点以下の値(小数点の右側の桁)のない数値を保存できます。integer 項目の digits 項目は整数の最大桁数を指定します。</p>
string	<p>文字列。string データ型の項目には、テキストが保存されます。保存されるデータによってはデータ長の制限がある場合があります。たとえば、<a href="#">取引先責任者</a>オブジェクトの FirstName 項目は 40 文字、LastName 項目は 80 文字、MailingStreet は 255 文字に制限されています。</p> <p> メモ: 文字列を含む項目の場合、API バージョン 15.0 以降の動作は異なります。バージョン 15.0 より前の API では、項目に値を指定し、その値が大きすぎる場合、値は切り捨てられます。API バージョン 15.0 以降では、大きすぎる値が指定されると、操作は失敗し、失敗コード STRING_TOO_LONG が返されます。<a href="#">AllowFieldTruncationHeader</a> ヘッダーを使用すると、API バージョン 15.0 以降の新しい動作ではなく、以前の動作である切り取りを使用するように指定できます。このヘッダーはバージョン 14.0 以前の製品には無効です。影響を受ける項目は、anyType、email、encryptedstring、multipicklist、phone、picklist、string、および textarea です。</p>
time	<p>時間の値。この型の項目は、<a href="#">BusinessHours</a> オブジェクトの FridayEndTime などの時間の値を保存します。</p> <p>時間データの処理方法は、開発ツールごとに異なります。開発ツールによってはローカル時間を表示するものも、協定世界時(UTC)を表示するものもあります。開発ツールごとの時間の処理方法はツールのドキュメントを参照してください。</p>

このデータ型は、クライアントアプリケーションと API との間の SOAP メッセージで使用されます。クライアントアプリケーションを記述するときは、プログラム言語および開発環境で定義されているデータ型のルールに従ってください。開発ツールでは、プログラミング言語のデータ型のマッピングをこの SOAP データ型で処理します。

プリミティブデータ型には次の特徴があります。

- <http://www.w3.org/TR/xmlschema-2/> の World Wide Web Consortium の出版物『XML Schema Part 2: Data Types』で指定されています。
- [DescribeSObjectResult](#) の fields で示された、Field 型の soaptype 項目で表されます。

プリミティブ型は、クライアントと API で交換される SOAP メッセージの基本データ型の定義、送信、受信、変換を行う標準的な方法として使用されます。さらに、プリミティブデータ型は Salesforce.com 固有の方法で変換されます。この方法は、形式の表示や数値変換(異なる通貨の値の加算)に便利です。

たとえば、Salesforce.com は SOAP で渡された double 値を、項目の定義に従い、可能な限りの方法の double 値として変換します。項目のデータ型が通貨の場合、Salesforce.com は通貨記号と少数以下の値を合わせて表示する

よう処理します。同様に、項目のデータ型がパーセントの場合、Salesforce.com はパーセント記号(%)を付加してデータを表示します。ただし、データ型に関わらず、値は double 値として SOAP メッセージに送信されます。

API は WSDL で定義された項目のデータ型を使用します。詳細は、「[項目のデータ型](#)」および「[組織の WSDL ファイルの生成](#)」を参照してください。

## 項目のデータ型

「[プリミティブデータ型](#)」で説明したプリミティブデータ型に加え、API は次のデータ型をオブジェクト項目で定義しています(オブジェクトに設定可能な値のリストに対応します)。



メモ: 文字列を含む項目の場合、API バージョン 15.0 以降の動作は異なります。バージョン 15.0 より前の API では、項目に値を指定し、その値が大きすぎる場合、値は切り捨てられます。API バージョン 15.0 以降では、大きすぎる値が指定されると、操作は失敗し、失敗コード STRING\_TOO\_LONG が返されます。 AllowFieldTruncationHeader ヘッダーを使用すると、API バージョン 15.0 以降の新しい動作ではなく、以前の動作である切り取りを使用するように指定できます。このヘッダーはバージョン 14.0 以前の製品には無効です。影響を受ける項目は、anyType、email、encryptedstring、multipicklist、phone、picklist、string、および textarea です。

項目のデータ型	項目に含まれる内容
anyType	関連する項目によって、string、picklist、reference、Boolean、currency、int、double、percent、ID、date、datetime、url、email データのいずれかを返す多様なデータ型です。 <a href="#">「AnyType データ型」</a> を参照してください。
calculated	数式によって定義されている項目。 <a href="#">「Calculated データ型」</a> を参照してください。
combobox	列挙型値のセットを含むコンボボックスで、ユーザはリストにない値も指定できます。 <a href="#">「Combobox データ型」</a> を参照してください。
currency	通貨の値。 <a href="#">「Currency データ型」</a> を参照してください。
email	電子メールアドレス。 <a href="#">「Email データ型」</a> を参照してください。
encryptedstring	暗号化されたテキスト項目には、暗号化書式で格納された文字、数字、または記号の組み合わせを入力できます。最大長を 175 文字までの値に設定できます。API versions 11.0 以降で利用できます。
ID	オブジェクトの主キー項目。 <a href="#">「ID データ型」</a> を参照してください。 .Net や Axis 1.2 以降などのほとんどの Web サービスツールでは、API WSDL (Enterprise または Partner) で ID 単純型を文字列にマッピングします。しかし、Axis 1.1 などの他のツールでは、ID 単純型を表すのに特定な ID クラスを生成します。詳細は、Web サービスツールキットのドキュメントを参照してください。
masterrecord	レコードがマージされた場合、保存されたレコードの ID(他のレコードは削除されます)。
multipicklist	複数の値を選択可能な列挙型値のセットを含んだ複数選択の選択リスト。 <a href="#">「Mult-Select Picklist データ型」</a> を参照してください。
percent	パーセント値。 <a href="#">「Percent データ型」</a> を参照してください。

項目のデータ型	項目に含まれる内容
phone	電話番号。値にはアルファベットを含めることもできます。電話番号の書式は、クライアントアプリケーションが指定します。「 <a href="#">Phone データ型</a> 」を参照してください。
picklist	1つの値を選択可能な列挙型値のセットを含んだ複数選択の選択リスト。「 <a href="#">Picklist データ型</a> 」を参照してください。
reference	別のオブジェクトへの相互参照。SQL の外部キー項目に似ています。「 <a href="#">Reference データ型</a> 」を参照してください。
textarea	複数行のテキスト項目として表示される文字列。「 <a href="#">Textarea データ型</a> 」を参照してください。
url	URL 値。通常クライアントアプリケーションではハイパーリンクとして表示されます。「 <a href="#">URL データ型</a> 」を参照してください。

このデータ型は、「[プリミティブデータ型](#)」で説明したプリミティブデータ型を拡張しています。これらのデータ型の多くはメタデータで明示的に指定された一般的なデータ型変換に従っていますが、データ型によっては独自の特徴のあるものもあり、クライアントアプリケーションで使用する前には理解しておかなければなりません。

これらのデータ型は、標準項目とカスタム項目の両方に適用されます。[DescribeSObjectResult](#) の `fields` で説明されている、項目データ型の種別項目で列挙されています。



メモ: 数値項目によっては、精度と桁に制限があります。また、いくつかのテキスト項目には長さの制限があります。これらの制限は、オブジェクトで `create()` または `update()` を実行したときに適用されます。しかし、API がこの制限に影響を受けないデータを返す場合があります。

### AnyType データ型

`anyType` データ型は動的であり、関連する項目によって `string`、`date`、`number`、`boolean` のいずれかを返します。たとえば、SOAP メッセージの要素には項目が `string` 型の場合、`xsi:type="xsd:string"` 属性があります。このデータ型は、`NewValue` および `oldValue` 項目の履歴オブジェクトで使用されます。また、`fieldType` および `soapType` の有効なデータ型でもあります。詳細は、「[DescribeSObjectResult](#)」を参照してください。



メモ: ほとんどの SOAP ツールキットは、この要素を適切なネイティブ型にシリアル化します。

### Calculated データ型

計算済み項目は、API の参照のみ項目です。これらの項目は、他の項目、式、または値から値を取得するアルゴリズムである式で定義されています。この項目は SOQL で絞り込むことができますが、これらの項目を複製することはできません。テキストの計算済み項目の長さは 3900 文字以下で、この長さを超えたものは切り捨てられます。

計算済み項目は、Salesforce.com ユーザインターフェースでは、式項目と呼ばれます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「式の作成」を参照してください。

## Combobox データ型

コンボボックスとは、リストに指定されていない値をユーザが入力できる選択リストです。コンボボックスは文字列として定義されます。

## Currency データ型

通貨項目には、[キャンペーン](#)の `ExpectedRevenue` 項目のように通貨の値が格納され、`double` 型として定義されます。

複数の通貨が有効になっている組織では、`currency` 項目を持つすべてのオブジェクトで `CurrencyIsoCode` 項目が定義されています。`CurrencyIsoCode` 項目と通貨項目は特別な形でリンクされています。指定されたすべてのレコードで、`CurrencyIsoCode` 項目はそのレコードの通貨を定義します。よって、そのレコードのすべての通貨項目の値はその通貨で表されます。

ほとんどの場合、お客様はオブジェクトの `CurrencyIsoCode` 項目と通貨項目のリンクについて考える必要はありません。しかし、次の点は考慮する必要があります。

- `CurrencyIsoCode` 項目は、複数通貨サポートを有効にしている組織にのみ存在します。
- ユーザインターフェースで通貨の値を表示するとき、それぞれの通貨の値の先頭に `CurrencyIsoCode` の値と空白をつけることをお勧めします。
- `CurrencyIsoCode` 項目は制限つき選択リスト項目です。`CurrencyType` オブジェクトで定義された設定可能な値は、組織ごとに異なる場合があります。組織で定義されていない値を設定しようとすると、操作が拒否されることがあります。
- オブジェクトの `CurrencyIsoCode` 項目を更新すると、そのオブジェクトのすべての通貨の値を暗示的に新しい通貨コードに変換します。その際、その組織の Salesforce.com ユーザインターフェースで定義された変換レートを使用します。その同じ `update()` コールで通貨の値を指定した場合、指定した新しい通貨の値は変換されることなく新しい `CurrencyIsoCode` 項目に設定されます。
- `CurrencyIsoCode` 項目の選択リストの値は、Salesforce.com に表示されているラベルと完全には一致しません。

通貨の変換を行うには、クライアントアプリケーションから `CurrencyType` オブジェクトの `CurrencyIsoCode` を参照します。

## Email データ型

電子メール項目には電子メールアドレスが格納されます。クライアントアプリケーションは、`create()` および `update()` コールで有効で適切な形式の電子メールアドレスを指定する必要があります。

## ID データ型

例外はあるものの、API のすべてのオブジェクトには、そのオブジェクトのレコードを一意に識別する識別子を含む `Id` という名の ID データ型の項目があります。これは、リレーションナルデータベースの主キーに似ています。新しいレコードの `create()` を実行する際、Web サービスはレコードの ID 値を生成し、正しい形式で組織内のデータで一意であることを確認します。ID 項目には `update()` コールは使用できません。ID 値は変わることはないため、その後は API コールから ID 値を指定してレコードを参照できます。また、ID 値にはオブジェクト種別を識別する 3 文字のコードが含まれます。クライアントアプリケーションは `describeSObjects()` コールでこのコードを取得できます。

カスタムオブジェクトを含む特定のオブジェクトには 1 つ以上の `reference` データ型の項目があり、関連するレコードの ID 値が格納されます。これらの項目の名前の最後には「-Id」と付けられています。たとえば、取引

先オブジェクトの `OwnerId` などです。`OwnerId` には取引先の所有者の ID が含まれています。`Id` という名前の項目とは異なり、`reference` は外部キーに似ており、`update()` コールで更新できます。詳細は、[Reference データ型](#)を参照してください。

`retrieve()` や `delete()` などのAPI コールによっては、ID の配列をパラメータとして利用できます。配列のそれぞれの要素は取得または削除する行を一意に識別します。同様に、`update()` コールは `sObject` レコードの配列を利用できます。`sObject` には `Id` 項目があり、`sObject` を一意に識別します。

Salesforce.com ユーザインターフェースの ID 項目は、base-62 の文字を 15 個含み、大文字小文字を区別します。15 個の文字にはそれぞれ数字(0-9)、小文字アルファベット(a-z)、大文字アルファベット(A-Z)を指定できます。2つの一意な ID が、大文字小文字のみが違う場合もあります。

Access のように 50130000000014c と 50130000000014C が違う ID であると区別しないアプリケーションもあるため、API コールを通じて 18 文字の大文字小文字を区別しない ID を取得することもできます。18 文字の ID は、Force.com API でそれぞれの ID の末尾に文字を付け加えることで生成されます。18 文字の ID は、大文字小文字を区別しないアプリケーションでも一意な識別が可能で、データの作成、編集、削除の API コールで使用できます。

18 文字の ID を 15 文字の ID に変換するには、最後の 3 文字を切り捨てます。Salesforce.com は 18 文字の ID の使用をお勧めしています。



メモ: .Net や Axis 1.2 以降などのほとんどの Web サービスツールでは、API WSDL (Enterprise または Partner) で ID 単純型を文字列にマッピングします。しかし、Axis 1.1 などのその他のツールでは、ID 単純型を表すのに特定な ID クラスを生成します。詳細は、Web サービスツールキットのドキュメントを参照してください。

### Mult-Select Picklist データ型

複数選択の選択リスト項目には、ユーザが複数のデータを選択可能な 1 つ以上のデータのリストが含まれます。データの 1 つをデフォルトデータに設定できます。選択は、セミコロンで区切られた一連の属性の文字列として保持されます。たとえば、クエリを実行すると、複数選択の選択リストの値が「1つめの値;2つ目の値;3つ目の値」として返されます。複数選択の選択リストの詳細は、[「複数選択の選択リストへのクエリ」](#) を参照してください。

### Percent データ型

パーセント項目にはパーセント値が含まれます。パーセント項目は `double` データ型として定義されます。

### Phone データ型

電話番号項目には電話番号が格納されますが、番号にはアルファベットを含めることができます。電話番号の書式は、クライアントアプリケーションが指定します。

### Picklist データ型

選択リスト項目には、ユーザが单一のデータを選択可能な 1 つ以上のデータのリストが含まれます。Salesforce.com ユーザインターフェースのドロップダウンリストとして表示されます。データの 1 つをデフォルトデータに設定できます。

`DescribeSObjectResult` に関連付けられた `Field` オブジェクトで、`restrictedPicklist` 項目は、選択リストが制限されているかどうかを定義します。API は、`create()` または `update()` で推奨 (非制限) 選択リスト項目の値リストを適用しません。`PicklistEntry` のない非制限選択リスト項目を挿入するには、システムは「無効な」選択リ

ストを作成します。この値は、Salesforce.com ユーザインターフェースで選択リストの値を追加すると「有効な」選択リストとなります。

無効な選択リストを新たに作成する場合、API は一致があるかどうかを確認します。この確認は大文字小文字を区別しません。

`DescribeSObjectResult` に関連付けられた `Field` オブジェクトで、`picklistValues` 項目には、項目の配列が含まれます (`PicklistEntry` オブジェクト)。各 `PicklistEntry` はデータのラベル、値、選択リストのデフォルトデータであるかどうかを定義します (選択リストのデフォルト値は 1 つだけです)。

列挙型項目は、ラベルのユーザ言語へのローカライズをサポートしています。たとえば、`取引先` の業種において、「Agriculture (水産 農林)」という値はさまざまな言語に翻訳されます。列挙型項目の値は固定であり、ユーザの言語に応じて変更されることはありません。しかし、それぞれの値固有の「ラベル」項目があり、その値のローカライズされたラベルが設定されています。項目にデータを挿入または更新する場合、常にこの値を使用しなければなりません。`query()` コールは常にラベルではなく値を返します。`describeSObjectResult` の値に対応するラベルは、任意のユーザインターフェースでの値の表示に使用しなければなりません。

API は次のオブジェクトの特定の選択リストの取得をサポートしています。`CaseStatus`、`ContractStatus`、`LeadStatus`、`OpportunityStage`、`PartnerRole`、`SolutionStatus`、`TaskPriority`、`TaskStatus`。各オブジェクトはそれぞれの選択リストの値を表します。これらの選択リストのエントリは、状況が変換されたかどうかなど常に他の情報を指定します。クライアントアプリケーションは、`CaseStatus` などそれらのオブジェクトのどれに対しても `query()` コールを起動し、選択リストの値セットを取得できます。また、その情報を他のオブジェクト (`ケース` など) の処理に使用し、指定されたケースなど、それらのオブジェクトのさらに詳細な情報を取得できます。これらのオブジェクトは、API の参照のみ項目です。選択リストの項目を変更するには、Salesforce.com ユーザインターフェースを使用する必要があります。

## Reference データ型

参照項目は、別のオブジェクトの一意なレコード (通常は親レコード) を示す `Id` を含みます。これは、リレーショナルデータベースの外部キーの概念に似ています。命名規則では、参照項目の名前の末尾は `Id` という文字です (`CaseId` または `OpportunityId` など)。たとえば、`OpportunityCompetitor` オブジェクトで、`OpportunityId` 項目は `商談` オブジェクトを示す参照項目です。この項目には、`商談` レコードを一意に識別する ID 値が含まれます。

場合によっては、オブジェクトは同じ型の別のオブジェクトを参照できます。たとえば、`取引先` は別の `取引先` を示す親リンクを含むことができます。

`イベント` オブジェクトと `タスク` オブジェクトは両方とも `WhoId` および `WhatId` の相互参照 ID 項目を含んでいます。これらの相互参照項目はそれぞれ、他のオブジェクトの一つを示します。`WhoId` 項目は `取引先責任者` または `リード` を示し、`WhatId` 項目は `取引先`、`商談`、`キャンペーン` または `ケース` を示します。また、`WhoId` 項目が `リード` を参照している場合、`WhatId` 項目は空でなければなりません。

それぞれの相互参照オブジェクトを示し、クエリすることができます。相互参照 ID 項目へのクエリを実行すると、適切な型のオブジェクト ID を返します。そのクエリの `id` 項目を使用し、その ID へのクエリを実行しオブジェクトについての詳細情報を取得できます。

相互参照 ID 項目の値は次のいずれかです。

- 組織内の有効なレコード。
- 空の参照を示す場合は空の値。

相互参照 ID 項目が `null` 値でない場合、組織内のオブジェクトであることが保証されます。ただし、そのオブジェクトへのクエリの実行は保証されません。「すべてのデータの参照」権限を持つユーザは、いつでもそのオ

プロジェクトへのクエリを実行できます。その他のユーザは、参照オブジェクトの表示または編集が制限される場合があります。

`create()` または `update()` コールで相互参照 ID 項目の値を指定する場合、その値はデータ型 ID の有効な値でなければなりません。また、ユーザはそのオブジェクトへの適切なアクセス権が付与されていなければなりません。正確な要件は項目ごとに異なります。

ID についての詳細は、「[ID データ型](#)」を参照してください。

### Textarea データ型

テキストエリア項目には、4000 バイト以上のテキストが含まれます。文字列項目とは異なり、テキストエリア項目は `query()` コールの `queryString` の WHERE 句では指定できません。この項目でレコードを絞り込むには、`QueryResult` でのレコード処理で絞り込まなければなりません。この制限のある項目の場合、[項目のデータ型 \(DescribeSObjectResult の fields プロパティで説明\)](#) の `filterable` 項目が `false` となります。

### URL データ型

URL 項目には URL が含まれます。クライアントアプリケーションは、`create()` および `update()` コールで有効で適切な形式の URL を指定する必要があります。

## API データ型および Salesforce.com 項目のデータ型

通常は、API データ型と Salesforce.com データ型には同じ名前が付けられています。たとえば、データ項目は API のデータ型で表されます。しかし、データ型によっては API を通じてオブジェクトを確認する場合と Salesforce.com ユーザインターフェースを通じて確認する場合で異なる形で表されるものもあります。次の表に、Salesforce データ型と API データ型のマッピングを示します。

API データ型	Salesforce.com ユーザインターフェースでタイプする項目のデータ型
ID	参照関係、主従関係
string	自動採番、電子メール、電話、選択リスト、複数選択リスト、テキスト、テキストエリア、ロングテキストエリアおよび URL。テキスト、テキストエリア、ロングテキストエリアでは、WSDL では最長文字数が異なります。
boolean	チェックボックス
double	通貨、数式、数値、パーセンテージ、積み上げ集計
型により異なる	Salesforce.com ユーザインターフェースで数式項目を作成する場合、型を指定する必要があります。この型は同じ名前の API データ型である通貨、日付、日付時刻、数値、パーセント、テキストに対応します。

Salesforce.com ユーザインターフェースで作成できるその他すべての項目は、次のカテゴリの 1 つに分類されます。

- 項目は、Salesforce.com ユーザインターフェースおよび API の両方で使用することはできません。たとえば、BusinessHours オブジェクトには API の time データ型の項目が含まれていますが、この型のカスタム項目は作成できません。

- データ型は対応する API データ型と同じです。たとえば、Salesforce.com ユーザインターフェースでデータ項目を作成すると、その項目は API の date データ型となります。

API データ型の詳細は、「[プリミティブデータ型](#)」および「[項目のデータ型](#)」を参照してください。

## API コールで使用されるコアデータ型

API のコールの多くは次のデータ型を使用します。

- [sObject](#)
- ID (String)。 「[ID データ型](#)」を参照してください。

API はまたいくつかのエラー処理オブジェクトも使用します。SOAP 要求の最中にエラーが発生すると、API は SOAP エラーメッセージを返します。このメッセージには、エラーの型によってさまざまな内容が含まれます。

- エラーが要求全体に影響を与える場合、[API エラー要素](#)が返されます。API エラー要素には、[ExceptionCode](#) と関連するエラーメッセージテキストが含まれます。
- エラーがいくつかのレコードには影響を与えるものの、その他のレコードには影響を与えない場合、[StatusCode](#) を含む[エラー](#)が返されます。一般的に、これらのエラーは単一のコールで複数のレコードの作成、更新、削除などを行う一括処理で発生します。

### sObject

sObject は、[取引先](#)や[キャンペーン](#)などのオブジェクトを表します。標準オブジェクトの一覧は、「[標準オブジェクト](#)」を参照してください。

sObject には次のプロパティがあります。

名前	型	説明
fieldsToNull	string[]	明示的に null 値を設定したい 1 つ以上の項目名の配列。  update() または upsert() と共に使用した場合、更新可能で nullable プロパティを持つ項目のみを指定できます。create() と共に使用した場合、作成可能で nullable プロパティまたは default on create プロパティを持つ項目のみを指定できます。  たとえば、ID 項目または必須項目を選択してランタイムエラーが発生した場合、その項目名は fieldsToNull で指定できます。同様に、レコード作成時に選択リストの値を空に設定するものの、選択リストにはデフォルト値が割り当てられている場合、その項目は fieldsToNull で指定できます。
ID	ID	個別のオブジェクトの一意な ID。create() コールでは、この値は null 値となります。その他のすべての API コールでは、値を指定する必要があります。

### API エラー要素

次の表は、サービス要求の処理時にエラーが発生したときに API が返す API エラー要素の一覧を示します。

エラー	説明
ApiQueryFault	問題が発生した行番号と列番号。
LoginFault	<code>login()</code> コール中にエラーが発生したことを示します。
InvalidSObjectFault	<code>describeSObject()</code> 、 <code>describeSObjects()</code> 、 <code>create()</code> 、 <code>update()</code> 、 <code>retrieve()</code> 、または <code>query()</code> コールの有効な sObject。
InvalidFieldFault	<code>retrieve()</code> または <code>query()</code> コールの無効な項目。
MalformedQueryFault	<code>query()</code> コールに渡された <code>queryString</code> の問題。
InvalidQueryLocatorFault	<code>queryMore()</code> コールに渡された <code>queryLocator</code> の問題。
MalformedSearchFault	<code>search()</code> コールに渡された <code>search</code> の問題。
InvalidIdFault	<code>setPassword()</code> または <code>resetPassword()</code> コールで指定された ID が無効です。
UnexpectedErrorFault	予期しないエラーが発生しました。エラーは、他の API エラーとは関連付けていません。

## ExceptionCode

次の ExceptionCode の値の一覧は WSDL ファイルで定義されています。有効にしている機能によっては、お使いの WSDL にはないコードもあります。

コードは、精通していない機能に言及していることもあります。そのような場合、機能の詳細は Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

### API\_CURRENTLY\_DISABLED

システムの問題により、API 機能は一時的に利用できません。

### API\_DISABLED\_FOR\_ORG

この組織では API が有効になっていません。API アクセスを有効にするには、セールスフォース・ドットコムに連絡してください。

### CANT\_ADD\_STANDARD\_PORTAL\_USER\_TO\_TERRITORY

標準ポータルライセンスを持つユーザをテリトリーには追加できません。

### CIRCULAR\_OBJECT\_GRAPH

オブジェクトの循環参照が含まれているため、要求が失敗しました。

### CLIENT\_NOT\_ACCESSIBLE\_FOR\_USER

現在のユーザには、指定されたクライアントにアクセスする権限がありません。

### CLIENT\_REQUIRE\_UPDATE\_FOR\_USER

現在のユーザは指定されたクライアントの新しいバージョンを使用する必要があります、クライアントが更新されるまでアクセスできます。

**DELETE\_REQUIRED\_ON CASCADE**

delete 操作によって、レコードにカスケード削除を起動しますが、ログインユーザは、その関連オブジェクトの削除権限を持っていません。

**DUPLICATE\_COMM\_NICKNAME**

別のユーザと同じコミュニティニックネームのユーザは作成できません。

**DUPLICATE\_VALUE**

一意でなければならない項目に重複する値を指定できません。たとえば、`invalidateSessions()` コールでは同じ sessionID の複製を 2 つ送信した場合はこのエラーが発生します。

**EMAIL\_BATCH\_SIZE\_LIMIT\_EXCEEDED**

メソッドが、最大バッチサイズよりも多くの電子メールレコードを処理しようとしました。

**EMAIL\_TO\_CASE\_INVALID\_ROUTING**

処理のためにケースレコードに電子メールが送信されましたが、機能が有効になっていません。

**EMAIL\_TO\_CASE\_LIMIT\_EXCEEDED**

電子メール-to-ケース機能の電子メール変換の一日の上限を超えていました。

**EMAIL\_TO\_CASE\_NOT\_ENABLED**

電子メール-to-ケース機能が有効ではありません。

**EXCEEDED\_ID\_LIMIT**

コールで指定された ID の数が多すぎます。たとえば、`retrieve()` コールで 2000 個以上の ID が指定されたか、`logout()` コールで 200 個以上のセッション ID が指定されました。

**EXCEEDED\_LEAD\_CONVERT\_LIMIT**

`convertLead()` コールに渡された ID の数が多すぎます。

**EXCEEDED\_MAX\_SIZE\_REQUEST**

API に送信されたメッセージサイズが 50 MB を超えています。

**EXCEEDED\_MAX\_TYPES\_LIMIT**

記述するオブジェクト種別の数が大きすぎます。

**EXCEEDED\_QUOTA**

`create()` コールで、組織のディスク使用容量制限を超えていました。

**FUNCTIONALITY\_NOT\_ENABLED**

機能が一時的に無効になっています。他のコールはうまく行く場合もあります。

**INACTIVE\_OWNER\_OR\_USER**

ユーザまたはレコード所有者が有効ではありません。

**INACTIVE\_PORTAL**

参照されたポータルが無効です。

**INSUFFICIENT\_ACCESS**

ユーザには操作を実行するのに十分な権限がありません。

**INVALID\_ASSIGNMENT\_RULE**

無効な [AssignmentRuleHeader](#) 値が指定されました。

**INVALID\_BATCH\_SIZE**

クエリオプションのバッチサイズ値が無効です。

**INVALID\_CLIENT**

クライアントが無効です。

**INVALID\_CROSS\_REFERENCE\_KEY**

項目に無効な外部キーを設定できません。たとえば、AccountShareのようなオブジェクト共有は、行の共有によってルールを共有しているため削除できません。

**INVALID\_FIELD**

指定された項目名が無効です。

**INVALID\_FILTER\_LANGUAGE**

指定された言語は条件には使用できません。

**INVALID\_FILTER\_VALUE**

LIKE または NOT LIKE を使用した SOQL に無効な文字が指定されました。たとえば、アスタリスク (\*) の位置が間違っていることなどが考えられます。クエリを修正し、再送信してください。

**INVALID\_ID\_FIELD**

指定された ID の形式が正しいものの、ID が有効ではありません。たとえば、間違った型の ID や、その ID が指定したオブジェクトが存在しない場合などが考えられます。

**INVALID\_GOOGLE\_DOCS\_URL**

Google ドキュメントとそのレコードを関連付けようとしたときに使用した Salesforce.com レコードが無効です。操作をもう一度実行する前に URL 修正してください。

**INVALID\_LOCATOR**

ロケーターが無効です。

**INVALID\_LOGIN**

[login\(\)](#) 情報が有効でないか、ログイン数の上限を超えていません。詳細は管理者にお問い合わせください。

**INVALID\_NEW\_PASSWORD**

新しいパスワードは、組織のパスワードポリシーに適合していません。

**INVALID\_OPERATION**

クライアントアプリケーションは、ワークフロー承認または処理の一部として現在処理中のオブジェクトを送信しようとしました。

**INVALID\_OPERATION\_WITH\_EXPIRED\_PASSWORD**

パスワード期限が切れたため、コールを実行する前に [setPassword\(\)](#) を使用して有効なパスワードを設定する必要があります。

**INVALID\_QUERY\_FILTER\_OPERATOR**

[query\(\)](#) の条件句で、少なくともこの項目に対し無効な演算子が使用されました。

**INVALID\_QUERY\_LOCATOR**

`queryMore()` コールで無効な `queryLocator` パラメータが指定されました。

**INVALID\_QUERY\_SCOPE**

指定された検索範囲が無効です。

**INVALID\_REPLICATION\_DATE**

複製時に設定された日付が、組織の設立前の日付であるなど、許可された範囲を超えていません。

**INVALID\_SETUP\_OWNER**

設定所有者は、組織、プロファイル、ユーザでなければなりません。

**INVALID\_SEARCH**

`search()` コールに無効な構文または文法が含まれています。Salesforce.com オブジェクト検索言語を参照してください。

**INVALID\_SEARCH\_SCOPE**

指定された検索範囲が無効です。

**INVALID\_SESSION\_ID**

指定された `sessionId` の形式が正しくないか(長さまたは形式が不正)、期限が切れています。再度ログインし、新しいセッションを開始してください。

**INVALID\_SOAP\_HEADER**

SOAP ヘッダーにエラーがあります。下位のバージョンの API から移行する場合、`SaveOptions` ヘッダーが API 6.0 以降では使用できないことにご注意ください。代わりに、`AssignmentRuleHeader` を使用してください。

**INVALID\_SSO\_GATEWAY\_URL**

シングルサインオンゲートウェイの設定のための URL は無効です。

**INVALID\_TYPE**

指定された `sObject` の型が無効です。

**INVALID\_TYPE\_FOR\_OPERATION**

指定された操作で、指定された `sObject` の型が無効です。

**LIMIT\_EXCEEDED**

配列が長すぎます。たとえば、BCC アドレス、ターゲット、電子メールメッセージが多すぎることが考えられます。

**LOGIN\_DURING\_RESTRICTED\_DOMAIN**

ユーザはこの IP アドレスからのログインは許可されていません。

**LOGIN\_DURING\_RESTRICTED\_TIME**

ユーザはこの期間のログインは許可されていません。

**MALFORMED\_ID**

無効な ID 文字列が指定されました。ID についての詳細は、「[ID データ型](#)」を参照してください。

**MALFORMED\_QUERY**

無効なクエリ文字列が指定されました。たとえば、クエリ文字列が 10,000 文字より多い場合などが考えられます。

**MALFORMED\_SEARCH**

無効な検索文字列が指定されました。たとえば、検索文字列が 10,000 文字より多い場合などが考えられます。

**MISSING\_ARGUMENT**

必要な引数が指定されていません。

**MIXED\_DML\_OPERATION**

同じトランザクションで実行できる DML 操作の種類に制限があります。詳細は、『[Force.com Apex Code Developer's Guide](#)』を参照してください。

**NOT\_MODIFIED**

ディスクライブコールのレスポンスが、指定された日付から変更されていません。

**NO\_SOFTPHONE\_LAYOUT**

組織で CTI 機能が有効になっているものの、ソフトフォンレイアウトが定義されていない場合、ディスクライブコールが発行されるとこの例外が返されます。この例外が発生する原因としてはコールセンターが定義されていない場合が最も多いため、コールセンター定義では、デフォルトのソフトフォンレイアウトが作成されます。

組織で CTI 機能が有効になっていない場合、代わりに FUNCTIONALITY\_NOT\_ENABLED が返されます。

**NUMBER\_OUTSIDE\_VALID\_RANGE**

指定された数値が、項目の有効な範囲外です。

**OPERATION\_TOO\_LARGE**

クエリの結果が多すぎます。特定のクエリが「すべてのデータの参照」権限のないユーザによって実行され、多くのレコードが返された場合、これらのクエリには共有ルールチェックが必要です。たとえば、ToDo などのオブジェクトで実行されるクエリや、た構造外部キーを使用するクエリです。そのようなクエリは、操作に必要なリソースが多すぎるためこの例外を返します。エラーを修正するには、検索範囲を絞り込むために検索条件を追加するか、日付の範囲などの検索条件を使用しクエリをさらに小さなクエリに分割します。

**ORG\_LOCKED**

組織がロックされました。組織のロックを解除するにはセールスフォース・ドットコムに連絡してください。

**ORG\_NOT OWNED\_BY\_INSTANCE**

ユーザが不正なサーバインスタンスにログインしようとしたしました。別のサーバインスタンスを選択するか、<https://login.salesforce.com> からログインします。https の代わりに http を使用することもできます。

**PASSWORD\_LOCKOUT**

ユーザに許可されたログインの試行回数を超えていました。再度ログインするには、ユーザは管理者に連絡する必要があります。

**PORTAL\_NO\_ACCESS**

指定されたポータルへのアクセスが許可されていません。

**QUERY\_TIMEOUT**

クエリがタイムアウトしました。詳細は、『[Salesforce.com オブジェクト検索言語](#)』を参照してください。

**QUERY\_TOO\_COMPLEX**

SOQL が選択している項目数が多すぎるか、検索条件が多すぎます。クエリで参照している数式項目の数を減らしてください。

**REQUEST\_LIMIT\_EXCEEDED**

組織の同時要求制限または要求レート制限を超えていました。詳細は、「[API 使用率の測定](#)」を参照してください。

**REQUEST\_RUNNING\_TOO\_LONG**

要求の処理時間が長すぎます。

**SERVER\_UNAVAILABLE**

このコールに必要なサーバが現在利用できません。他のタイプの要求はうまく行く場合もあります。

**SSO\_SERVICE\_DOWN**

サービスが利用できないため、組織が指定するシングルサインオンサーバへの認証コールが失敗しました。

**TOO\_MANY\_APEX\_REQUESTS**

発行されたApex 要求の数が多すぎます。この問題が続く場合は、Salesforce.com サポートデスクにお問い合わせください。

**TRIAL\_EXPIRED**

組織のトライアル期限が切れました。組織を再度有効にするには、組織の代表者がセールスフォース・ドットコム に連絡する必要があります。

**UNSUPPORTED\_API\_VERSION**

アクセスされたAPIのバージョンには存在しないメソッドがコールされました。たとえば、バージョン 5.0 でバージョン 8.0 の新機能である `upsert()` を使おうとした場合などが考えられます。

**UNSUPPORTED\_CLIENT**

このバージョンのクライアントは既にサポートされていません。

## エラー

エラーには、`create()`、`merge()`、`process()`、`update()`、`upsert()`、`delete()`、または`undelete()` コールの最中に発生したエラーの情報が含まれます。詳細は、「[エラー処理](#)」を参照してください。`Error` には次のプロパティがあります。

名前	型	説明
StatusCode	<code>Status</code>	エラーを識別するコード。状況コードの完全な一覧は組織のWSDL ファイルに記述されています（「 <a href="#">組織の WSDL ファイルの生成</a> 」を参照してください）。
message	<code>string</code>	エラーメッセージテキスト。

名前	型	説明
fields	string[]	1つ以上の項目名の配列。オブジェクト内の項目でエラー条件に影響を与えるものが存在する場合、その項目を示します。

## StatusCode

次の表に、エラーと共に返されるAPI状況コードを示します。有効にしている機能によっては、お使いのWSDLにはないコードもあります。

コードは、精通していない機能に言及していることもあります。そのような場合、機能の詳細は Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

### **ALREADY\_IN\_PROCESS**

すでに承認プロセスが開始しているレコードを送信できません。前の承認プロセスが完了するまで待機してからこのレコードの要求を再送信する必要があります。

### **ASSIGNEE\_TYPE\_REQUIRED**

ワークフロータスク (ProcessInstance、ProcessInstanceStep または ProcessInstanceWorkitem) の任命者を指定する必要があります。

### **BAD\_CUSTOM\_ENTITY\_PARENT\_DOMAIN**

関連する主従関係への変更を適用できないため、この変更を完了できません。

### **BCC\_NOT\_ALLOWED\_IF\_BCC\_COMPLIANCE\_ENABLED**

コンプライアンス BCC メールオプションが組織で有効になっているにも関わらず、クライアントアプリケーションが電子メールアドレスへBCCで電子メールを送信しようとした。このオプションは送信されるメールの写しを自動的に受信する特定の電子メールアドレスを指定します。このオプションが有効な場合、他の電子メールアドレスにBCC送信できません。このオプションを無効にするには、Salesforce.com アプリケーションにログインし、[設定]▶[セキュリティのコントロール]▶[コンプライアンス BCC メール]を選択します。

### **BCC\_SELF\_NOT\_ALLOWED\_IF\_BCC\_COMPLIANCE\_ENABLED**

コンプライアンス BCC メールオプションが組織で有効になっているにも関わらず、クライアントアプリケーションがログインしたユーザの電子メールアドレスへ、BCCで電子メールを送信しようとした。このオプションは送信されるメールの写しを自動的に受信する特定の電子メールアドレスを指定します。このオプションが有効な場合、他の電子メールアドレスにBCC送信できません。このオプションを無効にするには、Salesforce.com アプリケーションにログインし、[設定]▶[セキュリティのコントロール]▶[コンプライアンス BCC メール]を選択します。

### **CANNOT CASCADE\_PRODUCT\_ACTIVE**

カスケードによる製品への更新は、関連する製品がアクティブであるため実行できません。

### **CANNOT\_CHANGE\_FIELD\_TYPE\_OF\_APEX\_REFERENCED\_FIELD**

Apex スクリプトで参照されている項目の型を変更できません。

### **CANNOT\_CREATE\_ANOTHER\_MANAGED\_PACKAGE**

組織では管理パッケージは 1 つしか作成できません。

**CANNOT\_DEACTIVATE\_DIVISION**

割り当てルールがディビジョンを参照している場合、またはユーザの [DefaultDivision](#) 項目が null 値に設定されていない場合は、ディビジョンを無効にできません。

**CANNOT\_DELETE\_LAST\_DATED\_CONVERSION\_RATE**

日付の入った換算が有効な場合、少なくとも 1 つの [DatedConversionRate](#) レコードが必要です。

**CANNOT\_DELETE\_MANAGED\_OBJECT**

管理パッケージに含まれているコンポーネントを変更できません。

**CANNOT\_DISABLE\_LAST\_ADMIN**

少なくとも 1 人の有効な管理者ユーザが必要です。

**CANNOT\_ENABLE\_IP\_RESTRICT\_REQUESTS**

プロファイルに指定されている 5 つの IP 範囲を超えていている場合、IP アドレスによるログイン制限を有効にできません。プロファイルの指定範囲を減らして再度要求を実行してください。

**CANNOT\_INSERT\_UPDATE\_ACTIVATE\_ENTITY**

指定されたレコードの作成、更新、有効化の権限がありません。

**CANNOT\_MODIFY\_MANAGED\_OBJECT**

管理パッケージに含まれているコンポーネントを変更できません。

**CANNOT\_RENAME\_APEX\_REFERENCED\_FIELD**

Apex スクリプトで参照されている項目の名前を変更できません。

**CANNOT\_RENAME\_APEX\_REFERENCED\_OBJECT**

Apex スクリプトで参照されているオブジェクトの名前を変更できません。

**CANNOT\_REPARENT\_RECORD**

指定したレコードに新しい親レコードを定義できません。

**CANNOT\_RESOLVE\_NAME**

[sendEmail\(\)](#) コールがオブジェクト名を解決できませんでした。

**CANNOT\_UPDATE\_CONVERTED\_LEAD**

取引開始済みのリードを更新できませんでした。

**CANT\_DISABLE\_CORP\_CURRENCY**

組織のマスタ通貨を無効にできません。マスタ通貨として設定されている通貨を無効にするには、Salesforce.com ユーザインターフェースを使用してマスタ通貨を別の通貨に変更してから、その通貨を無効にします。

**CANT\_UNSET\_CORP\_CURRENCY**

組織のマスタ通貨を API から変更できません。マスタ通貨は Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して変更します。

**CHILD\_SHARE\_FAILS\_PARENT**

別のレコードの子であるレコードの所有者の変更または共有ルールの定義をするには、その親への適切な権限を有している必要があります。たとえば、取引先責任者レコードの所有者を変更するには、親の取引先レコードを編集する権限が必要です。

**CIRCULAR\_DEPENDENCY**

組織内のメタデータオブジェクト間で循環参照を作成できません。たとえば、公開グループ A が公開グループ B に含まれている場合、公開グループ B を公開グループ A に含めることはできません。

**COMMUNITY\_NOT\_ACCESSIBLE**

このエンティティが含まれるコミュニティへのアクセス権限がありません。このエンティティにアクセスする前に、コミュニティへのアクセス権限が必要です。

**CUSTOM\_CLOB\_FIELD\_LIMIT\_EXCEEDED**

CLOB 項目の最大サイズを超えることはできません。

**CUSTOM\_ENTITY\_OR\_FIELD\_LIMIT**

組織のカスタムオブジェクトまたはカスタム項目の最大数に達しました。

**CUSTOM\_FIELD\_INDEX\_LIMIT\_EXCEEDED**

組織の項目へのインデックスの最大数に達しました。

**CUSTOM\_INDEX\_EXISTS**

項目に対して作成できるカスタムインデックスは 1 つだけです。

**CUSTOM\_LINK\_LIMIT\_EXCEEDED**

組織のカスタムリンクの最大数に達しました。

**CUSTOM\_TAB\_LIMIT\_EXCEEDED**

組織のカスタムタブの最大数に達しました。

**DELETE\_FAILED**

他のオブジェクトが使用中のため、レコードを削除できません。

**DEPENDENCY\_EXISTS**

指定されたオブジェクトまたは項目に連動関係が存在するため、要求された操作を実行できません。

**DUPLICATE\_CASE SOLUTION**

指定されたケースとソリューションの関係が既に存在するため、新たに作成できません。

**DUPLICATE\_CUSTOM\_ENTITY\_DEFINITION**

カスタムオブジェクトまたはカスタム項目の ID は一意でなければなりません。

**DUPLICATE\_CUSTOM\_TAB\_MOTIF**

重複するマスタ名のカスタムオブジェクトまたはカスタム項目を作成できません。

**DUPLICATE\_DEVELOPER\_NAME**

重複する API 参照名のカスタムオブジェクトまたはカスタム項目を作成できません。

**DUPLICATE\_EXTERNAL\_ID**

ユーザが指定した外部 ID が `upsert()` コールで 1 つ以上の Salesforce.com のレコードに一致しました。

**DUPLICATE\_MASTER\_LABEL**

重複するマスタ名のカスタムオブジェクトまたはカスタム項目を作成できません。

**DUPLICATE\_SENDER\_DISPLAY\_NAME**

`sendEmail()` コール OrgWideEmailAddress.DisplayName または senderDisplayName から選択できませんでした。2つの項目のいずれかのみ定義できます。

**DUPLICATE\_USERNAME**

ユーザ名が重複しているため、`create()`, `update()`、または `upsert()` コールに失敗しました。

**DUPLICATE\_VALUE**

一意でなければならない項目に重複する値を指定できません。たとえば、`invalidateSessions()` コールでは同じ sessionID の複製を 2つ送信した場合はこのエラーが発生します。

**EMAIL\_NOT\_PROCESSED\_DUE\_TO\_PRIOR\_ERROR**

これより以前にコールで発生したエラーにより、この電子メールは処理されませんでした。

**EMPTY\_SCONTROL\_FILE\_NAME**

`Scontrol` ファイル名が空ですが、バイナリが空ではありません。

**ENTITY\_FAILED\_IFLASTMODIFIED\_ON\_UPDATE**

`LastModifiedDate` の日付が現在の日付より後に設定されているためレコードを更新できません。

**ENTITY\_IS\_ARCHIVED**

アーカイブされたレコードにはアクセスできません。

**ENTITY\_IS\_DELETED**

削除されたオブジェクトは参照できません。この状況コードは、API バージョン 10.0 以降でのみ発生します。API の以前のリリースでは、このエラーに `INVALID_ID_FIELD` を使用しています。

**ENTITY\_IS\_LOCKED**

ワークフロー処理操作中にロックされたオブジェクトは編集できません。

**ERROR\_IN\_MAILER**

電子メールアドレスが無効であるか、電子メール関連のトランザクション中に別のエラーが発生しました。

**FAILED\_ACTIVATION**

`契約` のアクティビ化が失敗しました。

**FIELD\_CUSTOM\_VALIDATION\_EXCEPTION**

項目の整合性規則に違反するカスタム入力規則式は定義できません。

**FIELD\_INTEGRITY\_EXCEPTION**

項目の整合性規則に違反できません。

**FILTERED\_LOOKUP\_LIMIT\_EXCEEDED**

オブジェクトごとに使用できるルックアップ検索条件の最大数を超えていたため、ルックアップ検索条件の作成に失敗しました。

**HTML\_FILE\_UPLOAD\_NOT\_ALLOWED**

HTMLファイルのアップロードが失敗しました。ソリューションへのHTML添付ファイルを含めたHTML添付ファイルおよびドキュメントは、[設定]▶[セキュリティのコントロール]▶[HTML ドキュメントと添付ファイルの設定]で [HTML ドキュメントと添付ファイルを許可しない] チェックボックスがオンになっているとアップロードできません。

**IMAGE\_TOO\_LARGE**

画像が幅、高さ、ファイルサイズの最大値を超えています。

**INACTIVE\_OWNER\_OR\_USER**

指定されたデータの所有者が無効なユーザです。このデータを参照するには、所有者を再度アクティブ化するか、別の有効なユーザに所有権を再度割り当てます。

**INSUFFICIENT\_ACCESS\_ON\_CROSS\_REFERENCE\_ENTITY**

この操作は指定されたオブジェクトが相互参照しているオブジェクトに影響を与えるが、ログインしたユーザは相互参照しているオブジェクトに対する十分な権限がありません。たとえば、ログインしているユーザが取引先レコードを変更しようとした場合、そのユーザにはアクションの後に送信される `ProcessInstanceWorkitem` の承認、拒否、再割り当て権限がないことが考えられます。

**INSUFFICIENT\_ACCESS\_OR\_READONLY**

指定したアクションを実行する十分な権限がないため、実行できません。

**INVALID\_ACCESS\_LEVEL**

指定された組織全体のデフォルトよりアクセス権限の少ない共有ルールを新たに定義することはできません。

**INVALID\_ARGUMENT\_TYPE**

実行しようとする操作に対して不正な型の引数を指定しました。

**INVALID\_ASSIGNEE\_TYPE**

1から6の間の有効な整数でない値を任命先種別として指定しました。

**INVALID\_ASSIGNMENT\_RULE**

無効な割り当てルールまたは組織で定義されていない割り当てルールを指定しました。

**INVALID\_BATCH\_OPERATION**

指定されたバッチ操作が無効です。

**INVALID\_CONTENT\_TYPE**

送信電子メールの `EmailFileAttachment contentType` プロパティが無効です。「RFC2045 - インターネットメッセージ形式」を参照してください。

**INVALID\_CREDIT\_CARD\_INFO**

指定されたクレジットカード情報が有効ではありません。

**INVALID\_CROSS\_REFERENCE\_KEY**

関係項目に指定した値が有効でないか、データが予期した型ではありません。

**INVALID\_CROSS\_REFERENCE\_TYPE\_FOR\_FIELD**

指定された相互参照タイプが、指定された項目で有効な型ではありません。

**INVALID\_CURRENCY\_CONV\_RATE**

通貨換算レートには、0でない正の数を指定する必要があります。

**INVALID\_CURRENCY\_CORP\_RATE**

マスター通貨の換算レートは変更できません。

**INVALID\_CURRENCY\_ISO**

指定された通貨 ISO コードが有効ではありません。詳細は、「[IsoCode](#)」を参照してください。

**INVALID\_EMAIL\_ADDRESS**

指定された電子メールアドレスが無効です。

**INVALID\_EMPTY\_KEY\_OWNER**

owner に null 値は設定できません。

**INVALID\_FIELD**

`update()` または `upsert()` コールで無効な項目名を指定しました。

**INVALID\_FIELD\_FOR\_INSERT\_UPDATE**

個人取引先レコードタイプの変更を、他の項目の更新と組み合わせることはできません。

**INVALID\_FIELD\_WHEN\_USING\_TEMPLATE**

無効な項目名で電子メールテンプレートを使用できません。

**INVALID\_FILTER\_ACTION**

指定した条件アクションは、指定したオブジェクトでは使用できません。たとえば、アラートはタスクの有効な条件アクションではありません。

**INVALID\_ID\_FIELD**

指定された ID 項目 (`ID`、`ownerId`) または相互参照項目が無効です。

**INVALID\_INET\_ADDRESS**

指定された Inet アドレスが無効です。

**INVALID\_LINEITEM\_CLONE\_STATE**

オブジェクトが有効でない場合、[Pricebook2](#) または [PricebookEntry](#) レコードをコピーできません。

**INVALID\_MASTER\_OR\_TRANSLATED SOLUTION**

ソリューションが無効です。たとえば、翻訳ソリューションと、同じ言語の別の翻訳ソリューションが既に関連付けられているマスターソリューションとを関連付けようとした場合にこのエラーが発生します。

**INVALID\_MESSAGE\_ID\_REFERENCE**

送信電子メールの `References` または `In-Reply-To` 項目が無効です。これらの項目には、有効なメッセージ ID が必要です。「[RFC2822 - インターネットメッセージ形式](#)」を参照してください。

**INVALID\_OPERATION**

指定されたオブジェクトに適用可能な承認プロセスはありません。

**INVALID\_OPERATOR**

ワークフロー条件として使用する場合、このデータ型に指定した演算子は使用できません。

**INVALID\_OR\_NULL\_FOR\_RESTRICTED\_PICKLIST**

制限つき選択リストに無効な値または null 値を指定しました。

**INVALID\_PARTNER\_NETWORK\_STATUS**

指定されたテンプレート項目の、指定されたパートナーネットワーク状況が無効です。

**INVALID\_PERSON\_ACCOUNT\_OPERATION**

個人取引先は削除できません。

**INVALID\_SAVE\_AS\_ACTIVITY\_FLAG**

Save\_as\_Activity フラグには true または false を指定しなければなりません。

**INVALID\_SESSION\_ID**

指定された sessionId の形式が正しくないか(長さまたは形式が不正)、期限が切れています。再度ログインし、新しいセッションを開始してください。

**INVALID\_STATUS**

指定された組織のステータス変更が有効ではありません。

**INVALID\_TYPE**

指定された型が、指定されたオブジェクトで有効ではありません。

**INVALID\_TYPE\_FOR\_OPERATION**

指定された型が、指定された操作で有効ではありません。

**INVALID\_TYPE\_ON\_FIELD\_IN\_RECORD**

指定された値が、指定された項目の型で有効ではありません。

**IP\_RANGE\_LIMIT\_EXCEEDED**

指定された IP アドレスが、組織に指定された IP 範囲外です。

**LICENSE\_LIMIT\_EXCEEDED**

組織に割り当てられたライセンス数の上限を超えていました。

**LIGHT\_PORTAL\_USER\_EXCEPTION**

使用できない大容量カスタマーPortalユーザでアクションを実行しようとしたしました。たとえば、ケースチームへのユーザの追加などです。

**LIMIT\_EXCEEDED**

制限を超えました。制限は項目のサイズまたは値、ライセンスまたはその他のコンポーネントが考えられます。

**LOGIN\_CHALLENGE\_ISSUED**

ユーザが組織の信頼できる IP アドレスのリストに含まれていない IP アドレスからログインしたため、セキュリティトークンを含む電子メールがユーザの電子メールアドレスに送信されました。ユーザは、セキュリティトークンをパスワードの末尾に追加してログインするまで、ログインできません。

**LOGIN\_CHALLENGE\_PENDING**

ユーザが組織の信頼できる IP アドレスのリストに含まれていない IP アドレスからログインしましたが、セキュリティトークンがまだ発行されていません。

**LOGIN\_MUST\_USE\_SECURITY\_TOKEN**

ユーザは、セキュリティトークンをパスワードの末尾に追加してログインする必要があります。

**MALFORMED\_ID**

ID は 15 文字、または大文字小文字を識別するための有効な拡張を含めて 18 文字でなければなりません。  
同じ名前の例外コードが存在します。

**MANAGER\_NOT\_DEFINED**

指定された承認プロセスにはマネージャが定義されていません。

**MASSMAIL\_RETRY\_LIMIT\_EXCEEDED**

組織の一括メール送信再実行の上限を超えたため、一括メール送信再実行が失敗しました。

**MASS\_MAIL\_LIMIT\_EXCEEDED**

組織の一括メール送信の 1 日の上限を超えるました。翌日になるまで一括メール送信を実行できません。

**MAXIMUM\_CCEMAILS\_EXCEEDED**

ワークフローアラートで指定された CC アドレスが上限を超えるました。

**MAXIMUM\_DASHBOARD\_COMPONENTS\_EXCEEDED**

ダッシュボードのドキュメントサイズの制限を超えるました。

**MAXIMUM\_HIERARCHY\_LEVELS\_REACHED**

階層の最大レベル数に達しました。

**MAXIMUM\_SIZE\_OF\_ATTACHMENT**

添付ファイルのサイズの上限を超えるました。

**MAXIMUM\_SIZE\_OF\_DOCUMENT**

ドキュメントサイズの上限を超えるました。

**MAX\_ACTIONS\_PER\_RULE\_EXCEEDED**

ルールあたりのアクション数の上限を超えるました。

**MAX\_ACTIVE\_RULES\_EXCEEDED**

有効なルール数の上限を超えるました。

**MAX\_APPROVAL\_STEPS\_EXCEEDED**

承認プロセスの承認ステップ数の上限を超えるました。

**MAX\_FORMULAS\_PER\_RULE\_EXCEEDED**

ルールあたりの数式数の上限を超えるました。

**MAX\_RULES\_EXCEEDED**

オブジェクトのルール数の上限を超えるました。

**MAX\_RULE\_ENTRIES\_EXCEEDED**

ルールのエントリ数の上限を超えるました。

**MAX\_TASK\_DESCRIPTION\_EXCEEDED**

タスクの説明が長すぎます。

**MAX\_TM\_RULES\_EXCEEDED**

テリトリーあたりのルール数の上限を超えました。

**MAX\_TM\_RULE\_ITEMS\_EXCEEDED**

テリトリーのルールあたりルール条件の数の上限を超えました。

**MERGE\_FAILED**

マージ操作が失敗しました。

**MISSING\_ARGUMENT**

必要な引数が指定されていません。

**NONUNIQUE\_SHIPPING\_ADDRESS**

元の注文の納入先住所が削減注文の他の商品の納入先住所と異なる場合、削減注文を挿入できません。

**NO\_APPLICABLE\_PROCESS**

送信されたレコードが、ユーザが権限のあるどのワークフロープロセスのエントリ条件も満たさないため、`process()` 要求が失敗しました。

**NO\_ATTACHMENT\_PERMISSION**

組織では電子メールへの添付ファイルが許可されていません。

**NO\_INACTIVE\_DIVISION\_MEMBERS**

無効なディビジョンにメンバーを追加することはできません。。

**NO\_MASS\_MAIL\_PERMISSION**

指定された電子メールを送信する権限が付与されていません。一括メール送信には「一括メール送信」権限、個別メール送信には「メールの送信」権限が必要です。

**NUMBER\_OUTSIDE\_VALID\_RANGE**

指定された数値が、値の有効な範囲外です。

**NUM\_HISTORY\_FIELDS\_BY\_SUBJECT\_EXCEEDED**

`sObject` に指定された履歴項目数が制限を超えてています。

**OPTED\_OUT\_OF\_MASS\_MAIL**

指定されたユーザが一括メール送信を除外したため、電子メールを送信できません。

**PACKAGE\_LICENSE\_REQUIRED**

ログインしているユーザにパッケージのライセンスが付与されていない場合、そのユーザはライセンスパッケージに含まれているオブジェクトにアクセスできません。

**PORTAL\_USER\_ALREADY\_EXISTS\_FOR\_CONTACT**

取引先責任者の下に2つめのポータルユーザは作成できないため、`create() User` 操作が失敗しました。

**PRIVATE\_CONTACT\_ON\_ASSET**

納入商品に非公開の取引先責任者を設定できません。

**RECORD\_IN\_USE\_BY\_WORKFLOW**

ワークフロープロセスが使用中の場合、レコードにアクセスできません。

**REQUEST\_RUNNING\_TOO\_LONG**

処理時間が長すぎる要求はキャンセルされる場合があります。

**REQUIRED\_FIELD\_MISSING**

このコールには項目が必要ですが指定されていません。

**SELF\_REFERENCE\_FROM\_TRIGGER**

同じオブジェクトを Apex トリガで繰り返し更新または削除できません。このエラーは、次のような場合に多く発生します。

- ・ オブジェクトを before トリガで更新または削除しようとした場合。
- ・ オブジェクトを after トリガで削除しようとした場合。

このエラーは直接操作または間接操作のいずれでも発生します。次に、間接操作の例を示します。

1. オブジェクト A を更新する要求が送信されました。
2. オブジェクト A のbefore update トリガがオブジェクト B を作成します。
3. オブジェクト A が更新されます。
4. オブジェクト B のafter insert トリガがオブジェクト A にクエリを実行し、更新します。これはオブジェクト A の before トリガとなり、オブジェクト A の間接更新となるためエラーが生成されます。

**SHARE\_NEEDED\_FOR\_CHILD\_OWNER**

子レコードで必要な場合、親レコードの共有ルールを削除できません。

**STANDARD\_PRICE\_NOT\_DEFINED**

対応する標準価格がなければ、カスタム価格を定義することはできません。

**STORAGE\_LIMIT\_EXCEEDED**

組織の記憶容量の制限を超えてます。

**STRING\_TOO\_LONG**

指定された文字列は文字列長の上限を超えてます。

**TABSET\_LIMIT\_EXCEEDED**

タブセットに許可されたタブ数超えてます。

**TEMPLATE\_NOT\_ACTIVE**

指定されたテンプレートが利用できません。別のテンプレートを指定するか、指定したテンプレートが利用できるようにします。

**TERRITORY\_REALIGN\_IN\_PROGRESS**

テリトリーの再配置が進行中のため、この処理を実行できません。

**TEXT\_DATA\_OUTSIDE\_SUPPORTED\_CHARSET**

指定されたテキストがサポートされていない文字コードを使用しています。

**TOO\_MANY\_APEX\_REQUESTS**

Salesforce.com に送信された Apex 要求の数が多すぎます。これは一時的なエラーです。少ししてから要求を再送信してください。

**TOO\_MANY\_ENUM\_VALUE**

複数選択リストに渡された値が多すぎるため、要求が失敗しました。複数選択リストでは 100 個の値まで選択できます。

**TRANSFERQUIRES\_READ**

ユーザに参照権限がないため、指定された [ユーザ](#) にレコードを割り当てられません。

**UNABLE\_TO\_LOCK\_ROW**

デッドロックまたはタイムアウト条件が検出されました。

- デッドロックには、重なり合うオブジェクトセットを更新しようとする最低 2 つのトランザクションが関係しています。トランザクションに集計項目が含まれている場合、親オブジェクトがロックされるため、このようなトランザクションでは特にデッドロックが発生しやすくなります。デバッグするには、コード内のデッドロックを確認し修正してください。通常デッドロックは Salesforce.com 操作の問題から引き起こされる結果ではありません。
- タイムアウトは、選択リストの値の置き換えや、カスタム項目定義の変更など、完了までに時間がかかりすぎるトランザクションで発生します。これは一時的な状態です。修正アクションは不要です。

バッチに含まれるオブジェクトをロックできない場合、バッチ全体でこのエラーが発生し失敗します。

**UNAVAILABLE\_RECORDTYPE\_EXCEPTION**

適切なデフォルトのレコードタイプが見つかりませんでした。

**UNDELETE\_FAILED**

オブジェクトが存在しないか、削除されていないため、このオブジェクトを復元できません。

**UNKNOWN\_EXCEPTION**

システムで内部エラーが発生しました。この問題をセールスフォース・ドットコムに報告してください。



メモ: [sendEmail\(\)](#) コールが原因の場合、この例外コードをセールスフォース・ドットコムには報告しないでください。Email Opt Out オプションが選択されている 1 人以上の受信者に電子メールを送信するのに [sendEmail\(\)](#) コールを使用した場合、この例外コードが返されます。

**UNSPECIFIED\_EMAIL\_ADDRESS**

指定されたユーザには電子メールアドレスがありません。

**UNSUPPORTED\_APEX\_TRIGGER\_OPERATION**

Apex トリガを使用し定期的な行動を保存できません。

**UNVERIFIED\_SENDER\_ADDRESS**

[sendEmail\(\)](#) コールが、OrgWideEmailAddress オブジェクトで定義された未検証の電子メールアドレスをしようとしました。

**WEBLINK\_SIZE\_LIMIT\_EXCEEDED**

[WebLink](#) URL または JavaScript コードのサイズが制限を超えていました

**WRONG\_CONTROLLER\_TYPE**

Visualforce 電子メールテンプレートのコントローラタイプが、使用されているオブジェクト種別と一致しません。

前の表にない状況コードが返された場合、サポートデスクにご連絡ください。

## システム項目

次の項目は、多くのオブジェクトに見られる参照のみ項目です。これらの項目は、API操作時に自動的に更新されます。たとえば、create操作時にID項目が自動的に生成され、オブジェクトの任意の操作時にLastModifiedDateが自動的に更新されます。

項目	項目のデータ型	説明
Id	ID	レコードを識別するグローバルに一意の文字列。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してくださいこの項目はすべてのオブジェクトにあるため、各オブジェクトの項目表には表示されません。Id項目には、 <a href="#">Defaulted on create</a> および <a href="#">Filter</a> アクセスがあります。
IsDeleted	Boolean	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。この項目はすべてのオブジェクトにあるわけではないため、各オブジェクトの項目表には表示されます。
監査項目		
CreatedById	reference	このオブジェクトを作成した <u>ユーザ</u> のID。CreatedById項目には、 <a href="#">Defaulted on create</a> および <a href="#">Filter</a> アクセスがあります。
CreatedDate	dateTime	このオブジェクトが作成された日付と時間。CreatedDate項目には、 <a href="#">Defaulted on create</a> および <a href="#">Filter</a> アクセスがあります。
LastModifiedById	reference	このオブジェクトを最後に更新した <u>ユーザ</u> のID。LastModifiedById項目には、 <a href="#">Defaulted on create</a> および <a href="#">Filter</a> アクセスがあります。
LastModifiedDate	dateTime	このオブジェクトがユーザに最後に変更された日付と時間。LastModifiedDate項目には、 <a href="#">Defaulted on create</a> および <a href="#">Filter</a> アクセスがあります。
SystemModstamp	dateTime	このレコードがユーザまたはワークフロープロセス(トリガなど)で最後に更新された日付と時間。SystemModstamp項目には、 <a href="#">Defaulted on create</a> および <a href="#">Filter</a> アクセスがあります。

データを Salesforce.com にインポートし、監査項目に値を設定する必要がある場合、salesforce.com に連絡してください。組織でこの機能を使用できるようになると、取引先、CampaignMember、ケース、CaseComment、取引先責任者、アイデア、IdeaComment、リード、商談、および投票のオブジェクトの監査項目の値を設定できます。値を設定できない監査項目は、systemModstampだけです。

カスタムオブジェクトの監査項目設定の詳細は、「[カスタムオブジェクトの監査項目](#)」を参照してください。

これらの標準オブジェクトには監査項目はありません。

オブジェクト	作成者 Id なし	作成日な し	最終更新 者 ID な し	最終更新 日なし し	システム 更新スタ ンプなし	システム 更新スタ ンプのみ (他の監査 項目はな し)
AccountShare	X	X			X	
AccountTerritoryAssignmentRule	X	X			X	
CaseComment			X	X		
CaseHistory			X	X	X	
CaseSolution			X	X		
CaseShare	X	X			X	
EmailStatus					X	
EntityHistory			X	X	X	
FiscalYearSettings						X
GroupMember						X
LeadShare	X	X			X	
Name					X	X
OpportunityHistory			X	X		
OpportunityShare	X	X			X	
Period						X
ProcessInstanceHistory			X	X		
ProcessInstanceStep			X	X		
ProcessInstanceWorkitem			X	X		
QuantityForecastHistory			X	X		
RevenueForecastHistory			X	X		
Territory	X	X				
UserRole	X	X				
UserTerritory	X	X				

## 親参照項目

オブジェクトに親オブジェクトとのリレーションがある場合、次の 2 つの項目が追加されます。

- `property_name` には親オブジェクトの名前が指定されます。たとえば、ケースの `Contact` 項目には、ケースの親取引先責任者への参照が指定されます。

- Parent\_NameId には、親の ID が指定されます。たとえば、ケースの ContactId 項目には、ケースの親取引先責任者を参照します。この項目は、次のような SOQL リレーションクエリで使用されます。

```
SELECT Case.ContactId, Case.Contact.Name FROM Case
```

オブジェクト自身が親である場合でも、この項目は出現します。たとえば、キャンペーンオブジェクトの Campaign 項目および CampaignId 項目は、親キャンペーンを参照します。

## 必須項目

必須項目には非 null 値が必要です。このルールは、[create\(\)](#) および [update\(\)](#) コールに影響します。

- クライアントアプリケーションが [create\(\)](#) コールを起動すると、Salesforce.com は、システム項目やオブジェクト ID 項目などの特定の必須項目のデータを自動的に生成します。同様に、[項目](#) で示したとおり、必須項目にデフォルト値が設定されている場合 (defaultedOnCreate attribute が true に設定されている)、この項目の値が明示的に [create\(\)](#) コールに渡されない場合でも、Salesforce.com はオブジェクト作成時にこの項目に暗示的に値を割り当てます。SQL の外部キーと類似している ID 項目など、その他すべての必須項目では (「[Reference データ型](#)」を参照)、クライアントアプリケーションはオブジェクト作成時に明示的に値を割り当てる必要があります (null 値は設定できません)。
- クライアントアプリケーションが [update\(\)](#) コールを起動すると、必須項目を null 値には設定できません。多くの必須項目は、[update\(\)](#) コールでは変更できません。

オブジェクトの説明で必須に設定されていないすべての項目はオプションであり、作成時または更新時に null に設定できます。

特定のオブジェクトの必須項目の特殊な処理は、この後のトピックにあるそれらのオブジェクトのドキュメントを参照してください。

## 頻繁に指定される項目

[システム項目](#) のほか、多くのオブジェクトに次の項目があります。

- [OwnerId](#)
- [RecordTypeId](#)
- [CurrencyIsoCode](#)

### **OwnerId**

オブジェクトには、そのオブジェクトを所有するユーザへの参照である ownerId 項目が指定されています。所有権とは、セキュリティモデルに影響を与え、システム全体で別の意味を持つ重要な概念です。いかなるユーザも、アクセスできるレコードの所有者項目を問い合わせできます。ただし、ownerId 項目を設定するには、次の制約があります。

- 多くのユーザおよび多くのオブジェクトについて、この項目を挿入時に直接設定することはできません。オブジェクトの挿入時に現在のユーザに暗黙的に設定できます。

- ケースまたはリードを作成または更新する場合、クライアントアプリケーション(レコードの転送に十分な権限でログイン)はこの項目を組織の有効なユーザまたは組織の適切なタイプの有効なキーに設定できます。
- API を使用してこの項目を更新すると、そのレコードの所有者のみが変更されます。この所有者の変更は、Salesforce.com ユーザインターフェースでレコード所有権を移行する場合カスケードしますが、関連付けられたレコードにはカスケードしません。
- 取引先のこの項目を更新すると、既存の共有情報を削除し、組織全体の共有デフォルトおよび共有ルールを再適用します。

API version 12.0 以降では、組織が同じ条件を設定した場合、`OwnerId` 項目は他のオブジェクトに対してと同じように、取引先オブジェクトおよび商談オブジェクトに同じ動作を実行します。つまり、いずれかのオブジェクトで `OwnerId` 項目を更新すると、`AccountShare` レコードまたは`OpportunityShare` レコードが保存されます。API バージョン 11.0 以前の場合は、共有レコードが削除されます。

### RecordTypeId

レコードタイプを使用すると、ユーザのプロファイル設定に応じて異なるビジネスプロセスと選択リストのサブセットをさまざまなユーザに提供できます。(また、個人取引先はレコードタイプを使用して、さまざまな追加要素を管理します。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「個人取引先とは?」を参照してください。)

API で `RecordType` オブジェクトを作成、編集、または削除することによって、レコードタイプを Salesforce.com ユーザインターフェースで設定することができます。クライアントアプリケーションは、`RecordType` オブジェクトの `query()` をコールして、指定されたオブジェクトの有効なレコードタイプ ID 文字列のリストを取得できます。

オブジェクトの `RecordTypeId` 項目には、標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに関連付けられた `RecordType` の ID が指定されています。クライアントアプリケーションは、`create()` コールまたは `update()` コールでこの項目を設定できます。



メモ: `CampaignMember` オブジェクトの `RecordTypeId` 項目に `create()` または `update()` を実行できません。キャンペーンの `CampaignMemberRecordTypeId` 項目を使用して、`CampaignMember` レコードタイプを設定します。

`create()` コールまたは `update()` コールで指定されている場合、レコードタイプ ID (String) はそのオブジェクトの有効なレコードタイプを参照する必要があります。(ID の詳細は、「ID データ型」を参照してください。)



メモ: Salesforce.com ユーザインターフェースで少なくとも 1 つのレコードタイプが組織に設定されている場合にのみ、`RecordTypeId` 項目が WSDL ファイルに表示されます。

### CurrencyIsoCode

組織で複数の通貨を使用できる場合、`CurrencyIsoCode` 項目には、オブジェクトの通貨値と関連付けられている通貨の ISO コードの文字列表示が指定されています。ユーザ オブジェクトにも `DefaultCurrencyIsoCode` 項目があります。そのユーザのデフォルトの通貨です。たとえば、フランスのユーザは `DefaultCurrencyIsoCode` を Euro に設定し、それがアプリケーションのデフォルト通貨になります。ただし、ユーザ オブジェクトは、通貨のカスタム項目を異なる通貨で保存します。

## API 項目プロパティ

項目は各オブジェクトの詳細を表します。データベース表の列と類似しています。各オブジェクトの1つの項目には、次のプロパティのうち1つ以上が表示されます。

プロパティ	説明
Autonumber	API が自動採番を作成します。
Create	作成時に API を用いて項目の値を指定できます。
Defaulted on create	作成時に値を指定しない場合のデフォルト値を設定します。
Delete	API を用いて項目の値を削除できます。
Filter	SOQL クエリの FROM 句または WHERE 句の検索条件として使用できます。
idLookup	<code>upsert()</code> コールでレコードを指定できます。各オブジェクトの Id 項目、およびいくつかの Name 項目にはこのプロパティがあります。例外もあるため、 <code>upsert()</code> を実行するオブジェクトではこのプロパティを確認してください。
Nillable	この項目には null 値を設定できます。
Query	API を使用してこの項目へのクエリを実行できます。
Replicate	API を用いて項目の値を複製できます。
Restricted picklist	表示されている値の別の選択リストの値に依存する選択リストです。
Retrieve	API を用いて取得できる項目の値です。
Search	API を使用して SOSL 検索を実行できます。
Update	API を使用して更新できます。

## オブジェクト間のリレーション

リレーションは、Salesforce.com のオブジェクトを他のオブジェクトと関連付けます。たとえば、「バグ」という名前のカスタムオブジェクトをケースに関連付け、顧客のケースに関連付けられた商品の欠陥を追跡するために使用するなど、リレーションによって、カスタムオブジェクトを関連リスト内の標準オブジェクトにリンクできます。標準オブジェクトでの親と子のリレーションを参照するには、[データモデル](#) の ERD 図を参照してください。



メモ: SOQL クエリでは親子関係を使用できます。詳細は、[「リレーションのクエリ」](#) を参照してください。

オブジェクトにカスタムリレーション項目を作成することにより、各種リレーションを定義できます。リレーションタイプにより、データの削除やレコードの所有者、セキュリティ、ページレイアウトの必須項目の扱い方が異なります。

- 主従(1:n) — 主オブジェクトが従オブジェクトの動作を制御する、親子関係。
  - マスタオブジェクトのレコードを削除すると、関連する従レコードも削除されます。
  - 従オブジェクトの [所有者] 項目は使用できません。この項目は、自動的に関連するマスタレコードの所有者に設定されます。主従関係の従側にあるカスタムオブジェクトでは、共有ルール、共有の直接設定、またはキーを使用できません。これは、共有ルール、共有の直接設定、またはキーには [所有者] 項目が必要なためです。
  - 従レコードは、マスタレコードの共有設定およびセキュリティ設定を継承します。
  - 従レコードのページレイアウトには、主従関係項目(2つのオブジェクトを関連付ける項目)が必要です。

2つのカスタムオブジェクト間、またはカスタムオブジェクトと標準オブジェクト間の主従関係を定義できます。しかし、標準オブジェクトが、カスタムオブジェクトのあるリレーションの「従」になることもできません。さらに、ユーザオブジェクトまたはリードオブジェクトが主である主従関係を作成することはできません。

主従関係を定義すると、その時点で作業をしているカスタムオブジェクトが「従」側になります。そのオブジェクトのデータは、他のオブジェクトのページレイアウトのカスタム関連リストとして表示されます。

- 多対多 — 主従関係を使用して、2つの標準オブジェクト間、2つのカスタムオブジェクト間、または、カスタムオブジェクトと標準オブジェクトの間で「多対多」リレーションモデルを形成することができます。多対多リレーションでは、1つのオブジェクトの各レコードを他のオブジェクトの複数のレコードにリンクでき、またその逆のリンクも可能です。たとえば、「バグ」という名前のカスタムオブジェクトを作成し、1つのバグを複数のケースに、また1つのケースを複数のバグに関連付けることができます。多対多のリレーションを作成するには、主従関係項目が2つあるカスタム連結オブジェクトを作成し、それぞれを関係付けたいオブジェクトにリンクします。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

2つの主従関係のあるカスタムオブジェクトは API versions 11 以降で利用できます。

- 参照(1:n) — このタイプのリレーションは2つのオブジェクトをリンクしますが、削除やセキュリティへの影響はありません。主従項目とは異なり、参照項目は自動的に必須項目に設定されるわけではありません。参照関係を定義すると、オブジェクトのデータが他のオブジェクトのページレイアウトのカスタム関連リストとして表示されます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

リレーションの作成には、Salesforce.com ユーザインターフェースおよび Salesforce.com メタデータ API を使用します。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

Axis では、リレーションの要素は親から子へのリレーションのクエリ結果または子から親へのリレーションの `sObject` となります。

## 項目、タブ、API の再ラベル付け

Salesforce.com ユーザインターフェースを使用し、項目やタブのラベルを変更できます。APIを使用している項目やタブに再ラベル付けすることはできませんが、現在の値を取得することは可能です。`describeSObjects()` コールを実行し、返された `DescribeSObjectResult` のラベル項目を確認してください。

## Force.com AppExchange オブジェクトプレフィックスと API

管理されていないパッケージがある環境で、管理パッケージが使用可能になった場合、パッケージに含まれているカスタム項目、カスタムオブジェクトおよび [Sコントロール](#) の API 名が変更されます。なぜなら、各コンポーネントを一意に識別するために、コンポーネントに名前空間プレフィックスが追加され、`name_c` が `prefix_name_c` となるからです。管理されていないパッケージから、同じアプリケーションの管理パッケージバージョンに移行するには、データのエキスポート、古いパッケージのアンインストール、新しいパッケージのインストール、名前変更の確認、関連するマッピングのインポート、の手順で実行することをお勧めします。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「管理パッケージについて」を参照してください。

## カスタムオブジェクト

Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して、カスタムオブジェクトを定義して組織の Salesforce.com データを拡張することができます。カスタムオブジェクトとは、組織独自の情報を保管できるカスタム Salesforce.com データベーステーブルのことです。カスタムオブジェクトの場合、[describeSObjectResult](#) の Boolean 項目である `custom` フラグは `true` です。

十分な権限を持つクライアントアプリケーションは、既存のカスタムオブジェクトに API コールを呼び出すことができます。クライアントアプリケーションでメタデータ WSDL を使用して、または Force.com IDE を使用して、新しいカスタムオブジェクトを作成することができます。メタデータ WSDL を使用したカスタムオブジェクトの新規作成についての詳細は、『[Force.com Metadata API Developer's Guide](#)』を参照してください。Force.com IDE の詳細は、[Developer Force](#) を参照してください。

API がカスタムオブジェクトおよびカスタム項目とどのように相互作用するかについては、次のトピックを参照してください。

- [カスタムオブジェクトの命名規則](#)
- [カスタムオブジェクト間のリレーション](#)
- [カスタムオブジェクト用の監査項目](#)
- [カスタムオブジェクトの共有](#)
- [カスタムオブジェクトの必須項目](#)
- [管理パッケージと API 名](#)

### カスタムオブジェクトの命名規則

カスタムオブジェクトには、セットアップ時に Salesforce.com の管理者が定義した関連する名前項目があります。カスタムオブジェクトには、組織内で一意の名前が必要です。

API では、カスタムオブジェクトの名前は 2 つのアンダーバーと小文字の「`c`」の接尾辞で識別されます。たとえば、Salesforce.com ユーザインターフェースで「Issue」とラベル付けされたカスタムオブジェクトは、組織の WSDL では `Issue_c` と表示されます。

リレーションによって命名規則が変更されます。詳細は、『[カスタムオブジェクト間のリレーション](#)』を参照してください。

カスタムオブジェクトレコードを Salesforce.com ユーザインターフェースに表示するために、名前項目に入力する必要があります。API を使用して名前のないカスタムオブジェクトレコードを作成すると、そのレコードの ID が名前として使用されます。

### カスタムオブジェクト間のリレーション

「[オブジェクト間のリレーション](#)」で説明されているように、カスタムオブジェクトは別のオブジェクトと関連し、標準オブジェクトと同じように動作します。たとえば、削除のカスケードは主従関係にあるカスタムオブジェクトでサポートされています。

カスタムオブジェクトをリレーションシエリで使用するには、特別な対応が必要です。カスタムオブジェクトのリレーション項目名については、「\_\_r」を名前に使用して ID を作成し、「\_\_c」を使用して、親オブジェクトポインタを作成します。たとえば、リレーション項目名が MyRel の場合、ID の名前は MyRelId\_\_r となり、親オブジェクトのポインタは MyRel\_\_c、リレーション名は MyRel\_\_r となります。詳細は、[「リレーション名、カスタムオブジェクトおよびカスタム項目について」](#) を参照してください。

次の表は、標準オブジェクトが次のような場合について説明しています。

- カスタムオブジェクトと主従関係である場合の主。主従関係では、削除のカスケードと、親が制御する共有ルールを使用します。
- カスタムオブジェクトの参照関係における参照。つまり、カスタムオブジェクトが標準オブジェクトに対して参照するかどうか。
- カスタム項目による拡張。

標準オブジェクト	主従	ルックアップ	カスタム項目
取引先	はい	はい	はい
キャンペーン	はい	はい	はい
ケース	はい	はい	はい
取引先責任者	はい	はい	はい
契約	はい	はい	はい
行動	いいえ	いいえ	はい
リード	いいえ	いいえ	はい
商談	はい	はい	はい
Product2	いいえ	はい	はい
ソリューション	はい	はい	はい
タスク	いいえ	いいえ	はい
ユーザ	いいえ	はい	はい

カスタムオブジェクトには、その他のカスタムオブジェクトまたは参照オブジェクトと多対多のリレーションがあります。多対多リレーションでは、1つのオブジェクトの各レコードを他のオブジェクトの複数のレコードにリンクでき、またその逆のリンクも可能です。詳細は、[「オブジェクト間のリレーション」](#) を参照してください。

## カスタムオブジェクト用の監査項目

カスタムオブジェクトには、標準オブジェクトと同じ監査項目があります。組織はAPIと、監査項目を作成する機能を使用でき、また、ユーザは「すべてのデータを更新する」権限が割り当てられている必要があります。

カスタムオブジェクトを作成する場合、4つの監査項目 `CreatedById`、`CreatedDate`、`LastModifiedById` および `LastModifiedDate` が自動的に作成され、オブジェクトに投入されます。これらの項目は参照のみです。

次の制限に注意してください。

- `CreatedDate` を、`LastModifiedDate` より大きな値に設定することはできません。
- 日付項目を、現在の時間より大きな値に設定することはできません。

監査項目の詳細は、「[システム項目](#)」を参照してください。

## カスタムオブジェクトの共有

共有ルールオブジェクトが、別のオブジェクトに対して主従関係を持たないカスタムオブジェクトを作成されます。`AccountOwnerSharingRule` など、標準オブジェクトの共有ルールに似ています。カスタムオブジェクトを作成するユーザに「ユーザの管理」権限がある場合、共有ルールオブジェクトは自動的に、その権限に対して作成されます。

Apex 共有の理由は、カスタムオブジェクトの共有オブジェクトに `describeSObject()` を実行し、`rowCause` 項目の情報を検証して取得できます。各カスタムオブジェクトの共有オブジェクト名の形式は、`AccountShare` オブジェクトやその他の標準オブジェクトの共有オブジェクトと同様、`MyObjectName__Share` となります。

## タグとカスタムオブジェクト

カスタムオブジェクトが作成されると、それに関連するタグオブジェクトも作成されます。これらのオブジェクト名の形式は、`AccountTag` やその他の標準オブジェクトのタグオブジェクトと同様、`MyObjectName__Tag` となります。

## カスタムオブジェクトの必須項目

Salesforce.com ユーザインターフェースでは、カスタム項目を必須項目としてマークでき、API でも強制されます。すべてのカスタム項目には、データ型が `boolean` である `isRequired` という項目があります。デフォルト値は、`false` です。`true` に設定されている場合、すべての要求はこの項目に値を指定する(または現在の値のままにする)必要があります。値を指定しない場合、要求は失敗します。値が `true` に設定されると、次に項目が編集または作成されるときに入力規則が適用され、値が指定されないまたはデフォルト値が指定されると、要求が失敗します。

`isRequired` 項目を編集するには、「[アプリケーションのカスタマイズ](#)」権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

既存のクライアントアプリケーションまたは統合で必要なカスタムオブジェクト項目を変更する場合、その項目の値が指定されていることを必ず確認してください。たとえば、取引先責任者オブジェクトのカスタム選択項目 [学歴] が必須項目である場合、そのカスタム項目にはデフォルト値を指定します。必須項目に値が指定されず、デフォルト値も指定されていない場合、ステータスコード `REQUIRED_FIELD_MISSING` のエラーが返されます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「[必須項目について](#)」を参照してください。

## 管理パッケージと API 名

管理されていないパッケージがある環境で、管理パッケージが使用可能になった場合、パッケージに含まれているカスタム項目、カスタムオブジェクトおよび[Sコントロール](#)のAPI名が変更されます。なぜなら、各コンポーネントを一意に識別するために、コンポーネントに名前空間プレフィックスが追加され、`name__c` が `prefix_name__c` となるからです。管理されていないパッケージから、同じアプリケーションの管理パッケージバージョンに移行するには、データのエキスポート、古いパッケージのアンインストール、新しいパッケージのインストール、名前変更の確認、関連するマッピングのインポート、の手順で実行することをお勧めします。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「[管理パッケージについて](#)」を参照してください。

## 第3章

### Apex コール基礎

トピック:

- API コールの特徴
- データアクセスに影響する要素
- パッケージバージョン設定

API コールとは、クライアントアプリケーションがタスク実行のために実行時に起動できる特定の操作のことです。コールには次のようなものがあります。

- 組織内のデータのクエリ。
- データの追加、更新、削除。
- データのメタデータの取得。
- 管理タスク実行のためのユーティリティの起動。

Force.com 開発環境を使用し、標準 Web サービスプロトコルを使用してプログラムで次の操作を実行する Web サービスクライアントアプリケーションを作成できます。

- ログインサーバへログインし (`login()` コール)、次のコールで使用する認証情報を取得。
- 組織情報へのクエリを実行 (`query()`, `queryAll()`, `queryMore()`、および `retrieve()` コール)
- 組織情報へのテキスト検索を実行 (`search()` コール)
- データの作成、更新、削除 (`create()`、`merge()`、`update()`、`upsert()`、`delete()`、および `undelete()` コール)
- ユーザ情報の取得 (`getUserInfo()` コール)、パスワードの変更 (`setPassword()` および `resetPassword()` コール)、システム時間の取得 (`getServerTimestamp()` コール) などの管理タスクの実行
- データをローカルに複製 (`getDeleted()` および `getUpdated()` コール)
- 組織データについてのメタデータの取得とアクセス (`describeGlobal()`、`describeSObject()`、`describeSObjects()`、`describeLayout()`、および `describeTabs()` コール)
- ワークフローと承認を使用した作業 (`process()`)

各コールについての完全な詳細は、「コアコール」、「ディスクライブコール」、および「ユーティリティコール」を参照してください。

## API コールの特徴

すべての API コールには次の特徴があります。

- サービスリクエストとレスポンス—お使いのクライアントアプリケーションはサービスリクエストを準備し、Force.com Web サービスに API 経由で送信します。Force.com Web サービスは要求を処理してレスポンスを返し、クライアントアプリケーションがレスポンスを処理します。
- 同期—API コールが起動されると、クライアントアプリケーションはサービスからレスポンスを受け取るまで待機します。非同期コールはサポートしていません。
- 自動コミット—Salesforce.com オブジェクトに書き込むすべての処理は自動的にコミットされます。これは、SQL の AUTOCOMMIT 設定と類似しています。オブジェクトの複数のレコードに書き込む `create()`、`update()`、および `delete()` コールでは、各レコードの書き込み処理はそれぞれ別のトランザクションとして扱われます。たとえば、クライアントアプリケーションが新しい取引先を 2 つ作成する場合、グループとしてではなく、完全に独立した挿入処理で作成され、それぞれ個別に成功または失敗と判断されます。



メモ: つまり、クライアントアプリケーション側でも失敗を処理しなければならない場合があります。たとえば、配送を含む商談を作成する場合(カスタムオブジェクト)、商談商品が作成されたものの、発送が失敗することがあります。ビジネスルールで、すべての商談を発送と共に作成しなければならないと決められている場合、クライアントアプリケーションは商談の作成をロールバックしなければなりません。

## データアクセスに影響する要素

API を使用する際、次の要素は組織データへのアクセスに影響を与えます。

- 組織内で API アクセスが有効になっている必要があります。また、API にアクセスするユーザでは、プロファイル権限「API の有効化」を選択していかなければなりません。デフォルトでは選択されています。
- 使用する WSDL により、次のとおり処理されます。
  - Enterprise WSDL:** 生成された Enterprise WSDL ファイルには、組織で利用可能なすべてのオブジェクトが含まれています。API を経由し、クライアントアプリケーションは Enterprise WSDL ファイルで定義されているオブジェクトにアクセスできます。
  - Partner WSDL:** 生成された Partner WSDL ファイルを使用する際、クライアントアプリケーションは `describeGlobal()` コールで返されたオブジェクトにアクセスできます。

詳細は、「[組織の WSDL ファイルの生成](#)」を参照してください。

- 最初に salesforce.com と通信しアクセス要求をしなければならないため、オブジェクトによっては WSDL に表示されないものもあります。たとえば、[テリトリーやキャンペーン](#)などがこれにあたります。これらのオブジェクトは、各オブジェクトの「使用方法」セクションに記述されます。
- 設定された権限が、データへのアクセス権を付与している場合。クライアントアプリケーションは Force.com Web サービスにユーザとしてログインします。ログインしたユーザに関連付けられたプロファイルは、組織の特定のオブジェクトおよび項目へのアクセスを許可または拒否します。

オブジェクトによっては、次のいずれかの権限のあるユーザプロファイルが設定されます。

- 参照—ユーザは、このタイプのオブジェクトを参照のみできます。

- 作成—ユーザは、このタイプのオブジェクトを参照し、作成できます。
- 編集—ユーザは、このタイプのオブジェクトを参照し、更新できます。
- 削除—ユーザは、このタイプのオブジェクトを参照し、編集、削除できます。

これらの権限は、[取引先](#)、[納入商品](#)、[キャンペーン](#)、[ケース](#)、[取引先責任者](#)、[契約](#)、[ドキュメント](#)、[リード](#)、[商談](#)、[価格表](#)、[商品](#) および [ソリューション](#)など多くのオブジェクトに適用できます。[営業チーム](#)などのその他のオブジェクトについては、[取引先レコード](#)などの関連する権限割り当てオブジェクトの共有に従います。同様に、[パートナー](#)は関連する [取引先](#) の権限に依存します。

次のように、共有を無効にする権限もあります。

- すべて表示 - ユーザは共有設定に関係なく、このオブジェクトに関連付けられたすべてのレコードを表示できます。
- すべて変更 - ユーザは共有設定に関係なく、このオブジェクトに関連付けられたすべてのレコードの参照、編集、削除、転送、承認を実行できます。
- すべてのデータの編集 - ユーザは共有設定に関係なく、すべてのレコードの参照、編集、削除、転送、承認を実行できます。この権限は、「すべて表示」および「すべて編集」と異なり、オブジェクトレベルの権限ではありません。

アプリケーションが API にログインすると、すべてのトランザクションはログインユーザとして実行されます。そのため、[データのセキュリティ](#)を保存するには、ユーザ(ログインユーザ)にはアプリケーションで作成されたすべてのコールを正常に実行するために必要な権限だけを割り当てます。大きな統合アプリケーションの場合、「すべてのデータを編集」が必要な場合があります。

ユーザ権限は項目レベルのセキュリティには影響を与えません。項目レベルのセキュリティが、項目を非表示に指定している場合、そのオブジェクトへの「参照」権限のあるユーザは、レコードの非表示でない項目のみを参照できます。さらに、オブジェクトへの「参照」権限のあるユーザは共有設定が許可されているレコードのみを参照できます。唯一の例外は「参照のみ項目の編集」権限です。この権限は項目レベルのセキュリティにより、参照のみに設定されている項目の編集権限をユーザに付与します。

API は Salesforce.com ユーザインターフェースで設定した[オブジェクトレベルおよび項目レベルのセキュリティ](#)を優先します。ログインしたユーザのプロファイルで許可されている場合のみ、オブジェクトや項目にアクセスできます。たとえば、あるユーザには表示されない項目は、`query()` または `describeSObjects()` コールでは返されません。

- ・ ログインしたユーザの共有モデルが、データへのアクセスを許可している場合。ほとんどの API コールでは、ログインしたユーザの共有モデル外のデータは返されません。ユーザは、組織のデフォルトまたはレコード共有の直接設定で、利用可能な最も権限の緩やかなアクセス権を付与されます。
- ・ 組織が取引先、ケース、商談へのアクセスにテリトリー管理を使用している場合。テリトリー管理は、Enterprise Edition、Unlimited Edition、および Developer Edition を使用している組織でのみ使用できます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。
- ・ 指定されたオブジェクトが、特定の API コールからアクセス可能に設定されている場合。たとえば、`create()` コールを使用してオブジェクトを作成する場合、そのオブジェクトは object で作成可能 (`createable` 属性の値が `true`) に設定されていなければなりません。指定されたオブジェクトで許可されている操作を確認するために、お使いのクライアントアプリケーションはオブジェクトに対し `describeSObjects()` コールを実行し、`DescribeSObjectResult` で次のプロパティを確認します。`creatable` (`create()` コール)、`updateable` (`update()` コール)、`deletable` (`delete()` コール)、`queryable` (`query()` コール)、`retrievable` (`retrieve()` コール)、`searchable` (`search()` コール)、および `replicatable` (`getUpdated()` および `getDeleted()` コール)。
- ・ ある変更により組織の Salesforce.com データの参照の参照整合性が守られない場合。例:

- 参照項目の ID 値 (Reference Field Type を参照) を `create()` および `update()` コールで検証します。IDについての詳細は、「[ID データ型](#)」を参照してください。
- クライアントアプリケーションがオブジェクトインスタンスで `delete()` を実行した場合、子の [ChildRelationship](#) の `cascadeDelete` プロパティが `true` に設定されていれば、子もコードの一部として自動的に削除されます。たとえば、クライアントアプリケーションが商談を削除すると、関連付けられた [OpportunityLineItem](#) レコードもまた削除されます。ただし、[OpportunityLineItem](#) が削除できない、または使用中の場合、親の商談の `delete()` コールは失敗します。何が削除されるかを確認するには、[DescribeSObjectResult](#) を使用し、[ChildRelationship](#) 値を確認します。

`cascadeDelete` の実行を阻止するいくつかの例外があります。たとえば、ケースが関連付けられている取引先を削除できません。他のユーザが所有する商談が関連付けられている、または関連付けられた取引先責任者が Self-Service ポータルで有効になっている場合、取引先を削除できません。さらに、現在のユーザによる成立した商談がある場合、または有効な契約のある場合、レコードの削除要求は失敗します。

- オブジェクトの指定された項目が更新可能である場合。たとえば、参照のみの項目は `create()` または `update()` コールでは変更できません。
- 指定された機能が組織で利用可能な場合。Salesforce.com ユーザインターフェースで少なくとも 1 つのレコードタイプが組織に設定されている場合にのみ、`recordTypeId` 項目が WSDL ファイルに表示されます。
- Salesforce.com ユーザインターフェースで設定した項目は一意でなければならない、などのカスタムオブジェクトのルールは、現在は API では適用されません。しかし、カスタムオブジェクトのある項目が必須であるというルールは適用されます。詳細は、「[カスタムオブジェクトの必須項目](#)」を参照してください。
- あるオブジェクトインスタンスへの所有者の変更は、他のオブジェクトインスタンスには自動的にカスクードされません。たとえば、指定された取引先の所有者が変更された場合、その取引先に関連付けられた契約の所有者が自動的に変更されるわけではありません。各所有者は、クライアントアプリケーションから別個に、明示的に変更する必要があります。
- Salesforce.com ユーザインターフェースで設定可能ないくつかの機能は、API からはアクセス不可能、または暗示的に適用されない場合があります。例:

- 指定された項目が必須であるかどうかはページレイアウトで指定できます。しかし、そのようなレイアウト固有の項目制限や入力規則を API は `create()` および `update()` コールでは適用しません。制限を適用するかどうかはクライアントアプリケーションが決定します。
- 指定されたレコードで選択する選択リスト値や、異なるプロファイルを持つユーザが参照するページレイアウトは、レコード型で制御できます。しかし、Salesforce.com ユーザインターフェースで設定し、適用するルールは API では適用されません。たとえば、選択リスト項目の値がログインしているユーザのプロファイルに関連付けられたレコード型の制限で許可されるかどうかなどの入力規則の確認を API は行いません。同様に、ログインしているユーザのプロファイルに関連付けられたレイアウトに項目が表示されなければクライアントアプリケーションによる特定の項目へのデータを API が追加できない、という制限は適用されません。

そのような制限が必要な場合、制限を明示的に適用するにはクライアントアプリケーションのビジネスロジックで設定する必要があります。

## パッケージバージョン設定

API クライアントが管理パッケージのコンポーネントをさんしょうするばあい、統合で参照するインストールする各パッケージのバージョンを指定できます。これにより、後続バージョンのパッケージをインストールして

も、API クライアントは継続して、特定で、既知の動作によって機能することができます。PackageVersionHeader SOAP ヘッダーを使用して、必要に応じて様々なコールにそれぞれのパッケージバージョンを設定できます。

パッケージバージョンは、パッケージでアップロードされる一連のコンポーネントです。2.1 のように、`majorNumber.minorNumber.patchNumber` という形式のバージョン番号で示されます。`patchNumber` は、パッチが作成された場合にのみ生成されます。`patchNumber` がない場合、0 であるものとします。パッチバージョンは現在、パイロットプログラムで使用できます。組織のパッチバージョンの有効化に関する詳細は、salesforce.com までお問い合わせください。公開者は、パッケージバージョンを使用して、パッケージを使用する既存の連携に影響を与えることなく後続のパッケージバージョンをリリースすることにより、管理パッケージのコンポーネントを発展させることができます。

パッケージバージョンが API コールで指定されていない場合、API コールのデフォルトのパッケージバージョンによって代替システム設定が指定されます。多くの API クライアントにはパッケージのバージョン情報がないため、デフォルトの設定がこれらのクライアントの既存の動作を保持します。

Enterprise API コールおよび Partner API コールにデフォルトのパッケージバージョンを指定できます。Enterprise WSDL は、Salesforce.com 組織のみと統合を構築する顧客向けです。非常に強い型付けであるため、`int` や `string` などオブジェクトや項目の特定のデータ型を指定して呼び出します。Partner WSDL は、カスタムオブジェクトまたはカスタム項目に関係なく、複数の Salesforce.com 組織にわたって機能するように統合したい顧客、パートナー、および ISV 向けです。あまり強い型付けでないため、特定のデータ型に依存せず、項目名と値、名前-値のペアで呼び出します。

既存のクライアントの処理を維持するために、Enterprise WSDL を特定のパッケージバージョンと関連付ける必要があります。Enterprise WSDL または Partner WSDL のいずれかを使用してクライアントアプリケーションから API コールのパッケージバージョンのバインド設定を行うことができます。Enterprise WSDL にもとづく、クライアントアプリケーションから発行される API コールのパッケージバージョン情報は、次のうち、最初に一致する設定のによって決定されます。

1. PackageVersionHeader SOAP ヘッダー。
2. SOAP エンドポイントには、`serverName/services/Soap/c/api_version/ID` の形式の URL が指定されています。`api_version` は、17.0 など API のバージョンを示し、Enterprise WSDL は生成された場合、`ID` は、パッケージバージョンの選択内容をエンコードします。
3. エンタープライズパッケージバージョンのデフォルト設定です。

Partner WSDL より柔軟で、複数の組織との統合に使用されます。デフォルトのパートナーパッケージバージョンを設定時、パッケージバージョンに [指定なし] オプションを選択すると、最新バージョンのインストールパッケージによって、処理が定義されます。つまり、パッケージがアップグレードし、その変更がすぐに統合に影響を与える場合、Apex トリガなどパッケージコンポーネントの処理が異なる場合があります。パッケージバージョンの後続のインストールによって、既存の統合に影響のないよう、登録ユーザは、クライアントアプリケーションから、すべての Partner API コールのインストールパッケージの特定バージョンを選択する必要があります。

Partner API コールのパッケージバージョン情報は、次のうち、最初に一致する設定によって決定します。

1. PackageVersionHeader SOAP ヘッダー。
2. Visualforce ページからの API コールは、Visualforce ページのパッケージバージョン設定を使用します。
3. パートナーパッケージバージョンのデフォルト設定です。

API コールのデフォルトパッケージバージョンを設定する手順は、次のとおりです。

1. [設定] ▶ [開発] ▶ [API] をクリックします。

2. [エンタープライズパッケージバージョンを設定] または [パートナーパッケージバージョンを設定] をクリックします。これらのリンクは、組織に管理パッケージを少なくとも 1 つインストールしている場合にのみ使用できます。
3. インストールした管理パッケージの [パッケージバージョン] を選択します。選択するパッケージバージョンがわからない場合、デフォルトの選択内容に従います。
4. [保存] をクリックします。



メモ: 組織に新しいバージョンのパッケージをインストールしても、現在のデフォルト設定に影響はありません。

## 第 4 章

### エラー処理

---

トピック:

- セッション終了のエラー処理
- エラー処理の詳細

API コールは、クライアントアプリケーションがランタイムエラーを識別し解決するために使用できるエラーデータを返します。ほとんどの API コール時にエラーが発生する場合、API では、次のようなエラーの処理が行われます。

- 不正に作成されたメッセージ、失敗した認証、または同様の問題によるエラーについて、API は、関連する [ExceptionCode](#) を使用して SOAP エラーメッセージを返します。
- 多くのコールについて、クエリ特有の問題によってエラーが発生する場合、API は、[Error](#) を返します。たとえば、[create\(\)](#) に 200 を超えるオブジェクトが含まれる場合などです。

## セッション終了のエラー処理

---

[login\(\)](#) コールでサインオンする場合、新しいクライアントセッションが開始し、対応する一意のセッション ID が生成されます。セッションは、Salesforce.com アプリケーションのセキュリティ制御設定領域で指定された時間（デフォルトでは 2 時間）が経過すると自動的に終了します。セッションが終了すると、例外コード INVALID\_SESSION\_ID が返されます。この場合、[login\(\)](#) コールを再度呼び出す必要があります。

## エラー処理の詳細

---

エラーについての詳細は、次のトピックを参照してください。

- [API Fault Element](#)
- [ExceptionCode](#)
- [Error](#)

## 第 5 章

### セキュリティと API

---

#### トピック:

- ユーザ認証
- ユーザプロファイル構成
- セキュリティトークン
- 共有
- オブジェクトおよび項目の暗黙的な制限
- Force.com AppExchange パッケージの API アクセス
- 送信ポートの制限

組織の Salesforce.com データにアクセスするクライアントアプリケーションは、Salesforce.com ユーザインターフェースで使用されるものと同じセキュリティ保護を受けます。API を使用して Salesforce.com にアクセスするコンポーネントが含まれている Force.com AppExchange 管理パッケージをインストールした組織は、追加の保護を使用できます。

## ユーザ認証

クライアントアプリケーションは、組織の有効な資格情報を使用してログインする必要があります。サーバは、これらの資格情報を認証し、有効な場合は、クライアントアプリケーションに次の情報を提供します。

- Web サービスに対するすべての後続コールが認証されるよう、セッションヘッダーに設定する必要がある `sessionId`
- クライアントアプリケーションの Web サービス要求の URL アドレス (`serverUrl`)

Salesforce.com は、Secure Sockets Layer (SSL) プロトコル SSLv3 と Transport Layer Security (TLS) プロトコルのみをサポートします。暗号キーの長さは、128 ビット以上でなければなりません。

## ユーザプロファイル構成

組織の Salesforce.com 管理者は、プロファイルを設定し、ユーザをそれらに割り当てるこによって、さまざまな機能やビューの可用性を制御します。API にアクセスするには(コールを発行してコール結果を受信するには)、ユーザに「API 対応」プロファイル権限が割り当てられている必要があります。クライアントアプリケーションは、ログインユーザのプロファイルを介してアクセス権限を付与されるこれらのオブジェクトおよび項目のみを、問い合わせまたは更新することができます。

プロファイルを作成、編集、または削除するには、Salesforce.com ユーザインターフェースで [設定] ▶ [ユーザ管理] ▶ [プロファイル] に移動してください。



メモ: Force.com Web Services WSDL ファイルは、組織の使用可能なすべてのオブジェクトおよび項目を返します。

## セキュリティトークン

ユーザがユーザインターフェース、API、または Connect for Outlook や Connect Offline、Connect for Office、Connect for Lotus Notes、Data Loader などのデスクトップクライアントを通じて Salesforce.com にログインした場合、Salesforce.com では次の方法でそのログインが正当かどうかを確認します。

1. ユーザのプロファイルにログイン時間帯の制限が設定されているかどうかを確認します。ユーザのプロファイルにログイン時間帯の制限が設定されている場合、指定された時間帯以外のログインは拒否されます。
2. 次に、ユーザのプロファイルに IP アドレスの制限が設定されているかどうかを確認します。ユーザのプロファイルに IP アドレスの制限が設定されている場合、指定された IP アドレス以外のアドレスからのログインは拒否されます。
3. プロファイルベースの IP アドレス制限が設定されていない場合、過去に Salesforce.com へのアクセスに使用されたことがない IP アドレスからユーザがログインしているかどうかを確認します。
  - Salesforce.com Cookie が含まれるブラウザからユーザがログインしている場合、ログインは許可されます。Salesforce.com にブラウザ経由で一度でもログインしたことがあり、ブラウザの Cookie を消去していなければ、ユーザのブラウザには Salesforce.com Cookie が含まれています。

- 信頼できる IP アドレスのリストに含まれる IP アドレスからのログインであれば、ログインは許可されます。
- 信頼できる IP アドレスからのログインでもなく、Salesforce.com Cookie があるブラウザからのログインでない場合、ログインはブロックされます。

ログインがブロックされるか、API ログインの失敗エラーが返された場合、Salesforce.com はユーザの身元を確認する必要があります。

- ユーザインターフェース経由のアクセスの場合、[有効化リンクを送信] ボタンをクリックして、ユーザの Salesforce.com レコードに指定されたアドレス宛てにアクティベーション電子メールの送信を依頼するように求められます。この電子メールで送信されたアクティベーションリンクをブラウザにコピーして、Salesforce.com にログインできるようにコンピュータをアクティブにする必要があります。電子メールに記載されたアクティベーションリンクの有効期限は [有効化リンクを送信] ボタンをクリックしてから 24 時間です。24 時間が過ぎると、アクティベーションリンクは失効します。この場合、アクティベーション手順をやり直す必要があります。



メモ: 初めてユーザが Salesforce.com にログインする場合、このコンピュータを有効にする必要はありません。ただし、次回ユーザがログインする場合、[有効化リンクを送信] ボタンを使用して、コンピュータを有効にする必要があります。

- API またはクライアントからアクセスする場合、ログインパスワードにセキュリティトークンを追加する必要があります。セキュリティトークンは Salesforce.com から自動生成されるキーです。たとえば、パスワードが mypassword で、セキュリティトークンが XXXXXXXXXXXX の場合は、ログイン時に「mypasswordXXXXXXXXXX」と入力する必要があります。

セキュリティトークンを取得するには、Salesforce.com ユーザインターフェースを通じてパスワードを変更するか、セキュリティトークンをリセットします。ユーザがパスワードを変更するか、セキュリティトークンをリセットすると、ユーザの Salesforce.com レコードに指定された電子メールアドレス宛に新しいセキュリティトークンが送信されます。セキュリティトークンは、ユーザがセキュリティトークンをリセットするか、パスワードを変更するか、またはパスワードをリセットするまで有効です。



ヒント: 新しい IP アドレスから Salesforce.com にログインする前に、信頼できるネットワークから Salesforce.com ユーザインターフェースを通じて、セキュリティトークンを取得しておくことをお勧めします。



メモ: トークンの詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「セキュリティトークンのリセット」を参照してください。

ユーザのパスワードが変更されると、そのユーザのセキュリティトークンは自動的にリセットされます。ユーザが自動生成されたセキュリティトークンをパスワードの末尾に追加するまで、または管理者が IP アドレスを信頼できる IP アドレスのリストに追加した後で新しいパスワードを入力するまで、ログインがブロックされます。

組織でシングルサインオン (SSO) ができる場合、API またはデスクトップクライアントにアクセスするユーザは、プロファイルに IP アドレス制限が設定されている場合、IP アドレスが信頼できる IP アドレスのリストまたはプロファイルに記載されていない限り、Salesforce.com にアクセスすることはできません。また、委任された認証権限は通常、「シングルサインオンを使用する」権限を持つユーザのログインロックアウトポリシーを処理します。ただし、組織でセキュリティトークンを使用できる場合、組織のログインロックアウト設定により、Salesforce.com からロックアウトされるまで無効なセキュリティトークンでログイン試行できる回数を指定します。詳細は、オンラインヘルプの「ログイン制限の設定」と「パスワードポリシーの設定」を参照してください。

## 共有

Salesforce.com ユーザインターフェースで、共有とは、組織のデフォルトのアクセスレベルが参照・更新アクセス権限を付与していない場合、その他のユーザが所有するレコードを参照または編集できるよう、ユーザまたはグループに参照または更新アクセス権限を付与する活動のことをいいます。すべての API コールは共有モデルに関連します。

次の表には、アクセスレベルの種類について説明しています。

API 値	Salesforce.com ユーザ API 選択リストのラベル		説明
None	非公開	非公開	レコードの所有者と階層内でそのロールの上位にあるユーザのみが、レコードに対して参照、編集、およびレポートを実行できます。
Read	参照のみ	参照のみ	すべてのユーザおよびグループはレコードを参照できますが、編集することはできません。レコードの所有者と階層内でそのロールの上位にあるユーザのみが、そのレコードを編集できます。
Edit	参照・更新	参照・更新	すべてのユーザおよびグループはレコードを参照し、編集することができます。
ReadEditTransfer	参照・更新・所有権の移行	参照・更新・所有権の移行	すべてのユーザおよびグループはレコードを参照、編集し、所有権を移行することができます。(組織全体のデフォルト設定では、ケースとリードにのみ使用できます。)
All	フルアクセス	所有者	すべてのユーザおよびグループはレコードを参照、編集、所有権を移行、削除、共有することができます。(組織全体のデフォルト設定では、キャンペーンにのみ使用できます。)
ControlledByParent	親レコードに連動	親レコードに連動	(取引先責任者のみ)すべてのユーザとグループは、参照、編集、または削除などの操作を取り引先責任者に対して実行できます。この操作ができるかどうかは、ユーザがその契約に関連付けられているレコードに対して同様の操作ができるかどうかに基づいています。

すべてのアクセスレベルを、すべてのオブジェクトに設定できるわけではありません。各オブジェクトの項目表を参照して、設定できるアクセスレベル、該当するオブジェクトに固有の共有についての詳細を確認してください。.

一般的な共有の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。



メモ: API を使用して、レコードの共有エントリを定義する [AccountShare](#) や [OpportunityShare](#) などのオブジェクトを作成および更新することができます。

## オブジェクトおよび項目の暗黙的な制限

特定のオブジェクトは、Salesforce.com ユーザインターフェースでのみ作成または削除できます。その他のオブジェクトは参照専用です。クライアントオブジェクトは、こうしたオブジェクトに `create()`、`delete()`、または `update()` を実行できません。同様に、一部のオブジェクト内の特定の項目は、`create()` で指定できますが、`update()` では指定できません。その他の項目は参照専用です。クライアントアプリケーションは、`create()` または `update()` コールで項目値を指定できません。詳細は、「[標準オブジェクトとカスタムオブジェクトの基本](#)」の各オブジェクトの説明を参照してください。

## Force.com AppExchange パッケージの API アクセス

API を使用すると、API にログインするユーザの権限に基づいて、オブジェクトやコールにアクセスできます。インストールしたパッケージに API を使用してデータにアクセスするコンポーネントが含まれている場合、セキュリティ問題が発生しないようにするために、次のような追加のセキュリティを設定します。

- 開発者が API にアクセスするコンポーネントを含む AppExchange パッケージを作成する場合、開発者はこれらのコンポーネントの API アクセスを制限することができます。
- 管理者が AppExchange パッケージをインストールする場合、管理者はアクセスを受け入れることも拒否することもできます。アクセスを拒否すると、インストールがキャンセルされます。
- 管理者がパッケージをインストールすると、管理者は API にアクセスするパッケージのコンポーネントの API アクセスを制限することができます。

パッケージの API アクセスの編集は、Salesforce.com ユーザインターフェースで行います。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「[パッケージの API とダイナミック Apex アクセスの管理](#)」を参照してください。

パッケージの API アクセスは、パッケージ内のコンポーネントから発生する API 要求に影響を与えます。API 要求がアクセスできるオブジェクトを指定します。パッケージの API アクセスが定義されていない場合、API 要求がアクセス権限を割り当てられているオブジェクトは、ユーザのプロファイル権限によって決まります。

パッケージの API アクセスを使用しても、ユーザのプロファイルに割り当てられた権限を越えることは実行できません。パッケージの API アクセスは、ユーザのプロファイルで実行できることを減らすことしかできません。

パッケージの [API アクセス] 設定に [制限あり] を選択すると、次の影響があります。

- パッケージの API アクセスは、ユーザのプロファイルで許可された次の権限を上書きします。
  - Apex 開発
  - アプリケーションのカスタマイズ
  - HTML テンプレートの編集
  - 参照のみ項目の編集
  - 請求情報の管理

- コールセンターの管理
  - カテゴリの管理
  - カスタムレポートタイプの管理
  - ダッシュボードの管理
  - レターへッドの管理
  - パッケージライセンスの管理
  - 公開ドキュメントの管理
  - 公開リストビューの管理
  - 公開レポートの管理
  - 公開テンプレートの管理
  - ユーザの管理
  - 所有権の移行
  - チーム再割り当てウィザードの使用
  - 設定・定義を参照する
  - ウィークリーデータのエクスポート
- [参照]、[作成]、[編集]、および [削除] アクセスがオブジェクトの API アクセス設定で選択されていない場合、たとえユーザーに「すべてのデータを変更」する権限および「すべてのデータを変更」する権限があつても、ユーザーにはパッケージコンポーネントのオブジェクトに対するアクセス権はありません。
  - Salesforce.com は、アクセスが `Restricted` になっている AppExchange パッケージからの Web サービスへのアクセスと `executeanonymous` 要求を拒否します。`executeanonymous` と Apex を使用した Web サービスへのアクセスについての詳細は、『[Force.com Apex Code Developer's Guide](#)』を参照してください。

次の考慮事項は、パッケージの API アクセスにも適用されます。

- ワークフロールールと Apex トリガは、パッケージの API アクセスに関係なく起動されます。
- 1つのコンポーネントが、ある組織内の複数のパッケージに含まれる場合、API アクセスは、そのアクセス設定に関係なく、その組織のすべてのパッケージ内にあるそのコンポーネントについて制限されません。
- パッケージに対して制限のあるアクセスを選択した後で、Salesforce.com が新しい標準オブジェクトを導入すると、デフォルトでは、新しい標準オブジェクトへのアクセスは許可されません。新しい標準オブジェクトを含めるよう、制限のあるアクセス設定を変更する必要があります。
- パッケージをアップグレードするときは、たとえ開発者が指定したものであっても、API アクセスの変更は無視されます。このようにして、アップグレードをインストールするシステム管理者に完全な制御権があることを保証します。インストールするユーザはインストール中の各アップグレードで、パッケージのアクセスの変更を慎重に検討し、すべての受け入れ可能な変更に注意する必要があります。これらの変更は無視されるため、システム管理者は、アップグレードをインストールした後で、受け入れ可能な変更を手動で適用する必要があります。
- Sコントロールは、Salesforce.com が提供するもので、Salesforce.com 内にインラインで表示されます。このように緊密に統合されているため、インストール済みのパッケージ内のSコントロールがその権限をユーザのフルアクセス権にまでエスカレートする場合があります。パッケージをインストールする組織のセキュリティを保護するため、Sコントロールには、次のような制限があります。
  - 開発中の(つまり、AppExchange からインストールしたものではない)パッケージについては、Sコントロールは API アクセスがデフォルトの [無制限] になっているパッケージにのみ追加できます。パッケージに Sコントロールがあると、制限された API アクセスを有効にすることはできません。
  - インストールしたパッケージについては、パッケージに Sコントロールが含まれる場合でも、アクセス制限を有効にできます。しかし、アクセス制限は、Sコントロールについては限定的な保護しか行いません。

Salesforce.com は、Sコントロールセキュリティのアクセス制限を使用する前に、Sコントロール内のJavaScriptを理解することをお勧めします。

- インストール済みパッケージのAPIアクセスが制限されていると、アップグレードは、アップグレードされたバージョンにSコントロールが含まれていない場合にのみ成功します。アップグレードされたバージョンにSコントロールがあると、現在インストール済みのパッケージのAPIアクセスを無制限に変更する必要があります。

パッケージへのAPIアクセスを管理するには、Salesforce.com オンラインヘルプの「パッケージの API とダイナミック Apex アクセスの管理」を参照してください。

 メモ: 制限されたパッケージからの XML-RPC 要求はアクセスが拒否されます。

## 送信ポートの制限

---

セキュリティ上の理由から、Salesforce.com では、指定できる送信ポートを、次の 1 つに制限します。

- 80: このポートは、HTTP 接続のみを受け付けます。
- 443: このポートは、HTTPS 接続のみを受け付けます。
- 7000-10000 (7000 と 10000 も含む): これらのポートは、HTTP 接続または HTTPS 接続を受け付けます。

ポートの制限は、送信メッセージ、AJAX プロキシ、またはシングルサインオンなど、ポートが指定されている機能に適用されます。

# 第 6 章

## Partner WSDL の使用

### トピック:

- Partner WSDL ファイルの取得
- コールと Partner WSDL
- オブジェクト、項目、項目データおよび Partner WSDL
- クエリと Partner WSDL
- Partner WSDL の名前空間
- パッケージバージョンと Partner WSDL
- ユーザインターフェースのテーマ
- 例

API では、次の 2 つの WSDL を使用できます。

- **Enterprise Web サービス WSDL**—単独の Salesforce.com 組織のクライアントアプリケーションを構築する Enterprise 開発者によって使用されます。これは非常に強い型付けであるため、コールは `int` や `string` など特定のデータ型のオブジェクトや項目を含みます。Enterprise WSDL ドキュメントを使用する顧客は、組織でカスタムオブジェクトまたはカスタム項目に変更を加えるたび、あるいは異なるバージョンの API を使用するたびに、Enterprise WSDL ドキュメントをダウンロードし、改めて使用する必要があります。組織の現在の WSDL にアクセスするには、Salesforce.com 組織にログインし、[設定] ▶ [開発] ▶ [API] ▶ [Enterprise WSDL の生成] をクリックします。
- **Partner Web サービス WSDL**—メタデータ手動で本来動的なクライアントアプリケーションに使用されます。特に、(ただし排他的ではなく)、複数の組織にクライアントアプリケーションを構築する salesforce.com パートナーにとって役立ちます。特定のデータ型ではなく、項目名と値の名前-値のペアを使用する Salesforce.com データモデルはあまり強く型付けされていないため、いかなる組織内のデータにアクセスするためにも使用することができます。この WSDL は、クライアントがオブジェクトに対して活動する前にオブジェクトについての情報を取得するためにクエリコールを発行できるクライアントの開発者に最も適しています。Partner WSDL ドキュメントは、API のバージョンごとにダウンロードして 1 回使用する必要があります。組織の現在の WSDL にアクセスするには、Salesforce.com 組織にログインし、[設定] ▶ [開発] ▶ [API] ▶ [Partner WSDL の生成] をクリックします。

通常、Enterprise WSDL がより使用しやすいですが、Partner WSDL は柔軟性があり、さまざまな組織に動的に適応可能です。Partner WSDL を使用すると、複数のユーザおよび複数の組織に使用できる单一のアプリケーションを更新できます。

## Partner WSDL ファイルの取得

Partner WSDL を使用するには、次のいずれかの方法でファイルのコピーをダウンロードします。

- 組織の Salesforce.com 管理者から取得する。
- 「手順 2: Web Service WSDL の生成または取得」の指示に従い、Salesforce.com ユーザインターフェースの [設定] ▶ [開発] ▶ [Force.com API] 領域で生成する。

Enterprise WSDL は、カスタム項目またはカスタムオブジェクトが組織の Salesforce.com 情報に追加されたときは再生成が必要ですが、Partner WSDL は元となる組織の Salesforce.com データが変更されても変更の必要はありません。

## コールと Partner WSDL

Partner WSDL ファイルは、Enterprise WSDL ファイルと全く同一の API コールを定義します。Partner WSDL を使用しているクライアントアプリケーションでは、組織のメタデータの定義に次の API コールを使用します。

タスク コール	説明
<code>describeGlobal()</code>	組織のデータで利用可能なオブジェクトの一覧を取得します。
<code>describeLayout()</code>	指定されたオブジェクト種別のページレイアウトに関するメタデータを取得します。
<code>describeSObject()</code>	<code>describeSObject()</code> は <code>describeSObjects()</code> で置き換えされました。
<code>describeSObjects()</code>	指定されたオブジェクトのメタデータの取得に使用します。まず、組織のすべてのオブジェクトのリスト取得のためにコールし、その後リスト内を繰り返し参照し個別のオブジェクトのメタデータを取得します。
<code>describeTabs()</code>	ユーザインターフェースでは、ページ上部の Force.com アプリケーションメニューに示されているとおり、ユーザは標準的なアプリケーションへのアクセス権限があります(カスタムアプリケーションへのアクセス権限があることもあります)。ユーザインターフェースで標準アプリケーションまたはカスタムアプリケーションを選択し、表示されるアプリケーションをいつでも切り替えることができます。

組織のメタデータを参照するために、クライアントアプリケーションは次の処理を実行します。

- `describeGlobal()` をコールし、利用可能なオブジェクトの一覧を取得。
- 返された `DescribeGlobalResult` で、`sObject` の配列 (種別項目) を取得。
- 配列の各 `sObject` を繰り返し参照し、`describeSObject()` をコールして返された `describeSObjectResult` の `sObject` の項目やその他のプロパティのリストを取得。

## オブジェクト、項目、項目データおよび Partner WSDL

Enterprise WSDL ファイルはすべての特定オブジェクト ([取引先](#)、[取引先責任者](#)、および[標準オブジェクト](#)で説明されたその他のオブジェクト) を Salesforce.com 組織で定義しますが、Partner WSDL ファイルは、すべてのオブジェクトを表す单一の、汎用オブジェクト ([sObject](#)) を定義します。特定のオブジェクトの場合、その種類は返される [DescribeSObjectResult](#) の `name` 項目で定義されます。

Partner WSDL を使用すると、クライアントアプリケーションコードは、項目データを表す名前-値のペアの配列として、項目を処理します。各項目の名前を参照する場合、[DescribeSObjectResult](#) の項目タイプの `name` 項目の値を使用します。

言語は、名前-値のペアを処理し、SOAP メッセージで定義されたプリミティブ XML データ型に定型化された値を対応付ける方法によって異なります。Enterprise WSDL を使用すると、対応付けは暗黙的に処理されます。ただし、Partner WSDL を使用すると、クライアントアプリケーション構築時に値をデータ型を管理する必要があります。特定の項目の値を指定する場合、項目に有効な値を必ず指定してください(範囲、形式、データ型)。XML プリミティブデータ型 ([DescribeSObjectResult](#) の項目タイプの `SOAPType` 項目のいずれかの値) によるデータ型とプログラム言語との対応付けを理解してください。

## クエリと Partner WSDL

Partner WSDL で [query\(\)](#) コールを使用する場合、次のガイドラインに従ってください。

- `queryString` パラメータは、大文字小文字を区別しません。API は、大文字と小文字の組み合わせを使用した `fieldList` の項目名を受け入れます。ただし、[QueryResult](#) では、項目名(定義済みおよびカスタム項目)の大文字小文字は、[DescribeSObjectResult](#) の項目タイプの `name` 項目の値と完全に一致する必要があります。`fieldList` で項目を指定する場合、大文字小文字を適切に使用することをお勧めします。
- Partner WSDL の場合、[QueryResult](#) の項目の順序は、WSDL の項目順ではなく、`fieldList` の項目順で指定されます。
- `fieldList` には、重複する項目名を指定できません。例:
  - 無効(エラー発生): "SELECT Firstname, Lastname, Firstname FROM User"
  - 有効: "SELECT Firstname, Lastname FROM User"
- [QueryResult](#) では、項目の一部にデータがない(`null`)場合でも、`fieldList` で指定されたすべての項目が指定されます。SOAP を使用すると結果セットに値が指定されていない項目を省略できますが、API は、すべての項目を含む配列を返します。

## Partner WSDL の名前空間

XM では、すべてのタグが定義された名前空間です。enterprise.wsdl では、名前空間は暗黙的に処理されます。API コールを Partner WSDL で使用する場合、API コール、オブジェクト、項目、エラーに適切な名前空間を明示的に指定する必要があります。このルールは、定義済みカスタムオブジェクト、項目に適用されます。

対象	名前空間
API コード	urn:partner.soap.sforce.com
ル	
sObject	urn:sobject.partner.soap.sforce.com
項目	urn:sobject.partner.soap.sforce.com
エラー	urn:fault.partner.soap.sforce.com

## パッケージバージョンと **Partner WSDL**

Partner WSDL は、強い型付けではありません。これにより、複数の組織と連携を行いたいパートナーに、より柔軟な方法を提供します。パッケージバージョンが API コールで指定されていない場合、API コールのデフォルトのパッケージバージョンによって代替システム設定が指定されます。

Partner API コールのパッケージ処理は、デフォルト値(指定なし)がインストール済みパッケージに選択されている場合、最新バージョンのインストールパッケージによって定義されます。つまり、パッケージがアップグレードし、その変更がすぐに統合に影響を与える場合、Apex トリガなどパッケージコンポーネントの処理が異なる場合があります。パッケージバージョンの後続のインストールによって、既存の統合に影響のないよう、登録ユーザは、クライアントアプリケーションから、すべての Partner API コールのインストールパッケージの特定バージョンを選択する必要があります。

組織に 2 つの異なるロールがあり、開発者が設定の変更を推奨している場合、API クライアント開発者はデフォルトのパートナーパッケージバージョン設定の管理者と対話する必要があります。また、API クライアント開発者は、クライアントの [PackageVersionHeader](#) SOAP ヘッダーでパッケージバージョンを設定できます。

別のパッケージを参照するパッケージの開発を行うパートナーは、必ず Partner API コールの基本パッケージのバージョン情報を提供する必要があります。これにより、拡張パッケージは、基本パッケージで非推奨となっているコンポーネントの影響を受けません。

Partner API コールのパッケージバージョン情報は、次のうち、最初に一致する設定によって決定します。

1. PackageVersionHeader SOAP ヘッダー。
2. Visualforce ページからの API コールは、Visualforce ページのパッケージバージョン設定を使用します。
3. パートナーパッケージバージョンのデフォルト設定です。

API コールのデフォルトパッケージバージョンを設定するには、「[パッケージバージョン設定](#) (ページ 66)」を参照してください。

## ユーザインターフェースのテーマ

Winter '06 リリース以降、オンラインアプリケーションは、複数のユーザインターフェースのテーマをサポートしています。現在、「Salesforce.com」と「Salesforce.com Classic」の 2 つのユーザインターフェーステーマがあります・`getUserInfo()` コールが返す `getUserInfoResult` オブジェクトには `userUiSkin` プロパティがあります。このプロパティは、ユーザの現在のユーザインターフェースのテーマについて情報を提供します。

パートナーがオンラインユーザインターフェースの外観を模倣できるよう、スタイルシートを使用できます。詳細は、「[アプリケーションでの Salesforce.com の使用](#)」を参照してください。

## 例

---

ここでは、次のサンプルコードを Java および C# で記載しています。

- [query コール例](#)
- [search コール例](#)
- [create コール例](#)
- [update コール例](#)

 メモ: Java の例には、`get_any()` などの Axis メソッドが使用されています。クラスパスに Axis ライブラリを使用するか、コンパイル前に Axis メソッドを置き換える必要があります。

### query コール例

次の Java および C# の例では、Partner WSDL の [query\(\)](#) コールの使用例を示します。

#### Java の例

```
private void querySample() { QueryResult qr = null; _QueryOptions qo = new _QueryOptions();  
    qo.setBatchSize(250); binding.setHeader(new  
    SforceServiceLocator().getServiceName(), "QueryOptions", qo); try { qr =  
        binding.query("select Id, Website, Name from Account " + "where Name = 'Golden Straw'");  
        if (qr.getsize() != 0) { SObject account = qr.getRecords()[0]; System.out.println("Retrieved  
        " + qr.getsize() + " account(s) using Name = 'Golden Straw', ID = " + account.getId() +  
        ", website = " + account.get_any()[1].getValue()); } qr = binding.query("select FirstName,  
        LastName, Id from Contact"); boolean bContinue = true; int loopCount = 0; while (bContinue)  
        { System.out.println("Results set " + loopCount++ + " - "); // process the query results  
        for (int i = 0; i < qr.getRecords().length; i++) { SObject con = qr.getRecords()[i];  
        org.apache.axis.message.MessageElement[] fields = con.get_any(); String fName =  
        fields[0].getValue(); String lName = fields[1].getValue(); if (fName == null) {  
        System.out.println("Contact " + (i + 1) + ":" + lName); } else { System.out.println("Contact  
        " + (i + 1) + ":" + fName + " " + lName); } } } // handle the loop + 1 problem by checking  
        the most recent queryResult if (qr.isDone()) { bContinue = false; } else { qr =  
        binding.queryMore(qr.getQueryLocator()); } } } catch (Exception ex) { System.out.println("An  
        unexpected error has occurred." + ex.getMessage()); return; } System.out.println("\nQuery  
        sample done."); }
```

#### C# の例

```
private void querySample() { QueryResult qr = null; binding.QueryOptionsValue = new  
    sforce.QueryOptions(); binding.QueryOptionsValue.batchSize = 250;  
    binding.QueryOptionsValue.batchSizeSpecified = true;  
  
    qr = binding.query("select FirstName, LastName from Contact");  
  
    bool bContinue = true; int loopCounter = 0; while (bContinue) { Console.WriteLine("\nResults  
    Set " + Convert.ToString(loopCounter++) + " - "); //process the query results for (int  
    i=0;i<qr.records.Length;i++) { sforce.sObject con = qr.records[i]; string fName =  
    con.Any[0].InnerText; string lName = con.Any[1].InnerText; if (fName == null)  
    Console.WriteLine("Contact " + (i + 1) + ":" + lName); else Console.WriteLine("Contact " +  
    (i + 1) + ":" + fName + " " + lName); } } //handle the loop + 1 problem by checking the
```

```
most recent queryResult if (qr.done) bContinue = false; else qr =
binding.queryMore(qr.queryLocator); } Console.WriteLine("\nQuery successfully executed.");
Console.Write("\nHit return to continue..."); Console.ReadLine(); } }
```

## search コール例

次の Java および C# の例では、パートナー WSDL の `search()` コールの例を示します。

### Java の例

```
private void searchSample() { SearchResult sr = null; QueryResult qr = null; try { sr =
binding.search("find {4159017000} in phone fields returning " + " contact(id, phone,
firstname, lastname), " + " lead(id, phone, firstname, lastname), " + " account(id, phone,
name)"); } catch (Exception ex) { System.out.println("An unexpected error has occurred."+
ex.getMessage()); return; } SearchRecord[] records = sr.getSearchRecords(); ArrayList
contacts = new ArrayList(); ArrayList leads = new ArrayList(); ArrayList accounts = new
ArrayList(); if (records != null & records.length > 0) { for (int i=0;i<records.length;i++) {
SObject record = records[i].getRecord(); if
(record.getType().toLowerCase().equals("contact")) { contacts.add(record); } else if
(record.getType().toLowerCase().equals("lead")){ leads.add(record); } else if
(record.getType().toLowerCase().equals("account")) { accounts.add(record); } } if
(contacts.size() > 0) { System.out.println("Found " + contacts.size() + " contacts:");
for (int i=0;i<contacts.size();i++){ SObject c = (SObject)contacts.get(i);
System.out.println(c.getId() + " - " + c.getAny()[1].getValue() + " " +
c.getAny()[2].getValue() + " - " + c.getAny()[0].getValue()); } } if (leads.size() > 0)
{ System.out.println("Found " + leads.size() + " leads:");
for (int i=0;i<leads.size();i++) {
SObject l = (SObject) leads.get(i); System.out.println(l.getId() + " - " +
l.getAny()[1].getValue() + " " + l.getAny()[2].getValue() + " - " +
l.getAny()[0].getValue()); } } if (accounts.size() > 0) { System.out.println("Found " +
accounts.size() + " accounts:");
for (int i=0;i<accounts.size();i++) { SObject a = (SObject)
accounts.get(i); System.out.println(a.getId() + " - " + a.getAny()[1].getValue() + " " +
a.getAny()[2].getValue() + " - " + a.getAny()[0].getValue()); } } } else {
System.out.println("No records were found for the search."); } System.out.println("\nSearch
sample done."); }
```

### C# の例

```
private void searchSample() { sforce.SearchResult sr = null; sr = binding.search("find
{4159017000} in phone fields returning " + "contact(id, phone, firstname, lastname), " +
"lead(id, phone, firstname, lastname), " + "account(id, phone, name)");

sforce.sObject[] records = sr.records; System.Collections.ArrayList contacts = new
System.Collections.ArrayList(); System.Collections.ArrayList leads = new
System.Collections.ArrayList(); System.Collections.ArrayList accounts = new
System.Collections.ArrayList();

if (sr.size > 0) { for (int i=0;i<records.Length;i++) { sforce.sObject record = records[i];
if (record.type.ToLower().Equals("contact")) { contacts.Add(record); } else if
(record.type.ToLower().Equals("lead")) { leads.Add(record); } else if
(record.type.ToLower().Equals("account")) { accounts.Add(record); } } if (contacts.Count
> 0) { Console.WriteLine("Found " + contacts.Count + " contacts:");
for (int i=0;i<contacts.Count;i++) { sforce.sObject c = (sforce.sObject)contacts[i];
Console.WriteLine(c.Any[2].InnerText + " " + c.Any[3].InnerText + " - " + c.Any[1].InnerText);
} } if (leads.Count > 0) { Console.WriteLine("Found " + leads.Count + " leads:");
for (int i=0;i<leads.Count;i++) { sforce.sObject l = (sforce.sObject)leads[i];
Console.WriteLine(l.Any[2].InnerText + " " + l.Any[3].InnerText + " - " + l.Any[1].InnerText);
} } if (accounts.Count > 0) { Console.WriteLine("Found " + accounts.Count + " accounts:");
for (int i=0;i<accounts.Count;i++) { sforce.sObject a = (sforce.sObject)accounts[i];
```

```
Console.WriteLine(a.Any[2].InnerText + " - " + a.Any[1].InnerText); } } } else {
Console.WriteLine("No records were found for the search."); } }
```

## create コール例

次の Java および C# の例では、パートナー WSDL の `create()` コールの例を示します。

### Java の例

```
private void createContactSample() { SObject[] cons = new SObject[1]; MessageElement[]
contact = new MessageElement[5]; contact[0] = new MessageElement(new
QName("FirstName"), "Joe"); contact[1] = new MessageElement(new QName("LastName"), "Blow");
contact[2] = new MessageElement(new QName("Salutation"), "Mr."); contact[3] = new
MessageElement(new QName("Phone"), "999.999.9999"); contact[4] = new MessageElement(new
QName("Title"), "Purchasing Director"); cons[0] = new SObject(); cons[0].setType("Contact");
cons[0].set_any(contact); SaveResult[] sr = null; try { sr = binding.create(cons); } catch
(Exception ex) { System.out.println("An unexpected error has occurred." + ex.getMessage());
return; } for (int j = 0; j < sr.length; j++) { if (sr[j].isSuccess()) {
System.out.println("A contact was created with an id of: " + sr[j].getId()); } else { // there
were errors during the create call, go through the errors // array and write them to
the screen for (int i = 0; i < sr[j].getErrors().length; i++) { // get the next error Error
err = sr[j].getErrors()[i]; System.out.println("Errors were found on item " + j);
System.out.println("Error code: " + err.getStatusCode().toString()); System.out.println("Error
message: " + err.getMessage()); } } }
```

### C# の例

```
private void createAccountSample() { sforce.sObject account; sObject[] accs = new sObject[1];
account = new sforce.sObject(); System.Xml.XmlElement[] acct = new System.Xml.XmlElement[6];
System.Xml.XmlDocument doc = new System.Xml.XmlDocument();

acct[0] = doc.CreateElement("Industry"); acct[0].InnerText = "Farming"; acct[1] =
doc.CreateElement("Name"); acct[1].InnerText = "Golden Straw"; acct[2] =
doc.CreateElement("NumberOfEmployees"); acct[2].InnerText = "40"; acct[3] =
doc.CreateElement("Ownership"); acct[3].InnerText = "Privately Held"; acct[4] =
doc.CreateElement("Phone"); acct[4].InnerText = "666.666.6666"; acct[5] =
doc.CreateElement("Website"); acct[5].InnerText = "www.oz.com"; account.type = "Account";
account.Any = acct; accs[0] = account;

//create the object(s) by sending the array to the API SaveResult[] sr = binding.create(accs);
for (int j=0;j<sr.Length;j++) { if (sr[j].success) { Console.WriteLine(System.Environment.NewLine
+ "An account was created with an id of: " + sr[j].id); } else { //there were errors during
the create call, go through the errors //array and write them to the screen for (int
i=0;i<sr[j].errors.Length;i++) { //get the next error Error err = sr[j].errors[i];
Console.WriteLine("Errors were found on item " + j.ToString()); Console.WriteLine("Error
code is: " + err.statusCode.ToString()); Console.WriteLine("Error message: " + err.message);
} } }
```

## update コール例

次の Java および C# の例では、パートナー WSDL の `update()` コールの例を示します。

### Java の例

```
private void updateAccountSample() { // create the account object to hold our changes SObject
updateAccount = new SObject(); updateAccount.setType("Account"); // need to have the id
```

```
so that API knows which account to update updateAccount.setId(new ID("001x0000002kuk1AAA"));
// set a new value for the name property MessageElement[] ufields = new MessageElement[1];
ufields[0] = new MessageElement(new QName("Name"), "New Account from Update Sample");
updateAccount.set_any(ufields); // create one that will throw an error SObject errorAccount
= new SObject(); errorAccount.setType("Account"); errorAccount.setId(new ID("SLFKJLJKJ"));
// set the value of Name to null errorAccount.setFieldsToNull(new String[] {"Name"}); //
call the update passing an array of object try { SaveResult[] saveResults = binding.update(new
SObject[] {updateAccount, errorAccount}); //loop through the results, checking for errors
for (int j = 0; j < saveResults.length; j++) { System.out.println("Item: " + j); if
(saveResults[j].isSuccess()) { System.out.println("An account with an id of: " +
saveResults[j].getId() + " was updated.\n"); } else { System.out.println("Item " + j + " "
had an error updating."); System.out.println(" The error reported was: " +
saveResults[j].getErrors()[0].getMessage() + "\n"); } } } catch (Exception ex) {
System.out.println("An unexpected error has occurred." + ex.getMessage()); return; } }
```

setFieldsToNull (または Axis 以外のクライアントツールでの同様の機能) の詳細は、[「fieldsToNull」](#) および[「値を null 値にリセットする」](#) を参照してください。

## C# の例

```
private void updateAccountSample() { //create the account object to hold our changes
sforce.sObject updateAccount = new sforce.sObject(); //need to have the id so that API knows
which account to update

//set a new value for the name property updateAccount.Id = "00130000001dmJT";
System.Xml.XmlDocument doc = new System.Xml.XmlDocument(); System.Xml.XmlElement nameElement
= doc.Xml.XmlElement("Name"); nameElement.InnerText = "New Account Name from Update Sample";

updateAccount.Any = new System.Xml.XmlElement[] { nameElement }; updateAccount.type =
"Account";

//call the update passing an array of object SaveResult[] saveResults = binding.update(new
sforce.sObject[] { updateAccount });

//loop through the results, checking for errors for (int j=0;j<saveResults.Length;j++) {
Console.WriteLine("Item: " + j); if (saveResults[j].success) Console.WriteLine("An account
with an id of: " + saveResults[j].id + " was updated.\n"); else { Console.WriteLine("Item
" + j + " had an error updating."); Console.WriteLine(" The error reported was: " +
saveResults[j].errors[0].message + "\n"); } } }
```

# 参照

## 第 7 章

### データモデル

---

この項の標準 Salesforce.com オブジェクトのエンティティ関係図(ERD)は、オブジェクト間の重要な関係を示します。利用可能な ERD は次のとおりです。

- **営業オブジェクト**—取引先、取引先責任者、商談、リード、キャンペーンおよびその他の関連オブジェクトが含まれます。
- **タスクオブジェクトとイベントオブジェクト**—タスク、イベントおよびその関連オブジェクトが含まれます。
- **サポートオブジェクト**—ケース、ソリューションおよびその関連オブジェクトが含まれます。
- **ドキュメント、メモ、添付ファイルオブジェクト**—ドキュメント、メモ、添付ファイルおよびその関連オブジェクトが含まれます。
- **ユーザオブジェクトとプロファイルオブジェクト**—ユーザ、プロファイルおよびロールが含まれます。
- **レコードタイプオブジェクト**—レコードタイプ、ビジネスプロセスおよびその関連オブジェクトが含まれます。
- **商品オブジェクトとスケジュールオブジェクト**—商談、商品、スケジュールが含まれます。
- **共有オブジェクトとチームセーリングオブジェクト**—取引先チーム、営業チーム、共有オブジェクトが含まれます。
- **カスタマイザブル売上予測オブジェクト**—売上予測およびその関連オブジェクトが含まれます。
- **テリトリー管理**—テリトリーとその関連オブジェクトが含まれます。
- **承認プロセスオブジェクト**—承認プロセスとその関連オブジェクトが含まれます。
- **コンテンツオブジェクト**—コンテンツ、ワークスペース、およびその関連オブジェクトが含まれます。

各エンティティ関係図には、図に関連するオブジェクトの項目を説明するトピックへのリンクがあります。カスタムオブジェクトのデータモデルは、何を作成するかによって異なります。

---

### 営業オブジェクト



## タスクオブジェクトとイベントオブジェクト

---



## サポートオブジェクト

---



## ドキュメント、ノート、添付ファイルオブジェクト

---



## ユーザおよびプロファイルオブジェクト

---



## レコードタイプオブジェクト

---



## 商品およびスケジュールオブジェクト

---



各通貨及び価格の組み合わせに、個別の PricebookEntry を作成します。

## 共有およびチーム営業オブジェクト

---



## カスタマイザブル売上予測オブジェクト

---



## テリトリー管理

---



## プロセスオブジェクト

---



## コンテンツオブジェクト

---



## 第 8 章

### 標準オブジェクト

ここでは、標準オブジェクトと標準項目の一覧を記載しています。各リストには、[システム項目](#)は記載されず、使用できる機能によっては、特定の組織の項目がすべて表示されているわけではありません。

オブジェクトの項目の詳細を確認するには、組織の WSDL ファイルを参照してください。

API を使用すると、次の標準オブジェクトにアクセスできます。

オブジェクト	説明
<a href="#">取引先</a>	個別の取引先を表し、顧客、競合会社、およびパートナーなどのビジネスに関する組織や個人です。
<a href="#">AccountContactRole</a>	指定された <a href="#">取引先責任者</a> が <a href="#">取引先</a> に果たす роль。
<a href="#">AccountHistory</a>	取引先の項目内の値に対する変更履歴を表します。このオブジェクトはバージョン 11.0 以降で使用できます。
<a href="#">AccountOwnerSharingRule</a>	所有者以外のユーザに取引先へのアクセス権限を付与するルール。
<a href="#">AccountPartner</a>	パートナーシップまたは子会社など、2つの <a href="#">取引先</a> 間のリレーション。
<a href="#">AccountShare</a>	<a href="#">取引先</a> の共有エントリ。
<a href="#">AccountTag</a>	単語または短い語句を取引先に関連付けます。
<a href="#">AccountTeamMember</a>	<a href="#">取引先</a> チームのメンバーである <a href="#">ユーザ</a> 。
<a href="#">AccountTerritoryAssignmentRule</a>	取引先をテリトリーに割り当てるルール。
<a href="#">AccountTerritoryAssignmentRuleItem</a>	<a href="#">AccountTerritoryAssignmentRule</a> の項目固有の基準の行。
<a href="#">AccountTerritorySharingRule</a>	テリトリー内の取引先を共有するためのルール。
<a href="#">ActivityHistory</a>	オブジェクトに関連するタスクおよびイベントの情報。
<a href="#">AdditionalNumber</a>	<a href="#">CallCenter</a> の追加電話番号。

オブジェクト	説明
ApexClass	Apex クラスを表します。詳細については、『 <i>Apex Developer's Guide</i> 』を参照してください。
ApexComponent	<apex:relatedList> や <apex:dataTable> など、標準コンポーネントとともに Visualforce ページで使用できる Visualforce カスタムコンポーネント。
ApexPage	Visualforce マークアップ、HTML、Javascript、その他の Web 対応コードを含む、Visualforce ページ。
ApexTrigger	Apex トリガを表します。
Approval	取引先責任者の承認要求。
Asset	たとえば、以前販売され、導入された商品など、取引先または取引先責任者が所有する納入商品。
AssetTag	単語または短い語句を納入商品に関連付けます。
AssignmentRule	ケースまたはリードに関連する割当てルール。
Attachment	ユーザが親オブジェクトにアップロードおよび添付したファイル。
Bookmark	商談間のリンク。
BrandTemplate	電子メールテンプレートのレターヘッド。
BusinessHours	サポート組織の営業時間を指定します。エスカレーションルールは、営業時間中のみ適用されます。
BusinessProcess	ビジネスプロセス。
CallCenter	組織のコンピュータテレフォニー統合 (CTI) システムインスタンス。
Campaign	ダイレクトメールによる販売促進、Web セミナー、展示会など、マーケティングキャンペーン。
CampaignMember	キャンペーンと、リードまたは取引先責任者との間の関連を表します。
CampaignMemberStatus	キャンペーンに関連付けられたステータス値。
CampaignOwnerSharingRule	所有者以外のユーザとキャンペーンを共有するルール。

オブジェクト	説明
CampaignShare	アクセスレベルの説明とともにキャンペーンへのアクセスレベルのリストを表します。たとえば、レコードを所有しているためレコードへのアクセス権限を所有する場合、アクセスレベルは Full で、アクセスの理由の値は Owner となります。
CampaignTag	単語または短い語句をキャンペーンに関連付けます。
Case	顧客からのフィードバック、問題、質問など、顧客の問題。
CaseComment	関連付けられたケースに関する追加情報を提供するコメント。
CaseContactRole	指定された取引先責任者がケースに持つ рольを表します。
CaseHistory	関連するケースに行われた変更に関する履歴情報。
CaseOwnerSharingRule	所有者以外のユーザにケースへのアクセス権限を付与するルール。
CaseShare	ケースの共有エントリ。
CaseSolution	特定のケースと特定のソリューションとの間の関連を表します。
CaseStatus	新規、保留、処理中など、ケースの状況。
CaseTag	単語または短い語句をケースに関連付けます。
CaseTeamMember	その他のユーザのチームと連携してケースを解決するケースのチームメンバーを表します。
CaseTeamRole	ケースチームのロールを表します。すべてのケースチームのメンバーには、「顧客の取引先責任者」または「ケース管理者」など、ケースに対するロールが割り当てられています。
CaseTeamTemplate	ケースを解決するユーザのグループである、事前定義されたケースチームを表します。
CaseTeamTemplateMember	ケースを解決するユーザのグループである、事前定義されたケースチームのメンバーを表します。
CaseTeamTemplateRecord	CaseTeamTemplateRecord オブジェクトは、ケースオブジェクトと CaseTeamTemplate オブジェクトの間でリンクするオブジェクトです。定義済みケースチームをケースに割り当てるに

オブジェクト	説明
	は(顧客の問い合わせ)、CaseTeamTemplateRecord オブジェクトを作成して、ParentId をケースに、TeamTemplateId を定義済みケースチームに示します。
CategoryData	ソリューションレコードの論理グループ。
CategoryNode	ソリューションカテゴリのツリー。
CategoryNodeLocalization	カテゴリのラベルの翻訳された値。
Community	Salesforce CRM Ideas 内のコミュニティを表します。
Contact	取引先に関連付けられた個人である、取引先責任者。
ContactHistory	取引先責任者の項目内の値に対する変更履歴を表します。このオブジェクトはバージョン 11.0 以降で使用できます。
ContactOwnerSharingRule	所有者以外のユーザと取引先責任者を共有するルールを表します。
ContactShare	アクセスレベルの説明とともに取引先責任者へのアクセスレベルのリストを表します。たとえば、レコードを所有しているためレコードへのアクセス権限を所有する場合、アクセスレベルは Full で、アクセスの理由の値は Owner となります。
ContactTag	単語または短い語句を取引先責任者に関連付けています。
ContentDocument	Salesforce CRM Content のワークスペースにアップロードされたドキュメントを表します。
ContentDocumentHistory	Salesforce CRM Content のドキュメントの履歴を表します。
ContentVersion	Salesforce CRM Content の特定のバージョンのドキュメントを表します。
ContentVersionHistory	Salesforce CRM Content のドキュメントの履歴を表します。
ContentWorkspace	Salesforce CRM Content の公開ワークスペースを表します。
ContentWorkspaceDoc	Salesforce CRM Content のドキュメントとワークスペースとのリンクを表します。
Contract	取引先に関連付けられた契約(業務の同意)。

オブジェクト	説明
ContractContactRole	指定された取引先責任者が契約に持つロールを表します。
ContractHistory	契約に対する変更の情報。
ContractStatus	下書き、承認中、有効、終了、期限切れなど、契約の状況。
ContractTag	単語または短い語句を契約に関連付けます。
CurrencyType	マルチ通貨機能を使用できる組織で使用される通貨。
DatedConversionRate	高度な通貨管理を使用できる組織で使用される有効な機関指定為替レート。
Division	組織のデータの論理セグメント。
DivisionLocalization	ディビジョンのラベルの翻訳された値。
Document	ユーザがアップロードしたファイル。添付ファイルオブジェクトと異なり、ドキュメントは親オブジェクトに添付されません。
DocumentAttachmentMap	EmailTemplate とドキュメントとして保存される添付ファイルの間のリレーションを対応付けます。
DocumentTag	単語または短い語句をドキュメントに関連付けます。
EmailMessage	電子メール-to-ケースに関連する電子メールメッセージ。
EmailServicesAddress	電子メールサービスのアドレス。
EmailServicesFunction	電子メールサービス。
EmailStatus	Salesforce.com を介して送信された電子メールの状況。
EmailTemplate	Salesforce.com を介して電子メールを送信するためのテンプレート。
EntityHistory	リリース 8.0 時点では削除。使用するオブジェクトに対応する過去のオブジェクトを使用してください。
Event	カレンダーの予定の行動。
FiscalYearSettings	会計年度の設定。
Folder	ドキュメント、MailMergeTemplate、電子メールテンプレート、またはレポートのリポジトリを表します。1種類のアイテムだけを、特定のフォルダに保存できます。

オブジェクト	説明
ForecastShare	指定されたロールおよびテリトリーの売上予測の共有エントリを表します。
Group	ユーザレコードのセット。
GroupMember	公開グループのメンバーであるユーザまたはグループ。
Holiday	カスタマーサポートチームが使用できない期間を表します。営業時間と営業時間に関連付けられたエスカレーションルールは、それらに関連付けられた休日期間中は中断されます。
Idea	たとえば、既存の商品またはプロセスに対する拡張の提案など、ユーザがコメントまたは票決できるアイデアを示します。
IdeaComment	ユーザがアイデアに応答して送信するコメントを表します。
Lead	見込みの、または潜在的な商談であるリード。
LeadHistory	リードの項目内の値に対する変更履歴を表します。
LeadOwnerSharingRule	所有者をリードに割り当てるルール。
LeadShare	リードの共有エントリ。
LeadStatus	進行中、選択済み、変換済みなど、リードの状況。
LeadTag	単語または短い語句をリードに関連付けます。
LineitemOverride	商談の商品のカスタマイズブル売上予測データ。
MailMergeTemplate	組織でメールマージを実行するために使用する、メールマージテンプレート (Microsoft Word ドキュメント)。
Name	外部キーに複数の親がある場合、外部キーのトラバーサルについての情報を提供する、問い合わせ不可能なオブジェクト。
Note	取引先、取引先責任者、契約、商談、またはカスタムオブジェクトに関連付けられたテキストである、メモ。
NoteTag	単語または短い語句をノートに関連付けます。
NoteAndAttachment	オブジェクトのメモや添付ファイルの情報。
OpenActivity	オブジェクトの進行中のタスクおよびイベントの情報。

オブジェクト	説明
Opportunity	販売または保留中の取引である、商談。
OpportunityCompetitor	商談の競合会社。
OpportunityContactRole	取引先責任者が商談に果たす役割。
OpportunityFieldHistory	商談の項目地に対する変更の履歴。このオブジェクトはバージョン 13.0 以降で使用できます。
OpportunityHistory	商談のフェーズ履歴。
OpportunityLineItem	該当する商談のこれらの承認に関する情報のほか、商談に関連付けられた Product2 のリストのメンバーである、商談商品。
OpportunityLineItemSchedule	特定の OpportunityLineItem の数量、収益の分布、納品日に関する情報。
OpportunityOverride	商談のカスタマイザブル売上予測データ。
OpportunityOwnerSharingRule	所有者以外のユーザに商談へのアクセス権限を付与するルール。
OpportunityPartner	取引先と商談との間パートナー関係。
OpportunityShare	商談の共有エントリ。
OpportunityStage	新しいリード、交渉、保留中、終了など、販売パイプラインでの商談のフェーズ。
OpportunityTag	単語または短い語句を商談に関連付けます。
OpportunityTeamMember	特定の商談営業チームの個人ユーザ。
Organization	ビジネス、会社、その他の組織。
OrgWideEmailAddress	ユーザプロファイルの組織の電子メールアドレスを表します。
Partner	2つの特定の取引先または特定の商談と取引先の間の関連。
PartnerNetworkConnection	Salesforce to Salesforce の接続。
PartnerNetworkRecordConnection	Salesforce to Salesforce を使用して接続を共有するレコード。
PartnerRole	コンサルタントやサプライヤーなど、取引先パートナーのロール。
Period	会計期間。
Pricebook2	組織が販売する Product2s のリストを記載した価格表。

オブジェクト	説明
PricebookEntry	価格表の商品エントリ (Pricebook2 と Product2 の関連)。
ProcessInstance	単一で、エンドツーエンドの承認連鎖。
ProcessInstanceHistory	プロセスインスタンスへの変更履歴。
ProcessInstanceState	承認ワークフロープロセスインスタンスの 1 つの手順。
ProcessInstanceWorkitem	特定のユーザに対する保留中の承認要求。
Product2	組織で販売している商品。商品は、Pricebook2 のアイテムリストのメンバーです。
Profile	情報の問い合わせ、追加、更新または削除など、さまざまな操作を実行する一連のユーザ権限を定義するプロファイル。
QuantityForecast	数量ベースのカスタマイズブル売上予測。
QuantityForecastHistory	数量ベースのカスタマイズブル売上予測についての履歴情報。
Question	ユーザが参照し、回答できる回答コミュニティの質問を表します。
QueueSobject	sObject を特定のキューと関連付けます。
RecordType	レコードタイプ。
RecordTypeLocalization	レコードタイプのラベルの翻訳された値。
Reply	回答コミュニティの質問にユーザが送信した返信を表します。
RevenueForecast	収益ベースのカスタマイズブル売上予測。
RevenueForecastHistory	収益ベースのカスタマイズブル売上予測についての履歴情報。
Scontrol	システムがホストし、クライアントアプリケーションが実行するカスタムコンテンツであるカスタム S コントロール。
ScontrolLocalization	S コントロールの項目ラベルの翻訳された値。
SelfServiceUser	オンラインサポートを得られる、組織のセルフサービスポータルを使用できる取引先責任者。
Solution	顧客の問題とその問題の解決策についての詳細な記述。
SolutionHistory	ソリューションへの変更履歴。

オブジェクト	説明
SolutionStatus	下書き、レビュー済みなど、ソリューションの状況。
SolutionTag	単語または短い語句をソリューションに関連付けます。
StaticResource	Visualforce マークアップで使用できる静的リソース。
TagDefinition	子タグオブジェクトの属性を定義します。
Task	実行するまたは実行された活動またはToDo の項目。
TaskPriority	タスクの場合、高い、普通、低いなど、タスクの優先度(重要度)。
TaskStatus	開始前、完了、終了など、タスクの状況。
TaskTag	単語または短い語句をタスクに関連付けます。
Teritory	ユーザや取引先が割り当てられるテリトリー。
User	組織内のユーザ。
UserAccountTeamMember	別のユーザのデフォルトの取引先チームの单一のユーザ。
UserLicense	組織内のユーザライセンス。
UserPreference	組織内のユーザの機能設定。
UserRole	組織内のロール。
UserTeamMember	別のユーザのデフォルトの営業チームの单一のユーザ。
UserTerritory	テリトリーに割り当てられた单一のユーザ。
Vote	アイデアまたは返信にユーザが行った投票を表します。
WebLink	URL または Scontrol への Web リンク。
WebLinkLocalization	URL または S コントロールへのカスタムリンクの項目ラベルの翻訳された値。



メモ: Product および Pricebook のオブジェクトは今後使用できず、削除されています。それらを指定する要求は拒否され、レスポンスにはそれらについては記述されていません。

## Account

個別の取引先を表し、顧客、競合会社、およびパートナーなどのビジネスに関する組織や個人です。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`、`merge()`、`upsert()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、自身の取引先およびそれらと共有している取引先にアクセスできます。

項目

項目名	項目の種別	項目のプロパティ	説明
AccountNumber	string	Create Filter Nillable Update	この取引先に割り当てられた取引先番号(作成時に Salesforce.com に割り当てられた、一意ではないシステム生成 ID)。最大 40 文字です。
AnnualRevenue	currency	Create Filter Nillable Update	取引先の年間収益の見積もり。
BillingCity	string	Create	この取引先の請求先住所の詳細。都市と国は最大 40 文字、郵便番号と県は最大 20 文字。
BillingCountry		Filter	
BillingPostalCode		Nillable	
BillingState		Update	
BillingStreet	textarea	Filter Nillable Update	この取引先の請求先住所の所在地、番地。
ConnectionReceivedId	reference	Filter Nillable	組織とこのレコードを共有した <code>PartnerNetworkConnection</code> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。
ConnectionSentId	reference	Filter Nillable	このレコードを共有した <code>PartnerNetworkConnection</code> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。API バージョン 15.0 以降では、 <code>ConnectionSentId</code> の項目はサポートされていません。

項目名	項目の種別	項目のプロパティ	説明
			ん。 ConnectionSentId 項目は使用できますが、値は Null です。レコードを接続先と共有するには、新しい PartnerNetworkRecordConnection を使用します。
Description	textarea	Create Filter Nullable Retrieve Update	取引先のテキストによる説明。最大 32,000 文字です。
Fax	phone	Create Filter Nullable Update	取引先の FAX 番号。
Industry	picklist	Create Filter Nullable Update	この取引先に関連する業種。
IsCustomerPortal	boolean	Defaulted on create Filter Update	取引先に、組織のカスタマーポータルを使用できる取引先責任者が少なくとも 1 つある (true) か、ない (false) かを示します。カスタマーポータルが少なくとも 1 つ定義されるまで、この項目は使用できません。  項目の値を true から false に変更すると、取引先と関連する最大 100 人のカスタマーポータルユーザを無効にし、取引先のカスタマーポータルロールとグループを永久に削除することができます。削除されたカスタマーポータルロールとグループは復元できません。  update の項目は API バージョン 16.0 以降のみで使用できます。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	 ヒント: カスタマーポータルまたはパートナーポータルに使用できる取引先責任者の取引先を変更する場合、最大 50 件の取引先責任者を更新することをお勧めします。また、組織の営業時間外にこの更新を行うことをお勧めします。
			オブジェクトがごみ箱に移動した (true) か、移動していない (false) かを示します。ラベルは削除済みです。

項目名	項目の種別	項目のプロパティ	説明
IsPartner	boolean	Defaulted on create Filter Update	<p>取引先に、組織のパートナーportalを使用できる取引先責任者が少なくとも 1 つある (true) か、ない (false) かを示します。パートナーportalが少なくとも 1 つ定義されるまで、この項目は使用できません。</p> <p>項目の値を true から false に変更すると、取引先と関連する最大 15 人のパートナーportalユーザを無効にし、取引先のパートナーportalロールとグループを永久に削除することができます。削除されたパートナーportalロールやグループを復元することはできません。</p> <p>Salesforce.com ユーザインターフェースまたは API でパートナーportalユーザを無効にしても、項目の値は true から false に変更はされません。portal ユーザの無効化についての詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「portalユーザの無効化と非アクティビズム」を参照してください。</p> <p>この項目の値が false であっても、API を使用して、取引先の取引先責任者をパートナーportalユーザとして有効にすることができます。</p> <p>update の項目は API バージョン 16.0 以降のみで使用できます。</p> <p> <b>ヒント:</b> カスタマーportalまたはパートナーportalに使用できる取引先責任者の取引先を変更する場合、最大 50 件の取引先責任者を更新することをお勧めします。また、組織の営業時間外にこの更新を行うことをお勧めします。</p>
IsPersonAccount	boolean	Defaulted on create Filter	<p>参照のみ。ラベルは個人取引先です。この取引先に個人取引先のレコードタイプがある (true) か、そうでないか (false) を示します。個人取引先の詳細は、「個人取引先のレコードタイプ」および Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。</p>
LastActivityDate	date	Nillable	<p>値は、最新のものであれば、次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レコードに記録された最新イベントの期日。</li> <li>レコード関連する、最近終了したタスクの期日。</li> </ul>
MasterRecordId	reference	Filter Nillable	このオブジェクトが結合の結果として削除された場合、この項目には保存されたレコードの ID が入力されます。他の理由でこのオブジェクトが削除された場

項目名	項目の種別	項目のプロパティ	説明
			合、または削除されていない場合、値は <code>null</code> となります。
Name	string	Create Filter Update	<p>必須。ラベルは取引先名です。取引先の名前。最大 255 文字です。</p> <p>この取引先に個人取引先のレコードタイプがある場合、次のようにになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>この値は、関連する個人取引先の <code>FirstName</code> と <code>LastName</code> の連結です。</li> <li>この値を変更することはできません。</li> </ul>
NumberOfEmployees	int	Create Filter Nullable Update	ラベルは従業員です。この取引先が表す会社で働く従業員の数。最大 8 枠です。
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter Update	<p>この取引先を現在所有するユーザの ID。デフォルト値は、API にて <code>create</code> を実行したログインユーザです。</p> <p>取引先チームを組織に設定した場合、API のバージョンに応じて、この項目を更新する結果が次のように異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>API バージョン 12.0 以降の場合、すべてのオブジェクト同様、レコードの共有は保持されます。</li> <li>API バージョン 12.0 より古い場合は、レコードの共有が削除されます。</li> <li>API バージョン 16.0 以降では、この項目を使用して取引先の所有権を更新(移行)するために、ユーザは「レコードの移行」権限が必要です。</li> </ul>
Ownership	picklist	Create Filter Nullable Update	非公開、公開、子会社など、取引先の会社形態の種類。
ParentId	reference	Create Filter Nullable Update	親オブジェクトの ID (あれば)。
Phone	phone	Create Filter	この取引先の電話番号。最大 40 文字です。

項目名	項目の種別	項目のプロパティ	説明
		<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	<a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>
Rating	picklist	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	非常に良い、良い、悪いなど、取引先の見込み評価。
RecordTypeId	reference	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	このオブジェクトに割り当てられるレコードタイプの ID。
Salutation	picklist	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	手紙で使用する場合など、名前に追加する敬称。
ShippingCity	string	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	この取引先の配送先住所の詳細。都市と国はそれぞれ最大 40 文字、郵便番号と県は最大 20 文字。
ShippingCountry			
ShippingPostalCode			
ShippingState			
ShippingStreet	textarea	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	この取引先の配送先住所の所在地、番地。最大 255 文字です。
Sic	string	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	電機の場合は 57340 など、会社の主要事業分類の標準産業分類コード。最大 20 文字です。
Site	string	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	本社またはロンドンなど、取引先の場所の名前。ラベルは取引先の場所です。最大 80 文字です。
TickerSymbol	string	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a>	この取引先の株式市場の記号。最大 20 文字です。

項目名	項目の種別	項目のプロパティ	説明
		Nillable Update	
Type	picklist	Create Filter Nillable Update	顧客、競合会社、またはパートナーなど、取引先の種類。
Website	url	Create Filter Nillable Update	この取引先の Web サイト。最大 255 文字です。

### IsPersonAccount 項目

これらの項目は、各個人取引先の子個人取引責任者レコードに含まれている個人取引先項目のサブセットです。[IsPersonAccount](#) 項目の値が `false` である場合、次の項目値は `null` で、変更することができません。`true` の場合、項目には次の表の [説明] 列で示されている値が入力され、変更することはできません。

個人取引先は、デフォルトで無効になっています。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「個人取引先項目」を参照してください。

項目名	項目の種別	項目のプロパティ	説明
FirstName	string	Create Filter Nillable Update	個人取引先の個人の名前。最大 40 文字です。
LastName	string	Create Filter Nillable Update	個人取引先の個人の姓。レコードタイプに個人取引先のレコードタイプがある場合は必須です。個人取引先の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプおよび「 <a href="#">個人取引先のレコードタイプ</a> 」を参照してください。最大 80 文字です。
PersonAssistantName	string	Create Filter Nillable Update	個人取引先のアシスタントの名前です。ラベルはアシスタントです。最大 40 文字です。

項目名	項目の種別	項目のプロパティ	説明
PersonAssistantPhone	phone	Create Filter Nullable Update	個人取引先のアシスタント電話です。ラベルはアシスタント電話です。最大 40 文字です。
PersonBirthDate	date	Create Filter Nullable Update	アシスタント名。ラベルは誕生日です。
PersonContactId	reference	Filter Nullable Update	この個人取引先に関連する取引先責任者の ID。ラベルは取引先責任者 ID です。
PersonDepartment	string	Create Filter Nullable Update	部署。ラベルは部署です。最大 80 文字です。
PersonEmail	email	Create Filter Nullable Update	個人取引先の電子メールです。ラベルは電子メールです。
PersonEmailBouncedDate	dateTime	Create Filter Nullable Update	不達管理が有効化され、個人取引先に送信される電子メールが宛て先不明で戻ってきた場合の、メールが返送された日時。
PersonEmailBouncedReason	string	Create Filter Nullable Update	バウンス管理が有効化され、個人取引先に送信される電子メールが宛て先不明で戻ってきた場合の、メールが返送された理由。
PersonHasOptedOutOfEmail	boolean	Create Defaulted on create Filter	個人取引先が電子メールの送信を除外した(true)か、そうでないか(false)を示します。ラベルはメール送信除外です。

項目名	項目の種別	項目のプロパティ	説明
		Update	
PersonHomePhone	phone	Create Filter Nillable Update	個人取引先の自宅電話です。ラベルは自宅電話です。
PersonLastCURequestDate	dateTime	Create Filter Nillable Update	個人取引先が最後に要求された日付。ラベルは、登録情報照会最終依頼日です。
PersonLastCUUpdateDate	dateTime	Create Filter Nillable Update	個人取引先が最後に更新された日付。ラベルは、登録情報照会最終保存日です。
PersonLeadSource	picklist	Create Filter Nillable Update	個人取引先のリードソースです。ラベルはリードソースです。
PersonMailingCity	string	Create Filter Nillable Update	個人取引先の送付先市区郡の詳細です。ラベルは市区郡、国、郵便番号、県です。市区郡と国は最大 40 文字です。郵便番号の県は最大 20 文字です。
PersonMailingCountry			
PersonMailingPostalCode			
PersonMailingState			
PersonMailingStreet	textarea	Create Filter Nillable Update	個人取引先の送付先所在地、番地。ラベルは所在地、番地です。最大 255 文字です。
PersonMobilePhone	phone	Create Filter Nillable Update	個人取引先の携帯電話番号です。ラベルは携帯です。

項目名	項目の種別	項目のプロパティ	説明
• PersonOtherCity • PersonOtherCountry • PersonOtherPostalCode • PersonOtherState	string	Create Filter Nillable Update	個人取引先の代替住所の詳細です。ラベルはその他の市区郡、その他の国、その他の郵便番号、その他の県です。
PersonOtherPhone	phone	Create Filter Nillable Update	個人取引先の代替電話です。ラベルはその他の電話です。
PersonOtherStreet	textarea	Create Filter Nillable Update	個人取引先の代替所在地、番地。ラベルはその他の所在地、番地です。
PersonTitle	string	Create Filter Nillable Update	個人取引先のタイトルです。ラベルはタイトルです。最大 80 文字です。



メモ: 取引先データを Salesforce.com にインポートし、`CreatedDate` など、監査項目に値を設定する必要がある場合、salesforce.com に連絡してください。これらの項目を自身で設定する必要がない限り、監査項目は API 操作時に自動的に更新されます。詳細は、「[システム項目](#)」を参照してください。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、組織内の取引先を問い合わせ、管理します。クライアントアプリケーションは、API を使用して取引先に関する添付ファイルに、`create()`、`update()`、`delete()`、および `query()` を実行できます。

また、クライアントアプリケーションは、`convertLead()` コールを使用してリードを変換して取引先オブジェクトを作成または更新することもできます。詳細は、「[convertLead\(\)](#)」を参照してください。

`IsPersonAccount Fields` の値が null でない場合、`IsPersonAccount` を `false` に変更することができます、またはエラーが発生します。個人取引先の詳細は、「[個人取引先のレコードタイプ](#)」および Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

## AccountContactRole

指定された取引先責任者が取引先に果たす役割を表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
AccountId	reference	Create Filter Update	必須。取引先の ID。ID の詳細は、「ID データ型」を参照してください。
ContactId	reference	Create Filter Update	必須。この取引先に関連する取引先責任者の ID。ID の詳細は、「ID データ型」を参照してください。
IsDeleted	boolean	Create Defaulted on create	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
IsPrimary	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	取引先責任者が取引先にプライマリロールとしての役割を果たす(true)か、そうでないか(false)を指定します。それぞれの取引先には、取引先責任者プライマリロールは1つだけ割り当てられます。ラベルは主担当です。デフォルト値は false です。
Role	picklist	Create Filter Nillable Update	意思決定者、承認者、バイヤーなど、この取引先に取引先責任者が果たす役割の名前。一意である必要があります。 <code>AccountId</code> 、 <code>ContactId</code> 、 <code>Role</code> の値が同じである複数のレコードが存在することはできません。さまざまな取引先責任者が、同じ取引先に同じ役割を持つことができます。また、1つの取引先責任者が、同じ取引先で異なる役割を持つこともできます。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、特定の商談のコンテキスト内で、指定された取引先責任者が指定された取引先で果たす役割を定義します。

## AccountHistory

取引先の項目内の値に対する変更履歴を表します。このオブジェクトはバージョン 11.0 以降で使用できます。

### サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

### 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
項目	picklist	Filter Restricted picklist	変更された項目の名前。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
AccountId	reference	Filter	取引先の ID。ID の詳細は、「ID データ型」を参照してください。ラベルは取引先 ID です。
NewValue	anyType	Nillable	変更された項目の新しい値。
OldValue	anyType	Nillable	変更される前の項目の最後の値。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、取引先に対する変更を識別します。

このオブジェクトは、親オブジェクトの項目レベルのセキュリティに影響されます。

## AccountOwnerSharingRule

所有者以外のユーザと取引先を共有するルールを表します。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「共有ルールの設定」を参照してください。



メモ: salesforce.com のカスタマーサポートに連絡して、組織のこのオブジェクトに対するアクセス権限を有効化します。

## サポートされているコール

```
create()、update()、delete()、query()、retrieve()、getDeleted()、getUpdated()、  
describeSObjects()
```

## 特別なアクセスルール

カスタマーportalユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
AccountAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	使用できる共有の種類を表す値。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Read</li> <li>Edit</li> <li>All (この値は、<code>create()</code> コールまたは <code>update()</code> コールには使用できません。)</li> </ul>
CaseAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	すべての子ケースの対象グループに割り当てられたアクセス権限の種類を表す値。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>None</li> <li>Read</li> <li>Edit</li> </ul>
ContactAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	関連する取引先の、Group、UserRole、またはUserに割り当てられたアクセス権限の種類を表す値。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>None</li> <li>Read</li> <li>Edit</li> </ul>
			 メモ: DefaultContactAccess が「ControlledByParent」に設定されている場合、この項目を作成することも更新することもできません。
GroupId	reference	Create Filter	ソースグループを表す ID。グループ内のユーザが所有する取引先が、アクセス権限を割り当てるルールをトリガします。
OpportunityAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	関連する商談の対象グループに割り当てられたアクセス権限の種類を表す値。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>None</li> <li>Read</li> <li>Edit</li> </ul>

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
UserorGroupId	reference	Create Filter	アクセス権限が割り当てられているユーザまたはグループを表す ID。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、特定のオブジェクトの共有ルールを管理します。一般的な共有およびテリトリー管理に関する共有ではこのオブジェクトを使用します。

## AccountPartner

この参照専用オブジェクトは、2つの取引先オブジェクト間のパートナー関係を表します。2つの取引先間のパートナー関係にパートナーオブジェクトが作成されると、このオブジェクトが自動的に作成されます。



メモ: このオブジェクトは、パートナーポータルで使用できる取引先レコードとは完全に異なり、独立しています。

### サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

### 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
AccountFromId	reference	Filter	パートナー関係の主要取引先の ID。ID の詳細は、「ID データ型」を参照してください。
AccountToId	reference	Filter	パートナー関係におけるパートナー取引先の ID。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
IsPrimary	boolean	Defaulted on create Filter	AccountPartner が主要取引先のプライマリパートナーである(true)か、そうでないか(false)を示します。

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
Role	picklist	Filter Nillable	パートナー取引先が主要取引先に対して持つUserRole。たとえば、「コンサルタント」または「ディストリビュータ」などです。

### 取引先間のパートナー関係の作成

2つの取引先間にパートナー関係を作成する場合(パートナーオブジェクトを作成して `AccountFromId` を指定する場合)、APIは自動的に2つのAccountPartnerオブジェクトを作成します。一方は順関係、もう一方は逆関係となります。たとえば、「Acme, Inc.」を `AccountFromId` として、「Acme Consulting」を `AccountToId` として作成すると、APIは自動的に次のような2つのAccountPartnerオブジェクトを自動的に作成します。

- 「Acme, Inc.」を `AccountFromId` と、「Acme Consulting」を `AccountToId` とする順関係 AccountPartner。
- 「Acme Consulting」を `AccountFromId` と、「Acme, Inc.」を `AccountToId` とする逆関係 AccountPartner。
- 逆関係 AccountPartner の `Role` 項目の値は、順関係 AccountPartner の `Role` 項目の値に関連する PartnerRole オブジェクトの `ReverseRole` 値に設定されます。

このマッピングにより、APIは、オブジェクトとそれらの関係を効率的に管理できます。

## AccountShare

取引先の共有エントリを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

カスタマーportalユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
AccountAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	取引先に対して持つユーザまたはグループのアクセスのレベル。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Read</li> <li>Edit</li> <li>All(この値は、<code>create()</code> コールまたは <code>update()</code> コールには使用できません。)</li> </ul> この項目は、少なくとも組織のデフォルトである取引先のアクセスレベルと同等のアクセスレベルに設定する必要があります。また、この項目、

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
			<p><a href="#">OpportunityAccessLevel</a>項目、<a href="#">CaseAccessLevel</a>項目のいずれかを、組織のデフォルトのアクセスレベルより高いレベルに設定する必要があります。</p>
AccountId	reference	Create Filter	<p>この共有エントリ関連する取引先の ID。この項目は更新することはできません。ID の詳細は、「<a href="#">ID データ型</a>」を参照してください。</p>
CaseAccessLevel	picklist	Create Defaulted on create Filter Restricted picklist Update	<p>取引先に関連するケースに対して持つユーザまたはグループのアクセスのレベル。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• None</li><li>• Read</li><li>• Edit</li></ul> <p>この項目は、少なくとも組織のデフォルトである <a href="#">CaseAccessLevel</a> と同等のアクセスレベルに設定する必要があります。AccountAccessLevel 項目が「All」に設定されている場合、この項目を API を使用して更新することはできません。API を使用して、関連する取引先所有者のこのフィールドを更新することはできません。Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して、取引先所有者の <a href="#">CaseAccessLevel</a> を更新する必要があります。</p>
ContactAccessLevel	picklist	Create Defaulted on create Filter Restricted picklist Update	<p>取引先に関連する取引先責任者に対して持つユーザまたはグループのアクセスのレベル。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• None</li><li>• Read</li><li>• Edit</li></ul> <p>この項目は、少なくとも組織のデフォルトである <a href="#">ContactAccessLevel</a> と同等のアクセスレベルに設定する必要があります。ContactAccessLevel 項目が「Controlled by Parent」に設定されている場合、API を使用して関連する取引先所有者のこのフィールドを更新することはできません。Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して、取引先所有者の <a href="#">ContactAccessLevel</a> を更新する必要があります。</p>
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	<p>オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。</p>
OpportunityAccessLevel	picklist	Create Filter	<p>取引先に関連する商談に対して持つユーザまたはグループのアクセスのレベル。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• None</li></ul>

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
	Restricted picklist	Update	<p>Restricted picklist</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Read</li> <li>Edit</li> </ul> <p>Update この項目は、少なくとも組織のデフォルトである opportunityAccessLevel と同等のアクセスレベルに設定する必要があります。AccountAccessLevel 項目が「All」に設定されている場合、この項目を API を使用して更新することはできません。API を使用して、関連する取引先所有者のこのフィールドを更新することはできません。Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して、取引先所有者の opportunityAccessLevel を更新する必要があります。</p>
RowCause	picklist	Filter	共有エントリが存在する理由。参照のみ。次のような、多くの値を指定できます。
	Restricted picklist	Create	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>Manual Sharing</b>—「All」のアクセス権限を持つユーザが手動で取引先を共有していたため、ユーザまたはグループにアクセス権限が割り当てられています。</li> <li><b>Owner - User</b>は、取引先の所有者、またはロール階層の取引先所有者の上にあるロールです。</li> <li><b>Sales Team</b>—ユーザまたはグループには、チームアクセス権限があります (AccountTeamMember です)。</li> <li><b>Sharing Rule</b>—ユーザまたはグループには、取引先共有ルールを介したアクセス権限が割り当てられています。</li> </ul>
UserOrGroupId	reference	Filter	取引先に対してアクセス権限が割り当てられたユーザまたはグループの ID。この項目は更新することはできません。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、他のユーザが所有する取引先を参照および登録できるユーザやグループを指定することができます。詳細は、「[共有](#)」を参照してください。

既存のレコードに一致する [AccountShare](#) レコードを作成すると、`create()` コールは、変更された項目を更新し、既存のレコードを返します。

## AccountTag

単語または短い語句を取引先に関連付けます。

## サポートされているコール

`create()、delete()、query()、retrieve()、describeSObjects()`

## 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい TagDefinition が作成され、このタグオブジェクトの親となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親関係は自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>Public:</b>組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li><li><b>Personal:</b>タグは、OwnerId に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li></ul>

## 使用方法

AccountTag は、親 TagDefinition とタグ付けされている取引先との関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## AccountTeamMember

取引先チームのメンバーであるユーザを表します。別のユーザのデフォルトの取引先チームにあるユーザを表す UserAccountTeamMember も参照してください。

## サポートされているコール

`create()、update()、delete()、describeSObjects()、query()、search()、retrieve()、getDeleted()、getUpdated()`

## 特別なアクセスルール

- 取引先チームの機能を使用できる Enterprise ユーザおよび Unlimited Edition ユーザのみ、このオブジェクトを使用できます。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
AccountAccessLevel	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	取引先に対して持つユーザまたはグループのアクセスのレベル。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>None</li> <li>Read</li> <li>Edit</li> <li>All</li> </ul> この項目は、少なくとも組織のデフォルトである取引先のアクセスレベルと同等のアクセスレベルに設定する必要があります。また、取引先の AccountAccessLevel 項目、 OpportunityAccessLevel 項目、または CaseAccessLevel 項目を組織のデフォルトのアクセスレベルより高く設定する必要があります。
AccountId		Create Filter	必須。このユーザがチームのメンバーである取引先の ID。有効な取引先 ID である必要があります。必須。 ID の詳細は、「ID データ型」を参照してください。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
TeamMemberRole	picklist	Create Filter Nillable Update	チームメンバーに関連するロール。組織に定義された有効なチームメンバーのロールの1つです。ラベルはチームロールです。
UserId	reference	Create Filter	必須。この取引先チームのメンバーであるユーザの ID。有効なユーザ ID である必要があります。必須。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、特定の取引先のチームメンバーを管理し、その取引先のこれらのユーザのチームメンバーロールを指定します。

## AccountTerritoryAssignmentRule

取引先項目に基づいて取引先をテリトリーに割り当てる、取引先割り当てルール。組織にテリトリー管理が有効化されている場合にのみ使用できます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「テリトリー管理の概要」を参照してください。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
BooleanFilter	string	Create Filter Nullable Update	オンラインアプリケーションのルールに指定されている高度な絞込み条件。たとえば、「(1 AND 2) OR 3」。
IsActive	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ルールが有効 ( <code>true</code> ) か無効 ( <code>false</code> ) かを示します。API を使用して、有効なルールは、新規取引先の作成時および既存の取引先の編集時に自動的に実行されます。例外は、取引先の <code>IsExcludedFromRealign</code> 項目が <code>true</code> の場合で、取引先割り当てルールによって取引先を評価することはできません。
IsInherited	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ルールが継承されたルールである ( <code>true</code> ) か、またはローカルルールである ( <code>false</code> ) かを示します。継承されたルールは、テリトリー階層のルールの下にあるテリトリーにも作用します。ローカルルールは、即時テリトリーに作成され、即時テリトリーにのみ影響を与えます。
Name	string	Create Filter Update	ルールの名前。最大 80 文字です。
TerritoryId	reference	Create Filter Update	このルールを満たす取引先が割り当てられるテリトリーの ID。ID の詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください。

## 使用方法

テリトリーに対して、少なくとも1つの取引先割り当てルールが有効でない限り、テリトリーに取引先は割り当てられません(手動で取引先を割当てる場合を除く)。

## AccountTerritoryAssignmentRuleItem

[AccountTerritoryAssignmentRule](#) の選択基準の行。組織にテリトリー管理が有効化されている場合にのみ使用できます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「テリトリー管理の概要」を参照してください。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

### 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
項目	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	基準として使用する、標準取引先項目またはカスタム取引先項目。
Operation	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	「等しい」または「次で始まる」など、適用される基準。
RuleID	reference	Create Filter Update	関連する <a href="#">AccountTerritoryAssignmentRule</a> の ID。
SortOrder	int	Create Filter Update	この行が、指定された <a href="#">AccountTerritoryAssignmentRule</a> の他の <a href="#">AccountTerritoryAssignmentRuleItem</a> オブジェクトと比較して評価される順序。
Value	string	Create Filter	<code>Field</code> が「Billing Zip/Postal Code」である場合、「94105」などの、評価する項目値。

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
		Nillable	
		Update	

## 使用方法

- 標準取引先項目およびカスタム取引先項目のどちらも、取引先割り当てルールの基準として使用できます。
- テリトリーに対して、少なくとも 1 つの取引先割り当てルールが有効でない限り、テリトリーに取引先は割り当てられません(手動で取引先を割当てる場合を除く)。

## AccountTerritorySharingRule

テリトリー内の取引先を共有するためのルールを表します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

### 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
AccountAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	使用できる共有の種類を表す値。 値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>Read</li><li>Edit</li><li>All</li></ul>
CaseAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	取引先のすべての子ケースの対象グループに割り当てられたアクセス権限の種類を表す値。 使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>None</li><li>Read</li><li>Edit</li></ul>

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
ContactAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	取引先の関連する取引先責任者の対象グループに割り当てられたアクセス権限の種類を表す値。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>None</li> <li>Read</li> <li>Edit</li> </ul>
			 メモ: この項目は参照のみです。
GroupId	reference	Create Filter	ソースグループを表す ID。ソーステリトリーのユーザが所有する取引先が、ルールをトリガしてアクセス権限を割当てます。
OpportunityAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	取引先に関連するすべての商談の対象グループに割り当てられたアクセス権限の種類を表す値。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>None</li> <li>Read</li> <li>Edit</li> </ul>
UserorGroupId	reference	Create Filter	アクセス権限を割当てられたユーザまたはグループを表す ID、またはテリトリー ID の場合、そのテリトリーに割当てられたユーザ。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、特定のオブジェクトの共有ルールを管理します。一般的な共有およびテリトリーに関連する共有ではこのオブジェクトを使用します。

## ActivityHistory

この参照専用オブジェクトには、オブジェクトに関連する活動に関する情報が含まれています。

### サポートされているコール

`describeGlobal()`、`describeSObject()`、および`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	Description
ActivityDate	date	Filter Nillable	<p>次のいずれかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>タスクの場合、タスクの期日。</li> <li>イベントの場合、<code>IsAllDayEvent</code> が <code>true</code> に設定されている場合にのみ、イベントの期日を示します。</li> </ul> <p>この項目には、万国標準時(UTC) タイムゾーンの午前 0時に常に設定されているタイムスタンプがあります。タイムスタンプに関連性はありません。タイムスタンプを変更して、タイムゾーンの時差を調整しないでください。</p>
ActivityType	picklist	Filter Nillable	Call、Meeting、Other のいずれかになります。
CallDisposition	string	Filter Nillable	「コールバックします」または「コールに失敗しました」など、指定されたコールの結果を表します。最大 255 文字です。
CallDurationInSeconds	int	Filter Nillable	コールの時間(秒単位)。
CallObject	string	Filter Nillable	コールセンターの名前。最大 255 文字です。
CallType	picklist	Filter Nillable	応答するコールの種類(着信、社内、発信)。
Description	textarea	Nillable	ToDoまたは活動の説明。
DurationInMinutes	int	Filter Nillable	イベントまたはタスクの長さ。
IsAllDayEvent	boolean	Defaulted on create Filter	<code>true</code> の場合、活動はイベントとなり、 <code>ActivityDate</code> を使用してイベントの日付を定義します。 <code>false</code> の場合、活動はToDoの場合と行動の場合があります。
IsClosed	boolean	Defaulted on create Filter	タスクのみに対し、タスクが完了した( <code>true</code> )か、完了していない( <code>false</code> )かを示します。この項目は、 <code>Status</code> 項目を設定することで間接的に設定されます。それぞれの選択リストの値には、対応する <code>IsClosed</code> 値があります。

項目	項目の種別	項目のプロパティ	Description
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
IsOnlineMeeting	boolean	Defaulted on create Filter	活動がオンラインミーティングを表す(true)か、そうでない(false)かを示します。   メモ: この項目は、API バージョン 17.0 以降で使用できます。
IsTask	boolean	Defaulted on create Filter	true の場合、活動はタスクです。false の場合、活動はイベントです。
IsVisibleInSelfService	boolean	Defaulted on create Filter	true の場合、セルフサービスポータルで活動を表示できます。
Location	string	Filter Nillable	イベントの場合は、イベントの場所。イベントでない場合、値は null です。
OwnerId	reference	Filter Nillable	ToDo または行動を持つユーザの ID。
Priority	picklist	Filter Nillable	ToDoの場合、高、中、低など、ToDoの優先度。
Status	picklist	Filter Nillable	ToDoについて、進行中または完了など、ToDoの現在の状況。事前定義された Status 項目は、 <a href="#">IsClosed</a> の値を設定します。選択リストの値を取得するために、TaskStatus オブジェクトに <a href="#">query()</a> を実行できます。
Subject	combobox	Filter Nillable	行動またはToDoの件名。
WhatId	reference	Filter Nillable	関連するオブジェクトの ID (取引先、キャンペーン、ケース、商談、またはカスタムオブジェクト)。
WhoId	reference	Filter Nillable	関連する取引先責任者またはリードの ID。WhoId リードを参照する場合、 <a href="#">WhatId</a> 項目は空である必要があります。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、Salesforce.com ユーザインターフェースの関連リスト機能を複製することができます。このオブジェクトを使用するには、次の手順を実行します。

1. オプションで、問い合わせる活動のオブジェクトに describe コールを発行して、使用する適切な SOQL の提案を取得します。
2. 次のようなオブジェクトを参照する本文、活動履歴を参照する内部文を持つ [SOQL リレーションクエリ](#) を発行します。

```
SELECT (SELECT ActivityDate, Description from ActivityHistories) FROM Account WHERE Name Like 'XYZ%'
```

または

```
SELECT (SELECT ActivityDate, Description from OpenActivities) FROM Account WHERE Name Like 'XYZ%'
```

Salesforce.com ユーザインターフェースは共有ルールを強制し、ユーザが表示する権限を持たない関連リスト項目を除外します。

関連リスト機能を提供しながらパフォーマンス上の問題を回避するために、「すべてのデータを表示する」権限を持たないユーザに対し、いくつかの制限事項があります。こうしたユーザは、次のような制限事項に準拠する必要があります。

- リレーションクエリの本文では、1つのレコードのみを参照できます。たとえば、取引名が A で始まるすべてのレコードを絞り込むことはできませんが、1つの取引先レコードを参照する必要があります。
- WHERE 句を使用することはできません。
- 返される行数を 500 未満に制限する必要があります。
- ORDER BY ActivityDate DESC, LastModifiedDate DESC で、ActivityDate および LastModifiedDate で降順に並べ替える必要があります。

このオブジェクトに [query\(\)](#) を直接使用することはできません。

## AdditionalNumber

このオブジェクトは、コールセンターのオプション追加番号を表します。この追加番号は、コールセンターの電話帳に表示できます。

### サポートされているコール

```
create(), query(), retrieve(), getDeleted(), getUpdated(), describeSObject(), describeSObjects()
```

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
CallCenterId	reference	Create Filter Nullable Update	この追加番号に関連するコールセンターを作成したユーザの ID を含むシステム項目。値が null の場合、追加番号はすべてのコールセンターの電話帳に表示されます。
CreatedById	reference	Defaulted on create Filter	この追加番号に関連するコールセンターを作成したユーザの ID を含むシステム項目。
CreatedDate	dateTime	Defaulted on create Filter	この追加番号に関連するコールセンターが作成された日付と時間を含むシステム項目。
Description	string	Create Filter Nullable Update	Conference Room B など、追加番号の説明。 最大 255 文字です。
Id	ID	Defaulted on create Filter	このコールセンターを一意で識別する ID。ラベルは追加ディレクトリ番号 <b>ID</b> です。
IsDeleted	boolean	Create Filter Nullable	追加番号が削除されている (true) か、削除されていない (false) かを示します。 ラベルは削除済みです。
LastModifiedById	reference	Defaulted on create Filter	この追加番号を最後に変更したユーザの ID を含むシステム項目。
LastModifiedDate	dateTime	Defaulted on create Filter	この追加番号が最後に変更された日付と時間を含むシステム項目。
Name	string	Create Filter idLookup	追加番号の名前。 最大 80 文字です。
Phone	phone	Create Filter Update	この追加番号に対応する電話番号。

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
SystemModstamp	dateTime	Defaulted on create Filter	この追加番号がユーザまたはワークフロープロセスで最後に変更された日付と時間を含むシステム項目。

## 使用方法

コールセンターディレクトリの追加番号を作成します。番号がユーザ、取引先責任者、リード、取引先、または他のオブジェクトとして容易に分類されない場合、このオブジェクトを使用します。例には、電話のキューまたは会議室が含まれます。

## ApexClass

Apex クラスを表します。詳細については、『[Apex Developer's Guide](#)』を参照してください。



メモ: Apex クラスとトリガでは `Create` 項目プロパティと `Update` 項目プロパティが `true` に設定されていますが、API を使用してそれらを作成および更新しようとすると、ランタイム例外が発生します。そのため、Force.com 移行ツール、Salesforce.com ユーザインターフェース、または Force.com IDE を使用して、Apex クラスまたはトリガを作成または更新します。

### サポートされているコール

```
create()、update()、delete()、query()、retrieve()、describeSObjects()、getDeleted()、  
getUpdated()
```

### 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
ApiVersion	double	Create Filter Nullable Update	このクラスの API バージョン。どのページにも、作成時に API バージョンが指定されます。
Body	textarea	Create Nullable Update	Apex クラスの定義。 最大 100,000 文字です。
bodyCrc	double	Create Defaulted on create	クラスファイルまたはトリガファイルの CRC(周期的冗長チェック)。

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
		Filter Nillable Update	
IsValid	boolean	Create Defaulted on create Update	クラスが最後にコンパイルした後に連動メタデータが変更された ( <code>true</code> ) か、変更されていない ( <code>false</code> ) かを示します。
LengthWithoutComments	int	Create Filter Update	コメントのないクラスの長さ。
Name	string	Create Filter Update	クラスの名前。 最大 255 文字です。
NamespacePrefix	string	Filter Nillable	<p>このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。<code>namespacePrefix__componentName</code> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。</p> <p>名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</li> <li>Developer Edition 組織でない場合、<code>NamespacePrefix</code> は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li> </ul>
Status	picklist	Create Filter	<p>Apex クラスの現在の状況。有効な文字列値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Active - クラスは有効です。</li> </ul>

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
	Restricted picklist Update		<ul style="list-style-type: none"> <li>Deleted - クラスは削除のマークが付いています。管理パッケージの更新時にクラスを削除できるため、管理パッケージに利用すると便利です。</li> </ul> <p> メモ: ApexTrigger の Status 項目には Inactive オプションがありますが、ApexTrigger にのみサポートされています。詳細は、『<a href="#">Force.com Metadata API Developer's Guide</a>』を参照してください。</p>

## 使用方法

Apex クラスの詳細は、『[Force.com Apex Code Developer's Guide](#)』を参照してください。

## ApexComponent

<apex:relatedList> や <apex:dataTable> などの標準コンポーネントとともに Visualforce ページで使用できるカスタムコンポーネントの定義を表します。詳細については、『[Visualforce Developers Guide](#)』を参照してください。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
ApiVersion	double	Create Filter Update	このカスタムコンポーネントの API バージョン。どのカスタムコンポーネントにも、作成時に API バージョンが指定されます。Salesforce.com API のバージョンが 15.0 より前である場合、 <code>ApiVersion</code> は指定されず、 <code>ApiVersion</code> のデフォルトは 15.0 となります。
ControllerKey	string	Create Filter Nullable Update	<p>このカスタムコンポーネントに関連するコントローラの識別子。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><code>ControllerType</code> パラメータが <code>Standard</code> または <code>StandardSet</code> に設定されている場合、値はコントローラを定義する <code>sObject</code> の名前となります。</li> </ul>

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
ControllerType	picklist	Create Filter Update	<ul style="list-style-type: none"> <li>ControllerType パラメータが Custom に設定されている場合、値はコントローラを定義する Apex クラスの名前となります。</li> </ul>
Description	string	Create Filter Nullable Update	Visualforce カスタムコンポーネントの説明。
Markup	textarea	Create Update	カスタムコンポーネントの内容を定義する Visualforce マークアップ、HTML、Javascript、およびその他の Web 対応コード。
MasterLabel	string	Create Filter Update	Salesforce.com のセットアップ領域で Visualforce カスタムコンポーネントを識別するために使用するテキスト。この項目のラベルはラベルです。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須。Visualforce カスタムコンポーネントの名前。
NamespacePrefix	string	Filter Nullable	<p>このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。</p> <p><i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。</p> <p>名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。</p>

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
			<ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</li> <li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li> </ul>

## 使用方法

このカスタムコンポーネントを使用して、一般的なデザインパターンをカプセル化し、そのパターンを1つまたは複数の Visualforce ページで複数回再利用します。Visualforce ページを表示できるすべてのユーザは、カスタムコンポーネントを表示できますが、カスタムコンポーネントに `create()` または `update()` を実行するには「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。

## ApexPage

1つの Visualforce ページを表します。詳細については、『[Visualforce Developers Guide](#)』を参照してください。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	Description
ApiVersion	<code>double</code>	<code>Create</code> <code>Filter</code> <code>Update</code>	このページのAPIバージョン。どのページにも、作成時に API バージョンが指定されます。Salesforce.com API のバージョンが 15.0 より前である場合、 <code>ApiVersion</code> は指定されず、 <code>ApiVersion</code> のデフォルトは 15.0 となります。

項目	項目の種別	項目のプロパティ	Description
ControllerKey	string	Create Filter Nillable Update	<p>このページに関連するコントローラの識別子。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ControllerType パラメータが Standard または StandardSet に設定されている場合、値はコントローラを定義する sObject の名前となります。</li> <li>ControllerType パラメータが Custom に設定されている場合、値はコントローラを定義する Apex クラスの名前となります。</li> </ul>
ControllerType	picklist	Create Filter Update	<p>Visualforce ページに関連するコントローラの種類。値には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Not Specified、&lt;apex:page&gt; タグの standardController 属性および controller 属性のいずれでも定義されていないページ。</li> <li>Standard、&lt;apex:page&gt; タグの standardController 属性で定義されたページ。</li> <li>StandardSet、&lt;apex:page&gt; タグの standardController 属性および recordSetVar 属性で定義されたページ。</li> <li>Custom、&lt;apex:page&gt; タグの controller 属性で定義されたページ。</li> </ul>
Description	string	Create Filter Nillable Update	Visualforce ページの説明。
Markup	textarea	Create Update	このページの内容を定義する Visualforce マークアップ、HTML、Javascript、およびその他の Web 対応コード。
MasterLabel	string	Create Filter Update	Salesforce.com のセットアップ領域で Visualforce ページを識別するために使用するテキスト。ラベルはラベルです。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須。この Visualforce ページの名前。
NamespacePrefix	string	Filter Nillable	このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。

項目	項目の種別	項目のプロパティ	Description
			<p><i>namespacePrefix</i>_componentName表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。</p> <p>名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</li><li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li></ul>

## 使用方法

Visualforce ページを使用して、基本の Salesforce.com アプリケーション機能を拡張するカスタムコンテンツを追加します。Visualforce 対応組織のすべてのユーザは Visualforce ページを表示できますが、`create()` または `update()` には、「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。

## ApexTrigger

Apex トリガを表します。



メモ: Apex クラスとトリガでは `Create` 項目プロパティと `Update` 項目プロパティが `true` に設定されていますが、API を使用してそれらを作成および更新しようとすると、ランタイム例外が発生します。そのため、Force.com 移行ツール、Salesforce.com ユーザインターフェース、または Force.com IDE を使用して、Apex クラスまたはトリガを作成または更新します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
ApiVersion	double	Create Filter Update	このトリガのAPIバージョン。どのトリガにも、作成時に API バージョンが指定されます。
Body	textarea	Create Nillable Update	Apex トリガの定義。 最大 32,000 文字です。
bodyCrc	double	Create Defaulted on create Filter Nillable Update	クラスファイルまたはトリガファイルの CRC(周期的冗長チェック)。
IsValid	boolean	Create Defaulted on create Update	トリガが最後にコンパイルした後に連動メタデータが変更された (true) か、変更されていない (false) かを示します。
LengthWithoutComments	int	Create Filter Update	コメントのないトリガの長さ。
Name	string	Create Filter Update	トリガの名前。 最大 255 文字です。
NamespacePrefix	string	Filter Nillable	このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。 <code>namespacePrefix__componentName</code> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。  名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある</li> </ul>

項目	項目の種別	項目のプロ	説明
			<p>場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者のDeveloper Edition組織の名前空間プレフィックスです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>Developer Edition組織でない場合、NamespacePrefixは、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li></ul>
Status	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	<p>Apex トリガの現在の状況。有効な文字列値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>Active - トリガは有効です。</li><li>Inactive - トリガは無効ですが、削除されていません。</li><li>Deleted - トリガは削除のマークが付いています。管理パッケージの更新時にクラスを削除できるため、管理パッケージに利用すると便利です。</li></ul> <p> メモ: Inactive は ApexClass には無効です。詳細は、『<a href="#">Force.com Metadata API Developer's Guide</a>』を参照してください。</p>

## 使用方法

Apex トリガの詳細は、『[Force.com Apex Code Developer's Guide](#)』を参照してください。

## Approval

契約の承認要求を表します。



メモ: このオブジェクトは後方互換性向けのものです。このオブジェクトは、[契約オブジェクト](#)の承認特有のものです。ProcessInstance オブジェクトで表される承認プロセスと同等のものでも、関連するものではありません。ProcessInstance がより強力です。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
ApproveComment	string	Create Query Replicate Retrieve Update	この承認要求を承認または拒否した場合にユーザが入力するテキスト。必須。最大 4,000 文字です。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
OwnerId	reference	Create Filter Update	必須。承認要求の承認または拒否を依頼するユーザの ID。有効なユーザ ID である必要があります。必須。ID の詳細は、「ID データ型」を参照してください。
ParentId	reference	Create Filter	必須。承認要求に関連する契約の ID。有効な契約 ID である必要があります。
RequestComment	string	Create Filter Nillable Update	承認要求を作成したユーザが入力するテキスト。オプション。この項目は、承認が作成された後に更新することはできません。最大 4,000 文字です。
Status	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	必須。この承認要求の状況。以下の選択リスト値のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Pending—承認要求が作成された場合にのみ指定されます (<code>create()</code> コール)。</li> <li>Approved—承認要求が承認された場合にのみ指定されます (<code>update()</code> コール)。</li> <li>Rejected—承認要求が拒否された場合 <code>update()</code> コールまたは作成され(<code>create() call</code>)アーカイブ履歴の目的ですぐに拒否された場合に指定されます。</li> </ul>

## 使用方法

このオブジェクトを使用すると、クライアントアプリケーションは契約の承認要求をプログラム的に処理することができます。まず、契約の承認を要求するために、クライアントアプリケーションは `ParentId`、`OwnerId` (ユーザの要求承認または拒否)、`Status` (Pending)、および (オプションで) `RequestComment` 項目を指定して、承認要求レコードを新規作成することができます。クライアントアプリケーションが最初の承認要求を作成する

とき、取引先の `Status` 項目が Draft の場合、このレコードの `status` は自動的に InApproval ( 「ContractStatus」 を参照) に変更されます。

続いて、クライアントアプリケーションは、`Status` (Approved または Rejected) および `ApproveComment` (必須) を指定して、既存の承認要求を更新します。`RequestComment` 項目を更新することはできません。(承認または拒否する) 承認レコードを更新するために、クライアントアプリケーションは「契約の承認」権限でログインする必要があります。承認要求を更新するために、`Status` は Pending である必要があります。クライアントアプリケーションは、すでに Approved または Rejected となっている承認を更新することはできません。指定された契約の承認要求を再送信する場合、クライアントアプリケーションは別の承認レコードを新規作成し、承認プロセスを繰り返します。

契約が拒否されずに承認されると、契約の `LastApprovedDate` 項目が自動的に更新されますが、契約の `Status` 項目は更新されず、InApproval のままとなります。

承認された契約は、明示的に有効化する必要があります。クライアントアプリケーションは、`Status` 項目の値を Activated に設定して契約を有効化することができます。また、ユーザは、Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して契約を有効化することができます。

契約は、さまざまな状態 (Pending、Approved、および Rejected) の複数の承認要求を行うことができます。また、1人のユーザは、同じ契約に関連する複数の承認要求を行うことができます。

クライアントアプリケーションは、承認レコードに `delete()` を明示的に実行できません。親契約が削除されると、承認レコードは自動的に削除されます。

## Asset

たとえば、以前販売され、導入された商品など、取引先または取引先責任者が所有する商業価値のあるアイテムを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeLayout()`、`describeSObjects()`、`upsert()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccountId	reference	Create Filter Nillable Update	必須。この納入商品と関連付けられた取引先の ID。有効な取引先 ID である必要があります。ContactId が指定されていない場合は必須です。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
ContactId	reference	Create Filter Nillable	<code>AccountId</code> が指定されていない場合は必須です。この納入商品に関連付けられた取引先責任者の ID。取引先の親を持つ有効な取引先責任者 ID である必要があります

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	ります(納入商品の <a href="#">AccountId</a> と一致する必要があります)。
Description	string	Create Nillable Update	この納入商品の説明。
InstallDate	date	Create Filter Nillable Update	納入商品が導入された日付。
IsCompetitorProduct	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	この納入商品が、競合会社が販売した商品を表すか(true) 否か(false)を示します。デフォルト値は false です。ラベルは競合納入商品です。
IsDelete	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須。納入商品の名前。ラベルは納入商品名です。
Price	double	Create Filter Nillable Update	この納入商品に支払われた金額。
Product2Id	reference	Create Filter Nillable Update	この納入商品と関連付けられた <a href="#">Product2</a> の ID。有効な Product2 ID である必要があります。オプション。
PurchaseDate	date	Create Filter Nillable Update	納入商品が購入された日付。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Quantity	double	Create Filter Nillable Update	購入または導入された数量。
SerialNumber	string	Create Filter Nillable Update	この納入商品のシリアル番号。
Status	picklist	Create Filter Nillable Update	値のカスタマイザブル選択リスト。デフォルトの選択リストには次の値が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 購入済み</li> <li>• 配送済み</li> <li>• 導入済み</li> <li>• 登録済み</li> <li>• 廃止</li> </ul>
UsageEndDate	date	Create Filter Nillable Update	この納入商品の使用が終了または期限が切れる日付。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、以前顧客取引先に販売した納入商品を追跡します。納入商品を追跡すると、クラウドアントアプリケーションは、以前販売された商品または特定の取引先に現在導入されている商品を迅速に確認できます。

たとえば、組織は、過去に販売した商品について商談を更新およびより高額な商品を販売したい場合があります。同様に、商品を交換したり取り替えたりすると考えられる顧客環境にある競合会社の商品を追跡したい場合もあります。

納入商品の追跡は、商品固有のサポート問題を解決する詳細情報を提供するため、商品サポートに役立ちます。たとえば、[PurchaseDate](#) または [SerialNumber](#) は、指定された商品に、商品のリコールなど、特定のメンテナンス要件があるかどうかを示します。同様に、[UsageEndDate](#) は、納入商品がサービスから削除された日時、またはライセンスまたは保証期限が切れる日時を示します。

アプリケーションが[納入商品](#)レコードを新規作成する場合、少なくとも [Name](#) と [AccountId](#) または [ContactId](#) のいずれか、または両方を指定する必要があります。

## AssetTag

単語または短い語句を納入商品に関連付けます。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい TagDefinition が作成され、このタグオブジェクトの親となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親関係は自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>Public:</b> 組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li><li><b>Personal:</b> タグは、OwnerId に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li></ul>

使用方法

AssetTag は、親 TagDefinition とタグ付けされている納入商品との関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## AssignmentRule

ケースまたはリードに関連する割当てルールを表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

- このオブジェクトは参照専用です。割り当てルールは、Salesforce.com ユーザインターフェースで作成、構成、削除されます。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目の種別	項目のプロパティ	説明
Active	<code>boolean</code>	<code>Defaulted on create</code>	割り当てルールが有効である ( <code>true</code> ) か、有効でない ( <code>false</code> ) かを示します。 <code>Filter</code>
Name	<code>string</code>	<code>Filter</code> <code>Nillable</code>	割り当てルールの名前。
SObjectType	<code>picklist</code>	<code>Filter</code> <code>Nillable</code> <code>Restricted picklist</code>	「ケース」または「リード」の、割り当てルールの種類。

使用方法

新しいケースまたはリードを作成または更新する前に、クライアントアプリケーションは `AssignmentRule` に `query()` を(名前で) 実行し、使用する割り当てルールの ID を取得して、その ID を `AssignmentRuleHeader` の `assignmentRuleId` 項目に割り当てるすることができます。詳細は、「[AssignmentRuleHeader](#)」を参照してください。

## AsyncApexJob

`future` アノテーションで個々の Apex 共有再計算ジョブ、バッチ Apex ジョブまたはメソッドを表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`

## 項目

項目名	項目の種別	項目のプロパティ	説明
ApexClassID	reference	Filter Nillable	ジョブを実行するApex クラス ID。ラベルはクラス ID です。
CompletedDate	dateTime	Filter Nillable	ジョブが完了した日付と時間。
JobItemsProcessed	int	Filter	処理されるジョブ項目数。ラベルは処理バッチです。
JobType	picklist	Filter Restricted picklist	処理されるジョブの種類。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• future</li><li>• SharingRecalculation</li><li>• batchApex</li></ul>
MethodName	string	Filter Nillable	実行されるApex メソッドの名前。ラベルは Apex メソッドです。
NumberOfErrors	int	Filter Nillable	失敗したバッチの合計数。バッチはトランザクションとみなされているため、処理されていない例外はバッチの全体の失敗を構成します。ラベルは失敗です。
Status	picklist	Filter Restricted picklist	ジョブの状況。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Queued</li><li>• Processing</li><li>• Aborted</li><li>• Completed</li><li>• Failed</li></ul>
TotalJobItems	int	Filter Nillable	処理されるバッチの合計数。各バッチには一連のレコードが含まれています。ラベルはバッチ合計です。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、組織内の Apex バッチジョブを問い合わせます。

**Attachment**

ユーザが親オブジェクトにアップロードおよび添付したファイルを表します。

## サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Body	base64	Create Update	必須。エンコードされたファイルデータ。
BodyLength	int	Filter Nillable	ファイルのサイズ(バイト)。
ConnectionReceivedId	reference	Filter Nillable	組織とこのレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。
ConnectionSentId	reference	Filter Nillable	このレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。API バージョン 15.0 以降では、ConnectionSentId の項目はサポートされていません。ConnectionSentId 項目は使用できますが、値は Null です。レコードを接続に転送するには、新しい <a href="#">PartnerNetworkRecordConnection</a> を使用します。
ContentType	string	Create Filter Nillable Update	添付ファイルのコンテンツタイプ。  組織で [HTML ドキュメントと添付ファイルを許可しない] セキュリティ設定が有効になっている場合は、htm、html、htt、htx、mhtm、mhtml、shtm、shtml、およびacgi の拡張子を持つファイルのアップロードはできません。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
IsPartnerShared	boolean	Defaulted on create Filter Update	このレコードが、Salesforce to Salesforce を使用して接続を共有するかどうかを示します。ラベルはパートナーと共有です。
IsPrivate	boolean	Create Defaulted on create Filter	このレコードが所有者および管理者のみに表示されるか(true)、すべてのユーザに表示されるか(false)を示します。 <code>create()</code> コールまたは <code>update()</code> コール時、所有者でない場合でも、添付ファイルレコードを非公開としてマークすることができます。これによ

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	り、挿入または更新したレコードにアクセスできなくなります。ラベルは非公開です。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須。添付ファイルの名前。ラベルはファイル名です。
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter Update	添付ファイルを所有する <a href="#">ユーザ</a> の ID。ID についての詳細は、 <a href="#">「ID データ型」</a> を参照してくださいこの項目は、リリース 9.0 より前のバージョンで必須です。リリース 9.0 以降では、create は null とすることができます。
ParentId	reference	Create Filter	必須。添付ファイルの親オブジェクトの ID。以下のオブジェクトは、添付ファイルの親としてサポートされます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 取引先</li> <li>・ 納入商品</li> <li>・ キャンペーン</li> <li>・ ケース</li> <li>・ 取引先責任者</li> <li>・ 契約</li> <li>・ カスタムオブジェクト</li> <li>・ 電子メールメッセージ</li> <li>・ 電子メールテンプレート</li> <li>・ 行動</li> <li>・ リード</li> <li>・ 商談</li> <li>・ 商品</li> <li>・ ソリューション</li> <li>・ ToDo</li> </ul> ID についての詳細は、 <a href="#">「ID データ型」</a> を参照してください

## 使用方法

API は、base64Binary データ型にエンコードされたバイナリファイルの添付ファイルデータを送受信します。[create\(\)](#) の前に、クライアントアプリケーションはバイナリ添付データを base64 にエンコードする必要があります。レスポンスを受け取り次第、クライアントアプリケーションは、base64 データをバイナリ(この変換は通常 SOAP クライアントで処理します)にデコードする必要があります。

`create()` コールはこれらのファイルのサイズを、最大 5 MB に制限します。ソリューションに添付されたファイルの場合、最大 1.5 MB です。電子メール添付ファイルの最大サイズは 3 MB です。

API は、`create()`、`delete()`、および`update()` コールで電子メールの添付ファイルをサポートしています。`query()` コールは、クエリを実行しているユーザに「すべてのデータを変更する」権限が割り当てられていない限り、電子メールが親である添付ファイルを返しません。



メモ: `search()` コールは、テキスト検索時に添付ファイルレコードを検索しません。

項目へのアクセスは、使用されるメソッドによって異なります。

- `describeSObjects()` コールおよび `query()` コールを使用すると、すべての項目にアクセスできます。`create()` コールを使用すると、`Name`、`ParentId`、`Body`、`IsPrivate`、および `OwnerId` 項目を挿入できます。
- 既存のレコードを変更するために、`update()` コールが `Name`、`Body`、`IsPrivate`、`OwnerId` 項目を変更するためのアクセス権限を割り当てるることができます。
- `query()` コールを使用して、すべての項目にアクセスできます。ただし、単一の `query()` コールで複数のレコードの `Body` 項目を受信できません。クエリが `Body` 項目を返す場合、クライアントアプリケーションは 1 つの添付ファイルを持つ行は 1 つだけ返すようにし、そうでない場合はエラーが発生するようにする必要があります。ID (`Body` 項目の添付ファイルではない) を `query()` コールから返し、ID を `Body` 項目を返す `retrieve()` コールに渡すとより効率的です。
- アーカイブ済み活動の添付ファイルにアクセスする際の詳細は、「アーカイブ済みの活動」を参照してください。

## Bookmark

共通の情報を共有する商談間のリンクを表します。

このオブジェクトは、類似商談機能を有効化している組織で使用できます。

サポートされているコール

`query()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
ID	ID	Defaulted on create Filter	ブックマークの ID。ラベルはブックマーク ID です。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
FromId	ID	Filter	発生する商談。ラベルはブックマーク元 ID です。
ToId	ID	Filter	発生元の商談がリンクする商談。ラベルはブックマーク先 ID です。

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。

## 使用方法

ブックマークオブジェクトは、商談オブジェクトとだけ連動します。

この参照専用オブジェクトを使用して、組織内の商談間のブックマークを問い合わせます。オンラインアプリケーションで、ユーザは商談と属性を共有する商談を検索できます。ユーザは、将来参照するために適切な商談にブックマークを指定できます。

## BrandTemplate

HTML [EmailTemplate](#) のレターへッド。

サポートされているコール

`create()`、`query()`、`retrieve()`、`update()`、`upsert()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Description	string	Create Filter Nullable Update	レターへッドの説明。最大 1000 文字です。
DeveloperName	string	Create Filter Nullable Update	API のオブジェクトの一意の名前。この名前は、アンダースコアと英数字のみを含み、組織内で一意の名前にする必要があります。最初は文字であること、スペースは使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。管理パッケージで、この項目を使用することにより、パッケージインストール時の名前の競合を回避します。この項目を使用して、開発者は管理パッケージのオブジェクト名を変更し、変更は登録

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			者の組織で反映されます。ラベルはレターヘッドの一意名です。
IsActive	boolean	Create Defaulted on create  Filter  idLookup  Update	レターヘッドを使用できるか(true)否か(false)を示します。ラベルは有効です。
Name	string	Create Filter Update	Salesforce.com ユーザインターフェースに表示されたテンプレートのラベル最大 255 文字です。ラベルはブランドテンプレート名です。
NamespacePrefix	string	Filter Nillable	<p>このオブジェクトと関連付けられた名前空間 префикс。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間 префиксがあります。上限は 15 文字です。</p> <p><i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。</p> <p>名前空間 префиксには、次のいずれかの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織では、名前空間 префиксは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間 префиксを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間 префиксが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間 префиксです。</li> <li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間 префиксはありません。</li> </ul> <p>ログインしたユーザに「アプリケーションのカスタマイズ」権限が付与されていない場合、この項目にアクセスできません。</p>
Value	textarea	Create Update	ロゴなど、レターヘッドの内容 (HTML)。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、[EmailTemplate](#) をレターヘッドでブランド付けを行います。ブランドテンプレートを有効化または無効化することもできます。たとえば、5つの異なるマーケティングブランドがある場合、1つのテンプレートにそれぞれのブランドを保存し、適切な [EmailTemplate](#) に割り当てます。

## BusinessHours

このオブジェクトを使用して、サポート組織の営業時間を指定します。エスカレーションルールは、営業時間中のみ適用されます。営業時間が休日と関連付けられている場合、営業時間と営業時間に関連付けられたエスカレーションルールは、休日と指定された期間中は中断されます。詳細は、「[休日](#)」を参照してください。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`query()`、`retrieve()`、`getUpdated()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーportalユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsActive	boolean	Create Defaulted on create  Filter  Update	営業時間が有効である( <code>true</code> )か、有効でない( <code>false</code> )かを示します。
Name	string	Create Filter Update	営業時間の名前。
IsDefault	boolean	Create Defaulted on create  Filter  Update	営業時間がデフォルトの営業時間に設定されている( <code>true</code> )か、設定されていない( <code>false</code> )かを示します。
FridayEndTime	time	Create Filter Nillable Update	営業終了時間。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
FridayStartTime	time	Create Filter Nillable Update	営業開始時間。
MondayEndTime	time	Create Filter Nillable Update	営業終了時間。
MondayStartTime	time	Create Filter Nillable Update	営業開始時間。
SaturdayEndTime	time	Create Filter Nillable Update	営業終了時間。
SaturdayStartTime	time	Create Filter Nillable Update	営業開始時間。
SundayEndTime	time	Create Filter Nillable Update	営業終了時間。
SundayStartTime	time	Create Filter Nillable Update	営業開始時間。
ThursdayEndTime	time	Create Filter Nillable Update	営業終了時間。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ThursdayStartTime	time	Create Filter Nillable Update	営業開始時間。
TimeZoneSidKey	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	営業時間のタイムゾーン。
TuesdayEndTime	time	Create Filter Nillable Update	営業終了時間。
TuesdayStartTime	time	Create Filter Nillable Update	営業開始時間。
WednesdayEndTime	time	Create Filter Nillable Update	営業終了時間。
WednesdayStartTime	time	Create Filter Nillable Update	営業開始時間。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、サポートチームが営業する営業時間を指定します。エスカレーションアクションは、関連付けられた営業時間内でのみ実行されます。営業時間を 1 日 24 時間に設定するには、毎日の時間を午前 0 時から午前 0 時 (00:00:00 – 00:00:00) に設定します。

デフォルトでは、営業時間は、組織プロファイルで指定しているデフォルトのタイムゾーンで、午前 12 時から午前 12 時に設定されます。

## BusinessProcess

ビジネスプロセスを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`query()`、`retrieve()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

カスタマーportalユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Description	string	Create Filter Nillable Update	このビジネスプロセスの説明。最大 255 文字です。
IsActive	boolean	Defaulted on create Filter idLookup Update	新しいレコードタイプを作成する場合、既存のレコードタイプのビジネスプロセスを変更する場合、ビジネスプロセスが Salesforce.com ユーザインターフェースに表示できるか ( <code>true</code> ) できないか ( <code>false</code> ) を示します。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須。このビジネスプロセスの名前。最大 80 文字です。
NamespacePrefix	string	Filter Nillable	このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。 <i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。 名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オ</li></ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			<p>プロジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li></ul>
TableEnumOrId	picklist	Create Filter Restricted picklist	必須。値は、 <a href="#">ケース</a> 、 <a href="#">商談</a> 、または <a href="#">ソリューション</a> のいずれかになります。ラベルはエンティティ列挙組織 ID です。

## 使用方法

BusinessProcess オブジェクトを使用して、[LeadStatus](#) 項目、[CaseStatus](#) 項目、および[OpportunityStage](#) 項目のさまざまなユーザに、選択リスト値のさまざまなサブセットを提供します。RecordType と同様に、BusinessProcess は、[ケース](#)、[リード](#)、または[商談](#)の行のデータ型を識別子、これら3項目の選択値のサブセットを示します。残りの選択リスト項目の値は、RecordType から除外されます。

## CallCenter

このオブジェクトはコールセンターを表します。コールセンターは、組織のコンピュータテレフォニー統合(CTI)システムの論理的表現です。

### サポートされているコール

`create()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObject()`、`describeSObjects()`、`getUpdated()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CreatedById	reference	Defaulted on create Filter	このコールセンターを作成したユーザの ID を指定するシステム項目。
CreatedDate	dateTime	Defaulted on create Filter	このコールセンターが作成された日付と時間を指定するシステム項目。
Id	ID	Defaulted on create Filter	このコールセンターを一意で識別するシステム項目。ラベルはコールセンターIDです。このIDは、コールセンターが作成されると、自動的に作成されます。
InternalName	string	Create Filter Nullable	コールセンターの内部名。 最大 255 文字です。
LastModifiedById	reference	Defaulted on create Filter	このコールセンターを最後に更新したユーザの ID を指定するシステム項目。
LastModifiedDate	dateTime	Defaulted on create Filter	このコールセンターが最後に更新された日付と時間を指定するシステム項目。
Name	string	Create Filter idLookup	コールセンターの名前。 最大 80 文字です。
SystemModstamp	dateTime	Defaulted on create Filter	このコールセンターがユーザまたはワークフロープロセスで最後に変更された日付と時間を指定するシステム項目。

## 使用方法

コールセンターを作成、または既存のコールセンターを問い合わせます。

## キャンペーン

ダイレクトメールによる販売促進、Web セミナー、展示会など、マーケティングキャンペーン情報を管理します。

## サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`undelete()`、`merge()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`、`upsert()`

## 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

Salesforce.com ユーザインターフェース同様、キャンペーン統計項目は参照専用です。API を使用しても統計を更新できません。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ActualCost	<a href="#">currency</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	キャンペーン実行にかかった金額。
AmountAllOpportunities	<a href="#">currency</a>	<a href="#">Filter</a>	成立した商談も含めて、キャンペーンに関連付けられたすべての商談の金額。ラベルは商談合計金額です。
AmountWonOpportunities	<a href="#">currency</a>	<a href="#">Filter</a>	キャンペーンに関連付けられた成立した商談の金額。ラベルは成立商談合計金額です。
BudgetedCost	<a href="#">currency</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	キャンペーンの予算金額。
CampaignMemberRecordTypeId	<a href="#">reference</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	キャンペーンに関連付けられた <a href="#">CampaignMember</a> レコードのレコードタイプ ID。
CurrencyIsoCode	<a href="#">picklist</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Defaulted on create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Restricted picklist</a> <a href="#">Update</a>	マルチ通貨機能を有効化している組織にのみ使用できます。組織で使用できる通貨の ISO コードが指定されています。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Description	textarea	Create Nillable Update	キャンペーンの説明。最大 32 KB です。レポートには、最初の 255 文字だけが表示されます。
EndDate	date	Create Filter Nillable Update	キャンペーンの終了日。この日付以降に受信したレスポンスもカウントされます。
ExpectedResponse	percent	Create Filter Nillable Update	キャンペーンへのレスポンス見込み率(パーセント)。
ExpectedRevenue	currency	Create Filter Nillable Update	キャンペーンによる見込収益額。
HierarchyActualCost	currency	Filter	キャンペーン階層のキャンペーンを実行するために使用する合計金額の計算済み項目。ラベルは、階層内の実費合計です。
HierarchyBudgetedCost	currency	Filter	キャンペーン階層のキャンペーンを実行するための予算の合計金額を示す計算済み項目。ラベルは、階層内の予算合計です。
HierarchyExpectedRevenue	currency	Filter	キャンペーン階層のキャンペーンから得られると考えられる合計金額の計算済み項目。ラベルは、階層内の見込み収益合計です。
HierarchyNumberSent	int	Filter	キャンペーン階層のキャンペーンの対象となる個人の合計数を示す計算済み項目。たとえば、電子メールを送信した数など。ラベルは、階層内の送信数合計です。
IsActive	boolean	Create Filter Nillable Update	このキャンペーンが有効(true)か有効でない(false)かを示します。デフォルト値は false です。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
LastActivityDate	date	Filter Nillable	値は、最新のものであれば、次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"><li>レコードに記録された最新イベントの期日。</li><li>レコード関連する、最近終了したタスクの期日。</li></ul>
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須。キャンペーンの名前。最大 80 文字です。
NumberOfContacts	int	Filter	キャンペーンに関連付けられた取引先責任者の数。ラベルは取引先責任者合計です。
NumberOfConvertedLeads	int	Filter	キャンペーンにおけるマーケティングの努力の結果、取引先および取引先責任者に変換されたリード数。ラベルは変換されたリードです。
NumberOfLeads	int	Filter	キャンペーンに関連付けられたリードの数。ラベルはリード合計です。
NumberOfOpportunities	int	Filter	キャンペーンに関連付けられた商談の数。ラベルは商談数合計です。
NumberOfResponses	int	Filter	キャンペーン階層の[メンバーの状況]が「レスポンスあり」になっている取引先責任者と取引未開始リードの数。ラベルはレスポンス数合計です。
NumberOfWonOpportunities	int	Filter	キャンペーンに関連付けられた成立した商談の数。ラベルは成立商談数合計です。
NumberSent	double	Create Filter Nillable Update	キャンペーンの対象となった個人数。たとえば、電子メールを送信した数など。ラベルは送信数です。
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter Update	このキャンペーン所有するユーザの ID。デフォルト値は、create を実行するために API にログインするユーザです。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ParentCampaign	reference	Create Filter Nillable Update	選択したキャンペーンよりキャンペーン階層内で上位にあるキャンペーン。
RecordTypeId	reference	Create Filter Nillable Update	このオブジェクトに割り当てるレコードタイプの ID。
StartDate	date	Create Filter Nillable Update	キャンペーンの開始日。
Status	picklist	Create Filter Nillable Update	たとえば、「計画済み」、「処理中」などキャンペーンの状況。最大 40 文字です。
TotalAmountAllOpportunities	currency	Filter	成立した商談も含めて、キャンペーン階層に関連付けられたすべての商談額を合計した金額を示す項目。ラベルは階層内の商談合計金額です。
TotalAmountAllWonOpportunities	currency	Filter	キャンペーン階層に関連付けられた成立商談の合計金額を示す項目。ラベルは階層内の成立商談合計金額です。
TotalNumberofContacts	int	Filter	キャンペーン階層に関連付けられた取引先責任者数の合計を示す項目。ラベルは階層内の取引先責任者合計です。
TotalNumberofConvertedLeads	int	Filter	取引先、取引先責任者、および商談に変換されたキャンペーン階層に関連付けられたリード数の合計を示す項目。ラベルは階層内の変換されたリード合計です。
TotalNumberofLeads	int	Filter	キャンペーン階層に関連付けられたリードの合計数を示す項目。この数には、取引開始済みのリードも含まれます。ラベルは階層内のリード数合計です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
TotalNumberofOpportunities	int	Filter	キャンペーン階層に関連付けられた商談の合計数を示す項目。ラベルは階層内の商談数合計です。
TotalNumberofResponses	int	Filter	キャンペーン階層の [メンバーの状況] が「レスポンスあり」になっている取引先責任者と取引未開始リードの合計を示す項目。ラベルは階層内のレスポンス数合計です。
TotalNumberofWonOpportunities	int	Filter	キャンペーン階層に関連付けられた成立商談の合計数を示す項目。ラベルは階層内の成立商談数合計です。
Type	picklist	Create Filter Nillable Update	たとえば、「ダイレクトメール」、「紹介プログラム」などキャンペーンの種別。最大40文字です。

## 使用方法

クライアントアプリケーションは、API を使用してキャンペーンに関連する添付ファイルに、[create\(\)](#)、[update\(\)](#)、[delete\(\)](#)、および [query\(\)](#) を実行できます。

キャンペーンオブジェクトは、マーケティング機能を使用でき、有効なマーケティングライセンスを付与されている組織にのみ定義されています。また、マーケティングユーザとして有効化されているユーザのみアクセスできます。組織にマーケティング機能または有効なマーケティングライセンスが付与されていない場合、このオブジェクトは[describeGlobal\(\)](#) コールに表示されず、キャンペーンオブジェクトでは、[describeSObjects\(\)](#) または [query\(\)](#) を使用できません。



メモ: キャンペーンの主な構成要素は、[CampaignMember](#) です。一般的に、キャンペーンは [CampaignMember](#) を使用して更新する必要があります。

## CampaignMember

キャンペーンと、リードまたは取引先責任者との間の関連を表します。

サポートされているコール

[create\(\)](#)、[update\(\)](#)、[delete\(\)](#)、[describeSObjects\(\)](#)、[query\(\)](#)、[retrieve\(\)](#)、[getDeleted\(\)](#)、[getUpdated\(\)](#)

API バージョン 16.0 以降: [upsert\(\)](#)

## 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CampaignId	reference	Create	必須。この リードまたは 取引先責任者が関連付けられている キャンペーン の ID。IDについての詳細は、「ID データ型」を参照してください。
		Filter	
ContactId	reference	Create	必須。 キャンペーン に関連付けられている取引先責任者の ID。
		Filter	
		Nillable	
CurrencyIsoCode	picklist	Create	マルチ通貨機能を有効化している組織にのみ使用できます。組織で使用できる通貨の ISO コードが指定されています。
		Defaulted on create	
		Filter	
		Nillable	
		Restricted picklist	
FirstRespondedDate	date	Update	
		Filter	キャンペーンメンバーが、最初にレスポンスありの状況に指定された日付を示します。
		Nillable	
HasResponded	boolean	Defaulted on create	キャンペーンメンバーが、キャンペーンにレスポンスを行った (true) か、そうでないか (false) を示します。
		Filter	
LeadId	reference	Create	必須。 キャンペーン に関連付けられているリードの ID。
		Filter	
		Nillable	
RecordTypeId	reference	Filter	このオブジェクトに割り当てられるレコードタイプの ID。レコードタイプを変更するには、関連付けられた キャンペーン の CampaignMemberRecordTypeId の項目を変更します。
		Nillable	
Status	picklist	Create	このオブジェクトの HasResponded フラグを制御します。参照専用であるため、 HasResponded フラグを直接設定できませんが、この項目を create コールまたは update コールで設定することで間接的に設定することができます。それぞれの事前定義された値は、 HasResponded フラグ値を意味します。この項目を更
		Filter	
		Nillable	
		Update	

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			<p>新するごとに、<code>HasResponded</code> フラグを暗黙的に更新します。Salesforce.com ユーザインターフェースで、マーケティングユーザは、[状況] 選択リストの有効な状況値を定義できます。デフォルトの状況として、1つの状況を選択できます。それぞれの状況項目値について、「レスポンスあり」としてカウントする必要のある値を選択することもできます。つまり、<code>HasResponded</code> フラグがそれらの値の <code>true</code> に設定されます。</p> <p>最大 40 文字です。</p>



メモ: CampaignMember データを Salesforce.com にインポートし、`CreatedDate` など、監査項目に値を設定する必要がある場合、salesforce.com に連絡してください。これらの項目を自分で設定する必要がない限り、監査項目は API 操作時に自動的に更新されます。詳細は、「[システム項目](#)」を参照してください。

## 使用方法

各レコードには一意の ID があり、`ContactId` または `LeadId` のいずれかを指定する必要がありますが、両方を指定することはできません。両方を指定して 1 つのレコードを作成しようとすると正常に挿入されますが、`ContactId` のみが挿入されます。ただし、[キャンペーン](#) に 2 つの個別のレコードを作成できます。1 つはリード、もう 1 つは取引先責任者のレコードです。

このオブジェクトは、マーケティング機能を使用でき、有効なマーケティングライセンスを付与されている組織にのみ定義されています。また、マーケティングユーザとして有効化されているユーザのみアクセスできます。組織にマーケティング機能または有効なマーケティングライセンスが付与されていない場合、このオブジェクトは `describeGlobal()` コールに現れず、CampaignMember オブジェクトとともに `describeSObjects()` または `query()` を使用することはできません。

API バージョン 16.0 以降では、`create()` コールは新しいレコードを作成するだけですが、以前のバージョンでは、`create()` コールはレコードを作成し、更新します。API は、指定された `CampaignId` および `ContactId` または `LeadId` にレコードが存在するのかを指定します。



メモ: 取引先責任者に変換するリードベースのキャンペーンメンバーを追跡しないかぎり、`ContactId` または `LeadId` のいずれかを使用し、2 つ同時に使用しません。

指定された `ContactId` または `LeadId` にレコードが存在しない場合、`create()` が実行されます。レコードが存在する場合、エラーが返され、更新は行われません。既存のレコードを更新するには、`update()` コールを使用して、更新する CampaignMember レコードの ID を指定します。

API バージョン 15.0 以前では、`create()` コールを 1 つ使用して複数のレコードを登録する場合、そして複数のレコードを既存のレコードにマッチさせる場合、登録された最初のレコードのみが既存のレコードを更新します。登録されたレコードのいずれかがお互いにマッチしても既存のレコードにはマッチしない場合、登録された最後のレコードのみが作成されます。

API バージョン 16.0 以降でレコードを同時に作成および更新するには、`upsert()` コールを使用します。以前の API バージョンでは、`upsert()` コールはサポートされていません。このオブジェクトに `upsert()` コールを使用するには、まずレコード ID 以外の ID 項目のすべてのデータを削除する必要があります。

レコードを削除するには、`delete()` コールを使用して、削除する CampaignMember レコードの ID を指定します。

`create()` コールまたは`update()` コール時、コールで指定された `Status` 項目値は、指定された [キャンペーン](#) で有効な状況として確認されます。

- 指定された `Status` 値が有効な状況である場合、値が更新され、`HasResponded` に関連付けられた `Status` の値に応じて、`HasResponded` 項目が `true` または `false` に更新されます。
- 指定された `Status` の値が有効な状況ではない場合、API はデフォルトの状況を `Status` 項目に割り当て、関連付けられた値で `HasResponded` 項目を更新します。ただし、指定された [キャンペーン](#) にデフォルトの状況がない場合、API はコールで指定された値を `Status` 項目に割り当て、`HasResponded` 項目は `false` に設定します。

## CampaignMemberStatus

キャンペーンに定義された、1つまたは複数のメンバーの状況の値。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`queryAll()`、`queryMore()`、`retrieve()`、`update()`、`upsert()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

状況がデフォルトの状況として指定されている場合、または状況が現在 [キャンペーン](#) で使用されている場合、CampaignMemberStatus に `delete()` を実行できません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CampaignId	<code>reference</code>	<code>Create</code> <code>Filter</code>	このメンバーの状況に関連付けられたキャンペーンの ID。
HasResponded	<code>boolean</code>	<code>Create</code> <code>Defaulted</code> <code>on create</code> <code>Filter</code> <code>Update</code>	この状況が「レスポンスあり」であるか ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsDefault	boolean	Create Defaulted on create  Filter  Update	この状況がデフォルトの状況であるか(true) 否か(false) を示します。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false) かを示します。ラベルは削除済みです。
Label	string	Create Filter	選択リスト内の状況のラベル。最大 765 文字です。
SortOrder	int	Create Filter  Update	キャンペーンメンバーの状況が選択リストに表示される順序。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、キャンペーンのメンバーの状況についての選択リストの項目を作成します。

このオブジェクトは、マーケティング機能を使用でき、有効なマーケティングライセンスを付与されている組織にのみ定義されています。また、マーケティングユーザーとして有効化されているユーザのみアクセスできます。組織にマーケティング機能または有効なマーケティングライセンスが付与されていない場合、このオブジェクトは `describeGlobal()` コールに表示されず、`CampaignMember` オブジェクトとともに `describeSObjects()` または `query()` を使用できません。

## CampaignOwnerSharingRule

所有者、またはロール階層内で所有者より上のユーザ以外のユーザとキャンペーンを共有するルールを表します。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「共有ルールの設定」を参照してください。



メモ: salesforce.com のカスタマーサポートに連絡して、組織のこのオブジェクトに対するアクセス権限を有効化します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CampaignAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	対象のグループ、またはUserRoleに付与されたアクセス権限の種類を表す値。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Read</li><li>• Edit</li><li>• All</li></ul>
GroupId	reference	Create Filter	ソースグループを表す ID。ソースグループ内のユーザが所有するキャンペーンが、アクセス権限を割り当てるルールをトリガします。
UserorGroupId	reference	Create Filter	アクセス権限が割り当てられているユーザまたはグループを表す ID。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、特定のオブジェクトの共有ルールを管理します。

## CampaignShare

キャンペーンの共有エントリを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CampaignId	reference	Create Filter	この共有エントリに関連付けられたキャンペーンの ID。この項目を更新することはできません。IDについての詳細は、「IDデータ型」を参照してください。
CampaignAccessLevel	picklist	Create Defaulted on create Filter Restricted picklist	キャンペーンに対してユーザまたはグループが持つアクセスのレベル。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Read</li><li>• Edit</li><li>• All (この値は、<code>create()</code> コールまたは <code>update()</code> コールには使用できません。)</li></ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	この項目は、少なくとも組織のデフォルトである <a href="#">キャンペーン</a> より高いアクセスレベルに設定する必要があります。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
RowCause	picklist	Filter Restricted picklist	<p>共有エントリが存在する理由。参照のみ。次のような、多くの値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Campaign Sharing Rule</b>— ユーザまたはグループには、<a href="#">キャンペーン</a>共有ルールを介したアクセス権限が割り当てられています。</li> <li><b>Manual Sharing</b>— 「All」のアクセス権限を持つユーザが手動で<a href="#">キャンペーン</a>を共有していたため、ユーザまたはグループにアクセス権限が割り当てられています。</li> <li><b>Owner</b>— ユーザは、<a href="#">キャンペーン</a>の所有者、またはロール階層の<a href="#">キャンペーン</a>所有者の上にあるロールです。</li> </ul>
UserOrGroupId	reference	Create Filter	<a href="#">キャンペーン</a> に対してアクセス権限が割り当てられたユーザまたはグループの ID。この項目を更新することはできません。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、他のユーザが所有する[キャンペーン](#)を参照および登録できるユーザやグループを指定することができます。

## CampaignTag

単語または短い語句を[キャンペーン](#)に関連付けます。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい TagDefinition が作成され、このタグオブジェクトの親となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親関係は自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	<p>タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Public:</b> 組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li> <li><b>Personal:</b> タグは、OwnerId に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li> </ul>

## 使用方法

CampaignTag は、親 TagDefinition とタグ付けされている キャンペーン との関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## ケース

顧客からのフィードバック、問題、質問など、顧客の問題であるケースを表します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`upsert()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccountId	reference	Create Filter Nullable Update	ケースと関連付けられた取引先の ID。この値の指定についての詳細は、「 <a href="#">ケースの取引先と取引先責任者の分割</a> 」。
CaseNumber	string	Autonumber Defaulted on create Filter idLookup	ケースが挿入されると自動的に割り当てられます。直接設定できず、ケースが作成されると変更することができません。
ClosedDate	dateTime	Filter Nullable	ケースが完了した日付と時間。
ConnectionReceivedId	reference	Filter Nullable	組織とこのレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。
ConnectionSentId	reference	Filter Nullable	このレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。API バージョン 15.0 以降では、ConnectionSentId の項目はサポートされていません。ConnectionSentId 項目は使用できますが、値は Null です。レコードを接続に転送するには、新しい <a href="#">PartnerNetworkRecordConnection</a> を使用します。
ContactId	reference	Create Filter Nullable Update	関連付けられた取引先責任者の ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
Description	textarea	Create Nullable Update	ケースのテキストによる説明。最大 32 KB です。
HasCommentsUnreadByOwner	boolean	Defaulted on create Filter	ケースに所有者がまだ読み取っていないコメントがあるか (true) 否か (false) を示します。
HasSelfServiceComments	boolean	Defaulted on create Filter	ケースにセルフサービスユーザが追加したコメントがあるか (true) 否か (false) を示します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsClosed	boolean	Defaulted on create Filter	ケースが終了しているか(true)否か(false)を示します。この項目は <a href="#">Status</a> 項目に制御されています。直接設定することはできません。
IsClosedOnCreate	boolean	Defaulted on create Filter	このケースが作成されたのと同時に終了したか(true)否か(false)を示します。このフラグは参照専用で、 <a href="#">create()</a> 時に自動的に設定されます。 <a href="#">IsClosed</a> フラグも true 出ない限り、true に設定することができます。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。
IsEscalated	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ケースがエスカレートしたか(true)否かを示します。ケースのエスカレートした状況は、ケースをどのように使用できるか、またはそのケースに <a href="#">query()</a> 、 <a href="#">delete()</a> 、 <a href="#">update()</a> を実行できるかどうかに影響は与えません。ただし、APIを使用してこのフラグを設定できません。ケースエスカレーションの詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。
IsSelfServiceClosed	boolean	Defaulted on create Filter	セルフサービスユーザのケースが終了しているか(true)否か(false)を示します。
IsVisibleInSelfService	boolean	Defaulted on create Filter	カスタマーセルフサービスポータルにケースを表示できるか(true)否か(false)を示します。
Origin	picklist	Create Filter Nillable Update	「電子メール」、「電話」、または「Web」など、ケースのソース。ラベルはケース発生源です。
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter Update	ケースを所有する取引先責任者の ID。
ParentId	reference	Create Filter Nillable	階層内の親ケースの ID。ラベルは親ケースです。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	
Priority	picklist	Create Filter	「高」、「中」、または「低」など、ケースの重要度または緊急度。
		Nillable	
		Update	
Reason	picklist	Create Filter	「指示が明確でない」または「ユーザがトレーニングに出席しなかった」など、ケースが作成された理由。
		Nillable	
		Update	
RecordTypeId	reference	Create Filter	このオブジェクトに割り当てられるレコードタイプの ID。
		Nillable	
		Update	
Status	picklist	Create Defaulted on create Filter	「新規」、「終了」、または「エスカレート済み」など、ケースの状況。この項目は、 <code>IsClosed</code> フラグを直接制御します。それぞれの事前定義された <code>Status</code> 値は、 <code>IsClosed</code> フラグ値を意味します。詳細は、「CaseStatus」を参照してください。
		Nillable	
		Update	
Subject	string	Create Filter	ケースの件名です。最大 255 文字です。
		Nillable	
		Update	
SuppliedCompany	string	Create Filter	ケース作成時に入力された会社名。ケースが作成された後は更新できません。ラベルは会社です。
		Nillable	
		Update	
SuppliedEmail	email	Create Filter	ケース作成時に入力された電子メールアドレス。ケースが作成された後は更新できません。
		Nillable	組織に有効な自動レスポンスルールがある場合、API を使用してケースを作成する場合は <code>SuppliedEmail</code> が必要です。自動レスポンスルールでは、 <code>ContactId</code> で指定された取引先責任者の電子メールを使用します。取引先責任者レコードに電子メールアドレスがな
		Update	

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			い場合、ここで指定された電子メールが使用されます。詳細は、Salesforce.comオンラインヘルプの「自動レスポンスルールの設定」を参照してください。
SuppliedName	string	Create Filter Nillable Update	ケース作成時に入力された名前。ケースが作成された後は更新できません。
SuppliedPhone	string	Create Filter Nillable Update	ケース作成時に入力された電話番号。ケースが作成された後は更新できません。
Type	picklist	Create Filter Nillable Update	「機能要求」、または「質問」など、ケースの種類。



メモ: ケースデータを Salesforce.com にインポートし、`CreatedDate` など、監査項目に値を設定する必要がある場合、salesforce.com に連絡してください。これらの項目を自身で設定する必要がない限り、監査項目は API 操作時に自動的に更新されます。詳細は、「[システム項目](#)」を参照してください。

## 使用方法

ケースオブジェクトを使用して、組織のケースを管理します。クライアントアプリケーションは、API を使用して、ケースと関連付けられた添付ファイルに `query()`、`delete()`、`update()`、`query()` を実行できます。

## 割り当てルール

ケースに `create()` または `update()` を実行すると、クライアントアプリケーションは、Salesforce.com ユーザインターフェースで設定された割り当てルールに基づいて、ケースを自動的に1つまたは複数のユーザを割り当てることができます。この機能を使用するために、クライアントアプリケーションは、`create()` コールまたは `update()` コールで使用されている `AssignmentRuleHeader` に次のオプションのいずれかを設定する必要があります。

項目	項目のデータ型	説明
assignmentRuleId	reference	使用する割り当てルールの名前。無効な割り当てルールの場合があります。指定されていない場合および <code>useDefaultRule</code> が <code>true</code> の場合、デフォルトの割り当てルールが使用されます。指定された割り当てルールの ID を検索するには、 <code>AssignmentRule</code> オブジェクトを問い合わせ

項目	項目のデータ型	説明
		(RuleType="caseAssignment" を指定)、返される AssignmentRule オブジェクトを反復、使用する割り当てルールを検索してその ID を取得し、AssignmentRuleHeader のこの項目にこの ID を設定します。
useDefaultRule	boolean	ルールに基づいた割り当てのデフォルトルールを使用するか(true)否か(false)かを示します。デフォルトルールは、Salesforce.com ユーザーインターフェースで割り当てられます。

リードの AssignmentRuleHeader の設定 (ケースの AssignmentRuleHeader の設定と同様) を示すコード例については、「リード」を参照してください。

#### ケースの取引先と取引先責任者の分割

リリース 8.0 より前では、AccountId を指定できる、取引先責任者のアカウントから取得されていました。この処理は、今後のリリースでもサポートが継続されますが、現在では AccountId を指定することができます。ケースの作成時に AccountId を指定しない場合、値は取引先の AccountId にデフォルト設定されます。



メモ: レコードを更新するとき、ContactId が変更されない場合、AccountId は再生成されません。これにより、API が、Salesforce.com ユーザーインターフェースで以前変更された値を上書きしないようにします。ただし、API コールが ContactId を変更して AccountId 項目が空欄である場合、AccountId が取引先責任者のアカウントを使用して生成されます。

#### Java での \_case の使用

使用する開発ツールによって、Case の代わりに \_case を使用してアプリケーションを更新する必要があります。これは、case が Java の予約語であるためです。

## CaseComment

関連付けられたケースに関する追加情報を提供するコメントを表します。

#### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

#### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CommentBody	textarea	Create Filter Nillable	CaseComment のテキスト。コメント本文のは 4000 バイトまでです。ラベルは本文です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ConnectionReceivedId	reference	Filter Nillable	組織とこのレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。
ConnectionSentId	reference	Filter Nillable	このレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。API バージョン 15.0 以降では、ConnectionSentId の項目はサポートされていません。ConnectionSentId 項目は使用できますが、値は Null です。レコードを接続に転送するには、新しい <a href="#">PartnerNetworkRecordConnection</a> を使用します。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
IsPublished	boolean	Create Filter Defaulted on create Update	CaseComment がセルフサービスポータルのユーザに表示されるか(true)否か(false)を示します。ラベルは公開です。API を使用し更新できる CaseComment 項目のみを示します。
ParentId	reference	Create Filter	必須。CaseComment の親ケースの ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください。



メモ: CaseComment データを Salesforce.com にインポートし、CreatedDate など、監査項目に値を設定する必要がある場合、salesforce.com に連絡してください。これらの項目を自身で設定する必要がない限り、監査項目は API 操作時に自動的に更新されます。詳細は、「[システム項目](#)」を参照してください。

## 使用方法

Salesforce.com ユーザインターフェースで、コメントは通常、[ケース](#)を処理する[ユーザ](#)が入力します。すべてのユーザに、Salesforce.com ユーザインターフェースおよび API 使用時に [CaseComments](#) を作成および表示するアクセス権限が付与されています。API で、ユーザにケースの「すべてを変更」のオブジェクトレベルの権限、または「すべてのデータを変更する」権限が付与されていない限り、挿入後に [CaseComments](#) を変更することはできません。権限が付与されていない場合、ユーザは [IsPublished](#) 項目のみを更新でき、[CaseComments](#) を削除することはできません。

## CaseContactRole

指定された取引先責任者が[ケース](#)を持つロールを表します。

## サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CasesId	reference	Create Filter	この取引先責任者に関連付けられているケースのID。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください。
ContactId	reference	Create Filter Update	必須。取引先責任者の ID。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
ロール (役割)	picklist	Create Filter Nillable Update	意思決定者、承認者、バイヤーなど、この契約に取引先責任者が持つロールの名前。一意である必要があります。 <code>ContractId</code> 、 <code>ContactId</code> 、および <code>Role</code> の値が同じである複数のレコードが存在することはできません。さまざまな取引先責任者が、同じ契約に同じロールを持つことができます。また、1つの取引先責任者が、同じ契約で異なる役割を持つこともできます。

## 使用方法

指定された[ケース](#)が[取引先責任者](#)に持つロールを定義します。たとえば、このオブジェクトを使用して、ケースの主要な取引先責任者でない場合でも、ケースに関連付けられた、または取引先責任者を指定されるすべての取引先責任者を確認でき、また関連付けられたすべてのケースを問い合わせることができます。

## CaseHistory

関連する[ケース](#)に行われた変更に関する履歴情報を表します。

## サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

## 特別なアクセスルール

このオブジェクトは参照専用です。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CaseId	reference	Filter	このレコードに関連付けられているケースの ID。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください。
Field	picklist	Filter Restricted picklist	変更されたケースの名前、またはケースに対する他の変更を示す特別な値。ケース項目名のほか、使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>ownerAssignment</b> - ケースの所有者が変更されました。</li> <li><b>ownerAccepted</b> - ユーザがキューからケースの所有権を取得しました。</li> <li><b>ownerEscalated</b> - ケースのエスカレーションにより、ケースの所有者が変更されました。</li> <li><b>external</b> - ユーザがカスタマーセルフサービスポータルの顧客に表示可能なケースを作成しました。</li> </ul>
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
NewValue	anyType	Nillable	変更されたケース項目の新しい値。最大 255 文字です。
OldValue	anyType	Nillable	変更されたケース項目の以前の値。最大 255 文字です。

## 使用方法

Salesforce.com ユーザインターフェースまたは API を使用してケースを変更することによって、間接的にケース履歴エントリを作成します。

外部キー項目が変更されると、2つの行がこのレコードに追加されます。一方の行には、オンラインアプリケーションに表示される外部キーオブジェクト名が指定されます。たとえば、「Jane Doe」は、[取引先責任者](#)として記録されます。もう一方の行には、APIのみに返され、APIから表示できる実際の外部キーIDが指定されます。

このオブジェクトは、親オブジェクトの項目レベルのセキュリティに影響されます。

## CaseOwnerSharingRule

所有者以外のユーザとケースを共有するルールを表します。



メモ: salesforce.com のカスタマーサポートに連絡して、組織のこのオブジェクトに対するアクセス権限を有効化します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

特別なアクセスルール

カスタマーportalユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

Field	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CaseAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	使用できる共有の種類を表す値。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>Read</li><li>Edit</li></ul>
GroupId	reference	Create Filter	ソースグループを表す ID。ソースグループのユーザが所有するケースが、ルールをトリガしてアクセス権限を割当てます。
UserorGroupId	reference	Create Filter	対象ユーザまたはグループを表す ID。対象ユーザまたはグループにアクセスが付与されます。

使用方法

このオブジェクトを使用して、特定のケースの共有ルールを管理します。一般的な共有およびテリトリー管理に関連する共有ではこのオブジェクトを使用します。

## CaseShare

ケースの共有エントリを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`

特別なアクセスルール

カスタマーportalユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CaseAccessLevel	picklist	Filter Restricted picklist	<p>ケースに対してユーザまたはグループが持つアクセスのレベル。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Read</li> <li>Edit</li> <li>All (この値は、<code>create()</code> コールまたは <code>update()</code> コールには使用できません。)</li> </ul> <p>この項目は、少なくとも組織のデフォルトであるケースより高いアクセスレベルに設定する必要があります。</p>
CaseId	reference	Filter	この共有エントリ関連するケースの ID。この項目を更新することはできません。IDについての詳細は、「ID データ型」を参照してください。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
RowCause	picklist	Filter Restricted picklist	<p>共有エントリが存在する理由。参照のみ。値には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Manual</b> - 「All」のアクセス権限を持つユーザが手動でケースを共有していたため、ユーザまたはグループにアクセス権限が割り当てられています。</li> <li><b>Owner</b> - ユーザは、ケースの所有者、またはロール階層のケース所有者の上にあるロールです。</li> <li><b>ImplicitChild</b> - ユーザまたはグループには、このケースに関連付けられた取引先のケースへのアクセス権限が割り当てられています。</li> <li><b>Rule</b> - ユーザまたはグループには、ケース共有ルールを介したアクセス権限が割り当てられています。</li> </ul>
UserOrGroupId	reference	Filter	ケースに対してアクセス権限が割り当てられたユーザまたはグループの ID。この項目を更新することはできません。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、他のユーザが所有するケースを表示および編集できるユーザやグループを指定することができます。詳細は、「共有」を参照してください。

既存のレコードに一致する新規レコードを作成すると、`create()` コールは、変更された項目を更新し、既存のレコードを返します。

## CaseSolution

ケースとソリューションとの間の関連を表します。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CaseId	reference	Create	必須。このソリューションに関連付けられているケースの ID。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください。
		Filter	
IsDeleted	boolean	Defaulted on create	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
		Filter	
SolutionId	reference	Create Filter	必須。このレコードに関連付けられているソリューションの ID。

使用方法

API を使用してこのオブジェクトに `update()` を実行できません。既存のレコードに一致するレコードを作成しようとすると、`create()` コールは、ただ既存のレコードを返します。

## CaseStatus

新規、保留、処理中など、ケースの状況を表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
isClosed	boolean	Defaulted on create Filter	このケースの状況の値が終了したケースを表すか (true) 否か (false) を示します。複数のケースの状況の値が、終了したケースを表します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsDefault	boolean	Defaulted on create Filter	この項目が、選択リスト内のケースのデフォルト状況かどうか示します(デフォルトの場合は <code>true</code> 、そうでない場合は <code>false</code> )。
MasterLabel	string	Filter Nillable	このケースの状況の値の主レベル。この表示値は、翻訳されない内部ラベルです。
SortOrder	int	Filter Nillable	ケースの状況の選択リストのこの値を並べ替えるために使用する番号。以前のケースの状況値が一部削除されている場合があるため、これらの番号が連続的である保証はありません。

## 使用方法

このオブジェクトはケース状況の選択リストの値を表します。ケース状況の選択リストには、指定された `Status` の値が進行中のケースを表すか、終了したケースを表すかなど、[ケース](#)の状況に関する追加情報が表示されます。クライアントアプリケーションは、[CaseStatus](#) オブジェクトの `query()` コールを起動し、ケース状況の選択リストの値セットを取得できます。また、その情報を[ケース](#)の処理に使用し、指定されたケースのさらに詳細な情報を取得できます。たとえば、アプリケーションは、`Status` の値、および関連付けられた [CaseStatus](#) の `isClosed` プロパティの値に基づいて、指定されたケースが進行中であるか、または終了しているかをテストすることができます。

[CaseStatus](#) オブジェクトは、API を使用する参照専用のオブジェクトです。十分な権限を使用して、クライアントアプリケーションは、このオブジェクトに `query()` コールおよび `describeSObjects()` コールを起動できます。

## CaseTag

単語または短い語句をケースに関連付けます。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい <a href="#">TagDefinition</a> が作成され、このタグオブジェクトの親

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親関係は自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	<p>タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Public:</b> 組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li> <li><b>Personal:</b> タグは、OwnerId に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li> </ul>

## 使用方法

CaseTag は、親 TagDefinition とタグ付けされている ケース との関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## CaseTeamMember

他のユーザのチームと連携してケースを解決するケースのチームメンバーを表します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
MemberId	reference	Create Filter	ケースチームのメンバーであるユーザまたは取引先責任者の ID。
ParentId	reference	Create Filter	ケースチームメンバーが関連付けられているケースの ID。
TeamRoleId	reference	Create Filter	ケースチームメンバーが関連付けられているケースチームのロールの ID。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
TeamTemplateMemberId	reference	Filter Nillable	Update 事前定義されたケースチームに所属するチームメンバーの ID。

## CaseTeamRole

ケースチームのロールを表します。すべてのケースチームのメンバーには、「顧客の取引先責任者」または「ケース管理者」など、ケースに対するロールが割り当てられています。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	ケースの対象グループに割り当てられたアクセス権限の種類を表す値。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <code>None</code></li><li>• <code>Read</code></li><li>• <code>Edit</code></li></ul>
Name	string	Create Filter Update	ケースチームのロールの名前。
PreferencesVisibleinCSP	boolean	Create Update	ケースチームのロールがカスタマーポータルユーザに対して表示できるかどうかを示します。

## CaseTeamTemplate

ケースを解決するユーザのグループである、事前定義されたケースチームを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Description	textarea	Create Filter Nillable Update	定義済みのケースチームのテキストによる説明。
Name	string	Create Filter Update	定義済みのケースチームの名前。

**CaseTeamTemplateMember**

ケースを解決するユーザのグループである、事前定義されたケースチームのメンバーを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
MemberId	reference	Create Filter	事前定義されたケースチームのメンバーであるユーザまたは取引先責任者の ID。
TeamRoleId	reference	Create Filter Update	定義済みケースチームメンバーのケースチームのロールの ID。
TeamTemplateMemberId	reference	Filter Nillable	事前定義されたケースチームに所属するチームメンバーの ID。

**CaseTeamTemplateRecord**

CaseTeamTemplateRecord オブジェクトは、ケースオブジェクトと CaseTeamTemplate オブジェクトの間でリンクするオブジェクトです。定義済みケースチームをケースに割り当てるには(顧客の問い合わせ)、

CaseTeamTemplateRecord オブジェクトを作成して、ParentId をケースに、TeamTemplateId を定義済みケースチームに示します。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ParentId	<code>reference</code>	Create	ケースチームテンプレートレコードが関連付けられているケースの ID。
		Filter	
TeamTemplateId	<code>reference</code>	Create	ケースチームテンプレートレコードが関連付けられている定義済みケースチームの ID。
		Filter	

## CategoryData

ソリューションレコードの論理グループを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

特別なアクセスルール

カスタマーportalユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CategoryNodeId	<code>reference</code>	Create	このソリューションに関連付けられているCategoryNode の ID。
		Filter	
		Update	
IsDeleted	<code>boolean</code>	Defaulted	オブジェクトがごみ箱に移動した( <code>true</code> )か、移動していない( <code>false</code> )かを示します。ラベルは削除済みです。
		on create	
RelatedObjectId	<code>reference</code>	Create	カテゴリに関連するソリューションの ID。
		Filter	

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	

## 使用方法

このオブジェクトを使用すると、1つまたは複数のカテゴリをソリューションに割り当てることができます。CategoryNode とソリューションレコードとの関係を定義する 2つの外部キーを持つ中間データテーブルです。

CategoryData には次の 2つの外部キーがあります。

- 一方の外部キー `CategoryNodeId` は、CategoryNode の ID を参照します。
- もう一方の外部キー `RelatedObjectId` は、ソリューションの ID を参照します。

これは多対多のリレーションであるため、`categoryNodeId` で返される複数の行が存在します。ソリューションは複数のカテゴリと関連付けることができます。

## CategoryNode

ソリューションカテゴリのツリーを表します。

サポートされているコール

```
create(), update(), delete(), describeSObjects(), query(), retrieve(), getDeleted(),  
getUpdated()
```

特別なアクセスルール

- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。
- 子(CategoryNode.Parent)によって参照)を持つ、または別の場所に参照される CategoryNode を削除しようとすると、エラーが発生します。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
MasterLabel	string	Create Filter Update	カテゴリノードのラベル。
ParentId	reference	Create Filter Nillable Update	このノードの親の ID (あれば)。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
SortOrder	int	Create Filter Nillable Update	子 <a href="#">CategoryNode</a> オブジェクトの並べ替えの順序を示します。
SortStyle	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	並べ替えの順序がアルファベット順か、カスタムかを示します。

## 使用方法

[CategoryNode](#) は、ソリューションのカテゴリを定義します。Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して、[設定] ▶ [カスタマイズ] ▶ [ソリューション] ▶ [ソリューションカテゴリ] でカテゴリの定義を編集できます。

## CategoryNodeLocalization

組織でトランスレーションワークベンチを使用できる場合、CategoryNodeLocalization オブジェクトは、カテゴリのラベルの翻訳を行います。トランスレーションワークベンチの詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 特別なアクセスルール

- 組織は Professional、Enterprise、Developer、または Unlimited Edition を使用し、トランスレーションワークベンチを使用できる必要があります。
- このオブジェクトを表示するには、「設定・定義を参照する」権限が割り当てられている必要があります。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CategoryNodeId	reference	Create Filter Nillable	翻訳されている <a href="#">CategoryNode</a> の ID。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
LanguageLocaleKey	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist	<p>この項目は、API バージョン 16.0 以前で使用できます。[Language] 項目と同じです。</p>
Language	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist	<p>この項目は、API バージョン 17.0 以降で使用できます。言語とロケール ISO を組み合わせたコード。アプリケーションに表示されるラベルの言語を制御します。</p> <p>選択リストには次のラベルと値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語: en_US</li> <li>ドイツ語: de</li> <li>スペイン語: es</li> <li>フランス語: fr</li> <li>イタリア語: it</li> <li>日本語: ja</li> <li>スウェーデン語: sv</li> <li>韓国語: ko</li> <li>中国語 (繁体字): zh_TW</li> <li>中国語 (簡体字): zh_CN</li> <li>ポルトガル語 (ブラジル): pt_BR</li> <li>オランダ語: nl_NL</li> <li>デンマーク語: da</li> <li>タイ語: th</li> <li>フィンランド語: fi</li> <li>ロシア語: ru</li> </ul> <p>salesforce.com の担当者へ要求すると、次のエンドユーザ言語も使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チェコ語: cs</li> <li>スペイン語 (メキシコ): es_MX</li> <li>ハンガリー語: hu</li> <li>インドネシア語: in</li> <li>ポーランド語: pl</li> <li>ルーマニア語: ro</li> <li>トルコ語: tr</li> <li>ウクライナ語: uk</li> <li>ベトナム語: vi</li> </ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
NamespacePrefix	string	Filter Nullable	<p>この項目の値は、デフォルトのロケール選択とは関連しません。</p> <p>このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。</p> <p><i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。</p> <p>名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</li> <li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li> </ul>
Value	string	Create Filter Nullable Update	カテゴリの実際に翻訳されたラベル。ラベルは翻訳です。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、カテゴリのラベルを、Salesforce.com でサポートされているさまざまな言語に翻訳します。トランスレーションワークベンチを使用できるユーザはカテゴリノードの翻訳を参照できますが、[create\(\)](#) カテゴリノードまたは [update\(\)](#) カテゴリノードの翻訳には、「アプリケーションをカスタマイズする」権限、「翻訳を管理する」権限、または「カテゴリを管理する」権限が必要です。

## コミュニティ

[アイデア](#) オブジェクトおよび [質問](#) オブジェクトを含むオンラインコミュニティを表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Description	string	Filter Nillable	コミュニティのテキストによる説明。
IsActive	boolean	Filter	コミュニティが有効か無効かを示します。アイデアまたは質問は、有効なコミュニティにのみ送信することができます。
Name	string	Filter	コミュニティの名前。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、アイデアを論理グループに構成するコミュニティを作成します。アイデアの詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「アイデアの概要」を参照してください。質問の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「回答の概要」を参照してください。

## 取引先責任者

取引先に関連付けられた個人である、取引先責任者を表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`、`merge()`、`upsert()`

## 特別なアクセスルール

カスタマーportalユーザは、portal対応の取引先責任者にのみアクセスできます。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccountId	reference	Create Filter Nillable Update	この取引先責任者の親である取引先の ID。 カスタマーportalまたはパートナーポータルに使用できる取引先責任者の取引先を変更する場合、最大 50 件の取引先責任者を更新することをお勧めします。ま

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			た、組織の営業時間外にこの更新を行うことをお勧めします。
AssistantName	string	Create Filter Nullable Update	アシスタントの名前。
AssistantPhone	phone	Create Filter Nullable Update	アシスタントの電話番号。
Birthdate	date	Create Filter Nullable Update	取引先責任者の誕生日。
CanAllowPortalSelfReg	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	この取引先責任者が組織のカスタマーポータルで自己登録できるか(true)否か(false)を示します。カスタマーポータルと自己登録の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「カスタマーポータルのログインと設定の有効化」を参照してください。
ConnectionReceivedId	reference	Filter Nullable	組織とこのレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。
ConnectionSentId	reference	Filter Nullable	このレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。API バージョン 15.0 以降では、ConnectionSentId の項目はサポートされていません。ConnectionSentId 項目は使用できますが、値は Null です。レコードを接続に転送するには、新しい <a href="#">PartnerNetworkRecordConnection</a> を使用します。
Department	string	Create Filter Nullable Update	取引先責任者の部署。
Description	textarea	Create Nullable	取引先責任者の詳細。ラベルは取引先責任者詳細です。最大 32 KB です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	
Email	email	Create Filter idLookup Nillable Update	取引先責任者の電子メールアドレス。
EmailBouncedDate	dateTime	Create Filter Nillable Update	バウンス管理が有効化され、取引先責任者に送信される電子メールが宛て先不明で戻ってきた場合の、メールが返送された日時。
EmailBouncedReason	string	Create Filter Nillable Update	バウンス管理が有効化され、取引先責任者に送信される電子メールが宛て先不明で戻ってきた場合の、メールが返送された理由。
Fax	phone	Create Filter Nillable Update	取引先責任者のFAX番号。ラベルは会社電話です。
FirstName	string	Create Filter Nillable Update	取引先責任者の名前。最大40文字です。
HasOptedOutofEmail	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	取引先責任者がsalesforce.comから電子メールを受信したくない(true)か、受信したい(false)かを示します。ラベルはメール送信除外です。
HomePhone	phone	Create Filter Nillable Update	取引先責任者の自宅電話番号。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除済みです。
IsPersonAccount	boolean	Defaulted on create Filter	この取引先責任者が、個人取引先の単独の子取引先責任者であるか(true)、そうでないか(false)を示します。個人取引先の詳細は、「 <a href="#">個人取引先のレコードタイプ</a> 」および Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。
LastActivityDate	date	Filter Nullable	値は、最新のものであれば、次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"><li>レコードに記録された最新イベントの期日。</li><li>レコード関連する、最近終了したタスクの期日。</li></ul>
LastCURLRequestDate	dateTime	Filter Nullable	最近登録情報照会依頼が取引先責任者に送信された日付。
LastCUUpdateDate	dateTime	Filter Nullable	取引先責任者の登録情報照会依頼が最後に処理された時間。
LastName	string	Create Filter Update	必須。取引先責任者の姓。最大 80 文字です。
LeadSource	picklist	Create Filter Nullable Update	リードのソース。
• MailingCity • MailingState • MailingCountry • MailingPostalCode	string	Create Filter Nullable Update	電子メールアドレスの詳細。
MailingStreet	textarea	Create Filter Nullable Update	送付先所在地の町名・番地。
MasterRecordId	reference	Filter Nullable	このオブジェクトが結合の結果として削除された場合、この項目には保存されたレコードの ID が入力されます。他の理由でこのオブジェクトが削除された場

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			合、または削除されていない場合、値は <code>null</code> となります。
MobilePhone	phone	Create Filter Nullable Update	取引先責任者の携帯電話番号です。
Name	string	Filter	<code>FirstName</code> と <code>LastName</code> の連結です。最大 121 文字です。
• OtherCity • OtherCountry • OtherPostalCode • OtherState	string	Create Filter Nullable Update	代替住所の詳細。
OtherPhone	phone	Create Filter Nullable Update	代替住所の電話番号。
OtherStreet	textarea	Create Filter Nullable Update	代替住所の町名、番地。
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter Update	この取引先責任者に関連付けられた取引先の所有者 ID。
Phone	phone	Create Filter Nullable Update	取引先責任者の電話番号。ラベルは会社電話です。
RecordTypeId	reference	Create Filter Nullable Update	このオブジェクトに割り当てるレコードタイプの ID。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ReportsToId	reference	Create Filter Nillable Update	<code>IsPersonAccount</code> が <code>true</code> である場合、この項目は表示されません。
Salutation	picklist	Create Filter Nillable Update	Dr. または Mrs. など、挨拶で名前の前に使用する敬称、単語、語句。
Title	string	Create Filter Nillable Update	CEO や副社長など、取引先責任者の役職。



メモ: 取引先責任者データを Salesforce.com にインポートし、`CreatedDate` など、監査項目に値を設定する必要がある場合、salesforce.com に連絡してください。これらの項目を自身で設定する必要がない限り、監査項目は API 操作時に自動的に更新されます。詳細は、「[システム項目](#)」を参照してください。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、組織内の[取引先](#)に関連付けられた個人を管理します。クライアントアプリケーションは、API を使用して、取引先責任者に関連付けられた[添付ファイル](#)に `create()`、`query()`、`delete()`、`update()` を実行できます。

また、クライアントアプリケーションは、`convertLead()` コールを使用して[リード](#)を変換し、取引先オブジェクトを作成または更新することもできます。詳細は、「[convertLead\(\)](#)」を参照してください。

## ContactHistory

取引先責任者の項目内の値に対する変更履歴を表します。このオブジェクトはバージョン 11.0 以降で使用できます。

### サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Field	picklist	Filter Restricted picklist	変更された項目の名前。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
ContactId	reference	Filter	取引先責任者のID。IDについての詳細は、「IDデータ型」を参照してください。ラベルは取引先責任者IDです。
NewValue	anyType	Nillable	変更された項目の新しい値。
OldValue	anyType	Nillable	変更される前の項目の最後の値。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、取引先責任者に対する変更を識別します。

このオブジェクトは、親オブジェクトの項目レベルのセキュリティに影響されます。

## ContactOwnerSharingRule

所有者以外のユーザと取引先責任者を共有するルールを表します。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「共有ルールの設定」を参照してください。



メモ: salesforce.com のカスタマーサポートに連絡して、組織のこのオブジェクトに対するアクセス権限を有効化します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ContactAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	取引先責任者の対象グループ、UserRole、またはユーザに割り当てられたアクセス権限の種類を表す値。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Read</li> <li>Edit</li> </ul>
GroupId	reference	Create Filter	ソースグループを表す ID。ソースグループのユーザが所有する取引先責任者が、アクセス権限を割り当てるルールをトリガします。
UserorGroupId	reference	Create Filter	アクセス権限が割り当てられているユーザまたはグループを表す ID。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、特定のオブジェクトの共有ルールを管理します。

## ContactShare

アクセスレベルの説明とともに取引先責任者へのアクセスレベルのリストを表します。たとえば、レコードを所有しているためレコードへのアクセス権限を所有する場合、Access Level は「All」で、Reason for Access は「Owner」となります。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ContactId	reference	Create Filter	この共有エントリに関連付けられた取引先責任者の ID。この項目を更新することはできません。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ContactAccessLevel	picklist	Create Defaulted on create Filter Restricted picklist Update	<p>取引先責任者に関連付けられたケースに対して持つユーザまたはグループのアクセスのレベル。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Read</li> <li>Edit</li> <li>All (この値は、<code>create()</code> コールまたは <code>update()</code> コールには使用できません。)</li> </ul> <p>この項目は、少なくとも組織のデフォルトである取引先責任者より高いアクセスレベルに設定する必要があります。</p>
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
RowCause	picklist	Filter Restricted picklist	<p>共有エントリが存在する理由。参照のみ。次のような、多くの値を指定できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Account Sharing</b> - 「All」のアクセス権限を持つユーザが取引先責任者に関連付けられた取引先を手動で共有していたため、ユーザまたはグループにアクセス権限が割り当てられています。</li> <li><b>Account Sharing Rule</b> - ユーザまたはグループには、取引先責任者に関連付けられた取引先の取引先共有ルールを介したアクセス権限が割り当てられています。</li> <li><b>Account Team</b> - ユーザには、AccountTeamMemberとしてのユーザの状況によって取引先責任者へのアクセス権限が付与されています。</li> <li><b>Contact Sharing Rule</b> - ユーザまたはグループには、取引先責任者共有ルールを介したアクセス権限が割り当てられています。</li> <li><b>ImplicitChild</b> - ユーザまたはグループには、関連する取引先の共有アクセスを使用した取引先責任者へのアクセス権限が割り当てられます。</li> <li><b>Manual Sharing</b> - 「All」のアクセス権限を持つユーザが手動で取引先責任者を共有していたため、ユーザまたはグループにアクセス権限が割り当てられています。</li> <li><b>Owner</b> - ユーザは、取引先責任者の所有者、またはロール階層の取引先責任者所有者の上にあるロールです。</li> </ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
UserOrGroupId	reference	Create Filter	取引先責任者に対してアクセス権限が割り当てられたユーザまたはグループの ID。この項目を更新することはできません。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、他のユーザが所有する取引先責任者を参照および登録できるユーザやグループを指定することができます。

## ContactTag

単語または短い語句を取引先責任者に関連付けます。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい TagDefinition が作成され、このタグオブジェクトの親となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親リレーションは自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Public:</b>組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li> <li><b>Personal:</b>タグは、OwnerId に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li> </ul>

## 使用方法

ContactTag は、親 TagDefinition とタグ付けされている取引先責任者との関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## ContentDocument

Salesforce CRM Content のワークスペースにアップロードされたドキュメントを表します。このオブジェクトはバージョン 17.0 以降で使用できます。

サポートされているコール

`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`undelete()`

特別なアクセスルール

- カスタマーポータルユーザおよびパートナーポータルユーザには、アクセスするワークスペースのコンテンツを問い合わせるために「ポータルのコンテンツを参照」権限が必要です。
- ユーザは、ワークスペースの権限に関係なく、個人ワークスペースのすべてのバージョンのドキュメント、メンバーであるワークスペースと共有している部分のバージョンを問い合わせることができます。
- 次に当てはまる場合、ドキュメントを削除できます。
  - ドキュメントが個人ワークスペースに公開されている、またはユーザのアップロードドキュームである。
  - ドキュメントが公開ワークスペースに公開され、ユーザが「コンテンツの追加」ワークスペース権限の有効なワークスペースのメンバーで、ドキュメントを削除しようとしているユーザが所有者である。
  - ドキュメントが、「コンテンツの削除」または「ワークスペースの管理」権限が有効な公開ワークスペースに公開され、ドキュメントを削除しようとしているユーザが所有者でない。

項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
LatestPublishedVersionID	<code>reference</code>	<code>Filter</code> <code>Nillable</code>	最新ドキュメントバージョンの ID。
OwnerId	<code>reference</code>	<code>Filter</code>	このドキュメントの所有者の ID。
PublishStatus	<code>picklist</code>	<code>Filter</code> <code>Restricted</code> <code>picklist</code>	ドキュメントが公開されているかどうか、そしてその公開方法を示します。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>Published:</b> ドキュメントは公開ワークスペースに公開され、他のユーザも参照できます。</li><li><b>Personal:</b> ドキュメントは個人ワークスペースに公開され、他のユーザは参照できません。</li><li><b>UploadInterrupted:</b> 公開が中断されたため、ドキュメントは公開されません。</li></ul>

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
Title	string	Filter idLookup	ドキュメントのタイトル。

## 使用方法

- このオブジェクトを使用して、ワークスペースの最新バージョンのドキュメントを問い合わせます。
- ドキュメントを削除すると、評価、コメント、タグを含むドキュメントのすべてのバージョンが削除されます。
- API で直接ドキュメントを作成することはできません。新しいバージョンを作成して、自動的に親ドキュメントレコードを作成できます。ドキュメントの新しいバージョンを追加する場合、ドキュメントの修正プロセスを開始する既存のContentDocumentId を指定する必要があります。最新バージョンが公開されると、ドキュメントのタイトル、所有者、公開状況の項目が更新されます。
- ドキュメントレコードが存在する場合、更新できません。更新は、最新バージョンのドキュメントで実行する必要があります。ドキュメントは、最新バージョンからの更新を継承します。
- API を使用して、コンテンツパッケージを作成、編集または削除できません。



メモ: タグ、カスタム項目、コンテンツ所有者のようなコンテンツメタデータは、ドキュメントレベルではなく、バージョンレベルで記録されます。

- API でバージョンを問い合わせる場合、Upload Interrupted の PublishStatus を指定したバージョンは返されません。

## ContentDocumentHistory

ドキュメントの履歴を表します。このオブジェクトはバージョン 17.0 以降で使用できます。

### サポートされているコール

`getDeleted()`、`getUpdated()`、`query()`、`retrieve()`

### 特別なアクセスルール

- カスタマーポータルユーザおよびパートナーポータルユーザには、アクセスするワークスペースのコンテンツを問い合わせるために「ポータルのコンテンツを参照」権限が必要です。
- ユーザは、ワークスペースの権限に関係なく、個人ワークスペースのすべてのバージョンのドキュメント、メンバーであるワークスペースと共有している部分のバージョンを問い合わせることができます。

### 項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
ContentDocumentId	reference	Filter	ドキュメントの ID。

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
項目	<a href="#">picklist</a>	<a href="#">Filter</a> <a href="#">Restricted picklist</a>	変更された項目の名前。値には、次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"> <li><code>contentDocPublished</code>—ドキュメントはワークスペースに公開されています。</li> <li><code>contentDocUnpublished</code>—ドキュメントはアーカイブ保存され、ワークスペースから直接、または所有しているワークスペースが変更されていました場合削除されます。</li> <li><code>contentDocRepublished</code>—ドキュメントはアーカイブから削除されます。</li> <li><code>contentDocFeatured</code>—主要ドキュメントに指定されます。</li> <li><code>contentDocSubscribed</code>—ドキュメントが登録されます。</li> <li><code>contentDocUnsubscribed</code>—ドキュメントは登録されません。</li> </ul>
NewValue	<a href="#">anyType</a>	<a href="#">Nillable</a>	変更された項目の新しい値。
OldValue	<a href="#">anyType</a>	<a href="#">Nillable</a>	変更される前の項目の最後の値。

## 使用方法

この参照専用オブジェクトを使用して、ドキュメントの履歴を問い合わせます。

## ContentVersion

Salesforce CRM Content の特定のバージョンのドキュメントを表します。このオブジェクトはバージョン 17.0 以降で使用できます。

### サポートされているコール

[create\(\)](#)、[query\(\)](#)、[retrieve\(\)](#)、[update\(\)](#)、[upsert\(\)](#)

### 特別なアクセスルール

- カスタマーポータルユーザおよびパートナーポータルユーザには、アクセスするワークスペースのコンテンツを問い合わせるために「ポータルのコンテンツを参照」権限が必要です。
- カスタマーポータルユーザ、およびパートナーポータルユーザは、Salesforce CRM Content 機能のライセンスを持っている場合にのみ、ドキュメントを公開、バージョン作成、または編集できます。
- コンテンツ機能のライセンスを持つすべてのユーザは、個人ワークスペースでバージョンを作成できます。
- ユーザは、ワークスペースの権限に関係なく、個人ワークスペースのすべてのバージョン、メンバーであるワークスペースと共有している部分のバージョンを問い合わせることができます。

- すべてのユーザは、自身の個人ワークスペースでバージョンを更新できます。
- ワークスペースの権限に関係なく、ワークスペースのメンバーであれば、バージョンまたはドキュメントの所有者は更新が可能です。
- ドキュメントを更新するには、ユーザは、次のワークスペース権限が有効なワークスペースのメンバーである必要があります。
  - 「コンテンツの追加」
  - 「コンテンツの代理追加」
  - 「ワークスペースの管理」
- `FileType` は、リンクの `ContentUrl` またはドキュメントの `PathOnClient` のいずれかで定義されます。

## 項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
ContentDocumentId	reference	Create Filter	ドキュメントの ID。
ContentModifiedById	reference	Filter Nillable	ドキュメントを変更したユーザの ID。
ContentModifiedDate	dateTime	Filter Nillable	ドキュメントが変更された日付。
ContentSize	int	Filter Nillable	ドキュメントのサイズ(バイト)。リンクについては常に 0 です。
ContentUrl	url	Create Filter Nillable Update	リンクの URL。リンクに対してのみ設定されます。 <code>FileType</code> を指定するいずれかの項目。
Description	textarea	Create Filter Nillable Update	コンテンツバージョンの説明。
FeaturedContentBoost	int	Filter Nillable	参照のみ。主要ドキュメントとして指定します。
FeaturedContentDate	date	Filter Nillable	主要ドキュメントに指定された日付。

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
FileType	string	Filter	リンクの <a href="#">ContentUrl</a> またはドキュメントの <a href="#">PathOnClient</a> によって指定されたコンテンツの種類。
FirstPublishLocationId	reference	Create Filter Nillable	<p>バージョンが最初に公開された場所の ID。バージョンが最初にユーザの個人ワークスペースに公開された場合、項目には個人ワークスペースを所有するユーザの ID が入力されます。バージョンが最初に公開ワークスペースに公開された場合、項目にはそのワークスペースの ID が入力されます。</p> <p>この項目は、最初にバージョンが公開された場合にのみ設定されます。バージョンが公開された後、この項目は参照専用になります。</p> <p><a href="#">FirstPublishLocationId</a> を設定しない場合、この項目のデフォルトは、ユーザの個人ワークスペースになります。</p>
IsLatest	boolean	Defaulted on create Filter	最新バージョンのドキュメント (true) かそうでない (false) かを示します。
Language	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	<p>ドキュメントの言語。複数言語のサポートを有効にしていないかぎり、この項目はユーザの言語にデフォルト設定されています。</p> <p>返されるラベルの言語を指定します。de_DE または en_GB など、値は有効なユーザロケール (言語および国) である必要があります。ロケールの詳細は、「CategoryNodeLocalization オブジェクトの <a href="#">Language</a> 項目」を参照してください。</p>
NegativeRatingCount	int	Filter Nillable	<p>参照のみ。様々なユーザがドキュメントに反対投票した回数。</p> <p>最新バージョンの評価カウントは、バージョン固有のものではありません。バージョン 1 が 10 件の反対投票を受け、バージョン 2 が 2 件の反対投票を受けた場合、バージョン 2 の NegativeRatingCount は 12 となります。ただし、評価カウントは、以前のバージョンに対し影響はありません。バージョン 1 の NegativeRatingCount は 10 となります。</p>
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter	このドキュメントの所有者の ID。

項目	フィールドの データ型	項目のプロパティ	説明
		Update	
PathOnClient	string	Create Filter Nillable	<p>ドキュメントの完全パス。FileType を指定するいずれかの項目。</p> <p> メモ: ドキュメントをプレビュータブに表示するには、パスの拡張子を含む完全パスを指定する必要があります。</p>
PositiveRatingCount	int	Filter Nillable	<p>参照のみ。様々なユーザがドキュメントに賛成投票した回数。</p> <p>最新バージョンの評価カウントは、バージョン固有のものではありません。バージョン 1 が 10 件の賛成投票を受け、バージョン 2 が 2 件の賛成投票を受けた場合、バージョン 2 の PositiveRatingCount は 12 となります。ただし、評価カウントは、以前のバージョンに対し影響はありません。バージョン 1 の PositiveRatingCount は 10 となります。</p>
PublishStatus	picklist	Filter Restricted picklist	<p>ドキュメントが公開されているかどうか、そしてその公開方法を示します。有効な値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Published:</b> ドキュメントは公開ワークスペースに公開され、他のユーザも参照できます。</li> <li><b>Personal:</b> ドキュメントは個人ワークスペースに公開され、他のユーザは参照できません。</li> <li><b>Upload Interrupted:</b> 公開が中断されたため、ドキュメントは公開されません。</li> </ul>
RatingCount	int	Filter Nillable	参照のみ。賛成の評価数および反対の評価数の合計
ReasonForChange	string	Create Filter Nillable	ドキュメントが変更された理由。新しいバージョン修正ドキュメントを挿入する場合にのみ、この項目を設定できます。
RecordTypeId	reference	Create Filter Nillable	<p>バージョンのコンテンツタイプの ID。コンテンツタイプは、Salesforce CRM Content のカスタム項目のコンテナです。</p> <p>カスタム項目は RecordTypeId で制限されます。管理者が API を使用してカスタム項目を作成する場合、少なくとも次のコンテンツタイプの 1 つに追加する必要があります。</p>

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
			<ul style="list-style-type: none"> <li>カスタム項目がデフォルト一般のコンテンツタイプに追加されると、そのコンテンツタイプに対応する RecordTypeId は、バージョンレコードに設定する必要はありません。</li> <li>カスタム項目がカスタムコンテンツタイプに追加されると、そのコンテンツタイプに対応する RecordTypeId をバージョンレコードに設定する必要があります。</li> </ul>
TagCsv	textarea	Create Nullable Update	APIによってタグをコンテンツバージョンに適用するために使用するテキスト。詳細は、「 <a href="#">ContentVersion API タギング</a> 」を参照してください。
Title	string	Create Filter idLookup Update	ドキュメントのタイトル。
VersionData	base64	Create Nullable	エンコードされたファイルデータ。この項目はリンクには設定できません。   メモ: ドキュメントが API を使用してアップロードされると、base64 に変換され、VersionData に格納されます。この変換により、ドキュメントサイズが約 30% 増加します。そのため、API を使用してアップロードできる最大ドキュメントサイズは 50MB ですが、base64 の変換によってサイズが拡大することを考慮する必要があります。
VersionNumber	string	Filter Nullable	バージョン番号。たとえば、1、2、3 のように、ドキュメントのバージョン番号が増加します。

## ContentVersion API タギング

Enterprise または Partner API を使用して、タグを ContentVersion レコードに適用できます。

タグを ContentVersion レコードに適用するには、TagCsv 項目で値を設定します。たとえば、この項目を one, two, three に設定すると、そのバージョンに 3 つのタグが作成され、関連付けられます。

- TagCsv 項目の最大長は、2000 文字です。
- 各タグの最大長は、100 文字です。

- タグがバージョンに適用されると、コンテンツには自動的にインデックスが付けられ、タグが検索可能になります。
- 個人ワークスペースに公開されている TagCsv にタグを適用することはできません。
- ContentDocument オブジェクトを使用してタグを適用できません。

ContentVersion レコードからタグを削除するには、標準の API 更新を実行し、削除する TagCsv 項目から値を削除します。たとえば、元の TagCsv が one, two, three である場合、TagCsv で one, three を指定して API 更新を実行すると、two が削除されます。ContentVersion からすべてのタグを削除するには、項目を null に設定して、標準の API 更新を実行します。

ContentVersion レコードを作成し、API を使用して修正したい場合、別の ContentVersion レコードを挿入しますが、元のものと同じ ContentDocument レコードと関連付けます。これにより、タギングに次のような影響を与えます。

- TagCsv 項目で修正を追加し、値を設定しない場合、以前のバージョンに適用されたすべてのタグが自動的に新しいバージョンに適用されます。
- 修正を加えて新しい TagCsv 項目を指定する場合、タグは移行せず、指定したタグが代わりに適用されます。

ContentVersion レコードに SOQL クエリを実行して、TagCsv 項目を選択すると、そのレコードに関連付けられたすべてのタグが返されます。文字列のタグは、異なる順序で挿入された場合でも、アルファベット順に並びます。TagCsv 項目は、SOQL クエリの項目の一部として使用できません。組織内のすべてのタグに問い合わせができるわけではありません。

#### ワークスペースのタギングルール

- API タギングでは、ドキュメントが公開されているワークスペースのタグ付け制限に従います。たとえば、ワークスペースが制限タギングモードで、タグ one, three のみを使用できる場合、one, two, three の TagCsv のバージョンは保存できません。
- ワークスペースがガイド付きタギングモードの場合、タグを ContentVersion に適用できます。ワークスペースではガイド付きタグの値を問い合わせできませんが、ワークスペースのタギングモデルを問い合わせできます。

#### 使用方法

- このオブジェクトを使用して、特定のバージョンのドキュメントを使用します。
- 最新バージョンで公開されている場合にのみ、バージョンを更新できます。
- バージョンをアーカイブに保存することはできません。
- バージョンのコンテンツタイプを変更できません。
- API を使用してバージョンを削除できません。
- ドキュメントが API を使用してアップロードされると、base64 に変換され、VersionData に格納されます。この変換により、ドキュメントサイズが約 30% 増加します。そのため、API を使用してアップロードできる最大ドキュメントサイズは 50MB ですが、base64 の変換によってサイズが拡大することを考慮する必要があります。
- データローダを使用してドキュメントをローカルドライブからアップロードする場合、VersionData および PathOnClient で実際のパスを指定する必要があります。VersionData は場所を示して形式を抽出し、PathOnClient はアップロードしているドキュメントの種類を示します。
- API を使用してドキュメントをダウンロードするには、ドキュメントの VersionData をエクスポートする必要があります。これにより、ダウンロード数は増えません。
- API でバージョンを問い合わせる場合、Upload Interrupted の PublishStatus を指定したバージョンは返されません。

- 個人ワークスペースに公開されたドキュメントは、デフォルト一般のコンテンツタイプを想定しています。  
 メモ: Salesforce CRM Content が組織にインストールされると、管理者は一般コンテンツタイプを作成できます。その他のコンテンツタイプを作成して、ドキュメントをカテゴリ化できます。管理者は、一般コンテンツタイプの名前を変更できます。
- Professional Edition、Enterprise Edition、Unlimited Edition のユーザは、24 時間当たり最大 5,000 件の新規バージョンを公開できます。Developer Edition ユーザおよび Trial Edition ユーザは、24 時間当たり最大 2,500 件の新規バージョンを公開できます。
- カスタム入力規則を使用すると、APIを使用して個人ワークスペースに公開されたドキュメントの更新ができなくなります。

## ContentVersionHistory

特定のバージョンのドキュメントの履歴を表します。このオブジェクトはバージョン 17.0 以降で使用できます。

サポートされているコール

`getDeleted()`、`getUpdated()`、`query()`、`retrieve()`

特別なアクセスルール

- カスタマーポータルユーザおよびパートナーポータルユーザには、アクセスするワークスペースのコンテンツを問い合わせるために「ポータルのコンテンツを参照」権限が必要です。
- ユーザは、ワークスペースの権限に関係なく、個人ワークスペースのすべてのバージョンのドキュメント、メンバーであるワークスペースと共有している部分のバージョンを問い合わせることができます。

項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
ContentVersionId	reference	Filter	バージョンの ID。
Field	picklist	Filter Restricted picklist	変更された項目の名前。値には、次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"><li><code>contentVersionCreated</code>—新しいバージョンが作成されます。</li><li><code>contentVersionUpdated</code>—バージョンのタイトル、説明、またはカスタム項目が変更されます。</li><li><code>contentVersionDownloaded</code>—バージョンがダウンロードされます。</li><li><code>contentVersionViewed</code>—バージョンの詳細が表示されます。</li><li><code>contentVersionRated</code>—バージョンが評価されます。</li></ul>

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
			<ul style="list-style-type: none"> <li>contentVersionCommented—バージョンがコメントを受けます。</li> </ul>
NewValue	anyType	Nillable	変更された項目の新しい値。
OldValue	anyType	Nillable	変更される前の項目の最後の値。

## 使用方法

この参照専用オブジェクトを使用して、ドキュメントバージョンの履歴を問い合わせます。

## ContentWorkspace

Salesforce CRM Content の公開ワークスペースを表します。このオブジェクトはバージョン 17.0 以降で使用できます。



メモ: このオブジェクトは、個人ワークスペースには適用されません。

### サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`

### 特別なアクセスルール

- カスタマーportalユーザ、およびパートナーポータルユーザは、Salesforce CRM Content 機能のライセンスを持っている場合にのみ、ワークスペースドキュメントを編集できます。
- 「ポータルのコンテンツを参照」権限がある場合、カスタマーportalユーザおよびパートナーポータルユーザはこのオブジェクトを問い合わせできます。ワークスペースの権限に関係なく、ユーザはメンバーであるすべての公開ワークスペースを問い合わせできます。

### 項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
DefaultRecordTypeId	reference	Filter Nillable	ワークスペースのデフォルトのコンテンツタイプの ID。コンテンツタイプは、Salesforce CRM Content のカスタム項目のコンテナです。
Description	textarea	Filter Nillable	コンテンツワークスペースのテキストによる説明。

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
IsRestrictContentTypes	boolean	Defaulted on create Filter	参照のみ。コンテンツタイプが制限されている(true)か、そうでない(false)かを示します。
IsRestrictLinkedContentTypes	boolean	Defaulted on create Filter	参照のみ。リンクしているコンテンツタイプが制限されている(true)か、そうでない(false)かを示します。
Name	string	Filter idLookup	ワークスペースの名前。
TagModel	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	ワークスペースに割り当てられたタギングの種類。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Open Tagging:</b> タグ付けに制限を課しません。ユーザは、コンテンツを公開または編集するときに任意のタグを入力できます。</li> <li><b>Guided Tagging:</b> ユーザがコンテンツを公開または編集するときに任意のタグを入力できますが、推奨タグのリストも提供されます。</li> <li><b>Restricted Tagging:</b> ユーザは推奨タグのリストから選択する必要があります。</li> </ul>

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、ワークスペースを問い合わせ、ドキュメントをどこに公開できるかを検出します。

新しいバージョンをワークスペースに公開するときにコンテンツタイプが指定されていない場合、プライマリワークスペースの `DefaultRecordTypeId` によって指定されます。

API を使用して、ワークスペースを作成、更新または削除できません。

## ContentWorkspaceDoc

Salesforce CRM Content のドキュメントと公開ワークスペースとのリンクを表します。このオブジェクトはバージョン 17.0 以降で使用できます。



メモ: このドキュメントは、個人ワークスペースのドキュメントおよびバージョンには適用されません。

### サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`update()`、`upsert()`

## 特別なアクセスルール

- カスタマーポータルユーザおよびパートナーポータルユーザには、アクセスするワークスペースのコンテンツを問い合わせ、取得するために「ポータルのコンテンツを参照」権限が必要です。
- カスタマーポータルユーザ、およびパートナーポータルユーザは、Salesforce CRM Content 機能のライセンスを持っている場合にのみ、ドキュメントを編集できます。
- ContentWorkspaceDoc を作成するには、次のワークスペース権限のいずれかが有効なワークスペースのメンバーである必要があります。
  - 「コンテンツの追加」
  - 「コンテンツの代理追加」
  - 「ワークスペースの管理」
- ワークスペースのすべてのワークスペンドキュメントを問い合わせるには、ワークスペースの権限に関係なく、ユーザはワークスペースのメンバーである必要があります。

## 項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
ContentDocumentId	reference	Create Filter	参照のみ。ワークスペンドキュメントの ID。
ContentWorkspaceId	reference	Create Filter	参照のみ。ワークスペースの ID。
IsOwner	boolean	Defaulted on create Filter	参照のみ。ワークスペースにドキュメントがありドキュメントの権限を指定する(true)か、そうでないか(false)を示します。ドキュメントが複数のワークスペースに属することができますが、ドキュメントを所有し、その権限を指定できるワークスペースは1つだけです。

## 使用方法

- このオブジェクトを使用して、ドキュメントを1つまたは複数のワークスペースにリンクさせます。
- ドキュメントを追加ワークスペースと共有するには、ドキュメントを追加ワークスペースに結合する追加のContentWorkspaceDoc レコードを作成します。
- ContentWorkspaceDoc を挿入すると、公開ワークスペースの公開プロセスをトリガします。
- ドキュメントは多くの公開ワークスペースに公開できますが、ドキュメントのセキュリティを制御する1つのワークスペースに所有されています。
- ドキュメントは、ドキュメント所有者の個人ワークスペースにのみ公開できます。別のユーザの個人ワークスペースには公開できません。個人ワークスペースは、API を使用して表示できません。
- 個人ワークスペースにドキュメントを公開するには、ユーザ ID を最初の公開場所の ID として指定する必要があります。この最初の公開場所 ID を空白にすると、現在のユーザの ID がデフォルトで指定されます。
- ドキュメントは、個人ワークスペースから公開ワークスペースに公開できますが、公開ワークスペースに公開すると、個人ワークスペースにもう一度公開することはできません。

- 個人ワークスペースのドキュメントを、コンテンツタイプが制限されている公開ワークスペースには公開できません。
- API を使用して、ワークスペイドドキュメントを更新または削除できません。

## 契約

取引先に関連付けられた契約 (業務の同意) を表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeLayout()`、`describeSObjects()`、`upsert()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccountId	reference	Create Filter Update	必須。この契約と関連付けられた取引先の ID。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
ActivatedById	reference	Filter Nillable	この契約を有効化したユーザの ID。
ActivatedDate	dateTime	Filter Nillable	この契約が有効化された日付と時間。
• BillingCity • BillingCountry • BillingPostalCode • BillingState	string	Create Filter Nillable Update	請求先住所の詳細。
BillingStreet	textarea	Create Filter Nillable Update	請求先住所の町名・番地。
CompanySignedDate	date	Create Filter Nillable Update	組織が署名した契約書の日付。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CompanySignedId	reference	Create Filter Nillable Update	契約書に署名した <u>ユーザ</u> の ID。
ContractNumber	string	Autonumber Defaulted on create Filter	契約の番号。
ContractTerm	int	Create Filter Nillable Update	契約が有効な月数。
CustomerSignedDate	date	Create Filter Nillable Update	顧客が契約書に署名した日付。
CustomerSignedId	reference	Create Filter Nillable Update	この契約に署名した <u>取引先責任者</u> の ID。
CustomerSignedTitle	string	Create Filter Nillable Update	契約に署名した顧客の役職。
Description	textarea	Create Nillable Update	契約の説明。
EndDate	date	Filter Nillable	参照のみ。契約の計算された終了日。この値は、 <u>ContractTerm</u> を <u>StartDate</u> に追加して計算されます。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
LastActivityDate	date	Filter Nillable	値は、最新のものであれば、次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"><li>レコードに記録された最新イベントの期日。</li><li>レコード関連する、最近終了したタスクの期日。</li></ul>
LastApprovedDate	dateTime	Filter Nillable	契約が最後に承認された日付。
OwnerExpirationNotice	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	契約終了日までの日数(15、30、45、60、90、および120)。契約が終了する前に所有者に通知するために使用されます。
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter Nillable Update	契約を所有するユーザの ID。
Pricebook2Id	reference	Create Filter Nillable Update	この契約と関連付けられた価格表の ID(ある場合)。
RecordTypeId	reference	Create Filter Nillable Update	このオブジェクトに割り当てられるレコードタイプの ID。
• ShippingCity • ShippingCountry • ShippingPostalCode • ShippingState	string	Create Filter Nillable Update	配送先住所の詳細。
ShippingStreet	textarea	Create Filter Nillable	配送先住所の町名・番地。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	
SpecialTerms	textarea	Create Filter Nillable Update	契約を適用する特別な条件。
StartDate	date	Create Filter Nillable Update	この契約の開始日。ラベルは契約開始日です。
Status	picklist	Create Defaulted on create Filter Update	注文の状況を示す値の選択リスト。それぞれの値は、 <a href="#">StatusCode</a> で定義された 2 つの状況カテゴリのいずれかにあります。たとえば、状況選択リストには、「配送準備済み」、「配送済み」、「受領済み」が有効化された <a href="#">StatusCode</a> の値として指定することができます。
StatusCode	picklist	Filter Restricted picklist	注文の状況カテゴリ。注文は、下書き、承認中、有効化のいずれかです。ラベルは状況カテゴリです。

## 使用方法

[Contract](#) オブジェクトは、業務の同意を表します。クライアントアプリケーションは、API を使用して、契約に `create()`、`update()`、`query()`、および `retrieve()` を実行できます。

[Status](#) 項目は、契約の現在の状況を指定します。[\(ContractStatus オブジェクトで定義された\)](#) 状況の文字列は、下書き、承認中、有効化などの現在の状況を表します。

クライアントアプリケーションは、最初に有効でない契約を `create()` を実行する必要があります。その後、クライアントアプリケーションは、`update()` をコールし、[Status](#) 項目の値を [有効] に設定して契約を有効化することができます。ただし、[Status](#) 項目は、契約を有効化する際に `update()` コールで設定できる唯一の項目です。

契約がいったん有効化されると、クライアントアプリケーションはその状況を変更することはできません。ただし、有効化される前に、クライアントアプリケーションは API を使用して、下書きから承認中に状況を変更することができます。また、クライアントアプリケーションは、状況が下書きまたは承認中の契約に `delete()` を実行できますが、有効化された契約は削除できません。

クライアントアプリケーションは、API を使用して、契約に関連付けられた添付ファイルに `create()`、`update()`、`delete()`、および `query()` を実行できます。

## ContractContactRole

指定された取引先責任者が契約に持つロールを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ContactId	reference	Create Filter Update	この契約に関連付けられた取引先責任者の ID。IDについての詳細は、「ID データ型」を参照してください。
ContractId	reference	Create Filter	必須。契約の ID。IDについての詳細は、「ID データ型」を参照してください。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
IsPrimary	boolean	Defaulted on create Filter Update	取引先責任者がこの契約にプライマリロールとしての役割を果たす(true)か、そうでないか(false)を指定します。それぞれの契約には、取引先責任者のプライマリロールは1つだけ割り当てられます。デフォルトは false です。ラベルは主担当です。
Role	picklist	Create Filter Nillable Update	意思決定者、承認者、バイヤーなど、この契約に取引先責任者が持つロールの名前。一意である必要があります。 <code>ContractId</code> 、 <code>ContactId</code> 、および <code>Role</code> の値が同じである複数のレコードが存在することはできません。さまざまな取引先責任者が、同じ契約に同じロールを持つことができます。また、1つの取引先責任者が、同じ契約で異なる役割を持つこともできます。

### 使用方法

ContractContactRole オブジェクトを使用して、特定の商談のコンテキスト内で、指定された取引先責任者が指定された契約で果たす役割を定義します。

## ContractHistory

契約の項目内の値に対する変更履歴を表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、および `describeSObjects()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ContractId	reference	Filter	契約の ID。ラベルは契約 ID です。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください。
Field	picklist	Filter Restricted picklist	変更された項目の名前。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
NewValue	anyType	Nillable	変更された項目の新しい値。
OldValue	anyType	Nillable	変更される前の項目の最後の値。

使用方法

このオブジェクトを使用して、契約に対する変更を識別します。

このオブジェクトは、親オブジェクトの項目レベルのセキュリティに影響されます。

## ContractStatus

下書き、承認中、有効、終了、期限切れなど、[契約](#)の状況を表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、および `describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsDefault	boolean	Defaulted on create Filter	この項目が、選択リスト内の契約のデフォルト状況かどうかを示します(デフォルトの場合は <code>true</code> 、そうでない場合は <code>false</code> )。
MasterLabel	string	Filter Nillable	この契約の状況の値の主ラベル。この表示値は、翻訳されない内部ラベルです。
SortOrder	int	Filter Nillable	契約の状況の選択リストのこの値を並べ替えるために使用する番号。以前の契約の状況値が一部削除されている場合があるため、これらの番号が連続的である保証はありません。
StatusCode	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	契約の状況を示すコード。以下のいずれかの値になります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Draft</li> <li>InApproval</li> <li>Activated</li> </ul> 他の 2 つの値 ( <code>Terminated</code> と <code>Expired</code> ) は定義されていますが、API で使用することはできません。

## 使用方法

このオブジェクトは契約状況の選択リストの値を表します。契約状況の選択リストには、現在の状況(下書き、承認中、または有効化)など、[契約](#)の状況に関する追加情報が表示されています。クライアントアプリケーションは、このオブジェクトに `query()` コールを起動して契約状況の選択リストの一連の値を取得し、[契約](#)オブジェクトを処理している間にその情報を使用して、指定された契約に関する詳細情報を確認します。たとえば、アプリケーションは、[Status](#) の値、および関連付けられた [ContractStatus](#) オブジェクトの [StatusCode](#) プロパティの値に基づいて、指定された契約が有効かどうかをテストすることができます。

これらのオブジェクトは、API の参照専用です。十分な権限を使用して、クライアントアプリケーションは、このオブジェクトに `query()` コールおよび `describeSObjects()` コールを起動できます。

## ContractTag

単語または短い語句を契約に関連付けます。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい TagDefinition が作成され、このタグオブジェクトの親となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親リレーションは自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	<p>タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Public:</b> 組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li> <li><b>Personal:</b> タグは、OwnerId に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li> </ul>

## 使用方法

ContractTag は、親 TagDefinition とタグ付けされている契約との関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## CronTrigger

UNIX システムの cron ジョブと同様、スケジュールされた Apex ジョブを表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`

## 項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
CronExpression	string	Filter Nillable	スケジュールを開始するために使用する cron 式。形式は、次のとおりです。 <i>Minutes, Hours, Day of month, Month, Day of week, optional Year</i>  『Force.com Apex Code Developer's Guide』の「 <a href="#">System.Schedule メソッドの使用</a> 」を参照してください。
EndTime	dateTime	Filter Nillable	ジョブが終了した、または終了する予定の日時。
NextFireTime	dateTime	Filter Nillable	ジョブが次に実行する予定の日時。ジョブが再び実行される予定がない場合は、Null です。
PreviousFireTime	dateTime	Filter Nillable	最近ジョブを実行した日時。現在の時刻の前にジョブを実行したことがない場合は、Null です。
RepeatInterval	int	Filter Nillable	ジョブ実行の繰り返しの間の間隔 ミリ秒。
StartTime	dateTime	Filter Nillable	スケジュールされた最近のジョブの開始日時。
State	string	Filter Nillable	ジョブの現在の状況。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• WAITING</li><li>• ACQUIRED</li><li>• EXECUTING</li><li>• COMPLETE</li><li>• BLOCKED</li><li>• ERROR</li><li>• PAUSED</li><li>• PAUSED_BLOCKED</li><li>• DELETED</li></ul>
TimeZoneSidKey	string	Filter Nillable	タイムゾーン ID を返します 例: America/Los_Angeles。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、組織内のスケジュール済み Apex ジョブを問い合わせます。

## CurrencyType

マルチ通貨機能を使用できる組織で使用される通貨を表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

- このオブジェクトは、1つの通過しか使用しない組織では使用できません。
- このオブジェクトを編集するには、「アプリケーションをカスタマイズする」権限が必要です。
- クライアントアプリケーションは、このオブジェクトに `delete()` を実行できません。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ConversionRate	double	Filter	必須。会社の通貨に対するこの通貨タイプの変換レート。
DecimalPlaces	int	Filter	必須。この通貨に対し、JPY には 0、USD には 2 など、小数点以下の桁数を指定します。必須。
IsActive	boolean	Defaulted on create Filter	この通貨タイプ有効(true)か有効でない(false)かを示します。無効な通貨タイプは、Salesforce.com ユーザインターフェースの選択リストに表示されません。ラベルは有効です。
IsCorporate	boolean	Defaulted on create Filter	この通貨タイプが会社の通貨か(true)通貨でない(false)かを示します。ラベルは会社の通貨です。その他のすべての通貨の変換レートは、この会社の通貨に適用されます。Salesforce.com ユーザインターフェースで、通貨がすでに会社の通貨として定義されている場合、オフにすることはできません。会社以外の通貨が会社の通貨に設定されると、新しい会社の通貨に基づいてすべての変換レートを再設定します。
IsoCode	picklist	Filter Restricted picklist	必須。通貨の ISO コード。必須。USD、GBP または JPY など、ISO 4217 基準で定義された有効なアルファベットの 3 文字の ISO 通貨コードでなければなりません。組織内で一意である必要があります。ラベルは通貨 ISO コードです。

## 使用方法

複数の通貨を使用する組織の場合のみ、[CurrencyType](#) オブジェクトを使用して、組織が使用する通貨を定義します。

## DatedConversionRate

複数の通貨および有効な通貨機能を使用できる組織が使用する期間指定為替レートを表します。

### サポートされているコール

`delete()`、`update()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ConversionRate	double	Filter Update	必須。会社にツーかに対するこの通貨タイプの変換レート。
IsoCode	picklist	Filter Restricted picklist	必須。通貨の ISO コード。必須。USD、GBP または JPY など、ISO 4217 基準で定義された有効なアルファベットの 3 文字の ISO 通貨コードでなければなりません。組織内で一意である必要があります。ラベルは通貨 ISO コードです。
NextStartDate	date	Filter Nillable	参照のみ。次の有効な期間指定為替レートが開始する日付。この為替レートの終了日以降に有効。
StartDate	date	Filter	有効な期間指定為替レートが開始する日付。

## 使用方法

複数の通貨を使用する組織が高度な通貨管理を有効にする場合、[DatedConversionRate](#) オブジェクトを使用して、組織が日付の範囲で使用する為替レートを定義します。このオブジェクトは、単一通貨を使用する組織では使用できません。また、組織が高度な通貨管理を有効にしていない場合も使用できません。

## ディビジョン

組織のデータの論理セグメントです。たとえば、会社がさまざまなビジネスユニットに構成されている場合、「北米」、「ヘルスケア」、「コンサルティング」など、各ビジネスユニットのディビジョンを作成することができます。

## サポートされているコール

`create()`、`update()`、`query()`、`retrieve()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

## 特別なアクセスルール

- ディビジョンは、このオブジェクトにアクセスする場合、組織に対してディビジョンを有効化する必要があります。ディビジョンを有効化するかどうかを指定する方法については、このトピックの「使用方法」を参照してください。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsActive	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ディビジョンが有効(true)か有効でない(false)かを示します。ラベルは有効です。
IsGlobalDivision	boolean	Defaulted on create Filter	ディビジョンが組織のグローバルなデフォルトディビジョンであるか(true)否か(false)を示します。ラベルはグローバルディビジョンです。
Name	string	Create Filter Update	ディビジョンの記述的な名前。最大 80 文字です。
SortOrder	int	Create Filter Nillable Update	Salesforce.com ユーザインターフェースでユーザを作成または編集する場合、ディビジョン名がディビジョン選択リストに表示される順序。

## 使用方法

ディビジョンが組織で有効かどうかを確認するには、`DefaultDivision`項目の[ユーザ](#)オブジェクトまたは[Group](#)オブジェクトを調べます。ディビジョンが存在し、有効化されている場合は、この項目(ユーザおよびグループ以外のオブジェクトでは、項目名は[ディビジョン]です)すべての関連オブジェクトで使用できます。

その項目に使用できる値は、組織のグローバルディビジョン ID で、ディビジョンが最初に有効化された場合に作成され、作成されたディビジョン ID 以外のディビジョン ID です。ユーザに関連付けられたディビジョン ID は、ユーザに所有または作成されたオブジェクトに投入されます。

ディビジョン ID を使用すると、組織に非常に大きなデータセットがある場合も、検索、レポート、およびリストビューをより迅速に実行させ、より関連する結果を返すことができます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの、オブジェクトの「項目」についての説明を参照してください。

SOSL の WITH を使用して、ディビジョンに基づいて結果を事前に絞り込みます。WHERE 句でディビジョンを指定するより迅速に実行できます。詳細は、「[WITH DivisionFilter](#)」を参照してください。

ディビジョンの使用方法の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「[ディビジョンの概要](#)」を参照してください。



メモ: ユーザオブジェクトには、このオブジェクトに関連しないディビジョン項目があります。[Division](#) 項目は、特別なプロパティのない会社または部署と同様の標準テキスト項目です。このオブジェクトの関連付けられた、[DefaultDivision](#) 項目と混同しないでください。

## DivisionLocalization

組織でトランスレーショントラックベンチを使用できる場合、DivisionLocalization オブジェクトは、ディビジョンのラベルの翻訳を行います。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

特別なアクセスルール

- 組織は Professional、Enterprise、Developer、または Unlimited Edition を使用し、トランスレーショントラックベンチを使用できる必要があります。
- このオブジェクトを表示するには、「設定・定義を参照する」権限が割り当てられている必要があります。

項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
Language	string	Create Filter Nillable Restricted picklist	この翻訳ラベルの言語。
NamespacePrefix	string	Filter Nillable	このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。 <i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。 名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
			<ul style="list-style-type: none"><li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</li><li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li></ul>
ParentId	reference	Create Filter Nillable	翻訳されているラベルに関連付けられたディビジョンの ID。
Value	string	Create Filter Nillable Update	ディビジョンの実際に翻訳されたラベル。ラベルは翻訳です。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、ディビジョンのラベルを、Salesforce.com でサポートされているさまざまな言語に翻訳します。

## ドキュメント

ユーザがアップロードしたファイルを表します。添付ファイルオブジェクトと異なり、ドキュメントは親オブジェクトに添付されません。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 特別なアクセスルール

ドキュメントに対する「編集」権限と、該当する[フォルダ](#)を作成または更新するための、ドキュメントを含む[Folder](#)フォルダへの適切なアクセス権限が割り当てられている必要があります。

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AuthorID	reference	Create Defaulted on create Filter Update	ドキュメントを担当する <a href="#">ユーザ</a> の ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
Body	base64	Create Nillable Update	必須。エンコードされたファイルデータ。指定されている場合、URL を指定しないでください。
BodyLength	int	Filter	ファイルのサイズ(バイト)。
ContentType	string	Create Filter Nillable Update	コンテンツの種類。ラベルは <a href="#">MIME</a> タイプです。最大 120 文字です。  組織で [HTML ドキュメントと添付ファイルを許可しない] セキュリティ設定が有効になっている場合は、htm、html、htt、htx、mhtm、mhtml、shtm、shtml、および acgi の拡張子を持つファイルのアップロードはできません。
Description	textarea	Create Filter Nillable Update	ドキュメントのテキストによる説明。最大 255 文字です。
DeveloperName	string	Create Filter Nillable Update	API のオブジェクトの一意の名前。この名前は、アンダースコアと英数字のみを含み、組織内で一意の名前にする必要があります。最初は文字であること、スペースは使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。管理パッケージで、この項目を使用することにより、パッケージインストール時の名前の競合を回避します。この項目を使用して、開発者は管理パッケージのオブジェクト名を変更し、変更は登録者の組織で反映されます。ラベルはドキュメントの一意の名前です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
FolderId	reference	Create Filter Update	必須。ドキュメントを含む <a href="#">フォルダ</a> の ID。「 <a href="#">フォルダ</a> 」を参照してください。
IsBodySearchable	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトのコンテンツを、SOSL FIND コールを使用して検索可能かどうかを示します。 <a href="#">ALL FIELDS</a> 検索グループには、検索可能な項目のコンテンツが含まれます。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
IsInternalUseOnly	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	オブジェクトを内部でのみ使用できるか(true)否か(false)を示します。ラベルは社外秘フラグです。
IsPublic	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	オブジェクトを外部で使用できるか(true)否か(false)を示します。ラベルは外部参照可です。
Keywords	string	Create Filter Nillable Update	キーワード。最大 255 文字です。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須。ドキュメントの名前。ラベルはドキュメント名です。
NamespacePrefix	string	Filter Nillable	このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。 <i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			<p>名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</li> <li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li> </ul>
Type	Create Filter Nillable Update string	Create Filter Nillable Update	ドキュメントのファイルのデータ型。通常、値は、ドキュメントの種類(pdf または jpg など)のファイル拡張子に一致します。ラベルはファイル拡張子です。
URL	string	Create Filter Nillable Update	(データベース内で保存する代わりに) ファイルを参照する URL が指定されている場合、Body または BodyLength を指定しないでください。

## 使用方法

ドキュメントに `create()` または `update()` をコールする場合、クライアントアプリケーションは `Body` 項目または `URL` 項目のいずれかで値を指定することができますが、両方を指定することはできません。

## エンコードされたデータ

API は、`base64` データ型にエンコードされたバイナリファイルデータを送受信します。`create()` の前に、クライアントはバイナリファイルデータを `base64` にエンコードする必要があります。API レスポンスを受け取り次第、クライアントは、`base64` データをバイナリ(この変換は通常 SOAP クライアントで処理します)にデコードする必要があります。

## 最大ドキュメントサイズ

`create()` および `update()` コールはドキュメントのサイズを、最大 5 MB に制限します。

## DocumentAttachmentMap

EmailTemplate とドキュメントとして保存される添付ファイルの間のリレーションを対応付けます。

サポートされているコール

`create()`、`query()`、`retrieve()`、`update()`、`upsert()`

特別なアクセスルール

カスタマーportalユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
DocumentId	reference	Create Filter Update	このオブジェクトを追跡するドキュメントの ID。
DocumentSequence	int	Create Filter Update	添付ファイルが DocumentId で指定された EmailTemplate が定義する電子メールに表示される順序。ラベルは添付ファイル順です。最初の添付ファイルには 0 が指定され、後続する添付がいるには、1 からの値が順番に指定されます。
ParentId	reference	Create Filter Update	EmailTemplate 親の ID。DocumentId で識別される添付ファイルは、この項目で指定された EmailTemplate に添付されます。

使用方法

このオブジェクトを使用して、EmailTemplate のリレーションを対応付け、添付ファイルの順序を指定します。

## DocumentTag

単語または短い語句をドキュメントに関連付けます。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい TagDefinition が作成され、このタグオブジェクトの親となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親リレーションは自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	<p>タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Public:</b> 組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li> <li><b>Personal:</b> タグは、OwnerId に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li> </ul>

## 使用方法

DocumentTag は、親 TagDefinition とタグ付けされている ドキュメント との関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

---

## EmailMessage

電子メールメッセージ。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザには、このオブジェクトに対する参照アクセス権限があります。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ActivityId	reference	Create Filter Nullable	電子メール関連付けられている活動の ID。通常、読み取られていない新しい電子メールメッセージが受信される場合にケース所有者に作成される進行中のタスクを表します。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
BccAddress	string	Create Filter Nullable	電子メールの BCC が送信されたアドレス。
CcAddress	string	Create Filter Nullable	電子メールの CC が送信されたアドレス。
FromAddress	email	Create Filter Nullable	電子メールが作成されたアドレス。
FromName	string	Create Filter Nullable	送信者の名前。
HasAttachment	boolean	Defaulted on create Filter	電子メールがファイルを添付して送信されたか(true) 否か(false) を示します。
Headers	textarea	Create Nullable	受信電子メールのインターネットメッセージのヘッダー。デバッグおよびトレースの目的で使用されます。送信電子メールには適用されません。
HtmlBody	textarea	Create Nullable	電子メールの本文 (HTML 形式)。
Incoming	boolean	Create Defaulted on create Filter	電子メールが受信されたか(true) 送信されたか(false) を示します。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
MessageDate	dateTime	Create Filter Nillable	電子メールが作成された日付。
ParentId	ID	Create Filter	電子メールが関連付けられた <a href="#">ケース</a> の ID。
Status	picklist	Create Filter Restricted picklist	参照のみ。電子メールの状況。たとえば、「新規」、「既読」、「返信済み」、「実施」、「転送済み」など。
Subject	string	Create Filter Nillable	電子メールの件名行。
TextBody	textarea	Create Nillable	電子メールの本文(プレーンテキスト形式)。
ToAddress	string	Create Filter Nillable	電子メール受信者のアドレス。

## 使用方法

このオブジェクトは電子メール-to-ケース機能をサポートしています。これを使用して、会社の電子メールアドレスのいずれかに送信された電子メールで、Salesforce.comの新しいケースを自動的に作成することができます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「電子メールサービスとは?」を参照してください。

## EmailServicesAddress

電子メールサービスのアドレス。

各電子メールサービスには、電子メールアドレスが 1 つ以上あり、ユーザはそのアドレス宛てに処理を求めるメッセージを送信できます。電子メールサービスは、そのアドレスの 1 つが受信したメッセージを処理するだけです。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AuthorizedSenders	textarea	Create Filter Nillable Update	電子メールサービスを、この項目に一覧表示された電子メールアドレスまたはドメインからのメッセージのみを受け取るよう設定します。電子メールサービスアドレスが、リストに記載されていない電子メールアドレスまたはドメインからのメッセージを受信すると、関連する電子メールサービスの <a href="#">AuthorizationFailureAction</a> 項目で指定されたアクションを実行します。電子メールサービスアドレスすべての電子メールアドレスからの電子メールを受信する場合は、空白のままにしておきます。
EmailDomainName	string	Create Filter Nillable	この電子メールサービスアドレスの Salesforce.com によって生成されたドメイン部分を含むことを問い合わせできる参照専用の項目。Salesforce.com は、各電子メールサービスアドレスに対し、一意のドメイン部分を生成し、電子メールサービスアドレスが重複することないようにします。
FunctionId	reference	Create	電子メールサービスアドレスがメッセージを受信する電子メールサービスの ID。
IsActive	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	このオブジェクトが有効 (true) か有効でない (false) かを示します。
LocalPart	string	Create Filter	電子メールサービスアドレスのローカル部分。 Salesforce.com 電子メールアドレスのローカル部分には、すべての英数字が使用できるほか、特殊文字「!#\$%&*%/=?^_-`{ }~」も使用できます。先頭または末尾の文字として使用しない限りは、ピリオド(.) も使用できます。Salesforce.com 電子メールアドレスは、大文字と小文字の区別はありません。
RunAsUserId	reference	Defaulted on create Filter	電子メールサービスを許可するユーザは、このアドレスに送信されるメッセージの処理される場合を想定します。

## 使用方法

このオブジェクトは、電子メールサービス機能をサポートしています。この機能を使用して、Apex クラスを使用して、受信電子メールの内容、ヘッダー、添付ファイルを処理する自動化プロセスを作成することができます。たとえば、メッセージに含まれる取引先責任者情報に基づいて、取引先責任者レコードを自動的に作成する

電子メールサービスを作成できます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「電子メールサービスとは?」を参照してください。

## EmailServicesFunction

電子メールサービス。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AddressInactiveAction	string	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	電子メールアドレスが無効なときに受信したメッセージを、電子メールサービスでどのように処理するかを示します。 以下のいずれかの値になります。 <ul style="list-style-type: none"><li>0—システムのデフォルトが使用されます。</li><li>1—電子メールサービスは、メッセージが却下された理由を説明する通知とともに、メッセージを送信者に返します。</li><li>2—電子メールサービスは、送信者に通知せずにメッセージを破棄します。</li><li>3—電子メールサービスは、次の 24 時間以内に処理するようにメッセージをキューに入れます。メッセージが 24 時間以内に処理されない場合は、メッセージが却下された理由を説明する通知とともに、メッセージを送信者に返します。</li></ul>
ApexClassId	ID	Create Filter Nillable Update	電子メールサービスが受信メッセージを処理するために使用する Apex クラス ID。
AttachmentOption	string	Create Filter Restricted picklist	電子メールサービスが受け取る添付ファイルの種類を示します。以下のいずれかの値になります。 <ul style="list-style-type: none"><li>0—電子メールサービスは、メッセージを受け付けますが、添付ファイルはいずれも破棄します。</li><li>1—電子メールサービスは、次のタイプの添付ファイルのみを受け付けます。</li></ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AuthenticationFailureAction	string	<p><a href="#">Create</a></p> <p><a href="#">Filter</a></p> <p><a href="#">Nillable</a></p> <p><a href="#">Restricted picklist</a></p> <p><a href="#">Update</a></p>	<p><a href="#">IsAuthenticationRequired</a> 項目が true のときに、認証プロトコルでエラーになったり認証プロトコルをサポートしていないメッセージを、電子メールサービスでどのように処理するかを示します。</p> <p>以下のいずれかの値になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0—システムのデフォルトが使用されます。</li> <li>1—電子メールサービスは、メッセージが却下された理由を説明する通知とともに、メッセージを送信者に返します。</li> <li>2—電子メールサービスは、送信者に通知せずにメッセージを破棄します。</li> <li>3—電子メールサービスは、次の 24 時間以内に処理するようにメッセージをキューに入れます。メッセージが 24 時間以内に処理されない場合は、メッセージが却下された理由を説明する通知とともに、メッセージを送信者に返します。</li> </ul>
AuthorizationFailureAction	ID	<p><a href="#">Create</a></p> <p><a href="#">Filter</a></p> <p><a href="#">Nillable</a></p> <p><a href="#">Restricted picklist</a></p> <p><a href="#">Update</a></p>	<p>電子メールサービス、電子メールサービスアドレスで、<a href="#">AuthorizedSenders</a> 項目に設定されていない送信者から受信したメッセージを、電子メールサービスでどのように処理するかを示します。</p> <p>以下のいずれかの値になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0—システムのデフォルトが使用されます。</li> <li>1—電子メールサービスは、メッセージが却下された理由を説明する通知とともに、メッセージを送信者に返します。</li> <li>2—電子メールサービスは、送信者に通知せずにメッセージを破棄します。</li> </ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			<ul style="list-style-type: none"> <li>3—電子メールサービスは、次の 24 時間以内に処理するようにメッセージをキューに入れます。メッセージが 24 時間以内に処理されない場合は、メッセージが却下された理由を説明する通知とともに、メッセージを送信者に返します。</li> </ul>
AuthorizedSenders	textarea	Create Filter Nillable Update	電子メールサービスを、この項目に一覧表示された電子メールアドレスまたはドメインからのメッセージのみを受け取るよう設定します。電子メールサービスが、リストに記載されていない電子メールアドレスまたはドメインからのメッセージを受信すると、 <code>AuthorizationFailureAction</code> 項目で指定されたアクションを実行します。電子メールサービスですべての電子メールアドレスからの電子メールを受信する場合は、空白のままにしておきます。
ErrorRoutingAddress	電子メール	Create Filter Nillable Update	<code>IsErrorRoutingEnabled</code> が <code>true</code> の場合の、エラー通知電子メールメッセージの宛先の電子メールアドレス。
FunctionInactiveAction	string	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	<p>電子メールサービス自体が無効なときに受信したメッセージを、電子メールサービスでどのように処理するかを示します。</p> <p>以下のいずれかの値になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>0—システムのデフォルトが使用されます。</li> <li>1—電子メールサービスは、メッセージが却下された理由を説明する通知とともに、メッセージを送信者に返します。</li> <li>2—電子メールサービスは、送信者に通知せずにメッセージを破棄します。</li> <li>3—電子メールサービスは、次の 24 時間以内に処理するようにメッセージをキューに入れます。メッセージが 24 時間以内に処理されない場合は、メッセージが却下された理由を説明する通知とともに、メッセージを送信者に返します。</li> </ul>
FunctionName	string	Create Filter idLookup Update	電子メールサービスの名前。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsActive	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	このオブジェクトが有効 (true) か有効でない (false) かを示します。
IsAuthenticationRequired	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	電子メールサービスを、メッセージを処理する前に送信サーバの妥当性を検証するよう設定します。電子メールサービスは SPF、SenderId、DomainKeys プロトコルを使用して、送信者の妥当性を検証します。送信サーバがこれらのプロトコルの少なくとも 1つを渡し、1つもエラーが発生しなかった場合、電子メールサービスは電子メールを受け入れます。サーバがプロトコルでエラーになったり、どのプロトコルもサポートしていない場合、電子メールサービスは、 <a href="#">AuthenticationFailureAction</a> 項目のレスポンス設定で指定したアクションを実行します。
IsErrorRoutingEnabled	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	Salesforce.com が受信電子メールメッセージを処理できない場合、エラー通知の電子メールメッセージを選択したアドレスに送信されるのか、または送信者に送信されるのかを示します。
IsTextTruncated	boolean	Create Filter Update	およそ 100,000 文字を超える本文の HTML テキスト、プレーンテキスト、および添付のテキストファイルがある電子メールメッセージを切り捨て手受信する (true) か、これらの電子メールメッセージを拒否し、送信者に通知する (false) かを示します。
IsTlsRequired	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	受信メールのセキュリティと認証を確実にするため、安全な電子メール通信のための Transport Layer Security(TLS) プロトコルを使用するよう、電子メールサービスを設定します。
OverLimitAction	string	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	すべての電子メールサービスを合わせた処理メッセージの合計数が組織の 1 日の制限値に達した場合、電子メールサービスでメッセージをどのように処理するかを示します。 以下のいずれかの値になります。 <ul style="list-style-type: none"><li>0—システムのデフォルトが使用されます。</li></ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			<ul style="list-style-type: none"><li>1—電子メールサービスは、メッセージが却下された理由を説明する通知とともに、メッセージを送信者に返します。</li><li>2—電子メールサービスは、送信者に通知せずにメッセージを破棄します。</li><li>3—電子メールサービスは、次の 24 時間以内に処理するようにメッセージをキューに入れます。メッセージが 24 時間以内に処理されない場合は、メッセージが却下された理由を説明する通知とともに、メッセージを送信者に返します。</li></ul> <p>Salesforce.com は、ユーザライセンス数 x 1000 で制限値を算出します。</p>

## 使用方法

このオブジェクトは、電子メールサービス機能をサポートしています。この機能を使用して、Apex クラスを使用して、受信電子メールの内容、ヘッダー、添付ファイルを処理する自動化プロセスを作成することができます。たとえば、メッセージに含まれる取引先責任者情報に基づいて、取引先責任者レコードを自動的に作成する電子メールサービスを作成できます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

## EmailStatus

送信された電子メールの状況を表します。

サポートされているコール

`describeGlobal()`、`describeSObject()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
EmailTemplateName	string	Filter Nillable	<code>EmailTemplate</code> の名前。
FirstOpenDate	dateTime	Filter Nillable	受信者が電子メールを最初に開いた日付け。ラベルは「オープン日」です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
TaskId	reference	Filter Nillable	電子メールに関連付けられた活動(タスクまたはイベント)。ラベルは活動 IDです。
TimesOpened	int	Filter	受信者が電子メールを開いた回数。
WhoId	reference	Filter Nillable	この受信者に関連付けられた取引先責任者またはリードの ID。ラベルは取引先責任者/リード IDです。

## EmailTemplate

一括メール、またはレコードの活動履歴関連リストが変更された場合に送信される電子メールのテンプレートを表します。



メモ: Visualforce 電子メールテンプレートを使用して一括メール送信はできません。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`update()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ApiVersion	double	Create Filter Nillable Update	このクラスのAPIバージョン。どのページにも、作成時に API バージョンが指定されます。
Body	textarea	Create Nillable Update	電子メールの内容。
BrandTemplateId	reference	Create Filter Nillable	必須。電子メールテンプレートに関連付けられている BrandTemplate の ID。ブランドテンプレートは、電子メールテンプレートのレターへッド情報を提供します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Description	string	Create Filter Nillable Update	販売促進一括メールなど、テンプレートの説明。
DeveloperName	string	Create Defaulted on create Filter Nillable Update	APIのオブジェクトの一意の名前。この名前は、アンダースコアと英数字のみを含み、組織内で一意の名前にする必要があります。最初は文字であること、スペースは使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。管理パッケージで、この項目を使用することにより、パッケージインストール時の名前の競合を回避します。この項目を使用して、開発者は管理パッケージのオブジェクト名を変更し、変更は登録者の組織で反映されます。ラベルはテンプレートの一意の名前です。
Encoding	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	テンプレート用の文字セットエンコード。
FolderId	reference	Create Filter Update	テンプレートを含むフォルダの ID。
HtmlValue	textarea	Create Nillable Update	電子メールを表示するHTMLコーディングなど、電子メールメッセージの内容を指定します。最大384KBです。
IsActive	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	このテンプレートが有効(true)か有効でない(false)かを示します。
LastUsedDate	dateTime	Filter Nillable	このEmailTemplateが最後に使用された日付と時間。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Markup	textarea	Create Nillable Update	このテンプレートの内容を定義する Visualforce マークアップ、HTML、Javascript、およびその他の Web 対応コード。
Name	string	Create Filter Nillable Update	テンプレートの名前。ラベルは電子メールテンプレート名です。
NamespacePrefix	string	Filter Nillable	<p>このオブジェクトと関連付けられた名前空間 префикс。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間 префиксがあります。上限は 15 文字です。</p> <p><i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。</p> <p>名前空間 префиксには、次のいずれかの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織では、名前空間 префиксは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間 префиксを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間 префиксが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間 префиксです。</li> <li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間 префиксはありません。</li> </ul> <p>ログインしたユーザに「アプリケーションのカスタマイズ」権限が付与されていない場合、この項目にアクセスできません。</p>
OwnerId	reference	Create Filter	テンプレートの所有者の ID。
Subject	string	Create Nillable Update	件名行の内容。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
TemplateStyle	picklist	Create	formalLetter または freeform など、テンプレートのスタイル。
		Filter	Restricted picklist
TemplateType	picklist	Create	HTML、カスタムテンプレート、Visualforce に生成されたテンプレートなど、テンプレートの種類。
		Filter	Restricted picklist
TimesUsed	int	Create	テンプレートを使用した回数。
		Filter	Nillable

## 使用方法

このオブジェクトを取得するには、オブジェクトに説明コールを発行し、オブジェクトが作成されたあと、各活動のクエリ結果を返します。[query\(\)](#) は使用できません。

## EntityHistory

オブジェクトの変更された項目値に関する履歴情報を表します。このオブジェクトは、「すべてのデータの参照」権限を持つユーザのみが使用できます。

このオブジェクトは API バージョン 8.0 以降では使用できません。代わりに、オブジェクト固有の履歴オブジェクト (CaseHistory、ContractHistory、LeadHistory、OpportunityFieldHistory、OpportunityHistory、ProcessInstanceHistory、QuantityForecastHistory、RevenueForecastHistory、または SolutionHistory) を使用します。

### サポートされているコール

[query\(\)](#)、[retrieve\(\)](#)、[getUpdated\(\)](#)、[getDeleted\(\)](#)、[describeSObjects\(\)](#)

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
FieldName	picklist	Filter	標準項目またはカスタム項目の ID。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
		Restricted picklist	
IsDeleted	boolean	Defaulted on create	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
		Filter	

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
NewValue	anyType	Nillable	変更された項目の新しい値。
OldValue	test	Nillable	変更された項目の以前の値。
ParentId	reference	Filter	項目を含むオブジェクト ID。
ParentSobjectType	picklist	Filter Restricted picklist	項目を含むオブジェクトの種類。

## 使用方法

API version 7.0 以降で、このオブジェクトは、[ケース](#)、[取引先責任者](#)、および[ソリューションオブジェクト](#)とともに使用します。

- このオブジェクトは参照専用です。
- 項目が変更されると、このオブジェクトは古い項目値と新しい項目値の両方を記録します。  
この動作には、長いテキスト領域や複数選択の選択リストなど、特定の項目については例外があります。こうした項目はこのオブジェクトに表示され、項目が変更されても、古い値と新しい値が記録されないことを示します。
- 外部キー項目が変更されると、2つの行がこのオブジェクトに追加されます。一方の行には、オンラインアプリケーションに表示される外部キーオブジェクト名が指定されます。たとえば、「Jane Doe」は、取引先責任者として記録されます。もう一方の行には、APIのみに返され、APIから表示できる実際の外部キー ID が指定されます。
- 指定されたオブジェクトの最大合計 20 項目 (標準またはカスタム) を追跡することができます。
- オンラインアプリケーションで、追跡する項目または追跡しない項目をいつでも指定することができます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。
- 項目の追跡がオンになると、この値に対するすべての変更がデータベース内に記録されます。
- 項目の追跡をオフにすると、詳細な変更の記録が停止しますが、履歴データは削除されません。
- カスタム項目を削除すると、カスタム項目の履歴データも永続的に削除されます。

## 行動

カレンダー予約の行動を表します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`queryAll()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`、`upsert()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccountId	リファレンス	Filter Nillable	関連付けられた取引先の ID。
ActivityDate	date	Create Filter Nillable Update	<p>行動の <code>IsAllDayEvent</code> フラグが <code>true</code> に設定されると(終日の行動であることを示す)行動の期日に関する情報が、<code>ActivityDate</code> 項目で指定されます。この項目には、協定世界時(UTC)タイムゾーンの午前0時に常に設定されている日付項目があります。タイムスタンプに関連性はありません。タイムスタンプを変更して、タイムゾーンの時差を処理しないでください。ラベルは期日のみです。</p> <p><code>IsAllDayEvent</code> フラグが <code>true</code> に設定されている場合、この項目はバージョン 12.0 以前で必須です。</p> <p>この項目の値と <code>StartTime</code> が一致するか、いずれかが <code>null</code> である必要があります。</p>
ActivityDateTime	dateTime	Create Filter Nillable Update	<p>行動の <code>IsAllDayEvent</code> フラグが <code>false</code> に設定されると(終日の行動でないことを示す)、行動の期日に関する情報が、<code>ActivityDateTime</code> 項目で指定されます。この項目は、関連する時間表示の通常の日付/時間項目です。時間の部分は、常に協定世界時(UTC)に移行されます。必要に応じて、ユーザまたはアプリケーションのローカルタイムゾーンとの間で変換する必要があります。ラベルは期日 時間です。</p> <p><code>IsAllDayEvent</code> フラグが <code>false</code> に設定されている場合、この項目はバージョン 12.0 以前で必須です。</p> <p>この項目の値と <code>StartTime</code> が一致するか、いずれかが <code>null</code> である必要があります。</p>
Description	textarea	Create Nillable Update	行動のテキストによる説明。最大 32,000 文字です。
DurationInMinutes	int	Create Filter Nillable Update	<p>行動の長さ(分)。一時的な値ですが、<code>dateTime</code> 型ではなく <code>integer</code> 型です。</p> <p><code>IsAllDayEvent</code> が <code>false</code> の場合、この項目はバージョン 12.0 以前で必須です。</p> <p>バージョン 13.0 以降の場合、次に基づいてこの項目はオプションとなります。</p>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			<ul style="list-style-type: none"><li>• <code>IsAllDayEvent</code> が <code>true</code> の場合、<code>DurationInMinutes</code> または <code>EndDateTime</code> のいずれかに値を指定できます。同じ範囲の時間に評価すると、両方の項目に値を指定できます。両方の項目が <code>null</code> の場合、時間のデフォルト値は 1 日になります。</li><li>• <code>IsAllDayEvent</code> が <code>false</code> の場合、<code>DurationInMinutes</code> または <code>EndDateTime</code> のいずれかに値をする必要があります。同じ範囲の時間に評価すると、両方の項目に値を指定できます。</li></ul> <p>Salesforce.com の複数日の行動機能が有効な場合、API バージョン 13.0 以降では、<code>DurationInMinutes</code> 項目の 1440 を超える値をサポートします。API バージョン 12.0 以前では、<code>DurationInMinutes</code> が 1440 を超える行動オブジェクトにはアクセスできません。詳細は、<a href="#">複数日の行動</a>を参照してください。</p>
<code>EndDateTime</code>	<code>dateTime</code>	<code>Create</code> <code>Filter</code> <code>Nillable</code> <code>Update</code>	バージョン 13.0 以降で利用できます。この項目は、次の場合オプションになります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <code>IsAllDayEvent</code> が <code>true</code> の場合、<code>DurationInMinutes</code> または <code>EndDateTime</code> のいずれかに値を指定できます。同じ範囲の時間に評価すると、両方の項目に値を指定できます。両方の項目が <code>null</code> の場合、時間のデフォルト値は 1 日になります。</li><li>• <code>IsAllDayEvent</code> が <code>false</code> の場合、<code>DurationInMinutes</code> または <code>EndDateTime</code> のいずれかに値をする必要があります。同じ範囲の時間に評価すると、両方の項目に値を指定できます。</li></ul>
<code>IsAllDayEvent</code>	<code>Boolean</code>	<code>Create</code> <code>Defaulted on create</code> <code>Filter</code> <code>Update</code>	<code>ActivityDate</code> 項目 ( <code>true</code> ) または <code>ActivityDateTime</code> 項目 ( <code>false</code> ) のどちらを使用して、行動の日付/時間を定義するかを示します。ラベルは終日行動です。 「 <code>DurationInMinutes</code> 」と「 <code>EndDateTime</code> 」も参照してください。
<code>IsChild</code>	<code>Boolean</code>	<code>Defaulted on create</code> <code>Filter</code>	行動が別の行動の子であるか ( <code>true</code> )、否か ( <code>false</code> ) を示します。
<code>IsDeleted</code>	<code>Boolean</code>	<code>Defaulted on create</code> <code>Filter</code>	オブジェクトがごみ箱に移動した ( <code>true</code> ) か、移動していない ( <code>false</code> ) を示します。ラベルは削除です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsGroupEvent	Boolean	Defaulted on create Filter	行動が、複数の出席者によるグループ行動か(true)、そうでないか(false)を示します。
IsPrivate	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	この行動の作成者以外のユーザが、イベントユーザのカレンダーを表示した場合に、行動の詳細を表示できるか(false)否か(true)を示します。ただし、「すべてのデータの参照」または「すべてのデータの編集」権限を持つユーザは、レポートや検索、または他のユーザのカレンダーを参照したときに非公開行動を参照できます。非公開行動は、商談、取引先、ケース、キャンペーン、契約、リードまたは取引先責任者に関連付けることはできません。ラベルは非公開です。
IsRecurrence	Boolean	Create Defaulted on create Filter	行動が繰り返すようスケジュール指定されているか(true)か、1回だけ実行するか(false)を示します。これは、createではなくupdateの参照専用項目です。この項目の値がtrueである場合、RecurrenceEndDateOnly、RecurrenceStartTime、RecurrenceType、指定された定期的なタイプに関連付けられた定期項目を投入する必要があります。「定期的な行動を参照してください。ラベルは、定期的な行動を作成です。
IsReminderSet	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	行動がリマインダーであるか(true)否か(false)を示します。
IsVisibleInSelfService	Boolean	Defaulted on create Filter Update	オブジェクトに関連付けられた行動をカスタマーポータルで参照できるか(true)否か(false)を示します。
Location	文字列	Create Filter Nullable Update	行動の場所。
OwnerId	リファレンス	Create Defaulted on create Filter	行動を所有するユーザのID。ラベルは割り当て先 IDです。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
<a href="#">Update</a>			
RecurrenceActivityId	reference	Filter Nillable	参照専用。create には必須ではありません。定期的な行動の主要なレコードの ID。後続の行動には、この項目の同じ値が指定されます。
RecurrenceDayOfMonth	int	Create Filter Nillable <a href="#">Update</a>	行動を繰り返す日付。
RecurrenceDayOfWeekMask	int	Create Filter Nillable <a href="#">Update</a>	行動を繰り返す曜日。この項目にはビットマスクが指定されます。各曜日について、値は次のようにになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日曜日 = 1</li> <li>・ 月曜日 = 2</li> <li>・ 火曜日 = 4</li> <li>・ 水曜日 = 8</li> <li>・ 木曜日 = 16</li> <li>・ 金曜日 = 32</li> <li>・ 土曜日 = 64</li> </ul> 複数の日付は、それらの値の合計で示されます。たとえば、火曜日と木曜日 = $4 + 6 = 20$ です。
RecurrenceEndDateOnly	date	Create Filter Nillable <a href="#">Update</a>	行動を繰り返した最後の日。複数の日にわたる定期的な行動の場合、最後に行動が開始された日付となります。
RecurrenceInstance	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist <a href="#">Update</a>	定期的な行動の頻度。たとえば、「2番目」または「3番目」などです。
RecurrenceInterval	int	Create Filter Nillable <a href="#">Update</a>	定期的なイベント間の間隔。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
RecurrenceMonthOfYear	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	行動を繰り返す月。
RecurrenceStartTime	dateTime	Create Filter Nillable Update	定期的な行動が開始される日時。 <a href="#">RecurrenceEndDateTime</a> の前の日時である必要があります。
RecurrenceTimeZoneSidKey	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	定期的な行動に関連付けられたタイムゾーン。たとえば、太平洋標準時の「UTC-8:00」です。
RecurrenceType	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	行動を繰り返す頻度を示します。たとえば、毎日、毎週、または N か月ごと(「N か月」は <a href="#">RecurrenceInstance</a> で指定)です。
ReminderDateTime	dateTime	Create Filter Nillable Update	<a href="#">IsReminderSet</a> が true に設定されている場合、リマインダーが起動するよう指定されている時間を表します。false に設定されている場合、Salesforce.com ユーザインターフェースのリマインダーチェックボックスの選択を解除、またはその値が示す時間にはすでにリマインダーが起動しています。
ShowAs	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	別のユーザがカレンダーを参照した場合にこの行動がどのように表示されるか(多忙、オフィス外、または自由時間)を示します。ラベルは時間の状態表示です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
StartTime	dateTime	Create Filter Nillable Update	<p>バージョン 13.0 以降で利用できます。行動の開始日時。</p> <p>行動の <code>IsAllDayEvent</code> フラグが <code>true</code> に設定されると(終日の行動であることを示す)行動の開始日に関する情報が、<code>StartTime</code> 項目で指定されます。この項目には、協定世界時(UTC)タイムゾーンの午前0時に常に設定されている日付項目があります。タイムスタンプに関連性はありません。タイムスタンプを変更して、タイムゾーンの時差を処理しないでください。</p> <p>行動の <code>IsAllDayEvent</code> フラグが <code>false</code> に設定されると(終日の行動でないことを示す)行動の開始日に関する情報が、<code>StartTime</code> 項目で指定されます。時間の部分は、常に協定世界時(UTC)に移行されます。必要に応じて、ユーザまたはアプリケーションのローカルタイムゾーンとの間で変換する必要があります。</p> <p>この項目に値が指定されている場合、<code>ActivityDate</code> および <code>ActivityDateTime</code> のいずれかが <code>null</code> であるか、この項目の値と一致する必要があります。</p>
Subject	combobox	Create Filter Nillable Update	「電話」、「電子メール」、または「ミーティング」など、行動の件名行。
Type	picklist	Create Filter Nillable Update	「電話」、「電子メール」、または「ミーティング」など、行動の種類。
WhatId	reference	Create Filter Nillable Update	関連する取引先、商談、キャンペーン、ケース、またはカスタムオブジェクトの ID。ラベルは商談/取引先 IDです。
WhoId	reference	Create Filter Nillable Update	関連する取引先責任者またはリードの ID。 <code>WhoId</code> がリードを参照する場合、 <code>WhatId</code> 項目は空である必要があります。ラベルは取引先責任者/リード IDです。

## 使用方法

行動を使用して、カレンダーの予定を管理します。

### 行動の問い合わせと絞り込み

行動に関するクエリは、大きすぎるデータを使用する場合、タイムアウトする前に拒否されます。そのような場合、[OPERATION\\_TOO\\_LARGE](#) が返されます。[OPERATION\\_TOO\\_LARGE](#) エラーメッセージを受信した場合、クエリをリファクタリングし、より少ない量のデータを返すかスキヤンします。

特定の期日を持つイベントにクエリを実行する場合、[ActivityDateTime](#) 項目および [ActivityDate](#) 項目を絞り込む必要があります。たとえば、期日が 2003 年 2 月 14 日の場合、次の 2 つの条件が必要です。

- [ActivityDate](#) 項目が協定世界時 (UTC) タイムゾーンの 2003 年 2 月 14 日に等しい。
- [ActivityDateTime](#) 項目がローカルタイムゾーンの 2003 年 2 月 14 日の午前 0 時以降、かつユーザのローカルタイムゾーンの 2003 年 2 月 15 日午前 0 時以前の値。

また、バージョン 13.0 以降では、[StartTime](#) で絞込み、特定の期日の行動を検索することができます。たとえば、期日が 2003 年 2 月 14 日であるすべての行動を検索するには、ローカルタイムゾーンの 2003 年 2 月 14 日の午前 0 時以降、かつユーザのローカルタイムゾーンの 2003 年 2 月 15 日午前 0 時以前の [ActivityDateTime](#) で絞り込みます。

### 複数日の行動

- 複数日の行動はバージョン 13.0 以降で使用できます。また、以前のバージョンの SOQL クエリは、複数日の行動を返しません。
- 複数日イベントは、[設定] ▶ [カスタマイズ] ▶ [活動] ▶ [活動設定] でオンラインユーザインターフェースで有効化できます。
- Salesforce.com の複数日の行動機能が有効な場合、API バージョン 13.0 以降では、[DurationInMinutes](#) 項目の 1440 を超える値をサポートします。API バージョン 12.0 以前では、[DurationInMinutes](#) が 1440 を超える行動オブジェクトにはアクセスできません。
- 複数日の行動は 14 日を超えることができません。

### 定期的な行動

- 定期的な行動はバージョン 7.0 以降で使用できます。
- 行動が作成されると、定期的な行動から定期的でない行動に変更することはできません。その逆も同様です。
- API を使用して定期的な行動を削除すると、過去および将来の行動がすべて削除されます。ただし、Salesforce.com ユーザインターフェースで定期的な行動を削除しても、将来の行動だけが削除されます。
- 定期的な行動を作成すると、行動の時間は 24 時間以下である必要があります ([DurationInMinutes](#) の値または [RecurrenceStartTime](#) と [EndDateTime](#) の間が 24 時間を超えてはいけません)。定期的な行動を作成すると、複数日の行動が有効な場合は、個々の行動時間を 24 時間以上に延長できます。詳細は、「[複数日の行動](#)」を参照してください。
- [IsRecurrence](#) が `true` である場合、[RecurrenceStartTime](#)、[RecurrenceEndDateTime](#)、[RecurrenceType](#)、および指定された定期的なタイプに関連付けられたプロパティ (次の表を参照) を投入する必要があります。

次の表には、定期項目の使用方法について説明します。定期的タイプには、プロパティ設定のすべてが指定されています。未使用的プロパティはすべて `null` に設定する必要があります。

RecurrenceType の値	プロパティ	パターンの例
RecursDaily	RecurrenceInterval	一日おき

RecurrenceType の値	プロパティ	パターンの例
RecursEveryWeekday	RecurrenceDayOfWeekMask	土曜、日曜以外のすべての平日
RecursMonthly	RecurrenceDayOfMonth RecurrenceInterval	1か月おき、月の 3 日目
RecursMonthlyNth	RecurrenceInterval RecurrenceInstance RecurrenceDayOfWeekMask	1か月おき、月の最終金曜日
RecursWeekly	RecurrenceInterval RecurrenceDayOfWeekMask	2週間おきの水曜日と金曜日
RecursYearly	RecurrenceDayOfMonth RecurrenceMonthOfYear	毎年 3 月の 26 日
RecursYearlyNth	RecurrenceDayOfWeekMask RecurrenceInstanceRecurrenceMonthOfYear	毎年 10 月の第 1 土曜日

アーカイブ済み行動の処理についての詳細は、「[アーカイブ済みの活動](#)」を参照してください。

## EventAttendee

行動への出席を招待された個人(ユーザ、取引先責任者、またはリードなど)または行動に関連付けられたスケジュール指定のリソース(会議室など)を表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`getUpdated()`、`getDeleted()`、`describeSObjects()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
AttendeeId	reference	Filter	行動への出席を招待された個人(ユーザ、取引先責任者、またはリードなど)または行動に関連付けられたスケジュール指定のリソースの ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください行動の所有者である出席者を作成することはできません。この制限により、所有者のカレンダーに 2 回表示される行動などのエラーを回避することができます。
EventId	reference	Filter	行動の ID。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
RespondedDate	dateTime	Filter Nillable	出席者(招待者)が応答した日時。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
Response	string	Filter Nillable	行動要求に応答する際に入力した出席者のオプションテキスト。
Status	picklist	Filter Restricted picklist	<p>出席者の状況。以下のいずれかの値になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>New—招待者は招待状を受け取ったことはあるが、出席者ことがない。</li> <li>Declined—イベントへの出席を辞退する。</li> <li>Accepted—イベントへ出席の招待を承認した。</li> <li>Deleted—招待状が削除されている。</li> <li>Maybe—今後の使用のために保持。これは有効な値ではありません。</li> </ul>

## 使用方法

このオブジェクトは、特定のイベントに誰を招待しているか、その正体に対するレスポンスについての情報を提供します。クライアントアプリケーションは、たとえば、指定された行動のこのオブジェクトに `query()` を実行してリストを反復し、状況を検証して、招待状を受け取ったすべての個人に電子メール通知を送信します。

特定の人物が指定された期間(例: 来週など)に出席するすべての行動を確認するには、クライアントアプリケーションは指定された日付の範囲の **イベント** オブジェクトを問い合わせ、結果を反復し、各行動について **EventAttendee** オブジェクトを問い合わせて特定の個人(`AttendeeId`)がその行動の招待状を受け取ったかどうかを確認します。

## EventTag

単語または短い語句を行動に関連付けます。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい <b>TagDefinition</b> が作成され、このタグオブジェクトの親となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親リレーションは自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	<p>タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Public:</b> 組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li> <li><b>Personal:</b> タグは、OwnerId に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li> </ul>

## 使用方法

EventTag は、親 TagDefinition とタグ付けされている行動との関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## FiscalYearSettings

組織のカスタム会計年度または標準会計年度を定義する設定。このオブジェクトは、期間オブジェクトと親子関係があります。

### サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsStandardYear	boolean	Defaulted on create Filter	会計年度が標準の 1 年か ( <code>true</code> )、カスタム会計年度 ( <code>false</code> ) かを示します。
Name	string	Filter idLookup	会計年度の名前。最大 80 文字です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
PeriodId	reference	Filter Nillable	関連付けられた会計年度のID。IDについての詳細は、「ID データ型」を参照してください。
PeriodLabelScheme	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	会計期間に使用される採番スキーマ。
PeriodPrefix	picklist	Filter Nillable	会計期間の接頭辞。たとえば、「P」が接頭辞の場合、最初の期間は「P1」となります。
QuarterLabelScheme	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	会計四半期に使用される採番スキーマ。
QuarterPrefix	picklist	Filter Nillable	会計四半期の接頭辞。たとえば、「Q」が接頭辞の場合、最後の期間は「Q4」となります。
WeekLabelScheme	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	週に使用される採番スキーマ。
YearType	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	2種類の会計年度(標準またはカスタム)を示します。標準は、標準のグレゴリア暦、カスタムはカスタム構造の会計年度。

## 使用方法

このオブジェクトは参照専用です。カスタム会計年度または標準会計年度の設定の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

## フォルダ

ドキュメント、MailMergeTemplate、EmailTemplate、またはレポートのリポジトリを表します。1種類のアイテムだけを、フォルダに保存できます。

## サポートされているコール

```
create()、update()、delete()、describeSObjects()、query()、retrieve()、getDeleted()、  
getUpdated()
```

## 特別なアクセスルール

- ドキュメントフォルダ、電子メールテンプレートフォルダ、レポートフォルダを作成、更新または削除するには、「すべてのデータを編集する」権限が割り当てられている必要があります。
- フォルダを問い合わせるには、特別な権限は必要ありません。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccessType	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	必須項目フォルダにアクセスできるユーザを示します。値には、次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"><li>Hidden—フォルダはすべてのユーザに非表示となります。</li><li>Public—フォルダにはすべてのユーザがアクセスできます。</li><li>Shared—フォルダには、特定のグループまたは UserRole のユーザのみがアクセスできます。API を使用すると、フォルダを共有するグループまたはロールを参照、挿入または更新することができます。</li></ul>
DeveloperName	string	Create Filter Nullable Update	APIのオブジェクトの一意の名前。この名前は、アンダースコアと英数字のみを含み、組織内で一意の名前にする必要があります。最初は文字であること、スペースは使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。管理パッケージで、この項目を使用することにより、パッケージインストール時の名前の競合を回避します。この項目を使用して、開発者は管理パッケージのオブジェクト名を変更し、変更は登録者の組織で反映されます。ラベルはフォルダの一意の名前です。
IsReadOnly	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	このフォルダが参照専用か(true)否か(false)を示します。ラベルは参照のみです。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
名前	string	Create Filter idLookup Nillable Update	Salesforce.com ユーザインターフェースに表示されるフォルダのラベル。ラベルは名前です。
NamespacePrefix	string	Filter Nillable	<p>このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。</p> <p><i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。</p> <p>名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</li> <li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li> </ul> <p>ログインしたユーザに「アプリケーションのカスタマイズ」権限が付与されていない場合、この項目にアクセスできません。</p>
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	<p>必須項目フォルダに保存されているオブジェクトの種類。この項目は更新できません。値には、次のものがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ダッシュボード</li> <li>ドキュメント</li> <li>電子メールテンプレート</li> <li>レポート</li> </ul>

## 使用方法

ドキュメント、MailMergeTemplate、EmailTemplate、またはレポートのうち、1種類のアイテムだけをフォルダに保存できます。

## ForecastShare

指定されたロールおよびテリトリーの売上予測の共有を表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccessLevel	picklist	Filter Restricted picklist	使用できる共有の種類を表す値(Read、Edit、またはAll)。
CanSubmit	boolean	Filter	ユーザまたはグループが売上予測を登録できるか(true)否か(false)を示します。
RowCause	picklist	Filter Restricted picklist	共有エントリが存在する理由。参照のみ。次のような、多くの値を指定できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>Manual - ユーザが手動で売上予測を共有していたため、ユーザまたはグループにアクセス権限が割り当てられています。</li><li>Owner - ユーザは、売上予測の所有者です。</li></ul>
UserorGroupId	reference	Filter	アクセス権限が割り当てられているユーザまたはグループを表す ID。
UserRoleId	reference	Filter	このオブジェクトに関連付けられているUserRole の ID。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、他のユーザが所有する売上予測を参照および登録できるユーザやグループを指定することができます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「共有」を参照してください。

## グループ

ユーザのセットを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Email	email	Create Filter Nillable Update	ケースのグループの電子メールアドレス。ケースキューにのみ適用されます。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須項目。グループの名前。
OwnerId	reference	Filter	グループを所有するユーザの ID。
RelatedId	reference	Filter Nillable	「ロール」のグループの場合、関連付けられた UserRole の ID。参照のみ。
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	必須項目。グループの種類。以下のいずれかの値になります。 <ul style="list-style-type: none"><li>Regular—標準公開グループです。グループに <code>create()</code> を実行すると、PRM (Partner Relationship Management) ポータルが組織で有効化されている場合、種類は Regular でなければなりません。そのような場合、種類は Regular または PRMOrganization となります。</li><li>Role—特定の UserRole のすべてのユーザを含む公開グループ。</li><li>RoleAndSubordinates—特定の UserRole のユーザと、その UserRole の下にある UserRole のすべてのユーザを含む公開グループ。</li><li>Organization—組織内のすべてのユーザを含む公開グループ。このグループは参照専用です。</li><li>Case—ケースを所有できるキューのユーザ、メンバーの公開グループ。</li></ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			<ul style="list-style-type: none"><li>Lead—リードを所有できるキューのユーザ、メンバーの公開グループ。</li><li>PRMOrganization—PRM 機能を有効化している組織のすべてのパートナーを含む公開グループ。</li><li>Queue—キューのメンバーであるすべてのユーザを含む公開グループ。</li><li>Territory—テリトリー機能を有効化している組織のすべてのユーザを含む公開グループ。</li><li>TerritoryAndSubordinates—特定の UserRole のユーザと、その UserRole の下にある UserRole のすべてのユーザを含む公開グループ。</li></ul> <p>グループ作成時に使用できるのは、Regular、Case、Leadのみです。他の値は、salesforce.com 使用のために保持されます。</p>

## 使用方法

ユーザと異なり、このオブジェクトは削除できます。いかなるユーザもこのオブジェクトにアクセスできます。特別な権限は必要ありません。

API を使用すると、公開グループにのみアクセスできます。個人グループは使用できません。



メモ: API version 13.0 以降では、公開グループを削除すると、共有で使用している場合であっても UserRole の動作と連動して削除されます。version 13.0 より古い場合、こうした共有により、レコードは削除できません。

## GroupMember

公開グループのメンバーであるユーザまたはグループを表します。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
GroupId	reference	Create Filter	必須項目「グループ」の ID。IDについての詳細は、「ID データ型」を参照してください
UserOrGroupId	reference	Create Filter	必須項目「グループ」の直接のメンバーである「ユーザ」または「グループ」の ID。IDについての詳細は、「ID データ型」を参照してください

## 使用方法

Type 項目がレギュラーに設定されている公開グループの直接メンバーであるすべてのユーザまたはグループにレコードがあります。レギュラーの公開グループの間接的なメンバーであるユーザはグループメンバーとしてリストに記載されません。ユーザが階層内の直接グループメンバーの上位にある UserRole である場合、またはユーザがグループのサブグループのメンバーである場合、ユーザはグループの間接メンバーとなります。

既存のレコードに一致するレコードを作成しようとすると、`create()` コールは、ただ既存のレコードを返します。

## 休日

カスタマーサポートチームが使用できない期間を表します。営業時間と営業時間に関連付けられたエスカレーションルールは、それらに関連付けられた休日期間中は中断されます。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
ActivityDate	date	Create Filter Nillable Update	休日の <code>IsAllDay</code> フラグが <code>true</code> に設定されると(終日の休日であることを示す)休日の期日に関する情報が、 <code>ActivityDate</code> 項目で指定されます。この項目には、協定世界時(UTC)タイムゾーンの午前0時に常に設定されている日付項目があります。タイムスタンプに関連性はありません。タイムスタンプを変更して、タイムゾーンの時差を処理しないでください。

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
説明	string	Create Filter Nillable Update	休日のテキストによる説明。
EndTimeInMinutes	int	Create Filter Nillable Update	休日の終了時刻分。
IsAllDay	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	休日の期間が終日である(true)か、そうでない(false)かを示します。
IsRecurrence	boolean	Create Defaulted on create Filter	休日が繰り返されるようスケジュール指定されているか(true)か、1回だけ実行するか(false)を示します。これは、createではなくupdateの参照専用項目です。この項目の値がtrueである場合、指定された定期的なタイプに関連付けられた定期項目を投入する必要があります。
Name	string	Create Filter Update	休日の名前。
RecurrenceDayOfMonth	int	Create Filter Nillable Update	休日を繰り返す日付。
RecurrenceDayOfWeekMask	int	Create Filter Nillable Update	休日を繰り返す曜日。この項目にはビットマスクが指定されます。各曜日について、値は次のようにになります。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 日曜日 = 1</li><li>・ 月曜日 = 2</li><li>・ 火曜日 = 4</li><li>・ 水曜日 = 8</li><li>・ 木曜日 = 16</li><li>・ 金曜日 = 32</li><li>・ 土曜日 = 64</li></ul>

項目	フィールドの データ型	項目のプロパティ	説明
			複数の日付は、それらの値の合計で示されます。たとえば、火曜日と木曜日 = 4 + 6 = 20 です。
RecurrenceEndDateOnly	<a href="#">date</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	休日を繰り返した最後の日。複数の日にわたる定期的な行動の場合、最後に行動が開始された日付となります。
RecurrenceInstance	<a href="#">picklist</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Restricted picklist</a> <a href="#">Update</a>	定期的な休日の頻度。たとえば、「2番目」または「3番目」などです。
RecurrenceInterval	<a href="#">int</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	定期的な休日間の間隔。
RecurrenceMonthOfYear	<a href="#">picklist</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Restricted picklist</a> <a href="#">Update</a>	行動を繰り返す月。
RecurrenceStartDate	<a href="#">date</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	定期的な休日の開始日。 <a href="#">RecurrenceEndDateOnly</a> の前の日時である必要があります。
RecurrenceType	<a href="#">picklist</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Restricted picklist</a> <a href="#">Update</a>	休日を繰り返す頻度を示します。たとえば、毎日、毎週、または N か月ごと（「N か月」は <a href="#">RecurrenceInstance</a> で指定）です。
StartTimeInMinutes	<a href="#">int</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a>	休日の開始時刻 分。

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
		Nillable	
		Update	

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、休日を参照および更新します。関連する営業時間およびエスカレーションルールが中断される日時を指定します。休日の詳細は、Salesforce.comオンラインヘルプの「休日の設定」を参照してください。

## アイデア

---

たとえば、既存の商品またはプロセスに対する拡張の提案など、ユーザがコメントまたは票決できるアイデアを示します。

### サポートされているコール

```
create()、update()、delete()、query()、search()、retrieve()、getDeleted()、getUpdated()、  
describeLayout()、describeSObjects()、upsert()
```



メモ: その他の標準オブジェクトの場合、`describeLayout()` コールは、各レコードタイプのレイアウト ID および選択リスト値を指定している `recordTypeMappings` セクションを返します。ただし、`recordTypeMappings` セクションとそれに含まれる項目は使用できません。

Idea オブジェクトに対して SOSL 検索を実行すると、`IdeaComment` オブジェクトも検索されます。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
Body	textarea	Create Nillable Update	アイデアの説明。
カテゴリ	multipicklist	Create Filter Nillable Update	アイデアを論理グループに整理するために使用するカスタマイズ可能な複数選択可能な選択リスト。  メモ: この項目は、組織が Salesforce.com で <code>Categories</code> 項目を有効にしている場合にのみ使用できます。デフォルトでは、この項目は、API version 14 がリリースされた後に作成された組織で有効化されています。 <code>Categories</code> 項目が有効化されている場合、API versions 13 以

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
			前では、Categories 項目または Category 項目いずれかへのアクセス権限がありません。
Category	picklist	Create Filter Nillable Update	<p>アイデアを論理グループに整理するために使用するカスタマイズ可能な選択リスト。</p> <p> メモ: この項目は、組織で複数選択の Categories 項目が有効化されている場合にのみ使用できます。</p>
CommunityId	reference	Create Filter	<p>アイデアに関連付けられているコミュニティの ID。アイデアが作成されると、そのアイデアに関連付けられたコミュニティ ID を変更できません。</p> <p> メモ: API version 12 では、コミュニティ ID はサポートされていません。API version 12 でアイデアを作成する場合、アイデアは自動的にアクセス権限を持つ古いコミュニティに送信されます。</p>
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。アイデアを削除すると、子オブジェクトの IdeaComment および 投票も削除されます。
IsHTML	Boolean	Defaulted on create Filter	参照専用。この値が true の場合、組織は Salesforce CRM Ideas HTML エディタを有効化し、アイデアの Body 項目には HTML が指定されています。この値が false の場合、HTML エディタは無効化され、アイデアの Body 項目には通常のテキストのみが指定されます。HTML エディタの有効化の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプで「HTML エディタ」を検索してください。
IsLocked	Boolean	Filter	参照のみ。アイデアが親アイデアにマージされたためにロックされているか(true)否か(false)を示します。ロックされたアイデアに投票またはコメントを追加できません。
LastCommentDate	dateTime	Filter Nillable	最後のコメント(子 IdeaComment オブジェクト)が追加された日付と時間。
LastCommentId	reference	Filter Nillable	参照のみ。最後のコメント(子 IdeaComment オブジェクト)の ID。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
NumComments	int	Filter Nillable	ユーザが指定されたアイデアに送信したコメント(子 IdeaComment オブジェクト)の数。
ParentIdeaID	reference	Nillable Filter	アイデアの親アイデアに関連付けられた ID。複数のアイデアがマージすると、一方のアイデアはもう一方のアイデアの親(主)となります。アイデアを Salesforce.com でマージすると、ParentIdeaID が自動的に設定されます。
Status	picklist	Create Filter Nillable Update	アイデアの状況を指定するために使用する値のカスタマイズ可能な選択リスト。
Title	string	Create Filter Update	アイデアの記述的なタイトル。
VoteScore	double	Filter Nillable	アプリケーションユーザインターフェースの [参照数] タブでアイデアを並べ替えるために使用する、アイデアの内部スコア。スコアを決定する内部アルゴリズムは、新しい投票より重みの少ない古い投票を指定し、指数関数的な減衰をシミュレートします。スコア自体は、アプリケーションユーザインターフェースに表示されません。
VoteTotal	double	Filter Nillable	アイデアのポイント数合計。ユーザが行う投票が 10 ポイントの価値があるため、この項目の値は、アイデアが受けた投票数を 10 倍したものです。



メモ: アイデアデータを Salesforce.com にインポートし、CreatedDate など、監査項目に値を設定する必要がある場合、salesforce.com に連絡してください。これらの項目を自身で設定する必要がない限り、監査項目は API 操作時に自動的に更新されます。詳細は、「[システム項目](#)」を参照してください。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、ユーザが投票し、コメントできる記述された推奨であるアイデアを記録します。アイデアの詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「アイデアの概要」を参照してください。

## IdeaComment

ユーザがアイデアに応答して送信するコメントを表します。

## サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeLayout()`、`describeSObjects()`、`upsert()`



### メモ:

IdeaComment オブジェクトに対して SOSL 検索を実行すると、Idea オブジェクトも検索されます。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CommentBody	textarea	Create Filter Nillable Update	送信されたコメントの本文。
IdeaId	reference	Create Filter	コメントが作成されたアイデアの ID。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
IsHTML	Boolean	Defaulted on create Filter	参照専用。この値が <code>true</code> の場合、組織は Salesforce CRM Ideas HTML エディタを有効化し、 <code>CommentBody</code> 項目には HTML が指定されています。この値が <code>false</code> の場合、HTML エディタは無効化され、 <code>CommentBody</code> 項目には通常のテキストのみが指定されます。HTML エディタの有効化の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプで「HTML エディタ」を検索してください。



メモ: IdeaComment データを Salesforce.com にインポートし、`CreatedDate` など、監査項目に値を設定する必要がある場合、salesforce.com に連絡してください。これらの項目を自身で設定する必要がない限り、監査項目は API 操作時に自動的に更新されます。詳細は、「システム項目」を参照してください。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、ユーザのアイデアに対するテキストの応答であるアイデアのコメントを追跡します。アイデアの詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「アイデアの概要」を参照してください。

## リード

見込みの、または潜在的な商談を表します。

## サポートされているコール

`convertLead()`、`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`、`merge()`、`upsert()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AnnualRevenue	<a href="#">currency</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	リードの会社の年間収益。
City	<a href="#">string</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	リードの住所の市区郡。
Company	<a href="#">string</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	必須項目。リードの会社。   メモ: 個人取引先レコードタイプが有効化されている場合、 <a href="#">会社</a> 項目の値がnullの場合、リードは個人取引先に変換します。Salesforce.comオンラインヘルプの「取引の開始に関するメモ」を参照してください。
ConnectionReceivedId	<a href="#">reference</a>	<a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a>	組織とこのレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> のID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。
ConnectionSentId	<a href="#">reference</a>	<a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a>	このレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> のID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。APIバージョン15.0以降では、ConnectionSentIdの項目はサポートされていません。ConnectionSentId項目は使用できますが、値はNullです。レコードを接続に転送するには、新しい <a href="#">PartnerNetworkRecordConnection</a> を使用します。
ConvertedAccountId	<a href="#">reference</a>	<a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a>	リードが変換される <a href="#">取引先</a> を示すオブジェクトリファレンスID。IDについての詳細は、「 <a href="#">IDデータ型</a> 」を参照してください
ConvertedContactId	<a href="#">reference</a>	<a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a>	リードが変換される <a href="#">取引先責任者</a> を示すオブジェクトリファレンスID。
ConvertedDate	<a href="#">date</a>	<a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a>	このリードが変換された日付。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ConvertedOpportunityId	reference	Create Filter Nillable	リードが変換された商談を示すオブジェクトリファレンス ID。
Country	string	Create Filter Nillable Update	リードの住所の国。
説明	textarea	Create Nillable Update	リードの説明。
Email	email	Create Filter Nillable idLookup Update	リードの電子メールアドレス。
EmailBouncedDate	dateTime	Create Filter Nillable Update	バウンス管理が有効化され、リードに送信される電子メールが宛て先不明で戻ってきた場合の、メールが返送された日時。
EmailBouncedReason	string	Create Filter Nillable Update	バウンス管理が有効化され、リードに送信される電子メールが宛て先不明で戻ってきた場合の、メールが返送された理由。
Fax	phone	Create Filter Nillable Update	リードの FAX 番号。
FirstName	string	Create Filter Nillable Update	リードの名前(ファーストネーム)。最大40文字です。
HasOptedOutOfEmail	Boolean	Create Defaulted on create Filter	リードの電子メール送信が除外されているか(true)除外されていないか(false)を示します。ラベルはメール送信除外です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	
Industry	picklist	Create Filter Nillable Update	リードの業種。
IsConverted	Boolean	Create Defaulted on create Filter	リードが変換されているか(true)否か(false)を示します。ラベルは変換済みです。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
IsUnreadByOwner	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	真の場合、リードは割り当てられますが、参照されません。詳細については、「未読のリード」を参照してください。ラベルは所有者未読フラグです。
LastActivityDate	date	Filter Nillable	値は、最新のものであれば、次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>レコードに記録された最新イベントの期日。</li> <li>レコード関連する、最近終了したタスクの期日。</li> </ul>
LastName	string	Create Filter Nillable	必須項目。リードの姓。最大 80 文字です。
LeadSource	picklist	Create Filter Nillable Update	リードが取得されたソース。
masterRecordId	reference	Filter Nillable	このオブジェクトが結合の結果として削除された場合、この項目には保存されたレコードの ID が入力されます。他の理由でこのオブジェクトが削除された場合、または削除されていない場合、値は null となります。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
MobilePhone	phone	Create Filter Nillable Update	リードの携帯電話番号。
Name	string	Filter	<code>FirstName</code> と <code>LastName</code> の連結です。最大 121 文字です。
NumberOfEmployees	int	Create Filter Nillable Update	リードの会社の従業員数。ラベルは従業員数です。
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter Update	リードの所有者の ID。
PartnerAccountId	reference	Filter Nillable	このリードを所有するパートナーアカウントのパートナー取引先の ID。パートナーリレーションシップマネージメントが有効な場合にのみ使用できます。
 メモ: API バージョン 15.0 以前を使用してリードをアップロードしている場合、バッチのいずれかのリードにパートナーアカウントが所有者として指定されている場合、バッチ内のすべてのリードのパートナー取引先項目が、パートナーアカウントが所有者であるかどうかに関係なく、パートナーアカウントの年引き裂きに設定されます。バージョン 16.0 では、パートナー取引先項目は、リードを所有するパートナーアカウントの該当する取引先に設定されます。リードの所有者がパートナーアカウントでない場合、この項目は空白になります。			
Phone	phone	Create Filter Nillable Update	リードの電話番号。
PostalCode	string	Create Filter	リードの住所の郵便番号。ラベルは郵便番号です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Nillable Update	
Rating	picklist	Create Filter Nillable Update	リードの評価。
RecordTypeId	reference	Create Filter Nillable Update	このオブジェクトに割り当てられるレコードタイプの ID。
Salutation	picklist	Create Filter Nillable Update	リードのあいさつ文。
State	string	Create Filter Nillable Update	リードの住所の都道府県。
Status	picklist	Create Defaulted on create Filter Update	変換されたリードのステータスコード。ステータスコードは、リードステータス選択リストに定義され、LeadStatus オブジェクトごとに API に表示されます。
Street	textarea	Create Filter Nillable Update	リードの住所の地名、番地。
Title	string	Create Filter Nillable Update	CFO や CEO など、リードの役職。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Website	url	Create Filter Nillable Update	リードの Web サイト。



メモ: リードデータを Salesforce.com にインポートし、`CreatedDate` など、監査項目に値を設定する必要がある場合、salesforce.com に連絡してください。これらの項目を自身で設定する必要がない限り、監査項目は API 操作時に自動的に更新されます。詳細は、「[システム項目](#)」を参照してください。

## 取引開始済みのリード

リードが[取引先](#)、[取引先責任者](#)、オプションで[商談](#)に変換されたことを示す特別な状況があります。クライアントアプリケーションは、`convertLead()` コールを使用してリードを返還することができます。ユーザは、Salesforce.com ユーザーインターフェースを使用してリードを変換することもできます。リードが変換されると、参照専用になり変換したリードに `update()` または `delete()` を実行できません。ただし、`query()` コールを使用して変換されたリードを問い合わせることができます。

リードには、変換された状況を示すいくつかの項目があります。これらの特別な項目は、API の参照のみの項目です。これらの項目は直接設定することはできません。Salesforce.com ユーザインターフェースでリードを変換する場合に設定されます。項目は次のとおりです。

- `ConvertedAccountId`
- `ConvertedContactId`
- `ConvertedDate`
- `ConvertedOpportunityId`
- `IsConverted`
- `Status`



メモ: 個人取引先レコードタイプが有効化されている場合、[会社](#) 項目の値が `null` の場合、リードは個人取引先に変換します。Salesforce.com オンラインヘルプの「[取引の開始に関するメモ](#)」を参照してください。

## 未読のリード

リードには、リード所有者が参照していないまたは編集していないことを示す特別な状況があります。Salesforce.com ユーザインターフェースでは、ユーザが割り当てられているがまだ処理されていないリードを知っておくことは役に立ちます。リード所有者がまだリードを参照も編集も指定ない場合、`IsUnreadByOwner` 項目は `true`、リード所有者がリードを少なくとも一度は参照または編集している場合は `false` となります。

## リードステータス選択リスト

`Status` の値は、Salesforce.com ユーザインターフェースで定義されているように、リードステータス選択リストの変換された状況または変換されていない状況に対応します。選択リストでリードステータスの値を取得するために、`LeadStatus` オブジェクトに `query()` コールを起動できます。

[Status](#) 項目を「取引開始済み」リードのステータス値のいずれかに変更することによって、API を介してリードを変換することはできません。条件に該当するリードを取引先、取引先責任者、および商談に変換する場合は、「取引開始済み」状況の種類を 1 つリードに選択できます。種別が「取引開始済み」状況のリードは、レポートに含めることはできますが、[リード] タブには表示されなくなります。

## 使用方法

リードに `update()` を実行または `convertLead()` をコールするには、クライアントアプリケーションは、リードに対する「編集」権限でログインする必要があります。

リードに `create()`、`update()`、または `upsert()` を実行すると、クライアントアプリケーションは、Salesforce.com ユーザインターフェースで設定された割り当てルールに基づいて、リードを自動的に 1 つまたは複数のユーザに割り当てることができます。

この機能を使用するために、クライアントアプリケーションは、`create()` コールまたは `update()` コールで使用されている [AssignmentRuleHeader](#) に次のオプションのいずれかを設定する必要があります。

項目	項目のデータ型	説明
<code>assignmentRuleId</code>	<a href="#">reference</a>	使用する割り当てルールの名前。無効な割り当てルールの場合があります。指定されていない場合および <code>useDefaultRule</code> が <code>true</code> の場合、デフォルトの割り当てルールが使用されます。 指定された割り当てルールの ID を検索するには、 <a href="#">AssignmentRule</a> オブジェクトを問い合わせ ( <code>RuleType="leadAssignment"</code> を指定)、返される <a href="#">AssignmentRule</a> オブジェクトを反復、使用する割り当てルールを検索してその ID を取得し、 <a href="#">AssignmentRuleHeader</a> のこの項目にこの ID を設定します。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
<code>useDefaultRule</code>	<a href="#">Boolean</a>	ルールに基づいた割り当てのデフォルトルールを使用するか ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) かを示します。デフォルトルールは、Salesforce.com ユーザインターフェースで割り当てられます。

## Java の例

次の Java のサンプルでは、新しく作成されたリードを自動的にどのように割り当てるかを説明します。

```
package com.doc.samples; import java.net.MalformedURLException; import java.net.URL; import  
java.rmi.RemoteException; import javax.xml.rpc.ServiceException;  
  
import com.sforce.soap.enterprise.LoginResult; import com.sforce.soap.enterprise.QueryResult;  
import com.sforce.soap.enterprise.SaveResult; import  
com.sforce.soap.enterprise.SforceServiceLocator; import  
com.sforce.soap.enterprise.SoapBindingStub; import  
com.sforce.soap.enterprise._AssignmentRuleHeader; import  
com.sforce.soap.enterprise._SessionHeader; import com.sforce.soap.enterprise.fault.LoginFault;  
import com.sforce.soap.enterprise.fault.UnexpectedErrorFault; import  
com.sforce.soap.enterprise.sobject.Lead; import com.sforce.soap.enterprise.sobject.SObject;  
  
public class LeadAssignment {  
    static LeadAssignment _leadAssignment;  
  
    public static void main(String[] args) { _leadAssignment = new LeadAssignment(); try {
```

```
_leadAssignment.CreateLead(); } catch (Exception e) { e.printStackTrace(); } }

public void CreateLead() throws UnexpectedErrorFault, LoginFault, RemoteException,
ServiceException { //Create the proxy binding and login SoapBindingStub binding =
(SoapBindingStub) new SforceServiceLocator().getSoap(); LoginResult lr =
binding.login("user@domain.net", "secret");

//Reset the binding to use the endpoint returned from login
binding._setProperty(SoapBindingStub.ENDPOINT_ADDRESS_PROPERTY, lr.getServerUrl());

//Create the session id header, and add it to the proxy binding _SessionHeader sh = new
_SessionHeader(); sh.setSessionId(lr.getSessionId()); binding.setHeader( new
SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(), "SessionHeader", sh );

//Create a new case and assign various properties Lead lead = new Lead();

lead.setFirstName("Joe"); lead.setLastName("Smith"); lead.setCompany("ABC Corporation");
lead.setLeadSource("API"); //The lead assignment rule will assign any new leads that //have
"API" as the LeadSource to a particular user

//Create the assignment rule header and add it to the proxy binding _AssignmentRuleHeader
arh = new _AssignmentRuleHeader();

//In this sample we will look for a particular rule and if found //use the id for the lead
assignment.If it is not found we will //instruct the call to use the current default
rule.You cannot use //both of these values together.QueryResult qr = binding.query("Select
Id From AssignmentRule where Name = " + "'Mass Mail Campaign' and RuleType =
'leadAssignment'"); if (qr.getSize() == 0) { arh.setUseDefaultRule(new Boolean(true)); }
else { arh.setAssignmentRuleId(qr.getRecords(0).getId()); }

binding.setHeader( new SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(),
"AssignmentRuleHeader", arh);

// Every operation that results in a new or updated case, will // use the specified rule
until the header is removed from the // proxy binding.SaveResult[] sr = binding.create(new
SObject[] {lead}); for (int i=0;i<sr.length;i++) { if (sr[i].isSuccess()) {
System.out.println("Successfully created lead with id of: " + sr[i].getId().getValue() +
"."); } else { System.out.println("Error creating lead: " + sr[i].getErrors(0).getMessage());
} }

// This call effectively removes the header, the next lead will // be assigned to the default
lead owner.Remember to add the // session header back in. binding.clearHeaders();
binding.setHeader( new SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(),
"SessionHeader", sh);

} }
```

## C# サンプル

次の Java のサンプルでは、新しく作成されたリードを自動的にどのように割り当てるかを説明します。

```
using System; using System.Collections.Generic; using System.Text; using
LeadAssignment.sforce;

namespace LeadAssignment { class LeadAssignment { private SforceService binding;

private static readonly string Username = "ENTERUSERNAME"; private static readonly string
Password = "ENTERPASSWORD";

/// <summary> /// Create the proxy binding and login /// </summary> private LeadAssignment()
{ this.binding = new SforceService(); LoginResult lr = binding.login(LeadAssignment.Username,
LeadAssignment.Password);

// Reset the binding to use the endpoint returned from login this.binding.Url = lr.serverUrl;
// Create the session ID header and add it to the proxy binding
```

```
this.binding.SessionHeaderValue = new SessionHeader();
this.binding.SessionHeaderValue.sessionId = lr.sessionId; }

[STAThread] static void Main(string[] args) { LeadAssignment leadAssignment = new
LeadAssignment(); try { leadAssignment.CreateLead(); } catch (Exception e) {
Console.WriteLine(e.Message); Console.WriteLine(e.StackTrace);
Console.WriteLine(e.InnerException); } }

public void CreateLead() { // Create a new Lead and assign various properties Lead lead =
new Lead();

lead.FirstName = "John"; lead.LastName = "Brown"; lead.Company = "ABC Corporation";
lead.LeadSource = "Advertisement"; // Setting the lead source for a pre-existing lead
assignment rule. This // rule was created outside of this sample and will assign any new
leads // that have "Advertisement" as the LeadSource to a particular user

// Create the assignment rule header and add it to the proxy binding AssignmentRuleHeader
arh = new AssignmentRuleHeader();

// In this sample we will look for a particular rule and if found // use the id for the lead
assignment. If it is not found we will // instruct the call to use the current default
rule. Both these // values cannot be used together. QueryResult qr = binding.query("Select
Id from AssignmentRule where Name = " + "'Mass Mail Campaign' and SObjectType = 'lead'");
if (qr.size == 0) { arh.useDefaultRule = true; } else { arh.assignmentRuleId =
qr.records[0].Id; } binding.AssignmentRuleHeaderValue = arh;

// Every operation that results in a new or updated lead will use the // specified rule
until the header is removed from the proxy binding SaveResult[] sr = binding.create(new
sObject[] { lead }); foreach (SaveResult s in sr) { if (s.success) {
Console.WriteLine("Successfully created Lead with ID: {0}", s.id); } else {
Console.WriteLine("Error creating Lead: {0}", s.errors[0].message); } }

// This call effectively removes the header. The next lead will be assigned // to the default
lead owner. binding.AssignmentRuleHeaderValue = null; } } }
```

## LeadHistory

リードの項目内の値に対する変更履歴を表します。

サポートされているコール

[query\(\)](#)、[retrieve\(\)](#)、[getDeleted\(\)](#)、[getUpdated\(\)](#)、[describeSObjects\(\)](#)、[getDeleted\(\)](#)、[getUpdated\(\)](#)

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Field	<a href="#">picklist</a>	Filter Restricted picklist	変更された項目の名前。
IsDeleted	<a href="#">boolean</a>	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
LeadId	reference	Filter	リードの ID。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください。ラベルはリード IDです。
NewValue	anyType	Nillable	変更された項目の新しい値。
OldValue	anyType	Nillable	変更される前の項目の最後の値。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、リードに対する変更を識別します。

このオブジェクトは、親オブジェクトの項目レベルのセキュリティに影響されます。

## LeadOwnerSharingRule

所有者以外のユーザとリードを共有するルールを表します。



メモ: salesforce.com のカスタマーサポートに連絡して、組織のこのオブジェクトに対するアクセス権限を有効化します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
GroupId	reference	Create Filter	ソースグループを表す ID。ソースグループのユーザが所有するリードが、ルールをトリガしてアクセス権限を割り当てます。
LeadAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	使用できる共有の種類を表す値。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Read</li><li>• Edit</li></ul>
UserorGroupId	reference	Create Filter	対象ユーザまたはグループを表す ID。対象ユーザまたはグループには、アクセス権限が割り当てられています。

## 使用方法

これらのオブジェクトを使用して、特定のリードの共有ルールを管理します。一般的な共有およびテリトリーに関連する共有ではこのオブジェクトを使用します。

## LeadShare

リードの共有エントリを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
LeadAccessLevel	picklist	Filter Restricted picklist	リードに対して持つユーザまたはグループのアクセスのレベル。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>Read</li><li>Edit</li><li>All (この値は、<code>create()</code> コールまたは <code>update()</code> コールには使用できません。)</li></ul> この項目は、少なくとも組織のデフォルトであるリードより高いアクセスレベルに設定する必要があります。
LeadId	reference	Filter	この共有エントリ関連するリードの ID。この項目を更新することはできません。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください。
RowCause	picklist	Filter Restricted picklist	共有エントリが存在する理由。参照のみ。値には、次のものがあります。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>Manual Sharing</b> - 「All」のアクセス権限を持つユーザが手動でリードを共有していたため、ユーザまたはグループにアクセス権限が割り当てられています。</li><li><b>Owner</b> - ユーザは、リードの所有者、またはロール階層のケース所有者の上にあるロールです。</li><li><b>ImplicitChild</b> - ユーザまたはグループには、このリードに関連付けられた取引先のリードへのアクセス権限が割り当てられています。</li></ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
UserOrGroupId	reference	Filter	<ul style="list-style-type: none"> <li>Sharing Rule—ユーザまたはグループには、リード共有ルールを介したアクセス権限が割り当てられています。</li> </ul> <p>リードに対してアクセス権限が割り当てられたユーザまたはグループの ID。この項目を更新することはできません。</p>

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、他のユーザが所有するリードを参照および登録できるユーザやグループを指定することができます。詳細は、「[共有](#)」を参照してください。

既存のレコードに一致するレコードを作成すると、`create()` コールは、変更された項目を更新し、既存のレコードを返します。

## LeadStatus

進行中、選択済み、変換済みなど、リードの状況を表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsConverted	Boolean	Defaulted on create Filter	このリードの状況の値が変換したリードを表すか (true) 否か (false) を示します。複数のリードの状況の値が、変換したリードを表します。詳細は、「 <a href="#">convertLead()</a> 」を参照してください。
IsDefault	Boolean	Defaulted on create Filter	この項目が、選択リスト内のリードのデフォルト状況かどうかを示します(デフォルトの場合は true、そうでない場合は false)。
MasterLabel	string	Filter Nillable	このリードの状況の値の主ラベル。この表示値は、翻訳されない内部ラベルです。
SortOrder	int	Filter Nillable	リードの状況の選択リストのこの値を並べ替えるために使用する番号。以前のリードの状況値が一部削除されている場合があるため、これらの番号が連続的である保証はありません。

## 使用方法

このオブジェクトはリード状況の選択リストの値を表します（「リードの状況の選択リスト」を参照）。リード状況の選択リストには、指定された状況の値が変換されたリードを表すかどうかなど、リードの状況に関する追加情報が表示されます。クライアントアプリケーションは、LeadStatus オブジェクトの `query()` コールを起動し、リード状況の選択リストの値のセットを取得できます。また、その情報をリードオブジェクトの処理に使用し、指定されたケースのさらに詳細な情報を取得できます。たとえば、アプリケーションは、`Status` の値、および関連付けられた LeadStatus オブジェクトの `IsConverted` プロパティの値に基づいて、指定されたリードが変更されるどうかをテストすることができます。

これらのオブジェクトは、API の参照専用です。十分な権限を使用して、クライアントアプリケーションは、このオブジェクトに `query()` コールおよび `describeSObjects()` コールを起動できます。

## LeadTag

単語または短い語句をリードに関連付けます。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい TagDefinition が作成され、このタグオブジェクトの親となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親リレーションは自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>Public:</b>組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li><li><b>Personal:</b>タグは、OwnerId に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li></ul>

## 使用方法

LeadTag は、親 TagDefinition とタグ付けされているリードとの関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## LineitemOverride

商談の商品についての売上予測オーバーライド。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

このオブジェクトは、Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して実行できる、カスタマイザブル売上予測機能を組織が有効化している場合にのみアクセスできます。「すべてのデータの参照」権限が必要です。

項目

項目	項目の データ型	項目のプロパティ	説明
AmountInherited	Boolean	Defaulted on create Filter	オーバーライドされた金額は売上予測階層でロールアップするか(true)、このレコードの所有者によってオーバーライドされたか(false)を示します。
ForecastCategoryInherited	Boolean	Defaulted on create Filter	オーバーライドされた売上予測カテゴリが売上予測階層でロールアップするか(true)、このレコードの所有者によってオーバーライドされたか(false)を示します。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	通常、親商談はごみ箱に移動するため、オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。
OpportunityId	reference	Filter	関連付けられた商談の ID。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
OpportunityLineItemId	reference	Filter	関連付けられた OpportunityLineItem の ID。
OverrideAmount	currency	Filter	オーバーライドできる、商品の合計金額。
OverrideForecastCategory	picklist	Filter Restricted picklist	商品の売上予測カテゴリ。オーバーライドできます。
OverrideQuantity	double	Filter	オーバーライドできる、商品の数量。
OverrideUnitPrice	currency	Filter	単価の金額。オーバーライドできます。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
OwnerId	reference	Filter	このレコードの所有者の ID。
QuantityInherited	Boolean	Defaulted on create Filter	オーバーライドされた数量は売上予測階層でロールアップするか(true)、このレコードの所有者によってオーバーライドされるか(false)を示します。
UnitPriceInherited	Boolean	Defaulted on create Filter	オーバーライドされた単価が売上予測階層でロールアップするか(true)、このレコードの所有者によってオーバーライドされたか(false)を示します。

## 使用方法

カスタマイザブル売上予測の参照専用オブジェクトは、[OpportunityOverride](#) と子-親のリレーションがあります。

## MailMergeTemplate

組織でメールマージを実行するために使用する、メールマジテンプレート (Microsoft Word ドキュメント) を表します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 特別なアクセスルール

- すべてのユーザはこのオブジェクトを参照できますが、オブジェクトを編集するには「アプリケーションをカスタマイズする」権限が必要です。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Body	base64	Create	必須項目。メールマジテンプレートとして使用する Microsoft Word ドキュメント。Microsoft Word メールマジテンプレートの制限により、クライアントアプリケーションは、 <code>update()</code> コールでなく、 <code>create()</code> コールで本文項目を指定できます。最大 5 MB です。
BodyLength	int	Filter Nillable	Microsoft Word ドキュメントの長さ。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
説明	string	Create Filter Update	必須項目。メールマージテンプレートのテキストによる説明。最大 255 文字です。
Filename	string	Create Filter	必須項目。メールマージテンプレートとしてアップロードされた Microsoft Word ドキュメントのファイル名。長さは最大 255 文字です。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
LastUsedDate	dateTime	Filter Nillable	この MailMergeTemplate が最後に使用された日付と時間。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須項目。メールマージテンプレートの名前。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、組織のメールマージテンプレートを管理します。

## Name

関連レコードが複数のオブジェクトタイプから成る(多構造外部キー)場合、このオブジェクトを使用して関連レコードから情報を取得します。たとえば、ケースの所有者は、ユーザまたはグループ(キー)のいずれかとなります。このオブジェクトを使用すると、所有者がユーザであってもグループ(キー)であっても、所有者名を取得することができます。説明コールを使用して、オブジェクトの親に関する情報にアクセスできます。または who、what、または owner 項目(オブジェクトに応じて)を SOQL クエリで使用することもできます。このオブジェクトは、直接アクセスすることはできません。

サポートされているコールとクエリ

コール: `describeSObjects()`

SOQL: `SELECT (WHERE 句を含む)、ORDER BY`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Alias	string	Filter Nillable	ユーザのエイリアス。この項目には、関連するレコードがユーザである場合にのみ値が含まれます。
Email	string	Filter Nillable	ユーザの電子メールアドレス。この項目には、関連するレコードがユーザである場合にのみ値が含まれます。
FirstName	string	Filter Nillable	関連するレコードがユーザ、取引先責任者、またはリードである場合、名前(ファーストネーム)。
IsActive	boolean	Filter Nillable	関連レコードが有効なユーザである <code>true</code> か、そうでない <code>false</code> を示します。この項目には、関連するレコードがユーザである場合にのみ値が含まれます。
LastName	string	Filter Nillable	関連するレコードがユーザ、取引先責任者、またはリードである場合、姓。
Name	string	Filter Nillable	問い合わせされたオブジェクトの親の名前。親がユーザ、取引先責任者、またはリードの場合、値は関連するレコードの <code>firstname</code> 項目と <code>lastname</code> 項目の連結となります。
Phone	string	Filter Nillable	ユーザの電話番号。この項目には、関連するレコードがユーザである場合にのみ値が含まれます。
Profile	reference	Filter Nillable	ユーザのプロファイル。関連するレコードがユーザの場合にのみ指定します。
ProfileId	reference	Filter Nillable	ユーザのプロファイルの ID。関連するレコードの場合にのみ指定します。
Title	string	Filter Nillable	CFO や CEO など、ユーザの役職。
Type	string	Filter Nillable Restricted picklist	このオブジェクトの所有者となりうる <code>sObject</code> の種類のリスト。この項目を使用して、ユーザが所有するリードのみを返すなど、所有者の種類を絞り込むことができます。
Username	string	Filter Nillable	ユーザが API または Salesforce.com ユーザインター フェースにログインするために入力する名前。この項目の値は電子メールアドレスの形式で、関連するレコードがユーザの場合にのみ指定されます。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
UserRole	picklist	Filter Nillable	ユーザのロールの名前。ユーザ行にのみ投入。
UserId	reference	Filter Nillable	このオブジェクトに関連付けられているユーザロールの ID。

## 使用方法

親が複数のオブジェクトタイプであるリレーションを問い合わせる場合、`who` 項目、`what` 項目、および `owner` 項目を使用します。

## メモ

---

取引先責任者、契約、商談、など、カスタムオブジェクトまたは標準オブジェクトに関連付けられたテキストであるメモを表します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Body	textarea	Create Nillable Update	メモの本文。最大 32 KB です。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
IsPrivate	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	true の場合、メモの所有者、または「すべてのデータの編集」権限を持つユーザだけが API を使用して、メモまたはクエリを参照できます。所有していないメモに「すべてのデータの編集」権限を持たないユーザがこの項目を true に設定すると、そのメモに <code>query()</code> 、 <code>delete()</code> 、 <code>update()</code> を実行できません。ラベルは非公開です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter Update	メモを所有するユーザの ID。
ParentId	reference	Create Filter	必須項目。メモと関連付けられたオブジェクトの ID。
Title	string	Create Filter Nillable idLookup Update	メモのタイトル。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、オブジェクトのメモを管理します。

## NoteAndAttachment

この参照専用オブジェクトには、オブジェクトに関連付けられたすべてのメモと添付ファイルが含まれています。

### サポートされているコール

`describeGlobal()`、`describeSObject()`、`describeSObjects()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
IsNote	Boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトにメモが含まれるか(true)否か(false)を示します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsPrivate	Boolean	Defaulted on create Filter	true の場合、メモの所有者、または「すべてのデータを編集」権限を持つユーザだけが API を使用して、メモまたはクエリを参照できます。所有していないメモに「すべてのデータを編集」権限を持たないユーザがこの項目を true に設定すると、そのメモに <code>query()</code> 、 <code>delete()</code> 、 <code>update()</code> を実行できません。ラベルは非公開です。
OwnerId	reference	Filter	メモと添付ファイルを所有するユーザの ID。
ParentId	reference	Filter	親オブジェクトの ID。
Title	string	Filter Nullable	メモのタイトル。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、オブジェクトのすべてのメモと添付ファイルを一覧表示します。

このオブジェクトを取得するには、オブジェクトに説明コードを発行し、オブジェクトが作成されたあと、各活動のクエリ結果を返します。`query()` は使用できません。

## NoteTag

単語または短い語句をノートに関連付けます。

サポートされているコード

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい TagDefinition が作成され、このタグオブジェクトの親となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親リレーションは自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	<p>タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Public:</b>組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li> <li><b>Personal:</b>タグは、<code>OwnerId</code>に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li> </ul>

## 使用方法

NoteTag は、親 TagDefinition とタグ付けされている ノート との関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## OpenActivity

この参照専用オブジェクトには、オブジェクトに関連付けられたすべての進行中のタスクとイベントが含まれています。コールに関する OpenActivity 項目は、Salesforce CRM Call Center でのみ使用できます。

### サポートされているコール

`describeGlobal()`、`describeSObject()`、`describeSObjects()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ActivityDate	date	Filter Nillable	<p>タスクの期日、<code>IsAllDayEvent</code> が <code>true</code> に設定されている場合は活動の期日。</p> <p>この項目には、協定標準時(UTC) タイムゾーンの午前 0 時に常に設定されているタイムスタンプがあります。タイムスタンプに関連性はありません。タイムスタンプを変更して、タイムゾーンの時差を調整しないでください。ラベルは日付です。</p>
ActivityType	picklist	Filter Nillable	電話、会議、その他のいづれかになります。ラベルは種類です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CallDisposition	string	Filter Nullable	「コールバックします」または「コールに失敗しました」など、指定されたコールの結果を表します。最大 255 文字です。
CallDurationInSeconds	int	Filter Nullable	コールの時間(秒単位)。
CallObject	string	Filter Nullable	コールセンターの名前。最大 255 文字です。
CallType	picklist	Filter Nullable	応答するコールの種類(受信、内部、発信)。
説明	textarea	Nullable	タスクまたはイベントの説明。最大 32 KB です。
DurationInMinutes	int	Filter Nullable	イベントまたはタスクの長さ。
IsAllDayEvent	Boolean	Defaulted on create Filter	true の場合、活動はイベントとなり、ActivityDate を使用してイベントの日付を定義します。false の場合、活動はタスクの場合とイベントの場合があります。ラベルは終日行動です。
IsClosed	Boolean	Defaulted on create Filter	タスクのみに対し、タスクが完了した(true)か、完了していない(false)かを示します。この項目は、Status 項目を設定することで間接的に設定されます。それぞれの選択リストの値には、対応する IsClosed 値があります。ラベルは完了フラグです。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
IsTask	Boolean	Defaulted on create Filter	true の場合、活動はタスクで、false の場合はイベントになります。ラベルはToDoです。
IsVisibleInSelfService	Boolean	Defaulted on create Filter	true の場合、セルフサービスポータルで活動を表示できます。ラベルはセルフサービスに公開です。
Location	string	Filter Nullable	行動の場合は、行動の場所。行動でない場合、値は null です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
OwnerId	reference	Filter Nillable	ToDo または行動を持つユーザの ID。
Priority	picklist	Filter Nillable	Todoの場合、高、中、低など、ToDo の優先度。
Status	picklist	Filter Nillable	ToDoについて、進行中または完了など、ToDoの現在の状況。事前定義された Status 項目は、 <code>IsClosed</code> の値を設定します。選択リストの値を取得するために、TaskStatus オブジェクトに <code>query()</code> を実行できます。
Subject	combobox	Filter Nillable	行動またはToDoの件名。
WhatId	reference	Filter Nillable	関連するオブジェクトの ID (取引先、キャンペーン、ケース、商談、またはカスタムオブジェクト)。ラベルは商談/取引先 ID です。
WhoId	reference	Filter Nillable	関連する取引責任者またはリードの ID。WhoId がリードを参照する場合、WhatId 項目は空である必要があります。ラベルは取引責任者/リード ID です。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、Salesforce.com ユーザインターフェースの関連リスト機能を複製することができます。このオブジェクトを使用するには、次の手順を実行します。

- オプションで、問い合わせる活動のオブジェクトに describe コールを発行して、使用する適切な SOQL の提案を取得します。
- 次のようなオブジェクトを参照する本文、活動履歴を参照する内部文を持つ [SOQL リレーションクエリ](#) を発行します。

```
SELECT (SELECT ActivityDate, Description from ActivityHistories) FROM Account WHERE Name Like 'XYZ%'
```

または

```
SELECT (SELECT ActivityDate, Description from OpenActivities) FROM Account WHERE Name Like 'XYZ%'
```

Salesforce.com ユーザインターフェースは共有ルールを強制し、ユーザが表示する権限を持たない関連リスト項目を除外します。

関連リスト機能を提供しながらパフォーマンス上の問題を回避するために、「すべてのデータを表示する」権限を持たないユーザに対し、いくつかの制限事項があります。こうしたユーザは、次のような制限事項に準拠する必要があります。

- リレーションクエリの本文では、1つのレコードのみを参照できます。たとえば、取引名が A で始まるすべてのレコードを絞り込むことはできませんが、1つの取引先レコードを参照する必要があります。
- WHERE 句を使用することはできません。
- 返される行数を 500 未満に制限する必要があります。
- ORDER BY ActivityDate DESC, LastModifiedDate DESC で、ActivityDate および LastModifiedDate で降順に並べ替える必要があります。

このオブジェクトに `query()` を直接使用することはできません。

## Opportunity

販売または保留中の取引である、商談を表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`、`upsert()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
AccountId	reference	Create Filter Nillable Update	商談と関連付けられた取引先の ID。
Amount	currency	Create Filter Nillable Update	販売金額合計の見積もり。商品を含む商談の場合、金額は関連商品の合計です。レコードに商品が指定されている場合、この項目を更新しようとすると無視されます。update コールは却下されず、その他の項目は指定されたとおりに更新されますが、金額は変わりません。
CampaignId	reference	Create Filter Nillable Update	関連する <a href="#">キャンペーン</a> の ID。この項目は、 <a href="#">キャンペーン</a> を機能として有効化している組織にのみ定義されています。商談のこの項目でキャンペーンに <code>create()</code> または <code>update()</code> を実行するには、ユーザは、相互参照された <a href="#">キャンペーン</a> に対する参照アクセス権限が割り当てられている必要があります。
CloseDate	date	Create Filter Update	必須項目。商談の完了予定日。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
ConnectionReceivedId	reference	Filter Nillable	組織とこのレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。
ConnectionSentId	reference	Filter Nillable	このレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。API バージョン 15.0 以降では、ConnectionSentId の項目はサポートされていません。ConnectionSentId 項目は使用できますが、値は Null です。レコードを接続に転送するには、新しい <a href="#">PartnerNetworkRecordConnection</a> を使用します。
CurrencyIsoCode	picklist	Create Defaulted on create Filter Nillable Restricted picklist Update	マルチ通貨機能を有効化している組織にのみ使用できます。組織で使用できる通貨の ISO コードが指定されています。 組織で複数の通貨が使用でき、商談で <a href="#">Pricebook2</a> が指定されている場合( <a href="#">Pricebook2Id</a> 項目が空欄でない)、この項目の通貨値は、商談の商品と関連付けられている <a href="#">PricebookEntry</a> オブジェクトと一致する必要があります。
説明	textarea	Create Nillable Update	商談のテキストによる説明。最大 32,000 文字です。
ExpectedRevenue	currency	Filter Nillable	商談の <a href="#">Amount</a> 項目および <a href="#">Probability</a> と同等の参照専用項目。この項目を直接設定することはできませんが、 <a href="#">Amount</a> 項目または <a href="#">Probability</a> 項目を設定することで間接的に設定できます。
Fiscal	string	Filter	会計年度が有効化されていない場合、商談の <a href="#">CloseDate</a> が含まれる会計四半期または会計期間の名前。値はの形式は「YYYY Q」です(2006 年の第 1 四半期の場合、「2006 1」)。
FiscalQuarter	int	Filter Nillable	会計四半期を表します。使用できる値は、1、2、3、または 4 です。
FiscalYear	int	Filter Nillable	たとえば 2006 年度など、会計年度を表します。
ForecastCategory	picklist	Create Defaulted on create	制限つき選択リスト項目です。 <a href="#">StageName</a> 項目によって暗黙的にかつ間接的に制御されます。 <a href="#">StageName</a> 値で指定するのではなく、この項目を別の値に上書きできます。この項目の値は、固定された列挙型の値で

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
		Filter および Nillable Restricted picklist Update	す。Salesforce.com ユーザインターフェースでローカライズされたバージョンのラベルが使用できる場合、この項目ラベルは、操作を実行するユーザの言語にローカライズされます。  API version 12.0 以降では、この項目の値は <code>ForecastCategoryName</code> の値に基づいて自動的に設定され、別の方法で更新することはできません。項目のプロパティ <code>Create</code> 、 <code>Defaulted on create</code> 、 <code>Nillable</code> 、および <code>Update</code> は、バージョン 12.0 では使用できません。
<code>ForecastCategoryName</code>	picklist	Create Defaulted on create Filter Nillable Update	API versions 12.0 以降で利用できます。 売上予測分類の名前。 <code>StageName</code> 項目によって暗黙的にかつ間接的に制御されます。 <code>StageName</code> 値で指定するのではなく、この項目を別の値に上書きできます。
<code>HasOpportunityLineItem</code>	Boolean	Defaulted on create Filter	商談に関連する商品があるかどうかを示す参照専用の項目。 <code>true</code> の値は、商談商品がその商談に作成されていることを示します。商談に価格表がある場合にのみ、商談は商談商品を指定できます。商談商品は、商談 <code>Pricebook2</code> に記載された <code>PricebookEntry</code> オブジェクトに対応する必要があります。ただし、関連する <code>Pricebook2</code> のない商談に商談商品を挿入することができます。 <code>Pricebook2</code> のない商談に挿入した最初の商談商品について、商談商品が商談の <code>CurrencyIsoCode</code> 項目に一致する <code>CurrencyIsoCode</code> 項目を持つ有効な <code>Pricebook2</code> の <code>PricebookEntry</code> に一致する場合、API は自動的に <code>Pricebook2Id</code> 項目を設定します。 <code>Pricebook2</code> が有効でないまたは <code>CurrencyIsoCode</code> 項目が一致しない場合、API はエラーを返します。商談商品が商談にある場合、 <code>Pricebook2Id</code> 項目または <code>PricebookId</code> 項目に <code>update()</code> を実行できません。 <code>PricebookId</code> 項目を更新する前に、商品に <code>delete()</code> を実行する必要があります。
<code>IsClosed</code>	Boolean	Defaulted on create Filter	<code>StageName</code> によって直接制御されます。この項目で問い合わせおよび絞り込みは可能ですが、 <code>create()</code> 、 <code>upsert()</code> 、または <code>update()</code> 要求で直接設定することはできません。 <code>StageName</code> を介してのみ設定することができます。ラベルは完了フラグです。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
IsWon	Boolean	Defaulted on create Filter	<code>StageName</code> によって直接制御されます。この項目で問い合わせおよび絞り込みは可能ですが、 <code>create()</code> 、 <code>upsert()</code> 、または <code>update()</code> 要求で直接設定することはできません。 <code>StageName</code> を介してのみ設定することができます。ラベルは成立フラグです。
LastActivityDate	date	Filter Nillable	<p>値は、最新のものであれば、次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>レコードに記録された最新イベントの期日。</li> <li>レコード関連する、最近終了したToDoの期日。</li> </ul>
LeadSource	picklist	Create Filter Nillable Update	「広告」、または「展示会」など、商談のソース。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須項目。この商談の名前。最大 80 文字です。
NextStep	string	Create Filter Nillable Update	完了する商談の次のタスクの説明。最大 255 文字です。
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter Update	<p>この商談を処理するために割り当てられたユーザの ID。</p> <p>営業チームを組織で設定した場合、API のバージョンに応じて、この項目を更新する結果が次のように異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>API バージョン 12.0 以降の場合、すべてのオブジェクト同様、レコードの共有は保持されます。</li> <li>API バージョン 12.0 より古い場合は、レコードの共有が削除されます。</li> </ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
			<ul style="list-style-type: none"> <li>API バージョン 16.0 以降では、この項目を使用して取引先の所有権を更新(移行)するために、ユーザは「レコードの移行」権限が必要です。</li> </ul>
Pricebook2Id	reference	Create Defaulted on create Filter Nillable Update	関連する Pricebook2 の ID。Pricebook2Id 項目は、この商談に適用される Pricebook2 を示します。Pricebook2Id 項目は、商品を機能として有効化している組織にのみ定義されます。一方の項目(Pricebook2Id または PricebookId)に値を指定できます。両方指定することはできません。このため、両方の項目が nillable を宣言しています。
PricebookId	reference	Create Defaulted on create Filter Nillable Update	バージョン 3.0 時点で使用できません。バージョン 8.0 時点で、Pricebook オブジェクトはサポートされていません。Pricebook2 オブジェクトの ID を指定して、Pricebook2Id 項目を代わりに使用します。
Probability	percent	Create Defaulted on create Filter Nillable Update	商談をクローズする際の、確実性の見積(%)。StageName 項目によって暗黙的にかつ間接的に制御されます。StageName で指定するのではなく、この項目を別の値に上書きできます。   メモ: Partner WSDL コールを使用し、API を介して、あるいは Apex before トリガを使用して Probability 項目を変更しており、値が小数である場合、値を整数に丸めることをお勧めします。たとえば、before トリガの <code>o.probability = o.probability.round();</code> の Apex で round メソッドを使用し、項目値を変更します。
RecordTypeId	reference	Create Filter Nillable Update	このオブジェクトに割り当てられるレコードタイプの ID。
StageName	picklist	Create Filter Update	必須項目。このレコードの現在のフェーズ。StageName 項目は、商談の別の項目をいくつか制御します。それぞれの項目は直接設定、または StageName 項目を変更して暗黙的に設定することができます。また、StageName 項目が選択リストであるため、その

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
			他の項目にどのように影響するのかを示す、返された <code>describeSObjectResult</code> に追加のメンバーが指定されます。選択リストでフェーズ名の値を取得するために、 <code>OpportunityStage</code> オブジェクトに対して <code>query()</code> を呼び出せます。 <code>StageName</code> が更新されると、 <code>ForecastCategoryName</code> 、 <code>IsClosed</code> 、 <code>IsWon</code> 、および <code>Probability</code> がフェーズカテゴリの対応付けに基づいて自動的に更新します。
TotalOpportunityQuantity	double	Create Filter Nillable Update	この商談に含まれる商品数。数量ベースの売上予測で使用します。
Type	picklist	Create Filter Nillable Update	商談の種類。たとえば、「既存ビジネス」または「新規ビジネス」などです。ラベルは商談 種別です。



メモ: 商談データを Salesforce.com にインポートし、`CreatedDate` など、監査項目に値を設定する必要がある場合、salesforce.com に連絡してください。これらの項目を自身で設定する必要がない限り、監査項目は API 操作時に自動的に更新されます。詳細は、「[システム項目](#)」を参照してください。

## 使用方法

`Opportunity` オブジェクトを使用して、販売または保留中の取引に関する情報を管理します。商談に `update()` を実行するために、クライアントアプリケーションには、商談の「編集」権限が必要です。クライアントアプリケーションは、API を使用して商談に関連する添付ファイルに、`create()`、`update()`、`delete()`、および `query()` を実行できます。商談とその他のオブジェクトの関係を示すダイアグラムについては、「[商品オブジェクトとスケジュールオブジェクト](#)」を参照してください。

また、クライアントアプリケーションは、`convertLead()` コールを使用してリードを変換して商談オブジェクトを作成または更新することもできます。



メモ: Spring '09 では、子の商談商品やスケジュールに対する更新により親レコードが更新されると、商談と商談商品のワークフロールール、入力規則、および Apex トリガが実行されます。つまり、親レコードに対する更新があるときには、カスタムアプリケーションロジックを強制して、データの品質の高さと組織のビジネスポリシー準拠を保証します。

デフォルトでは、Spring '09 リリース以降にお申し込みをいただいたすべての組織で、この動作が行われます。2009 年 3 月から、salesforce.com は、商談の新規保存方式を段階的に進めていきます。利用可能になると、[重要な更新] ページに更新が表示されます。更新は、現在次に示すカスタマイズを利用していな組織に対して自動的に有効化されます。この場合、お客様には、自動有効化日前に更新を検討して更新の有効化に必要な処理を行っていただく必要があります。

- ・ 商談 金額
- ・ 商談 数量
- ・ 商談商品 合計金額
- ・ 商談商品 単価
- ・ 商談商品 数量
- ・ いずれかの商談積み上げ集計項目

この変更は、新規商談の保存動作の更新が組織に有効化されると、APIのすべてのバージョンに有効となります。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「Spring '09 商談の新規保存方式とは?」を参照してください。

## OpportunityCompetitor

商談の競合会社を表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
CompetitorName	combobox	Create Filter Nillable Update	競合会社の名前。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
OpportunityID	reference	Create Filter	必須項目。関連付けられた商談の ID。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
Strengths	string	Create Filter Nillable Update	競合会社の強さについての説明。最大1,000文字です。
Weaknesses	string	Create Filter	競合会社の弱点についての説明。最大1,000文字です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Nillable	
		Update	

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、[商談](#)の競合会社を管理し、商談の複数の競合会社を関連付け、各競合会社の強さと弱点を指定します。

## OpportunityContactRole

取引先責任者が[商談](#)に果たす役割を表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ContactId	reference	Create Filter Update	関連付けられた <a href="#">取引先責任者</a> の ID。API は、ユーザのアクセス権限をこのオブジェクトの関連付けられた商談に適用しますが、関連付けられた <a href="#">取引先責任者</a> には適用しません。API は、ユーザに十分なアクセス権限がない取引先責任者の項目の値を指定する、このオブジェクトのクエリから行を返します。削除された取引先責任者のこの項目の値も返します。いずれか場合でも、クライアントは <a href="#">取引先責任者</a> にユーザがアクセスでき、削除されないことを決定する項目の値の取引先責任者表にクエリを実行する必要があります。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
IsPrimary	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	関連付けられた <a href="#">取引先責任者</a> が <a href="#">商談</a> に対するプライマリロールを持つか(true)か、そうでないか(false)を示します。それぞれの <a href="#">商談</a> には、主担当となる取引先責任者が 1 つだけ割り当てられます。ラベルは主担当です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
OpportunityId	reference	Create Filter	必須項目。関連付けられた商談のID。この項目は null 以外を指定します。また、更新できません。 <a href="#">create()</a> のこの項目に値を指定する必要があります。作成された後、変更することはできません。
Role	picklist	Create Filter Nillable Update	ビジネスユーザ、または意思決定者など、商談に対して関連付けられた取引先責任者が持つロールの名前。

## 使用方法

このオブジェクトタイプのレコードは、商談詳細ページの Salesforce.com ユーザインターフェースに表示されます。その他の多くのオブジェクト同様、このオブジェクトタイプのレコードには、レコードの更新または削除時に使用する独自の一意の ID があります。

可能ですが、同じ商談と取引先責任者間で複数のリレーションを作成することはお勧めできません。

## OpportunityFieldHistory

商談の項目内の値に対する変更履歴を表します。このオブジェクトはバージョン 13.0 以降で使用できます。

### サポートされているコール

[query\(\)](#)、[retrieve\(\)](#)、[getDeleted\(\)](#)、[getUpdated\(\)](#)、および [describeSObjects\(\)](#)

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Field	picklist	Filter Restricted picklist	変更された項目の名前。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
OpportunityId	reference	Filter	商談のID。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください。ラベルは商談 IDです。
NewValue	anyType	Nillable	変更された項目の新しい値。
OldValue	anyType	Nillable	変更される前の項目の最後の値。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、[商談](#)に対する変更を識別します。[OpportunityHistory](#) オブジェクトは、[商談](#)の金額、確度、フェーズ、完了予定日の項目に対する変更の履歴を表します。

このオブジェクトは、親オブジェクトの項目レベルのセキュリティに影響されます。

## OpportunityHistory

[商談](#)のフェーズ履歴を表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Amount	double	Filter Nillable	販売金額合計の見積もり。
CloseDate	date	Filter Nillable	商談の完了予定日。
ExpectedRevenue	currency	Filter Nillable	金額および確度項目に基づいて計算される期待収益。
ForecastCategory	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	商談が売上予測に計上される列を指定するカテゴリ。ラベルは売上予測分類までです。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。 ラベルは削除です。
OpportunityId	reference	Filter	関連付けられた <a href="#">商談</a> の ID。
Probability	percent	Filter Nillable	商談完了の確度 (%)。
StageName	picklist	Filter	商談の現在のフェーズ(評価、提案など)。

## 使用方法

このオブジェクトは、[商談](#)の金額、確度、フェーズ、完了予定日の項目に対する変更の履歴を表します。

[OpportunityFieldHistory](#) オブジェクトは、[商談](#)の項目に対する変更の履歴を表します。特定の商談の処理方法に関する詳細は、指定された[商談](#)に関連付けられたすべてのOpportunityHistory オブジェクトに `query()` を実行します。商談の金額、確度、フェーズ、完了予定日の項目が変更されていない場合、OpportunityHistory オブジェクトには何も返されません。この場合、商談に対する変更の情報を取得するために、指定された[商談](#)に関連付けられたすべての[OpportunityFieldHistory](#) オブジェクトに `query()` を実行します。

このオブジェクトは参照専用です。ユーザまたはクライアントアプリケーションが上記の項目いずれかの値を変更すると、新しいレコードが生成されます。その後これらの主要な項目の現在の値が、新しく生成されたオブジェクトに保存されます。

このオブジェクトは、親オブジェクトの項目レベルのセキュリティに影響されます。

 メモ: 親[商談](#)が削除されると、レコードは自動的に削除されます。

## OpportunityLineItem

該当する商談のこれらの承認に関する情報のほか、[商談](#)に関連付けられた[Product2](#)のリストのメンバーである、商談の商品を表します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`upsert()`

### 特別なアクセスルール

商談の商談商品に `create()` または`update()` を実行するためには、[商談](#)に対する「編集」権限が必要です。

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
ConnectionReceivedId	<a href="#">reference</a>	<a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a>	組織とこのレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。
ConnectionSentId	<a href="#">reference</a>	<a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a>	このレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。API バージョン 15.0 以降では、ConnectionSentId の項目はサポートされていません。ConnectionSentId 項目は使用できますが、値は Null です。レコードを接続に転送するには、新しい <a href="#">PartnerNetworkRecordConnection</a> を使用します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
CurrencyIsoCode	picklist	Filter Restricted picklist	<p>マルチ通貨機能を有効化している組織にのみ使用できます。組織で使用できる通貨の ISO コードが指定されています。</p> <p>組織で複数の通貨を使用でき、親商談に <a href="#">Pricebook2</a> が指定されている場合(オブジェクトの <a href="#">OpportunityId</a> によって参照される商談の <a href="#">Pricebook2Id</a> 項目が空白でない場合)、この項目の値は、このオブジェクトに関連付けられている <a href="#">PricebookEntry</a> オブジェクトの <a href="#">CurrencyIsoCode</a> 項目の通貨と一致する必要があります。</p>
Description	string	Create Filter Nillable Update	商談商品のテキストによる説明。最大 255 文字です。
HasQuantitySchedule	Boolean	Defaulted on create Filter	参照のみ。数量スケジュールがこのオブジェクトに作成されているか ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。
HasRevenueSchedule	boolean	Defaulted on create Filter	<p>参照のみ。収益スケジュールがこのオブジェクトに作成されているか (<code>true</code>) 否か (<code>false</code>) を示します。</p> <p>このオブジェクトに収益スケジュールが指定されている場合、<a href="#">Quantity</a> 項目および <a href="#">TotalPrice</a> 項目を更新することはできません。また、このオブジェクトに数量スケジュールが指定されている場合、<a href="#">Quantity</a> 項目を更新することはできません。API は、これらの項目を更新しようとしても無視されます。<code>update()</code> コールは却下されませんが、更新された値は無視されます。</p>
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	<p>レコードがごみ箱に移動した(<code>true</code>)か、移動していない(<code>false</code>)かを示します。ラベルは削除です。親商談が削除された場合、このフラグは <code>true</code> のみに設定され、商談が復元されると <code>false</code> に再度設定されます。</p> <p>API を使用して直接 OpportunityLineItem を削除すると完全に削除され、復元することはできません。</p>
ListPrice	currency	Filter Nillable	この商品に関連する <a href="#">PricebookEntry</a> の <a href="#">UnitPrice</a> に対応します。標準価格表またはカスタム価格表に記載できます。クライアントアプリケーションはこの情報を使用して、商品の単価(または販売価格)が価格表エンティティのリスト価格と異なるかどうかを示すことができます。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
OpportunityId	reference	Create Filter	必須項目。関連付けられた <a href="#">商談</a> の ID。
PriceBookEntryId	reference	Create Filter Nillable	必須項目。関連付けられた <a href="#">PricebookEntry</a> の ID。商談商品機能を有効化した組織にのみ定義されます。この項目または <a href="#">ProductId</a> のいずれか値を指定できます。両方指定することはできません。このため、両方の項目が nillable を宣言しています。
ProductId	reference	Create Filter Nillable	関連付けられた商品オブジェクトの ID。バージョン 3.0 時点でこの項目は廃止され、後方互換性にのみ提供されています。このオブジェクトは API バージョン 8.0 以降では使用できません。 <a href="#">PricebookEntry</a> オブジェクトの ID を指定して、 <a href="#">PriceBookEntryId</a> 項目を代わりに使用します。
Quantity	double	Create Filter Update	レコードに数量スケジュール、収益スケジュールまたはそれらの両方が指定されている場合、参照専用です。
ServiceDate	date	Create Filter Nillable Update	商品の収益が予想される日付、および商品の数量が納入される日付。この値がカスタマイザブル売上予測で使用されるかどうかは、組織で設定された売上予測日によって異なります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>商談完了日—ServiceDate は無視されます。</li> <li>商品提供日—ServiceDate は、null の場合に使用されます。</li> <li>実行日—ServiceDate は、null ではなく、この商品に収益スケジュールが指定されていない場合に使用できます。つまり、このオブジェクトの子である収益の <a href="#">Type</a> 値が指定された <a href="#">OpportunityLineItemSchedule</a> オブジェクトがない場合に使用されます。</li> </ul>
SortOrder	int	Filter Nillable	ユーザが選択した並べ替え順を示す番号。クライアントアプリケーションはこれを使用して、Salesforce.com の並べ替え順を一致させることができます。
TotalPrice	currency	Create Defaulted on create Filter Nillable Update	この項目は後方互換性でのみ使用できます。OpportunityLineItem の合計金額を表します。 <a href="#">UnitPrice</a> を指定しない場合、この項目は必須です。指定された <a href="#">update()</a> コールで、この値または <a href="#">UnitPrice</a> のいずれかを変更できますが、両方を同時に変更できません。この項目は nillable ですが、同じ <a href="#">update()</a> コールで <a href="#">TotalPrice</a> および <a href="#">UnitPrice</a> の両方を null に設定することはできません。API を使用

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
UnitPrice	currency	Create Defaulted on create Filter Nillable Update	して商談商品の <code>TotalPrice</code> を挿入するには、この項目を単価と数量を乗算して計算します。商談商品に収益スケジュールが指定されている場合、この項目は参照専用です。この商談商品にスケジュールが指定されていないまたは数量スケジュールのみが指定されている場合、この項目を更新できます。

## 使用方法

商談に `Pricebook2` が指定されている場合にのみ、商談に `OpportunityLineItem` が含まれます。`OpportunityLineItem` は、商談の `Pricebook2` に記載された `Product2` に対応する必要があります。関連する `Pricebook2` または既存の商品がない商談への `OpportunityLineItem` の挿入については、「商談への効果」を参照してください。

このオブジェクトは、商品を機能として有効化している組織にのみ定義されます。組織に商品機能が指定されていない場合、このオブジェクトは `describeGlobal()` コールに表れず、`OpportunityLineItem` オブジェクトとともに `describeSObjects()` または `query()` を使用することができません。

`OpportunityLineItem` とその他のオブジェクトの関係を示すダイアグラムについては、「商品オブジェクトとスケジュールオブジェクト」を参照してください。



メモ: マルチ通貨機能が有効化されている場合、`CurrencyIsoCode` 項目が指定されます。変更できない場合は、親商談の `CurrencyIsoCode` の値に常に設定されます。`CurrencyIsoCode` 項目の詳細は、「[Currency データ型](#)」を参照してください。

## 商談への影響

関連する `OpportunityLineItems` を持つ商談は、次のように影響を受けます。

- `OpportunityLineItem` を作成すると、`OpportunityLineItem` の `TotalPrice` によって商談の `Amount` の値が増加します。また、`OpportunityLineItem` を挿入すると、`TotalPrice` を商談の `Probability` と乗算することによって `ExpectedRevenue` が増加します。
- 商談に商品がある場合、商談の `Amount` は参照専用項目となります。API は、商品を持つ商談のこの項目を更新しようとしても無視します。`update()` コールは却下されませんが、更新された値は無視されます。
- 商品がある場合、商談の `PricebookId` 項目または `CurrencyIsoCode` 項目を更新することはできません。API は、商品を持つ商談のこれらの項目を更新しようとしても却下します。
- `OpportunityLineItem` に `create()` または `update()` を実行する場合、API は、商品が商談に関連付けられた `Pricebook2` の `PricebookEntry` に対応していることを確認します。商談に関連する `Pricebook2` がないとき、商品が有効な `Pricebook2` の `PricebookEntry` に対応している場合、そして `PricebookEntry` が商談の `CurrencyIsoCode`

項目に一致する `CurrencyIsoCode` 項目を持つ場合、API は自動的に商談の価格表を設定します。Pricebook2 が有効でない場合、または `CurrencyIsoCode` 項目が一致しない場合、エラーが返されます。

- その商談に `OpportunityLineItem` が挿入されると、`Opportunity HasOpportunityLineItem` 項目が `true` に設定されます。

## OpportunityLineItemSchedule

特定の `OpportunityLineItem` の数量、収益の分布、納品日に関する情報を表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
<code>CurrencyIsoCode</code>	<code>picklist</code>	<code>Create</code> <code>Defaulted on create</code> <code>Filter</code> <code>Nillable</code> <code>Restricted picklist</code> <code>Update</code>	マルチ通貨機能を有効化している組織にのみ使用できます。組織で使用できる通貨の ISO コードが指定されています。この項目はバージョン 10.0 以降で使用できます。
<code>Description</code>	<code>string</code>	<code>Create</code> <code>Filter</code> <code>Nillable</code> <code>Update</code>	商談商品名スケジュールのテキストによる説明。最大 255 文字です。ラベルはコメントです。
<code>IsDeleted</code>	<code>Boolean</code>	<code>Defaulted on create</code> <code>Filter</code>	レコードがごみ箱に移動した( <code>true</code> )か、移動していない( <code>false</code> )かを示します。ラベルは削除です。
<code>OpportunityLineItemId</code>	<code>reference</code>	<code>Create</code> <code>Filter</code>	必須項目。関連付けられた <code>OpportunityLineItem</code> の ID。
<code>Quantity</code>	<code>double</code>	<code>Create</code> <code>Filter</code> <code>Nillable</code> <code>Update</code>	必須項目。数量スケジュールでスケジュール指定された単位数の合計。詳細は、「 <a href="#">使用できる Quantity 項目および Revenue 項目の値</a> 」を参照してください。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
Revenue	currency	Create Filter Nillable Update	予測される収益、または納入される数量、またはその両方。 <a href="#">Type の値によって異なります。詳細は、「使用できる Quantity 項目および Revenue 項目の値」を参照してください。</a>
ScheduleDate	date	Create Filter Update	必須項目。関連する <a href="#">OpportunityLineItem</a> が行動(配送、納入、または記録するその他の日付)にスケジュール指定されている日付。
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	必須項目。スケジュールの種別。 <a href="#">OpportunityLineItemSchedule を挿入する場合必須です。使用できる値は、Quantity、Revenue、または Both です。詳細は、「使用できる種別の項目値」を参照してください。</a>

### 使用できる Type 項目値

[OpportunityLineItemSchedule](#) の使用できる [Type](#) は、商品レベルのスケジュール設定、および商品に既存のスケジュールが指定されているかどうかによって異なります。次の基準を満たす必要があります。

- [OpportunityLineItem](#) が基準とする [Product2](#) では、適切な [CanUseRevenueSchedule](#) 項目または [CanUseQuantitySchedule](#) 項目(または両方)が `true` に設定されている必要があります。
- 既存のスケジュールが指定されていない商品のスケジュールに `create()` を実行する場合、有効な値を指定できます。
- 既存のスケジュールがすでに指定されている商品のスケジュールに `create()` を実行する場合、新しいスケジュールは既存のスケジュールと一貫している必要があります。次で、使用できる値を説明します。

商品の HasRevenueSchedule の 値	商品の HasQuantitySchedule の 値	使用できる Type 項目値
false	false	<a href="#">Revenue</a> , <a href="#">Quantity</a> , both
false	true	<a href="#">Quantity</a>
true	false	<a href="#">Revenue</a>
true	true	Both

### 使用できる Quantity 項目および Revenue 項目の値

使用できる [Quantity](#) 項目および [Revenue](#) 項目の値は、 [Type](#) 項目の値によって異なります。

Type 項目値	使用できる Quantity 項目値	使用できる Revenue 項目値
<a href="#">Revenue</a>	Null	Null 以外
<a href="#">Quantity</a>	Null 以外	Null

Type 項目値	使用できる Quantity 項目値	使用できる Revenue 項目値
両方	Null 以外	Null 以外

Quantity 項目およびRevenue 項目には、`update()` コールにおいて次の制約事項があります。

- Type 「Quantity」のスケジュールについて、null の Revenue の値を null 以外に更新することはできません。Type 「Revenue」のスケジュールについても同様に、null の Quantity の値を null 以外に更新することはできません。
- Type 「Quantity」のスケジュールの Quantity 項目に null を代入することはできません。同様に、Type 「Revenue」のスケジュールの Revenue 項目に null を代入することはできません。
- 「Both」のスケジュールの Revenue 項目または Quantity 項目に null を代入することはできません。

## 使用方法

2 種類の `OpportunityLineItemSchedule` がサポートされています。

- 数量スケジュール
- 収益スケジュール

商談の商談商品スケジュールに `create()` または `update()` を実行するためには、商談に対する「編集」権限が必要です。

## 商品とスケジュールは有効化が必要

`OpportunityLineItemSchedule` オブジェクトは、商品機能およびスケジュール機能が有効化されている組織でのみ使用できます。組織に商品およびスケジュール機能がない場合、`OpportunityLineItemSchedule` オブジェクトは `describeGlobal()` コールに表示されず、`OpportunityLineItemSchedule` オブジェクトとともに `describeSObjects()` または `query()` を使用できません。

## 商談および商談商品への影響

`OpportunityLineItemSchedule` は、次のように商談および商談商品に影響を与えます。

- Type が「Revenue」または「Quantity」の `OpportunityLineItemSchedule` を挿入すると、`OpportunityLineItemSchedule` Revenue の金額によって `OpportunityLineItem` の TotalPrice 項目が増加します。Type が「Revenue」または「Both」の `OpportunityLineItemSchedule` を挿入すると、`OpportunityLineItemSchedule` Quantity の金額によって `OpportunityLineItem` の Quantity 項目が増加します。
- `create()` コールは、元の商談に影響を与えます。
  1. 商談の Amount が、`OpportunityLineItemSchedule` の収益金額によって増加します。
  2. 商談の ExpectedRevenue が、商品名スケジュールの金額と商談の Probability を乗算することによって増加します。
- `OpportunityLineItemSchedule` を削除すると、関連する `OpportunityLineItem` および商談に同様の影響があります。`OpportunityLineItemSchedule` を削除すると、`OpportunityLineItemSchedule` の Quantity または Revenue の金額が削除されることによって、`OpportunityLineItem` の TotalPrice の値が減少します。商談の Amount も、`OpportunityLineItemSchedule` の Quantity または Revenue の金額分減少します。また、商談の ExpectedRevenue が `OpportunityLineItemSchedule` の Quantity または Revenue が商談の Probability と乗算することによって減少します。

## 商談商品名スケジュールの削除

最後に残っているスケジュールを削除すると、親商品の対応する `HasQuantitySchedule` フラグまたは `HasRevenueSchedule` フラグ(または両方)が `false` に設定されます。

## OpportunityOverride

商談の売上予測オーバーライド。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

「すべてのデータの参照」権限が必要です。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AmountInherited	Boolean	Defaulted on create Filter	オーバーライドされた金額は売上予測階層でロールアップするか( <code>true</code> )、 <code>OpportunityOverride</code> の所有者によってオーバーライドされたか( <code>false</code> )を示します。
ForecastCategoryInherited	Boolean	Defaulted on create Filter	オーバーライドされた売上予測カテゴリは売上予測階層でロールアップするか( <code>true</code> )、 <code>OpportunityOverride</code> の所有者によってオーバーライドされたか( <code>false</code> )を示します。
IsDeleted	boolean	Defaulted on create Filter	通常、親商談はごみ箱に移動するため、オブジェクトがごみ箱に移動した( <code>true</code> )か、移動していない( <code>false</code> )かを示します。
OpportunityId	reference	Filter	関連付けられた商談の ID。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
OutOfDate	Boolean	Defaulted on create Filter	このオーバーライドのオーバーライドされた値が古いなどの場合に、このオーバーライドが最後に更新された後で、下位のユーザの <code>OpportunityOverride</code> 、または商談自体が更新されると <code>true</code> となります。たとえば、下位のユーザが、同じ期間、カテゴリ、または金額項目を最近オーバーライドしている場合があります。
OverrideAmount	currency	Filter	商談の合計金額で、オーバーライドされる場合があります。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
OverrideComment	string	Filter Nillable	商談売上予測編集ページに入力されたコメント。最大 255 文字です。
OverrideForecastCategory	picklist	Filter Restricted picklist	商談の売上予測カテゴリで、オーバーライドされる場合があります。
OverridePeriodId	reference	Filter	関連付けられた会計期間の ID で、オーバーライドされる場合があります。カスタム会計年度を使用し、カスタム会計年度が終了した後に機関がある場合、オーバーライドは返されません。カスタム会計年度の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。
OverrideQuantity	double	Filter	商談の数量で、オーバーライドされる場合があります。
OwnerId	reference	Filter	OpportunityOverride の所有者の ID。
PeriodInherited	Boolean	Defaulted on create Filter	オーバーライドされた期間は売上予測階層でロールアップするか(true)、OpportunityOverride の所有者によってオーバーライドされたか(false)を示します。
QuantityInherited	Boolean	Defaulted on create Filter	オーバーライドされた数量は売上予測階層でロールアップするか(true)、OpportunityOverride の所有者によってオーバーライドされたか(false)を示します。

## 使用方法

これは、カスタマイズブル売上予測に固有の参照専用オブジェクトです。LineitemOverride と親子関係があります。

## OpportunityOwnerSharingRule

所有者以外のユーザと商談を共有するルールを表します。



メモ: salesforce.com のカスタマーサポートに連絡して、組織のこのオブジェクトに対するアクセス権限を有効化します。

## サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
GroupId	reference	Create Filter	ソースグループを表す ID。ソースグループのユーザが所有する商談が、ルールをトリガしてアクセス権限を割当てます。
OpportunityAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	使用できる共有の種類を表す値。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>• Read</li><li>• Edit</li></ul>
UserorGroupId	reference	Create Filter	対象ユーザまたはグループを表す ID。対象ユーザまたはグループには、アクセス権限が割り当てられています。

## 使用方法

これらのオブジェクトを使用して、特定の商談の共有ルールを管理します。一般的な共有およびテリトリーに関連する共有ではこのオブジェクトを使用します。

## OpportunityPartner

この参照専用オブジェクトは、[取引先と商談のパートナー関係](#)を表します。取引先と商談の間のパートナー関係に[パートナーオブジェクト](#)が作成されると、このオブジェクトが自動的に作成されます。

### サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccountToId	reference	Filter	パートナー関係におけるパートナー取引先の ID。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsPrimary	Boolean	Defaulted on create Filter	取引先が組織の主要取引先のプライマリパートナーである(true)か、そうでないか(false)を示します。ラベルは主担当です。
OpportunityId	reference	Filter	パートナー関係の商談の ID。
Role	picklist	Filter Nillable	取引先が商談に対して持つ UserRole。たとえば、「再販業者」または「メーカー」などです。

### 取引先-商談間のパートナー関係の作成

取引先と商談にパートナー関係を作成する場合(パートナーオブジェクトを作成して `OpportunityId` 項目を指定する場合)、API は対応する値を使用して、自動的に `OpportunityPartner` を作成します。

- パートナー項目 `AccountId` の値は、`OpportunityPartner` 項目 `AccountId` の値に対応付けます。
- 2つのオブジェクトの `OpportunityId` 項目、`Role` 項目、`IsPrimary` 項目の値は同じです。
- 新しい `OpportunityPartner` の挿入時に `IsPrimary` 値を 1(true) に設定すると、その商談で既存する他のプライマリパートナーは自動的に `IsPrimary` の値が 0(false) に設定されます。

この対応付けにより、API は、オブジェクトとそれらの関係を効率的に管理できます。

## OpportunityShare

商談の共有エントリを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
OpportunityAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	ユーザまたはグループが商談に対して持つアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Read</li> <li>Edit</li> <li>All (この値は、<code>delete()</code>、<code>create()</code>、または <code>update()</code> コールには使用できません。)</li> </ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
OpportunityId	reference	Create Filter	<p>この項目は、少なくとも組織のデフォルトである商談よりも高いアクセスレベルに設定する必要があります。</p> <p>この共有エントリに関連付けられた商談の ID。この項目は更新できません。IDについての詳細は、「<a href="#">ID データ型</a>」を参照してください。</p>
RowCause	picklist	Filter Restricted picklist	<p>共有エントリが存在する理由。参照のみ。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Owner - ユーザは商談の所有者、またはロール階層内で商談所有者より上位にある UserRole です。</li> <li>Manual - 「All」のアクセス権限を持つユーザが手動で商談を共有していたため、ユーザまたはグループにアクセス権限が割り当てられています。</li> <li>Rule - ユーザまたはグループには、商談共有ルールによってアクセス権限が付与されています。</li> <li>ImplicitChild - ユーザまたはグループには、商談に関連付けられた取引先の商談に対するアクセス権限が付与されています。</li> <li>Team - ユーザが商談の営業チームであるため、ユーザは商談へのアクセス権限が割り当てられています。この商談の OpportunityTeamMember オブジェクトがアクセスレベルを設定します。詳細は、「<a href="#">OpportunityTeamMember</a>」を参照してください。</li> </ul>
UserOrGroupId	reference	Create Filter	商談に対してアクセス権限が割り当てられたユーザまたはグループの ID。この項目は更新できません。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、他のユーザが所有する商談を参照または編集できるユーザやグループを指定することができます。詳細は、「[共有](#)」を参照してください。

既存のレコードに一致するレコードを作成すると、`create()` コールは、変更された項目を更新し、既存のレコードを返します。

## OpportunityStage

新しいリード、交渉、保留中、終了など、販売パイプラインでの商談のフェーズを表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
DefaultProbability	percent	Filter Nillable	この商談のフェーズ値の特定の商談をクローズする際の、デフォルトの確実性の見積(%)。ラベルは確度(%)です。
Description	string	Filter Nillable	この商談のフェーズ値の説明。最大 255 文字です。
ForecastCategory	picklist	Filter Restricted picklist	この商談フェーズ値のデフォルトの売上予測分類。売上予測分類によって、売上予測での商談のトラッキングおよび計上が自動的に決定されます。
ForecastCategoryName	picklist	Filter	API versions 12.0 以降で利用できます。この商談フェーズ値のデフォルトの売上予測分類値。
IsActive	Boolean	Defaulted on create Filter	この商談フェーズ値が有効である(true)か、有効でない(false)かを示します。無効な商談フェーズ値は選択リストに表示されず、履歴の目的にのみ保存されます。
IsClosed	Boolean	Defaulted on create Filter	この商談フェーズ値が終了した商談を表す(true)か、そうでない(false)かを示します。複数の商談フェーズ値が、終了した商談を表します。ラベルは完了フラグです。
IsWon	Boolean	Defaulted on create Filter	この商談フェーズ値が成立した商談を表す(true)か、そうでない(false)かを示します。複数の商談フェーズ値が、成立した商談を表します。ラベルは成立フラグです。
MasterLabel	string	Filter Nillable	商談フェーズ値のマスタレベル。この表示値は、翻訳されない内部ラベルです。最大 255 文字です。
SortOrder	int	Filter Nillable	商談フェーズの選択リストでこの値を並べ替えるために使用する番号。以前の商談フェーズ値が一部削除されている場合があるため、これらの番号が連続的である保証はありません。

## 使用方法

このオブジェクトは、確度または売上予測分類など、商談のフェーズに関する追加情報を提供する、商談フェーズの選択リストの値を表します。クライアントアプリケーションは、[OpportunityStage](#) オブジェクトの `query()` コールを起動し、商談フェーズの選択リストの値セットを取得できます。また、その情報を商談オブジェクトの処理に使用し、指定された商談のさらに詳細な情報を取得できます。たとえば、アプリケーションは、`StageName` の値、および関連付けられた [OpportunityStage](#) オブジェクトの `IsWon` プロパティの値に基づいて、指定された商談が成立したかどうかをテストできます。

これらのオブジェクトは、APIの参照専用です。十分な権限を使用して、クライアントアプリケーションは、これらのオブジェクトに `query()` コールおよび `describeSObjects()` コールを起動できます。

## OpportunityTeamMember

商談営業チームのユーザを表します。

別のユーザのデフォルトの取引先チームにあるユーザを表すUserTeamMember も参照してください。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
OpportunityAccessLevel	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	チームメンバーの商談アクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>None</li><li>Read</li><li>Edit</li><li>All</li></ul>
OpportunityId	reference	Create Filter	必須項目。この営業チームに関連付けられた商談のID。この項目は更新できません。IDについての詳細は、「ID データ型」を参照してください
TeamMemberRole	picklist	Create Filter Nillable Update	チームメンバーが商談に対して持つロール。有効な値は、「営業チームのロール」選択リストを使用して、組織の管理者が設定します。ラベルはチーム内の役割です。
UserId	reference	Create Filter	必須項目。商談の営業チームのメンバーであるユーザの ID。この項目は更新できません。

使用方法

このオブジェクトを作成し、それが既存のレコードに一致すると、`create()` コールは、変更された項目を更新し、既存のレコードを返します。

Salesforce.com ユーザインターフェースで、所有する商談に営業チームを設定できます。営業チームには、商談にかかわっているその他のユーザも含まれています。このオブジェクトは、チームセリング機能を使用できる組織でのみ有効です。



メモ: 以前の所有者が営業チームにいる場合、Salesforce.com ユーザインターフェースを使用すると、商談の所有者を変更する操作が異なります。たとえば、API を使用して商談の所有者を変更すると、以前の所有者のアクセス権限が「参照専用」または、商談の組織全体のデフォルトで指定されているアクセス権限の、いずれか高いアクセス権限となります。ただし、Salesforce.com でこの同じ操作を実行すると、以前の所有者が営業チームにいる場合、以前の所有者のアクセスレベルを選択することができます。

## OpportunityTag

単語または短い語句を商談に関連付けます。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい TagDefinition が作成され、このタグオブジェクトの親となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親リレーションは自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Public:</b> 組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li> <li><b>Personal:</b> タグは、OwnerId に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li> </ul>

使用方法

OpportunityTag は、親 TagDefinition とタグ付けされている商談との関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## Organization

このオブジェクトは、組織の主要な構成情報を表します。このオブジェクトにアクセスするには、「すべてのデータの参照」権限が必要です。

サポートされているコール

`getUpdated()`

SOQL SELECT クエリを実行すると、このオブジェクトの項目の値を返しますが、項目の一部の値は参照できません。

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目の データ 型	項目の プロパティ	Description
AllowsSelfServiceLogin	Boolean	Defaulted <code>on create</code> Filter Update	組織が、セルフサービスにログインできるか (true) 否か (false) を示します。
City	string	Filter Nillable Update	組織の住所の市区郡。
ComplianceBccEmail	email	Filter Nillable	法令準拠の、BCC の電子メールアドレス。最大 80 文字です。
Country	string	Filter Nillable	組織の住所の国名。
DailyWebToCaseCount	int	Filter Nillable	その日にケースに変換された Web フォーム登録数。
DailyWebToCaseLimit	int	Filter Nillable	1 日あたりににケースに変換できる Web フォーム登録の最大数。
DailyWebToLeadCount	int	Filter Nillable	その日にリードに変換された Web フォーム登録数。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
DailyWebToLeadLimit	int	Filter Nillable	1日あたりにリードに変換できる Web フォーム登録の最大数。
DefaultAccountAccess	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	<p>API version 10.0 以降で、取引先、取引先責任者、納入商品のデフォルトのアクセスレベルを表します。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>None</li> <li>Read</li> <li>Edit</li> </ul> <p>10.0 より前のバージョンでは、<a href="#">DefaultAccountAndContactAccess</a> がこの値を表していました。</p>
DefaultAccountAndContactAccess	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	取引先、取引先責任者、契約、納入商品のデフォルトのアクセスレベル。この項目は、後方互換性向けにのみサポートされており、API version 10.0 以降では使用できません。Version 10.0 以降では、 <a href="#">DefaultAccountAccess</a> または <a href="#">DefaultContactAccess</a> を使用します。
DefaultCalendarAccess	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	<p>カレンダーのデフォルトのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。かっこ内は、Salesforce.com ユーザインターフェースのラベルです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>HideDetails (詳細を非表示)</li> <li>HideDetailsInsert (詳細の非表示、新規行動の追加)</li> <li>ShowDetails (詳細を表示)</li> <li>ShowDetailsInsert (詳細の表示、新規行動の追加)</li> <li>AllowEdits (フルアクセス)</li> </ul>
DefaultCampaignAccess	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	キャンペーンのデフォルトのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。
DefaultCaseAccess	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	ケースのデフォルトのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
DefaultContactAccess	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	<p>取引先責任者のデフォルトのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> <li>Read</li> <li>Edit</li> <li>ControlledByParent</li> </ul> <p>10.0 より前のバージョンでは、<a href="#">DefaultAccountAndContactAccess</a> がこの値を表していました。</p> <p> メモ: DefaultContactAccess が「親による制御」に設定されている場合、オブジェクトの ContactAccessLevel 項目を更新することはできません。</p>
DefaultLeadAccess	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	<p>リードのデフォルトのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>NoneRead</li> <li>Edit</li> <li>ReadEditTransfer</li> </ul>
DefaultLocaleSidKey	picklist	Filter Restricted picklist	デフォルトのロケール SID キー。
DefaultOpportunityAccess	picklist	Filter Restricted picklist	商談のデフォルトのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。
DefaultPricebookAccess	picklist	Filter Restricted picklist	<p>価格表のデフォルトのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。かっこ内は、Salesforce.com ユーザインターフェースのラベルです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>None (アクセスなし)</li> <li>Read (参照のみ)</li> <li>ReadSelect (使用)</li> </ul>
DefaultTerritoryAccountAccess	picklist	Filter Nillable	テリトリー内の取引先のデフォルトのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。
			<ul style="list-style-type: none"> <li>Read</li> </ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
		Restricted picklist	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">Edit</a></li> <li>• <a href="#">All</a></li> </ul>
DefaultTerritoryCaseAccess	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	<p>テリトリー内の取引先に関連付けられたケースのデフォルトのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">None</a></li> <li>• <a href="#">Read</a></li> <li>• <a href="#">Edit</a></li> </ul>
DefaultTerritoryContactAccess	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	<p>テリトリー内の取引先に関連付けられた取引先責任者のデフォルトのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">NoneRead</a></li> <li>• <a href="#">Edit</a></li> </ul>
			 メモ: DefaultContactAccess が「親による制御」に設定されている場合、この項目を更新することはできません。
DefaultTerritoryOppAccess	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	<p>テリトリー内の商談のデフォルトのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">NoneRead</a></li> <li>• <a href="#">Edit</a></li> </ul>
Division	string	Filter Nillable Update	この組織のディビジョン名。この項目は、 <a href="#">ディビジョンオブジェクト</a> には関連していません。
Fax	phone	Filter Nillable Update	Fax 番号。最大 40 文字です。
FiscalYearStartMonth	int	Filter Nillable	この組織の会計年度が開始する月に対応する数値。
HomepageHtml	textarea	Nillable Update	この組織の [ホームタブカスタムリンクと会社のメッセージ
LanguageLocaleKey	picklist	Filter Restricted picklist	言語のロケールキー。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
		Update	
LastWebToCaseDate	dateTime	Filter Nillable	最後に Web フォームの登録がケースに変換された日付。
LastWebToLeadDate	dateTime	Filter Nillable	最後に Web フォームの登録がリードに変換された日付。
MaxActionsPerRule	int	Filter Nillable	ワークフロー、割り当て、エスカレーション、自動レスポンスルールごとの最大アクション数。  この項目はバージョン 15.0 以降では使用できません。
MaxRulesPerEntity	int	Filter Nillable	ワークフロー、割り当て、エスカレーション、自動レスポンスルールを含むオブジェクトごとの最大ルール数。  この項目はバージョン 15.0 以降では使用できません。
Name	string	Filter idLookup Update	組織の名前。
OrganizationType	picklist	Filter Nillable	Enterprise Edition または Unlimited Edition など、組織のエディション。
Phone	phone	Filter Nillable Update	組織の電話番号。
PostalCode	string	Filter Nillable Update	組織の住所の郵便番号。最大 20 文字です。
PreferencesEventScheduler	Boolean	Update	商談に商品が必要(true)か、そうでない(false)かを示します。
PreferencesRequireOpportunityProducts	Boolean	Update	商談に商品が必要(true)か、そうでない(false)かを示します。
PrimaryContact	string	Filter Nillable Update	組織の主担当の名前。最大 80 文字です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
ReceivesAdminInfoEmails	Boolean	Defaulted on create Filter Update	組織が Salesforce.com 管理者からの電子メールを受信するか (true)、否か (false) を示します。
ReceivesInfoEmails	Boolean	Defaulted on create Filter Update	組織が Salesforce.com からの情報メールを受信するか (true)、否か (false) を示します。
SelfServiceCasePlural	string	Filter Nillable Update	セルフサービスポータルで <a href="#">ケース</a> オブジェクトを表すのに使用する用語の複数形。
SelfServiceCaseSingle	string	Filter Nillable Update	セルフサービスポータルで <a href="#">ケース</a> オブジェクトを表すのに使用する用語の単数形。
SelfServiceCaseSubmitRecordTypeId	reference	Filter Nillable Update	セルフサービスポータル経由で送信されたケースに関連付けられたレコードタイプの ID。.
SelfServiceDefaultCaseOrigin	string	Filter Nillable Update	セルフサービスポータルを介して送信されるケースのデフォルトの発生源。
SelfServiceEmailSenderAddress	email	Filter Nillable Update	「support@acme.com」のような、新しいセルフサービスユーザとパスワードの電子メールメッセージが送信される、セルフサービス電子メールアドレス。
SelfServiceEmailSenderName	string	Filter Nillable Update	「Acme Customer Support」のような、 <a href="#">SelfServiceEmailSenderAddress</a> 項目の電子メールアドレスに関連付けられた名前。
SelfServiceEmailUserOnCaseCreationTemplateId	reference	Filter Nillable Update	セルフサービスユーザがケースを作成したとき、電子メールがユーザに送信される場合に使用する電子メールテンプレートの ID。
SelfServiceEnabledForResponseRules	Boolean	Filter Nillable Update	セルフサービスポータルで自動レスポンスルールが有効化されているか (true) 否か (false) を示します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
SelfServiceFeatureConfig	int	Filter Nullable Update	この組織の有効なセルフサービス機能の構成を表す整数。
SelfServiceLogoutUrl	url	Filter Nullable Update	セルフサービスユーザがセルフサービスポータルからログアウトする場合に表示される Web ページ。
SelfServiceMaxNumSuggestions	int	Filter Nullable Update	セルフサービスケースに使用できる推奨ソリューションの最大数。
SelfServiceNewCommentCheckedByDefault	Boolean	Defaulted on create Filter Update	チェックボックスが、新しいケースコメントが自動的に選択された場合にカスタマー通知を送信するかどうかを示します。
SelfServiceNewCommentTemplateId	reference	Filter Nullable Update	セルフサービスユーザのケースに公開コメントが追加されたときに、ユーザに通知するために使用される電子メールテンプレートの ID。
SelfServiceNewPassTemplateId	reference	Filter Nullable Update	セルフサービスユーザに新しいパスワードが生成された場合に使用される電子メールテンプレートの ID。
SelfServiceNewUserTemplateId	reference	Filter Nullable Update	新しいセルフサービスユーザが有効化された場合に使用される電子メールテンプレートの ID。
SelfServicePageHeight	int	Filter Nullable Update	セルフサービスページの最大高(ピクセル)。
SelfServicePageWidth	int	Filter Nullable Update	セルフサービスページの最大幅(ピクセル)。
SelfServiceSelfClosedCaseStatus	picklist	Filter Nullable Update	セルフサービスユーザが終了したケースのデフォルトの状況。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
SelfServiceSolutionCategoryAvailable	Boolean	Defaulted on create Filter Nillable Update	セルフサービスポータルでソリューションカテゴリを使用できるか (true) 否か (false) を示します。
SelfServiceSolutionCategoryStartNodeId	reference	Filter Nillable Update	セルフサービスポータルの最上位カテゴリのID。
SelfServiceSolutionPlural	string	Filter Nillable Update	セルフサービスポータルのソリューションオブジェクトを表すのに使用する用語の複数形。
SelfServiceSolutionSingle	string	Filter Nillable Update	セルフサービスポータルのソリューションオブジェクトを表すのに使用する用語の単数形。
SelfServiceStyleSheetUrl	url	Filter Nillable Update	組織のセルフサービスポータルのスタイルシートの公開 URL。
SelfServiceWelcomePageConfig	int	Filter Nillable Update	セルフサービスポータルのお知らせページの構成を表す整数。
SelfServiceWelcomeText	string	Filter Nillable Update	セルフサービスユーザがログインしたときに、セルフサービスのホームページの最上位に表示されるカスタムお知らせメッセージ。最大 32,000 文字です。
State	string	Filter Nillable Update	組織の住所の都道府県。最大 20 文字です。
Street	textarea	Filter Nillable Update	組織の地名、番地。最大 255 文字です。
TrialExpirationDate	dateTime	Filter Nillable	組織のトライアルライセンスの期限が終了する日付。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
UiSkin	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	組織に選択されたユーザインターフェースのテーマ。
UsesStartDateAsFiscalYearName	Boolean	Defaulted on create Filter	会計年度が開始するカレンダーアイドが会社の会計年度の年として参照されるか(true)否か(false)を示します。たとえば、会計年度が 2006 年 2 月に開始する場合、true 値は会計年度が 2006 年度であることを意味し、false 値は会計年度が 2007 年度であることを意味します。
UsesWebToCase	Boolean	Filter Nillable Update	この組織が Web-to-ケースを使用できるか(true)、否か(false)を示します。
UsesWebToLead	Boolean	Filter Nillable Update	この組織が Web-to-リードを使用できるか(true)、否か(false)を示します。
WebToCaseAssignedEmailTemplateId	reference	Filter Nillable Update	新しいケースが Web-to-ケースを介してユーザに割り当てられる場合に使用される電子メールテンプレートの ID。
WebToCaseCreatedEmailTemplateId	reference	Filter Nillable Update	新しいケースが Web-to-ケースを介し新しいケースが作成される場合に使用される電子メールテンプレートの ID。
WebToCaseDefaultCreatorId	reference	Filter Nillable Update	Web-to-ケースを介して作成されたケースのデフォルトの作成者として指定されたユーザの ID。
WebToCaseDefaultOrigin	string	Filter Nillable Update	Web-to-ケースを介して送信されたケースの発生源項目のデフォルト値。最大 40 文字です。

## 使用方法

このオブジェクトを問い合わせて、組織の設定についての情報を取得します。組織あたりに存在する組織オブジェクトは 1 つだけです。

## OrgWideEmailAddress

ユーザプロファイルの組織の電子メールアドレスを表します。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`update()`

項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
Address	string	Create Filter Update	組織の共有電子メールアドレス。
IsAllowAllProfiles	boolean	Create Defaulted on create Filter Update	true の場合、組織内の任意のユーザプロファイルがこのオブジェクトを使用できます。false の場合、指定されたユーザプロファイルのみが電子メール送信時にこのオブジェクトを使用できます。適切なユーザプロファイルがない場合、このオブジェクトを使用できません。
DisplayName	string	Create Filter Update	電子メール送信者を特定するために使用する名前。

使用方法

このオブジェクトは、ユーザプロファイルの電子メールエイリアスを示します。[SingleEmailMessage](#) に `sendEmail()` をコールすると、ID で `OrgWideEmailAddress` レコードにパスすることができます。

詳細は、[Salesforce.com オンラインヘルプ](#) の「組織のアドレス」を参照してください。

## パートナー

2つの取引先の間、または商談と取引先の間のパートナーリレーションを表します。



メモ: このオブジェクトは、PRM ポータル機能とは完全に独立し、異なるものです

## サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 特別なアクセスルール

- API を介してこのオブジェクトにアクセスするには、「すべてのデータの参照」権限が必要です。`describeSObjects()` コールおよび `query()` コールで、すべてのパートナー項目にアクセスできます。API を使用してパートナーに `update()` または `upsert()` を実行できません。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
AccountFromId	reference	Create Filter Nullable	<code>OpportunityId</code> が <code>null</code> の場合は必須です。2つの取引先の間のパートナリレーションにおける主取引先の ID。 <code>create()</code> をコールして、2つの <code>AccountPartner</code> オブジェクトを、リレーションのそれぞれに1つずつ作成した場合にこの項目を指定します。 <code>OpportunityId</code> 項目を指定すると、この項目が指定できなくなります。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
AccountToId	reference	Create Filter	必須項目。商談または取引先のいずれかに関連するパートナー取引先の ID。商談のパートナーまたは取引先パートナーを作成する場合、この項目を指定する必要があります。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した( <code>true</code> )か、移動していない( <code>false</code> )かを示します。ラベルは削除です。
IsPrimary	Boolean	Create Defaulted on create Filter	商談パートナーにのみ有効です。 取引先が商談の主パートナーである( <code>true</code> )か、そうでない( <code>false</code> )を示します。商談の1つの取引先だけが主としてマークできます。新しい商談パートナーの挿入時にこの項目を1に設定すると( <code>true</code> )、その商談の主パートナーは自動的にこの項目を0に設定します( <code>false</code> )。 ラベルは主担当です。
OpportunityId	reference	Create Filter Nullable	<code>AccountFromId</code> が <code>null</code> の場合は必須です。取引先と商談のパートナリレーションにおける商談の ID。 <code>create()</code> をコールして、 <code>OpportunityPartner</code> を作成する場合に、この項目を指定します。 <code>AccountFromId</code> 項目を指定すると、この項目が指定できなくなります。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
Role	picklist	Create Filter Nillable	コンサルタントや流通業者など、関連する商談または取引先に対してもつ取引先のUserRole。

## ロール

Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して、システム管理者は有効なロール値と [PartnerRole](#) の対応する逆のロールを設定できます。リレーションの各取引先には、関連する取引先または商談に対する取引先の役割を指定する [ロール](#)（「コンサルタント」「流通業者」など）が割り当てられます。

## 取引先-商談間のパートナー関係の作成

取引先と商談にパートナー関係を作成する場合（パートナーオブジェクトを作成して [OpportunityId](#) 項目を指定する場合）、API は対応する値を使用して、自動的に [OpportunityPartner](#) を作成します。

- パートナー項目 [AccountToId](#) の値は、[OpportunityPartner](#) 項目 [AccountToId](#) の値に対応付けます。
- 2つのオブジェクトの [OpportunityId](#) 項目、[Role](#) 項目、[IsPrimary](#) 項目の値は同じです。
- 新しい [OpportunityPartner](#) の挿入時に [IsPrimary](#) 値を 1 (true) に設定すると、その商談で既存するその他のプライマリパートナーは自動的に [IsPrimary](#) の値が 0 (false) に設定されます。

この対応付けにより、API は、オブジェクトとそれらの関係を効率的に管理できます。

## 取引先間のパートナー関係の作成

2つの取引先間にパートナー関係を作成する場合（パートナーオブジェクトを作成して [AccountFromId](#) を指定する場合）、API は自動的に 2 つの [AccountPartner](#) オブジェクトを作成します。一方は順関係、もう一方は逆関係となります。たとえば、「Acme, Inc.」を [AccountFromId](#) として、「Acme Consulting」を [AccountToId](#) として作成すると、API は自動的に次のような 2 つの [AccountPartner](#) オブジェクトを自動的に作成します。

- 「Acme, Inc.」を [AccountFromId](#) と、「Acme Consulting」を [AccountToId](#) とする順関係 [AccountPartner](#)。
- 「Acme Consulting」を [AccountFromId](#) と、「Acme, Inc.」を [AccountToId](#) とする逆関係 [AccountPartner](#)。
- 逆関係 [AccountPartner](#) の [Role](#) 項目の値は、順関係 [AccountPartner](#) の [Role](#) 項目の値に関連する [PartnerRole](#) オブジェクトの [ReverseRole](#) 値に設定されます。

この対応付けにより、API は、オブジェクトとそれらの関係を効率的に管理できます。

## PartnerNetworkConnection

Salesforce 組織間の Salesforce to Salesforce の接続を表します。

### サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
ConnectionName	string	Filter idLookup	接続を説明する名前。最大 225 文字です。
ContactId	reference	Filter Nillable	この接続に関連する取引先責任者。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
AccountId	reference	Filter Nillable	この接続と関連付けられた取引先の ID。
PrimaryContactId	reference	Filter	この接続と関連付けられたユーザの ID。
ConnectionStatus	picklist	Filter	値の選択リスト。選択リストには次の値が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>招待送信済み</li> <li>招待送信済み: 決定保留</li> <li>招待受信済み</li> <li>有効</li> <li>招待辞退</li> <li>無効</li> </ul>
ResponseDate	dateTime	Filter	接続が承認された、または却下された日付と時間。
CreatedDate	dateTime	Filter	接続が作成された日付と時間。

## 使用方法

Salesforce to Salesforce の接続を表します。このオブジェクトは他の組織と共有されたリード、商談、取引先、取引先責任者、ToDo、商談商品、およびカスタムオブジェクトに参照され、レコードを共有する接続を指定します。組織が Salesforce to Salesforce を有効化していない場合、PartnerNetworkConnection オブジェクトを使用できず、API をそのオブジェクトにアクセスできません。

## PartnerNetworkRecordConnection

Salesforce to Salesforce を使用して Salesforce.com 組織間で共有されているレコードを表します。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`

## 項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
ConnectionId	reference	Create Filter Nillable	必須項目。レコードを共有している接続の ID。
EndDate	dateTime	Filter Nillable	レコードの共有が終了した日付。
LocalRecordID	reference	Create Filter	必須項目。共有レコードの ID。
ParentRecordID	reference	Create Filter Nillable	共有レコードの親レコードの ID。
PartnerRecordID	reference	Filter Nillable	接続の組織の共有レコードの ID。
RelatedRecords	string	Create Filter Nillable	子レコードが親レコードを共有する API のコンマ区切り形式リスト。
SendClosedTasks	boolean	Create Defaulted on create Filter	共有レコードに関連する完了した ToDo を送信します。
SendEmails	boolean	Create Defaulted on create Filter	レコードを送信した接続の担当者に通知する電子メールを送信します。レコードの新たな受信者が電子メール通知を受け取ります。
SendOpenTasks	boolean	Create Defaulted on create Filter	共有レコードに関連する未完了の ToDo を送信します。
StartDate	dateTime	Filter Nillable	共有レコードが受け取られた日付。

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
Status	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	<p>共有レコードの状況。以下のいずれかの値になります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有効 (受信済み)</li> <li>有効 (送信済み)</li> <li>接続済み</li> <li>無効</li> <li>無効 (変換済み)</li> <li>無効 (削除済み)</li> <li>待機中 (送信済み)</li> </ul>

## 使用方法

PartnerNetworkRecordConnection に `create()` を実行すると、レコードを接続に送信します。



メモ: 接続が登録されていないオブジェクトからレコードを送信すると、「パートナー ネットワークの状態が無効」エラーが発生します。

PartnerNetworkRecordConnection に `delete()` を実行すると、レコードを接続に送信します。

- レコードを共有するには、`LocalRecordID` 項目および `ConnectionId` 項目を使用します。
- 親レコードの子を共有するには、`LocalRecordID` 項目、`ConnectionId` 項目および `ParentRecordID` 項目を使用します。
- 親レコードの子およびその子レコードを共有するには、`LocalRecordID` 項目、`ConnectionId` 項目、`ParentRecordID` 項目、および `RelatedRecords` 項目を使用します。

組織が Salesforce to Salesforce を有効化していない場合、PartnerNetworkRecordConnection オブジェクトを使用できず、API をそのオブジェクトにアクセスできません。

## サンプルコード—Apex

次の例では、レコードの送信方法を示しています。

```
List<PartnerNetworkConnection> connMap = new List<PartnerNetworkConnection>([select Id, ConnectionStatus, ConnectionName from PartnerNetworkConnection where ConnectionStatus = 'Accepted']); for(PartnerNetworkConnection network : connMap) { PartnerNetworkRecordConnection newrecord = new PartnerNetworkRecordConnection();
newrecord.ConnectionId = network.Id; newrecord.LocalRecordId = accountId;
newrecord.RelatedRecords = 'Contact,Opportunity,Orders__c'; newrecord.SendClosedTasks = true; newrecord.SendOpenTasks = true; newrecord.SendEmails = true;
insert newrecord; }
```

次の例では、レコードの共有方法を示しています。

```
List<PartnerNetworkRecordConnection> recordConns = new List<PartnerNetworkRecordConnection>([select Id, Status, ConnectionId, LocalRecordId from PartnerNetworkRecordConnection where LocalRecordId in :accounts]);
```

```
for(PartnerNetworkRecordConnection recordConn : recordConns) {  
    if(recordConn.Status.equalsIgnoreCase('Sent')){ //取引先が接続されています。 - outbound delete  
        nets; } }
```

## PartnerRole

コンサルタントや納入業者など、取引先パートナーのロールを表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
MasterLabel	string	Filter Nillable	パートナーロール値の主ラベル。この表示値は、翻訳されない内部ラベルです。最大 255 文字です。
ReverseRole	picklist	Filter Nillable	このパートナーロールに対応する先方から見た役割の名前。たとえば、ロールが「下請け」の場合、先方から見た役割は、「元請け」となります。ユーザインターフェースでは、パートナーロールを取引先に割り当てるとき、先方から見たパートナーリレーションが作成され、両方の取引先が相手をパートナーとして表示します。
SortOrder	int	Filter Nillable	パートナーロールの選択リストのこの値を並べ替えるために使用する番号。以前のパートナーロールの値が一部削除されている場合があるため、これらの番号が連続的である保証はありません。

使用方法

このオブジェクトはパートナーロールの選択リストの値を表します。パートナーロールの選択リストには、対応する先方から見た役割など、パートナーロールに関する追加情報が表示されています。クライアントアプリケーションはこのオブジェクトの `query()` コールを起動し、パートナーロールの選択リストの値のセットを取得できます。また、その情報を `PartnerRole` オブジェクトの処理に使用し、指定されたパートナーロールのさらに詳細な情報を取得できます。たとえば、アプリケーションは指定されたパートナーロール値の先方から見た役割と、関連付けられた `PartnerRole` オブジェクトの `ReverseRole` プロパティの値を指定できます。

これらのオブジェクトは、API の参照専用です。十分な権限を使用して、クライアントアプリケーションは、このオブジェクトに `query()` コールおよび `describeSObjects()` コールを起動できます。

## Period

会計期間を表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

カスタマーportalユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
EndDate	date	Filter	会計期間の最終日。
IsForecastPeriod	Boolean	Defaulted on create Filter	期間がカスタマイザブル売上予測に関連付けられているか( <code>true</code> )か、そうでない( <code>false</code> )かを示します。
Number	int	Filter Nillable	会計年度の四半期または月のラベル付け方法が採番である場合、この項目は行に関連する番号を示します。
PeriodLabel	picklist	Filter Nillable	会計年度の月でカスタム名を使用する場合、この項目には、タイプ「月」の行の適切な名前を指定します。
QuarterLabel	picklist	Filter Nillable	会計年度の四半期でカスタム名を使用する場合、この項目には、タイプ「四半期」の行の適切な名前を指定します。
StartDate	date	Filter	会計期間の初日。
Type	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	期間が、月、四半期、週、または年のどれであるかを示します。ラベルは項目値です。

使用方法

こでは、`FiscalYearSettings` に関する参照専用オブジェクトです。

## Pricebook2

組織が販売する商品のリストを記載した価格表を表します。



メモ: このリリースで、価格表は [Pricebook2 オブジェクト](#) で表されます。Pricebook オブジェクトは今後使用できません。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
Description	string	Create Filter Nillable Update	このオブジェクトのテキストによる説明。
IsActive	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	このオブジェクトが有効(true)か有効でない(false)かを示します。無効なオブジェクトは、Salesforce.com ユーザインターフェースの多くの領域で非表示となります。必要に応じて、この項目の値を変更できます。ラベルは有効です。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
IsStandard	Boolean	Defaulted on create Filter	このオブジェクトが組織の標準価格表であるか(true)否か(false)を示します。組織ごとに1つの標準価格表があります。その他の価格表はすべてカスタム価格表となります。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須項目。このオブジェクトの名前。標準価格表のこの項目は、参照専用です。ラベルは価格表です。

### 使用方法

価格表は組織で販売している商品のリスト。

- 各組織には、組織が販売する各商品または各サービスの標準リスト価格または一般的なリスト価格を定義する標準価格表が 1 つずつあります。
- 組織は、ディスカウントの価格表、さまざまなチャネルまたはマーケット向けの価格表、取引先または商談選択のための価格表など、特別な目的で使用できるカスタム価格表を複数指定することができます。クライアントアプリケーションは、カスタム価格表に `create()`、`delete()`、および `update()` を実行できますが、標準価格表に実行できるのは `update()` だけです。
- 一部の組織では、標準価格表だけで十分ですが、より詳細な価格表を設定する必要がある場合、カスタム価格表のリスト価格を設定する場合に、標準価格表を参照できます。

このオブジェクトを使用して、組織で設定されている標準価格表およびカスタム価格表について問い合わせできます。このオブジェクトの一般的な使用方法として、クライアントアプリケーションは、API を介して **PricebookEntry** レコードを設定する場合に使用する有効な **Pricebook2** オブジェクト ID を取得できます。

クライアントアプリケーションは、**PricebookEntry** オブジェクトの次のタスクを実行できます。

- `query()`
- `create()` (標準価格表またはカスタム価格表)
- `update()`
- `delete()`
- `create()` コールまたは `update()` コールの `IsActive` 項目を変更する。

### **PriceBook2、Product2、および PricebookEntry の関係**

API では次のようにになります。

- 価格表は **Pricebook2** オブジェクトに表されます (**Pricebook** オブジェクトは今後使用できません)。
- 商品は **Product2** オブジェクトで表されます (**Product** オブジェクトはバージョン 8.0 の時点では使用できません)。
- 各価格表には、価格表が関連付けられている商品を指定する、0 またはそれ以上のエントリが指定されています (**PricebookEntry** レコードで表します)。価格表エントリは、特定の通貨で商品を販売する価格を定義します。

これらのオブジェクトは、商談商品機能を有効化した組織にのみ定義されます。組織で商談商品機能を有効化していない場合、**Pricebook2** オブジェクトは `describeGlobal()` コールに表示されず、また API を介してアクセスすることはできません。

**Pricebook2** を削除すると、商品は価格表の **PricebookEntry** を参照し、商品は影響を受けませんが、**Pricebook2** はアーカイブされ、API から使用することはできません。

**Pricebook2** とその他のオブジェクトの関係を示すダイアグラムについては、「商品オブジェクトとスケジュールオブジェクト」を参照してください。

### 価格表の設定

API を使用した価格表の設定プロセスは、通常次のようにになります。

- まず、組織の商品データを **Product2** オブジェクトにロードします (追加する各商品の `create()` をコールします)。
- 各 **Product2** オブジェクトについて、**Product2** オブジェクトを標準 **Pricebook2** にリンクする **PricebookEntry** を作成します。商品の標準価格を指定された通貨で定義してから、カスタム価格表の商品の価格を同じ通貨で定義する必要があります (複数の通貨の使用が有効な場合)。
- カスタム **Pricebook2** を作成します。

4. Pricebook2 オブジェクトを問い合わせて、ID を取得します。
5. それぞれの Pricebook2 について、追加するすべての Product2 について PricebookEntry を作成し、必要に応じてそれぞれの PricebookEntry に一意のプロパティ (UnitPrice や CurrencyIsoCode など) を指定します。

### コードのサンプル

```
//カスタム価格表を作成。 Pricebook2 pb = new Pricebook2(); pb.setName("Custom Pricebook");
pb.setIsActive(true); SaveResult[] saveResults = binding.create(new SObject[]{pb});

// 価格表を新規作成。 Product2 product = new Product2(); product.setIsActive(true);
product.setName("Product"); SaveResult[] saveResults = binding.create(new SObject[]{product});

// 標準価格表に商品を追加。 QueryResult result = binding.query("select Id from Pricebook2 where
isStandard=true"); SObject[] records = result.getRecords(); String stdPbId =
records[0].getId();

// 標準価格表の価格表エントリを作成。 PricebookEntry pbe = new PricebookEntry();
pbe.setPricebook2Id(stdPbId); pbe.setProduct2Id(product.Id); pbe.setIsActive(true); // 複数
の通貨が有効な場合、通貨 ISO コードを設定。 pbe.setCurrencyIsoCode("EUR"); pbe.setUnitPrice(100.);
SaveResult[] saveResults = binding.create(new SObject[]{pbe});

// カスタム価格表の価格表エントリを作成。 PricebookEntry pbe = new PricebookEntry();
pbe.setPricebook2Id(pb.Id); pbe.setProduct2Id(product.Id); pbe.setIsActive(true); // set
currency isocode if multicurrency is enabled pbe.setCurrencyIsoCode("EUR");
pbe.setUnitPrice(100.); SaveResult[] saveResults = binding.create(new SObject[]{pbe});
```

## PricebookEntry

価格表の商品エントリ (Pricebook2 と Product2 の関連) を表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
CurrencyIsoCode	picklist	Filter Restricted picklist	マルチ通貨機能を有効化している組織にのみ使用できます。組織で使用できる通貨のISO コードが指定されています。
IsActive	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	このオブジェクトが有効(true)か有効でない(false)かを示します。PricebookEntry オブジェクトに <code>delete()</code> を実行できませんが、クライアントアプリケーションはこのフラグを <code>false</code> に設定できます。無効な PricebookEntry オブジェクトは、Salesforce.com ユーザインターフェースの多くの領域で非表示となります。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
			ます。必要に応じて、PricebookEntry オブジェクトのこのフラグを変更できます。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
Name	string	Filter Nillable	PricebookEntry オブジェクトの名前。この参照専用項目は、Product2 オブジェクトの名前項目の値を参照します。ラベルは価格表エントリです。
Pricebook2Id	reference	Create Filter	必須項目。このオブジェクトが関連付けられている Pricebook2 オブジェクトの ID。必須項目この項目を、 <code>create()</code> コールで指定する必要があります。 <code>update()</code> コールでは変更することはできません。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
Product2Id	reference	Create Filter	このオブジェクトが関連付けられている Product2 オブジェクトの ID。必須項目この項目を、 <code>create()</code> コールで指定する必要があります。 <code>update()</code> コールでは変更することはできません。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
ProductCode	string	Filter Nillable	このオブジェクトの商品コード。この参照専用項目は、関連付けられた Product2 の ProductCode 項目の値を参照します。
UnitPrice	currency	Create Filter Update	必須項目。このオブジェクトの単価。 <code>UseStandardPrice</code> が false に設定されている場合にのみ、値を指定できます。ラベルはリスト価格です。
UseStandardPrice	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	このオブジェクトが標準 Pricebook2 オブジェクトで定義された標準価格を使用するか(true)、否か(false)を示します。 <code>true</code> に設定されている場合、 <code>UnitPrice</code> 項目は参照専用で、値は標準価格表で対応する PricebookEntry の <code>UnitPrice</code> の値と同じになります(つまり、PricebookEntry オブジェクトの <code>Pricebook2Id</code> は標準価格表を参照し、 <code>Product2Id</code> および <code>CurrencyIsoCode</code> はこのオブジェクトと同じになります)。標準 Pricebook2 オブジェクトに関連付けられた PricebookEntry オブジェクトについて、この項目を <code>true</code> に設定する必要があります。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、組織の商品 (Product2) と組織の標準価格表、または別の、カスタム定義された価格表 (Pricebook2) との関連を定義します。Pricebook2 に商品の標準価格またはカスタム価格と通貨の組み合わせの PricebookEntry レコードを 1 つ作成します。

クライアントアプリケーションが `create()` をコールする場合、関連付けられた Pricebook2 オブジェクトと Product2 オブジェクトの ID を指定する必要があります。いったん作成されると、クライアントアプリケーションは、これらの ID を更新できます。

このオブジェクトは、商品を機能として有効化している組織にのみ定義されます。組織が商品機能を有効化していない場合、PricebookEntry オブジェクトは `describeGlobal()` コールに表示されず、また、アクセスすることはできません。

商品が参照している PricebookEntry を削除すると、商品は影響を受けませんが、PricebookEntry はアーカイブされ、API から使用することはできません。

商品の標準価格をロードしてから、カスタム価格をロードすることができます。

PricebookEntry とその他のオブジェクトの関係を示すダイアグラムについては、「商品オブジェクトとスケジュールオブジェクト」および「PriceBook2、Product2、および PricebookEntry の関係」を参照してください。

## ProcessInstance

单一およびエンドツーエンドの承認プロセスを表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
Status	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	申請済み、保留、承認済みなど、この承認インスタンスの状況。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
TargetObjectId	reference	Create	承認インスタンスが影響を与えるオブジェクトの ID。
		Filter	
		Update	

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、承認プロセスを作成します。Salesforce.com オンラインヘルプの「承認プロセスの概要」および「承認プロセスの管理」を参照してください。

## ProcessInstanceHistory

この参照専用オブジェクトには、承認プロセスの現在の状況に関する情報 ([ProcessInstance](#)) が含まれています。

### サポートされているコール

`describeGlobal()`、`describeSObject()`、`describeSObjects()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーportalユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
ActorId	reference	Filter	<code>ProcessInstance</code> に現在割り当てられているユーザの ID。
Comments	string	Filter Nullable	<code>ProcessInstance</code> の <code>ProcessInstanceStep</code> のコメント。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した( <code>true</code> )か、移動していない( <code>false</code> )かを示します。ラベルは削除です。
IsPending	Boolean	Defaulted on create Filter	<code>ProcessInstance</code> が保留中であるか( <code>true</code> )否か( <code>false</code> )を示します。
OriginalActorId	reference	Filter	<code>ProcessInstance</code> に本来割り当てていたユーザの ID。
ProcessInstanceId	reference	Filter	<code>ProcessInstance</code> の ID。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
RemindersSent	int	Filter Nillable	送信されたリマインダーの数。デフォルトは、0です。
StepStatus	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	ProcessInstanceStep の現在の状況を示します。
TargetObjectId	reference	Filter Nillable	承認されるオブジェクトの ID。

## 使用方法

このオブジェクトを取得するには、オブジェクトに `describe` コールを発行し、オブジェクトが作成されたあと、各 `ProcessInstance` のクエリ結果を返します。 `query()` は使用できません。

このオブジェクトは、親オブジェクトの項目レベルのセキュリティに影響されます。

## ProcessInstanceStep

承認プロセス (`ProcessInstance`) 中の1ステップを表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
ActorId	reference	Create Filter	この承認ステップに現在割り当てられているユーザの ID。
Comments	string	Create Filter Nillable	最大 4,000 バイトです。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
OriginalActorId	reference	Create Filter	この承認ステップに本来割り当てられているユーザの ID。
ProcessInstanceId	reference	Create Filter	この承認ステップの <a href="#">ProcessInstance</a> の ID。
StepStatus	picklist	Create Filter  Nillable Restricted picklist	保留、承認済みなど、この承認ステップの現在の状況。  承認ステップに全員の承認が必要で、1人の承認者が申請を拒否している場合、その他の承認者のこの項目の値は NoResponse に変更されます。同様に、承認が最初のレスポンスに基づき、承認者が応答した場合、その他の承認者のこの項目の値は NoResponse に変更されます。

## 使用方法

承認プロセス ([ProcessInstance](#)) の新しいステップを作成、問い合わせ、または取得します。

## ProcessInstanceWorkitem

ユーザ処理待ちの承認申請を表します。

サポートされているコール

[query\(\)](#)、[retrieve\(\)](#)

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
ActorId	reference	Create Defaulted on create  Filter  Update	承認申請の承認を現在担当しているユーザの ID。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
OriginalActorId	reference	Create Filter Update	この承認要求が本来割り当てられているユーザのID。
ProcessInstanceId	reference	Create Filter Update	この承認要求に関連する ProcessInstance の ID。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、ユーザ処理待ちの承認申請を管理します。

## Product2

組織で販売している商品を表します。



メモ: 商品は、Product2 オブジェクトによって表されます。Product オブジェクトは今後使用できません。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`、`upsert()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
CanUseQuantitySchedule	Boolean	Defaulted on create Filter	商品に数量のスケジュールが指定されているか(true)そうでないか(false)を示します。ラベルは数量スケジュールの有効です。
CanUseRevenueSchedule	Boolean	Defaulted on create Filter	商品に収益のスケジュールが指定されているか(true)そうでないか(false)を示します。ラベルは収益スケジュールの有効です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
ConnectionReceivedId	reference	Filter Nillable	組織とのレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。
ConnectionSentId	reference	Filter Nillable	このレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。API バージョン 15.0 以降では、ConnectionSentId の項目はサポートされていません。ConnectionSentId 項目は使用できますが、値は Null です。レコードを接続に転送するには、新しい <a href="#">PartnerNetworkRecordConnection</a> を使用します。
CurrencyIsoCode	picklist	Filter Restricted picklist	マルチ通貨機能を有効化している組織にのみ使用できます。組織で使用できる通貨の ISO コードが指定されています。
DefaultPrice	currency	Create Filter Update	このレコードのデフォルト価格。
Description	textarea	Create Filter Nillable Update	このレコードのテキストによる説明。ラベルは商品説明です。
Family	picklist	Filter Nillable	このレコードに関連付けられている商品ファミリの ID。商品ファミリは、Salesforce.com ユーザーインターフェースで選択リストとして設定されます。有効な値のリストを取得するには、 <a href="#">describeSObjects()</a> をコールし、Family 項目に関連付けられた値の <a href="#">DescribeSObjectResult</a> を処理します。ラベルは商品ファミリです。
IsActive	Boolean	Create Defaulted on create Filter	このレコードが有効(true)か有効でない(false)かを示します。無効な Product2s は、Salesforce.com ユーザインターフェースの多くの領域で非表示となります。必要に応じて、Product2 オ

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
		Update	プロジェクトの IsActive フラグを変更できます。ラベルは有効です。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。 ラベルは削除です。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須項目。このレコードのデフォルト名。ラベルは商品名です。
NumberOfQuantityInstallments	int	Filter Nillable	商品に数量スケジュールが指定されている場合、スケジュールの回数。
NumberofRevenueInstallments	int	Filter Nillable	商品に収益スケジュールが指定されている場合、スケジュールの回数。
ProductCode	string	Create Filter Nillable Update	このレコードのデフォルト商品コード。商品コードの命名パターンが組織で定義されます。
QuantityInstallmentPeriod	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	商品に数量スケジュールが指定されている場合、スケジュールにカバーされている時間。
QuantityScheduleType	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	商品に数量スケジュールが指定されている場合、その種類。
RevenueInstallmentPeriod	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	商品に収益スケジュールが指定されている場合、スケジュールにカバーされている期間。
RevenueScheduleType	picklist	Filter Nillable	商品に収益スケジュールが指定されている場合、その種類。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
			Restricted picklist
ConnectionReceivedId	reference Nillable	Filter Nillable	組織とこのレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。
ConnectionSentId	reference	Filter Nillable	このレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。API バージョン 15.0 以降では、ConnectionSentId の項目はサポートされていません。ConnectionSentId 項目は使用できますが、値は Null です。レコードを接続に転送するには、新しい <a href="#">PartnerNetworkRecordConnection</a> を使用します。

## スケジュール項目

このオブジェクトには、スケジュールのみに使用される項目がいくつかあります(収益など)。API は、このオブジェクトの数量スケジュールおよび収益スケジュールをサポートしています。スケジュールは、商品機能およびスケジュール機能が有効化されている組織でのみ使用できます。組織にスケジュール機能がない場合、スケジュール項目は[DescribeSObjectResult](#) に表示されず、項目に `query()`、`create()`、または `update()` を実行できません。

## スケジュール有効化フラグ

スケジュール機能を有効化すると、組織は数量スケジュール、収益スケジュール、またはその両方を有効化するかを指定できます。また、API を使用して `CanUseQuantitySchedule` フラグおよび `CanUseRevenueSchedule` フラグを介して、数量スケジュールおよび収益スケジュールを商品レベルで制御できます。いずれかのフラグの `true` の値は、商品と [OpportunityLineItems](#) に該当するタイプのスケジュールが指定されます。これらのフラグは、`create()` コールまたは `update()` コールを使用して設定できます。

## デフォルトのスケジュール項目

このオブジェクトの残りのスケジュール項目では、デフォルトのスケジュールを定義します。商品の [OpportunityLineItem](#) が作成されると、デフォルトのスケジュール値を使用して [OpportunityLineItemSchedule](#) を作成します。

デフォルトのスケジュール項目では、次の値を使用できます(すべての項目が nillable です)。

項目	有効な値
RevenueScheduleType	Divide、Repeat

項目	有効な値
RevenueInstallmentPeriod	Daily、Weekly、Monthly、Quarterly、Yearly
NumberOfRevenueInstallments	1 から 150 の整数。
QuantityScheduleType	Divide、Repeat
QuantityInstallmentPeriod	Daily、Weekly、Monthly、Quarterly、Yearly
NumberOfQuantityInstallments	1 ～ 150 の整数。

`create()` コールまたは `update()` コールを使用して、スケジュール項目を設定しようとすると、API は、項目間の統合チェックを適用します。統合の要件は次のとおりです。

- スケジュールタイプが空白である場合、期間と回数は空白でなければなりません。
- スケジュールタイプが何らかの値に設定されている場合、期間と回数は nil 以外でなければなりません。

統合チェックに失敗した `create()` コールまたは `update()` コールは、エラーで拒否されます。

これらのデフォルトのスケジュール項目および [CanUseQuantitySchedule](#) および [CanUseRevenueSchedule](#) は、制限月選択リスト項目で、組織にスケジュール機能が有効化されている場合にのみ使用できます。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、組織のデフォルトの商品情報を定義します。このオブジェクトは、[PricebookEntry](#) オブジェクトによる [Pricebook2](#) オブジェクトとの参照によって関連付けられています。価格表エントリと同じ商品を、別の価格表に記載することができます。実際、同じ価格表に同じ商品を複数回（個別の [PricebookEntry](#) レコードとして）、さまざまな通貨で記載しています。同じ価格表内の商品に対し、指定された通貨の価格は 1 つだけ指定できます。カスタム価格表で使用するには、すべての標準価格を標準価格表に価格表エントリとして追加する必要があります。

組織に設定された商品を問い合わせることができます。たとえば、クライアントアプリケーションは API を介して [PricebookEntry](#) レコードを設定する場合に使用する有効な商品 ID を取得できます。クライアントアプリケーションは、[PricebookEntry](#) オブジェクトの次のタスクを実行できます。

- `query()`
- `create()` (標準価格表またはカスタム価格表)
- `update()`
- `delete()`
- `create()` コールまたは `update()` コールの `IsActive` 項目を変更する。

このオブジェクトは、商品を機能として有効化している組織にのみ定義されます。組織に商品機能が指定されていない場合、このオブジェクトは `describeGlobal()` コールに表れず、このオブジェクトとともに `describeSObjects()` または `query()` を使用することができません。

API を使用して商品を削除しようとしているが、その商品を使用する組織がある場合、削除は失敗します。回避策として、Salesforce.com ユーザインターフェースで商品を削除し、オプションで商品をアーカイブします。

[Product2](#) とその他のオブジェクトの関係を示すダイアグラムについては、「[商品オブジェクトとスケジュールオブジェクト](#)」および「[PriceBook2、Product2、および PricebookEntry の関係](#)」を参照してください。



メモ: Spring '09 では、子の商談商品やスケジュールに対する更新により親レコードが更新されると、商談と商談商品のワークフロールール、入力規則、および Apex トリガが実行されます。つまり、親レコードに対する更新があるときには、カスタムアプリケーションロジックを強制して、データの品質の高さと組織のビジネスポリシー準拠を保証します。

デフォルトでは、Spring '09 リリース以降にお申し込みをいただいたすべての組織で、この動作が行われます。2009 年 3 月から、salesforce.com は、商談の新規保存方式を段階的に進めていきます。利用可能になると、[重要な更新] ページに更新が表示されます。更新は、現在次に示すカスタマイズを利用していな組織に対して自動的に有効化されます。この場合、お客様には、自動有効化日前に更新を検討して更新の有効化に必要な処理を行っていただく必要があります。

- 商談 金額
- 商談 数量
- 商談商品 合計金額
- 商談商品 単価
- 商談商品 数量
- いずれかの商談積み上げ集計項目

この変更は、新規商談の保存動作の更新が組織に有効化されると、API のすべてのバージョンに有効となります。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「Spring '09 商談の新規保存方式とは?」を参照してください。

## Profile

情報の問い合わせ、追加、更新または削除など、さまざまな操作を実行する一連の権限を定義するプロファイルを表します。

Salesforce.com オンラインヘルプの「プロファイルの管理」および「プロファイルのユーザ権限」を参照してください。

サポートされているコール

`update()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	有効な値
Name	string	Filter idLookup Update	プロファイルの名前。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	有効な値
PermissionPermissionName	Boolean	Update	各権限の 1 つの項目。true の場合、このプロファイルに割り当てられたユーザには、指定された権限が割り当てられています。項目数は、組織の権限およびライセンスタイプによって異なります。
UserLicenseID	ID	Filter Nillable	このプロファイルに関連する UserLicense の ID。
UserType	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	<p>ユーザライセンスのカテゴリ。UserType はそれぞれ、1つまたは複数の UserLicense に関連付けられます。UserLicense はそれぞれ、1つまたは複数のプロファイルに関連付けられます。API versions 10.0 以降で利用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Standard: Salesforce.com ユーザライセンス。このユーザタイプには、Salesforce.com Platform と Salesforce.com Platform One ユーザライセンスが含まれます。ラベルは標準です。</li> <li>PowerPartner: ユーザがパートナーであり、パートナーportalでアプリケーションにアクセスするため、アクセス権限が制限されている PRM ユーザ。ラベルはパートナーです。</li> <li>CSPLitePortal: ユーザが組織の顧客であり、カスタマーportalでアプリケーションにアクセスするため、アクセス権限が制限されているユーザ。ラベルは大容量portalです。</li> <li>CustomerSuccess: ユーザが組織の顧客であり、カスタマーportalでアプリケーションにアクセスするため、アクセス権限が制限されているユーザ。ラベルはカスタマーportalユーザです。</li> <li>PowerCustomerSuccess: ユーザが組織の顧客であり、カスタマーportalでアプリケーションにアクセスするため、アクセス権限が制限されているユーザ。ラベルはカスタマーportalマネージャーです。</li> </ul> <p>このライセンスタイプのユーザは、直接所有するデータ、またはカスタマーportalロール階層の下位のユーザが所有または共有するデータを参照および編集できます。</p> <p>UserType は LicenseType を置き換えますが、API version 10.0 では使用できません。API versions 8.0 および 9.0 では、LicenseType は次の有効な値を指定して使用できます。</p>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	有効な値
			<ul style="list-style-type: none"><li>• AUL: Force.com ユーザライセンス。ラベルは<b>Apex Platform</b>です。</li><li>• AUL1: 1人のユーザのみを指定した Force.com ユーザライセンスラベルは<b>Apex Platform One</b>です。</li><li>• Salesforce.com: Salesforce.com ユーザライセンス。ラベルは <b>Salesforce</b> です。</li><li>• PackageManager: Force.com AppExchange の管理パッケージを作成し、使用できるユーザ。ラベルはパッケージマネージャーです。</li><li>• PRM: ユーザがパートナーであり、通常パートナーポータルでアプリケーションにアクセスするため、アクセス権限が制限されているユーザ。ラベルはパートナーです。</li><li>• CustomerUser: ユーザが組織の顧客であり、カスタマーportalでアプリケーションにアクセスするため、アクセス権限が制限されているユーザ。ラベルはカスタマーポータルユーザです。</li><li>• CustomerManager: ユーザが組織の顧客であり、カスタマーportalでアプリケーションにアクセスするため、アクセス権限が制限されているユーザ。ラベルはカスタマーポータルマネージャーです。</li></ul> <p>このライセンスタイプのユーザは、直接所有するデータ、またはカスタマーポータルロール階層の下位のユーザが所有または共有するデータを参照および編集できます。</p>

## 使用方法

プロファイルオブジェクトを使用して、組織で現在設定されているプロファイルのセットに `query()` を実行できます。クライアントアプリケーションはプロファイルオブジェクトを使用して、APIを介してユーザを問い合わせまたは変更する場合に使用する有効なプロファイルIDを取得することができます。クライアントアプリケーションは、プロファイルに `query()`、`update()`、および `delete()` を実行できます。

Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して、プロファイルを使用して、特定のプールからユーザライセンスを割り当てることができます (Force.com Platform ユーザライセンスまたは Salesforce.com ユーザライセンスなど)。ユーザがさまざまなライセンスタイプのプロファイルに割り当てられている場合、古いライセンスタイプのプールで使用できるライセンスの数が増え、ユーザごとのライセンスが変更され、新しいライセンスタイプのプールと同じ数だけ少なくなります。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

## QuantityForecast

数量ベースの売上予測を表します。

API では、収益ベースの売上予測も使用できます。『RevenueForecast』を参照してください。

サポートされているコール

`create()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

- 「すべてのデータの参照」権限が必要です。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目の データ型	項目のプ ロパティ	Description
Closed	double	Filter Nillable	参照のみ。この期間内に完了した商談または商談商品のロールアップ。
Commit	currency	Filter Nillable	所有者の達成予測の合計。
CommitComment	string	Filter Nillable Update	参照のみ。所有者が、売上予測編集ページの【調整後の合計】リンクから【達成予測】を編集したときに入力したコメント。
CommitOverride	double	Filter Nillable Update	参照のみ。所有者の【私の達成予測】の合計についての所有者のオーバーライド。
DefaultRollupCommit	double	Filter Nillable	参照のみ。ロール階層の下位のユーザの商談および売上予測レベルのオーバーライドなど、所有者の標準【達成予測】ロールアップ。
DefaultRollupUpside	double	Filter Nillable	参照のみ。ロール階層の下位のユーザの商談および売上予測レベルのオーバーライドなど、所有者の標準【最善達成予測】ロールアップ。
InvalidationDate	dateTime	Filter Nillable	参照のみ。空白でない場合、計算済み(見積もり)金額が最新ではないことを表す【売上予測分類】項目のロールアップ数を示します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
ManagerChoiceCommit	picklist	Filter Nillable Restricted picklist Update	<p>参照のみ。達成予測に関する管理者の選択。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>DefaultRollup: 所有者の売上予測に管理者のデフォルトの達成予測ロールアップを使用して、管理者の商談売上予測のオーバーライドを反映します。</li> <li>AcceptForecast (デフォルト選択): 売上予測所有者の【調整後の合計】達成予測金額を承認します。オーバーライドである場合もオーバーライドでない場合もあります。</li> <li>ManagerManualOverride: 管理者の手動によるオーバーライドを使用します。</li> <li>OpportunityOnlyRollup: 商談売上予測のオーバーライドを含む商談ロールアップを使用しますが、売上予測レベル ([調整済み合計]) のオーバーライドは除きます。</li> </ul>
ManagerChoiceUpside	picklist	Filter Nillable Restricted picklist Update	<p>参照のみ。最善達成予測に関する管理者の選択。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>DefaultRollup: 所有者の売上予測に管理者のデフォルトの最善達成予測ロールアップを使用して、管理者の商談売上予測のオーバーライドを反映します。</li> <li>AcceptForecast (デフォルト選択): 売上予測所有者の【調整後の合計】最善達成予測金額を承認します。オーバーライドである場合もオーバーライドでない場合もあります。</li> <li>ManagerManualOverride: 管理者の手動によるオーバーライドを使用します。</li> <li>OpportunityOnlyRollup: 商談売上予測のオーバーライドを含む商談ロールアップを使用しますが、売上予測レベル ([調整済み合計]) のオーバーライドは除きます。</li> </ul>
ManagerClosed	double	Filter Nillable	参照のみ。管理者によって作成された商談または商談の商品オーバーライドなど、所有者の売上予測に対するマネージャが完了した合計金額
ManagerCommit	currency	Filter Nillable	管理者の達成予測の合計。
ManagerCommitOverride	double	Filter Nillable Update	参照のみ。売上予測所有者の【達成予測】の合計についての管理者の手動によるオーバーライド。オーバーライドポップアップウィンドウのオプションを表します。そのオプションを使用して、

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
			管理者は直接レポートの売上予測数のロールアップ方法を選択できます。
ManagerDefaultRollupCommit	double	Filter Nillable	参照のみ。売上予測所有者に対する管理者の標準 [達成予測] のロールアップ。オーバーライドポップアップウィンドウのオプションを表します。そのオプションを使用して、管理者は直接レポートの売上予測数のロールアップ方法を選択できます。
ManagerDefaultRollupUpside	double	Filter Nillable	参照のみ。売上予測所有者に対する管理者の標準 [最善達成予測] のロールアップ。オーバーライドポップアップウィンドウのオプションを表します。そのオプションを使用して、管理者は直接レポートの売上予測数のロールアップ方法を選択できます。
ManagerId	reference	Filter Nillable	参照のみ。この売上予測を所有するユーザの直接管理者のID。IDについての詳細は、「 <a href="#">IDデータ型</a> 」を参照してください
ManagerOpportunityRollupCommit	double	Filter Nillable	参照のみ。売上予測オーバーライドなど、売上予測所有者の商談レベル [達成予測] ロールアップについての管理者の参照。オーバーライドポップアップウィンドウのオプションを表します。そのオプションを使用して、管理者は直接レポートの売上予測数のロールアップ方法を選択できます。
ManagerOpportunityRollupUpside	double	Filter Nillable	参照のみ。売上予測オーバーライドなど、売上予測所有者の商談レベル [最善達成予測] ロールアップについての管理者の参照。オーバーライドポップアップウィンドウのオプションを表します。そのオプションを使用して、管理者は直接レポートの売上予測数のロールアップ方法を選択できます。
ManagerPipeline	double	Filter Nillable	管理者によって作成された商談または商談の商品オーバーライドなど、所有者の売上予測に対する管理者のパイプライン合計金額。
ManagerUpside	currency	Filter Nillable	管理者の最善達成予測の合計。
ManagerUpsideOverride	double	Filter Nillable Update	売上予測所有者の [最善達成予測] の合計についての管理者の手動によるオーバーライド。オーバーライドポップアップウィンドウのオプションを表します。そのオプションを使用して、管

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
			管理者は直接レポートの売上予測数のロールアップ方法を選択できます。
OpportunityRollupClosed	double	Filter Nillable	所有者の商談のみの、所有者が完了した合計。
OpportunityRollupCommit	double	Filter Nillable	所有者の商談のみの、所有者の達成予測合計。
OpportunityRollupPipeline	double	Filter Nillable	所有者の商談のみの、所有者のパイプライン合計。
OpportunityRollupUpside	double	Filter Nillable	所有者の商談のみの、所有者の最善達成予測合計。
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter	この売上予測を所有する <a href="#">ユーザ</a> の ID。create には必須です。
PeriodId	reference	Filter Nillable	<a href="#">StartDate</a> を含む期間の ID。
Pipeline	double	Filter Nillable	所有者の商談など、ロール階層の部下からの合計パイプラインのロールアップ。
ProductFamily	picklist	Create Filter Nillable	商品ファミリ選択リストで選択された値。[設定] ▶ [カスタマイズ] ▶ [商品] ▶ [項目] で設定できます。[設定] ▶ [カスタマイズ] ▶ [売上予測] ▶ [設定] で売上予測タイプとして「商品ファミリを使用」を選択した場合、この項目が関連します。商品ファミリで売上予測していない場合、または売上予測が商品ファミリに関連付けられていない商談を表す場合、この項目は空白となります。create には必須です。
目標	double	Create Filter Nillable Update	期間の目標金額。 <a href="#">create()</a> 、 <a href="#">update()</a> 、 <a href="#">upsert()</a> 、および <a href="#">delete()</a> を実行できます。「すべてのデータの参照」権限および「ユーザの管理」権限が必要です。create には必須です。
StartDate	date	Create Filter Nillable	この売上予測の開始日。変更がある場合、この日付が含まれている期間の ID が <a href="#">PeriodId</a> 項目に入力されます。ない場合は新しい期間が作成されます。create には必須です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
Upside	currency	Filter Nillable	所有者の最善達成予測の合計。
UpsideComment	string	Filter Nillable Update	所有者が最善達成予測の合計を編集した場合に入力されたコメント。
UpsideOverride	double	Filter Nillable Update	参照のみ。所有者の【最善達成予測】の合計についての所有者のオーバーライド。

## 使用方法

このオブジェクトを問い合わせて、数量に基づいてカスタマイズブル売上予測をサポートします。

項目 [Quota](#) を更新できます。つまり、Salesforce.com ユーザインターフェースで 1 つずつ更新するのではなく、販売ユーザの目標を一括更新できます。[Quota](#) 編集すると、Salesforce.com ユーザインターフェースで 1 つずつ更新するのではなく、販売ユーザの目標を一括更新できます。[Quota](#) の編集には、「すべてのデータの参照」権限および「ユーザの管理」権限が必要です。

ロールアップ項目は、売上予測所有者、またはロール階層内の売上予測所有者の部下のいずれかによる商談または商談商品のオーバーライドを反映します。また、管理者ロールアップ項目には、ロール階層内の売上予測所有者の直接の管理者によるオーバーライドが含まれています。

一部のロールアップ項目は、売上予測レベル(調整後の合計)オーバーライドを無視しますが、所有者または管理者が参照できる商談売上予測のオーバーライドは無視されません。

## QuantityForecastHistory

Salesforce.com ユーザインターフェースで送信された(保存された)数量ベースの売上予測についての履歴情報を表します。

### サポートされているコール

[query\(\)](#)、[retrieve\(\)](#)、[getDeleted\(\)](#)、[getUpdated\(\)](#)、[describeSObjects\(\)](#)

### 特別なアクセスルール

- 「すべてのデータの参照」権限が必要です。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
Closed	currency	Filter Nillable	売上予測の完了金額。
Commit	currency	Filter Nillable	売上予測の達成予測金額。
CommitComments	string	Filter Nillable	達成予測値についてのコメント。
CommitOverridden	Boolean	Defaulted on create Filter	達成予測値がオーバーライドされたか(true)されないか(false)を示します。
CurrencyIsoCode	picklist	Filter Restricted picklist	マルチ通貨機能を有効化している組織にのみ使用できます。組織で使用できる通貨のISO コードが指定されています。
ForecastOverrideId	reference	Filter	関連付けられた売上予測オーバーライドの ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してくださいラベルは収益売上予測 IDです。
Pipeline	currency	Filter Nillable	売上予測のパイプライン金額。
Quota	currency	Filter Nillable	売上予測の目標金額。
Upside	currency	Filter Nillable	売上予測の最善達成予測金額。
UpsideComments	string	Filter Nillable	アップサイド値についてのコメント。
UpsideOverridden	Boolean	Defaulted on create Filter	アップサイド値がオーバーライドされたか(true)されないか(false)を示します。

## 使用方法

これは、カスタマイザブル売上予測に固有の参照専用オブジェクトです。

ユーザが Salesforce.com ユーザインターフェースで収益ベースの売上予測を送信すると、新しいレコードが作成されます。同じ売上予測が再送信されて場合、追加のレコードが追加されます。レコードの [CreatedDate](#) は、

売上予測が送信された日付に反映されます。カスタマイズブル売上予測の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。このオブジェクトは、親オブジェクトの項目レベルのセキュリティに影響されます。

## Question

ユーザが参照し、回答できるAnswersコミュニティの質問を表します。



メモ: [Answers] は、現在パイロットプログラムで使用可能です。Answers 機能の有効化については、salesforce.com までお問い合わせください。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`、`upsert()`

項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
BestReplyId	reference	Filter Nillable Update	この質問に対する最良の回答であると識別された返信の ID。質問の最良の回答を識別するには、Salesforce.com ユーザインターフェースを使用する必要があります。
Body	textarea	Create Nillable Update	質問の説明。
CommunityId	reference	Create Filter	質問に関連付けられているコミュニティの ID。質問が作成されると、その質問に関連付けられたコミュニティ ID を変更できません。
LastReplyDate	dateTime	Filter Nillable	最後の返信(子 Reply オブジェクト)が投稿された日付と時間。
LastReplyId	reference	Filter Nillable	参照のみ。最後の返信(子 Reply オブジェクト)の ID。
NumReplies	int	Filter Nillable	ユーザが質間に送信した(子 Reply オブジェクト)の数。
Title	string	Create Filter Update	質問の記述的なタイトル。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、コミュニティの質問を追跡します。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「Answersの概要」を参照してください。

## QueueObject

キュー Group と、カスタムオブジェクトなど、キューに関連付けられた sObject タイプとの対応付けを表します。

### サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
QueueId	reference	Create Filter	キューの ID。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
SObjectType	picklist	Create Filter	<code>QueueId</code> で指定されたキューに関連付けることができるオブジェクトタイプのリスト。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、キューと、カスタムオブジェクトなど、キュー関連付けることができる sObject を関連付けます。

キューは、Type が Queue である グループ です。

## RecordType

レコードタイプを表します。Salesforce.com オンラインヘルプの「レコードタイプの管理」を参照してください。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
BusinessProcessId	reference	Create Filter Nullable Update	必須項目。関連付けられたBusinessProcess の ID。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
Description	string	Create Filter Nullable Update	このレコードの説明。最大 255 文字です。
DeveloperName	string	Create Filter Nullable Update	必須項目。API のオブジェクトの一意の名前。この名前は、アンダースコアと英数字のみを含み、組織内で一意の名前にする必要があります。最初は文字であること、スペースは使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。管理パッケージで、この項目を使用することにより、パッケージインストール時の名前の競合を回避します。この項目を使用して、開発者は管理パッケージのオブジェクト名を変更し、変更は登録者の組織で反映されます。ラベルはレコードタイプ名です。
IsActive	Boolean	Defaulted on create Filter Update	このレコードが有効(true)か有効でない(false)かを示します。有効なレコードタイプのみをレコードに適用できます。ラベルは有効です。
IsPersonType	Boolean	Defaulted on create Filter	このレコードが PersonAccount としてしていされているか(true)、否か(false)を示します。組織が個人取引先機能を有効化している場合にのみ参照可能です。個人取引先の詳細は、「 <a href="#">個人取引先のレコードタイプ</a> 」および Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須項目。Salesforce.com ユーザインターフェースのレコードタイプのラベル。最大 80 文字です。ラベルは名前です。
NamespacePrefix	string	Filter Nullable	このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
			<p>織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。</p> <p><i>namespacePrefix</i> <i>_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。</p> <p>名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</li> <li>Developer Edition 組織でない場合、<i>NamespacePrefix</i> は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li> </ul> <p>ログインしたユーザに「アプリケーションのカスタマイズ」権限が付与されていない場合、この項目にアクセスできません。</p>
SObjectType	<a href="#">picklist</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Restricted picklist</a>	カスタムオブジェクトなど、このレコードタイプが適用されるオブジェクト。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、[プロファイル](#)に基づいて、さまざまなユーザにさまざまな [BusinessProcess](#) や、選択リスト値のサブセットを提供します。クライアントアプリケーションは、[RecordType](#) オブジェクトに、[describeSObjects\(\)](#) コールおよび [query\(\)](#) コールを起動できます。

[RecordTypeId](#) 項目を持つオブジェクトは、[取引先](#)、[キャンペーン](#)、[CampaignMember](#)、[ケース](#)、[取引先責任者](#)、[契約](#)、[リード](#)、[商談](#)、および[ソリューション](#)です。カスタムオブジェクトもサポートされています。クライアントアプリケーションは、これらのオブジェクトに関連する有効なレコードタイプ ID を指定して、これらのオブジェクトに[create\(\)](#) コールまたは [update\(\)](#) コールのこの項目を設定できます。



メモ: [CampaignMember](#) オブジェクトの [RecordTypeId](#) 項目に [create\(\)](#) または [update\(\)](#) を実行できません。 [キャンペーン](#) の [CampaignMemberRecordTypeId](#) 項目を使用して、[CampaignMember](#) レコードタイプを設定します。

クライアントアプリケーションは、RecordType オブジェクトの `query()` をコールして、指定されたオブジェクトの有効なレコードタイプ ID のリストを取得できます。詳細は、「[RecordTypeId](#)」を参照してください。

## RecordTypeLocalization

組織でトランスレーションワークベンチを使用できる場合、RecordTypeLocalization オブジェクトは、レコードタイプのラベルの翻訳を行います。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

特別なアクセスルール

- 組織は Professional、Enterprise、Developer、または Unlimited Edition を使用し、トランスレーションワークベンチを使用できる必要があります。
- このオブジェクトを表示するには、「設定・定義を参照する」権限が割り当てられている必要があります。

項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
Language	string	Create Filter Nillable Restricted picklist	この翻訳ラベルの言語。
NamespacePrefix	string	Filter Nillable	このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。 <i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。 名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、</li></ul>

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
			<p>パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li> </ul>
ParentId	reference	Create Filter Nillable	翻訳されているラベルに関連付けられた RecordType の ID。
Value	string	Create Filter Nillable Update	レコードタイプの実際に翻訳されたラベル。ラベルは翻訳です。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、レコードタイプのラベルを、Salesforce.com でサポートされているさまざまな言語に翻訳します。

## Reply

Answers コミュニティの質問にユーザが送信した返信を表します。



メモ: [Answers] は、現在パイロットプログラムで使用可能です。Answers 機能の有効化については、salesforce.com までお問い合わせください。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`、`upsert()`

## 項目

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
Body	textarea	Create Update	返信の本文。

項目	フィールドのデータ型	項目のプロパティ	説明
DownVotes	int	Filter Nillable	返信に対する反対投票の合計数。
Name	string	Filter idLookup	返信を作成すると、Name 項目には返信の Body 項目が省略されたプレーンテキストが自動的に設定されます。
QuestionId	reference	CreateFilter	返信が作成された質問の ID。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
UpVotes	int	Filter Nillable	返信に対する賛成投票の合計数。
VoteTotal	double	Filter Nillable	賛成投票および反対投票を含む、返信に対するすべての投票の合計数。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、特定の質問に対する返信を追跡します。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「Answers 概要」を参照してください。

## RevenueForecast

収益ベースの売上予測を表します。

API では、数量ベースの売上予測も使用できます。「QuantityForecast」を参照してください。

サポートされているコール

`create()`、`create()`、`query()`、`retrieve()`、`update()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`upsert()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
Closed	currency	Create Filter	参照のみ。この期間内に終了した商談または商談商品のロールアップ。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
Commit	currency	Filter Nillable	所有者の達成予測の合計。
CommitComment	string	Filter Nillable Update	参照のみ。所有者が、売上予測編集ページの [調整後の合計] リンクから [達成予測] を編集したときに入力したコメント。
CommitOverride	currency	Filter Nillable Update	参照のみ。所有者の [私の達成予測] の合計についての所有者のオーバーライド。
CurrencyIsoCode	picklist	Filter Restricted picklist Update	マルチ通貨機能を有効化している組織にのみ使用できます。組織で使用できる通貨の ISO コードが指定されています。この項目および Quota のみに <code>update()</code> および <code>upsert()</code> を使用できます。
DefaultRollupCommit	currency	Filter Nillable	参照のみ。ロール階層の下位のユーザの商談および売上予測レベルのオーバーライドなど、所有者の標準 [達成予測] ロールアップ。
DefaultRollupUpside	currency	Filter Nillable	参照のみ。ロール階層の下位のユーザの商談および売上予測レベルのオーバーライドなど、所有者の標準 [最善達成予測] ロールアップ。
InvalidationDate	dateTime	Filter Nillable	参照のみ。空白でない場合、計算済み(見積もり)金額が最新ではないことを表す [売上予測分類] 項目のロールアップ数を示します。
ManagerChoiceCommit	picklist	Filter Nillable Restricted picklist Update	参照のみ。達成予測に関する管理者の選択。 <ul style="list-style-type: none"><li>DefaultRollup: 所有者の売上予測に管理者のデフォルトの達成予測ロールアップを使用して、管理者の商談売上予測のオーバーライドを反映します。</li><li>AcceptForecast (デフォルト選択): 売上予測所有者の [調整後の合計] 達成予測金額を承認します。オーバーライドである場合もオーバーライドでない場合もあります。</li><li>ManagerManualOverride: 管理者の手動によるオーバーライドを使用します。</li><li>OpportunityOnlyRollup: 商談売上予測のオーバーライドを含む商談ロールアップを使用しますが、売上予測レベル ([調整済み合計]) のオーバーライドは除きます。</li></ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
ManagerChoiceUpside	picklist	Filter Nillable Restricted picklist Update	<p>参照のみ。最善達成予測に関する管理者の選択。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>DefaultRollup: 所有者の売上予測に管理者のデフォルトの最善達成予測ロールアップを使用して、管理者の商談売上予測のオーバーライドを反映します。</li> <li>AcceptForecast (デフォルト選択): 売上予測所有者の[調整後の合計]最善達成予測金額を承認します。オーバーライドである場合もオーバーライドでない場合もあります。</li> <li>ManagerManualOverride: 管理者の手動によるオーバーライドを使用します。</li> <li>OpportunityOnlyRollup: 商談売上予測のオーバーライドを含む商談ロールアップを使用しますが、売上予測レベル([調整済み合計])のオーバーライドは除きます。</li> </ul>
ManagerClosed	currency	Filter Nillable	参照のみ。管理者によって作成された商談または商談の商品オーバーライドなど、所有者の売上予測に対する管理者が完了した合計金額。
ManagerCommit	currency	Filter Nillable	管理者の達成予測の合計。
ManagerCommitOverride	currency	Filter Nillable Update	参照のみ。売上予測所有者の[達成予測]の合計についての管理者の手動によるオーバーライド。オーバーライドポップアップウィンドウのオプションを表します。そのオプションを使用して、管理者は直接レポートの売上予測数のロールアップ方法を選択できます。
ManagerDefaultRollupCommit	currency	Filter Nillable	参照のみ。売上予測所有者に対する管理者の標準[達成予測]のロールアップ。オーバーライドポップアップウィンドウのオプションを表します。そのオプションを使用して、管理者は直接レポートの売上予測数のロールアップ方法を選択できます。
ManagerDefaultRollupUpside	currency	Filter Nillable	参照のみ。売上予測所有者に対する管理者の標準[最善達成予測]のロールアップ。オーバーライドポップアップウィンドウのオプションを表します。そのオプションを使用して、管理者は直接レポートの売上予測数のロールアップ方法を選択できます。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
ManagerId	reference	Filter Nillable	参照のみ。この売上予測を所有するユーザの直接管理者のID。IDについての詳細は、「 <a href="#">IDデータ型</a> 」を参照してください。
ManagerOpportunityRollupCommit	currency	Filter Nillable	売上予測オーバーライドなど、売上予測所有者の商談レベル [達成予測] ロールアップについての管理者の参照。オーバーライドポップアップウィンドウのオプションを表します。そのオプションを使用して、管理者は直接レポートの売上予測数のロールアップ方法を選択できます。
ManagerOpportunityRollupUpside	currency	Filter Nillable	売上予測オーバーライドなど、売上予測所有者の商談レベル [最善達成予測] ロールアップについての管理者の参照。オーバーライドポップアップウィンドウのオプションを表します。そのオプションを使用して、管理者は直接レポートの売上予測数のロールアップ方法を選択できます。
ManagerPipeline	currency	Filter Nillable	管理者によって作成された商談または商談の商品オーバーライドなど、所有者の売上予測に対する管理者のパイプライン合計金額。
ManagerTerritoryId	reference	Filter Nillable	管理者の <a href="#">UserRole</a> または <a href="#">テリトリー</a> の ID。
ManagerUpside	currency	Filter Nillable	管理者の最善達成予測の合計。
ManagerUpsideOverride	currency	Filter Nillable Update	売上予測所有者の [最善達成予測] の合計についての管理者の手動によるオーバーライド。オーバーライドポップアップウィンドウのオプションを表します。そのオプションを使用して、管理者は直接レポートの売上予測数のロールアップ方法を選択できます。
OpportunityRollupClosed	currency	Filter Nillable	所有者の商談のみの、所有者が完了した合計。
OpportunityRollupCommit	currency	Filter Nillable	所有者の商談のみの、所有者の達成予測合計。
OpportunityRollupPipeline	currency	Filter Nillable	所有者の商談のみの、所有者のパイプライン合計。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
OpportunityRollupUpside	currency	Filter Nillable	参照のみ。所有者の商談のみの、所有者の最善達成予測合計。
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter	この売上予測を所有するユーザの ID。create には必須です。
PeriodId	reference	Filter Nillable	StartDate を含む期間の ID。
Pipeline	currency	Filter Nillable	所有者の商談など、ロール階層の部下からの合計パイプラインのロールアップ。
ProductFamily	picklist	Create Filter Nillable	商品ファミリ選択リストで選択された値。[設定]▶[カスタマイズ]▶[商品]▶[項目] で設定できます。[設定]▶[カスタマイズ]▶[売上予測]▶[設定] で売上予測タイプとして「商品ファミリを使用」を選択した場合、この項目が関連します。商品ファミリで売上予測していない場合、または売上予測が商品ファミリに関連付けられていない商談を表す場合、この項目は空白となります。そうでない場合、この項目は create で必須ではありません。
Quota	currency	Create Filter Nillable Update	期間の目標金額。この項目および CurrencyIsoCode, とともに update() and upsert() を使用できますが、目標に対してのみ、create() および delete() を使用できます。「すべてのデータの参照」権限および「ユーザの管理」権限が必要です。create には必須です。
StartDate	date	Create Filter Nillable	この売上予測の開始日。変更がある場合、この日付が含まれている期間の ID が PeriodId 項目に入力されます。ない場合は新しい期間が作成されます。create には必須です。
TerritoryId	reference	Create Filter Nillable	売上予測所有者の UserRole または テリトリーの ID。テリトリー管理が有効化されている場合(この項目が使用できる場合)は create で必須です。
Upside	currency	Filter Nillable	所有者の最善達成予測の合計。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
UpsideComment	string	Filter Nillable Update	参照のみ。所有者が最善達成予測の合計を編集した場合に入力されたコメント。ラベルは最善達成予測のコメントです。
UpsideOverride	currency	Filter Nillable Update	参照のみ。所有者の [私の最善達成予測] の合計についての所有者のオーバーライド。ラベルは最善達成予測の上書きです。

## 使用方法

このオブジェクトを問い合わせて、収益に基づいてカスタマイズブル売上予測をサポートします。「すべてのデータの参照」権限が必要です。

[CurrencyIsoCode](#) および [Quota](#) を更新できます。つまり、Salesforce.com ユーザインターフェースで 1 つずつ更新するのではなく、販売ユーザの目標を一括更新できます。[Quota](#) の編集には、「すべてのデータの参照」権限および「ユーザの管理」権限が必要です。

ロールアップ項目は、売上予測所有者、またはロール階層内の売上予測所有者の部下のいずれかによる商談または商談商品のオーバーライドを反映します。また、管理者ロールアップ項目には、ロール階層内の売上予測所有者の直接の管理者によるオーバーライドが含まれています。

一部のロールアップ項目は、売上予測レベル(調整後の合計)オーバーライドを無視しますが、所有者または管理者が参照できる商談売上予測のオーバーライドは無視されません。

## RevenueForecastHistory

Salesforce.com ユーザインターフェースで送信された(保存された)収益ベースの売上予測についての履歴情報を表します。

### サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

### 特別なアクセスルール

- 「すべてのデータの参照」権限が必要です。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
Closed	currency	Filter Nillable	売上予測の完了金額。
Commit	currency	Filter Nillable	売上予測の達成予測金額。
CommitComments	string	Filter Nillable	達成予測値についてのコメント。
CommitOverridden	Boolean	Defaulted on create Filter	達成予測値がオーバーライドされたか(true)されないか(false)を示します。
CurrencyIsoCode	picklist	Filter Restricted picklist	マルチ通貨機能を有効化している組織にのみ使用できます。組織で使用できる通貨のISO コードが指定されています。
ForecastOverrideId	reference	Filter	関連付けられた売上予測オーバーライドの ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してくださいラベルは収益売上予測 IDです。
Pipeline	currency	Filter Nillable	売上予測のパイプライン金額。
Quota	currency	Filter Nillable	売上予測の目標金額。
Upside	currency	Filter Nillable	売上予測の最善達成予測金額。
UpsideComments	string	Filter Nillable	アップサイド値についてのコメント。
UpsideOverridden	Boolean	Defaulted on create Filter	アップサイド値がオーバーライドされたか(true)されないか(false)を示します。

## 使用方法

これは、カスタマイザブル売上予測に固有の参照専用オブジェクトです。

ユーザが Salesforce.com ユーザインターフェースで収益ベースの売上予測を送信すると、新しいレコードが作成されます。同じ売上予測が再送信されて場合、追加のレコードが追加されます。レコードの [CreatedDate](#) は、

売上予測が送信された日付に反映されます。カスタマイザブル売上予測の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。このオブジェクトは、親オブジェクトの項目レベルのセキュリティに影響されます。

## Scontrol



メモ: Salesforce.com では、Scontrol オブジェクトなどのSコントロールを作成することが期待されますが、今後使用できなくなります。可能な場合は、SコントロールをVisualforceに移行することをお勧めします。今後、Sコントロールおよび Scontrol オブジェクトのサポートは継続されます。サポートポリシーの詳細は、「[API サポートポリシー \(ページ 12\)](#)」を参照してください。

システムがホストし、クライアントアプリケーションが実行するカスタムコンテンツであるカスタム S コントロール。S コントロールでは、Web ブラウザで表示または実行できるコンテンツの種類を指定できます。Salesforce.com オンラインヘルプの「カスタムSコントロールの定義」を参照してください。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 特別なアクセスルール

- 組織は Enterprise、Developer、または Unlimited Edition を使用し、カスタム S コントロールを使用できる必要があります。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Binary	<code>base64</code>	<code>Create</code> <code>Nillable</code> <code>Update</code>	Active-X コントロールまたは Java アーカイブなどのカスタム S コントロールのバイナリコンテンツ。クライアントアプリケーションが <code>create()</code> をコールする場合に指定できますが、 <code>update()</code> をコールする場合には指定できません。最大 5 MB です。
BodyLength	<code>int</code>	<code>Filter</code>	カスタム S コントロールの長さ。ラベルはバイナリ長です。
ContentSource	<code>picklist</code>	<code>Create</code> <code>Filter</code> <code>Nillable</code> <code>Restricted</code> <code>picklist</code> <code>Update</code>	S コントロールコンテンツ、カスタム HTML、スニペット(他の S コントロールに含まれるよう設計された S コントロール)、または URL のソースを指定します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Description	string	Create Filter Nillable Update	カスタム S コントロールの説明。
DeveloperName	string	Create Filter Nillable Update	API のオブジェクトの一意の名前。この名前は、アンダースコアと英数字のみを含み、組織内で一意の名前にする必要があります。最初は文字であること、スペースは使用しない、最後にアンダースコアを使用しない、2つ続けてアンダースコアを使用しないという制約があります。管理パッケージで、この項目を使用することにより、パッケージインストール時の名前の競合を回避します。この項目を使用して、開発者は管理パッケージのオブジェクト名を変更し、変更は登録者の組織で反映されます。ラベルは <b>S</b> コントロール名です。
EncodingKey	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	ISO-08859-1、UTF-8、EUC、JIS、Shift-JIS、韓国語(ks_c_5601-1987)、簡体字中国語(GB2312)、繁体字中国語(Big5)など、キャラクタセットエンコードの選択リスト。
Filename	string	Create Filter Nillable Update	カスタム S コントロールがカスタムリンクに追加された場合に表示されるアップロード済みオブジェクト。Java アプレット、ActiveX コントロール、または希望するその他の種類のコンテンツを指定できます。
HtmlWrapper	textarea	Create Update	必須項目。ユーザがこのカスタム S コントロールを参照した場合に配信される HTML ページ。この HTML ページは、カスタム S コントロール全体のコンテンツである場合、またはバイナリを参照する場合があります。最大 1,048,576 文字です。ラベルは <b>HTML</b> 本文です。
Name	string	Create Filter idLookup Nillable Update	必須項目。カスタム S コントロールの名前。ラベルはラベルです。
NamespacePrefix	string	Filter Nillable	このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			<p>織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。</p> <p><i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。</p> <p>名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</li><li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li></ul>
SupportsCaching	Boolean	Create Filter Update	S コントロールがキャッシュをサポートしているか (true) サポートしていないか (false) を示します。

## 使用方法

カスタム S コントロールを使用して、基本の Salesforce.com アプリケーション機能を拡張するカスタムコンテンツを管理します。すべてのユーザは、カスタム S コントロールを表示できますが、カスタム S コントロールに `create()` または `update()` を実行するには、「アプリケーションのカスタマイズ」権限が必要です。

## ScontrolLocalization

組織でトランスレーションワークベンチを使用できる場合、S コントロールの項目のラベルの翻訳を行います。トランスレーションワークベンチの詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 特別なアクセスルール

- 組織は Professional、Enterprise、Developer、または Unlimited Edition を使用し、トランスレーションワークベンチを使用できる必要があります。
- このオブジェクトを表示するには、「設定・定義を参照する」権限が割り当てられている必要があります。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
LanguageLocaleKey	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist	この項目は、API バージョン 16.0 以前で使用できません。[Language] 項目と同じです。
Language	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist	この項目は、API バージョン 17.0 以降で使用できます。言語とロケール ISO を組み合わせたコード。アプリケーションに表示されるラベルの言語を制御します。 選択リストには次のラベルと値が表示されます。 <ul style="list-style-type: none"><li>英語: en_US</li><li>ドイツ語: de</li><li>スペイン語: es</li><li>フランス語: fr</li><li>イタリア語: it</li><li>日本語: ja</li><li>スウェーデン語: sv</li><li>韓国語: ko</li><li>中国語 (繁体字): zh_TW</li><li>中国語 (簡体字): zh_CN</li><li>ポルトガル語 (ブラジル): pt_BR</li><li>オランダ語: nl_NL</li><li>デンマーク語: da</li><li>タイ語: th</li><li>フィンランド語: fi</li><li>ロシア語: ru</li></ul> salesforce.com の担当者へ要求すると、次のエンドユーザ言語も使用できます。 <ul style="list-style-type: none"><li>チェコ語: cs</li><li>スペイン語 (メキシコ): es_MX</li><li>ハンガリー語: hu</li><li>インドネシア語: in</li></ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			<ul style="list-style-type: none"> <li>ポーランド語: pl</li> <li>ルーマニア語: ro</li> <li>トルコ語: tr</li> <li>ウクライナ語: uk</li> <li>ベトナム語: vi</li> </ul> <p>この項目の値は、デフォルトのロケール選択とは関連しません。</p>
NamespacePrefix	string	Filter Nullable	<p>このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。</p> <p><i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。</p> <p>名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</li> <li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li> </ul>
ScontrolId	reference	Create Filter Nullable	翻訳されている Scontrol の ID。
Value	string	Create Filter Nullable Update	S コントロールの実際に翻訳されたラベル。ラベルは翻訳です。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、S コントロールを、Salesforce.com でサポートされているさまざまな言語に翻訳します。トランスレーションワークベンチを使用できるユーザは S コントロールの翻訳を参照できますが、S コントロールの翻訳に [create\(\)](#) または [update\(\)](#) を実行するには、「アプリケーションをカスタマイズする」権限、「翻訳を管理する」権限、または「カテゴリを管理する」権限が必要です。

## SelfServiceUser

セルフサービスユーザを表します。セルフサービスユーザの実装方法の詳細は、『*Self-Service Implementation Guide*』をダウンロードしてください。また、Salesforce.com オンラインヘルプの「セルフサービスの設定」も参照してください。

### サポートされているコール

`getUpdated()`、`login()`、`getServerTimestamp()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ContactId	<a href="#">reference</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a>	必須項目。すべてのセルフサービスユーザは、 <a href="#">取引先責任者</a> に関連付けられている必要があります。取引先責任者の電子メールは、セルフサービスユーザの電子メールに一致している必要があります。取引先責任者は、AccountID 項目の値を指定する必要があります。そうでない場合はエラーが発生します。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
Email	<a href="#">email</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Update</a>	必須項目。SelfServiceUser に関連付けられた <a href="#">取引先責任者</a> の電子メールアドレスと同じにします。パスワードのリセットおよびその他のシステム通信が、この電子メールアドレスに送信されます。
FirstName	<a href="#">string</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	セルフサービスユーザの名前(ファーストネーム)。
IsActive	<a href="#">Boolean</a>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Defaulted on create</a>	セルフサービスユーザがセルフサービスポータルログインできる(true)か、そうでないか(false)を示します。セルフサービスユーザを削除することはできません。無効であるユーザとしてマークできます。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Filter Update	
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
LanguageLocaleKey	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	必須項目。この項目は制限つき選択リスト項目です。ユーザの主言語です。セルフサービスポータルの画面上にあるすべてのテキストが、この言語で表示されます。
LastLoginDate	dateTime	Filter Nullable	セルフサービスユーザが最後にログインした日付と時間。
LastName	string	Create Filter Update	必須項目。セルフサービスユーザの姓。
LocaleSidKey	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	必須項目。この項目は制限つき選択リスト項目です。この項目の値は、セルフサービスポータルの値の形式および解析、特に数値に影響を与えます。値は、言語、場合によっては言語と国を表す 2 文字のコードです。コードは ISO 基準に基づいています。
Name	string	Filter	<code>FirstName</code> と <code>LastName</code> の連結です。最大 121 文字です。
SuperUser	Boolean	Defaulted on create Filter	セルフサービスユーザが会社のセルフサービスポータルの追加アクセス権を持つスーパーユーザであるか(true)か、そうでないか(false)を示します。
TimeZoneSidKey	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	必須項目。この項目は制限つき選択リスト項目です。ユーザのタイムゾーンは、セルフサービスポータルで時間を表示または入力する際に使用するオフセットに影響を与えます。
Username	string	Create Filter Update	必須項目。セルフサービスポータルにログインするために入力する名前が指定されています。組織内で一意である必要があります。重複した値で作成または更新

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			しようとすると、操作が拒否され、エラーが発生します。

## 使用方法

セキュリティ上の理由で、API または Salesforce.com ユーザインターフェースを使用してセルフサービスユーザのパスワードを問い合わせることはできません。ただし、API で、`setPassword()` コールおよび `resetPassword()` コールを使用してセルフサービスユーザのパスワードを設定およびリセットすることができます。

API で作成された `SelfServiceUser` オブジェクトを使用すると、通知メールが送信されません。ユーザに通知する場合、ユーザを作成した後に電子メールを送信する必要があります。

## ソリューション

顧客の問題とその問題の解決策についての詳細な記述を表します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`upsert()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	ソリューションがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。
IsHtml	Boolean	Defaulted on create Filter	ソリューションが HTML ソリューション(true)かそうでない(false)かを示します。
IsOutOfDate	Boolean	Defaulted on create Filter	翻訳バージョンが作成された後にソリューションマスターが更新されているか(true)否か(false)を示す参照専用項目。この項目は、マスタソリューションのページレイアウトには表示されません。
IsPublished	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ソリューションが公開されているか(true)否か(false)を示します。ソリューションの公開状況は、その使用方法、または <code>query()</code> 、 <code>update()</code> 、または <code>delete()</code> を実行できるかどうかに影響はありません。ソリューション公開の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプ

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			を参照してください。ラベルはセルフサービスポータルに公開です。
IsPublishedInPublicKb	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ソリューションが公開ソリューションとして公開されているか(true)否か(false)を示します。ラベルは公開知識ベースに公開です。
IsReviewed	Boolean	Defaulted on create Filter	ソリューションがレビューされているか(true)否か(false)を示します。このフラグは、[Status] 選択リストを使用して、間接的にのみ設定できます。それぞれの事前定義された Status 値は、IsReviewed 値を意味します。ラベルはレビュー済みです。
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter Update	ソリューションを所有するユーザの ID。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください。
ParentId	reference	Create Defaulted on create Filter Update	これがマスタソリューションの翻訳である場合、マスタソリューションの ID。
RecordTypeId	reference	Create Defaulted on create Filter Update	ソリューションが関連付けられたRecordTypeの ID。
SolutionLanguage	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	「フランス語」または「中国語(繁体字)」など、ソリューションが記述されている言語。
SolutionName	string	Create Filter idLookup	必須項目。クライアントアプリケーションが新しいソリューションを作成し、この項目の値が指定されていない場合、この項目のデフォルト値であるハイフン(-)

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
SolutionNote	textarea	Update Create Nillable Update	が使用されます。最大 255 文字です。ラベルはタイトルです。  ソリューションレコードの詳細。最大 32,000 文字です。ラベルはソリューションの詳細です。   メモ: HTML Solutions を有効にした場合、この項目で使用される HTML タグは、オブジェクトは作成または更新される前に検証されます。無効な HTML が入力されると、エラーが投げられます。この項目で使用される JavaScript は、オブジェクトが作成または更新される前に削除されます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「HTML ソリューションとは?」を参照してください。
SolutionNumber	string	Autonumber Defaulted on create Filter	ソリューションが作成された場合に自動的に割り当てられる識別番号。直接設定できず、変更することもできません。
Status	picklist	Create Filter Update	必須項目。ソリューションの状況。この項目は、IsReviewed フラグを直接制御します。選択リストでリードステータスの値を取得するために、SolutionStatus オブジェクトに query() コールを起動できます。
TimesUsed	int	Filter	ソリューションを使用する回数。ラベルは関連ケース数です。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して組織のソリューションを管理します。クライアントアプリケーションは、ソリューションに関連する添付ファイルに、`create()`、`update()`、`delete()`、および `query()` を実行できます。

## SolutionHistory

ソリューションの項目内の値に対する変更履歴を表します。

### サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、および `describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
項目	picklist	Filter Restricted picklist	変更された項目の名前。ラベルはカスタム項目定義IDです。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。 ラベルは削除です。
NewValue	anyType	Nillable	変更された項目の新しい値。最大 255 文字です。
OldValue	anyType	Nillable	変更される前の項目の最後の値。最大 255 文字です。
SolutionId	reference	Filter	ソリューションの ID。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してくださいラベルはソリューション IDです。

## 使用方法

この参照専用オブジェクトを使用して、ソリューションに対する変更を識別します。

このオブジェクトは、親オブジェクトの項目レベルのセキュリティに影響されます。

**SolutionStatus**

下書き、レビュー済みなど、ソリューションの状況を表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

このオブジェクトタイプの項目の詳細は、組織の WSDL ファイルおよびSalesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsDefault	boolean	Defaulted on create Filter	この項目が、選択リスト内のソリューションのデフォルト状況かどうかを示します(デフォルトの場合はtrue、そうでない場合はfalse)。1つの値のみが、デフォルト値として表されます。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsReviewed	boolean	Defaulted on create Filter	ソリューションの状況値が、レビュー済みを表すか (true) 否か (false) を示します。複数のソリューションの状況の値が、レビュー済み ソリューション を表します。
MasterLabel	string	Filter Nillable	このソリューションの状況の値のマスタレベル。この表示値は、翻訳されない内部ラベルです。
SortOrder	int	Filter Nillable	ソリューションの状況の選択リストのこの値を並べ替えるために使用する番号。以前のソリューションの状況値が一部削除されている場合があるため、これらの番号が連続的である保証はありません。

## 使用方法

このオブジェクトはソリューション状況の選択リストの値を表します。ソリューション状況の選択リストには、指定された状況の値がレビュー済みのソリューションを表すか、レビューしていないソリューションを表すかなど、ソリューションの状況に関する追加情報が表示されます。クライアントアプリケーションはこのオブジェクトの `query()` コールを起動し、ソリューション状況の選択リストの値のセットを取得できます。また、その情報をソリューションオブジェクトの処理に使用し、指定されたソリューションのさらに詳細な情報を取得できます。たとえば、アプリケーションは、`Status` の値、および関連付けられた `SolutionStatus` オブジェクトの `IsReviewed` プロパティの値に基づいて、指定されたソリューションがレビュー済みであるか、またはレビューしていないかをテストすることができます。

このオブジェクトは参照専用です。十分な権限を使用して、クライアントアプリケーションは、これらのオブジェクトに `query()` コールおよび `describeSObjects()` コールを起動できます。これらのオブジェクトに `create()`、`update()`、または `delete()` を実行できません。

## SolutionTag

単語または短い語句をソリューションに関連付けます。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい TagDefinition が作成され、このタグオブジェクトの親となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親リレーションは自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。
型	picklist	Create Filter Restricted picklist	タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>Public:</b> 組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li><li><b>Personal:</b> タグは、OwnerId に一致するユーザのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li></ul>

## 使用方法

SolutionTag は、親 TagDefinition とタグ付けされているソリューションとの関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## StaticResource

Visualforce マークアップで使用できる静的リソースを表します。Salesforce.com オンラインヘルプの「静的リソースとは?」を参照してください。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Body	base64	Create Nillable Update	必須項目。エンコードされたファイルデータ。
BodyLength	int	Filter	ファイルのサイズ(バイト)。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ContentType	string	Create Filter Update	コンテンツの種類。ラベルはMIMEタイプです。最大120 文字です。
説明	textarea	Create Filter Nullable Update	静的リソースのテキストによる説明。最大 255 文字です。
Name	string	Create Filter idLookup Update	必須項目。静的リソースの名前。
NamespacePrefix	string	Filter Nullable	<p>このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。</p> <p><i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。</p> <p>名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</li> <li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li> </ul> <p>ログインしたユーザに「アプリケーションのカスタマイズ」権限が付与されていない場合、この項目にアクセスできません。</p>

## 使用方法

静的リソースにより、アーカイブ (.zip や .jar ファイルなど)、画像、スタイルシート、JavaScript、その他のファイルなど、Visualforce マークアップ内で参照できるコンテンツをアップロードできます。[ドキュメント] タブにファイルをアップロードするよりも、静的リソースを利用する方がよい理由は、次のとおりです。

- 関連ファイルのコレクションをディレクトリ階層にパッケージ化し、その階層を .zip や .jar アーカイブとしてアップロードできます。
- ドキュメント ID をハードコードする代わりに、\$Resource グローバル変数を使用することで、ページマークアップ内の静的リソースを名前で参照できます。

## エンコードされたデータ

API は、[base64](#) データ型にエンコードされたバイナリファイルデータを送受信します。[create\(\)](#) の前に、クライアントはバイナリファイルデータを base64 にエンコードする必要があります。API レスポンスを受け取り次第、クライアントは、base64 データをバイナリ(この変換は通常 SOAP クライアントで処理します)にデコードする必要があります。

## 静的リソースの最大サイズ

[create\(\)](#) および [update\(\)](#) コールは静的リソースのサイズを、最大 5 MB に制限します。組織は、合計で最大 250 MB の静的リソースを使用できます。

## TagDefinition

子タグオブジェクトの属性を定義します。

サポートされているコール

[delete\(\)](#)、[describeSObjects\(\)](#)、[query\(\)](#)、[retrieve\(\)](#)、[search\(\)](#)、[undelete\(\)](#)、[update\(\)](#)

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Name	<a href="#">string</a>	<a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Update</a>	タグの単語または語句を識別します。
Type	<a href="#">picklist</a>	<a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a> <a href="#">Restricted picklist</a>	タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li><b>Public:</b> 組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li><li><b>Personal:</b> タグは、OwnerId に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li></ul>

## 使用方法

レコードのタグを作製すると、対応する TagDefinition への関連が作成されます。

- タグの Name 項目の値が new の場合、新しい TagDefinition レコードが自動的に作成され、タグの親となります。
- タグの Name 項目の値が TagDefinition にすでに存在する場合、その TagDefinition が自動的にタグの親となります。

各 TagDefinition レコードには子タグレコードとの一対多のリレーションがあります。

次の標準オブジェクトがレコードのタグを表します。

- [AccountTag](#)
- [AssetTag](#)
- [CampaignTag](#)
- [CaseTag](#)
- [ContactTag](#)
- [ContractTag](#)
- [DocumentTag](#)
- [EventTag](#)
- [LeadTag](#)
- [NoteTag](#)
- [OpportunityTag](#)
- [SolutionTag](#)
- [TaskTag](#)

カスタムオブジェクトもタグ付けされます。カスタムオブジェクトのタグは、tag という単語のすぐ後に続く 2 つのアンダーバーの接尾辞で識別されます。たとえば、Meeting という名前のカスタムオブジェクトには、その組織の WSDL に Meeting\_tag という名前の対応するタグがあるとします。Meeting\_tag は、Meeting オブジェクトにのみ有効です。

TagDefinition は、タグレコードの一括操作に役立ちます。たとえば、既存のタグの名前を変更する場合、適切な TagDefinition オブジェクトを検索、そのオブジェクトを更新すると、タグの Name 値も変更されます。次の Java の例では、すべての WC タグを West Coast という語句に置き換えています。

```
public void tagDefinitionSample() { QueryResult qr = null; try { qr = binding.query("SELECT Id, Name FROM TagDefinition WHERE Name = 'WC'"); } catch (RemoteException e) { System.out.println("An unexpected error has occurred." + e.getMessage()); } TagDefinition d = (TagDefinition)qr.getRecords()[0]; d.setName("West Coast"); try { binding.update(new SObject[]{d}); } catch (RemoteException e) { System.out.println("An unexpected error has occurred." + e.getMessage()); } }
```

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## Task

電話のマーケティングやその他の「To-Do」項目など、ビジネス活動を表します。Salesforce.com ユーザインターフェースで、タスクと行動レコードは活動として集合的に参照されます。



メモ: コールに関連するタスク項目は、Salesforce CRM Call Center でのみ使用できます。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`、`upsert()`

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccountId	reference	Filter Nillable	関連付けられた取引先の ID。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
ActivityDate	date	Create Filter Nillable Update	タスクの期日。この項目には、協定標準時(UTC)タイムゾーンの午前 0 時に常に設定されているタイムスタンプがあります。タイムスタンプに関連性はありません。タイムスタンプを変更して、タイムゾーンの時差を調整しないでください。ラベルは期日です。   メモ: 定期的な ToDo にこの項目を設定または更新できません ( <code>IsRecurrence</code> は <code>true</code> )。
CallDisposition	string	Create Filter Nillable Update	「コールバックします」または「コールに失敗しました」など、指定されたコールの結果を表します。最大 255 文字です。  項目レベルのセキュリティに影響なく、Salesforce CRM Call Center によって組織内のユーザが使用できます。
CallDurationInSeconds	int	Create Filter Nillable Update	コールの時間(秒単位)。  項目レベルのセキュリティに影響なく、Salesforce CRM Call Center によって組織内のユーザが使用できます。
CallObject	string	Create Filter Nillable	コールセンターの名前。最大 255 文字です。  項目レベルのセキュリティに影響なく、Salesforce CRM Call Center によって組織内のユーザが使用できます。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	
CallType	picklist	Create Filter Nillable Update	応答するコールの種類(受信、内部、発信)。
ConnectionReceivedId	reference	Filter Nillable	組織とこのレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。
ConnectionSentId	reference	Filter Nillable	このレコードを共有した <a href="#">PartnerNetworkConnection</a> の ID。この項目は、Salesforce to Salesforce が有効な場合にのみ使用できます。API バージョン 15.0 以降では、ConnectionSentId の項目はサポートされていません。ConnectionSentId 項目は使用できますが、値は Null です。レコードを接続に転送するには、新しい <a href="#">PartnerNetworkRecordConnection</a> を使用します。
説明	textarea	Create Nillable Update	タスクのテキストによる説明。
IsClosed	Boolean	Defaulted on create Filter	タスクが完了したか(true) 否か(false)を示します。 [status] 選択リストを使用して、間接的にのみ設定できます。ラベルは完了フラグです。
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。 ラベルは削除です。
IsRecurrence	boolean	Create Defaulted on create Filter	ToDo が繰り返すようスケジュール指定されているか(true) か、1回だけ実行するか(false)を示します。 これは、create ではなく update の参照専用項目です。 この項目の値が true である場合、 <a href="#">RecurrenceStartDateOnly</a> 、 <a href="#">RecurrenceEndDateOnly</a> 、 <a href="#">RecurrenceType</a> 、および指定された定期的なタイプに関連付けられた定期項目を投入する必要があります。 <a href="#">「定期的な ToDo」</a> を参照してください。
IsReminderSet	Boolean	Create Defaulted on create Filter	ポップアップリマインダーがタスクに設定されているか(true) 否か(false)を示します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	
IsVisibleInSelfService	Boolean	Defaulted on create Filter Update	オブジェクトに関連付けられた ToDo をカスタマーポータルで参照できるか(true)否か(false)を示します。
OwnerId	reference	Create Defaulted on create Filter Update	レコードを所有する <a href="#">ユーザ</a> の ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してくださいラベルは割り当て先 ID です。
Priority	picklist	Create Filter Update	必須項目。高い、または低いなど、タスクの重要度または緊急度を表します。
RecurrenceActivityId	reference	Filter Nillable	参照のみ。create には必須ではありません。定期的な ToDo の主要なレコードの ID。後続の行動には、この項目の同じ値が指定されます。
RecurrenceDayOfMonth	int	Create Filter Nillable Update	ToDo を繰り返す日付。
RecurrenceDayOfWeekMask	int	Create Filter Nillable Update	<p>ToDo を繰り返す曜日。この項目にはビットマスクが指定されます。各曜日について、値は次のようにになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 日曜日 = 1</li> <li>・ 月曜日 = 2</li> <li>・ 火曜日 = 4</li> <li>・ 水曜日 = 8</li> <li>・ 木曜日 = 16</li> <li>・ 金曜日 = 32</li> <li>・ 土曜日 = 64</li> </ul> <p>複数の日付は、それらの値の合計で示されます。たとえば、火曜日と木曜日 = 4 + 6 = 20 です。</p>
RecurrenceEndDateOnly	date	Create Filter Nillable	ToDo を繰り返した最後の日。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	
RecurrenceInstance	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	定期的な ToDo の頻度。たとえば、「2 番目」または「3 番目」などです。
RecurrenceInterval	int	Create Filter Nillable Update	定期的な ToDo 間の間隔。
RecurrenceMonthOfYear	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	ToDo を繰り返す月。
RecurrenceStartDateOnly	date	Create Filter Nillable Update	定期的な ToDo の開始日。 <a href="#">RecurrenceEndDateOnly</a> の前の日時である必要があります。
RecurrenceTimeZoneSidKey	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	定期的な ToDo に関連付けられたタイムゾーン。たとえば、太平洋標準時の「UTC-8:00」です。
RecurrenceType	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	ToDo を繰り返す頻度を示します。たとえば、毎日、毎週、または N か月ごと（「N か月」は <a href="#">RecurrenceInstance</a> で指定）です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ReminderDateTime	dateTime	Create Filter Nillable Update	<code>IsReminderSet</code> が <code>true</code> に設定されている場合、リマインダーが起動するよう指定されている時間を表します。 <code>false</code> に設定されている場合、Salesforce.com ユーザインターフェースのリマインダーチェックボックスの選択を解除、またはその値が示す時間にはすでにリマインダーが起動しています。
Status	picklist	Create Filter Update	必須項目。進行中または完了など、タスクの現在の状況。それぞれの事前定義された <code>status</code> 項目は、 <code>IsClosed</code> フラグの値を意味します。選択リストの値を取得するために、クライアントアプリケーションは、 <code>TaskStatus</code> オブジェクトに <code>query()</code> を起動できます。
			 メモ: 定期的な ToDo のこの項目を更新できません ( <code>IsRecurrence</code> は <code>true</code> )。
Subject	combobox	Create Filter Nillable Update	「電話」、「見積もり送付」など、タスクの件名行。
WhatId	reference	Create Filter Nillable Update	関連する取引先、商談、キャンペーン、ケース、またはカスタムオブジェクトの ID。ラベルは商談/取引先 ID です。
WhoId	reference	Create Filter Nillable Update	関連する取引先責任者またはリードの ID。 <code>WhoId</code> がリードを参照する場合、 <code>WhatId</code> 項目は空である必要があります。ラベルは取引先責任者/リード ID です。

## 使用方法

アーカイブ済みタスクの処理についての詳細は、「アーカイブ済みの活動」を参照してください。

### 定期的な ToDo

- 定期的な ToDo は API バージョン 16.0 以降で使用できます。
- ToDo が作成されると、定期的な行動から定期的でない行動に変更することはできません。その逆も同様です。

- API を使用して定期的な ToDo を削除すると、未完了および完了したすべての ToDo がすべて削除されます。ただし、Salesforce.com ユーザインターフェースで定期的な ToDo を削除しても、未完了の ToDo (`IsClosed` が `false`) だけが削除されます。
- `IsRecurrence` が `true` である場合、`RecurrenceStartDateOnly`、`RecurrenceEndDateOnly`、`RecurrenceType`、および指定された定期的なタイプに関連付けられたプロパティ (次の表を参照) を投入する必要があります。
- `RecurrenceStartDateOnly` 項目または繰り返しのパターンを変更すると、すべての未完了 ToDo が削除され、新しい繰り返しパターンに基づいて新しい未完了の ToDo が作成されます。繰り返しのパターンは、`RecurrenceType`、`RecurrenceTimeZoneSidKey`、`RecurrenceInterval`、`RecurrenceDayOfWeekMask`、`RecurrenceDayOfMonth`、`RecurrenceInstance`、および `RecurrenceMonthOfYear` によって決まります。
- `RecurrenceEndDateOnly` の値を前の日付に変更 (例: 1月 20 日から 1月 10 日) すると、`ActivityDate` の値が新しい終了日より大きい未完了 ToDo はすべて削除されます。その他の未完了 ToDo および完了した ToDo には影響ありません。
- `RecurrenceEndDateOnly` の値を後の日付に変更 (例: 1月 10 日から 1月 20 日) すると、新しい ToDo が新しい終了日までに作成されます。既存の未完了 ToDo および完了した ToDo には影響ありません。

次の表には、定期項目の使用方法について説明します。定期的タイプには、プロパティ設定のすべてが指定されています。未使用的プロパティはすべて `null` に設定する必要があります。

RecurrenceType の値	プロパティ	パターンの例
RecursDaily	RecurrenceInterval	一日おき
RecursEveryWeekday	RecurrenceDayOfWeekMask	土曜、日曜以外のすべての平日
RecursMonthly	RecurrenceDayOfMonth RecurrenceInterval	1か月おき、月の 3 日目
RecursMonthlyNth	RecurrenceInterval RecurrenceInstance RecurrenceDayOfWeekMask	1か月おき、月の最終金曜日
RecursWeekly	RecurrenceInterval RecurrenceDayOfWeekMask	2週間おきの水曜日と金曜日
RecursYearly	RecurrenceDayOfMonth RecurrenceMonthOfYear	毎年 3月の 26 日
RecursYearlyNth	RecurrenceDayOfWeekMask RecurrenceInstanceRecurrenceMonthOfYear	毎年 10月の第 1 土曜日

## TaskPriority

高い、普通、低いなど、タスクの重要度または緊急度を表します。

サポートされているコード

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

このオブジェクトタイプの項目の詳細は、組織の WSDL ファイルおよび Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsDefault	boolean	Defaulted on create Filter	この項目が、選択リスト内のタスクの優先度のデフォルト値かどうかを示します(デフォルトの場合は <code>true</code> 、そうでない場合は <code>false</code> )。選択リストリスト内の1つの項目のみが、デフォルト値として表されます。
IsHighPriority	boolean	Defaulted on create Filter	このタスクの優先度の値が高い優先度のタスクを表すか( <code>true</code> )否か( <code>false</code> )を示します。複数のタスクの優先度の値が、高い優先度のタスクを表します。
MasterLabel	string	Filter Nillable	このタスクの優先度値のマスターレベル。この表示値は、翻訳されない内部ラベルです。最大 255 文字です。
SortOrder	int	Filter Nillable	タスクの優先度の選択リストのこの値を並べ替えるために使用する番号。以前のタスクの優先度値が一部削除されている場合があるため、これらの番号が連続的である保証はありません。

## 使用方法

このオブジェクトはタスク優先度の選択リストの値を表します。タスク優先度の選択リストには、指定された優先度の値が高い優先度を表すなど、タスクの重要度に関する追加情報が表示されます。クライアントアプリケーションはこのオブジェクトの `query()` コールを起動し、タスクの優先順位の選択リストの値のセットを取得できます。また、その情報をタスクオブジェクトの処理に使用し、指定されたタスクのさらに詳細な情報を取得できます。たとえば、アプリケーションは、`Priority` の値、および関連付けられた `TaskPriority` の `IsHighPriority` プロパティの値に基づいて、指定されたタスクが高い優先度かをテストできます。

このオブジェクトは参照専用です。十分な権限を使用して、これらのオブジェクトに `query()` コールおよび `describeSObjects()` コールを起動できます。

## TaskStatus

開始前、完了、終了など、タスクの状況を表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsClosed	boolean	Defaulted on create Filter	このタスクの状況の値が終了したタスクか(true)否か(false)を示します。複数のタスクの状況の値が、終了したタスクを表します。
IsDefault	Boolean	Defaulted on create Filter	この項目が、選択リスト内のタスクのデフォルト状況かどうか示します(デフォルトの場合はtrue、そうでない場合はfalse)。
MasterLabel	string	Filter Nillable	このタスクの状況の値のマスタラベル。この表示値は、翻訳されない内部ラベルです。最大 255 文字です。
SortOrder	int	Filter Nillable	タスクの状況の選択リストのこの値を並べ替えるために使用する番号。以前のタスクの状況値が一部削除されている場合があるため、これらの番号が連続的である保証はありません。

## 使用方法

このオブジェクトはタスク状況の選択リストの値を表します。タスク状況の選択リストには、指定された状況の値が進行中のタスクを表すか、終了したタスクを表すかなど、タスクの状況に関する追加情報が表示されます。クライアントアプリケーションはこのオブジェクトの `query()` コールを起動し、タスクの状況の選択リストの値のセットを取得できます。また、その情報をタスクオブジェクトの処理に使用し、指定されたタスクのさらに詳細な情報を取得できます。たとえば、アプリケーションは、`TaskStatus` の値、および関連付けられた `TaskStatus` の `IsClosed` プロパティの値に基づいて、指定されたタスクが進行中であるか、または終了しているかをテストすることができます。

このオブジェクトは参照専用です。十分な権限を使用して、クライアントアプリケーションは、これらのオブジェクトに `query()` コールおよび `describeSObjects()` コールを起動できます。

## TaskTag

単語または短い語句をタスクに関連付けます。

サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ItemId	reference	Create Filter	タグ付けされた項目の ID。
Name	string	Create Filter	タグの名前。この値がまだ存在しない場合、新しい TagDefinition が作成され、このタグオブジェクトの親となります。値が存在する場合は、同じ名前を持つ TagDefinition がこのタグオブジェクトの親となります。親リレーションは自動的に作成されます。
TagDefinitionId	reference	Filter	タグを持つ親 TagDefinition オブジェクトの ID。
型	picklist	Create Filter Restricted picklist	<p>タグの可視性を定義します。値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li><b>Public:</b> 組織内のすべてのユーザにタグが表示され、すべてのユーザが操作できます。</li> <li><b>Personal:</b> タグは、OwnerId に一致するユーザにのみ表示され、そのユーザだけが操作できます。</li> </ul>

## 使用方法

TaskTag は、親 TagDefinition とタグ付けされている [タスク](#)との関係を保存します。タグオブジェクトはメタデータとして機能し、ユーザはそれらのデータを説明および構成することができます。

タグが削除されると、名前が使用されていない場合は親 TagDefinition も削除され、名前が使用されている場合は親は残ります。TagDefinition を削除すると、関連するタグエントリとともにごみ箱に送られます。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「タグについて」を参照してください。

## テリトリー

テリトリーとは、取引先とユーザの集合です。テリトリー内のユーザは、少なくとも取引先を参照することができます。これは、取引先の所有者が誰でも関係ありません。組織にテリトリー管理が有効化されている場合にのみ使用できます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「テリトリー管理の概要」を参照してください。

### サポートされているコール

```
create(), delete(), query(), retrieve(), getDeleted(), getUpdated(), getUpdated(),
describeSObjects(), upsert()
```

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccountAccessLevel	picklist	Create Filter  Restricted picklist  Update	このテリトリーに割り当てられたユーザに付与される取引先アクセスレベル。
CaseAccessLevel	picklist	Create Filter  Nillable  Restricted picklist  Update	このテリトリーに割り当てられたユーザに付与されるケースのアクセスレベル。
ContactAccessLevel	picklist	Create Filter  Restricted picklist  Update	関連する取引先の、Group、UserRole、またはUserに割り当てられたアクセス権限の種類を表す値。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>なし</li> <li>Read</li> <li>Edit</li> </ul>
			 メモ: DefaultContactAccess が「親による制御」に設定されている場合、この項目を作成することは更新することもできません。
説明	string	Create Filter  Nillable  Update	テリトリーの説明 (1,000 文字以下)。
ForecastUserId	reference	Create Filter  Nillable  Update	売上予測マネージャのID。テリトリーの子テリトリーの売上予測がロールアップするユーザです。IDについての詳細は、「ID データ型」を参照してください。ラベルはユーザ IDです。
MayForecastManagerShare	boolean	Filter	売上予測マネージャが手動で自身の売上予測を共有できるかどうかを示します。
Name	string	Create Filter  Update	テリトリーの名前。最大 80 文字です。ラベルはテリトリー名です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
OpportunityAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	このテリトリーに割り当てられたユーザに付与される商談のアクセスレベル。
ParentTerritoryID	reference	Create Filter Nillable Update	テリトリー階層内で、このテリトリーの上位にあるテリトリー。ラベルは親テリトリー IDです。
RestrictOppTransfer	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	取引先割り当てルールが実行される場合にこのテリトリーに関連する商談がこのテリトリーとテリトリーの子の境界内に保存されるのか(true)、取引先割り当てルールが実行される場合にテリトリー階層のその他のノードにこのテリトリーに関連付けられた商談を割り当てることができるのか(false)を示します。ラベルは商談割り当てを固定です。

## 使用方法

テリトリーオブジェクトを使用して、組織のテリトリー階層に `query()` を実行します。テリトリーに関連付けられたオブジェクトを問い合わせまたは更新する場合に、このオブジェクトを使用して、有効なテリトリー ID を取得します。

## User

組織内のユーザを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`、`upsert()`

特別なアクセスルール

- ユーザレコードに `create()` または `update()` を実行するには、「ユーザの管理」権限でログインする必要があります。また、ユーザがカスタマーポータルユーザである場合、「セルフサービスユーザの編集」権限でログインする必要があります。また、パートナーポータルユーザの場合は、「パートナーの管理」権限でログインする必要があります。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「カスタマーポータルユーザの管理」および「パートナーアカウントの管理」を参照してください。

- カスタマーポータルユーザは、関連付けられている取引先のカスタマーポータルユーザのみ参照できます。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccountId	reference	Filter Nillable	カスタマーポータルユーザと関連付けられた取引先の ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください  Salesforce.com ユーザのこの項目は空白です。
Alias	string	Create Filter Update	必須項目。ユーザのエイリアス。たとえば、「jsmith」です。
CallCenterId	reference	Create Filter Nillable Update	Salesforce CRM Call Center を使用できる場合、このユーザが割り当てられるコールセンターを表します。
City	string	Create Filter Nillable Update	ユーザに関連付けられている市区郡。
CommunityNickname	string	Create Filter Nillable Update	コミュニティアプリケーションでこのユーザを識別するために使用する名前。アイデア機能および回答機能があります。
CompanyName	string	Create Filter Nillable Update	ユーザの会社の名前。
ContactId	reference	Create Filter	この取引先に関する <a href="#">取引先責任者</a> の ID。取引先責任者は、AccountId 項目の値を指定する必要があります。そうでない場合はエラーが発生します。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
Country	string	Create Filter Nillable Update	ユーザに関連付けられている国。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
DefaultCurrencyIsoCode	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	新しいレコードに対するユーザのデフォルトの通貨設定。たとえば、フランスのユーザは DefaultCurrencyIsoCode を Euro に設定し、それがアプリケーションのデフォルト通貨になります。ただし、ユーザオブジェクトは、通貨のカスタム項目を異なる通貨で保存します。  複数の通貨を使用する組織のみに適用できます。  詳細は、 <a href="#">CurrencyIsoCode</a> を参照してください。
DefaultDivision	picklist	Create Defaulted on create Filter Restricted picklist Update	ユーザのデフォルトのディビジョン。組織にディビジョンが有効化されている場合に適用可能です。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。
DelegatedApproverId	reference	Create Filter Nillable Update	このユーザの指定された承認者であるユーザの ID。
Department	string	Create Filter Nillable Update	ユーザに関連付けられている会社の部署。
Division	string	Create Filter Nillable Update	ユーザに関連付けられているディビジョン。部署と似ていますが、DefaultDivision とは関連しません。
Email	email	Create Filter Update	必須項目。ユーザの電子メールアドレス。
EmailEncodingKey	picklist	Create Filter	必須項目。「ISO-8859-1」または「UTF-8」など、ユーザの電子メールエンコード。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Restricted picklist Update	
EmployeeNumber	string	Create Filter Nillable Update	ユーザの従業員番号。
Extension	phone	Create Filter Nillable Update	ユーザの電話の内線番号。
Fax	phone	Create Filter Nillable Update	ユーザの FAX 番号。
FederationIdentifier	string	Create Filter	Salesforce.com でのシングルサインオンでクライアントアプリケーションのユーザを認証する、Security Assertion Markup Language (SAML) IDP 資格証明書の <code>Subject</code> 要素に指定する必要のある値を表します。[SAML ユーザ ID タイプ] が [表明にユーザオブジェクトの連邦IDを指定する] である場合、この値を指定する必要があります。そうでない場合、この項目は編集できません。
FirstName	string	Create Filter Nillable Update	ユーザの名前。
ForecastEnabled	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ユーザが売上予測マネージャとして有効化されているか(true)否か(false)を示します。売上予測マネージャーは、売上予測階層の下位にいるユーザから売上予測ロールアップを参照します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsActive	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ユーザにログインするためのアクセス権限があるかどうかを示します(ある場合はtrue、ない場合はfalse)。Salesforce.com ユーザインターフェースまたはAPIを使用してユーザの有効ステータスを変更できます。
IsPartner	boolean	Defaulted on create Filter	ユーザが PRM ポータルへのアクセス権限を持つパートナーか(true)、そうでないか(false)を示します。この項目はリリース 9.0 以降で使用できます。代わりに、値が <code>PRM</code> の <code>UserType</code> を使用します。
IsPortalEnabled	boolean	Defaulted on create Filter Update	ユーザにパートナーポータルまたはカスタマーポータルへのアクセス権限がある(true)か、そうでない(false)かを示します。
IsPortalSelfRegistered	boolean	Defaulted on create Filter	ユーザが組織のカスタマーポータルで自己登録したカスタマーポータルユーザであるか(true)否か(false)を示します。この項目はリリース 9.0 以前で使用できます。
			カスタマーポータルと自己登録の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「カスタマーポータルのログインと設定の有効化」を参照してください。
LanguageLocaleKey	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	必須項目。「フランス語」または「中国語(繁体字)」など、ユーザの言語。ラベルは言語です。
LastLoginDate	dateTime	Filter Nillable	ユーザが最後にログインした日付と時間。
LastName	string	Create Filter Update	必須項目。ユーザの名前。
LocaleSidKey	picklist	Create Filter	必須項目。この項目は制限つき選択リスト項目です。この項目の値は、ユーザインターフェースの値の形式および解析、特に数値に影響を与えます。APIには影響ありません。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Restricted picklist Update	項目値は、言語および必要に応じて国によって、2 文字の ISO コードを使用して名前がつけられます。名前のセットは、ISO 基準に基づきます。Salesforce.com ユーザインター フェースでユーザのロケールを手動で設定し、API でその値を使用して他のユーザを挿入または更新するとより便利な場合があります。
Manager	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	ユーザの管理者を選択するために使用するユーザ参照項目。階層関係を設定し、上司であるユーザを申請時にわざわざ選択する必要がなくなります。
MobilePhone	phone	Create Filter Nillable Update	ユーザの携帯電話番号。
Name	string	Filter	<code>FirstName</code> と <code>LastName</code> の連結です。最大 121 文字です。
OfflineTrialExpirationDate	dateTime	Filter Nillable	ユーザの Connect Offline トライアルの有効期限が終了する日時。
Phone	phone	Create Filter Nillable Update	ユーザの電話番号。
PortalRole	picklist	Create Filter Nillable	エグゼクティブ、マネージャ、ユーザのいずれかの、カスタマー ポータルのユーザのロール。  API バージョン 16.0 より古い場合、この項目を Null に設定でき、Salesforce.com は自動的にポータル ロールを追加しました。API バージョン 16.0 より以降では、この項目を Null に設定すると、Salesforce.com は自動的にポータル ロールを追加しません。
PostalCode	string	Create Filter	ユーザの郵便番号。ラベルは郵便番号です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Nillable Update	
ProfileId	reference	Create Filter Update	必須項目。ユーザのプロファイルの ID。この値を使用して、プロファイルに基づいてメタデータをキャッシュします。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください以前のリリースでは、RoleId です。
ReceivesAdminInfoEmails	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ユーザが salesforce.com からの管理者向けの電子メールを受信するか (true)、否か (false) を示します。
ReceiveInfoEmails	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ユーザが salesforce.com からの情報メールを受信するか (true)、否か (false) を示します。
State	string	Create Filter Nillable Update	ユーザに関連付けられている都道府県。
Street	textarea	Create Filter Nillable Update	ユーザに関連付けられている地名、番地。
TimeZoneSidKey	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	必須項目。この項目は制限つき選択リスト項目です。ユーザのタイムゾーンは、ユーザインターフェースで時間を表示または入力する際に使用するオフセットに影響を与えます。ただし、API は、値の問い合わせまたは設定時にユーザのタイムゾーンを使用しません。  この項目の値は、ISO 基準に従って、地域および市区郡を使用して指定されます。ユーザインターフェースでユーザのタイムゾーンを手動で設定し、API でその値を使用して他のユーザを挿入または更新するとより便利な場合があります。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Title	string	Create Filter Nullable Update	「副社長」など、ユーザの役職。
Username	string	Create Filter Update	必須項目。ユーザが API または Salesforce.com ユーザインターフェースにログインするために入力する名前。この項目の値は、電子メールの形式である必要があります。すべての Salesforce.com インスタンスで一意である必要があります。重複する値を持つユーザに <code>create()</code> または <code>update()</code> を実行と、操作が拒否されます。  挿入されたユーザは、Salesforce.com でもライセンスとしてカウントされます。すべての組織には、ライセンスの最大数が設けられています。ユーザを挿入してライセンスの最大数を超えると、 <code>create()</code> コールが拒否されます。
UserPermissionsCallCenterAutoLogin	Boolean	Create Update	Salesforce CRM Call Center が有効である場合必須です。ユーザの組織がコールセンターの自動ログイン機能を使用できるか( <code>true</code> )否か( <code>false</code> )を示します。
UserPermissionsMarketingUser	Boolean	Create Update	必須項目。ユーザがオンラインアプリケーションでキャンペーンを管理できるか( <code>true</code> )できないか( <code>false</code> )を示します。ラベルはマーケティングユーザです。
UserPermissionsMobileUser	Boolean	Create Update	ユーザに Salesforce Mobile ライセンスが割り当てられているか( <code>true</code> )否か( <code>false</code> )を示します。ラベルはモバイルユーザです。Salesforce Mobile ライセンスは、ユーザに Salesforce Mobile アプリケーションへのアクセス権限を付与します。
UserPermissionsOfflineUser	Boolean	Create Update	必須項目。Offline Edition を使用できるか( <code>true</code> )否か( <code>false</code> )を示します。ラベルはオフラインユーザです。
UserPermissionsSFContentUser	boolean	Create Update	ユーザに Salesforce CRM Content ユーザライセンスが割り当てられているか( <code>true</code> )否か( <code>false</code> )を示します。ラベルは Salesforce CRM ユーザです。Salesforce コンテンツユーザライセンスは、ユーザに Salesforce CRM

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
UserPermissionsWirelessUser	boolean	Create Update	Content アプリケーションへのアクセス権限を付与します。
UserPreferencesActivityRemindersPopup	Boolean	Filter Nillable	true の場合、活動リマインダーの時期が来た場合、リマインダーのポップアップウィンドウが自動的に開きます。Salesforce.com ユーザインターフェースの [設定] ▶ [私の個人情報] ▶ [リマインダー] で [アラームの時刻が来たら通知を開始する] に対応します。Salesforce.com オンラインヘルプの「活動アラームのカスタマイズ」を参照してください。
UserPreferencesApexPagesDeveloperMode	Boolean	Filter Nillable	true の場合、ユーザが Visualforce ページおよびコントローラを編集する開発者モードを有効化したことを示します。
UserPreferencesEventRemindersCheckboxDefault	Boolean	Filter Nillable	true の場合、リマインダーのポップアップウィンドウがユーザの行動に設定されています。オンラインアプリケーションの [設定] ▶ [私の個人情報] ▶ [リマインダー] で [デフォルトで、行動のリマインダーを...に設定] チェックボックスに対応します。この項目は、 <a href="#">UserPreference</a> に関連します。Salesforce.com オンラインヘルプの「活動アラームのカスタマイズ」も参照してください。
UserPreferencesTaskRemindersCheckboxDefault	Boolean	Filter Nillable	true の場合、リマインダーのポップアップウィンドウがユーザのタスクに設定されています。オンラインアプリケーションの [設定]

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
UserPreferencesReminderSoundOff	Boolean	Filter Nillable	► [私の個人情報] ► [リマインダー] で [デフォルトで、タスクのリマインダーを...に設定] チェックボックスに対応します。この項目は、 <a href="#">UserPreference</a> に関連します。 Salesforce.com オンラインヘルプの「活動アラームのカスタマイズ」も参照してください。
UserRoleId	reference	Create Filter Nillable Update	true の場合、活動リマインダーの時期が来ると、サウンドが自動再生されます。オンラインアプリケーションの [設定] ► [私の個人情報] ► [リマインダー] で [アラーム音を鳴らす] チェックボックスに対応します。 Salesforce.com オンラインヘルプの「活動アラームのカスタマイズ」を参照してください。
UserType	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	ユーザライセンスのカテゴリ。 <code>UserType</code> はそれぞれ、1つまたは複数の <a href="#">UserLicense</a> に関連付けられます。 <code>UserLicense</code> はそれぞれ、1つまたは複数のプロファイルに関連付けられます。API versions 10.0 以降で利用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>Standard: Salesforce.com ユーザライセンス。このユーザタイプには、Salesforce.com Platform と Salesforce.com Platform One ユーザライセンスが含まれます。ラベルは標準です。</li> <li>PowerPartner: ユーザがパートナーであり、パートナーポータルでアプリケーションにアクセスするため、アクセス権限が制限されている PRM ユーザ。ラベルはパートナーです。</li> <li>CSPLitePortal: ユーザが組織の顧客であり、カスタマーportalでアプリケーションにアクセスするため、アクセス権限が制限されているユーザ。ラベルは大容量ポータルです。</li> </ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
WirelessEmail	email	Create Filter Nillable Update	<ul style="list-style-type: none"> <li>CustomerSuccess: ユーザが組織の顧客であり、カスタマーportalでアプリケーションにアクセスするため、アクセス権限が制限されているユーザ。ラベルはカスタマーportalユーザです。</li> <li>PowerCustomerSuccess: ユーザが組織の顧客であり、カスタマーportalでアプリケーションにアクセスするため、アクセス権限が制限されているユーザ。ラベルはカスタマーportalマネージャーです。</li> </ul> <p>このライセンスタイプのユーザは、直接所有するデータ、またはカスタマーportalロール階層の下位のユーザが所有または共有するデータを参照および編集できます。</p> <p>メモ: 2005年11月の時点で、Salesforce.com Wireless Editionは購入できなくなりました。2005年11月7日より前に、Professional EditionユーザでWireless Edition購入したか、Enterprise EditionユーザでSalesforce.comと契約または契約更新した場合、既存の契約期間が終了するまでWireless Editionを使用できます。</p>

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、ユーザの情報を問い合わせ、組織内のユーザを設定および変更します。他のオブジェクトと異なり、[ユーザ](#)表のレコードは実際のユーザを表し、ユーザが所有するデータは表しません。すべての[ユーザ](#)には、`query()` または `describeSObjects()` を [User](#) オブジェクトと使用するためのアクセス権限が割り当てられています。

## ユーザの無効化

Salesforce.com ユーザインターフェイスまたは API では、[ユーザ](#)に `delete()` を実行できません。Salesforce.com ユーザインターフェースで[ユーザ](#)を非アクティブにできます。また、Salesforce.com ユーザインターフェースま

たはAPIでカスタマーportalまたはパートナーポータルユーザを非アクティブまたは無効にできます。ユーザを削除することはできないため、それらを作成する場合は注意が必要です。



メモ: ポータルユーザの無効化についての詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「ポータルユーザの無効化と非アクティブ化」を参照してください。

## パスワード

セキュリティ上の理由で、API または Salesforce.com ユーザインターフェースを使用してユーザのパスワードを問い合わせできません。ただし、API で、`setPassword()` コールおよび `resetPassword()` コールを使用してユーザパスワードを設定および「リセット」することができます。パスワードのロックアウト状況およびユーザのロックアウトされた状況をリセットする機能は、API で使用できません。Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して、ユーザパスワードのロックアウト状況をチェックおよびリセットする必要があります。

## UserAccountTeamMember

別のユーザのデフォルトの取引先チームの単一のユーザを表します。

商談の営業チームのユーザを表す OpportunityTeamMember も参照してください。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

### 特別なアクセスルール

カスタマーportalユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
AccountAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	必須項目。取引先チームのメンバーが、ユーザがデフォルトの取引先チームに追加した取引先に対して持つアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>Read</li><li>Edit</li></ul> この項目は、少なくとも組織のデフォルトである取引先より高いアクセスレベルに設定する必要があります。
CaseAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist	必須項目。取引先に関連するケースに対して持つ取引先チームのメンバーのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>None</li></ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">Read</a></li> <li>• <a href="#">Edit</a></li> </ul> <p>この項目は、少なくとも組織のデフォルトであるケースより高いアクセスレベルに設定する必要があります。</p>
ContactAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	<p>必須項目。取引先に関連する<a href="#">契約</a>に対して持つ取引先チームのメンバーのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">None</a></li> <li>• <a href="#">Read</a></li> <li>• <a href="#">Edit</a></li> </ul> <p>この項目は、少なくとも組織のデフォルトである取引先責任者より高いアクセスレベルに設定する必要があります。</p> <p> メモ: DefaultContactAccess が「親による制御」に設定されている場合、この項目を作成することも更新することもできません。</p>
OpportunityAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	<p>必須項目。取引先に関連する<a href="#">商談</a>レコードに対して持つ取引先チームのメンバーのアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <a href="#">None</a></li> <li>• <a href="#">Read</a></li> <li>• <a href="#">Edit</a></li> </ul> <p>この項目は、少なくとも組織のデフォルトである商談より高いアクセスレベルに設定する必要があります。</p>
OwnerId	reference	Create Filter	必須項目。デフォルトの取引先チームを所有する <a href="#">ユーザ</a> の ID。この項目は更新できません。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
TeamMemberRole	picklist	Create Filter Nillable Update	チームのメンバーが、ユーザがデフォルトの取引先チームを追加した商談に対して持つロール。有効な値は、「 <a href="#">取引先チームのロール</a> 」選択リストを使用して、組織の管理者が設定します。ラベルはチームロールです。
UserId	reference	Create Filter	必須項目。デフォルトの取引先チームのメンバーである <a href="#">ユーザ</a> の ID。この項目は更新できません。

## 使用方法

このオブジェクトは、Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して実行できる、取引先チーム機能を組織が有効化している場合にのみアクセスできます。

既存のレコードに一致するレコードを作成すると、`create()` コールは、変更された項目を更新し、既存のレコードを返します。

ユーザは、デフォルトの取引先チームを設定して、通常取引先のユーザと連携するその他のユーザを指定できます。

デフォルトの営業チームに関連するオブジェクトについての詳細は、「[UserTeamMember](#)」を参照してください。

## UserLicense

組織内のユーザライセンスを表します。ユーザライセンスに応じて、Salesforce.com のさまざまな機能にアクセスでき、ユーザが使用できるプロファイルが判断されます。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Name	string	Filter idLookup Nillable	ユーザライセンスの内部名。使用できる値は次のとおりです。  <b>Salesforce.com Platform</b> ユーザライセンス: ラベルは Salesforce.com Platform です。  <b>Salesforce.com Platform One User Licence (1)</b> : ラベルは Salesforce.com Platform One です。  <b>Full CRM</b> : ラベルは Salesforce.com です。  <b>Partner</b> : ラベルは [パートナー] です。  <b>Basic Partner</b> : ラベルは [基本パートナー] です。  <b>Standard Partner</b> : ラベルは [標準パートナー] です。  <b>Strategic Partner</b> : ラベルは [戦略パートナー] です。  <b>Customer Portal Manager</b> : ラベルは [カスタマーportalマネージャ] です。  <b>Customer Portal Manager Basic</b> : ラベルは [基本カスタマーportalマネージャ] です。  <b>Customer Portal Manager Standard</b> : ラベルは [標準カスタマーportalマネージャ] です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
LicenseDefinitionKey	string	Filter Nullable	<p><b>Customer Portal User:</b> ラベルは[カスタマーポータルユーザー]です。</p> <p>組織にカスタムユーザライセンスも指定されている場合があることに注意してください。</p> <p><b>AUL:</b> Salesforce.com Platform ユーザライセンスに対応しています。</p> <p><b>AUL1:</b> Salesforce.com Platform One ユーザライセンスに対応しています。</p> <p><b>SFDC:</b> Salesforce.com ユーザライセンスに対応しています。</p> <p><b>POWER_PRM:</b> Partner ユーザライセンスに対応しています。</p> <p><b>PID_BASIC_PRM:</b> Basic Partner ユーザライセンスに対応しています。</p> <p><b>PID_STANDARD_PRM:</b> Standard Partner ユーザライセンスに対応しています。</p> <p><b>PID_STRATEGIC_PRM:</b> Strategic Partner ユーザライセンスに対応しています。</p> <p><b>POWER_SSP:</b> カスタマーポータルマネージャユーザライセンスに対応しています。</p> <p><b>PID_Customer_Portal_Basic:</b> 標準カスタマーポータルマネージャユーザライセンスに対応しています。</p> <p><b>PID_Customer_Portal_Standard:</b> 標準カスタマーポータルユーザライセンスに対応しています。</p> <p><b>SSP:</b> カスタマーポータルユーザのユーザライセンスに対応しています。</p> <p><b>PID_Limited_Customer_Portal_Basic:</b> 標準カスタマーポータルマネージャユーザライセンスに対応しています。</p> <p><b>PID_Overage_Customer_Portal_Basic:</b> 標準カスタマーポータルマネージャユーザライセンスに対応しています。</p>

## 使用方法

「設定・定義を参照する」権限を持つユーザは、[UserLicense](#)オブジェクトを使用して、組織で現在定義されているユーザライセンスのセットを参照することができます。

[UserLicense](#)オブジェクトは現在、バルクユーザ作成によって使用され、各[プロファイル](#)のユーザライセンスを指定します。たとえば、APIを使用してポータルユーザを作成し、各ポータルユーザライセンスに属するプロファイルを知りたい場合、各プロファイルのこのオブジェクトに[query\(\)](#)を実行し、`LicenseDefinitionKey`をチェックして関連するユーザライセンスを識別します。

## UserPreference

組織内の特定のユーザの機能設定を表します。

サポートされているコール

`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Preference	<a href="#">picklist</a>	<a href="#">Filter</a>	ユーザ設定の名前。使用できる値は、Event Reminder Default Lead Time および Task Reminder Default Time です。これらの値は、ユーザオブジェクトの <a href="#">UserPreferencesEventRemindersCheckboxDefault</a> および <a href="#">UserPreferencesTaskRemindersCheckboxDefault</a> に関連します。
UserId	<a href="#">reference</a>	<a href="#">Filter</a>	このロールに関連付けられているユーザのID。ラベルはユーザ IDです。
Value	<a href="#">string</a>	<a href="#">Filter</a> <a href="#">Nillable</a>	ユーザ設定の値。Event Reminder Default Lead Time の場合、値の間隔は 0 分から 2 日間までです。Task Reminder Default Time の場合、値は午前 12 時から午後 11 時 30 分までの 30 分単位です。各セットの値を参照するには、オンラインアプリケーションの [設定] ▶ [私の個人情報] ▶ [リマインダー] に移動します。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、組織で現在設定されているユーザ設定のセットに `query()` を実行できます。クライアントアプリケーションでは、[ユーザオブジェクト](#)を問い合わせて有効な[ユーザID](#)を取得し、[UserPreference](#)オブジェクトにアクセスすることができます。

すべての[ユーザ](#)には、`query()` または `describeSObjects()` をこのオブジェクトと使用するためのアクセス権限が割り当てられています。

## UserRole

組織内のユーザロールを表します。



メモ: このオブジェクトは、以前のバージョンの API マニュアルでは「Role」でした。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`describeSObjects()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

特別なアクセスルール

カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
CaseAccessForAccountOwner	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	取引先所有者のケースのアクセスレベル。
ContactAccessForAccountOwner	picklist	Filter Nillable Restricted picklist	取引先所有者の取引責任者のアクセスレベル。   メモ: DefaultContactAccess が「親による制御」に設定されている場合、この項目を作成することも更新することもできません。
ForecastUserId	reference	Filter Nillable	このロールに関連付けられている売上予測マネージャの ID。ラベルはユーザ ID です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	Description
IsPartner	boolean	Defaulted on create Filter	ユーザーロールがPRM ポータルへのアクセス権限を持つパートナーか(true)、そうでないか(false)を示します。この項目はリリース 9.0 以降で使用できます。代わりに、値が Partner の <a href="#">PortalType</a> を使用します。
MayForecastManagerShare	boolean	Filter	売上予測マネージャが手動で自身の売上予測を共有できるかどうかを示します。
Name	string	Filter idLookup	必須項目。ロールの名前。
OpportunityAccessForAccountOwner	picklist	Filter Restricted picklist	必須項目。取引先所有者の商談のアクセスレベル。組織全体のデフォルトで指定されているものより下位の商談アクセス権限でユーザーロールを設定することはできません。
ParentRoleId	reference	Filter Nillable	親ロールの ID。
PortalRole	picklist	Filter Nillable	エグゼクティブ、マネージャ、ユーザのいずれかのポータルロール。
PortalType	picklist	Defaulted on create Filter	<p>この値は、ロールのポータルの種類を示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>None: Salesforce.com アプリケーションのロール。</li> <li>CustomerPortal: カスタマー ポータルのロール。</li> <li>Partner: PRM ポータルのロール。リリース 8.0 で使用されていた項目 IsPartner はこの値に対応付けます。</li> </ul> <p>この項目は、リリース 9.0 以降 IsPartner と置き換えられます。</p>
RollupDescription	string	Filter Nillable	売上予測ロールアップの説明。ラベルは説明です。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、組織で現在設定されているロールのセットに [query\(\)](#) を実行できます。クライアントアプリケーションでこのオブジェクトを使用して、[ユーザ](#)を問い合わせるまたは変更する場合に使用する、有効な [UserRole](#) ID を取得します。

すべてのユーザには、`query()` または `describeSObjects()` をこのオブジェクトで起動するためのアクセス権限が割り当てられています。クライアントアプリケーションが「すべてのデータを更新」権限でログインする場合、`UserRole` レコードに `query()`、`create()`、`delete()`、および `update()` を実行できます。

## UserTeamMember

別のユーザのデフォルトの営業チームの単一のユーザを表します。

サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

特別なアクセスルール

- このオブジェクトは、チームセリング機能を使用できる組織でのみ有効です。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
OpportunityAccessLevel	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	必須項目。チームのメンバーが、ユーザがデフォルトの営業チームを追加した商談に対してアクセスレベル。使用できる値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"><li>Read</li><li>Edit</li></ul> この項目は、少なくとも組織のデフォルトである商談より高いアクセスレベルに設定する必要があります。
OwnerId	reference	Create Filter	必須項目。デフォルトの営業チームを所有するユーザの ID。この項目は更新できません。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください
TeamMemberRole	picklist	Create Filter Nillable Update	チームのメンバーが、ユーザがデフォルトの営業チームを追加した商談に対して持つロール。有効な値は、「[営業チームのロール] 選択リストを使用して、組織の管理者が設定します。ラベルはチームロールです。」
UserId	reference	Create Filter	必須項目。デフォルトの営業チームのメンバーであるユーザの ID。この項目は更新できません。

## 使用方法

既存のレコードに一致するレコードを作成すると、`create()` コールは、変更された項目を更新し、既存のレコードを返します。

ユーザオブジェクトは、デフォルトの営業チームを設定して、通常商談のユーザと連携する他のユーザオブジェクトを指定できます。

## UserTerritory

テリトリーに割り当てられたユーザを示します。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「テリトリー管理の概要」を参照してください。

### サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`describeSObjects()`

### 特別なアクセスルール

- 組織にテリトリー管理が有効化されている場合にのみ使用できます。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsActive	Boolean	Defaulted on create Filter	<p>指定されたテリトリーのユーザが有効(true)か無効(false)かを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>テリトリーで有効なユーザは、テリトリーに明示的に割り当てられ、テリトリーと関連付けられた進行中の商談、終了した商談を所有することも所有しないこともあります。</li><li>テリトリーで有効でないユーザは、テリトリーに明示的に割り当てられませんが、テリトリーに関連付けられた進行中または終了した商談を所有します。たとえば、ユーザはテリトリー外に移行する場合がありますが、以前のテリトリーの商談を所有することができます。</li></ul> <p>ユーザがテリトリーから削除されるまで(テリトリーから移動するだけではなく)、レコードが<code>getDeleted()</code> コールに返されます。</p>
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	レコードがごみ箱に移動した(true)か、移動していない(false)かを示します。ラベルは削除です。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
TerritoryId	reference	Create	ユーザが割り当てられたテリトリーの ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
		Filter	
UserId	reference	Create	ユーザの ID。
		Filter	

## 使用方法

ユーザがテリトリー内で無効な場合、テリトリーに関連付けられ、ユーザが所有する商談はすべて終了し、ユーザは返されません。

## Vote

[アイデア](#) または [返信](#) にユーザが行った投票を表します。



メモ: API バージョン 16.0 以前の場合、投票オブジェクトに対する SOQL クエリは、アイデアオブジェクトの投票を返します。API バージョン 17.0 以降、SOQL クエリは [アイデア](#) オブジェクトおよび [返信](#) オブジェクトを返します。

## サポートされているコール

`create()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
IsDeleted	Boolean	Defaulted on create Filter	オブジェクトがごみ箱に移動した( <code>true</code> )か、移動していない( <code>false</code> )かを示します。ラベルは削除済みです。
ParentId	reference	Create Filter	この投票に関連付けられている <a href="#">アイデア</a> または <a href="#">返信</a> の ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
Type	picklist	Create Filter Restricted picklist	投票の種類を示す選択リスト。値 <code>Up</code> は、投票が関連するアイデアまたは返信に対する承認であることを示します。値 <code>Down</code> は、投票が関連するアイデアまたは返信に対して反対であることを示します。



メモ: 投票データを Salesforce.com にインポートし、`CreatedDate` など、監査項目に値を設定する必要がある場合、salesforce.com に連絡してください。これらの項目を自身で設定する必要がない限り、監査項目は API 操作時に自動的に更新されます。詳細は、「[システム項目](#)」を参照してください。

## 使用方法

バージョン 12.0 以降で、このオブジェクトを使用して、アイデアにユーザが行った投票を追跡します。アイデアの詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「アイデアの概要」を参照してください。

バージョン 17.0 以降で、このオブジェクトを使用して、返信にユーザが行った投票を追跡します。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「回答の概要」を参照してください。

## WebLink

URL または [Scontrol](#) へのカスタムリンクを表します。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`search()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

### 特別なアクセスルール

- カスタムリンクを作成するには、クライアントアプリケーションは「アプリケーションをカスタマイズする」権限でログインする必要があります。
- カスタマーポータルユーザは、このオブジェクトにアクセスできません。

### 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
Description	<code>textarea</code>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nullable</a> <a href="#">Update</a>	カスタムリンクの説明。最大 1,000 文字です。
DisplayType	<code>picklist</code>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a> <a href="#">Nullable</a> <a href="#">Restricted picklist</a> <a href="#">Update</a>	ボタン、リンク、または一括操作ボタンなど、表示の種類。
EncodingKey	<code>picklist</code>	<a href="#">Create</a> <a href="#">Filter</a>	必須項目。URL リンクのパラメータのエンコード。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Restricted picklist Update	
HasMenubar	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ポップアップウィンドウにメニューバーが表示されるか (true) 否か (false) を示しています。
HasScrollbars	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ポップアップウィンドウにスクロールバーが表示されるか (true) 否か (false) を示しています。
HasToolbar	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ポップアップウィンドウにブラウザツールバーが表示されるか (true) 否か (false) を示しています。通常、ツールバーには [戻る]、[進む]、[印刷]などのナビゲーションボタンがあります。
Height	int	Create Filter Update Nullable	ポップアップの高さ (ピクセル)。
IsProtected	Boolean	Create Filter Update	オブジェクトが保護されているか (true) 否か (false) を示します。他の組織にインストールされている、保護されたコンポーネントは、登録者の組織で作成されたコンポーネントにリンクまたは参照することはできません。今後のリリースのパッケージでは、管理者がインストールの失敗を心配することなく、管理パッケージに含まれる保護されたコンポーネントを容易に削除することができます。ただし、コンポーネントが保護されていないものとしてマークされ、グローバルにリリースされると、開発者はそのコンポーネントを削除することはできません。
IsResizable	Boolean	Create Defaulted on create Filter	ユーザがポップアップウィンドウのサイズを変更することができるか (true) 否か (false) を示します。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
		Update	
LinkType	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	必須項目。リンクの種類(SコントロールまたはURL)。
MasterLabel	string	Create Filter Update Nillable	リンクのマスターラベル。最大 240 文字です。この表示値は、翻訳されない内部ラベルです。
Name	string	Create Filter idLookup Update Nillable	必須項目。ページに表示される名前。
NamespacePrefix	string	Filter Nillable	<p>このオブジェクトと関連付けられた名前空間プレフィックス。管理パッケージを作成する Developer Edition 組織には、一意の名前空間プレフィックスがあります。上限は 15 文字です。</p> <p><i>namespacePrefix_componentName</i> 表記を使用して、管理パッケージのコンポーネントを参照できます。</p> <p>名前空間プレフィックスには、次のいずれかの値があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Developer Edition 組織では、名前空間プレフィックスは、サポートしているすべてのオブジェクトに組織の名前空間プレフィックスを設定します。オブジェクトがインストールされた管理パッケージ内にある場合の例外があります。その場合、オブジェクトにはインストールされた管理パッケージの名前空間プレフィックスが付きます。これは、パッケージ開発者の Developer Edition 組織の名前空間プレフィックスです。</li> <li>Developer Edition 組織でない場合、NamespacePrefix は、インストールされた管理パッケージの一部であるオブジェクトに設定されます。その他すべてのオブジェクトには名前空間プレフィックスはありません。</li> </ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			ログインしたユーザに「アプリケーションのカスタマイズ」権限が付与されていない場合、この項目にアクセスできません。
OpenType	picklist	Create Filter Restricted picklist Update	必須項目。ブラウザでクリックしたときに、カスタムリンクがどのように開くか(NewWindow、Sidebar、またはNoSidebar)。
PageOrSObjectType	picklist	Create Filter Restricted picklist	必須項目。標準オブジェクトの場合、カスタムリンクが表示されるページの名前。カスタムオブジェクトの場合、オブジェクトの名前。
Position	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist Update	ポップアップウィンドウが開く画面の位置(左上、フルスクリーン、またはなし)。
RequireRowSelection	Boolean	Create Defaulted on create Filter Nillable	カスタムリンクに行選択が必要か(true)、否か(false)を示します。
ScontrolId	reference	Create Filter Update	リンクするカスタム S コントロールオブジェクト( <a href="#">Scontrol</a> )の ID。カスタム S コントロールオブジェクトには、Salesforce.com の項目をトークンとして含めることができます。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してくださいラベルはカスタム S コントロール IDです。
ShowsLocation	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ポップアップウィンドウに URL を記載したブラウザのアドレスバーが表示されるか(true)否か(false)を示しています。

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
ShowsStatus	Boolean	Create Defaulted on create Filter Update	ブラウザの下部にステータスバーを表示します。
Url	string	Create Nillable Update	必須項目。リンクするページの URL。URL には、Salesforce.com の項目をトークンとして含めることができます。最大 1,024 KB です。
Width	int	Create Filter Nillable Update	ポップアップの幅(ピクセル)。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、カスタムリンクをプログラム的に管理します。クライアントアプリケーションは Salesforce.com データを外部 URL、組織のインターネットまたはその他のバックエンドオフィスシステムと統合することができます。カスタムリンクは次を示します。

- www.google.comなどの外部 URLか、会社のインターネット
- Java アプレットまたは Active-X コントロールなどのカスタム S コントロール。

カスタムリンクの URL またはカスタム S コントロールには、Salesforce.com の項目をトークンとして含めることができます。

## WebLinkLocalization

組織でトランスレーショントラベルを使用できる場合、WebLinkLocalization オブジェクトは、URL または S コントロールへのカスタムリンクの項目ラベルを翻訳します。トランスレーショントラベルの詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

### サポートされているコール

`create()`、`update()`、`delete()`、`query()`、`retrieve()`、`describeSObjects()`

### 特別なアクセスルール

- 組織は Professional、Enterprise、Developer、または Unlimited Edition を使用し、トランスレーショントラベルを使用できる必要があります。
- このオブジェクトを表示するには、「設定・定義を参照する」権限が割り当てられている必要があります。

## 項目

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
LanguageLocaleKey	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist	<p>この項目は、API バージョン 16.0 以前で使用できません。[Language] 項目と同じです。</p>
Language	picklist	Create Filter Nillable Restricted picklist	<p>この項目は、API バージョン 17.0 以降で使用できます。言語とロケール ISO を組み合わせたコード。アプリケーションに表示されるラベルの言語を制御します。</p> <p>選択リストには次のラベルと値が表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>英語: en_US</li> <li>ドイツ語: de</li> <li>スペイン語: es</li> <li>フランス語: fr</li> <li>イタリア語: it</li> <li>日本語: ja</li> <li>スウェーデン語: sv</li> <li>韓国語: ko</li> <li>中国語 (繁体字): zh_TW</li> <li>中国語 (簡体字): zh_CN</li> <li>ポルトガル語 (ブラジル): pt_BR</li> <li>オランダ語: nl_NL</li> <li>デンマーク語: da</li> <li>タイ語: th</li> <li>フィンランド語: fi</li> <li>ロシア語: ru</li> </ul> <p>salesforce.com の担当者へ要求すると、次のエンドユーザ言語も使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>チェコ語: cs</li> <li>スペイン語 (メキシコ): es_MX</li> <li>ハンガリー語: hu</li> <li>インドネシア語: in</li> <li>ポーランド語: pl</li> <li>ルーマニア語: ro</li> <li>トルコ語: tr</li> <li>ウクライナ語: uk</li> <li>ベトナム語: vi</li> </ul>

項目	項目のデータ型	項目のプロパティ	説明
			この項目の値は、デフォルトのロケール選択とは関連しません。
WebLinkId	reference	Create Filter Nillable	翻訳されている <a href="#">WebLink</a> の ID。
Value	string	Create Filter Nillable Update	カスタムリンクの実際に翻訳されたラベル。ラベルは翻訳です。

## 使用方法

このオブジェクトを使用して、URL または S コントロールへのカスタムリンクを、Salesforce.com でサポートされているさまざまな言語に翻訳します。トランスレーションワークベンチを使用できるユーザはカスタムリンクの翻訳を参照できますが、カスタムリンクの翻訳に `create()` または `update()` を実行するには、「アプリケーションをカスタマイズする」権限、「翻訳を管理する」権限、または「カテゴリを管理する」権限が必要です。

# 第9章

## コアコール

次の表は、APIがサポートしているコールをアルファベット順に表示し、それぞれの簡単な説明を示しています。コール名をクリックすると、構文、使用方法、コールの詳細情報が表示されます。

 メモ: APIユーティリティコールのリストは「[ユーティリティコール](#)」を、ディスクライブコールのリストは「[ディスクライブコール](#)」を参照してください。

コール	説明
<a href="#">convertLead()</a>	リードを取引先、取引先責任者またはオプションで商談へと変換します。
<a href="#">create()</a>	組織のデータに1つ以上のオブジェクトを追加します。
<a href="#">delete()</a>	組織のデータから1つ以上のオブジェクトを削除します。
<a href="#">emptyRecycleBin()</a>	ごみ箱からレコードを直ちに削除します。
<a href="#">getDeleted()</a>	指定された時間以降削除された、指定されたオブジェクトのオブジェクトのIDを取得します。IDについての詳細は、「 <a href="#">IDデータ型</a> 」を参照してください。
<a href="#">getUpdated()</a>	指定された時間以降更新された、指定されたオブジェクトのオブジェクトのIDを取得します。IDについての詳細は、「 <a href="#">IDデータ型</a> 」を参照してください。
<a href="#">invalidateSessions()</a>	<code>sessionId</code> で指定された1つ以上のセッションを終了します。
<a href="#">login()</a>	ログインサーバにログインし、クライアントセッションを開始します。
<a href="#">logout()</a>	ログインしているユーザのセッションを終了します。
<a href="#">merge()</a>	同じオブジェクト種別のレコードをマージします。
<a href="#">process()</a>	承認のための承認プロセスインスタンスの配列を送信するか、承認、拒否、削除のために承認プロセスインスタンスの配列を処理します。
<a href="#">query()</a>	指定されたオブジェクトに対してクエリを実行し、指定された検索条件に一致するデータを返します。

コール	説明
<code>queryAll()</code>	<code>query()</code> と同様ですが、削除されたアイテムとアーカイブされたアイテムを含みます。
<code>queryMore()</code>	クエリから次のオブジェクトのバッチを取得します。
<code>retrieve()</code>	指定されたオブジェクト ID に基づく 1 つ以上のオブジェクトを取得します。
<code>search()</code>	組織データに対するテキスト検索を実行します。
<code>undelete()</code>	<code>queryAll()</code> で指定されたレコードを復元します。
<code>update()</code>	組織のデータの 1 つ以上のオブジェクトを更新します。
<code>upsert()</code>	新しいオブジェクトを作成し、既存のオブジェクトを更新します。既存オブジェクトの存在を確認するために、カスタムオブジェクトの一致を確認します。

## convertLead()

リードを取引先、取引先責任者またはオプションで商談へと変換します。

### 構文

```
LeadConvertResult[] = binding.convertLead(leadConverts LeadConvert[]);
```

### 使用方法

`convertLead()` を使用して、リードを取引先、取引先責任者、オプションで商談に変換します。リードを変換するには、クライアントアプリケーションはリードの「リードの取引の開始」および「編集」権限と、取引先、取引先責任者および商談オブジェクトの「作成」および「編集」権限をもってログインしなければなりません。

このコールにより、評価済みリードの情報を新しく作成した、または更新された取引先、取引先責任者、商談に簡単に変換できます。リードが評価される時期は、組織の独自のガイドラインを設定できます。しかし、予測したい実際の商談になるとすぐにリードを変換することが一般的です。

データが既存の取引先や取引先責任者オブジェクトにマージされる場合、ターゲットオブジェクトの空の項目のみが上書きされ、ID を含めた既存データは上書きされません。唯一の例外は、クライアントアプリケーションが `overwriteLeadSource` を `true` に設定している場合です。この場合、ターゲットの取引先責任者オブジェクトの `LeadSource` 項目が、ソースのリードオブジェクトの `LeadSource` 項目のコンテンツで上書きされます。

リードを変換する際は、次のルールやガイドラインを考慮する必要があります。

### 項目の対応付け

システムは、標準リード項目を標準取引先、取引先責任者、商談項目に自動的に対応付けます。カスタムリードのフィールドに関しては、Salesforce.com の管理者が、カスタムアカウント、取引先責任者、商談フィールドのマッピング方法を指定することができます。

## レコードタイプ

組織でレコードタイプを使用している場合、新しい所有者のデフォルトのレコードタイプはリード変換時に作成されたレコードに割り当てられます。レコードタイプの詳細は、Salesforce.comオンラインヘルプを参照してください。

## 選択リストの値

システムは、空の標準リード選択リスト項目を対応付けるときに、取引先、取引先責任者、商談のデフォルトの選択リストを割り当てます。組織でレコードタイプを使用している場合、空の値は新しいレコード所有者のデフォルトの選択リストの値で置き換えられます。

## 文字列値

API バージョン 15.0 以降、文字列を含む項目に値を指定し、値が項目に対して大きすぎる場合、コールは失敗してエラーが返されます。これまでのバージョンの API では、値は切り捨てられ、コールは正常に終了していました。バージョン 15.0 以降でもこの動作を保持する場合、[AllowFieldTruncationHeader](#) SOAP ヘッダーを使用してください。

## リードの変換の基本ステップ

リードの変換は、次の基本ステップに従います。

1. クライアントアプリケーションは、変換されるリードの ID を確認します。
2. オプションで、クライアントアプリケーションはリードをマージする取引先の ID も確認します。クライアントアプリケーションは SOSL または SOQL を使用し、リード名と一致する取引先を検索します。次に例を示します。

```
select id, name from account where name='CompanyNameOfLeadBeingMerged'
```

3. オプションで、クライアントアプリケーションはリードをマージする取引先責任者の ID も確認します。クライアントアプリケーションは SOSL または SOQL を使用し、リードの取引先責任者名と一致する取引先責任者を検索します。次に例を示します。

```
select id, name from contact where firstName='FirstName' and lastName='LastName' and accountid = '001...'
```

4. オプションで、クライアントアプリケーションはリードから商談を作成するかどうかを決定します。
5. クライアントアプリケーションは LeadSource 表へのクエリを実行して考えられるすべての取引開始後の状況オプション (SELECT ... FROM LeadStatus WHERE IsConverted='1') を取得し、取引開始後の状況の値を選択します。
6. クライアントアプリケーションは [convertLead\(\)](#) をコールします。
7. クライアントアプリケーションは返された結果の各 [LeadConvertResult](#) オブジェクトを繰り返し確認し、各リードの変換が成功したかどうかを確認します。
8. ベストプラクティスは、クライアントアプリケーションで WhoId が ContactId であるタスクを実行することです。商談が作成された場合、WhatId が OpportunityId となります。
9. オプションで、キューが所有するリードを変換する場合は所有者を指定する必要があります。これは、キューが取引先と取引先責任者を所有することができないからです。既存の取引先または取引先責任者を指定する場合も、所有者を指定する必要があります。

## コード例—Java

```
private Boolean convertLead (String leadId, String contactId, String accountId, boolean
overWriteLeadSource, boolean doNotCreateOpportunity, String opportunityName, String
convertedStatus, boolean sendEmailToOwner) { LeadConvert leadConvert = new LeadConvert();
leadConvert.setLeadId(new ID(leadId)); leadConvert.setContactId(new ID(contactId));
leadConvert.setAccountId(new ID(accountId));
leadConvert.setOverwriteLeadSource(overWriteLeadSource);
leadConvert.setDoNotCreateOpportunity(doNotCreateOpportunity);
leadConvert.setOpportunityName(opportunityName);
leadConvert.setConvertedStatus(convertedStatus);
leadConvert.setSendNotificationEmail(sendEmailToOwner); LeadConvertResult[] lcr = null; try
{ lcr = binding.convertLead(new LeadConvert[] {leadConvert}); for (int i=0; i<lcr.length;
i++) { if (lcr[i].isSuccess()) { System.out.println("Conversion succeeded.\n");
LeadConvertResult result = lcr[i]; System.out.println("The new contact id is: " +
result.getContactId()); } else { System.out.println("The conversion failed because: " +
lcr[i].getErrors(0).getMessage()); } } } catch (UnexpectedErrorFault e) {
System.out.println("Unexpected error encountered:\n\n" + e.getExceptionMessage()); return
false; } catch (RemoteException e) { System.out.println("Remote exception encountered:\n\n" +
e.getMessage()); return false; } return true; }
```

## コード例—C#

```
private bool convertLead(string leadId, string contactId, string accountId, bool
overWriteLeadSource, bool doNotCreateOpportunity, string opportunityName, string
convertedStatus, bool sendEmailToOwner) {

sforce.LeadConvert leadConvert = new sforce.LeadConvert(); leadConvert.leadId = leadId;
leadConvert.contactId = contactId; leadConvert.accountId = accountId;
leadConvert.overwriteLeadSource = overWriteLeadSource; leadConvert.doNotCreateOpportunity
= doNotCreateOpportunity; leadConvert.opportunityName = opportunityName;
leadConvert.convertedStatus = convertedStatus; leadConvert.sendNotificationEmail =
sendEmailToOwner;

sforce.LeadConvertResult[] lcr = null; try {

lcr = binding.convertLead(new sforce.LeadConvert[] {leadConvert}); for (int
i=0;i<lcr.Length;i++) if (lcr[i].success) { Console.WriteLine("Conversion succeeded.\n");
sforce.LeadConvertResult result = lcr[i]; Console.WriteLine("The new contact id is: " +
result.contactId); } else { Console.WriteLine("The conversion failed because: " +
lcr[i].errors[0].message); } }

catch (Exception e) { Console.WriteLine("Unexpected error encountered:\n\n" + e.Message);
return false; }

return true; }
```

## LeadConvert の引数

このコールは LeadConvert オブジェクトの配列を受け取ります (100 個まで)。LeadConvert オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
accountId	ID	リードをマージする取引先の ID。個人取引先を含めた既存の取引先を更新する場合のみ必要です。accountIdが指定されない場合、APIは新しい取引先を作成します。新しい取引先を作成するには、クライアントアプリケーションは条件を満たすアクセス権限でログインする必要があります。リードを既存の取引先にマージするには、クライアントアプリケーションは指定

名前	型	説明
		された取引先への「参照・更新」アクセス権を持ってログインする必要があります。取引先名と他の既存のデータは上書きされません。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
contactId	ID	<p>リードがマージされる<a href="#">取引先責任者</a>の ID (この取引先責任者は、指定された accountId と関連付けられていないければならず、accountId の指定が必要です)。既存の取引先を更新する場合のみ必要です。</p> <p> <b>重要:</b> リードを<a href="#">個人取引先</a>に変換する場合は contactId を指定しないでください。指定するとエラーになります。個人取引先の accountId のみを指定してください。</p> <p>contactID が指定されない場合、API は<a href="#">取引先</a>と暗示的に関連付けられる新しい取引先責任者を作成します。新しい取引先責任者を作成するには、クライアントアプリケーションは条件を満たすアクセス権限でログインする必要があります。リードを既存の取引先責任者にマージするには、クライアントアプリケーションは指定された取引先責任者への「参照・更新」アクセス権を持ってログインする必要があります。取引先責任者および他の既存のデータは上書きされません(ただし、overwriteLeadSource が true に設定されている場合は LeadSource 項目のみが上書きされます)。IDについての詳細は、「<a href="#">ID データ型</a>」を参照してください</p>
convertedStatus	string	<p>変換されたリードの有効な <a href="#">LeadStatus</a> 値で必須項目。この項目に設定できる値のリストを取得するには、クライアントアプリケーションが <a href="#">LeadStatus</a> オブジェクトへのクエリを実行します。クエリの例は次のとおりです。</p> <pre>Select Id, MasterLabel from LeadStatus where IsConverted=true</pre>
doNotCreateOpportunity	boolean	リード変換時に <a href="#">商談</a> を作成するかどうかを指定(デフォルトは false で商談を作成し、true では作成しない)。リードの商談を作成したくない場合のみ、このフラグを true に設定します。デフォルトでは、商談は作成されます。
leadId	ID	変換するリードの ID で必須項目。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください。
opportunityName	string	作成する商談の名前。名前が指定されない場合、デフォルト値はリードの会社名となります。この項目の文字数は 80 文字までです。doNotCreateOpportunity 引数が true の場合、商談は作成されません。また、この項目は空のままにする必要があります。空でない場合はエラーが発生します。

名前	型	説明
overwriteLeadSource	boolean	ターゲットの取引先責任者オブジェクトの LeadSource 項目に、ソースのリードオブジェクトの LeadSource 項目の値を上書きするかどうかを指定します(上書きする場合は true、上書きしない場合は false で、デフォルトでは上書きしません)。この項目を true に設定するには、クライアントアプリケーションはターゲットの取引先責任者の contactId を指定する必要があります。
ownerId	ID	新しく作成する取引先、取引先責任者、商談の所有者となるユーザの ID を指定。クライアントアプリケーションでこの値を指定しない場合、リードの所有者が新しいオブジェクトの所有者となります。既存のオブジェクトにマージする場合は適用されません。ownerId が指定された場合、API は既存の取引先または取引先責任者の ownerId 項目を上書きしません。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
sendNotificationEmail	boolean	ownerId で指定された所有者に電子メールの通知を送るかどうかを指定(送る場合は true、送らない場合は false で、デフォルトでは送らない)。

レスポンス

[LeadConvertResult\[\]](#)

エラー

[UnexpectedErrorFault](#)

## LeadConvertResult

このコールは LeadConvertResult オブジェクトの配列を返します。LeadConvertResult 配列の各要素は、[convertLead\(\)](#) コールの leadConverts パラメータとして渡された LeadConvert[] 配列に対応します。たとえば、LeadConvertResult 配列の最初のインデックスで返されたオブジェクトは、LeadConvert[] 配列の最初のインデックスで指定されたオブジェクトに一致します。LeadConvertResult オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
accountId	ID	新しい取引先の ID(新しい取引先が指定されている場合)。 <a href="#">convertLead()</a> が起動された場合は、指定された取引先の ID。
contactId	ID	新しい取引先責任者の ID(新しい取引先責任者が指定されている場合)。 <a href="#">convertLead()</a> が起動された場合は、指定された取引先責任者の ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
leadId	ID	変換されたリードの ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください

名前	型	説明
opportunityId	ID	新しい商談の ID ( <code>convertLead()</code> が起動されたときに新規に作成された場合)。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください。
success	boolean	オブジェクトの <code>convertLead()</code> コールが成功したかどうかを示す(成功した場合は <code>true</code> 、失敗した場合は <code>false</code> )。
errors	Error[]	<code>create()</code> コールでエラーが発生した場合、エラーコードと説明を示す 1 つ以上のエラー オブジェクト。

## create()

組織のデータに 1 つ以上のオブジェクトを追加します。

### 構文

```
SaveResult[] = binding.create(sObject[] sObjects);
```

### 使用方法

`create()` は、[取引先](#)や[取引先責任者](#)など 1 つ以上のオブジェクトを組織の情報に追加するのに使用します。`create()` コールは SQL の INSERT 文に類似しています。

オブジェクトを作成する際は、次のルールやガイドラインを考慮する必要があります。

### 権限

指定したオブジェクトに個別のオブジェクトを作成するには、クライアントアプリケーションは条件を満たすアクセス権限でログインする必要があります。詳細は、「[データアクセスに影響する要素](#)」を参照してください。

### 特殊な処理

特定のオブジェクトと、そのオブジェクトの特定の項目には、特殊な処理や権限が必要です。たとえば、オブジェクトの親オブジェクトへのアクセス権限も必要となる場合があります。特定のオブジェクトの `create()` を実行する前に、[標準オブジェクト](#) の説明を読む必要があります。

### 作成可能な項目

`createable` が `true` に設定されているオブジェクトのみが `create()` コールで作成できます。指定されたオブジェクトが作成可能かどうかを確認するには、クライアントアプリケーションでオブジェクトに対する `describeSObjects()` コールを実行し、`createable` プロパティを確認します。

### 自動的に保持される項目

API は ID 項目に一意な値を自動的に生成します。`create()` では、`sObject` で ID 値を明示的に指定できません。`SaveResult[]` オブジェクトには、正常に作成された各オブジェクトの ID を保持しています。ID についての詳細は、「[ID データ型](#)」を参照してください。

API は、`CreatedDate`、`CreatedById`、`LastModifiedDate`、`LastModifiedById` および `SystemModstamp` などの特定の項目を自動的に生成します。これらの値は明示的に指定できません。

## 必須項目

デフォルト値が事前に設定されていない必須項目には、値を指定する必要があります。詳細は、「[必須項目](#)」を参照してください。

## デフォルト値

オブジェクトによっては、`OwnerId`などデフォルト値のある項目があります。そのような項目に値を指定しないと、API は項目にデフォルト値を割り当てます。たとえば、`OwnerId`をオーバーライドしない場合、API はクライアントアプリケーションがログインしたユーザに関連したユーザ ID で項目に値を生成します。

- ・ デフォルト値が事前に設定されていない必須項目には、値を指定する必要があります。
- ・ オブジェクトの他の項目では、値を明示的に指定しない場合は `null` (`VT_EMPTY`) となります。

## 参照整合性

クライアントアプリケーションは参照整合性に従う必要があります。たとえば、親オブジェクトの子であるオブジェクトを作成する場合、子と親をリンクする外部キー情報を提供する必要があります。たとえば、[CaseComment](#) を作成する場合、親の [ケース](#) の有効な `caseID` を指定する必要があります、また、親のケースがデータベース内に存在しなければなりません。

## データ値の検証

整数の項目にはアルファベット文字でなく整数を指定するなど、項目のデータ型に応じた値を指定する必要があります。クライアントアプリケーションで、プログラミング言語と開発ツールで指定されたデータ形式の規則にしたがってください (SOAP メッセージのデータ型への対応付けは開発ツールが処理します)。

## 文字列の値

文字列項目に値を格納する場合、前後にある空白は API が切り捨てます。たとえば、名前項目の値に  
" ABC Company " と入力されると、その値はデータベースに "ABC Company" と保存されます。

API バージョン 15.0 以降、文字列を含む項目に値を指定し、値が項目に対して大きすぎる場合、コールは失敗してエラーが返されます。これまでのバージョンの API では、値は切り捨てられ、コールは正常に終了していました。バージョン 15.0 以降でもこの動作を保持する場合、[AllowFieldTruncationHeader](#) SOAP ヘッダーを使用してください。

## 割り当てルール

新しい[取引先](#) (取引先はテリトリー管理割り当てルールを実行)、[ケース](#)または[リード](#)オブジェクトを作成する際、クライアントアプリケーションで [AssignmentRuleHeader](#) のオプションを設定し、Salesforce.com ユーザインターフェースで設定した割り当てルールに基づき、ケースまたはリードを 1 人以上のユーザに割り当てることができます。

## 作成するオブジェクト数の上限

クライアントアプリケーションは、単一の `create()` コールで最大 200 個のオブジェクトを追加できます。`create` 要求が 200 オブジェクトを超えると、操作全体が失敗します。

## リレーション

[query\(\)](#) コールではリレーションを使用できますが、取引先と取引先責任者など、親子関係がある場合でも異なる型のオブジェクトは作成できません。

## create() と外部キー

外部 ID 項目を外部キーとして使用し、レコードを問い合わせて ID を最初に取得することなく、レコードの作成、更新または挿入を一度の手順で行うことができます。この操作を実行するには、外部キー名と外部 ID 項目値を指定します。例:

```
public void createForeignKeySample() { Opportunity newOpportunity = new Opportunity();  
newOpportunity.setStageName("Prospecting"); Account parentAccountRef = new Account();  
parentAccountRef.setExternal_SAP1_ACCTID__c("SAP111111");  
newOpportunity.setAccount(parentAccount); SaveResult[] results = binding.create(new SObject[]  
{newOpportunity}); // check results and do more processing after the create call ... }
```

## オブジェクト作成の基本ステップ

オブジェクト作成は、次の基本ステップに従います。

1. セッションから 1 つ以上のオブジェクトをインスタンス化します。各オブジェクトに対し、追加するデータで項目を生成します。
2. `sObject[]` 配列を作成し、作成したいオブジェクトで配列を生成します。すべてのオブジェクトが同じ型でなければなりません。
3. `create()` をコールし `sObject[]` 配列を渡します。
4. `SaveResult[]` オブジェクトで結果を処理し、オブジェクトの作成が成功したかどうかを確認します。

## コード例—Java

```
public Boolean createAccountSample() { // 取引先オブジェクトを 2 つ作成。Account account1 = new  
Account(); Account account2 = new Account();  
  
// 取引先オブジェクトにいくつか項目を設定。// 名前項目（必須）は account1 では設定されていないため、//  
このレコードの作成は失敗します。account1.setAccountNumber("002DF99ELK9");  
account1.setBillingCity("Wichita"); account1.setBillingCountry("US");  
account1.setBillingState("KA"); account1.setBillingStreet("4322 Haystack Boulevard");  
account1.setBillingPostalCode("87901");  
  
// account2 オブジェクトにいくつか項目を設定。account2.setName("Golden Straw");  
account2.setAccountNumber("003DF99ELK9"); account2.setBillingCity("Oakland");  
account2.setBillingCountry("US"); account2.setBillingState("CA");  
account2.setBillingStreet("666 Raiders Boulevard"); account2.setBillingPostalCode("97502");  
  
// 取引先を保持する SObjects の配列を作成。SObject[] sObjects = new SObject[2]; // 取引先を SObject  
配列に追加。sObjects[0] = account1; sObjects[1] = account2;  
  
// create コールを起動。try { SaveResult[] saveResults = binding.create(sObjects);  
  
// Handle the results for (int i=0; i<saveResults.length; i++) { // Determine whether create  
succeeded or had errors if (saveResults[i].isSuccess()) { // No errors, so we will retrieve  
the id created for this index System.out.println(saveResults[i].getId()); } else { //  
Handle the errors System.out.println("Item " + i + " had an error updating.");  
System.out.println("The error reported was: " + saveResults[i].getErrors()[0].getMessage()  
+ "\n"); } } catch (InvalidSObjectFault e) { System.out.println("Invalid object exception  
encountered:\n\n" + e.getMessage()); return false; } catch (UnexpectedErrorFault e) {  
System.out.println("Unexpected error exception encountered:\n\n" + e.getMessage()); return
```

```
false; } catch (InvalidIdFault e) { System.out.println("Invalid Id exception encountered:\n\n" + e.getMessage()); return false; } catch (RemoteException e) { System.out.println("Remote exception encountered:\n\n" + e.getMessage()); return false; } return true; }
```

## コード例—C#

```
/// Demonstrates how to create one or more Account records via the API public void CreateAccountSample() { Account account1 = new Account(); Account account2 = new Account();

// Set some fields on the account1 object. Name field is not set // so this record should fail as it is a required field. account1.BillingCity = "Wichita"; account1.BillingCountry = "US"; account1.BillingState = "KA"; account1.BillingStreet = "4322 Haystack Boulevard"; account1.BillingPostalCode = "87901";

// Set some fields on the account2 object account2.Name = "Golden Straw"; account2.BillingCity = "Oakland"; account2.BillingCountry = "US"; account2.BillingState = "CA"; account2.BillingStreet = "666 Raiders Boulevard"; account2.BillingPostalCode = "97502";

// Create an array of SObjects to hold the accounts sObject[] accounts = new sObject[2];
// Add the accounts to the SObject array accounts[0] = account1; accounts[1] = account2;

// Invoke the create() call try { SaveResult[] saveResults = binding.create(accounts);

// Handle the results for (int i = 0; i < saveResults.Length; i++) { // Determine whether create() succeeded or had errors if (saveResults[i].success) { // No errors, so retrieve the Id created for this record Console.WriteLine("An Account was created with Id: {0}", saveResults[i].id); } else { Console.WriteLine("Item {0} had an error updating", i);

// Handle the errors foreach (Error error in saveResults[i].errors) { Console.WriteLine("Error code is: {0}", error.statusCode.ToString()); Console.WriteLine("Error message: {0}", error.message); } } } catch (SoapException e) { Console.WriteLine(e.Code);
Console.WriteLine(e.Message); } }
```

## 引数

名前	型	説明
sObject	sObject[]	create() を実行する1つ以上の sObject オブジェクトの配列。制限: 200 個の sObject 値。

## レスポンス

### SaveResult[]

## エラー

### InvalidSObjectFault

### UnexpectedErrorFault

## SaveResult

create() コールは SaveResult オブジェクトの配列を返します。SaveResult 配列の各要素は、create() コールの sObjects パラメータとして渡された sObject[] 配列に対応します。たとえば、SaveResult 配列の最初のインデックスで返されるオブジェクトは、sObject[] 配列の最初のインデックスで指定されるオブジェクトに一致します。SaveResult オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
id	ID	<code>create()</code> を実行しようとした <code>sObject</code> の ID。この項目に値が含まれている場合、オブジェクトの作成は成功済みです。この項目が空の場合、オブジェクトは作成されておらず、API はエラー情報を返しています。
success	boolean	オブジェクトの <code>create()</code> コールが成功したかどうかを示す(成功した場合は <code>true</code> 、失敗した場合は <code>false</code> )。
errors	Error[]	<code>create()</code> コールでエラーが発生した場合、エラーコードと説明を示す 1 つ以上のエラー オブジェクト。

## delete()

組織のデータから 1 つ以上のオブジェクトを削除します。

### 構文

```
DeleteResult[] = binding.delete(ID[] ids);
```

### 使用方法

`delete()` を使用して、組織のデータ内にある個別取引先または取引先責任者など、1 つまたは複数の既存オブジェクトを削除します。`delete()` コールは SQL の DELETE 文に類似しています。

### ルールとガイドライン

オブジェクトを削除する際は、次のルールやガイドラインを考慮する必要があります。

- 指定したオブジェクト内の個別のオブジェクトを削除するには、クライアントアプリケーションは条件を満たすアクセス権限でログインする必要があります。詳細は、「[データアクセスに影響する要素](#)」を参照してください。
- また、オブジェクトの親オブジェクトへのアクセス権限も必要となる場合があります。特別なアクセス要件については、「[標準オブジェクト](#)」のオブジェクトの説明を参照してください。
- 参照の完全性を確実にするために、`delete()` コールは、カスケード削除をサポートします。親オブジェクトを削除すると、各子オブジェクトが削除可能な場合は自動的に削除されます。たとえば、[ケース](#)を削除すると、API はケースに関連付けられたすべての [CaseComment](#)、[CaseHistory](#) および [CaseSolution](#) オブジェクトを自動的に削除します。ただし、[CaseComment](#) が削除可能でない場合、または現在使用中の場合、親[ケース](#)オブジェクトの `delete()` コールは失敗します。
- 特定のオブジェクトは、API からは削除できません。`delete()` コールを使用してオブジェクトを削除するには、オブジェクトを削除可能に設定(`deletable` を `true`)する必要があります。指定されたオブジェクトが削除可能かどうかを確認するには、クライアントアプリケーションでオブジェクトに対する `describeSObjects()` コールを実行し、`deletable` プロパティを確認します。

### オブジェクト削除の基本ステップ

オブジェクト削除は、次の基本ステップに従います。

- 削除する各オブジェクトの ID を確認します。たとえば、指定された検索条件に基づき `query()` をコールして削除したいレコードセットを取得できます。
- ID[] 配列を作成し、削除したい各オブジェクトの ID で値を生成します。異なるオブジェクトの ID も指定できます。たとえば、個別の取引先の ID と個別の取引先責任者の ID を同じ配列で指定できます。ID についての詳細は、「[ID データ型](#)」を参照してください
- `delete()` をコールし ID[] 配列を渡します。
- `DeleteResult[]` で結果を処理し、オブジェクトの削除が成功したかどうかを確認します。

#### コード例—Java

```
public boolean deleteSample() { // 削除するレコードの ID を格納する文字列型の配列を作成し、// 配列に
    ID[] ids = new ID[] { new ID("001x00000000JerAAE"), new ID("001x00000000JesAAE") };
    // delete コールを起動。
    DeleteResult[] deleteResults = binding.delete(ids);
    // 結果を処理。
    for (int i=0;i<deleteResults.length;i++) {
        DeleteResult deleteResult = deleteResults[i];
        // 削除が成功したか、エラーがあったかを確認
        if (deleteResult.isSuccess()) {
            // 削除されたレコードの ID を取得。
            deleteResult.getId();
        } else {
            // エラーを処理。
            We just print the first error out
            for sample purposes.
            Error[] errors = deleteResult.getErrors();
            if (errors.length > 0) {
                System.out.println("Error code: " + errors[0].getStatusCode());
                System.out.println("Error message: " + errors[0].getMessage());
            }
        }
    }
    catch (UnexpectedErrorFault e) {
        System.out.println("Unexpected error encountered:\n\n" + e.getExceptionMessage());
        return false;
    }
    catch (RemoteException e) {
        System.out.println("Remote exception encountered:\n\n" + e.getMessage());
        return false;
    }
    return true;
}
```

#### コード例—C#

```
private void deleteAccount() {
    // Delete call takes a string array of IDs as parameter
    String[] IDs = new String[] {"001x00000000JerAAE"};
    // Invoke the delete call, saving the result in a DeleteResult object
    DeleteResult[] deleteResults = binding.delete(IDs);
    // Determine whether the delete call succeeded or failed
    if (deleteResults[0].success) {
        // Delete operation succeeded
        System.Diagnostics.Trace.WriteLine("Deleted: " +
            deleteResults[0].id);
    } else {
        // Delete operation failed
        System.Diagnostics.Trace.WriteLine("Could not delete because: " +
            deleteResults[0].errors[0].message);
    }
}
```

#### 引数

名前	型	説明
ids	ID[]	削除する削除するオブジェクトに関連付けられた1つ以上のIDの配列。バージョン7.0以降では、最大200個のオブジェクトIDを <code>delete()</code> コールに渡すことができます。バージョン6.0以前では、最大値は2,000個です。

#### レスポンス

[DeleteResult\[\]](#)

#### エラー

[InvalidObjectFault](#)

[UnexpectedErrorFault](#)

## DeleteResult

`delete()` コールは `DeleteResult` オブジェクトの配列を返します。`DeleteResult` 配列の各要素は、`delete()` コールの `ids` パラメータとして渡された `ID[]` 配列に対応します。たとえば、`DeleteResult` 配列の最初のインデックスで返されたオブジェクトは、`ID[]` 配列の最初のインデックスで指定されたオブジェクトに一致します。

`DeleteResult` オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
<code>id</code>	<code>ID*</code>	削除しようとした <code>sObject</code> の ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
<code>success</code>	<code>boolean*</code>	オブジェクトの <code>delete()</code> コールが成功したかどうかを示す(成功した場合は <code>true</code> 、失敗した場合は <code>false</code> )。
<code>errors</code>	<code>Error[]*</code>	<code>delete()</code> コールでエラーが発生した場合、エラーコードと説明を示す 1 つ以上のエラー オブジェクトの配列。

\* リンクから Force.com Web Services API Developer's Guide にアクセスできます。

## emptyRecycleBin()

ごみ箱からレコードを直ちに削除します。

### 構文

```
EmptyRecycleBinResult[] = binding.emptyRecycleBin(ID[] ids);
```

### 使用方法

ごみ箱では、過去 30 日間に削除したレコードを参照および復元できます。ごみ箱で 30 日以上が経過したレコードは完全に削除されます。組織では、1 度に 1 ライセンスあたり最大 5000 件のレコードをごみ箱に入れることができます。たとえば、組織に 5 つのユーザライセンスがある場合、25,000 件のレコードをごみ箱に格納できます。組織がごみ箱の限度に達すると、Salesforce.com によって、ごみ箱に入れられてから 2 時間を経過したレコードが古い方から順に削除されます。

大量のレコードをごみ箱に入れる際、そのレコードを `undelete()` する必要がない場合、Salesforce.com プロセスがレコードを削除する前に手動で削除することができます。たとえば、テストで大量のレコードをロードする場合、または大量の `create()` コールと `delete()` コールを続けて行う場合などです。

### ルールとガイドライン

ごみ箱を空にする際は、次のルールやガイドラインを考慮する必要があります。

- ログインしているユーザは、自身のごみ箱にあるレコード、または、下位のごみ箱にあるレコードの中でクエリ可能なものはすべて削除できます。ログインしているユーザが「すべてのデータの編集」権限を持っていている場合、組織内のすべてのごみ箱のレコードへのクエリまたはレコードの削除を実行できます。

- バージョン 10.0 以降で利用できます。
- 最大レコード数は 200 件です。
- カスケード削除できるレコードの ID は含めないようにしてください。エラーが発生します。
- このコールを使用してレコードを削除すると、`undelete()d` は実行できません。
- このコールを使用してごみ箱からレコードを削除した後もしばらくは `queryAll()` を使用してクエリを実行できます。一般的には 24 時間ですが、それ以上の場合もそれ以下の場合もあります。

#### コード例—Java

```
public boolean emptyRecycleBinSample() { // 削除されたレコードを ID を格納するための文字列の配列を作成し、 // 配列に ID を追加。 ID[] ids = new ID[] { new ID("001x00000000JerAAE"), new ID("001x00000000JesAAE") }; try { // レコードを削除。 binding.delete(ids);

// ごみ箱のレコードを削除し、 // レコードが復元されないようにします。 EmptyRecycleBinResult[] emptyRecycleBinResults = binding.emptyRecycleBin(ids); // 結果を処理。 for (int i=0;i<emptyRecycleBinResults.length;i++) { EmptyRecycleBinResult emptyRecycleBinResult = emptyRecycleBinResults[i]; // ごみ箱を空にする処理が成功したか、エラーがあったかを確認。 if (emptyRecycleBinResult.isSuccess()) { // 削除したレコードの ID を取得。
emptyRecycleBinResult.getId(); } else { // エラーを処理。 We just print the first error out for sample purposes.Error[] errors = emptyRecycleBinResult.getErrors(); if (errors.length > 0) { System.out.println("Error code: " + errors[0].getStatusCode()); System.out.println("Error message: " + errors[0].getMessage()); } } } catch (UnexpectedErrorHandler e) { System.out.println("Unexpected error encountered:\n\n" + e.getExceptionMessage()); return false; } catch (RemoteException e) {
System.out.println("Remote exception encountered:\n\n" + e.getMessage()); return false; }
return true; }
```

#### コード例—C#

```
/// Demonstrates how to empty the Recycle Bin public void EmptyRecycleBinSample() { //
Create an array of strings to hold the IDs of the records to delete string[] ids = new string[] { "00ID0000FooAAE", "00ID0000BarAAE" };

try { // Delete the records binding.delete(ids);

// Empty the records from the Recycle Bin // to prevent the records from being undeleted EmptyRecycleBinResult[] emptyRecycleBinResults = binding.emptyRecycleBin(ids);

// Process the results foreach (EmptyRecycleBinResult emptyRecycleBinResult in emptyRecycleBinResults) { // Check whether the operation succeeded or had errors if (emptyRecycleBinResult.success) { // Get the ID of the record that we removed string recordID = emptyRecycleBinResult.id; } else { // Handle the errors. We just print out the first error // for demonstration purposes Error[] errors = emptyRecycleBinResult.errors;

if (errors.Length > 0) { Console.WriteLine("Error code: " + errors[0].statusCode);
Console.WriteLine("Error message: " + errors[0].message); } } } } catch (SoapException e) {
{ Console.WriteLine(e.Message); Console.WriteLine(e.StackTrace);
Console.WriteLine(e.InnerException); } }
```

#### 引数

名前	型	説明
ids	ID[]	ごみ箱から削除するレコードに関連付けられた1つ以上の ID の配列。 最大レコード数は 200 件です。

レスポンス

[EmptyRecycleBinResult](#)

エラー

[InvalidSObjectFault](#)

[UnexpectedErrorFault](#)

## EmptyRecycleBinResult

`emptyRecycleBin()` コールは、`EmptyRecycleBinResult` オブジェクトの配列を返します。配列の各要素は、`emptyRecycleBin()` コールのパラメータとして渡された `ID[]` 配列の要素に対応しています。たとえば、`EmptyRecycleBinResult` 配列の最初のインデックスで返されたオブジェクトは、`ID[]` 配列の最初のインデックスで指定されたオブジェクトに一致します。

`EmptyRecycleBinResult` オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
<code>id</code>	<a href="#">ID</a>	ごみ箱から削除しようとしている <code>sObject</code> の ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください。
<code>isSuccess</code>	<a href="#">boolean</a>	コールが成功したかどうかを示します。(成功した場合は <code>true</code> 、失敗した場合は <code>false</code> )。
<code>errors</code>	<a href="#">Error[]</a>	コールでエラーが発生した場合、エラーコードと説明を示す1つ以上の <a href="#">エラー</a> オブジェクトの配列。

## getDeleted()

指定されたオブジェクトに対して指定された期間内に削除された個別のオブジェクトのリストを取得します。

構文

```
GetDeletedResult = binding.getDeleted(string sObjectType dateTime startDate dateTime endDate);
```

使用方法

指定された期間内に組織データから削除されたオブジェクトインスタンスのリストを取得するために、データ複製アプリケーションにおいて `getDeleted()` を使用します。`getDeleted()` コールは、`DeletedRecord` オブジェクトの配列を含む `GetDeletedResult` オブジェクトを取得します。`DeletedRecord` オブジェクトの配列には、削除された各オブジェクトの ID と、削除された日時(協定世界時(UTC))が含まれます。クライアントアプリケーションで `getDeleted()` を使用する前には、「[データ複製](#)」に目を通してください。(ID についての詳細は、「[ID データ型](#)」を参照してください。)

リリース 8.0 現在、`getDeleted()` コールはユーザの共有モデルに従います。

## ルールとガイドライン

削除されたオブジェクトを複製する際は、次のルールやガイドラインを考慮する必要があります。

- 指定された `startDate` は、指定された `endDate` の値より時間的に前でなければなりません。指定された `startDate` は、指定された `endDate` の値を同じか、それより後の値であってはなりません。そのような場合、API は `INVALID_REPLICATION_DATE` エラーを返します。
- レコードは、ユーザがアクセスした場合のみ返されます。
- コールが実行された日より 30 日以内の結果を取得できます(管理者がごみ箱の中身を消去した場合、期間が短くなる場合があります)。`getDeleted()` コールを実行する前に消去処理を実行すると、`INVALID_REPLICATION_DATE` エラーを返します。
- `latestDateCovered` が `endDate` より前の値の場合、コールは失敗し、`latestDateCovered` の値と共に `INVALID_REPLICATION_DATE` エラーが返されます。
- 削除されたレコードは、`getDeleted()` + からアクセス可能な削除ログに記述されます。2 時間ごとに実行されるバックグラウンドプロセスは、削除ログのレコード数が制限を超えた場合、削除ログに書き込まれてから 2 時間以上経過したレコードを消去します。最も古いレコードから順に、削除ログが制限を下回るまで消去を行います。大量の削除ログによる Salesforce.com のパフォーマンス上の問題を防ぐためにこの処理を行います。制限値は次の式を使って算出します。

5000 \* 組織のライセンス数

たとえば、1,000 ライセンスを所有する組織では、削除ログのレコード数が 5,000,000(5 百万) レコード以上になると消去処理を開始します。`getDeleted()` コールを実行する前に消去処理を実行すると、`INVALID_REPLICATION_DATE` エラーを返します。この例外が発生した場合、表全体に対するフル処理を実行する必要があります。

- 大量のデータを削除する場合、すべてのレコードを `getDeleted()` コールで返すようにするには、データの複製を 2 時間ごとではなくより短い間隔で実行すべきです。
- クライアントアプリケーションの場合一般的に、定期的にデータ変更のポーリングを行います。ポーリング時の重要な検討事項については、「[変更のポーリング](#)」を参照してください。
- 特定のオブジェクトは、API からは複製できません。`getDeleted()` コールからオブジェクトを複製するには、そのオブジェクトは複製可能でなければなりません(つまり `rReplicable` が `true` に設定されている)。指定されたオブジェクトが複製可能かどうかを確認するには、クライアントアプリケーションでオブジェクトに対する `describeSObjects()` コールを実行し、`replicable` プロパティを確認します。
- 時間データの処理方法は、開発ツールごとに異なります。開発ツールによってはローカル時間を表示するものも、協定世界時(UTC)を表示するものもあります。開発ツールごとの時間の処理方法はツールのドキュメントを参照してください。

## 削除されたオブジェクトの複製の基本ステップ

削除されたオブジェクトの複製では、各オブジェクトで次の基本ステップに従います。

- 「[オブジェクトの構造変更の確認](#)」で説明したとおり、最後の複製要求以降オブジェクトの構造が変更されたかどうかをオプションで確認できます。
- `getDeleted()` をコールし、オブジェクトと、オブジェクトが削除された時間に対応する期間を渡します。
- `DeleteResult` オブジェクトにおいて、削除された各オブジェクトの ID と削除された日付(協定世界時(UTC))を含む `DeletedRecord` オブジェクトの配列を繰り返し処理します。
- ローカルデータに適切なアクションを実行し、削除されたオブジェクトを削除するか、削除済みのフラグを設定します。

## 5. オプションで、今後の参照のために要求の期間を保存します。[latestDateCovered](#) の値も保存してください。

クライアントアプリケーションは、データ複製処理に関連付けられたほかのタスクを実行することもあります。たとえば、商談が完了している場合、クライアントアプリケーションは新たな収益レポートを実行することが考えられます。同様にタスクが完了している場合、プロセスは他のシステムのログに記述することが考えられます。

### コード例—Java

```
private void getDeletedSample() { try { // 既知の時点に関して、サービスのタイムスタンプを使用できます。
    Calendar serverTime = binding.getServerTimestamp().getTimestamp(); // コールの開始時間値を作成。
    GregorianCalendar startTime = (GregorianCalendar) serverTime.clone(); // コールの終了時間値を作成。
    GregorianCalendar endTime = (GregorianCalendar) serverTime; // 有効な期間条件するために、サーバ時間から 5 分引いた時間を設定。
    // どのような期間条件も使用できます。5 分という時間は任意です。
    endTime.add(GregorianCalendar.MINUTE, -5);
    System.out.println("Checking deletes at: " + startTime.getTime().toString());
    GetDeletedResult gdr = binding.getDeleted("Contact", startTime, endTime); // 結果に含まれているレコード数を確認。0 件より多い場合、// 5 分間に削除されたレコードがあります。
    if (gdr.getDeletedRecords() != null && gdr.getDeletedRecords().length > 0) {
        for (int i=0;i<gdr.getDeletedRecords().length;i++) {
            System.out.println(gdr.getDeletedRecords(i).getId() + " was deleted on " +
                gdr.getDeletedRecords(i).getDeletedDate().getTime().toString());
        }
    } else {
        System.out.println("No deletions from contacts in the last 5 minutes.");
    }
} catch (Exception ex) {
    System.out.println("\nException caught, error message was: \n" + ex.getMessage());
}
}
```

### コード例—C#

```
private void getDeletedSample() {
    DateTime endTime = binding.getServerTimestamp().timestamp;
    DateTime startTime = endTime.AddMinutes(-5);
    sforce.GetDeletedResult gdr = binding.getDeleted("Contact", startTime, endTime);

    if (gdr.deletedRecords.Length > 0) {
        for (int i=0;i<gdr.deletedRecords.Length;i++) {
            Console.WriteLine(gdr.deletedRecords[i].id + " was deleted on " +
                gdr.deletedRecords[i].deletedDate.ToString());
        }
    } else {
        Console.WriteLine("No deleted contacts between " + startTime.ToString() + " and " + endTime.ToString());
    }
}
```

### 引数

名前	型	説明
sObjectTypeEntityType	<a href="#">string</a>	Object 型。組織で有効な値を指定します。「 <a href="#">sObject</a> 」を参照してください。
startDate	<a href="#">dateTime</a>	データを取得する期間の開始日時(ローカル時間ではなく協定世界時(UTC))。API は、指定された dateTime 値の秒の値を切り捨てます(たとえば、12:30:15 は 12:30:00 UTC となります)。
endDate	<a href="#">dateTime</a>	データを取得する期間の終了日時(ローカル時間ではなく協定世界時(UTC))。API は、指定された dateTime 値の秒の値を切り捨てます(たとえば、12:35:15 は 12:35:00 UTC となります)。

### 制限

結果の [GetDeletedResult](#) にはレコード件数の制限があります。

- `getDeleted()` コールが 600,000 件以上のレコードを返し、ユーザがシステム管理者の場合、`EXCEEDED_ID_LIMIT` 例外が返されます。
- `getDeleted()` コールが 20,000 件以上のレコードを返し、ユーザがシステム管理者の場合、`OPERATION_TOO_LARGE` 例外が返されます。ユーザが参照可能なデータだけでなく、組織全体で 20,000 件以上のレコードが削除された場合、このエラーが発生することにご注意ください。

開始日と終了日の期間を短くすることでこのエラーを回避できます。

レスポンス

#### GetDeletedResult

エラー

`InvalidSObjectFault`

`UnexpectedErrorFault`

#### GetDeletedResult

`getDeleted()` コールは、`DeletedRecord` レコードを 2 つのプロパティを含む `GetDeletedResult` オブジェクトを返します。

名前	型	説明
<code>earliestDateAvailable</code>	<code>dateTime</code>	<code>getDeleted()</code> コールのオブジェクト種別に対する、最後に物理的に削除されたオブジェクトのタイムスタンプ(ローカル時間ではなく協定世界時(UTC))。この値が <code>endDate</code> より前の値の場合、コールは失敗するため、他のデータ複製を実行する前にデータの再同期が必要となります。
<code>deletedRecords[]</code>	<code>deletedRecords</code>	<code>getDeleted()</code> コールで指定された開始日と終了日を満たす削除されたレコードの配列。
<code>latestDateCovered</code>	<code>dateTime</code>	完了しなかった <code>getDeleted()</code> コールで指定された開始日と終了日の範囲内の、最も早いプロセスのタイムスタンプ(ローカル時間ではなく協定世界時(UTC))。開始日以降に変更されたものの、終了日以前に完了しなかったため、このコールでは返されなかった変更を取得するために、安全策を取るために次の開始日で使用すべき値を示します。

#### deletedRecords

`GetDeletedResult` は、次のプロパティを含む `deletedRecords` の配列を含みます。

名前	型	説明
<code>deletedDate</code>	<code>dateTime</code>	このレコードが削除された日時(ローカル時間ではなく協定世界時(UTC))。
<code>id</code>	<code>ID</code>	削除された <code>sObject</code> の ID。

## getUpdated()

指定されたオブジェクトに対して指定された期間内に更新された(追加または変更された)個別のオブジェクトのリストを取得します。

### 構文

```
GetUpdatedResult[] = binding.getUpdated(string sObjectType dateTime startDate dateTime  
endDate);
```

### 使用方法

指定された期間内に作成または更新された指定されたオブジェクトの セットを取得するために、データ複製アプリケーションにおいて `getUpdated()` を使用します。`getUpdated()` コールは、`GetUpdatedResult` オブジェクトの配列を取得します。その配列には、作成または更新された各オブジェクトの ID と、作成または更新された日時(協定世界時(UTC))が含まれます。クライアントアプリケーションで `getUpdated()` を使用する前には、「データ複製」に目を通してください。



メモ: `getUpdated()` コールは、ログインしたユーザがアクセス権を持つオブジェクトの ID のみを取得することにご注意ください。

### ルールとガイドライン

作成または更新されたオブジェクトを複製する際は、次のルールやガイドラインを考慮する必要があります。

- ・ 指定された `startDate` は、指定された `endDate` の値より時間的に前でなければなりません。指定された `startDate` は、指定された `endDate` の値を同じか、それより後の値であってはなりません。そのような場合、API は `INVALID_REPLICATION_DATE` エラーを返します。
- ・ コールが実行された日より30日以内の結果を取得できます。
- ・ クライアントアプリケーションの場合一般的に、定期的にデータ変更のポーリングを行います。ポーリング時の重要な検討事項については、「[変更のポーリング](#)」を参照してください。
- ・ クライアントアプリケーションは、必要な権限のあるオブジェクトを複製できます。たとえば、組織のすべてのデータを複製するには、クライアントアプリケーションは指定されたオブジェクトの「すべてのデータの参照」アクセス権限を持ってログインしなければなりません。同様に、オブジェクトはそのユーザの共有ルールに含まれていなければなりません。詳細は、「[データアクセスに影響する要素](#)」を参照してください。
- ・ 特定のオブジェクトは、API からは複製できません。`getUpdated()` コールからオブジェクトを複製するには、そのオブジェクトは複製可能でなければなりません(つまり `replicable` が `true` に設定されている)。指定されたオブジェクトが複製可能かどうかを確認するには、クライアントアプリケーションでオブジェクトに対する `describeSObjects()` コールを実行し、`replicable` プロパティを確認します。
- ・ **グループ**、**ユーザ**、**取引先責任者**、**商品2** オブジェクトなど、オブジェクトによっては削除できません。ただし、これらのオブジェクトのインスタンスが Salesforce.com ユーザインターフェースには既に表示されていない場合、無効として、管理者アクセス権限を持つユーザのみが参照できるようにすることができます。表示されていないオブジェクトインスタンスが無効かどうかを確認するには、クライアントアプリケーションから `getUpdated()` をコールし、オブジェクトの有効フラグを確認します。
- ・ 時間データの処理方法は、開発ツールごとに異なります。開発ツールによってはローカル時間を表示するものも、協定世界時(UTC)を表示するものもあります。開発ツールごとの時間の処理方法はツールのドキュメントを参照してください。

## 更新されたオブジェクトの複製の基本ステップ

更新されたオブジェクトの複製では、複製する各オブジェクトで次の基本ステップに従います。

- 「[オブジェクトの構造変更の確認](#)」で説明したとおり、最後の複製要求からオブジェクトの構造が変更されたかどうかをクライアントアプリケーションはオプションで確認できます。
- `getUpdated()` をコールし、データを取得するオブジェクトと期間を渡します。
- ID の配列すべてに対して繰り返し処理を行います。配列の各 ID 要素に対し、`retrieve()` をコールして関連するオブジェクトからの必要な最新情報を取得します。その後クライアントアプリケーションは、ローカルデータに新しい行の挿入や、既存の行を最新情報で更新するなどの適切な処理を行います。
- オプションで、今後の参照のために要求のタイムスタンプを保存します。

クライアントアプリケーションは、データ複製処理に関連付けられたほかのタスクを実行することもあります。たとえば、商談が完了しようとしている場合、クライアントアプリケーションは新たな収益レポートを実行することが考えられます。同様にタスクが完了している場合、プロセスは他のシステムのログに別の方で記述することが考えられます。

### コード例—Java

```
private void getUpdatedSample() { try { // 既知の時点に関して、サービスのタイムスタンプを使用できます。
    Calendar serverTime = binding.getServerTimestamp().getTimestamp(); // コールの開始時間
    // 値を作成。GregorianCalendar startTime = (GregorianCalendar) serverTime.clone(); // コール
    // の終了時間値を作成。GregorianCalendar endTime = (GregorianCalendar) serverTime; // 有効な期
    // 間条件とするために、// サーバ時間から 5 分引いた時間を設定。// どのような期間条件も使用できます。5
    // 分という時間は任意です。startTime.add(GregorianCalendar.MINUTE, -5); System.out.println("Checking
    // updates at: " + startTime.getTime().toString()); GetUpdatedResult ur =
    binding.getUpdated("Account", startTime, endTime); // 返された □ の配列の長さを確認し、//
    // ヒットしたかどうかを判断。if (ur.getIds() != null && ur.getIds().length > 0) { for (int
    i=0;i<ur.getIds().length;i++) { System.out.println(ur.getIds(i) + " was updated between "
    + startTime.getTime().toString() + " and " + endTime.getTime().toString()); } } else {
    System.out.println("No updates to accounts in the last 5 minutes."); } } catch (Exception
    ex) { System.out.println("\nException caught, error message was: \n" + ex.getMessage()); }
}
```

### コード例—C#

```
private void getUpdatedSample() { DateTime endTime = binding.getServerTimestamp().timestamp;
    DateTime startTime = endTime.Subtract(new System.TimeSpan(0, 0, 5, 0, 0));
    sforce.GetUpdatedResult gur = binding.getUpdated("Account", startTime, endTime); if
    (gur.ids.Length> 0) { for (int i=0;i<gur.ids.Length;i++) { Console.WriteLine(gur.ids[i] +
    " was updated between " + startTime.ToString() + " and " + endTime.ToString()); } } else {
    Console.WriteLine("No updates to accounts between " + startTime.ToString() + " and " +
    endTime.ToString()); } }
```

### 引数

名前	型	説明
sObjectTypeEntityType	string	Object の型。組織で有効な値を指定します。標準オブジェクトの一覧は、 <a href="#">「標準オブジェクト」</a> を参照してください。
startDate	dateTime	データを取得する期間の開始日時 (ローカル時間ではなく協定世界時 (UTC))。API は、指定された dateTime 値の秒の値を切り捨てます (たとえば、12:30:15 は 12:30:00 UTC となります)。

名前	型	説明
endDate	dateTime	データを取得する期間の終了日時(ローカル時間ではなく協定世界時(UTC))。APIは、指定されたdateTime値の秒の値を切り捨てます(たとえば、12:35:15は12:35:00 UTCとなります)。

 重要: 結果の `GetUpdatedResult[]` の結果には、ID は200,000件までという制限があります。`getUpdated()` コールが 200,000 件以上の ID を返した場合、EXCEEDED\_ID\_LIMIT 例外が返されます。開始日と終了日の期間を短くすることでこのエラーを回避できます。

## レスポンス

### `GetUpdatedResult[]`

#### エラー

`InvalidSObjectFault`

`UnexpectedErrorFault`

## `GetUpdatedResult`

`getUpdated()` コールは、指定された期間で挿入または更新された各レコードの情報を含む `GetUpdatedResult` オブジェクトを返します。`GetUpdatedResult` オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
<code>id[]</code>	ID	更新された各オブジェクトの ID の配列。
<code>latestDateCovered</code>	dateTime	完了しなかった <code>startDate</code> と <code>endDate</code> の範囲内の最も早いプロセスのタイムスタンプ(ローカル時間ではなく協定世界時(UTC))。 <code>startDate</code> 以降に変更されたものの、 <code>endDate</code> 以前に完了しなかったため、このコールでは返されなかった変更を取得するために、安全策を取るためにこの値を次の開始日での使用を示します。

## `invalidateSessions()`

`sessionId` で指定された 1 つ以上のセッションを終了します。

#### 構文

```
InvalidateSessionsResult = binding.invalidateSessions(string[] sessionIds);
```

#### 使用方法

1 つ以上のセッションの終了にこのコールを使用します。

ログインしているユーザの 1 つのセッションのみを終了するには、`logout()` を使用することもできます。

## コード例—Java

```
public void invalidateSessions(String [] sessionIds) { try { InvalidateSessionsResult[] results; results = binding.invalidateSessions(sessionIds); for (InvalidateSessionsResult result : results) { // check results for errors if (!result.isSuccess()) { Error[] errors = result.getErrors(); if (errors.length > 0) { StatusCode code = errors[0].getStatusCode(); String message = errors[0].getMessage(); // handle error. We just print the first error out for sample purposes. System.out.println("Error code: " + code); System.out.println("Error message: " + message); } } } catch (Exception e) { // handle exception. We just print it out for sample purposes. System.out.println("Unexpected error encountered while trying to logout:\n\n" + e.getMessage()); } }
```

## コード例—C#

```
public void InvalidateSessions(string [] sessionIds) { try { InvalidateSessionsResult[] results; results = binding.InvalidateSessions(sessionIds); for (InvalidateSessionsResult result in results) { // check results for errors if (!result.Success) { StatusCode code = result.Errors[0].StatusCode; string message = result.Errors[0].Message; // handle error ... } } catch (Exception e) { Console.WriteLine("Unexpected error encountered while trying to logout:\n\n{0}", e.Message); // handle exception ... } }
```

## 引数

名前	型	説明
sessionIds	string[]	1つ以上の <code>sessionId</code> 文字列。上限は 200 です。 <code>sessionId</code> を <code>SessionHeader</code> から取得できます。

## レスポンス

[InvalidateSessionsResult\[\]](#)

## エラー

[UnexpectedErrorFault](#)

## InvalidateSessionsResult

`invalidateSessions()` コールは `LogoutResult` オブジェクトの配列を返します。各オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
success	boolean	セッションが正常に終了したか ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。
errors	Error[]	コールでエラーが発生した場合、1つ以上の <a href="#">エラー</a> オブジェクトの配列。各オブジェクトにはエラーコードと説明が含まれます。

## login()

サーバにログインするためにログインし、クライアントセッションを開始します。

## 構文

```
LoginResult = binding.login(string username, string password);
```

## 使用方法

`login()` コールを使って、ログインサーバにログインし、クライアントセッションを開始してください。クライアントアプリケーションは、他のAPIコールを行う前に、ログインし、`sessionId`とサーバURLを取得しておく必要があります。

クライアントアプリケーションが、`login()` を呼ぶ出す際は、ユーザ証明書としてユーザ名とパスワードをパスします。呼び出し時には、Force.com API が証明書認証し、セッション用の`sessionId`、ログインしているユーザ名に関連付けられたユーザID、および Force.com API を指すURLを、すべての続く API コールを使用するためには返します。

Salesforce.com は、クライアントアプリケーションがログインしているIPアドレスを確認し、不明なIPアドレスからのログインをブロックします。API 経由でブロックされたログインに関しては、Salesforce.com がログイン失敗エラーを返します。それから、ログインパスワードにセキュリティトークンを追加する必要があります。セキュリティトークンは Salesforce.com から自動生成されるキーです。たとえば、ユーザのパスワードが `mypassword` で、セキュリティトークンが `XXXXXXXXXX` の場合、ユーザはログインするために `mypasswordXXXXXXXXXX` と入力する必要があります。ユーザは、Salesforce.com ユーザインターフェース経由で、自身のパスワードを変更し、セキュリティトークンをリセットすることによって、セキュリティトークンを取得することができます。ユーザがパスワードを変更するか、セキュリティトークンをリセットすると、ユーザの Salesforce.com レコードに指定された電子メールアドレス宛に新しいセキュリティトークンが送信されます。セキュリティトークンは、ユーザがセキュリティトークンをリセットするか、パスワードを変更するか、またはパスワードをリセットするまで有効です。セキュリティトークンが無効である場合、ユーザはこのログインプロセスを再度繰り返してログインしなければなりません。このような事態を発生させないために、管理者は組織の所有する信頼できる IP アドレスの一覧にクライアントの IP アドレスが追加されていることを確認しなければなりません。詳細は、「[セキュリティトークン](#)」を参照してください。

ログイン後、クライアントアプリケーションは、以下のタスクを実行する必要があります。

- Force.com API がこのセッションに対する後続要求を認証するように、SOAPヘッダ内のセッションIDを設定する。
- 後続サービス要求のターゲットとしてサーバURLを指定する。ログインサーバはログインコールしかサポートしないので、サーバURLを変更する必要があります。

開発ツールごとに、セッションヘッダとサーバURLの指定方法は異なります。詳細は、お使いの開発ツールのマニュアルを参照してください。

## Enterprise と Partner エンドポイント

APIのバージョン11.1以前では、パートナーWSDLで構築されたクライアントアプリケーションは、エンタープライズエンドポイントに要求を送信可能で、エンタープライズWSDLで構築されたアプリケーションも、パートナーエンドポイントに要求を送信可能です。バージョン 12.0 以降では、この機能はサポートされていません。

## セッション終了

クライアントアプリケーションは、セッションを終えるために明示的にログアウトする必要はありません。セッションは、前もって決定されたセッション有効期間の長さの後で自動的に終了します。この長さは、[設定]▶[セキュリティのコントロール]をクリックすることによって Salesforce.com 内で設定可能です。デフォルト値は 120分(2時間)です。

## アクティブなセルフサービスのユーザを認証する

アクティブセルフサービスユーザを認証するには、セルフサービスがユーザが認証されるものに対する組織IDを指定するために`LoginScopeHeader`を使用します。セルフサービスユーザは、認証される前に、既存でアクティブである必要があります 「セルフサービスユーザ」 参照。

## ログアウト

常に`logout()`をコールして、必要のないセッションを終了することをお勧めします。これは、ログアウトされるセッションだけでなく、子セッションも終了させます。設定されたセッション終了時間まで待つ代わりにログアウトすることによって、ほとんどの保護が行われます。

## サンプルコード Java

```
private boolean login() { LoginResult loginResult = null; SoapBindingStub binding = null;
try { // Create binding object binding = (SoapBindingStub) new
SforceServiceLocator().getSoap(); // login loginResult = binding.login("username",
"password"); } catch (Exception ex) { System.out.println("An unexpected error has occurred."+
ex.getMessage()); return false; }

System.out.println("Login was successful.");

// Reset the SOAP endpoint to the returned server URL
binding._setProperty(Stub.ENDPOINT_ADDRESS_PROPERTY, loginResult.getServerUrl());

// Create a new session header object // add the session ID returned from the login
_SessionHeader sh = new _SessionHeader(); sh.setSessionId(loginResult.getSessionId()); //
Set the session header for subsequent call authentication binding.setHeader(new
SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(), "SessionHeader", sh);

// get user info try { GetUserInfoResult userInfo = binding.getUserInfo(); } catch (Exception
ex) { System.out.println("An unexpected error has occurred."+ ex.getMessage()); return
false; }

return true; }
```

## サンプルコード C#

```
private void login() { // Create service object binding = new SforceService(); // Invoke
the login call and save results in LoginResult LoginResult lr =
binding.login("username", "password"); if (!lr.passwordExpired) { // Reset the SOAP endpoint
to the returned server URL binding.Url = lr.serverUrl; // Create a new session header
object // Add the session ID returned from the login binding.SessionHeaderValue = new
SessionHeader(); binding.SessionHeaderValue.sessionId = lr.sessionId; GetUserInfoResult
userInfo = lr.userInfo; } else { Console.WriteLine("Your password is expired."); } }
```

## 引数

名前	型	説明
username	string	ログインusername。
password	string	指定の username に関連付けられているログインパスワード。

ログイン要求のサイズは、10 KB 未満に制限されています。

レスポンス

[LoginResult](#)

エラー

[LoginFault](#)

[UnexpectedErrorFault](#)

## LoginResult

`login()` コールは、以下のプロパティを持つ `LoginResult` オブジェクトを返します。

名前	型	説明
<code>metadataServerUrl</code>	<code>string</code>	後続のメタデータ API コールを処理するエンドポイントの URL。クライアントアプリケーションのエンドポイントを設定する必要があります。
<code>passwordExpired</code>	<code>boolean</code>	ログイン試行時に使われたパスワードが失効したか( <code>true</code> )、失効していないか( <code>false</code> )を示します。パスワードが失効していた場合、APIは、有効な <code>sessionId</code> を返します。しかし、許容動作は、 <code>setPassword()</code> コールのみです。
<code>serverUrl</code>	<code>string</code>	後続のAPIコールを処理するエンドポイントのURL。クライアントアプリケーションのエンドポイントを設定する必要があります。
<code>sessionId</code>	<code>string</code>	このセッションに関連付けられた固有ID。クライアントアプリケーションは、この値をセッションヘッダに設定する必要があります。
<code>userId</code>	<code>ID</code>	特定のユーザ名とパスワードに関連付けられたユーザのID
<code>userInfo</code>	<code>getUserInfoResult</code>	ユーザ情報項目この項目のリストに関しては、 <code>getUserInfoResult</code> を参照してください。

## logout()

ログインユーザのセッションを終了します。

構文

```
LogoutResult = binding.logout();
```

使用方法

このコールは、コールを発行したログインユーザのセッションを終了させます。引数は不要です。

ログインユーザ以外の人によって開始された1つ以上のセッションを終了させる方法については、[invalidateSessions\(\)](#) を参照してください。

### サンプルコード Java

```
public void logout() { try { binding.logout(); } catch (Exception e) { System.out.println("Unexpected error:\n\n" + e.getMessage()); } }
```

### サンプルコード C#

```
public void Logout() { try { binding.Logout(); } catch (Exception e) { Console.WriteLine("Unexpected error:\n\n" + e.Message); } }
```

### 引数

このコールは、引数を使いません。コールを発行したログインユーザのセッションを終了させるので、引数は不要です。ログインユーザは、このコール用に[SessionHeader](#)内で指定された[sessionId](#)によって判別されます。

### レスポンス

`void` が返されます。コールの失敗エラーが、セッションがすでにログアウトされていることを意味しているので、結果は必要ありません。システム不稼働率などの予期せぬエラーは、クライアントアプリケーションによって処理されるべきエラーを投げます。

### エラー

[UnexpectedErrorFault](#)

## merge()

3つまでのレコードを1つにマージします。

### 構文

```
mergeResult[] = binding.merge(mergeRequest[] mergeRequests);
```

### 使用方法

同じオブジェクトタイプのレコードをそのレコードの1つにマージし、その他を削除し、そして、関連レコードを親子関係を調整するために、このコールを使用します。各マージ操作は、1回のトランザクションにて行われます。バッチマージは複数のトランザクション(バッチ内の各要素に対して1つ)を持っています。

サポートされているオブジェクトタイプは、[Lead](#)、[Contact](#)および[Account](#)のみです。

`masterRecord`項目は、他のレコードのマージ先である親レコードがどれであるかを示します。マージ中に削除されたレコードを表示させるために、[queryAll\(\)](#) を使用可能です。

マスタレコード内の値に取って代るべき非マスタレコードからの項目値があるかを、マージコールの前に決定することを、このコールは要求します。もしそうなら、項目名とその新しい値は、更新のコールの場合と同様に、`MergeRequest`の`masterRecord`の中で提供されるべきです。

以下の制限が、マージ要求に適用されます。

- 1通の SOAPコール内に、最大 200 件のマージ要求が作成可能です。
- 親レコードを含めて、最大3つのレコードが1通の要求にマージ可能です。これは、Salesforce.comのユーザインターフェースと同じ制限です。マージするレコードが3つ以上ある場合は、エラー防止のために各要求内で同じ親レコードを使用します。
- 外部 ID 項目では、[merge\(\)](#) を使用することはできません。

指定の時間内にマージされたすべてのレコードを見つけるには、以下に類似したSELECT文と一緒に[queryAll\(\)](#)を使用します。

```
SELECT Id, FROM Contact WHERE isDeleted=true and masterRecordId != null AND SystemModstamp > 2006-01-01T23:01:01+01:00
```

SystemModstamp上でフィルタリングすることによって、最も関連したレコードに設定された結果を狭めることができます。推奨されたベストプラクティスです。



#### メモ:

API バージョン 15.0 以降、文字列を含む項目に値を指定し、値が項目に対して大きすぎる場合、コールは失敗してエラーが返されます。これまでのバージョンの API では、値は切り捨てられ、コールは正常に終了していました。バージョン 15.0 以降でもこの動作を保持する場合、[AllowFieldTruncationHeader](#) SOAP ヘッダーを使用してください。

### サンプルコード—Apex

```
public void mergeSample() throws InvalidSObjectFault, InvalidFieldFault, UnexpectedErrorFault, InvalidIdFault, RemoteException { Account masterAccount = new Account(); masterAccount.setName("MasterAccount"); SaveResult masterAccountSaveResult = binding.create(new SObject[] {masterAccount})[0]; masterAccount.setId(masterAccountSaveResult.getId()); masterAccount.setDescription("Old description");

Account accountToMerge = new Account(); accountToMerge.setName("AccountToMerge");
accountToMerge.setDescription("Duplicate account");

SaveResult accountToMergeSaveResult = binding.create(new SObject[] {accountToMerge})[0];

// Attach a note, which will get re-parented Note note = new Note();
note.setParentId(accountToMergeSaveResult.getId()); note.setBody("This note will be moved to the MasterAccount during merge"); binding.create(new SObject[] {note});

MergeRequest mr = new MergeRequest();

// Perform an update on the master record as part of the merge:
masterAccount.setDescription("Was merged");

mr.setMasterRecord(masterAccount); mr.setRecordToMergeIds(new ID[] {accountToMergeSaveResult.getId()}); MergeResult result = binding.merge(new MergeRequest[] {mr})[0];

System.out.println("Merged " + result.isSuccess() + " got " +
result.getUpdatedRelatedIds().length + " updated child records"); }
```

以下のサンプルは、3つのアカウントをマージする方法を示しています。

```
Account master = new Account(name='Master');insert d; Account d = new Account(name='MergeD');insert d; Account e = new Account(name='MergeE');insert e;
```

```
merge master new String[] {a.id};  
merge master new Account[] {d, e};
```

### サンプルコード C#

```
private void mergeSample() { try { Account masterAccount = new Account(); masterAccount.Name  
= "MasterAccount"; SaveResult sr = binding.create(new sObject[] { masterAccount })[0];  
masterAccount.Id = sr.id; masterAccount.Description = "Old description";  
  
Account accountToMerge = new Account(); accountToMerge.Name = "AccountToMerge";  
accountToMerge.Description = "Duplicate account"; SaveResult accountToMergeSaveResult =  
binding.create(new sObject[] { accountToMerge })[0];  
  
// Attach a note, which will get re-parented Note note = new Note(); note.ParentId =  
accountToMergeSaveResult.id; note.Body = "This note will be moved ot the MasterAccount  
during merge"; binding.create(new sObject[] { note });  
  
MergeRequest mr = new MergeRequest(); // Perform an update on the master record as part of  
the merge: masterAccount.Description = "Was merged"; mr.masterRecord = masterAccount;  
mr.recordToMergeIds = new String[] { accountToMergeSaveResult.id }; MergeResult result =  
binding.merge(new MergeRequest[] { mr })[0]; Console.WriteLine("Merged " + result.success  
+ " got " + result.ToString() + " updated child records"); } catch (Exception ex) {  
Console.WriteLine(ex.ToString()); } }
```

### 引数

名前	型	説明
masterRecord	sObject	必須。他のレコードのマージ先であるオブジェクトのIDを提供する必要があります。状況に応じて、更新される項目とその値を提供してください。
recordToMergeIds	ID[]	必須。最小で1つ、最多2つ。親レコードにマージされる他のレコード。

### レスポンス

`mergeResult[]`

### エラー

`InvalidSObjectFault`  
`UnexpectedErrorFault`  
`InvalidIdFault`

### mergeResult

`merge()` コールは、以下のプロパティを持った`mergeResult` オブジェクトを返します。

名前	型	説明
<code>Id</code>	<code>ID</code>	親レコード(他のレコードがマージされたレコード)のID。

名前	型	説明
mergedRecordIds	ID[]	マスタレコードにマージされたレコードのID。成功した場合、その値はmergeRequestにマッチします。 <a href="#">recordToMergeIds</a> 。
success	boolean	成功(true) または失敗(false)で、マージが成功したかを示します。
updatedRelatedIds	ID[]	マージの結果として移動した(親子関係を調整された)、そしてマージコールを送っているユーザによって表示可能なすべての関連レコードのID。
errors	Error[]	<a href="#">merge()</a> コールでエラーが発生した場合、エラーコードと説明を示す1つ以上のエラー オブジェクト。

## process()

承認のために承認プロセス例の配列を提出します。または、承認、却下、または削除される承認プロセスインスタンスの配列を処理します。 詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「承認プロセスを開始する」を参照してください。

### 構文

```
ProcessResult = binding.process( processType processRequest[] )
```

processType は、[ProcessSubmitRequest](#) または [ProcessWorkitemRequest](#) のいずれかになる可能性があります。

### 使用方法

[process\(\)](#) を使って、以下の 2 つのタスクのいずれかを実行してください。

- オブジェクトの配列を承認プロセスに送信してください。オブジェクトは、送信する時には、承認プロセスにあってはいけません。 ProcessSubmitRequest 署名を使用します。
- 承認アクション(承認または拒否)を実行することによって、承認プロセスに提出されているオブジェクトを処理してください。 ProcessWorkitemRequest 署名を使用します。

要求は処理され、要求内で送られたのと同じプロセスインスタンスとともに [ProcessResult](#) が返されます。

特定レコードの失敗は、全体の要求の失敗の原因とはなりません。



#### メモ:

このコールで Apex トリガを起動できるため、文字列を含む項目が更新される場合があります。

API バージョン 15.0 以降、文字列を含む項目に値を指定し、値が項目に対して大きすぎる場合、コールは失敗してエラーが返されます。これまでのバージョンの API では、値は切り捨てられ、コールは正常に終了していました。バージョン 15.0 以降でもこの動作を保持する場合、[AllowFieldTruncationHeader](#) SOAP ヘッダーを使用してください。

## サンプルコード Java

```
public ProcessResult[] doProcessSample(String comments, ID id, ID[] approverIds) throws
ApiFault { ProcessResult[] processResults = null; ProcessSubmitRequest request = new
ProcessSubmitRequest(); request.setComments(comments);
request.setNextApproverIds(approverIds); request.setObjectId(id); try { //calling process
on the approval submission processResults = binding.process(new
ProcessSubmitRequest[]{request}); for (ProcessResult processResult : processResults) { if
(processResult.isSuccess()) { System.out.println("Approval submitted for: " + id + ",",
approverIds: " + approverIds.toString() + " successful."); System.out.println("Process
Instance Status: " + processResult.getInstanceStatus()); } else { System.out.println("Approval
submitted for: " + id + ", approverIds: " + approverIds.toString() + " FAILED.");
System.out.println("ERRORS: " + processResult.getErrors().toString()); } } } catch (Exception
e) { e.printStackTrace(); } return processResults; }
```

## サンプルコード C#

```
private void doProcessSample(String id, String[] approverIds) { ProcessResult[]
processResults; ProcessSubmitRequest request = new ProcessSubmitRequest(); request.objectId
= id;

try { processResults = binding.process(new ProcessSubmitRequest[] { request }); for (int i
= 0; i < processResults.Length; i++) { ProcessResult processResult = processResults[i];
if (processResult.success) { Console.WriteLine("Approval submitted for:" + id + "
successful."); } else { Console.WriteLine("Approval submitted for:" + id + " FAILED.");
Console.WriteLine("Errors: " + processResult.errors.ToString()); } } } catch (Exception ex)
{ Console.WriteLine(ex.ToString()); } }
```

## ProcessSubmitRequest引数

名前	型	説明
objectId	ID	承認用に提出されるオブジェクト、たとえば、 <a href="#">Account</a> , <a href="#">Contact</a> 、またはカスタムオブジェクト。
nextApproverIds	ID[]	プロセスが次回に承認を要求する場合、次回要求に割り当てられるユーザID。
comment	string	この要求に関連付けられた履歴ステップに追加されるコメント。

## ProcessWorkitemRequest引数

名前	型	説明
action	string	承認用に提出された後の項目処理に関しては、承認、拒否、または削除を行うアクションの種類を示す文字列。削除を指定できるのは、システム管理者だけです。承認プロセスに申請者に承認申請の取り消しを許可オプションが選択された場合、提出者も削除を指定可能です。
nextApproverIds	ID[]	プロセスが次回承認の仕様を要求する場合、次回要求に割り当てられるユーザID。
comment	string	この要求に関連付けられた履歴ステップに追加されるコメント。
workitemId	ID	承認、却下、または削除されている <a href="#">ProcessInstanceWorkitem</a> のID。

レスポンス

[ProcessResult\[\]](#)

エラー

[ALREADY\\_IN\\_PROCESS](#)

[NO\\_APPLICABLE\\_PROCESS](#)

## ProcessResult

[process\(\)](#) コールはProcessResultオブジェクトを戻します。コールのタイプ(承認のための提出、または承認のためにすでに提出されたプロセスオブジェクト)に依存して、それは以下のプロパティを持っていています。

名前	型	説明
actorIds	ID[]	この承認ステップに現在割り当てられているユーザのID。
entityId	ID	処理されているオブジェクト
errors	Error[]	要求が失敗した場合に返されるエラー1式。
instanceId	ID	処理用に提出されるオブジェクトに関連付けられている <a href="#">ProcessInstance</a> のID。
instanceStatus	string	現在のプロセスインスタンスの状態 個別のオブジェクトではなく、全体のプロセスインスタンス。有効値は、「Approved」、「Rejected」、「Removed」、もしくは「Pending」です。
newWorkItemIds	ID[]	<a href="#">ProcessInstanceWorkitem</a> オブジェクトを指しているケースインセンティブID 新規に作成されたワークフロー項目。
success	boolean	処理または承認正しく完了した場合、true。

## query()

指定のオブジェクトに対してクエリを実行して、指定の条件にマッチしたデータを返します。

構文

```
QueryResult = binding.query(string queryString);
```

使用方法

[query\(\)](#) コールを使って、单一のオブジェクトからデータを取得できます。クライアントアプリケーションが [query\(\)](#) コールを呼び出す際、それは、オブジェクトへのクエリに、取得する項目、およびオブジェクトが該当するかを決定する条件を指定します。クエリに関して使われる構文と規則に関するより多くの情報については、「[Salesforce.com オブジェクトクエリ言語 \(SOQL\)](#)」を参照してください。

呼び出し時に、APIは特定のオブジェクトに対するクエリを実行し、API上のクエリの結果をキャッシュし、クエリレスポンスオブジェクトをクライアントアプリケーションに返します。それから、クライアントアプリケー

ションは、クエリレスポンスの行を通して繰り返し、情報を取得するために、クエリレスポンスオブジェクト上のメソッドを使うことができます。

指定オブジェクト内で個々のオブジェクトを問い合わせるために、および指定項目リスト内で項目を問い合わせるのに十分なアクセス権で、クライアントアプリケーションに、ログインする必要があります。詳細については、[データアクセスに影響する要素](#)を参照してください。

特定のオブジェクトは、API経由で問い合わせられます。[query\(\)](#) コールを経由してオブジェクトを問い合わせるために、そのオブジェクトは、クエリ可能として設定されている必要があります。クエリ可能かどうかを決定するために、クライアントアプリケーションは、オブジェクト上の[describeSObjects\(\)](#) コールを呼び出すことができ、[queryable](#) プロパティを確認することができます。



**ヒント:** Enterprise WSDLをご使用の場合、選択リストを取り込むために `describe` を使うべきではありません。たとえば、あなたがそれを使った後に、SObjectシステム管理者がSObjectに項目を追加する場合、`describe` コールは、項目をプルダウンしますが、ツールキットは、それを順番に並べる事ができないため、処理は失敗します。

アーカイブされた、またはされていないすべての[ToDo](#)および[イベント](#)レコード上でクエリするために、[queryAll\(\)](#) を使用可能です。アーカイブ済みのオブジェクトのみを探すために、`isArchived` 項目を絞り込むことも可能です。`isArchived` が `true` に設定されている場合、自動的にすべてのレコードを除去してしまうので、[query\(\)](#) は使用不可能です。アーカイブ済みのレコードの挿入、更新、または削除も可能です。

クエリレスponsオブジェクトは、最大500行のデータをデフォルトで含みます。クエリ結果が500行を超える場合、クライアントアプリケーションは、500行の塊の追加行を取得するために、[queryMore\(\)](#) コールとサーバ側のカーソルを使います。[Changing the Batch Size in Queries](#)にて記載されているように、デフォルトサイズを、`QueryOptions` ヘッダ内で2,000まで増加可能です。

2分以上のクエリはプロセスがタイムアウトします。タイムアウトしたクエリに関しては、APIは、[InvalidQueryLocatorFault](#) のAPI失敗エラー要素を返します。タイムアウトが発生した場合は、クエリを再構成しなおすか、より少量のデータを返すようにしてください。

Base64タイプの項目について([base64](#)参照)クエリする際には、クエリレスponsオブジェクトは、1度に1つのレコードしか返しません。[query\(\)](#) コールのバッチサイズを変更することでは、これを変更することはできません。



**メモ:** マルチ通貨組織に関しては、異なる通貨の値を含んでいる通貨フィールドをクエリするには、特殊処理が必要です。たとえば、クライアントアプリケーションが、`UnitPrice` 内の値に基づいて、`PricebookEntry` オブジェクトをクエリを行う場合、および `UnitPrice` の金額が異なる通貨で表示される場合、クエリロジックは、このケースを正しく処理する必要があります。たとえば、クエリが、10USD以上の単価の全製品の製品コードを取得しようとしている場合、クエリ表現は、以下のようになるかもしれません。

```
SELECT Product2Id, ProductCode, UnitPrice FROM PricebookEntry WHERE (UnitPrice >= 10  
and CurrencyIsoCode='USD') OR (UnitPrice >= 5.47 and CurrencyIsoCode='GBP') OR  
(UnitPrice >= 8.19 and CurrencyIsoCode='EUR')
```

## サンプルコード Java

```
private void querySample() { QueryResult qr = null; _QueryOptions qo = new _QueryOptions();  
qo.setBatchSize(250); binding.setHeader(new  
SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(), "QueryOptions", qo); try { qr =  
binding.query("select FirstName, LastName from Contact"); boolean done = false; if  
(qr.getSize() > 0){ System.out.println("Logged-in user can see " + qr.getRecords().length
```

```
+ " contact records."); while (!done) { for (int i=0;i<qr.getRecords().length;i++) { Contact
con = (Contact)qr.getRecords(i); String fName = con.getFirstName(); String lName =
con.getLastName(); if (fName == null) System.out.println("Contact " + (i + 1) + ":" + +
lName); else System.out.println("Contact " + (i + 1) + ":" + fName + " " + lName); } } if
(qr.isDone()) { done = true; } else { qr = binding.queryMore(qr.getQueryLocator()); } } }
else { System.out.println("No records found."); } System.out.println("\nQuery successfully
executed."); } catch (RemoteException ex) { System.out.println("\nFailed to execute query
successfully, error message was: \n" + ex.getMessage()); } }
```

## サンプルコード C#

```
using System; using System.Collections.Generic; using System.Text; using
System.Web.Services.Protocols; using Walkthrough.sforce;

namespace SFDCWsdl { public class SFDCWsdlTest { private SforceService binding;

private static readonly string Username = "ENTERUSERNAME"; private static readonly string
Password = "ENTERPASSWORD";

/// <summary> /// Create the binding and login /// </summary> private SFDCWsdlTest() {
this.binding = new SforceService(); LoginResult lr = binding.login(SFDCWsdlTest.Username,
SFDCWsdlTest.Password); this.binding.Url = lr.serverUrl; this.binding.SessionHeaderValue =
new SessionHeader(); this.binding.SessionHeaderValue.sessionId = lr.sessionId; }

public void QuerySample() { QueryResult qr = null;

binding.QueryOptionsValue = new QueryOptions(); binding.QueryOptionsValue.batchSize = 250;
binding.QueryOptionsValue.batchSizeSpecified = true;

qr = binding.query("select FirstName, LastName from Contact");

bool bContinue = true; int loopCounter = 0; while (bContinue) { Console.WriteLine("\nResults
Set " + Convert.ToString(loopCounter++) + " - "); //process the query results for (int i
= 0; i < qr.records.Length; i++) { Contact con = (Contact)qr.records[i]; string fName =
con.FirstName; string lName = con.LastName;

if (fName == null) Console.WriteLine("Contact " + (i + 1) + ":" + lName); else
Console.WriteLine("Contact " + (i + 1) + ":" + fName + " " + lName); } //handle the loop
+ 1 problem by checking the most recent queryResult if (qr.done) bContinue = false; else
qr = binding.queryMore(qr.queryLocator); } Console.WriteLine("\nQuery successfully executed.");
Console.Write("\nHit return to continue..."); Console.ReadLine(); }

[STAThread] static void Main(string[] args) { SFDCWsdlTest sfdcWsdlTest = new SFDCWsdlTest();
sfdcWsdlTest.QuerySample(); } } }
```

## 引数

名前	型	説明
queryString	string	クエリ対象のオブジェクト、返すの項目、およびクエリ内の特定オブジェクト を含むための条件を指定するクエリ文字列。詳細は、『 <a href="#">Salesforce.com オブジェ クト検索言語</a> 』を参照してください。

## レスポンス

[QueryResult](#)

## エラー

[MalformedQueryFault](#)

`InvalidSObjectFault`  
`InvalidFieldFault`  
`UnexpectedErrorFault`

## QueryResult

`query()` コールは、以下のプロパティを持つ `QueryResult` オブジェクトを返します。

名前	型	説明
<code>queryLocator</code>	<code>QueryLocator</code>	IDに似た特殊string。妥当な場合、後続のオブジェクトセットをクエリ結果から取得するために、 <code>queryMore()</code> で使われます。サーバ側のカーソルを表します。Salesforce.comアカウントは、ユーザ1人当たり最大10個のクエリカーソルを開くことができます。
<code>done</code>	<code>boolean</code>	追加行を、 <code>queryMore()</code> を使って、クエリ結果から取得する必要があるか( <code>false</code> )ないか( <code>true</code> )を示します。クエリ結果を通して繰返す間に、クライアントアプリケーションはループ条件としてこの値を使うことができます。
<code>records</code>	<code>sObject[]</code>	指定されたオブジェクトを表していて、 <code>queryString</code> にて指定された項目リストにて定義されたデータを含んでいる <code>sObjects</code> の配列。
<code>size</code>	<code>int</code>	クエリが行を取得したか(サイズ > 0)しなかったか(サイズ = 0)を判断するためには、クライアントアプリケーションは、この値を使うことができます。クエリ内で取得された行の総数。

## QueryLocator

`query()` コールによって返された `QueryResult` オブジェクト内には、後続の `queryMore()` コール内で使う `queryLocator` が含まれます。次のガイドラインに注意してください。

- 指定の `queryLocator` 値は、1度だけ使用します。`queryMore()` コールで渡す際に、`QueryResult` 内で API は新しい `queryLocator` を返します。
- `QueryLocator` オブジェクトは、非活動状態が 15 分続くと自動的に期限切れになります。
- ユーザは 1 度に最大 10 個のクエリカーソルを開くことができます。同じユーザとしてすでにログインしているクライアントアプリケーションが新しいカーソルを開こうとした時に、10 個の `QueryLocator` カーソルが開かれている場合、10 個のカーソルの内最も古いカーソルが解除されます。カーソル制限は Salesforce.com の UI のものと異なります。



メモ: Force.com のカーソル制限は異なる機能ごとに個別に追跡されます。たとえば、10 このクエリカーソルを使用でき、同時に 10 個のメタデータ API カーソルを使用できます。

`QueryLocator` は、サーバ側のカーソルを表します。

## Salesforce.com オブジェクトクエリ言語 (SOQL)

Salesforce オブジェクトクエリ言語 (SOQL) を使用して、次の環境で簡単ながらも強力なクエリ文字列を作成します。

- `query()` コールの `queryString` パラメータ
- Apex 文
- Visualforce コントローラまたは getter メソッド
- Eclipse Toolkit の Schema Explorer

構造化クエリ言語 (SQL) の SELECT コマンドと同様、SOQL では、ソースオブジェクト (Accountなど)、取得する項目のリスト、ソースオブジェクトから行を選択するための条件を指定できます。



メモ: SOQLは、SQL SELECTコマンドのすべての高度な機能をサポートするわけではありません。たとえば、任意の結合演算を実行するためにSOQLを使ったり、項目リスト内でワイルドカードを使ったり、計算表現を使ったりすることができます。

SOQL は、SELECT を検索条件文と組み合わせて使用し、一連のデータを返します。オプションで次のように並んでいます。

```
SELECT one or more fields FROM an object WHERE filter statements and, optionally, results are ordered
```

たとえば、次のSOQL クエリは、Name の値が Sandy と類似している場合、すべての取引先レコードの AccountId および Name 項目の値を返します。

```
SELECT AccountId, Name FROM Account WHERE Name LIKE 'Sandy'
```



メモ: Apex では、SOQL 文および SOSL 文を角括弧で囲み、フライで使用する必要があります。また、コロン(:) を前に追加して、Apex スクリプト変数および式を使用できます。

## SOQL 構文規則

以下はSOQLで使用する構文規則についてのトピック

規則	説明
<code>SELECT Name FROM Account</code>	例において、示されるように、クーリエフォントは、あなたがタイプするべき項目を示します。構文において、クーリエフォントはまた、示されるように、疑問符と角括弧以外の、タイプすべき項目を示します。
<code>SELECTfieldname FROM objectname</code>	例または構文において、イタリック体は変数を表しています。実際値を入力してください。
<code>?</code>	構文では、疑問符は、それに先行している要素がオプションであることを示します。要素は省略しても、または含んでもさしつかえありません。
<code>WHERE [conditionexpression]</code>	構文では、角括弧は、その要素の制限まで繰り返されるかもしれない要素を囲んでいます。要素は省略しても、またはその1つ以上を含んでもさしつかえありません。
<code>SELECT Name FROM Account</code>	いくつかの例では、例の前後のテキスト内で特に関心深い場合、その特定要素は太字強調されます。

## 別名表記法

SELECTクエリ内で別名表記法を使うことができます

```
SELECT count() from Contact c, c.Account a WHERE a.name = 'MyriadPubs'
```

別名を確立するためには、この例取引先責任者では、最初にオブジェクトを定義して、それから別名を指定してください。このケースでは「c」。SELECT文の残り部分では、オブジェクトまたは項目名の代わりにその別名を使うことができます。

## 引用された **string** のエスケープシーケンス

SOQLと一緒に以下のエスケープシーケンスを使うことができます。

シーケンス	意味
\n	新ライン
\	強制改行
\t	タブ
\b	ベル
\f	フォームフィード
\"	1つのダブルクオート文字
\'	1つのシングルクオート文字
\\	バックスラッシュ

他のコンテキスト内でバックスラッシュ文字を使った場合、エラーが発生します。

## 予約文字

予約文字は、リテラル文字列(シングルクオートの間)として、SELECT句 内で指定された場合、適切に解釈されるためにエスケープされる(バックスラッシュ\文字によって先行される)必要があります。バックスラッシュを予約文字の前に付けない場合、エラーが発生します。

以下の文字が予約されます

```
' (single quote) \ (backslash)
```

たとえば、「Bob's BBQ」に Account Name 項目のクエリを行うには、以下の SELECT 文を使用します。

```
SELECT Id FROM Account WHERE Name LIKE 'Bob\'s BBQ'
```

## SOQL SELECT 構文

SOQL SELECT 文は、次の構文を使います。

```
SELECT fieldList FROM objectType [WHERE conditionExpression] [ORDER BY] LIMIT ?
```

構文	説明
<code>fieldList subquery ?</code>	<p>指定した <code>object</code> から取得したいコンマによって区切られた1つ以上の項目リストを指定します。以下の例における太字の要素は、<code>fieldlist</code> です。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>SELECT <b>Id</b>, <b>Name</b>, <b>BillingCity</b> FROM Account</code></li> <li>• <code>SELECT <b>count()</b> FROM Contact</code></li> <li>• <code>SELECT <b>Contact.Firstname</b>, <b>Contact.Account.Name</b> FROM Contact</code></li> </ul> <p>有効な項目名を指定する必要があります、各指定項目の読み取りレベル許可を持っている必要があります。<code>fieldList</code> は、クエリ結果内の項目の順番を定義します。</p> <p>クエリがリレーションを検証する場合、<code>fieldList</code> はサブクエリを含むことができます。例:</p> <pre>SELECT <b>Account.Name</b>, (<code>SELECT Contact.LastName FROM Account.Contacts</code>)       FROM Account</pre> <p><code>fieldlist</code> は、<code>count()</code> になることもでき、または <code>toLabel()</code> 内でまとめることもできます。</p>
<code>objectType</code>	<code>query()</code> を実行したいオブジェクトのタイプを指定します。有効なオブジェクトを指定する必要があります、そのオブジェクトの読み取りレベル許可を持っている必要があります。
<code>conditionExpression</code>	<code>WHERE</code> が指定されている場合、絞り込み対象が、指定されたオブジェクト ( <code>objectType</code> ) 内のどの行と値かを決定します。未指定の場合、 <code>query()</code> は、ユーザが見ることができるオブジェクト内のすべての行を取得します。

次の実装ヒントに注意してください。

- SOQL文は10,000文字を越えることができません。最大長を超えるSOQL文に関しては、APIは、`MALFORMED_QUERY`例外コードを返し、結果行は返されません。
- 国際化対応のための2つの関数がSELECT文のオブジェクト要素に利用できます。
- クエリ処理のための特殊構文があります。
- Apexでは、SOQL文およびSOSL文を角括弧で囲み、フライで使用する必要があります。また、コロン(:)を前に追加して、Apexスクリプト変数および式を使用できます。

### 条件表現の構文 (WHERE 句)

SOQL文の WHERE 句の `conditionExpression`、では以下の構文を使用します。

```
fieldExpression logicalOperator fieldExpression2 ?
```

SOQL SELECT 文内の条件表現は、これらの例の中で太字で表されます

- `SELECT Name FROM Account WHERE Name like 'A%'`

- `SELECT Id FROM Contact WHERE Name like 'A%' AND MailingCity='California'`
  - `SELECT Name FROM Account WHERE CreatedDate > 2006-11-16T10:00:00-08:00`
- 日付または日時の値、または日付リテラルも使用できます。date および dateTime 項目の形式は異なります。
- `fieldExpression` で評価された順番を定義するために、括弧を使うことができます。たとえば、以下の表現は、`fieldExpression1` が `true` の場合、および `fieldExpression2` または `fieldExpression3` のいずれかが `true` の場合、`true` です。

```
fieldExpression1 AND (fieldExpression2 OR fieldExpression3)
```

- ただし、以下の表現は、`fieldExpression3` が `true` の場合、または `fieldExpression1` および `fieldExpression2` の両方が `true` の場合、`true` です。

```
(fieldExpression1 AND fieldExpression2) OR fieldExpression3
```

- クライアントアプリケーションは、演算子をネスト化する際に、括弧を指定する必要があります。しかし、同じタイプの複数の演算子は、ネスト化される必要がありません。



メモ: WHERE 句は、リレーションクエリのために親項目内で null 値を処理する際に、バージョンによって異なる方法で動作します。親が存在しない場合、親項目内の値をチェックする WHERE 句において、レコードはバージョン 13.0 以降では返されますが、13.0 より前のバージョンでは返されません。

```
SELECT Id FROM Case WHERE Contact.Lastname = null
```

ケースレコード `Id` 値は、バージョン 13.0 以降では返されますが、13.0 より前のバージョンでは返されません。

### SOQL クエリの `null`

SOQL クエリ内で `null` 値を表すには、値「`null`」を使用します。

たとえば、以下の文は無効でない活動日付の付いたすべての行動のアカウント ID を返します。

```
SELECT AccountId FROM Event WHERE ActivityDate !=null
```

`toLabel()`

クライアントアプリケーションは、`toLabel()` を使って、ユーザの言語に翻訳された返されたクエリからの結果を持つことができます:

```
toLabel(object.field)
```

通常、複数選択、ディビジョン、または通貨コードの選択リスト項目（関連の詳細コールによって返された選択リスト値を持つ項目）で `toLabel()` を使用します。または、RecordType 名を使用します。組織は `toLabel()` を使用可能です。特に、トランスレーションワークベンチを使用可能にしておくことは、組織にとって有益です。

例:

```
SELECT Company, toLabel(Recordtype.Name) FROM Lead
```

クエリを出したユーザ用の言語に翻訳されたレコードタイプ名で、このクエリはリードレコードを返します。



メモ: レコードタイプから翻訳された名前値での絞込みはできません。常にマスタ値またはレコードタイプ用のオブジェクトのIDの絞込みを行ってください。

翻訳された選択リスト値を使用したレコードの絞込みをするために、`toLabel()` が使用可能です。例:

```
SELECT Company, toLabel(Status) from LEAD WHERE toLabel(Status)='le Draft'
```

Status の選択リスト値が「le Draft」の場合、リードレコードが返されます。ユーザ言語に関して値が比較されます。指定された選択リストのためにユーザ言語用に利用可能な翻訳がない場合は、マスタ値が比較されます。



メモ: `toLabel()` メソッドは、`ORDER BY` では使用できません。Salesforce.com は、まさにレポートのように、常に選択リストで定義された順序を使用します。また、ディビジョンまたは通貨のISOコード選択リストに関しては、`WHERE` 句内で `toLabel()` を使用することはできません。

### Boolean 項目の絞込み

Boolean 項目の絞込みを行うには、以下の構文を使用します。

```
WHERE BooleanField = TRUE
```

```
WHERE BooleanField = FALSE
```

### 選択リスト(複数選択)の問い合わせ

複数選択リスト(複数項目の選択が可能)を問い合わせるために、クライアントアプリケーションは特定の構文を使います。

以下の演算子は、複数選択リストのクエリを行うために、サポートされます。

演算子	説明
=	指定された文字列と同じです。
!=	指定された文字列と同じではありません。
includes	指定された文字列を含みます。
excludes	指定された文字列を除外します。
;	2つ以上の文字列に AND を指定します。複数項目の選択が必要な場合、; を複数選択リストに使われます。例:  'AAA;BBB'

### 例

選択された AAA および BBB に等しい(完全一致) `MSP1__c` 項目内の値を次のクエリが絞り込みます。

```
SELECT Id, MSP1__c FROM CustObj__c WHERE MSP1__c = 'AAA;BBB'
```

次のクエリでは、

```
SELECT Id, MSP1__c from CustObj__c WHERE MSP1__c includes ('AAA;BBB', 'CCC')
```

以下の値のいずれかを含むMSP1\_\_c項目内の値をクエリが絞り込みます。

- 選択された AAA および BBB。
- 選択された CCC。

'AAA' と 'BBB' を含む項目値、または 'CCC' を含む項目において、結果として一致します。たとえば、以下が一致します。

- 'AAA; BBB' と一致するのは次のとおりです。

```
'AAA; BBB'      'AAA; BBB; DDD'
```

- 'CCC' に一致するのは次のとおりです。

```
'CCC'      'CCC; EEE'      'AAA; CCC'
```

### **fieldExpression** 構文

*fieldExpression* は以下の構文を使います。

```
fieldName comparisonOperator value
```

以下の場合

構文	説明
<i>fieldName</i>	指定されたオブジェクト内の項目名。名前のまわりのシングルクオートまたはダブルクオートの使用は、エラーを結果として生じるでしょう。最低でも、読み取りレベル権限を持っている必要があります。それは長いテキストエリア項目、暗号化されたデータ項目、またはベース64エンコードされた項目を除いたあらゆる項目である可能性があります。 <i>fieldList</i> 内の項目である必要はありません。
<i>comparisonOperator</i>	大文字と小文字を区別しない演算子で、値を比較します。
<i>value</i>	<i>fieldName</i> 内の値との比較に使用される値。指定された項目の項目タイプとマッチしているデータタイプを持った値を供給する必要があります。ネイティブの値を供給する必要があります。他の項目名または計算は許可されません。引用が必要な場合(たとえば、日付と数式ではない場合)、シングルクオートを使用します。ダブルクオートは、エラーとなります。

### 比較演算子

以下の表は、*fieldExpression* 構文内で使われる *comparisonOperator* 値をリストしています。string 上の比較はケースインセンシティブであることに注意してください。

演算子	名前	説明
=	Equals	指定の <i>fieldName</i> 内の値が、表現内の指定の <i>value</i> と等しい場合、その表現は、true です。等値演算子を使ってString 比較は、ケースインセンシティブです。
!=	Not equals	指定の <i>fieldName</i> 内の値が、指定の <i>value</i> と等しくない場合、表現は true です。

演算子	名前	説明
<	Less than	指定の <code>fieldName</code> 内の値が、指定の <code>value</code> 未満の場合、表現は <code>true</code> です。
<=	Less or equal	指定の <code>fieldName</code> 内の値が、指定の <code>value</code> 未満、または等しい場合、表現は <code>true</code> です。
>	Greater than	指定の <code>fieldName</code> 内の値が、指定の <code>value</code> を超える場合、表現は <code>true</code> です。
>=	Greater or equal	指定の <code>fieldName</code> 内の値が、指定の <code>value</code> を超える、または等しい場合、表現は <code>true</code> です。
LIKE	Like	<p>指定の <code>fieldName</code> 内の値が、指定の <code>value</code> 内のテキスト <code>string</code> の文字に一致する場合、表現は <code>true</code> です。SOQL と SOSL 内の <code>LIKE</code> 演算子は、SQL 内の <code>SAME</code> 演算子に類似して、部分的な文字列をマッチさせるしくみを提供し、ワイルドカードのサポートを含んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• <code>%</code> と <code>_</code> ワイルドカードは、<code>LIKE</code> 演算子に関してサポートされます。</li> <li>• <code>%</code> ワイルドカードは、ゼロ以上の文字をマッチさせます。</li> <li>• <code>_</code> ワイルドカードは、正確に1つの文字をマッチさせます。</li> <li>• 指定された <code>value</code> 内の文字列は、シングルクオートでくくられる必要があります。</li> <li>• <code>LIKE</code> 演算子は、<code>string</code> 項目のみに関してサポートされます。</li> <li>• SQL 内で一致しているケースセンシティブと異なり、<code>LIKE</code> 演算子は、ケースインセンシティブマッチを実行します。</li> <li>• SOQL と SOSL 内の <code>LIKE</code> 演算子は、特殊文字 <code>%</code> または <code>_</code> のエスケープをサポートしています。</li> <li>• 文字をエスケープするためを除いて、検索時にバックスラッシュ文字を使うべきではありません。</li> </ul> <p>たとえば、以下のクエリは、Appleton、Apple、および Bappl とマッチしているけれども、App1とはマッチしていません。</p> <pre>SELECT AccountId, FirstName, lastname FROM Contact WHERE lastname LIKE 'appl_%'</pre>
IN	IN	値が WHERE 句内の指定値の1つと等しい場合。例:
		<pre>SELECT Name FROM ACCOUNT WHERE BillingState IN ('California', 'New York')</pre> <p>IN のための値は、括弧でくくられている必要があることに注意してください。String 値は、シングルクオートでくくられている必要があります。</p> <p>IN と NOT IN は、ID 項目上で検索する際に、セミジョインおよびアンチジョインにも使用可能です。</p>

演算子	名前	説明
NOT IN	NOT IN	<p>値が WHERE 句内の指定値のどれとも等しくない場合。例:</p> <pre>SELECT Name FROM ACCOUNT WHERE BillingState NOT IN ('California', 'New York')</pre> <p>NOT IN のための値は、括弧でくくられる必要があり、string 値は、シングルクオートでくくられる必要があることに注意してください。</p> <p>論理演算子 NOT もありますが、比較演算子とは関連しません。</p>
INCLUDES EXCLUDES		複数選択リストにのみ適用されます。

### IN での準結合と NOT IN での反結合

同じオブジェクトの上の別の項目が値の指定セットを持っている場合、 IN を使って、項目内の値のクエリを行うことができます。例:

```
SELECT Name FROM ACCOUNT WHERE BillingState IN ('California', 'New York')
```

さらに、ID項目のクエリをするために、 IN と NOT IN を使って、より複雑な準結合と反結合を作成することができます。

#### 基本準結合: WHERE 句内での使用

WHERE 句内に準結合を含めることができます。たとえば、関連付けられた商談が見つからない場合、以下のクエリはアカウントIDを返します

```
SELECT Id, Name FROM Account WHERE Id IN (SELECT AccountId FROM Opportunity WHERE StageName = 'Closed Lost')
```

サブクエリが、その比較先の項目と同タイプの1つの項目を返すことに注目してください。不要な処理を防止する制限の完全なリストが、このセクションの終わりにあります。

#### 基本反結合: WHERE 句内での使用

進行中の商談を持たないすべての取引先のために、以下の例は取引先IDを返します

```
SELECT Id FROM Account WHERE Id NOT IN (SELECT AccountId FROM Opportunity WHERE IsClosed = false)
```

### 複数の準結合または反結合

1つのクエリ内で、準結合または反結合の句を結合することができます。たとえば、取引先に関連付けられた取引先責任者の姓が、姓「Apple」のような場合、以下のクエリは進行中の商談を持つIDを取引先に返します

```
SELECT Id, Name FROM Account WHERE Id IN ( SELECT AccountId FROM Contact WHERE LastName LIKE 'apple%' ) AND Id IN ( SELECT AccountId FROM Opportunity WHERE IsClosed = false)
```

1つの準結合または反結合クエリ内に多くとも2つのサブクエリを使用可能です。複数の準結合と反結合クエリは、また1つのクエリあたりのサブクエリの既存限界に左右されます。

#### リレーションクエリを評価する準結合または反結合

SELECT 句内の [relationship query](#) を評価する準結合または反結合を作成することができます。たとえば、商談のラインアイテムの合計価値が10,000ドル超の場合、以下のクエリは商談IDとそれらに関連付けられたラインアイテムを返します

```
SELECT Id, (SELECT Id from OpportunityLineItems) FROM Opportunity WHERE Id IN ( SELECT OpportunityId FROM OpportunityLineItem WHERE totalPrice > 10000 )
```

たくさんの処理作業が準結合と反結合のクエリに必要なので、可能な最高性能を維持するために、salesforce.com は制限を行います

- 基本制限
  - WHERE あたり2つを越す IN または NOT IN 文。
  - 準結合と反結合と一緒に、連結として NOT 演算子を使うことができません。それらを使うと、準結合は反結合に変換され、また反結合は準結合に変換されます。NOT 演算子を使う代わりに、適切な準結合または反結合書式でクエリを書いてください。
- メインクエリ制限メインのWHERE句内で、どのような準結合または反結合クエリの残されたオペランドも1つのメインID項目のクエリを行う必要があります。しかし、サブクエリ内の選ばれた項目は、外部キーの場合があります。例:

```
SELECT Id FROM Idea WHERE (Id IN (SELECT ParentId FROM Vote WHERE CreatedDate > LAST_WEEK))
```

- サブクエリ制限
  - サブクエリは、メインクエリと同じオブジェクトタイプを参照している項目のクエリを行う必要があります。
  - 1つのサブクエリ内で一致するレコード数には制限はありません。標準SOQLクエリ制限は、メインクエリに適用されます。
  - サブクエリ内の選ばれた列は外部キー項目でなければならず、リレーションをトラバースすることはできません。これは、サブクエリの選択された項目内で、ドット表記法の使用が不可能なことを意味しています。たとえば、以下のクエリは有効です。

```
SELECT Id, Name FROM Account WHERE Id in ( SELECT AccountId from Contact WHERE LastName LIKE 'Brown_%' )
```

AccountIdの代わりに Account.Id(ドット表記法)を使うことは、サポートされていません。同様に、Contact.AccountId FROM Case のようなサブクエリは無効です。

- サブクエリ内でのように、メインクエリ内で同じオブジェクトのクエリを行うことはできません。準結合または反結合を使わずに、そのような *self semi-join queries* を書くことができます。たとえば、以下の自己準結合クエリは無効です。

```
SELECT Id, Name FROM Account WHERE Id In ( SELECT ParentId FROM Account WHERE Name = 'myaccount' )
```

しかし、たとえば有効な書式においてクエリを書き直すことは非常に簡単です

```
SELECT Id, Name FROM Account WHERE Parent.Name = 'myaccount'
```

- 別の準結合または反結合内の、準結合または反結合文をネスト化することはできません。
- メイン WHERE 文内では準結合と反結合は使用可能ですが、サブクエリ WHERE 文内では使えません。たとえば、以下のクエリは有効です。

```
SELECT Id FROM Idea WHERE (Idea.Title LIKE 'Vacation%') AND (Idea.LastCommentDate > YESTERDAY) AND (Id IN (SELECT ParentId FROM Vote WHERE CreatedById = '005x0000000sMgYAAU'))
```

ネスト化されたクエリが追加のレベルディープなので、以下のクエリは無効です。

```
SELECT Id FROM Idea WHERE ((Idea.Title LIKE 'Vacation%') AND (CreatedDate > YESTERDAY) AND (Id IN (SELECT ParentId FROM Vote WHERE CreatedById = '005x0000000sMgYAAU'))) OR (Idea.Title like 'ExcellentIdea%')
```

- ORと連結して、サブクエリを使うことはできません。
- COUNT、FOR UPDATE、ORDER BY、およびLIMITは、サブクエリ内ではサポートされません。
- 以下のオブジェクトは、サブクエリ内では現在サポートされていません。
  - › ActivityHistory
  - › Attachments
  - › Event
  - › EventAttendee
  - › Note
  - › OpenActivity
  - › タグ (AccountTag、ContactTag、および他のすべてのタグオブジェクト)
  - › Task

## 論理演算子

以下の表は、*fieldExpression* 構文内で使われる論理演算子の値をリストしています。

演算子	構文	説明
AND	<i>fieldExpressionX</i> AND <i>fieldExpressionY</i>	<i>fieldExpressionX</i> および <i>fieldExpressionY</i> の両方が true の場合、true。
OR	<i>fieldExpressionX</i> OR <i>fieldExpressionY</i>	<i>fieldExpressionX</i> または <i>fieldExpressionY</i> のいずれかが true の場合、true。 APIのバージョンによっては、OR句内の外部キー値を持つリレーションクエリは異なる動作をします。ORを使ったWHERE句では、レコード内の外部キー値がnullの場合、レコードはバージョン13.0以降では返されますが、13.0より前のバージョンでは返されません。

```
SELECT Id FROM Contact WHERE LastName = 'foo' or Account.Name = 'bar'
```

演算子	構文	説明
		親アカウントのない取引先責任者は、条件を満たしている姓を持っているので、バージョン13.0以降では返されます。
NOT	not <i>fieldExpressionX</i>	<i>fieldExpressionX</i> が false の場合、 true。論理演算子 NOT IN もありますが、論理演算子とは異なります。

## 日付形式と日付リテラル

SOQLクエリ内で日付を指定する際、それは、先月または来年などの時間の相対範囲を表す所定の表現である特定の日付または日付リテラルであるかもしれません。dateTime項目値が、協定世界時(UTC)として記憶されることを覚えていてください。これらの値の1つがSalesforce.comアプリケーション内で返される時に、それはあなたの組織の好みで指定されたタイムゾーン用に自動調整されます。アプリケーションは、この変換を処理する必要があるかもしれません。

### 日付形式

*fieldExpression* は、 date or dateTime のために異なる日付を使います。あるクエリ内でdateTime書式を指定する場合、 dateTime 項目でのみ絞込み可能です。同様に、日付の形式値を指定した場合、 date 項目のみの絞込みが可能です。

表示形式	構文形式	例
日付のみ	YYYY-MM-DD	1999-01-01
日付、時間、および タイムゾーンオフ セット	<ul style="list-style-type: none"> <li>YYYY-MM-DDThh:mm:ss+hh:mm</li> <li>YYYY-MM-DDThh:mm:ss-hh:mm</li> <li>YYYY-MM-DDThh:mm:ssZ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>1999-01-01T23:01:01+01:00</li> <li>1999-01-01T23:01:01-08:00</li> <li>1999-01-01T23:01:01Z</li> </ul>

ゾーンオフセットは、常にUTCからされます。詳細は、以下を参照してください。

- <http://www.w3.org/TR/xmlschema-2/#isoformats>
- <http://www.w3.org/TR/NOTE-datetime>



メモ: 日付形式を使う *fieldExpression* に関しては、日付はシングルクオートではなくくられません。どの引用文も日付のまわりでは使われるべきではありません。例:

```
SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate > 2005-10-08T01:02:03Z
```

### 日付リテラル

*fieldExpression* は、値の範囲をdate または dateTime 項目内の値と比較するために、日付リテラルを使うことができます。各リテラルは、真夜中(12:00:00)に始まる時間の範囲です。範囲内の値を見つけるには、 = を使用します。範囲のいずれか片側の値を見つけるには、 > または < を使用します。以下の表は、日付リテラル、それが表している範囲、および例の利用可能なリストを示します

日付リテラル	範囲	例
YESTERDAY	前の日の12:00:00に始まり、24時間続きます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate = YESTERDAY
TODAY	当日の12:00:00に始まり、24時間続きます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate > TODAY
TOMORROW	当日の後の12:00:00に始まり、24時間続きます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate = TOMORROW
LAST_WEEK	その週の最も最近の最初の日の前の週の最初の日の12:00:00に始まり、まる7日間続きます。週の最初の日は、ロケールによって決定されます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate > LAST_WEEK
THIS_WEEK	当日の前の週の最も最近の最初の日の12:00:00に始まり、まる7日間続きます。週の最初の日は、ロカールによって決定されます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate < THIS_WEEK
NEXT_WEEK	当日の後の週の最も最近の最初の日の12:00:00に始まり、まる7日間続きます。週の最初の日は、ロカールによって決定されます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate = NEXT_WEEK
LAST_MONTH	当日の前の月の最初の日の12:00:00に始まり、その月のすべての日の間続きます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate > LAST_MONTH
THIS_MONTH	当日のある月の最初の日の12:00:00に始まり、その月のすべての日の間続きます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate < THIS_MONTH
NEXT_MONTH	当日のある月の後の月の最初の日の12:00:00に始まり、その月のすべての日の間続きます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate = NEXT_MONTH
LAST_90_DAYS	当日の12:00:00に始まり、最近の90日間前まで続きます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate = LAST_90_DAYS
NEXT_90_DAYS	当日の12:00:00に始まり、次の90日間続きます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate > NEXT_90_DAYS
LAST_N_DAYS: <i>n</i>	与えられた数 <i>n</i> に関しては、当日の12:00:00に始まり、その <i>n</i> 日間前まで続きます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate = LAST_N_DAYS:365
NEXT_N_DAYS: <i>n</i>	与えられた数 <i>n</i> に関しては、当日の12:00:00に始まり、その次の <i>n</i> 日間続きます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate > NEXT_N_DAYS:15
THIS_QUARTER	今四半期の12:00:00に始まり、今四半期の終わりまで続きます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate = THIS_QUARTER
LAST_QUARTER	前の四半期の12:00:00に始まり、その四半期の終わりまで続きます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate > LAST_QUARTER

日付リテラル	範囲	例
NEXT_QUARTER	次の四半期の12:00:00に始まり、その四半期の終わりまで続けます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate < NEXT_QUARTER
NEXT_N_QUARTERS: <i>n</i>	次の四半期の12:00:00に始まり、 <i>n</i> 番目の四半期の終わりまで続けます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate < NEXT_N_QUARTERS:2
LAST_N_QUARTERS: <i>n</i>	前の四半期の12:00:00に始まり、 <i>n</i> 番目前の四半期の終わりまで続けます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate > LAST_N_QUARTERS:2
THIS_YEAR	今年の1月1日の12:00:00に始まり、その年の12月31日まで続けます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate = THIS_YEAR
LAST_YEAR	前の年の1月1日の12:00:00に始まり、その年の12月31日まで続けます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate > LAST_YEAR
NEXT_YEAR	次の年の1月1日の12:00:00に始まり、その年の12月31日まで続けます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate < NEXT_YEAR
NEXT_N_YEARS: <i>n</i>	次の年の1月1日の12:00:00に始まり、 <i>n</i> 番目の年の12月31日まで続けます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate < NEXT_N_YEARS:5
LAST_N_YEARS: <i>n</i>	前の年の1月1日の12:00:00に始まり、 <i>n</i> 番目前の年の12月31日まで続けます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate > LAST_N_YEARS:5
THIS_FISCAL_QUARTER	現在の会計四半期の最初の日の12:00:00に始まり、その会計四半期の最終日の終わりまで続けます。会計四半期は、[設定]▶ [組織プロファイル][会計年度]で表示できる組織プロファイルによって定義されます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate = THIS_FISCAL_QUARTER
LAST_FISCAL_QUARTER	この前の会計四半期の最初の日の12:00:00に始まり、その会計四半期の最終日の終わりまで続けます。会計四半期は、[設定]▶ [組織プロファイル][会計年度]で表示できる組織プロファイルによって定義されます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate > LAST_FISCAL_QUARTER
NEXT_FISCAL_QUARTER	次の会計四半期の最初の日の12:00:00に始まり、その会計四半期の最終日の終わりまで続けます。会計四半期は、[設定]▶ [組織プロファイル][会計年度]で表示できる組織プロファイルによって定義されます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate < NEXT_FISCAL_QUARTER
NEXT_N_FISCAL_QUARTERS: <i>n</i>	次の会計四半期の最初の日の12:00:00に始まり、 <i>n</i> 番目の会計四半期の最終日の終わりまで続けます。会計四半期は、[設定]▶ [組織プロファイル][会計年度]で表示できる組織プロファイルによって定義されます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate < NEXT_N_FISCAL_QUARTERS:6

日付リテラル	範囲	例
LAST_N_FISCAL_QUARTERS:n	この前の会計四半期の最初の日の12:00:00 に始まり、n 番目前の会計四半期の最終日の終わりまで続きます。会計年度は、[設定]▶[組織プロファイル]▶[会計年度] で表示できる組織プロファイルによって定義されます。	SELECT Id FROM Account WHERE CreatedDate > LAST_N_FISCAL_QUARTERS:6
THIS_FISCAL_YEAR	現在の会計年度の最初の日の12:00:00 に始まり、その会計年度の最終日の終わりまで続きます。会計年度は、[設定]▶[組織プロファイル]▶[会計年度] で表示できる組織プロファイルによって定義されます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate = THIS_FISCAL_YEAR
LAST_FISCAL_YEAR	この前の会計年度の最初の日の12:00:00 に始まり、その会計年度の最終日の終わりまで続きます。会計年度は、[設定]▶[組織プロファイル]▶[会計年度] で表示できる組織プロファイルによって定義されます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate > LAST_FISCAL_YEAR
NEXT_FISCAL_YEAR	次の会計年度の最初の日の12:00:00 に始まり、その会計年度の最終日の終わりまで続きます。会計年度は、[設定]▶[組織プロファイル]▶[会計年度] で表示できる組織プロファイルによって定義されます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate < NEXT_FISCAL_YEAR
NEXT_N_FISCAL_YEARS:n	次の会計年度の最初の日の12:00:00 に始まり、n 番目の会計年度の最終日の終わりまで続きます。会計年度は、[設定]▶[組織プロファイル]▶[会計年度] で表示できる組織プロファイルによって定義されます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate < NEXT_N_FISCAL_YEARS:3
LAST_N_FISCAL_YEARS:n	この前の会計年度の最初の日の12:00:00 に始まり、n 番目前の会計年度の最終日の終わりまで続きます。会計年度は、[設定]▶[組織プロファイル]▶[会計年度] で表示できる組織プロファイルによって定義されます。	SELECT Id FROM Opportunity WHERE CloseDate > LAST_N_FISCAL_YEARS:3



メモ: Salesforce.com ユーザインターフェース内、および定義した年の範囲外を指定する FISCAL 日付リテラルのどちらかに、Custom Fiscal Years を定義した場合、無効日付エラーが返されます。

## 日付の最小値と最大値

特定の範囲内の日付のみが有効です。最も早い有効日付は、1700-01-01T00:00:00Z GMT、すなわち1700年1月1日のちょうど真夜中過ぎです。最も遅い有効日付は、4000-12-31T00:00:00Z GMT、すなわち4000年12月31日の真夜中過ぎです。



メモ: これらの値は、タイムゾーンごとのオフセットとなります。たとえば、太平洋タイムゾーンでは、最も早い有効な日付は 1699-12-31T16:00:00、つまり 1699 年 12 月 31 日の午後 4 時です。

`count()`

クエリによって返される行数を知るために、`SELECT` 句内で `count()` を使用します

```
SELECT count() FROM objectType [WHERE conditionExpression] [LIMIT number_of_rows]
```

例:

```
SELECT count() FROM Account WHERE Name LIKE 'a%'
```

```
SELECT count() FROM Contact, Contact.Account WHERE Account.name = 'MyriadPubs'
```

`count()` は、`SELECT` 文内で単独でなければならず、`SELECT` 句内の他の要素と混合されることができません。`count()` は、`ORDER BY` と一緒にには使用できませんが、`LIMIT` と一緒にには使用可能です。

クエリ結果 `Size` 項目は、行数を返します。レコードそのものは、`null` として返されます。

## ORDER BY

`SELECT` 文内で、`ORDER BY` を使うことができます。

```
SELECT fieldList FROM objectType [WHERE conditionExpression] [ORDER BY fieldExpression ASC | DESC ?NULLS FIRST | LAST ?] [LIMIT number_of_rows]
```

構文	説明
<code>ASC</code> または <code>DESC</code>	結果の順番が昇順( <code>ASC</code> )となるか降順( <code>DESC</code> )となるかを指定します。デフォルトは昇順です。
<code>NULLS FIRST</code> または <code>NULLS LAST</code>	結果の最初( <code>NULLS FIRST</code> )または最後( <code>NULLS LAST</code> )に null レコードを順番付けします。デフォルトでは、null 値は最初にソートされます。

たとえば、以下のクエリはファーストネームによるアルファベット順で、降順でソートされ、`null` 名前が最後に表示される取引先と一緒に、`Account` レコードを伴ったクエリ結果を返します。

```
SELECT Name FROM Account ORDER BY Name DESC NULLS LAST
```

以下のファクターが `ORDER BY` で返された結果に影響します。

- ソートは大文字小文字を区別しません。
- `ORDER BY` は、リレーションクエリ構文と互換性があります。
- 複数の `fieldExpression` 句を列記することによる複数列ソートはサポートされています。
- Force.com API のバージョンによっては、`ORDER BY` 句内の外部キー値を持つリレーションクエリは異なる動作をします。`ORDER BY` 句においては、レコード内の外部キー値が `null` の場合、レコードはバージョン13.0以降では返されますが、13.0より前のバージョンでは返されません。

```
SELECT Id, CaseNumber, Account.Id, Account.Name FROM Case ORDER BY Account.Name
```

`AccountId` が空白の場合、バージョン13.0以降では、レコードは返されます。

ORDER BY を使う際には、以下の制限はデータに適用されます。

- 参照、複数選択リスト、および長いテキストエリアのデータ型はサポートされていません。
- 他のすべてのデータ型は、以下の注意を守ることによってサポートされます。
  - 利用可能な場合、会社の通貨価値を使って、convertCurrency() は常にソートします。
  - ソート時には、phone データは、どのような特別書式も含まず、たとえば、ダッシュや括弧などの非数文字はソートに含められています。
  - picklist ソートは、セットアップ時に決定された選択リスト分類によって定義されます。

SELECT 文内で、任意の LIMIT 限定子とともに ORDER BY を使用可能です。

```
SELECT Name FROM Account WHERE industry = 'media' ORDER BY BillingPostalCode ASC NULLS last LIMIT 125
```

1つの ORDER BY クエリ内では最高32項目に制限されています。制限を越えた場合、奇形クエリ失敗エラーが返されます。

#### LIMIT

返す最大行数を指定するには、LIMIT を使用します

```
SELECT fieldList FROM objectType [WHERE conditionExpression] LIMIT number_of_rows
```

例:

```
SELECT Name FROM Account WHERE industry = 'media' LIMIT 125
```

このクエリは、業種が Media の最初の125のレコードを返します。

指定の最大限までカウントするには、fieldList として count() で LIMIT を使用します。

#### 複数の通貨を使用する組織の通貨項目の問い合わせ

ある組織においてマルチ通貨機能が有効な場合、通貨項目をユーザの通貨に変換するために、SELECT句内で convertCurrency() を使うことが可能です。

SELECT 句にこの構文を使用してください。

```
convertCurrency(Object)
```

例:

```
SELECT ID, convertCurrency(AnnualRevenue) FROM Account
```

組織がマルチ通貨機能を有効にした場合、日付を書かれた為替レートは商談、商談ラインアイテム、および商談履歴上の通貨項目を変換する際に使われます。

WHERE 句では、convertCurrency() 関数は使用できません。使用した場合、エラーが返されます。あなたの組織内の有効通貨からユーザの通貨に数値を変換するために、以下の構文を使用します。

```
WHERE Object_name Operator ISO_CODEvalue
```

例:

```
SELECT ID, Name FROM Opportunity WHERE Amount > USD5000
```

Amount値が5000USD相当を超える場合、この例では、商談レコードが返されます。たとえば、あるUSD5001の商談が返されますが、JPY7000は返されません。

あなたの組織に有効なISOコードを使用します。ISOコードを挿入しない場合、数値が比較量の代わりに使われます。上記の例を使って、商談レコードは、JPY5001、EUR5001、およびUSD5001で返されます。WHERE句内でINを使う場合、ISOコードと非ISOのコード値は混在できません。



メモ: 注文は、レポート内のように、常に変換された通貨価値に基づきます。このように、convertCurrency()は、ORDER BYと一緒に使用できません。

### SELECT句の例

検索タイプ	例
簡単なクエリ	<pre>SELECT Id, Name, BillingCity FROM Account</pre>
WHERE	<pre>SELECT Id FROM Contact WHERE Name like 'A%' AND MailingCity='California'</pre>
ORDER BY	<pre>SELECT Name FROM Account ORDER BY Name DESC NULLS LAST</pre>
LIMIT	<pre>SELECT Name FROM Account WHERE industry = 'media' LIMIT 125</pre>
LIMITを伴う ORDER BY	<pre>SELECT Name FROM Account WHERE industry = 'media' ORDER BY BillingPostalCode ASC NULLS last LIMIT 125</pre>
count()	<pre>SELECT count() FROM Contact</pre>
リレーションクエリ: 子から親	<pre>SELECT Contact.Firstname, Contact.Account.Name FROM Contact</pre> <pre>SELECT Id, Name, Account.Name FROM Contact WHERE Account.Industry = 'media'</pre>
リレーションクエリ: 親から子	<pre>SELECT Name, (SELECT LastName FROM Contacts) FROM Account</pre> <pre>SELECT Account.Name, (SELECT Contact.LastName FROM Account.Contacts) FROM Account</pre>
WHEREによるリレーションクエリ	<pre>SELECT Name, (SELECT lastname FROM Contacts WHERE CreatedBy.Alias = 'x') FROM Account WHERE industry = 'media'</pre>
リレーションクエリ: カスタムオブジェクトを伴う子から親	<pre>SELECT Id, FirstName__c, Mother_of_Child__r.FirstName__c FROM Daughter__c WHERE Mother_of_Child__r.LastName__c LIKE 'C%'</pre>
リレーションクエリ: カスタムオブジェクトを伴う親から子	<pre>SELECT Id, Name, (SELECT Id, FirstName, LastName FROM Contacts) FROM Account WHERE Name like 'Acme%'</pre>
多相キーによるリレーションクエリ	<pre>SELECT Id, Owner.Name FROM Task WHERE Owner.FirstName like 'B%'</pre> <pre>SELECT Id, Who.FirstName, Who.LastName FROM Task WHERE Owner.FirstName LIKE 'B%'</pre> <pre>SELECT Id, What.Name FROM Event</pre>

検索タイプ	例
aggregate によるリレーションクエリ	SELECT Name, (SELECT CreatedBy.Name FROM Notes) FROM Account SELECT Amount, Id, Name, (SELECT Quantity, ListPrice, PricebookEntry.UnitPrice, PricebookEntry.Name FROM OpportunityLineItems) FROM Opportunity



メモ: Apex では、SOQL 文および SOSL 文を角括弧で囲み、フライで使用する必要があります。また、コロン (:) を前に追加して、Apex スクリプト変数および式を使用できます。

## リレーションクエリ

クライアントアプリケーションは、一度に複数のオブジェクトタイプへのクエリを行える必要があります。これらのタイプのクエリをサポートするために、SOQLは、標準オブジェクトとカスタムオブジェクトの両方に対して、リレーションクエリと呼ばれる構文を提供します。

リレーションクエリは、結果を絞り込み返すために、オブジェクト間の親から子の関係および子から親の関係を横切ります。それらは、SQLジョインに似ています。しかし、任意のSQL結合を実行することはできません。このセクションの残り部分で定義されるように、SOQLにおけるリレーションクエリは、有効なリレーションを横切る必要があります。

たとえば、「Bob Jonesによって作成されたすべてのアカウントと、そのアカウントに関連する取引先責任者を返してください」を別のタイプのオブジェクトに適用する条件に基づいた1タイプのオブジェクトを検索するためには、リレーションクエリの使用が可能です。オブジェクトを接続している親から子または子から親リレーションがなければなりません。「Bob Jonesによって作成されたアカウントとユーザーをすべて返してください」などの任意のクエリを書くことはできません。

SOQLにてリレーションクエリを理解し、使用するために、以下のトピックを使用します。

- 「リレーション名について」
- 「リレーションクエリについて」
- 「リレーション名、カスタムオブジェクトおよびカスタム項目について」
- 「クエリ結果について」
- 「参照関係と外部結合」
- 「親子リレーションの識別」
- 「多構造キーとリレーション」
- 「リレーションクエリ制限について」
- 「履歴オブジェクトとリレーションクエリの使用」
- 「Partner WSDL を含むリレーションクエリの使用」

## リレーション名について

親から子供、そして子から親のリレーションは、多くのタイプのオブジェクトの間に存在しています。たとえば、AccountはContactの親です。



標準オブジェクトのためにこれらのリレーションのトラバースを可能にするために、各リレーションにリレーション名が与えられています。リレーションの方向によって、名前のフォームは、以下のように異なります。

- 子から親リレーションにとって、親へのリレーション名は外部キーの名前であり、親オブジェクトへの参照を保持するrelationshipNameプロパティがあります。たとえば、Contact子オブジェクトは、Accountオブジェクトへの子から親リレーションを持っていて、Contact内のrelationshipNameの値は、Accountです。これらのリレーションは、たとえば以下のように、クエリ内でドット表記法を使って親を指定することによって、トラバースされます。

```
SELECT Contact.FirstName, Contact.Account.Name from Contact
```

このクエリは、組織内のすべての取引責任者のファーストネーム、および各取引責任者に関して、その取引責任者の親と関連したアカウント名を返します。

- 親から子リレーションに関しては、親オブジェクトは、親に固有の子リレーションのための名前(子オブジェクト名の複数個)をもっています。たとえば、アカウントは他のオブジェクトの間にAssets、Cases、およびContactへの子リレーションを持っていて、それには、Assets、Cases、およびContactsというrelationshipNameがあります。これらのリレーションは、ネスト化したSOQLクエリを使って、SELECT句内のみをトラバース可能です。例:

```
SELECT Account.Name, (SELECT Contact.FirstName, Contact.LastName FROM Account.Contacts)
    FROM Account
```

このクエリは、すべてのアカウントを返します。各アカウントに関しては、そのアカウントの子に関連付けられた各取引責任者の姓名。



警告: そのリレーションの方向のための正しい命名規則とSELECT構文を使う必要があります。組織のWSDLまたはdescribeSObjects()を経由したリレーション名の発見方法については、「[親子リレーションの識別](#)」を参照してください。リレーションの方向によって、リレーションクエリに制限があります。詳細は、「[リレーションクエリ制限について](#)」を参照してください。

リレーション名は、SELECT構文が同じでも、カスタムオブジェクトに関してはいくらか異なります。詳細は、「[リレーション名、カスタムオブジェクトおよびカスタム項目について](#)」を参照してください。

#### リレーションクエリの使用

SOQLを使って以下のリレーションのクエリを行うことが可能です。

- 子から親リレーションのクエリを行ってください 多対一の場合が多くなります。SELECT, FROM、またはWHERE句内で、ドット(.)演算子を使って、これらのリレーションを直接指定してください。

例:

```
SELECT Id, Name, Account.Name FROM Contact WHERE Account.Industry = 'media'
```

このクエリは、その関連アカウント業種がメディアである取引責任者に関してのみ、IDと名前を返し、そして返された各取引責任者に関してはアカウント名を返します。

- 親から子のクエリのとき、それはほとんどの場合1対多です。サブクエリ内のFROM句の初期のメンバーが外部クエリFROM句の初期のメンバーの場合、サブクエリ(括弧でくくられた)を使って、これらのリレーションを指定してください。サブクエリ内で、それが各オブジェクトのリレーション名の場合、オブジェクトの複数名を指定するべきです。

例:

```
SELECT Name, (SELECT LastName FROM Contacts) FROM Account
```

クエリはすべてのアカウントに関して名前を返します。そして各アカウントに関しては、取引先責任者の姓を返します。

- aggregateクエリ内の外部キーとしての親から子リレーションをトラバースしてください  
例:

```
SELECT Name, (SELECT CreatedBy.Name FROM Notes) FROM Account
```

このクエリは組織内のアカウントを返します。そして、(結果セットが空でない場合)メモを作成したユーザ名と一緒に、アカウントに関して、アカウントの名前、それらのアカウント用のメモを返します(メモがない場合、空の結果セットかもしれない)。

- 同様の例で、aggregateクエリ内の親から子リレーションをトラバースしてください

```
SELECT Amount, Id, Name, (SELECT Quantity, ListPrice, PricebookEntry.UnitPrice, PricebookEntry.Name FROM OpportunityLineItems) FROM Opportunity
```

同じクエリを使って、(項目のデータを示す)製品群を指定することによって、Product2の値を得ることができます

```
SELECT Amount, Id, Name, (SELECT Quantity, ListPrice, PriceBookEntry.UnitPrice, PricebookEntry.Name, PricebookEntry.product2.Family FROM OpportunityLineItems) FROM Opportunity
```

- WHERE句は、どのようなクエリ(サブクエリを含む)にでも置かれ、現在のクエリのFROM句の根要素に適用可能です。これらの句は親リレーション経由で、現在の範囲(クエリの根要素から到達可能)のどのようなオブジェクト上でも絞込みを行うことが可能です。

例:

```
SELECT Name, (SELECT lastname FROM Contacts WHERE CreatedBy.Alias = 'x') FROM Account  
WHERE industry = 'media'
```

業種がメディアであるすべてのアカウントに関して、このクエリは名前を返し、返された各アカウントに関しては、作成者の別名が「x」のすべての取引先責任者の姓を戻します。

#### リレーション名、カスタムオブジェクトおよびカスタム項目について

カスタムオブジェクトは、リレーションクエリに関与可能です。Salesforce.comは、同じ名前の標準オブジェクトが現在または将来に利用可能な場合でさえ、カスタムオブジェクト名、カスタム項目名、およびそれらと関連付けられたリレーション名が固有であり続けると保証します。オブジェクト、項目、およびリレーションの名前を使って、クエリがリレーションをトラバースする場合、これはリレーションクエリにおいて重要です。

このセクションでは、どのようにカスタムオブジェクトとカスタム項目のリレーション名が作成され、使われるかを説明します。

Salesforce.com ユーザインターフェイス内で新しいカスタムリレーションを作成する場合、オブジェクト名の(リレーションクエリのために使う)複数形を指定するよう要求されます。



このケースDaughterにおいては、Child Relationship Name 親から子 が子オブジェクト名の複数形であることに注目してください。

リレーションは作成されると、あなたが作成したカスタム項目の名前であり、`_c` (underscore-underscore-c)によって添付されたAPI Nameを持つことに注意してください:



この項目をAPI経由で参照する際には、この名前の特殊形式を使う必要があります。これによって、salesforce.comがあなたのカスタム項目と同名の標準オブジェクトを作るかもしれない場合、あいまいさが防げます。同じプロセスがカスタム項目に適用されます。それが作成された際には、名前を付けられたオブジェクト API Name に`_c` を付与して使用する必要があります。

クエリ内のリレーション名を使う際には、`_c` を使わずにリレーション名を使用する必要があります。代わりに、`_r` (underscore underscore r) を添付してください。

例:

- 子から親リレーションを使用する際には、以下のようにドット表記法が使用可能です。

```
SELECT Id, FirstName__c, Mother_of_Child__r.FirstName__c FROM Daughter__c WHERE  
Mother_of_Child__r.LastName__c LIKE 'C%'
```

母の姓が「C」から始まる場合、このクエリは娘オブジェクトのIDとファーストネームと娘の母のファーストネームを返します。

- 親から子リレーションクエリは、以下のようにドット表記法を使いません。

```
SELECT LastName__c, (SELECT LastName__c FROM Daughters__r) FROM Mother__c
```

上の例では、すべての母の姓と各返された母に関して、母の娘の姓を戻します。

クエリ結果について

クエリ結果は、ネスト化されたオブジェクトとして返されます。メイン SELECT クエリのプライマリまたは「driving」オブジェクトは、サブクエリのクエリ結果を含みます。

たとえば、以下のように親から子または子から親構文のいずれかを使って、クエリを構築可能です。

- 子から親

```
SELECT Id, FirstName, LastName, AccountId, Account.Name FROM Contact WHERE Account.Name  
LIKE 'Acme%'
```

このクエリは、(返されたレコード数が多すぎなかったと仮定して)1つのクエリ結果を、WHERE句条件を満たすすべての取引先責任者に関して1行で返します。

- 親から子

```
SELECT Id, Name, (SELECT Id, FirstName, LastName FROM Contacts) FROM Account WHERE Name  
like 'Acme%'
```

このクエリは、アカウントのセットを返します。そして、各アカウント内では、サブクエリからの取引先責任者情報を含むContact項目のクエリ結果セットを返します。

多くの子供がいる場合、全レコード検索のために`queryMore()`を使う必要があるかもしれないという点において、サブクエリの結果は、通常のクエリ結果に似ています。たとえば、クエリをサブクエリを含むアカウント上に発行する場合、クライアントアプリケーションは、サブクエリからの結果も処理する必要があります

1. Account上でクエリを実行してください。
2. queryMore() で取引先 QueryResult を繰り返します。
3. 各取引先オブジェクトについては、取引先責任者 QueryResult を取得してください。
4. 各取引先責任者の QueryResult に対して queryMore() を使用し、子取引先責任者を繰り返します。

以下のサンプルは、サブクエリ結果を処理する方法を示しています。

```
private void querySample() { QueryResult qr = null; try { qr = binding.query("SELECT a.Id, a.Name, (SELECT c.Id, c.firstname, " + "c.lastname FROM a.Contacts c) FROM Account a"); boolean done = false; if (qr.getsize() > 0) { while (!done) { for (int i = 0; i < qr.getRecords().length; i++) { Account acct = (Account)qr.getRecords(i); String name = acct.getName(); System.out.println("Account " + (i + 1) + ": " + name); printContacts(acct.getContacts()); } if (qr.isDone()) { done = true; } else { qr = binding.queryMore(qr.getQueryLocator()); } } } else { System.out.println("No records found."); } System.out.println("\nQuery successfully executed."); } catch (RemoteException ex) { System.out.println("\nFailed to execute query successfully, error message " + "was: \n" + ex.getMessage()); } }

private void printContacts(QueryResult qr) throws RemoteException { boolean done = false; if (qr.getsize() > 0) { while (!done) { for (int i = 0; i < qr.getRecords().length; i++) { Contact contact = (Contact)qr.getRecords(i); String fName = contact.getFirstName(); String lName = contact.getLastName(); System.out.println("Child contact " + (i + 1) + ": " + lName + ", " + fName); } if (qr.isDone()) { done = true; } else { qr = binding.queryMore(qr.getQueryLocator()); } } } else { System.out.println("No child contacts found."); } }
```

## 参照関係と外部結合

API のバージョン 13.0 以降では、関連付けられた外部キー項目が null 値を持っていても、外部結合によって予期するように、relationship クエリはレコードを返します。動作の変化は、リレーションクエリの以下のタイプにあてはまります。

- ORDER BY 句においては、レコード内の外部キー値が null の場合、レコードはバージョン 13.0 以降では返されます、13.0 より前のバージョンでは返されません。例:

```
SELECT Id, CaseNumber, Account.Id, Account.Name FROM Case ORDER BY Account.Name
```

AccountId が空白の場合、バージョン 13.0 以降では、レコードは返されます。

以下の例はカスタムオブジェクトを使用します。

```
SELECT ID, Name, Parent__r.id, Parent__r.name FROM Child__c ORDER BY Parent__r.name
```

このクエリは、子オブジェクトの ID と Name 値、各 Child 内で参照される親オブジェクトの ID と名前を使い、そして親の名前で順番をつけます。バージョン 13.0 以降では、Parent\_\_r.id または Parent\_\_r.name が null の場合でさえ、レコードを返します。それより前のバージョンでは、そのようなレコードは、クエリによって返されません。

- OR を使った WHERE 句では、レコード内の外部キー値が null の場合、レコードはバージョン 13.0 以降では返されますが、13.0 より前のバージョンでは返されません。たとえば、組織が foo と等しい LastName 項目の値と null と等しい AccountId 項目の値を持った取引先責任者を持っていて、異なる姓と bar と名づけられた親取引先を持つもう一つの取引先責任者を持っている場合、以下のクエリは、bar と等しい姓を持った取引先責任者のみを返します。

```
SELECT Id FROM Contact WHERE LastName = 'foo' OR Account.Name = 'bar'
```

親取引先のない取引責任者は、条件を満たしている姓を持っているので、バージョン13.0以降では返されます。

- 親が存在しない場合、親項目内の値をチェックするWHERE句において、レコードはバージョン13.0以降では返されますが、13.0より前のバージョンでは返されません。例:

```
SELECT Id FROM Case WHERE Contact.Lastname = null
```

ケースレコード Id 値は、バージョン13.0以降では返されますが、13.0より前のバージョンでは返されません。

### 親子リレーションの識別

データモデルのERダイアグラムを見ることによって、親から子リレーションを識別可能です。しかしながら、すべての親から子リレーションがSOQL内であらわになるわけではないので、適切なdescribeコールを発行することによって親から子リレーション内でクエリを行うことが可能なことを確認するために、結果は、親から子リレーション情報を含んでいます。

組織のEnterprise WSDL をチェックすることもできます。

- 子リレーション名を見つけるために、子オブジェクトの複数形を含んでいて、type="tns:QueryResult"で終わっている項目を検索してください。たとえば Accountから

```
<complexType name="Account"> <complexContent> <extension base="ens:sObject">
<sequence> ...<element name="Contacts" nillable="true" minOccurs="0"
type="tns:QueryResult"/> ...</sequence> </extension> </complexContent> </complexType>
```

上の例では、子リレーション名 Contacts は、その親Account の項目の中にあります。

- オブジェクトの親に関しては、AccountId と Accountなどの1対の項目を検索してください(そこで、ID項目は IDによって参照された親オブジェクトを表していて、他がレコードの内容を表しています)。親項目は非プライミティブ型です(type="ens:Account")。

```
<complexType name="Opportunity"> <complexContent> <extension
base="ens:sObject"> <sequence> ...<element name="Account" nillable="true" minOccurs="0"
type="ens:Account"/> <element name="AccountId" nillable="true" minOccurs="0"
type="tns:ID"/> ...</sequence> </extension> </complexContent> </complexType>
```



メモ: すべてのリレーションが API で公開されているわけではありません。リレーションの識別に最も信頼できる方法は、describeSObject() コールの実行です。AJAX Toolkit を使用して、テストコードをすばやく実行できます。

- カスタムオブジェクトに関しては、リレーション接尾辞 \_\_r で1対の項目を検索してください:

```
<complexType name="Mother_c"> <complexContent> <extension base="ens:sObject">
<sequence> ...<element name="Daughters_r" nillable="true" minOccurs="0"
type="tns:QueryResult"/> <element name="FirstName_c" nillable="true" minOccurs="0"
type="xsd:string"/> <element name="LastName_c" nillable="true" minOccurs="0"
type="xsd:string"/> ...</sequence> </extension> </complexContent> </complexType>
```

```
<complexType name="Daughter_c"> <complexContent> <extension
base="ens:sObject"> <sequence> ...<element name="Mother_of_Child_c" nillable="true"
minOccurs="0" type="tns:ID"/> <element name="Mother_of_Child_r" nillable="true"
minOccurs="0" type="xsd:string"/> <element name="LastName_c" nillable="true" minOccurs="0"
type="ens:Mother_c"/> ...</sequence> </extension> </complexContent> </complexType>
```

## 多構造キーとリレーションについて

多構造キーは、複数の種類のオブジェクトを親として参照できる ID です。たとえば、取引先責任者またはリードのいずれかは、ToDo の親となります。つまり、ToDo の WhoId 項目は、取引先責任者またはリードのID を含みます。オブジェクトが親として複数のタイプのオブジェクトを持つことができる場合、多相キーポイントは、1種類のオブジェクトタイプの代わりに Name を示します。

`describeSObjects()` コールを実行すると、Name オブジェクトが返されます。このオブジェクトの項目 Type は、クエリされたオブジェクトをペアレンタル化することが可能なオブジェクトタイプのリストを含みます。

`DescribeSObjectResult` 内の namePointing 項目は、Name オブジェクトを示すリレーションを示します。このオブジェクトはリレーションが多相であるため必要です。たとえば、Task 上の WhoId の値は、取引先責任者またはリードとなりえます。

親のオブジェクトタイプが不明なリレーションをトラバースするために、クエリを構成するためにこれらの項目を使うことができます

- `owner`: この項目は、親のオブジェクトタイプに関係なく子オブジェクトを所有している親のオブジェクトを表しています。例:

```
SELECT Id, Owner.Name FROM Task WHERE Owner.FirstName like 'B%'
```

カレンダーまたはユーザのいずれかを所有者とする ToDo に、このクエリ例は作用します。

- `who`: この項目は、子に関連付けられた親のオブジェクトタイプを表しています

```
SELECT Id, Who.FirstName, Who.LastName FROM Task WHERE Owner.FirstName LIKE 'B%'
```

所有者がカレンダーまたはユーザのいずれかであるかもしれません、「who」親が取引先責任者またはリードのいずれかであるかもしれない ToDo に、このクエリ例は作用します。

クエリ内に返されたオブジェクトタイプを知りたい場合は、`who.Type` を使用します。例:

```
SELECT Id, Who.Id, Who.Type FROM Task
```

この例を使って、あなたは取引先責任者と関連付けられたすべての ToDo のクエリを行うことも可能でしょう

```
SELECT Id, Who.Id, Who.Type FROM Task WHERE Who.Type='Contact'
```

- `what`: この項目は、オブジェクトが人以外の(すなわち取引先責任者、リード、またはユーザでもない)何かを表している場合、子と関連付けられた親のオブジェクトタイプを表しています。

```
SELECT Id, What.Name FROM Event
```

親がアカウントまたはソリューションであるかもしれないイベントに、またはオブジェクトタイプの別の番号のために、このクエリ例は作用します。

オブジェクトの親と子についての情報を得るために `describeSObjects()` も使用可能です。詳細は、`describeSObjects()` を参照してください。特に、`true` に設定すると項目が名前を示すよう指示する `namePointing` も参照してください。

## リレーションクエリ制限について

リレーションクエリをデザインする際には、これらの制限を考慮してください

- リレーションクエリはSQL結合と同じではありません。 SOQL内で結合を作成するためには、オブジェクト間のリレーションを持つ必要があります。
- 20未満のリレーションしか1つのクエリ内では指定できません。
- 各指定リレーションにおいて、5つのレベルしか子から親リレーション内では指定できません。たとえば、`Contact.Account.Owner.FirstName`(3つのレベル)。
- 各指定リレーション内で、親から子リレーションの1つのレベルだけが1つのクエリ内で指定可能です。たとえば、`FROM`句は、`Account`を指定しますし、`SELECT`句は、そのレベルにおいて取引先責任者または他のオブジェクトのみを指定可能でしょう。それは`Contact`の子オブジェクトを指定することはできないでしょう。
- それらについての情報を得るために、メモと添付ファイルのクエリは可能ですが、メモまたは添付ファイルの内容での絞込みはできません。オブジェクト内の`textarea`項目、プロップ、または`Scontrol`の内容に対しての絞込みはできません。たとえば、以下のクエリは有効で、アカウントと関連付けられたどのようなメモに関する、すべてのアカウント名と所有者IDを返します

```
SELECT Account.Name, (SELECT Note.OwnerId FROM Account.Notes) FROM Account
```

しかし、それが、メモの内容に蓄えられた情報の評価を試みるので、以下のクエリは有効ではありません

```
SELECT Account.Name, (SELECT Note.Body FROM Account.Notes WHERE Note.Body LIKE 'D%') FROM Account
```

`WHERE`句を削除すれば、クエリは有効になります。メモの内容の内容を返します

```
SELECT Account.Name, (SELECT Note.Body FROM Account.Notes) FROM Account
```

## 履歴オブジェクトとリレーションクエリの使用

カスタムオブジェクトといくつかの標準オブジェクトは、オブジェクトレコードへの変更を追跡する関連付けられた履歴オブジェクトを持っています。その親オブジェクトに対する履歴オブジェクトをトラバースするために、リレーションクエリを使うことができます。たとえば、以下のクエリは`Foo__c`に関してすべての履歴行を返し、`Foo`の名前とカスタム項目を表示します

```
SELECT OldValue, NewValue, Parent.Id, Parent.name, Parent.customfield__c FROM foo__history
```

このクエリ例は、ネスト化されたサブクエリ内の対応する履歴行とともに、すべての`Foo`オブジェクト行を返します

```
SELECT Name, customfield__c, (SELECT OldValue, NewValue FROM foo__history) FROM foo__c
```

## Partner WSDL とリレーションクエリの使用

partner WSDLには、リレーションクエリのために必要がある情報を得るために、enterprise WSDL内で利用可能な詳細タイプ情報は含まれません。最初に`describeSObjects()`コールを実行する必要があります。そしてその結果から、リレーションクエリ作成に必要な情報を集めてください

- 1つから多くのリレーションに関する`relationshipName`値、たとえば、`Account`オブジェクト内納入子のリレーション名は`Assets`です。
- 関連オブジェクトに利用可能な参照項目、たとえば、`Lead`、`Case`、またはカスタムオブジェクト上の`whoId`、`whatId`、または`ownerId`。

リレーションクエリで partner WSDL を使用する例に関しては、[developer.force.com 上のサンプル](#) (要ログイン) を参照してください。

### クエリのバッチサイズの変更

デフォルトでは、`query()` または `queryMore()` コールで返されるクエリ結果オブジェクト内に返される行数 (バッチサイズ) は 500 に設定されています。クライアントアプリケーションは、`query()` をコールする前に SOAP ヘッダーの `QueryOptions` コールでバッチサイズを指定してこの設定を変更できます。最大バッチサイズは 2,000 レコードです。しかし、この設定は単なる提案です。要求されるバッチサイズが、実際のバッチサイズになるとという保証はまったくありません。パフォーマンスを最大化するために変更が行われます。



メモ: SOQL 文が長文テキストタイプの 2つ以上のカスタム項目を選んだ場合、バッチサイズは 200 未満になるでしょう。これは、戻されることからの大きな SOAP メッセージを防止することになっています。

以下のサンプル Java (Axis) コードは、バッチサイズを 250 レコードに設定した例です。

```
public void queryOptionsSample() { _QueryOptions qo = new _QueryOptions();
qo.setBatchSize(250);
binding.setHeader(new SforceServiceLocator().getserviceName().getNamespaceURI(),
"QueryOptions", qo); }
```

以下のサンプル C# (.NET) コードは、バッチサイズを 250 レコードに設定した例です。

```
private void queryOptionsSample() { binding.QueryOptionsValue = new QueryOptions();
binding.QueryOptionsValue.batchSize = 250; binding.QueryOptionsValue.batchSizeSpecified =
true; }
```

### シンジケーションフィード SOQL および対応付け構文

シンジケーションフィードサービスでは、SOQL クエリとアプリケーションがオブジェクトのセットおよびオブジェクトを示すことができる、そしてオブジェクト間のリレーションを検証できる、対応付け指定を使用します。クエリ文字列パラメータとして追加でき、データの表示方を検索し、制御できるオプションもいくつかあります。シンジケーションフィードは、公開サイトに定義できます。

クエリフィード定義の SOQL に対する制限事項の詳細については、Salesforce.com オンラインヘルプのシンジケーションフィードについての項を参照してください。

## queryAll()

削除されているかどうかに関わらず、指定されたオブジェクトからデータを検索します。

## 構文

```
QueryResult = binding.queryAll(string queryString);
```

## 使用方法

queryAllを使って、削除されたレコードを判別してください。queryAllは、項目isDeletedへの読み取り専用アクセスを持っています。持っていない場合は、[query\(\)](#)と同じです。

削除されたレコードを探し出すには([undelete\(\)](#) コールで、それらを復活する準備の際に)、クエリ文字列に isDeleted = trueを指定してください。マージされたレコードに関しては、[masterRecord](#)を要求してください。例:

```
SELECT id, isDeleted, masterRecordId FROM Account WHERE masterRecordId='100000000000000000Abc'
```

アーカイブされた、またはされていないすべてのToDoおよびイベントレコード上でクエリするために、[queryAll\(\)](#)を使用可能です。また、アーカイブ済みのオブジェクトのみを探すために、isArchived項目を絞り込むことが可能です。isArchivedがtrueに設定されている場合、自動的にすべてのレコードを除去してしまうので、[query\(\)](#)は使用不可能です。isArchived項目は更新不可ですが、アーカイブ済みのレコードの更新または削除が可能です。APIを下記の条件を満たす活動を挿入するために使っている場合、アーカイバルバックグラウンド処理の次の実行時に活動はアーカイブされます。

queryAll使用の追加情報については、[query\(\)](#)を参照してください。

## サンプルコード Java

```
private void querySample() { QueryResult qr = null; _QueryOptions qo = new _QueryOptions();  
    qo.setBatchSize(250); binding.setHeader(new SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(), "QueryOptions", qo); try { qr =  
        binding.queryAll("select FirstName, LastName, IsDeleted from Contact"); boolean done =  
        false; if (qr.getSize() > 0){ System.out.println("Logged-in user can see " +  
        qr.getRecords().length + " contact records (including deleted records)."); while (!done) {  
            for (int i=0;i<qr.getRecords().length;i++) { Contact con = (Contact)qr.getRecords(i);  
                String fName = con.getFirstName(); String lName = con.getLastName(); boolean isD =  
                con.getIsDeleted(); if (fName == null) System.out.println("Contact " + (i + 1) + ":" +  
                lName + " isDeleted = " + isD); else System.out.println("Contact " + (i + 1) + ":" + fName  
                + " " + lName + " isDeleted = " + isD); } if (qr.isDone()) { done = true; } else { qr =  
                binding.queryMore(qr.getQueryLocator()); } } else { System.out.println("No records found.");  
            } System.out.println("\nQuery successfully executed."); } catch (RemoteException ex) {  
        System.out.println("\nFailed to execute query successfully, error message was: \n" +  
        ex.getMessage()); } }
```

## サンプルコード C#

```
private void queryAllSample() { QueryResult qr = null; QueryOptions qo = new QueryOptions();  
    qo.batchSize = 250; binding.QueryOptionsValue = qo; try { qr = binding.queryAll("Select  
    FirstName, LastName, IsDeleted from Account"); if (qr.size > 0) { Console.WriteLine("Logged-in  
    user can see " + qr.records.Length + " Account"); while (true) { for (int i = 0; i <  
    qr.records.Length; i++) { Account account = (Account)qr.records[i]; String name =  
    account.Name; bool? isD = account.IsDeleted; Console.WriteLine("Account " + (i + 1) + ":" +  
    name + "isDeleted = " + isD); if (qr.done) { break; } else { qr =  
                binding.queryMore(qr.queryLocator); } } } else { Console.WriteLine("No records found.");  
            } Console.WriteLine("QueryAll successfully executed."); } catch (Exception ex) {
```

```
Console.WriteLine("\nFailed to execute query successfully, error message was: \n" +  
    ex.Message); } }
```

## 引数

名前	型	説明
queryString	string	クエリを行うためのオブジェクト、返すための項目、およびクエリ内の特定オブジェクトを含むための条件を指定するクエリstring。 詳細は、『 <a href="#">Salesforce.com オブジェクト検索言語</a> 』を参照してください。

## レスポンス

[QueryResult](#)

## エラー

[MalformedQueryFault](#)

[InvalidSObjectFault](#)

[InvalidFieldFault](#)

[UnexpectedErrorFault](#)

## queryMore()

次のオブジェクトのバッチを[query\(\)](#)から取得します。

## 構文

```
QueryResult = binding.queryMore( QueryLocator QueryLocator );
```

## 使用方法

結果セット内の大きな数 規定値500超 のレコードを取得する[query\(\)](#) コールを処理するためにこれを使用します。[query\(\)](#) コールは、最初の500レコードを取得し、queryLocator内で表されているサーバ側カーソルを作成します。[queryMore\(\)](#) コールは、最大500レコードの塊まで後続のレコードを処理し、新規に生成された[QueryLocator](#)を返します。結果セット内のレコードを通じて繰り返すために、一般的には、すべての結果セット内のレコードが処理される `Done` フラグが `true` まで、[queryMore\(\)](#) を繰り返し呼び出します。返されるレコードの最大数を最高 2,000 にまで変更可能です。 詳細は、[Changing the Batch Size in Queries](#) を参照してください。



メモ: 親オブジェクト上の[queryMore\(\)](#) コールは、前の結果セット内のすべての子カーソルを無効にします。子から結果が必要な場合は、親結果上で[queryMore\(\)](#) を使う前に、子結果上で[queryMore\(\)](#) を使う必要があります。

## サンプルコード Java

```
private void querySample() { QueryResult qr = null; _QueryOptions qo = new _QueryOptions();  
    qo.setBatchSize(250); binding.setHeader(new
```

```
SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(), "QueryOptions", qr); try { qr =
    binding.query("select FirstName, LastName from Contact"); boolean done = false; if
    (qr.getsize() > 0){ System.out.println("Logged-in user can see " + qr.getRecords().length
    + " contact records."); while (!done) { for (int i=0;i<qr.getRecords().length;i++) { Contact
    con = (Contact)qr.getRecords(i); String fName = con.getFirstName(); String lName =
    con.getLastName(); if (fName == null) System.out.println("Contact " + (i + 1) + ":" + +
    lName); else System.out.println("Contact " + (i + 1) + ":" + fName + " " + lName); } if
    (qr.isDone()) { done = true; } else { qr = binding.queryMore(qr.getQueryLocator()); } } }
    else { System.out.println("No records found."); } System.out.println("\nQuery successfully
    executed."); } catch (RemoteException ex) { System.out.println("\nFailed to execute query
    successfully, error message was: \n" + ex.getMessage()); } }
```

## サンプルコード C#

```
using System; using System.Collections.Generic; using System.Text; using
System.Web.Services.Protocols; using Walkthrough.sforce;

namespace SFDCWsdl { public class SFDCWsdlTest { private SforceService binding;
private static readonly string Username = "ENTERUSERNAME"; private static readonly string
Password = "ENTERPASSWORD";

/// <summary> /// Create the binding and login /// </summary> private SFDCWsdlTest() {
this.binding = new SforceService(); LoginResult lr = binding.login(SFDCWsdlTest.Username,
SFDCWsdlTest.Password); this.binding.Url = lr.serverUrl; this.binding.SessionHeaderValue =
new SessionHeader(); this.binding.SessionHeaderValue.sessionId = lr.sessionId; }

public void QuerySample() { QueryResult qr = null;

binding.QueryOptionsValue = new QueryOptions(); binding.QueryOptionsValue.batchSize = 250;
binding.QueryOptionsValue.batchSizeSpecified = true;

qr = binding.query("select FirstName, LastName from Contact");

bool bContinue = true; int loopCounter = 0; while (bContinue) { Console.WriteLine("\nResults
Set " + Convert.ToString(loopCounter++) + " - "); //process the query results for (int i
= 0; i < qr.records.Length; i++) { Contact con = (Contact)qr.records[i]; string fName =
con.FirstName; string lName = con.LastName;

if (fName == null) Console.WriteLine("Contact " + (i + 1) + ":" + lName); else
Console.WriteLine("Contact " + (i + 1) + ":" + fName + " " + lName); } //handle the loop
+ 1 problem by checking the most recent queryResult if (qr.done) bContinue = false; else
qr = binding.queryMore(qr.queryLocator); } Console.WriteLine("\nQuery successfully executed.");
Console.Write("\nHit return to continue..."); Console.ReadLine(); }

[STAThread] static void Main(string[] args) { SFDCWsdlTest sfdcWsdlTest = new SFDCWsdlTest();
sfdcWsdlTest.QuerySample(); } } }
```

## 引数

名前	型	説明
queryLocator	<a href="#">QueryLocator</a>	クエリ結果セットにおいて、現在の処理位置を追跡するサー バ側のカーソルを表します。

## レスポンス

### [QueryResult](#)

## エラー

[InvalidQueryLocatorFault](#)

[UnexpectedErrorFault](#)

## QueryResult

`queryMore()` コールは、以下のプロパティを持ったQueryResultオブジェクトを返します。

名前	型	説明
queryLocator	<a href="#">QueryLocator</a>	IDに似た特殊string。妥当な場合、オブジェクトセットをクエリ結果から取得するために、後続の <a href="#">queryMore()</a> コールで使われます。
done	<a href="#">boolean</a>	もう1つの <a href="#">queryMore()</a> コールを使って、追加行がクエリ結果( <code>false</code> )から取得される必要があるか、ないか( <code>true</code> )を示します。クエリ結果を通して繰返す間に、クライアントアプリケーションはループ条件としてこの値を使うことができます。
records	<a href="#">sObject[]</a>	指定されたオブジェクトを表していて、 <a href="#">queryString</a> にて指定された項目リストにて定義されたデータを含んでいる <a href="#">sObjects</a> の配列。
size	<a href="#">int</a>	クエリ内で取得された行の総数。クエリが行を取得したか(サイズ > 0)しなかったか(サイズ = 0)を判断するために、クライアントアプリケーションは、この値を使うことができます。



メモ: 親オブジェクト上の[queryMore\(\)](#) コールは、前の結果セット内のすべての子カーソルを無効にします。子から結果が必要な場合は、親結果上で[queryMore\(\)](#) を使う前に、子結果上で[queryMore\(\)](#) を使う必要があります。

## QueryLocator

`queryMore()` コールによって返されたQueryResultオブジェクト内において、[queryLocator](#)には、後続の[queryMore\(\)](#) コール内で使う値が含まれます。この値を使用するには、以下のガイドラインに留意ください。

- `queryLocator`は、1度だけ使用します。`queryMore()` コールで渡す際に、[QueryResult](#)内でAPIは新しい`queryLocator`を返します。
- `queryLocator`値は、非活動状態が15分続くと自動的に期限切れになります。
- ユーザは1度に最大10個のクエリカーソルを開くことができます。同じユーザとしてまだログインしているクライアントアプリケーションが新しいカーソルを開こうとした時に、10個のQueryLocatorカーソルが開かれている場合、10個のカーソルの内最も古いカーソルが解除されます。

`QueryLocator`は、サーバ側のカーソルを表します。



メモ: 親オブジェクト上の[queryMore\(\)](#) コールは、前の結果セット内のすべての子カーソルを無効にします。子から結果が必要な場合は、親結果上で[queryMore\(\)](#) を使う前に、子結果上で[queryMore\(\)](#) を使う必要があります。

## retrieve()

指定したオブジェクトIDに基づいて1つ以上のオブジェクトを取得します。

### 構文

```
sObject[] result = binding.retrieve(string fieldList, string sObjectType, ID ids[]);
```

### 使用方法

`retrieve()` コールを使って、オブジェクトから個別レコードを取得してください。クライアントアプリケーションは、取得する項目、オブジェクト、および取得するオブジェクトIDの配列を渡します。`retrieve()` コールは、削除されたレコードを返しません。

一般に、取得するレコードのIDが前もって分かっている場合は、`retrieve()` を使用します。IDが分かっているか他の選択条件を指定したい場合は、代わりに`query()` を使用します。

クライアントアプリケーションは、クライアント側の結合を実行するために、`retrieve()` を使用可能です。たとえば、クライアントアプリケーションは、`Opportunity` レコードのセットを取得するために、`query()` を実行することができます。そして、戻された商談レコードを通して繰返し、各商談用の`accountId` を取得し、それらの`accountId` 用の`Account` 情報を取得するために`retrieve()` をコールします。

特定のオブジェクトは、API 経由で取得されます。`retrieve()` コール経由でオブジェクトを取得するには、そのオブジェクトは、取得可能として設定されている必要があります `retrieveable` が `true`。オブジェクトが確認可能かどうかを確認するには、クライアントアプリケーションでオブジェクトに対する `describeSObjects()` コールを実行し、`retrieveable` プロパティを確認します。

指定オブジェクト内で個々のオブジェクトを取得するため、および指定項目リスト内で項目を取得するのに十分なアクセス権で、クライアントアプリケーションに、ログインする必要があります。詳細については、[Factors that Affect Data Access](#) を参照してください。

### サンプルコード Java

```
private void retrieveSample() { try { // Invoke the retrieve call and save results in  
// an array of SObjects SObject[] sObjects = binding.retrieve("Id, AccountNumber, Name, Website",  
// "Account", new ID[] {new ID("001x0000002kuk1AAA"), new ID("001x0000002khE0AAI")});  
  
// Verify that some objects were returned.// Even though we began with valid object IDs,  
// someone else might have deleted them in the meantime. if (sObjects != null) { // Loop  
through the array and print out some properties for (int i=0;i<sObjects.length;i++) { //  
Cast the SObject into an Account object Account retrievedAccount = (Account)sObjects[i];  
System.out.println("Account: " + retrievedAccount.getId()); System.out.println(" AccountNumber  
= " + retrievedAccount.getAccountNumber()); System.out.println(" Name = " +  
retrievedAccount.getName()); System.out.println(" Website = " +  
retrievedAccount.getWebsite()); } } catch (Exception ex) { System.out.println("An unexpected  
error has occurred."+ ex.getMessage()); } }
```

### サンプルコード C#

```
private void retrieve() { // Invoke retrieve call and save results in an array of SObjects  
sObject[] records = binding.retrieve("FirstName, LastName", "Contact", new String[]  
{ "003x0000002kuk1AAA", "003x0000002khE0AAI" });  
  
// Iterate through the results for (int i=0;i<records.Length;i++) { Contact contact =
```

```
(Contact)records[i]; // Get the contact properties System.Diagnostics.Trace.WriteLine("Name
is: " + contact.FirstName + " " + contact.LastName); } }
```

## 引数

名前	型	説明
fieldList	string	カンマで区切られた指定オブジェクトの1つ以上のリスト。あなたは、有効な項目名を指定する必要があります、各指定項目の読み取りレベル許可を持っている必要があります。fieldListは、 <a href="#">result</a> 内の項目の順番を定義します。
sObjectType	string	データ取得元のオブジェクト。指定された値は、あなたの組織にとって有効なオブジェクトである必要があります。完全なオブジェクトのセットについては、 <a href="#">Standard Objects</a> を参照してください。
ids	ID[]	取得するオブジェクトの1つ以上のIDの配列。最大2000のオブジェクトIDを <a href="#">retrieve()</a> コールに送ることができます。IDについては、 <a href="#">ID FieldType</a> を参照してください。

## レスポンス

名前	型	説明
result	sObject[]	指定されたオブジェクトのオブジェクトを表している1つ以上のsObjectsの配列。配列内に返されたsObjectsの数は、 <a href="#">retrieve()</a> コールに送られたIDのオブジェクトの数にマッチします。オブジェクトへのアクセスを持たないか、パスされたIDが無効の場合、配列は、そのオブジェクトにnullを返します。IDについての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください

## エラー

[InvalidSObjectFault](#)  
[InvalidFieldFault](#)  
[UnexpectedErrorFault](#)

## search()

あなたの組織のデータ内でテキスト検索を実行します。

## 構文

```
SearchResult = binding.search(String searchString);
```

## 使用方法

`search()` を使って、検索文字列を元にしたオブジェクトの検索を行ってください。`search()` コールは、検索力スタムオブジェクトをサポートしています。テキスト検索に関して使われる構文と規則に関する広い議論については、[Salesforce.com オブジェクト検索言語 \(SOSL\)](#)を参照してください。

`Attachment`オブジェクトのような、特定のオブジェクトは、API経由で検索できません。`search()` コール経由でオブジェクトを検索するには、そのオブジェクトは、検索可能として設定されている必要があります。検索可能かどうかを決定するために、クライアントアプリケーションは、オブジェクト上の`describeSObjects()` コールを呼び出すことができ、`searchable`プロパティを確認することができます。

### サンプルコード Java

```
private void searchSample() { SearchResult sr = null; try { // This search will look for a particular phone number in contacts, // leads, and Accounts, returning similar information for contact // and Leads and just the name and phone number for the accounts sr = binding.search("find {4159017000} " + "in phone fields " + "returning " + "contact(id, phone, firstname, lastname), " + "lead(id, phone, firstname, lastname), " + "account(id, phone, name)"); // Put the results into an array of SearchRecords SearchRecord[] records = sr.getSearchRecords(); // Check the length of the returned array of records to see // if the search found anything if (records != null && records.length > 0) { // We are going to use lists to hold the results ArrayList contacts = new ArrayList(); ArrayList leads = new ArrayList(); ArrayList accounts = new ArrayList(); // We will go through the results and determine what type // of object we found by using instanceof and add each record // to the correct vector for (int i=0;i<records.length;i++){ SObject record = records[i].getRecord(); if (record instanceof Contact) { contacts.add(record); } else if (record instanceof Lead){ leads.add(record); } else if (record instanceof Account) { accounts.add(record); } } // we now have our results sorted into buckets of specific types // so we can report our findings if (contacts.size() > 0) { System.out.println("Found " + contacts.size() + " contacts:"); for (int i=0;i<contacts.size();i++){ Contact c = (Contact) contacts.get(i); System.out.println(c.getFirstName() + " " + c.getLastName() + " - " + c.getPhone()); } } if (leads.size() > 0) { System.out.println("Found " + leads.size() + " leads:"); for (int i=0;i<leads.size();i++){ Lead l = (Lead) leads.get(i); System.out.println(l.getFirstName() + " " + l.getLastName() + " - " + l.getPhone()); } } if (accounts.size() > 0) { System.out.println("Found " + accounts.size() + " accounts:"); for (int i=0;i<accounts.size();i++){ Account a = (Account) accounts.get(i); System.out.println(a.getName() + " - " + a.getPhone()); } } else { System.out.println("No records were found for the search."); } } } catch (Exception ex) { System.out.println("An unexpected error has occurred." + ex.getMessage()); } }
```

### サンプルコード C#

```
using System; using System.Collections.Generic; using System.Text; using SFDCWsdl.Salesforce_WSDL;

namespace SFDCWsdl { public class SFDCWsdlTest { private SforceService binding;

private static readonly string Username = "USERNAME"; private static readonly string Password = "PASSWORD";

/// <summary> /// Create the binding and login /// </summary> private SFDCWsdlTest() {
this.binding = new SforceService(); binding.login(SFDCWsdlTest.Username,
SFDCWsdlTest.Password); }

private void SearchSample() { SforceService binding = new SforceService();

 SearchResult sr = null;

sr = binding.search("find {4159017000} in phone fields returning " + "contact(id, phone,
firstname, lastname), " + "lead(id, phone, firstname, lastname), " + "account(id, phone,
name)"); }
```

```

SearchRecord[] records = sr.searchRecords;

List<sObject> contacts = new List<sObject>(); List<sObject> leads = new List<sObject>();
List<sObject> accounts = new List<sObject>(); if (records.Length > 0) { for (int i = 0; i < records.Length; i++) { sObject record = records[i].record; if (record.type.ToLower().Equals("contact")) { contacts.Add(record); } else if (record.type.ToLower().Equals("lead")) { leads.Add(record); } else if (record.type.ToLower().Equals("account")) { accounts.Add(record); } } if (contacts.Count > 0) { Console.WriteLine("Found " + contacts.Count + " contacts:"); for (int i = 0; i < contacts.Count; i++) { sObject c = (sObject)contacts[i]; Console.WriteLine(c.Any[2].InnerText + " " + c.Any[3].InnerText + " - " + c.Any[1].InnerText); } } if (leads.Count > 0) { Console.WriteLine("Found " + leads.Count + " leads:"); for (int i = 0; i < leads.Count; i++) { sObject l = (sObject)leads[i]; Console.WriteLine(l.Any[2].InnerText + " " + l.Any[3].InnerText + " - " + l.Any[1].InnerText); } } if (accounts.Count > 0) { Console.WriteLine("Found " + accounts.Count + " accounts:"); for (int i = 0; i < accounts.Count; i++) { sObject a = (sObject)accounts[i]; Console.WriteLine(a.Any[2].InnerText + " - " + a.Any[1].InnerText); } } else { Console.WriteLine("No records were found for the search."); } } }

```

## 引数

名前	型	説明
検索	string	検索されるテキスト表現、検索される項目範囲、取得するオブジェクトと項目のリスト、および返すオブジェクトの最大数を指定する検索文字列。詳細は、『 <a href="#">Salesforce.com オブジェクト検索言語 (SOSL)</a> 』を参照してください。

## レスポンス

### SearchResult

#### エラー

[InvalidFieldFault](#)

[InvalidSObjectFault](#)

[MalformedSearchFault](#)

[UnexpectedErrorFault](#)

## SearchResult

`search()` コールは、以下のプロパティを持った SearchResult オブジェクトを返します。

名前	型	説明
searchRecords	SearchRecord[]	SearchRecord オブジェクトの配列、sObject をそれぞれ含んでいます。

## Salesforce.com オブジェクト検索言語 (SOSL)

Salesforce オブジェクト検索言語 (SOSL) を使用して、次の環境でテキスト検索を作成します。

- `search()` コール

- Apex 文
- Visualforce コントローラまたは getter メソッド
- Eclipse Toolkit のSchema Explorer

SOQL(一度に1つだけのオブジェクトのクエリが可能)と異なり、SOSLは、一度にテキスト、電子メール、および電話の項目で複数のオブジェクトを検索することを可能にします。

SOSL SELECT 文の構文及び用法を理解するために、以下のトピックをお読みください。

- [About SOSL](#)
- [SOQL 印字規則](#)
- [SOSL Syntax](#)
- [FIND {SearchQuery}](#)
- [IN SearchGroup](#)
- [RETURNING FieldSpec](#)
- [WHERE conditionExpression](#)
- [ORDER BY clause](#)
- [WITH DivisionFilter](#)
- [LIMIT n](#)
- [toLabel\(\)](#)
- マルチ通貨組織において通貨項目のクエリを行う
- [Example Text Searches](#)
- [Text Searches in CJK Languages](#)

## SOSLについて

SOSLを使用して、ソースオブジェクトについて次のことを指定できます。

- テキスト表現
- 検索する項目の範囲
- 取得するオブジェクトおよび項目のリスト
- ソースオブジェクトの行を選択する条件

search() コールの search パラメータ内に全体のSOSL表現を渡します。



メモ:組織のリレーションクエリが有効になっている場合、SOSL内でSOQLリレーションクエリをサポートします。

## SOQL および SOSL の比較

Salesforce.com Object Query Language (SOQL) のように、SOSLは、組織の Salesforce.com データからの特定情報の検索を可能にします。一度に1つのクエリだけ問い合わせできる SOQL と異なり、1つの SOSL クエリで、カスタムオブジェクトを含む、アクセス権限を持つすべてのオブジェクトを検索できます。APIは、指定された範囲内で検索を実行し、アプリケーションがログインしたユーザ権限に基づいて、利用可能な情報だけを返します。

- query() コールで SOQL を使用して、1つのオブジェクトにレコードを選択します。
- search() コールで SOSL を使用して、1つまたは複数のオブジェクトのレコードを検索します。search() コールは、検索カスタムオブジェクトをサポートしています。検索項目の詳細については「検索範囲」を参照してください。

## 効率的なテキスト検索をデザインする

検索が一般的すぎる場合、速度が遅くなり、あまりに多くの結果が返されます。次を使用して、より効率的な検索を行います。

- **IN 句**—検索する列の種類を制限する
- **RETURNING 句**—検索するオブジェクトを制限する
- **LIMIT 句**—検索結果を制限する

## 検索範囲

`search()` コールは、(カスタムオブジェクトを含む) アクセス可能なほとんどのオブジェクトとテキスト項目を検索します。以下のオブジェクトと項目は検索しません

- 検索不可能と定義される選択リストなどのあらゆる要素 (`searchable` が `false`)。指定されたオブジェクトが検索可能かどうかを確認するには、アプリケーションでオブジェクトに対する `describeSObjects()` コールを実行し、`DescribeSObjectResult` の `searchable` プロパティを確認します。
- 数、日付、またはチェックボックスの項目。そのような情報を検索するには、`query()` コールを代わりに使用してください。
- Textarea 項目 (ALL FIELDS 検索グループを使わない限り)
- 特定のオブジェクトと関連付けられたAttachment レコード たとえば、Account, Contact、または Opportunity オブジェクト。

次の実装ヒントに注意してください。

- `search()` コールには、同義語一致やストップワードなどの特殊検索機能はありません。
- Apex では、SOQL 文および SOSL 文を角括弧で囲み、フライで使用する必要があります。また、コロン(:) を前に追加して、Apex スクリプト変数および式を使用できます。

## SOQL 印字規則

以下の印字規則を使う SOSL についてのトピック

規則	説明
<code>FIND Name IN Account</code>	例において、示されるように、クーリエフォントは、あなたがタイプするべき項目を示します。構文文において、クーリエフォントはまた、示されるように、疑問符と角括弧以外の、タイプすべき項目を示します。
<code>FIND fieldname IN objectname</code>	例または構文文において、イタリック体は変数を表しています。実際値を入力してください。
,	構文文では、角括弧の内側のコンマは、それを含む要素がその要素の制限まで繰り返されるかもしれないことを示しています。
<code>[ORDER BY conditionexpression]</code>	構文文内では、角括弧は、オプションの要素を囲みます。要素を省略しても、または含んでもさしつかえありません。もしくは、コンマがある場合、複数も可能です。

## SOSL 構文

SOSL は以下の構文を使います。

```
FIND {SearchQuery} [ toLabel() ] [ IN SearchGroup [ convertCurrency(Amount) ] ] [ RETURNING FieldSpec ] [ WITH DivisionFilter ] [ LIMIT n ]
```

以下の場合

構文	説明
<code>FIND {SearchQuery}</code>	必須。検索するテキスト(単語または語句)を指定します。検索クエリは、中括弧で区切られる必要があります。
<code>toLabel()</code>	オプション。クエリからの結果は、ユーザの言語に翻訳されて、返されます。
<code>IN SearchGroup</code>	オプション。検索する項目の範囲。以下のいずれかの値になります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• ALL FIELDS</li><li>• NAME FIELDS</li><li>• EMAIL FIELDS</li><li>• PHONE FIELDS</li></ul> 未指定の場合、デフォルトは、ALL FIELDS です。 <code>RETURNING FieldSpec</code> 句内で検索するオブジェクトのリストを指定可能です。
<code>convertCurrency(Amount)</code>	オプション。組織が使用可能なマルチ通貨の場合、通貨項目をユーザの通貨に変換します。
<code>RETURNING FieldSpec</code>	オプション。検索結果内で返される情報。1つ以上のオブジェクトのリストと、各オブジェクト内で、絞込み対象のオプションの値を持つ1つ以上の項目のリスト。未指定の場合、検索結果は見つかったすべてのオブジェクトのIDを含みます。
<code>WITH DivisionFilter</code>	オプション。組織がディビジョンを使う場合、Division項目のための値に基づいて、すべての検索結果を効率的に絞込みます。
<code>LIMIT n</code>	オプション。テキストクエリ内で返される最大行数を指定します。指定されない場合、デフォルトは 200 です(それは、返されることができる最大行数です)。



メモ: SOSL 文は 10,000 文字を越えることができません。最大長を超えるSOSL文に関しては、API は、`MALFORMED_SEARCH` 例外コードを返し、結果行は返されません。

## FIND {SearchQuery}

要求された FIND 句によって、検索する単語または語句の指定が可能になります。検索クエリには以下が含まれます。

- ・ 検索する文字テキスト (单一の単語または語句)
- ・ 任意で、 [Wildcards](#)
- ・ オプションで、グループ化括弧を含む論理 [Operators](#)

検索は左から右に確認され、ユニコード(UTF-8)エンコーディングを使います。テキスト検索は大文字小文字を区別しません。たとえば、Customer、customer、またはCUSTOMER を検索すると、すべてが同じ結果を返します。

ランタイムで評価されるテキスト表現(マクロ、機能、または正規表現などの)の特別タイプは、 FIND 内では使用できないことに注意してください。



メモ: SearchQuery は、中括弧で区切られる必要があります。これは、明らかに検索表現をテキスト検索における他の句と区別するために必要です。

### 单一の単語と語句

SearchQuery には、2つのタイプのテキストが含まれます。

- ・ **Single Word:** test または hello などの单一の単語。SearchQuery 内の単語は、スペース、句読点、および文字から数字まで(そして逆)の変化によって区切られます。単語は常に大文字小文字を区別しません。中国語、日本語、および朝鮮語 (CJK) では、単語も CJK タイプ文字のペアによって区切られます。
- ・ **Phrase** "john smith" などのダブルクオートによって囲まれた単語とスペースのコレクション。複数の単語は、より複雑なクエリを形成するために、論理およびグループ化 [Operators](#)と一緒に結合することができます。特定のキーワード (「and」、「or」、および「not」)を検索したい場合、それらの単語はダブルクオートで囲まれなければならず、さもなければ、それらは対応する演算子として解釈されます。

### ワイルドカード

検索内のテキストパターンとマッチさせるために、以下のワイルドカード文字を指定することができます

ワイルドカード 説明	
*	検索キーワードの途中または末尾で、1つ以上の文字の代わりにアスタリスク (*) を使用できます。検索キーワードの先頭にアスタリスクを使用しないでください。単語または語句内のリテラルアスタリスクを検索している場合、アスタリスクをエスケープしてください (\ 文字をその前に付けてください)。たとえば、「太*」を検索すると、「太一」や「太次郎」などの「太」で始まるデータが表示されます。ma* を検索すると、mary または marty が付いた項目を探します。
?	検索キーワードの途中または末尾で、1つの文字の代わりに疑問符 (?) を使用できます。検索キーワードの先頭にワイルドカードの疑問符を使用しないでください。たとえば、「た?や」を検索すると、「たつや」や「たくや」を含むデータが表示されます。

ワイルドカードを使う際には、以下の問題を考慮してください

- ワイルドカード検索の焦点が狭いほど、検索結果はより速く返され、意図したとおりの結果がほたらされる可能性が高まるでしょう。たとえば、単語 `prospect` (または複数形 `prospects`) のすべての発生を検索するには、無関係の一致 (`prosperity` など) を返す可能性のある制限のより少ないワイルドカード検索 (`prosp*` など) を指定するよりも、検索文字列内で `prospect*` を指定する方がより効率的です。
- 単語のすべてのバリエーションを見つけるために、検索を調整してください。たとえば、`property` と `properties`を見つけるには、`propert*` を指定するでしょう。
- 句読点はインデックスを受けられます。語句内で \* または ? を見つけるためには、検索文字列を引用符で囲む必要があります、特殊文字をエスケープする必要があります。たとえば、"where are you\?" は、語句 `where are you?` を見つけます。エスケープ文字 (\) は、この検索が正しく作動するために必要です。

## 演算子

テキスト検索の焦点を合わせるために、以下の特殊演算子が使用可能です。

演算子	説明
" "	検索キーワードを引用符で囲むと、完全に一致する句が検索されます。この検索は、句読点を含むテキストの検索時に特に有効です。たとえば、「"acme.com"」を検索すると、「acme.com」と完全に一致する文字列を含むデータが表示されます。「"定例 ミーティング"」を検索すると、「定例 ミーティング」と完全に一致するフレーズを含むデータが表示されます。
AND	すべての検索キーワードに一致するデータを検索します。たとえば、「john AND smith」を検索すると、「john」と「smith」の両方の単語を含むデータが表示されます。演算子を指定しない場合、これはデフォルトの演算子です。大文字小文字を区別しません。
OR	検索キーワードを最低 1 つ含むデータを検索します。たとえば、「john OR smith」を検索すると、「john」と「john」のどちらか、または両方を含むデータが表示されます。大文字小文字を区別しません。
AND NOT	検索キーワードを含まないデータを検索します。たとえば、「john AND NOT smith」を検索すると、「john」という単語を含み、「smith」という単語を含まないデータが表示されます。大文字小文字を区別しません。
( )	検索語をグループ化するために、論理演算子と連結して、検索語を括弧でくくってください。たとえば、以下の検索が可能です <ul style="list-style-type: none"> <li>• ("Bob" and "Jones") OR ("Sally" and "Smith") Bob Jones または Sally Smith のいずれかを検索します。</li> <li>• ("Bob") and ("Jones" OR "Thomas") and Sally Smith Bob Jones または Bob Thomas と Sally Smith のいずれかを検索します。</li> </ul>

## 予約文字

以下の文字が予約されます

```
? & | ! { } [ ] ( ) ^ ~ * : \ " ' + -
```

予約文字は、text searchにて指定された場合、適切に解釈するために、エスケープされる(バックスラッシュ\文字で先行される)必要があります。バックスラッシュを予約文字の前に付けない場合、エラーが発生します。SearchQuery がダブルクオートで囲まれている場合でさえ、これは、true です。

たとえば、次のテキストを検索するには、

```
{1+1}:2
```

各予約文字の前にバックスラッシュを挿入してください。

```
\{1\+1\}\:2
```

#### 例 FIND 句

検索タイプ	例
単一のキーワード例	<pre>FIND {MyProspect}</pre> <pre>FIND {mylogin@salesforce.com}</pre> <pre>FIND {FIND}</pre> <pre>FIND {IN}</pre> <pre>FIND {RETURNING}</pre> <pre>FIND {LIMIT}</pre>
単一の語句	<pre>FIND {John Smith}</pre>
キーワード OR キーワード	<pre>FIND {MyProspect OR MyCompany}</pre>
キーワード AND キーワード	<pre>FIND {MyProspect AND MyCompany}</pre>
キーワード AND フレーズ	<pre>FIND {MyProspect AND "John Smith"}</pre>
キーワード OR フレーズ	<pre>FIND {MyProspect OR "John Smith"}</pre>
AND/ORを使う複雑なクエリ	<pre>FIND {MyProspect AND "John Smith" OR MyCompany}</pre> <pre>FIND {MyProspect AND ("John Smith" OR MyCompany)}</pre>
AND NOT を使う複雑なクエリ	<pre>FIND {MyProspect AND NOT MyCompany}</pre>
ワイルドカード検索	<pre>FIND {My*}</pre>
エスケープシーケンス	<pre>FIND {Why not\?}</pre>
無効、または不完全な語句(成功しないでしょう)	<pre>FIND {"John Smith"}</pre>

#### Apex 内の FIND 句

Apex の FIND 句の構文は、Force.com Web サービス API の FIND 句と異なります。

- Apex の場合、FIND 句の値は单一引用符で区画されます。例:

```
FIND 'map*' IN ALL FIELDS RETURNING Account (id, name), Contact, Opportunity, Lead
```

- Force.com API の場合、`FIND` 句の値は中かっこで区画されます。例:

```
FIND {map*} IN ALL FIELDS RETURNING Account (id, name), Contact, Opportunity, Lead
```

Apex でのSOSL および SOQL 使用の詳細は、『*Force.com Apex Code Developer's Guide*』を参照してください。

### IN SearchGroup

任意の1 `IN` 句によって、検索項目のタイプの定義が可能になります。以下の値の1つを指定することができます（数の項目が検索不可能なことに注意してください）。指定されてない場合、デフォルト動作は、検索可能なオブジェクト内の全テキスト項目を検索します。

#### 有効なSearchGroup設定

範囲	説明
ALL FIELDS	すべての検索可能項目を検索してください。 <code>IN</code> 句が指定されていない場合、これはデフォルト設定です。
EMAIL FIELDS	電子メール項目だけを検索してください。
NAME FIELDS	名前項目だけを検索してください。カスタムオブジェクト内で、「名前項目」と定義された項目が検索されます。標準とカスタムのオブジェクト内で、名前項目の <code>nameField</code> プロパティは、 <code>true</code> に設定されています（詳細は、 <code>DescribeSObjectResult</code> の <code>fields</code> パラメータの <code>Field</code> 配列を参照してください）。
PHONE FIELDS	電話番号項目だけを検索してください。
SIDE BAR FIELDS	サイドバー ドロップダウンリストに表示されている有効なレコードを検索します。アプリケーション内の検索とは異なり、アスタリスク (*) のワイルドカードは検索文字列の最後に追加されません。

`IN` 句がオプションの場合、全項目を検索する必要がない限り、検索範囲を指定することをお勧めします。たとえば、電子メールアドレスだけを検索している場合、最も効率的な検索をデザインするために `IN EMAIL FIELDS` を指定するべきです。

#### 例 IN 句

検索タイプ	例
検索グループなし	<code>FIND {MyProspect}</code>
ALL FIELDS	<code>FIND {MyProspect} IN ALL FIELDS</code>
EMAIL FIELDS	<code>FIND {mylogin@mycompany.com} IN EMAIL FIELDS</code>
NAME FIELDS	<code>FIND {MyProspect} IN NAME FIELDS</code>
PHONE FIELDS	<code>FIND {MyProspect} IN PHONE FIELDS</code>
SIDE BAR FIELDS	<code>FIND {MyProspect} IN SIDE BAR FIELDS</code>
無効な検索(成功しない)	<code>FIND {MyProspect} IN Accounts</code>

## RETURNING FieldSpec

オプションの RETURNING 句によって、テキスト検索結果内で返される情報の指定が可能になります。指定されない場合、デフォルト動作で、どれがより小さくても LIMIT *n* 句で指定された最大または 200 のいずれかまで、すべての使用可能なオブジェクトの ID を返します。



メモ: ソリューション、ドキュメント、および商品は、検索結果内に返される RETURNING 句内で明示的に指定される必要があります。例:

```
FIND {MyProspect} RETURNING Account, Solution, Product2, Document
```

search() コールから返される結果データを制限するために、RETURNING 句を使用してください。ID についての詳細は、「ID データ型」を参照してください

### 構文

以下の構文内で、角括弧[] は、省略してもよいオプション要素を表しています。コンマは、示されたセグメントが複数回表れることがあります。

```
RETURNING ObjectTypeName [(FieldList [WHERE conditionExpression] [ORDER BY clause] [LIMIT n]) [, ObjectTypeName [(FieldList) [WHERE conditionExpression] [ORDER BY clause] [LIMIT n]]]]
```

RETURNING は以下の要素を含むことができます

氏名	説明
ObjectTypeName	返されるオブジェクト。指定された場合、search() コールは、指定されたオブジェクトと一致するすべての見つかったオブジェクトの ID を返します。有効な sObject タイプである必要があります。コンマで区切って、複数のオブジェクトを指定することができます。RETURNING 句内で指定されなかったオブジェクトは、search() コールでは返されません。
FieldList	コンマで区切られて、指定されたオブジェクトのために返される 1 つ以上の項目のオプションのリスト。そして、(ID に加えて)、1 つ以上の項目を指定した場合、その項目もすべての見つかったオブジェクトのために返されます。常に返されるので、ID 項目を指定する必要はありません。
WHERE conditionExpression	どのように検索結果が指定のオブジェクトのために絞り込まれるかのオプションの説明、個々の項目値に基づきます。未指定の場合、検索は、ユーザが見ることができるオブジェクト内のすべての行を取得します。  WHERE 句を指定したい場合、FieldList を少なくとも 1 つの指定された項目に含める必要があることに注意してください。例:  RETURNING Account (WHERE name like 'test')  は、正しい構文ではないが、  RETURNING Account (Name, Industry WHERE Name like 'test')  は正しい構文です。

氏名	説明
	<p>詳細は「<a href="#">conditionExpression</a>」を参照してください。</p>
<b>ORDER BY clause</b>	<p>昇順、降順を含め、どのように返された結果を順番付けするか、そしてどう nullが順番付けされるかのオプションの説明。複数の ORDER BY 句が使用可能です。</p> <p>ORDER BY 句を指定したい場合、FieldList を少なくとも1つの指定された項目に含める必要があることに注意してください。例:</p> <pre>RETURNING Account (ORDER BY id)</pre> <p>は、正しい構文ではないが、</p> <pre>RETURNING Account (Name, Industry ORDER BY Name)</pre> <p>は正しい構文です。</p>
<b>LIMIT n</b>	<p>レコードの最大数を設定する任意の句が、指定されたオブジェクトのために返されました。未指定の場合、すべての一一致しているレコードが返されます。クエリ全体のために定められた制限が最大数です。</p> <p>LIMIT 句を指定したい場合、FieldList を少なくとも1つの指定された項目に含める必要があることに注意してください。例:</p> <pre>RETURNING Account (LIMIT 10)</pre> <p>は、正しい構文ではないが、</p> <pre>RETURNING Account (Name, Industry LIMIT 10)</pre> <p>は正しい構文です。</p>



メモ: RETURNING句は、返されるデータの種類に影響し、検索されるデータの種類には影響しません。IN句が、どんなデータが検索されるかに影響します。

## 例 RETURNING 句

検索タイプ	例
No Field Spec	FIND {MyProspect}
1つの sObject、項目なし	FIND {MyProspect} RETURNING Contact
複数の sObject オブジェクト、項目なし	FIND {MyProspect} RETURNING Contact, Lead
1つの sObject、1つ以上の項目	FIND {MyProspect} RETURNING Account (Name) FIND {MyProspect} RETURNING Contact (FirstName, LastName)
カスタム sObject	FIND {MyProspect} RETURNING CustomObject_c

検索タイプ	例
	FIND {MyProspect} RETURNING CustomObject_c(CustomField_c)
複数の sObject オブジェクト、1 つ以上の項目、制限	FIND {MyProspect} RETURNING Contact(FirstName, LastName LIMIT 10), Account(Name, Industry)
複数の sObject オブジェクト、ミックスされた数の項目	FIND {MyProspect} RETURNING Contact(FirstName, LastName), Account, Lead(FirstName)
検索不可能な sObject オブジェクト	FIND {MyProspect} RETURNING RecordType
	FIND {MyProspect} RETURNING Pricebook
無効な sObject オブジェクト	FIND {MyProspect} RETURNING FooBar
無効な sObject 項目	FIND {MyProspect} RETURNING Contact(fooBar)
単一のオブジェクト制限	FIND {MyProspect} RETURNING Contact(FirstName, LastName LIMIT 10)
複数のオブジェクト制限とクエリ制限	FIND {MyProspect} RETURNING Contact(FirstName, LastName LIMIT 20), Account(Name, Industry LIMIT 10), Opportunity LIMIT 50



メモ: Apex では、SOQL 文および SOSL 文を角括弧で囲み、フライで使用する必要があります。また、コロン(:) を前に追加して、Apex スクリプト変数および式を使用できます。

## WHERE conditionExpression

オプションの WHERE 句によって、個別の項目値に基づいた指定されたオブジェクトに関する検索結果の絞込みが可能になります。未指定の場合、検索は、ユーザが見ることができるオブジェクト内のすべての行を取得します。

### conditionExpression

WHERE 句の conditionExpression は、以下の構文を使います。

```
fieldExpression logicalOperator fieldExpression2 ?
```

SOSL SELECT 文内の条件表現は、これらの例の中で太字で表されます

- FIND {test} RETURNING Account (id WHERE **createddate = THIS\_FISCAL\_QUARTER**)
- FIND {test} RETURNING Account (id WHERE **cf\_\_c includes('AAA')**)
- *fieldExpression* で評価された順番を定義するために、括弧を使うことができます。たとえば、以下の表現は、*fieldExpression1* が true の場合、および *fieldExpression2* または *fieldExpression3* のいずれかが true の場合、true です。

```
fieldExpression1 AND (fieldExpression2 OR fieldExpression3)
```

- たとえば、以下の表現は、`fieldExpression3` が `true` の場合、または `fieldExpression1` と `fieldExpression2` の両方が `true` の場合、`true` です。

```
(fieldExpression1 AND fieldExpression2) OR fieldExpression3
```

- クライアントアプリケーションは、演算子をネスト化する際に、括弧を指定する必要があります。しかし、同じタイプの複数の演算子は、ネスト化される必要がありません。

#### ***fieldExpression***

`fieldExpression` は以下の構文を使います。

```
fieldName comparisonOperator value
```

以下の場合

構文	説明
<code>fieldName</code>	指定されたオブジェクト内の項目名。名前のまわりのシングルクオートまたはダブルクオートの使用は、エラーを結果として生じるでしょう。最低でも、読み取りレベル権限を持っている必要があります。それは長いテキストエリア項目、暗号化されたデータ項目、またはベース64エンコードされた項目を除いたあらゆる項目である可能性があります。 <code>fieldList</code> 内の項目である必要はありません。
<code>comparisonOperator</code>	大文字と小文字を区別しない演算子で、値を比較します。
<code>value</code>	<code>fieldName</code> 内の値との比較に使用される値。指定された項目の項目タイプとマッチしているデータタイプを持った値を供給する必要があります。ネイティブの値を供給する必要があります。他の項目名または計算は許可されません。引用が必要な場合(たとえば、日付と数式ではない場合)、シングルクオートを使用します。ダブルクオートは、エラーとなります。

#### 比較演算子

以下の表は、`fieldExpression` 構文内で使われる `comparisonOperator` 値をリストしています。string 上の比較は大文字と小文字を区別しないことに注意してください。

演算子	氏名	説明
=	Equals	指定の <code>fieldName</code> 内の値が、表現内の指定の <code>value</code> と等しい場合、その表現は、 <code>true</code> です。等値演算子を使っている String 比較は、大文字と小文字を区別しません。
!=	Not equals	指定の <code>fieldName</code> 内の値が、指定の <code>value</code> と等しくない場合、表現は <code>true</code> です。
<	Less than	指定の <code>fieldName</code> 内の値が、指定の <code>value</code> 未満の場合、表現は <code>true</code> です。
<=	Less or equal	指定の <code>fieldName</code> 内の値が、指定の <code>value</code> 未満、または等しい場合、表現は <code>true</code> です。

演算子	氏名	説明
>	Greater than	指定の <code>fieldName</code> 内の値が、指定の <code>value</code> を超える場合、表現は <code>true</code> です。
>=	Greater or equal	指定の <code>fieldName</code> 内の値が、指定の <code>value</code> を超える、または等しい場合、表現は <code>true</code> です。
LIKE	Like	<p>指定の <code>fieldName</code> 内の値が、指定の <code>value</code> 内のテキスト <code>string</code> の文字に一致する場合、表現は <code>true</code> です。SOQL と SOSL 内の <code>LIKE</code> 演算子は、SQL 内の <code>SAME</code> 演算子に類似して、部分的な文字列をマッチさせるしくみを提供し、ワイルドカードのサポートを含んでいます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• % と _ ワイルドカードは、<code>LIKE</code> 演算子に関してサポートされます。</li> <li>• % ワイルドカードは、ゼロ以上の文字をマッチさせます。</li> <li>• _ ワイルドカードは、正確に1つの文字をマッチさせます。</li> <li>• 指定された <code>value</code> 内の文字列は、シングルクオートでくくられる必要があります。</li> <li>• <code>LIKE</code> 演算子は、<code>string</code> 項目のみに関してサポートされます。</li> <li>• SQL内で一致しているケースセンシティブと異なり、<code>LIKE</code> 演算子は、ケースインセンシティブマッチを実行します。</li> <li>• SOQL と SOSL 内の <code>LIKE</code> 演算子は、特殊文字 % または _ のエスケープをサポートしています。</li> <li>• 文字をエスケープするためを除いて、検索時にバックスラッシュ文字を使うべきではありません。</li> </ul> <p>たとえば、以下のクエリは、Appleton、Apple、および Bappl とマッチしているけれども、App1とはマッチしていません</p> <pre>SELECT AccountId, FirstName, lastname FROM Contact WHERE lastname LIKE 'appl_%'</pre>
IN	IN	<p>値が <code>WHERE</code> 句内の指定値の1つと等しい場合。例:</p> <pre>SELECT Name FROM ACCOUNT WHERE BillingState IN ('California', 'New York')</pre> <p><code>IN</code> のための値は、括弧でくくられている必要があることに注意してください。String 値は、シングルクオートでくくられている必要があります。</p> <p><code>IN</code> と <code>NOT IN</code> は、ID項目上で検索する際に、セミジョインおよびアンチジョインにも使用可能です。</p>
NOT IN	NOT IN	<p>値が <code>WHERE</code> 句内の指定値のどれとも等しくない場合。例:</p> <pre>SELECT Name FROM ACCOUNT WHERE BillingState NOT IN ('California', 'New York')</pre> <p><code>NOT IN</code> のための値は、括弧でくくられる必要があり、<code>string</code> 値は、シングルクオートでくくられる必要があることに注意してください。</p> <p>論理演算子 <code>NOT</code> もありますが、比較演算子とは関連しません。</p>

演算子	氏名	説明
INCLUDES		
EXCLUDES		複数選択リストにのみ適用されます。

### 論理演算子

以下の表は、 *fieldExpression* 構文内で使われる論理演算子の値をリストしています。

演算子	構文	説明
AND	<i>fieldExpressionX AND fieldExpressionY</i>	<i>fieldExpressionX</i> および <i>fieldExpressionY</i> の両方が true の場合、 true。
OR	<i>fieldExpressionX OR fieldExpressionY</i>	<i>fieldExpressionX</i> または <i>fieldExpressionY</i> のいずれかが true の場合、 true。  APIのバージョンによっては、 OR 句内の外部キー値を持つリレーションクエリは異なる動作をします。 OR を使った WHERE 句では、レコード内の外部キー値が null の場合、レコードはバージョン13.0以降では返されますが、13.0より前のバージョンでは返されません。  <code>SELECT Id FROM Contact WHERE LastName = 'foo' or Account.Name = 'bar'</code>
		親アカウントのない取引先責任者は、条件を満たしている姓を持っているので、バージョン13.0以降では返されます。
NOT	<i>not fieldExpressionX</i>	<i>fieldExpressionX</i> が false の場合、 true。  論理演算子 NOT IN もありますが、論理演算子とは異なります。

### 引用された **string** のエスケープシーケンス

SOSLと一緒に以下のエスケープシーケンスを使うことができます。

シーケンス	意味
\n	新ライン
\	強制改行
\t	タブ
\b	ベル
\f	フォームフィード
\"	1つのダブルクオート文字
\'	1つのシングルクオート文字
\\	バックスラッシュ

他のコンテキスト内でバックスラッシュ文字を使った場合、エラーが発生します。

#### 例 WHERE 句

##### 例

```
FIND {test} RETURNING Account (id WHERE createddate = THIS_FISCAL_QUARTER)
FIND {test} RETURNING Account (id WHERE cf__c includes('AAA'))
FIND {test} RETURNING Account (id), User(Field1,Field2 WHERE Filed1 = 'test' order by id ASC, Name DESC)
FIND {test} IN ALL FIELDS RETURNING Contact(Salutation, FirstName, LastName, AccountId WHERE Name = 'test'), User(FirstName, LastName), Account(id WHERE BillingState IN ('California', 'New York'))
FIND {test} RETURNING Account (id WHERE (FirstName = 'New Account' and ((not AccountId = null) or AccountId != null)) or (AccountId = '001z00000008Vq7' and FirstName = 'Account Insert Test') or (NumberOfEmployees < 100 or NumberOfEmployees = null) ORDER BY NumberOfEmployees)
```

#### ORDER BY clause

SOSL文内で1つ以上の ORDER BY 句を使うことができます。

##### 構文

```
ORDER BY fieldname [ASC | DESC] [NULLS [first | last]]
```

構文	説明
ASC または DESC	結果の昇順 (DESC) または、降順 (DESC)。デフォルトは昇順です。
NULLS	結果の最初 (一番目) のまたは終わり (最後) に null レコードを順番付けしてください。デフォルトでは、NULL 値は、昇順では最後に、降順では最初にソートされます。

##### 例

以下の例は、1つの ORDER BY 句を示しています。

```
FIND {MyName} RETURNING Account(Name, Id ORDER BY Id)
```

以下の例は、複数の ORDER BY 句を示しています。

```
FIND {MyContactName} RETURNING Contact(Name, Id ORDER BY Name), Account(Description, Id ORDER BY Description)
```

以下の検索は、最後に null 名が現れる取引先を伴って 降順でソートされた 名前のアルファベット順で、取引先レコードと一緒に結果を返します

```
FIND {MyAccountName} IN NAME FIELDS RETURNING Account (Name, Id ORDER BY Name DESC NULLS last)
```

### WITH DivisionFilter

オプションの WITH 句によって、ディビジョンに基づいたすべての検索結果の絞込みが可能になります。 WHERE 句内でオブジェクトの Division 項目の絞込みは可能ですが、以下の理由のため、 WITH の使用が好まれます。

- それが、他の絞込みが適用される前にディビジョンに基づいてすべてのレコードを前もって絞込みするからです。
- WHERE 句内のディビジョン上での絞込みが必要なのでその ID ではなく、絞込み内のディビジョン名の指定が可能です。

例:

```
FIND {test} RETURNING Account (id where name like '%test%'), Contact (id where name like '%test%') WITH DIVISION = 'Global'
```



メモ: ユーザは、有効にされた「Affected by Divisions」権限を持っているかに関係なくディビジョンに基づいた検索を実行することができます。

### LIMIT n

オプションの LIMIT 句によって、クエリ内に返される最大行数の指定が可能になります。指定されない場合、デフォルトは 200 です(それは、返されることができる最大行数です)。

個々のオブジェクトまたはクエリ全体の制限を定めることができます。個々のオブジェクトの制限を定めることによって、他のオブジェクトが返される前に、あるオブジェクトの結果が最大クエリ制限に達することを防止できます。たとえば、以下のクエリを出した場合、多くとも 20 の取引先レコードしか返されず、残りのレコードは、取引先責任者となります。

```
FIND {test} RETURNING Account(id LIMIT 20), Contact LIMIT 100
```

オブジェクト制限は、それらが、クエリ内に含まれた順序で評価され、各オブジェクトが処理された後に、最大クエリ制限が調整されます。たとえば、7つの取引先だけが上記のクエリ文字列に一致している場合、多くても 93 の取引先責任者レコードしか返されません。同様に、以下のクエリが 15 の取引先と 30 の取引先責任者を返す場合、55 の商談だけが 75 の商談オブジェクト制限に関係なく返されます

```
FIND {test} RETURNING Account(id LIMIT 20), Contact, Opportunity(id LIMIT 75) LIMIT 100
```

0 の制限を指定した場合、どのレコードもそのオブジェクトのためには返されません。

### toLabel()

クライアントアプリケーションは、 toLabel() を使って、ユーザの言語に翻訳された返されたクエリからの結果を持つことができます:

```
toLabel(object.field)
```

例:

```
FIND {Joe} RETURNING Lead(company, toLabel(Recordtype.Name))
```

クエリを出したユーザ用の言語に翻訳されたレコードタイプ名で、このクエリはリードレコードを返します。



メモ: レコードタイプから翻訳された名前値での絞込みはできません。常にマスタ値またはレコードタイプ用のオブジェクトのIDの絞込みを行ってください。

翻訳された選択リスト値を使用したレコードの絞込みをするために、`toLabel()` が使用可能です。例:

```
FIND {test} RETURNING Lead(company, toLabel(Status) WHERE toLabel(Status) = 'le Draft' )
```

`Status` の選択リスト値が「le Draft」の場合、リードレコードが返されます。ユーザ言語に関して値が比較されます。指定された選択リストのためにユーザ言語用に利用可能な翻訳がない場合は、マスタ値が比較されます。



メモ: `toLabel()` メソッドは、[ORDER BY 句](#) と一緒にには使用不可能です。Salesforce.com は、まさにレポートのように、常に選択リストで定義された順番を使います。

## マルチ通貨組織において通貨項目のクエリを行う

ある組織においてマルチ通貨が使用可能な場合、通貨項目をユーザの通貨に変換するために、`RETURNING` 句の `FieldList` 内で `convertCurrency()` を使うことが可能です。

```
convertCurrency(Amount)
```

例:

```
FIND {test} RETURNING Opportunity(Name, convertCurrency(Amount))
```

組織がマルチ通貨機能を有効にした場合、日付を書かれた為替レートは商談、商談ラインアイテム、および商談履歴上の通貨項目を変換する際に使われるでしょう。

`WHERE` 句では、`convertCurrency()` 関数は使用できません。使用した場合、エラーが返されます。あなたの組織内の有効通貨からユーザの通貨に数値を変換するために、以下の構文を使用します。

```
WHERE Object_name Operator ISO_CODEvalue
```

例:

```
FIND {test} IN ALL FIELDS RETURNING Opportunity(Name WHERE Amount>USD5000)
```

`Amount` 値が5000USD相当を超える場合、この例では、商談レコードが返されるでしょう。たとえば、あるUSD5001の商談が返されますが、JPY7000は返されません。

あなたの組織に有効なISOコードを使用します。ISOコードを挿入しない場合、数値が比較量の代わりに使われます。上記の例を使って、商談レコードは、JPY5001、EUR5001、およびUSD5001で返されます。`WHERE` 句内で `IN` を使う場合、ISOコードと非ISOのコード値は混在できません。



メモ: 注文は、ちょうどレポート内のように、常に変換された通貨価値に基づきます。このように、`convertCurrency()` は、[ORDER BY 句](#) と一緒にには使用不可能です。

## テキスト検索例

システム内のあらゆるところで `joe` を検索します。`joe` が見つかった場所のレコードのIDが返されます。

```
FIND {joe}
```

システム内の任意の場所で名前 `Joe Smith` を大文字小文字を区別せずに、検索します。`Joe Smith` が見つかった場所のレコードのIDが返されます。

```
FIND {Joe Smith}
```

リードの名前項目内で名前 `Joe Smith` を検索します。そのレコードの ID 項目が返されます。

```
FIND {Joe Smith} IN Name Fields RETURNING lead
```

リードの名前項目内で名前 `Joe Smith` を検索し、その名前と電話番号が返されます。

```
FIND {Joe Smith} IN Name Fields RETURNING lead(name, phone)
```

リードの名前項目内で名前 `Joe Smith` を探して、現在の会計四半期内にも作成されたあらゆる一致レコードの名前を電話番号を返してください。

```
FIND {Joe Smith} IN Name Fields RETURNING lead (name, phone Where createddate = THIS_FISCAL_QUARTER)
```

リードと取引先責任者の名前項目内で名前 `Joe Smith` または `Joe Smythe` を探して、その名前を電話番号を返してください。ある商談が `Joe Smith` である場合、その商談は返されません。

```
FIND {"Joe Smith" OR "Joe Smythe"} IN Name Fields RETURNING lead(name, phone), contact(name, phone)
```

## ワイルドカード

```
FIND {Joe Sm*} FIND {Joe Sm?th*}
```

単独で使われる時、リテラルとして「and」と「and」を区切る

```
FIND {"and" or "or"} FIND {"joe and mary"} FIND {in} FIND {returning} FIND {find}
```

特殊文字 & | ! をエスケープする (){}[]^“~\*?:\'

```
FIND {right brace \}} FIND {asterisk \*} FIND {question \?} FIND {single quote \' } FIND {double quote \"}
```



メモ: Apex では、SOQL 文および SOSL 文を角括弧で囲み、フライで使用する必要があります。また、コロン (:) を前に追加して、Apex スクリプト変数および式を使用できます。

## CJK 言語でのテキスト検索

中国語、日本語、および朝鮮語 (CJK) では、言葉は CJK タイプ文字のペアによって区切られます。

## undelete()

ごみ箱からオブジェクトを復元します。

### 構文

```
UndeleteResult[] = binding.undelete(ID[] ids);
```

### 使用方法

このコールを使用して、削除できないにもかかわらず、すでに削除されたレコードを復元します。削除できないレコードの中には、ごみ箱の中にあるレコードもあります。[merge\(\)](#) または [delete\(\)](#) コールの結果として、レコードをごみ箱の中に投入する場合があります。[queryAll\(\)](#) コールを使用して、結合の結果として削除されたレコードなど、削除されたレコードを識別することができます。

削除する前に、オブジェクトが削除できないものであることを確認する必要があります。たとえば、[Account](#) オブジェクトは削除できますが、[AccountTeamMember](#) オブジェクトは削除できないなど、オブジェクトの中には削除できないものがあります。オブジェクトが削除できないことを確認するには、そのオブジェクトの [DescribeSObjectResult](#) の [undeletable](#) フラグの値が `true` に設定されていることを確認します。

[delete](#) コールは、子レコードをカスケード削除しますが、[undelete](#) コールは、カスケード削除されたレコードを復元します。たとえば、取引先を削除すると、その取引先に関連するすべての取引先責任者を削除します。

結合の結果として削除されたレコードを復元できますが、子オブジェクトは親子関係を調整され、やり直すことはできません。



#### メモ:

API バージョン 15.0 以降、文字列を含む項目に値を指定し、値が項目に対して大きすぎる場合、コールは失敗してエラーが返されます。これまでのバージョンの API では、値は切り捨てられ、コールは正常に終了していました。バージョン 15.0 以降でもこの動作を保持する場合、[AllowFieldTruncationHeader](#) SOAP ヘッダーを使用してください。

このコールは、[CallOptions](#) と [AllowFieldTruncationHeader](#) をサポートしています。

### サンプルコード—Java

```
public boolean undeleteSample() { try { // 最後の削除された取引先 ID をいくつか取得します。:
    QueryResult qr = binding.queryAll("SELECT id, SystemModstamp FROM Account " + "WHERE
    IsDeleted=true ORDER BY SystemModstamp DESC LIMIT 5"); ID[] ids = new ID[qr.getSize()]; for
    (int i = 0; i < ids.length; i++) { ids[i] = qr.getRecords()[i].getId(); } // undelete コー
    ルを呼び出します。 UndeleteResult[] undeleteResults = binding.undelete(ids); // 結果を処理しま
    す。 for (int i = 0; i < undeleteResults.length; i++) { UndeleteResult undeleteResult =
    undeleteResults[i]; // 復元が正常に行われたか、エラーが発生したかを確認します。 if
    (undeleteResult.isSuccess()) { System.out.println("Undeleted:" + undeleteResult.getId());
    } else { // 結果を処理します。// We just print the first error out for sample purposes.Error[]
    errors = undeleteResult.getErrors(); if (errors.length > 0) { System.out.println("Error
    code: " + errors[0].getStatusCode()); System.out.println("Error message: " +
    errors[0].getMessage()); } } } catch (UnexpectedErrorFault e) {
    System.out.println("Unexpected error encountered:\n\n" + e.getExceptionMessage()); return
    false; } catch (InvalidSObjectFault e) { System.out.println("InvalidSObject encountered:\n\n"
    + e.getExceptionMessage()); return false; } catch (RemoteException e) {
    System.out.println("Remote exception encountered:\n\n" + e.getMessage()); return false; }
```

```
return true; }
```

### サンプルコード—C#

```
private void undeleteSample() { try { // 最近削除された取引先 ID を取得します。QueryResult qr = binding.queryAll("SELECT id, SystemModstamp From Account " + "WHERE isDeleted=true ORDER BY SystemModstamp DESC LIMIT 5"); String[] ids = new String[qr.size]; for (int i = 0; i < ids.Length; i++) { ids[i] = qr.records[i].Id; } UndeleteResult[] undeleteResults = binding.undelete(ids); // 結果を処理します。for (int i = 0; i < undeleteResults.Length; i++) { UndeleteResult undeleteResult = undeleteResults[i]; if (undeleteResult.success) { Console.WriteLine("Undeleted:" + undeleteResult.id); } else { // エラーを処理します。s.Error[] errors = undeleteResult.errors; } } } catch (Exception ex) { Console.WriteLine("\nFailed to successfully undelete, error message was: \n" + ex.Message); } }
```

### 引数

氏名	型	説明
ids	ID[]	復元されるオブジェクトの ID。

### レスポンス

#### UndeleteResult

### 失敗

#### UnexpectedErrorFault

### UndeleteResult

[undelete\(\)](#) コールは、次のプロパティを持つ UndeleteResult オブジェクトを返します。

氏名	型	説明
Id	ID	復元されるレコードの ID。
success	boolean	復元が正常に行われた (true) か、失敗した (false) かを示します。
errors	Error[]	<a href="#">undelete()</a> コールでエラーが発生した場合、エラーコードと説明を示す 1 つ以上のエラー オブジェクト。

### update()

組織のデータ内にある 1 つまたは複数の既存オブジェクトを更新します。

### 構文

```
SaveResult[] = binding.update(sObject[] sObjects);
```

## 使用方法

このコールを使用して、組織のデータ内にある個別取引先または取引先責任者など、1つまたは複数の既存オブジェクトを更新します。[update\(\)](#) コールは、SQL の UPDATE 文に似ています。

## 権限

クライアントアプリケーションには、指定されたオブジェクト内の [update\(\)](#) の各オブジェクト（またそのオブジェクト内部の各項目）への適切なアクセス権限によってログインする必要があります。詳細は、「[データアクセスに影響する要素](#)」を参照してください。

## 特別な処理

特定のオブジェクト、またこれらのオブジェクト内にある特定の項目には、特別な処理または権限が必要です。たとえば、オブジェクトの親オブジェクトにアクセスするための権限が必要な場合もあります。特定のオブジェクトにを更新する前に、「[標準オブジェクト](#)」および Salesforce.com オンラインヘルプの説明を必ず読んでください。

## 更新可能なオブジェクト

特定のオブジェクトで、API を使用して更新できないものがあります。[update\(\)](#) コールを使用してオブジェクトを更新するには、そのオブジェクトが更新可能として設定されている必要があります (`updateable` を、`true` に設定)。更新可能かどうかを決定するために、クライアントアプリケーションは、オブジェクト上の [describeSObjects\(\)](#) コールを呼び出すことができ、`updateable` プロパティを確認することができます。

## 必須項目

必須項目を更新する場合、値を入力する必要があります。値を `null` に設定することはできません。詳細は、「[必須項目](#)」を参照してください。

## ID 項目

名前に「`Id`」が含まれている項目は、オブジェクトのプライマリキー（「[ID データ型](#)」を参照）または外部キー（「[参照項目の種類](#)」を参照）のいずれかです。クライアントアプリケーションは、プライマリキーを更新することはできませんが、外部キーを更新することができます。たとえば、`OwnerId` が取引先レコードを所有するユーザを参照する外部キーであるため、クライアントアプリケーションは取引先の `OwnerId` を更新することができます。[describeSObjects\(\)](#) を使用して、項目が更新可能かどうかを確認します。

このコールを使用して、重複する `Id` 値のバッチをチェックし、重複がある場合は、最初の 5 つが処理されます。6 番目およびその後の追加の重複 `Id` については、これらのエントリの [SaveResult](#) が、次のようなエラーでマークされます。

```
Maximum number of duplicate updates in one batch (5 allowed). Attempt to update Id more than once in this API call: number_of_attempts.
```

## 自動的に更新される項目

API は、`LastModifiedDate`、`LastModifiedById`、および `SystemModstamp` などの特定の項目を自動的に更新します。これらの値を [update\(\)](#) コールで明示的に指定することはできません。

## 値の **null** へのリセット

項目値を `null` にリセットするには、`sObject` の `fieldsToNull` の配列に項目名を追加します。必須項目 (`nillable` が `false`) を `null` に設定することはできません。

## 有効な項目値

整数項目については整数など(アルファベット以外の文字)、項目のデータ型に対して有効な値を入力する必要があります。クライアントアプリケーションでは、お使いのプログラム言語および開発ツールに指定されたデータ形式に従ってください(お使いの開発ツールは、SOAP メッセージのデータ型に適切なマッピングを処理します)。

## String 値

`String` 項目に値を保存する場合、API は先頭および末尾の空白文字を削除します。たとえば、名前項目の値に " ABC Company " と入力されると、その値はデータベースに "ABC Company" と保存されます。

API バージョン 15.0 以降、文字列を含む項目に値を指定し、値が項目に対して大きすぎる場合、コールは失敗してエラーが返されます。これまでのバージョンの API では、値は切り捨てられ、コールは正常に終了していました。バージョン 15.0 以降でもこの動作を保持する場合、`AllowFieldTruncationHeader` SOAP ヘッダーを使用してください。

## 割り当てルール

ケースまたはリードオブジェクトを更新する場合、クライアントアプリケーションは `AssignmentRuleHeader` オプションを設定して、ケースまたはリードを Salesforce.com ユーザインターフェースで設定された割り当てルールに基づいて、1 つまたは複数のユーザに自動的に割り当てるすることができます。詳細は、「[ケース](#)」または「[リード](#)」を参照してください。

## 最大オブジェクト作成数

クライアントアプリケーションは、1 回の `update()` コールで最大 200 個のオブジェクトを変更できます。更新要求が 200 個のオブジェクトを超える場合、操作全体が失敗します。

## `update()` と外部キー

外部 ID 項目を外部キーとして使用し、レコードを問い合わせて ID を最初に取得することなく、レコードの作成、更新または挿入を一度の手順で行うことができます。これを行うには、外部キーの名前と外部 ID 項目値を指定します。例:

```
public void updateForeignKeySample() { Opportunity updateOpportunity = new Opportunity();  
updateOpportunity.setStageName("Prospecting"); updateOpportunity.setId(new  
ID("006300000023YFu")); // 標準オブジェクト ref Account updateParentAccountRef = new Account();  
updateParentAccountRef.setExternal_SAP1_ACCTID_c("SAP111111");  
updateOpportunity.setAccount(updateParentAccount); // update をコール。 UpdateResult[]  
updateResults = binding.update(new SObject[] {updateOpportunity}); // update コールの後結果を  
確認し、さらに処理を行う ... }
```

## オブジェクト更新の基本手順

次のように、このプロセスを使用してオブジェクトを更新します。

1. `update()` を実行する各オブジェクトの ID を指定します。たとえば、`query()` をコールして、特定の基準に基づき、更新する一連のオブジェクト (ID あり) を取得するとします。更新するオブジェクトの ID がわかっ

ている場合、`retrieve()` をコールすることもできます。ID の詳細は、「[ID データ型](#)」を参照してください。

2. 各オブジェクトについて、項目に更新するデータを投入します。
3. `sObject[]` 配列を作成し、更新したいオブジェクトで配列を生成します。すべてのオブジェクトは、同じオブジェクトである必要があります。
4. `update()` をコールし `sObject[]` 配列を渡します。
5. `SaveResult[]` オブジェクトで結果を処理し、オブジェクトの更新が成功したかどうかを確認します。

### サンプルコード—Java

```
public void updateAccountSample() { // SObjects を作成して update メソッドに送信 Account[]
updates = new Account[2]; // この取引先は retrieve または query コールの結果 Account updateAccount
= new Account(); updateAccount.setId(new ID("001x0000002kuk2AAA"));
updateAccount.setShippingPostalCode("94105"); updates[0] = updateAccount; Account
updateAccount2 = new Account(); updateAccount2.setId(new ID("001x0000002kuk1AAA"));
updateAccount2.setWebsite("www.website.com"); updates[1] = updateAccount2; // update をコー
ルし、結果を保存 try { SaveResult[] saveResults = binding.update(updates); } catch (Exception
ex) { System.out.println("An unexpected error has occurred." + ex.getMessage()); return; }
```

### サンプルコード—C#

```
using System; using System.Collections.Generic; using System.Text; using
SFDCWsdl.Salesforce_WSDL;

namespace SFDCWsdl { public class SFDCWsdlTest { private SforceService binding;
private static readonly string Username = "USERNAME"; private static readonly string Password
= "PASSWORD";

/// <summary> /// 分割およびログインを作成します。 /// </summary> private SFDCWsdlTest() {
this.binding = new SforceService(); binding.login(SFDCWsdlTest.Username,
SFDCWsdlTest.Password); } private void UpdateAccountSample() { //取引先オブジェクトを作成して変
更を保持します。 sObject updateAccount = new sObject(); //API が更新する取引先を認識できるように ID
を割り当てる必要があります。

//name プロパティに新しい値を設定します。 updateAccount.Id = "00130000001dmJT";
System.Xml.XmlDocument doc = new System.Xml.XmlDocument(); System.Xml.XmlElement nameElement
= doc.GetElementById("Name"); nameElement.InnerText = "New Account Name from Update Sample";

updateAccount.Any = new System.Xml.XmlElement[] { nameElement }; updateAccount.type =
"Account";

//update をコールしてオブジェクトの配列を渡します。 SaveResult[] saveResults = binding.update(new
sObject[] { updateAccount });

//結果をループし、エラーをチェックします。 for (int j = 0; j < saveResults.Length; j++) {
Console.WriteLine("Item: " + j); if (saveResults[j].success) Console.WriteLine("An account
with an id of: " + saveResults[j].id + " was updated.\n"); else { Console.WriteLine("Item
" + j.ToString() + " had an error updating."); Console.WriteLine("The error reported
was: " + saveResults[j].errors[0].message + "\n"); } } } }
```

## 引数

名前	型	説明
sObject	sObject[]	更新する 1 つまたは複数 (最大 200) のオブジェクトの配列。

## レスポンス

### SaveResult[]

## 失敗

[InvalidSObjectFault](#)

[UnexpectedErrorFault](#)

## SaveResult

[update\(\)](#) コールは SaveResult オブジェクトの配列を返します。SaveResult 配列の各要素は、[update\(\)](#) コールの `sObjects` パラメータとして渡された `sObject[]` 配列に対応します。たとえば、SaveResult 配列の最初のインデックスで返されるオブジェクトは、`sObject[]` 配列の最初のインデックスで指定されるオブジェクトに一致します。

SaveResult オブジェクトには、次のプロパティがあります。

名前	型	説明
id	ID	正常に更新された <code>sObject</code> の ID。この項目に値が入力されている場合、オブジェクトは正常に更新されています。この項目が空の場合、オブジェクトは更新されず、API はエラー情報を返しています。
success	boolean	オブジェクトの <a href="#">update()</a> コールが成功したかどうかを示す (成功した場合は <code>true</code> 、失敗した場合は <code>false</code> )。
errors	Error[]	<a href="#">update()</a> コールでエラーが発生した場合、エラーコードと説明を示す 1 つ以上のエラーオブジェクト。

## upsert()

新しいオブジェクトを作成して既存のオブジェクトを更新します。カスタム項目を使用して、既存オブジェクトの有無を指定します。多くの場合、[create\(\)](#) の代わりに `upsert()` を使用して、不要な重複レコードが作成されないようにすることをお勧めします(べき等性の為)。API バージョン 7.0 以降で使用することができます。



### メモ:

API バージョン 15.0 以降、文字列を含む項目に値を指定し、値が項目に対して大きすぎる場合、コールは失敗してエラーが返されます。これまでのバージョンの API では、値は切り捨てられ、コールは正常に終了していました。バージョン 15.0 以降でもこの動作を保持する場合、[AllowFieldTruncationHeader](#) SOAP ヘッダーを使用してください。

## 構文

```
UpsertResult[] = binding.upsert(String externalIdFieldName, sObject[] sObjects);
```

## 使用方法

Upsert は、insert と update の結合したものです。このコールは、オブジェクトに外部 ID 項目または項目プロパティが idLookup の項目がある場合、オブジェクトに使用することができます。

カスタムオブジェクトの場合、このコールは、外部 ID というインデックスの作成されたカスタム項目を使用し、新しいオブジェクトを作成するか、既存オブジェクトを更新するかを指定します。標準オブジェクトの場合、このコールは外部 ID の代わりに、項目プロパティが idLookup プロパティの項目の名前を使用することができます。



メモ: 外部 ID 項目では、[merge\(\)](#) を使用することはできません。

外部 ID 項目など、カスタム項目のオブジェクトへの追加に関する詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「項目の追加」を参照してください。

このコールを使用すると、特に次のような場合に、必要なコール数を劇的に減らすことができます。

- 組織の Salesforce.com データと、経理や製造など、ERP (統合業務ソフト) システムと統合する場合。
- データをインポートして、重複オブジェクトの作成を回避する場合。

External ID 属性および Unique 属性の両方を選択したカスタム項目を持つオブジェクト (一意のインデックス) を upsert する場合、Unique 属性では複製の作成ができないため、特別な権限は必要ありません。External ID 属性を選択し、Unique 属性を選択していないオブジェクト (一意ではないインデックス) を upsert する場合、クライアントアプリケーションには、このコールを実行するための権限「すべてのデータを表示」が割り当てられている必要があります。この権限が割り当てられていると、レコードが存在していることを確認できないため、クライアントアプリケーションは [upsert\(\)](#) を使用して、予想外の重複レコードを挿入することができません。



メモ: 外部 ID による一致は、外部 ID 項目で Unique 属性と「ABC」と「abc」を重複する値として処理する (大文字と小文字を区別しない) オプションを選択している場合にのみ大文字と小文字の区別をしません。これらのオプションは、項目作成時に Salesforce.com ユーザインターフェースで選択されています。この場合、「ABC123」は「abc123」と一致します。操作を実行する前に、外部 ID 項目で大文字と小文字を区別しないオプションを選択していない場合は、大文字と小文字を考慮しない場合に一致する値の外部 ID を確認します。そのような値が存在する場合、それらの値が一意のものとなるよう変更したり、外部 ID 項目の大文字と小文字を区別するオプションを選択する必要があります。項目属性の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「カスタム項目の属性」を参照してください。

## Upsert の [update\(\)](#) または [create\(\)](#) の実行方法

Upsert では、外部 ID を使用して、新規オブジェクトを作成するか、既存のオブジェクトを更新するかを指定します。

- 外部 ID が一致しない場合、新規オブジェクトを作成します。
- 外部 ID が一度一致すると、既存のオブジェクトが更新されます。
- 外部 ID が複数回一致すると、エラーが報告されます。

- 外部 ID がバッチ コールの複数のオブジェクトで同じ場合、複数のオブジェクトをバッチ更新すると、それらのレコードは、[UpsertResult](#) ファイルでエラーとしてマークされます。オブジェクトは作成も更新もされません。

### [upsert\(\)](#) と外部キー

外部 ID 項目を外部キーとして使用し、レコードを問い合わせて ID を最初に取得することなく、レコードへのアクセスを一度の手順で行うことができます。これを行うには、外部キーの名前と外部 ID 項目値を指定します。

次の例では、商談を [upsert](#) します。商談は、取引先を参照します。個別のクエリを取得する必要がある取引先 ID を指定せず、取引先の外部 ID、この例では `External_SAP1_ACCTID_c` カスタム項目を指定します。

```
public void upsertForeignKeySample() { Opportunity upsertOpportunity = new Opportunity();  
upsertOpportunity.setStageName("Prospecting"); //参照を指示するために、外部 ID 項目のみを指定する  
//取引先オブジェクトを添付します。Account upsertParentAccountRef = new Account();  
upsertParentAccountRef.setExternal_SAP1_ACCTID_c("SAP111111");  
upsertOpportunity.setAccount(upsertParentAccount); //商談の外部 ID を設定します。  
upsertOpportunity.set_SAP1_OPPID_c("SAP222222"); UpsertResult[] upsertResults =  
binding.upsert("SAP1_OPPID_c", new SObject[] {upsertOpportunity}); // 結果を確認し、upsert  
コールの後さらに処理します ... }
```

### [upsert\(\)](#) と多構造外部キー

多構造キーは、複数の種類のオブジェクトを親として参照できる ID です。たとえば、[ケース](#) オブジェクトの `OwnerId` 項目は、[ユーザ](#) または [グループ](#) のいずれかを参照できます。同様に、[タスク](#) オブジェクトの `WhoID` 項目は、[取引先責任者](#) または [リード](#) のいずれかを参照できます。

Enterprise WSDL の場合、そのような多構造外部キーの項目が名前 `sObject` 型として定義されていると、[upsert\(\)](#) コールの適切な `sObject` で渡すことができません。ただし、Partner WSDL の場合、多構造外部キーを含むすべての外部キーはデータ型 `sObject` で、これらの項目に [upsert\(\)](#) コールを行うことができます。

### サンプルコード—Java

次のサンプルは、Salesforce.com オブジェクト ID を指定する [upsert](#) 向けのものです。

```
public void upsertAccountSample() { // SObjects の配列を作成して、upsert メソッドに送信します。  
SObject[] upserts = new Account[2]; // この取引先は存在するものと想定します。// retrieve または  
query コールの結果です。Account upsertAccount = new Account();  
upsertAccount.setWebsite("http://www.website.com"); // カスタム項目「External_Id」は、Upsert  
の「外部 ID」に使用されます。 upsertAccount.setExternal_Id_c("1111111111"); upserts[0] =  
upsertAccount; // この取引先は新規取引先となります。 upsertAccount2 = new Account(); upsertAccount2  
= new Account(); upsertAccount2.setName("My Company, Inc");  
upsertAccount2.setExternal_Id_c("2222222222"); upserts[1] = upsertAccount2; try { // upsert  
コールを呼び出して結果を保存します。// レコードを一致させる External_Id カスタム項目を使用します。  
UpserResult[] upsertResults = binding.upsert("External_Id_c", upserts); for (UpserResult  
result : upsertResults) { if (result.isSuccess()) { System.out.println("\nUpser  
succeeded."); System.out.println((result.isCreated() ? "Insert" : "Update") + " was  
performed."); System.out.println("The Account id: " + result.getIds(0).toString()); } else {  
System.out.println("The Upser failed because: " + result.getErrors(0).getMessage()); }}
```

```
    } } catch (RemoteException ex) { System.out.println("An unexpected error has occurred."+
ex.getMessage()); } }
```

### サンプルコード—C#

次のサンプルは、Salesforce.com オブジェクト ID を指定する upsert 向けのものです（外部キー以外）。

```
private void upsertSample() { if (!loggedIn) { if (!login()) return; }

    //まず、upsert コールを使用して取引先責任者を作成します。取引先責任者は外部 ID として指定されている //カスタム項目が割り当てられている必要があります。この場合、ExternalId__c と呼ばれます。sforce.Contact[]
    contact = new Contact[1]; contact[0] = new sforce.Contact(); contact[0].LastName =
"External_Id"; contact[0].FirstName = "Test"; contact[0].ExternalId__c = "01010101";

    sforce.UpsertResult ur = binding.upsert("ExternalId__c", contact)[0];

    if (ur.success) { //作成されたフラグをチェックアウトします。 Console.WriteLine("Value of created
flag is: " + ur.created); } else { //Report an error Console.WriteLine("Error: \n" +
ur.errors[0].message); return; }

    //値を変更する upsert を再び呼び出します。 contact[0].FirstName = "Joe"; contact[0].LastName =
= "Sampson";

    ur = binding.upsert("ExternalId__c", contact)[0];

    if (ur.success) { //作成されたフラグをチェックアウトし、偽である必要があります。
Console.WriteLine("Value of created flag is: " + ur.created); } else { //エラーを報告します。
Console.WriteLine("Error: \n" + ur.errors[0].message); return; } }
```

### 引数

名前	型	説明
ExternalIDFieldName	string	カスタムオブジェクトの外部 ID 項目属性または標準オブジェクトの idLookup 項目プロパティを持つこのオブジェクトの項目名を含みます。 idLookup 項目プロパティは通常、オブジェクトの ID 項目または名前項目である項目にありますが、例外があるため、 <a href="#">upsert()</a> を実行するオブジェクトのプロパティの有無を確認してください。
sObjects	sObject[]	作成または更新する 1 つまたは複数（最大 200）のオブジェクトの配列。

### レスポンス

[UpserResult\[\]](#)

### 失敗

[InvalidSObjectFault](#)

[UnexpectedErrorFault](#)

## UpserResult

upsert コールは、UpserResult オブジェクトの配列を返します。配列の各要素は、[upsert\(\)](#) コールの sObjects パラメータとして渡された sObject[] 配列に対応します。たとえば、UpserResult 配列の最初のインデックスで返されるオブジェクトは、sObject[] 配列の最初のインデックスで指定されるオブジェクトに一致します。

UpsertResult オブジェクトには、次のプロパティがあります。

名前	型	説明
created	boolean	レコードが作成された(true)か、更新された(false)かを示します。
errors	Error[]	コール時にエラーが発生した場合、エラーコードおよび説明を提供する配列 Error オブジェクトが返されます。
id	ID	コールが正常に行われると、項目には、更新または作成されたレコードの ID が入力されます。エラーが発生した場合、項目は Null です。詳細は、「ID データ型」を参照してください。
success	boolean	このオブジェクトのコールが正常に行われた(true)か、失敗した(false)かを示します。

# 第 10 章

## Describe コール

次の表は、APIがサポートしている describe コールをアルファベット順に表示し、それぞれの簡単な説明を示しています。コール名をクリックすると、構文、使用方法、コールの詳細情報が表示されます。

 メモ: API ユーティリティコールのリストは「[ユーティリティコール](#)」を、一般のコール(データへの問い合わせ、データの取得、変更を行うコール)のリストは「[コアコール](#)」を参照してください。

コール	説明
<a href="#">describeGlobal()</a>	組織のデータで利用可能なオブジェクトの一覧を取得します。
<a href="#">describeLayout()</a>	指定されたオブジェクト種別のページレイアウトに関するメタデータを取得します。
<a href="#">describeSObject()</a>	指定されたオブジェクト種別のメタデータ(項目リストとオブジェクトプロパティ)を表します。 <a href="#">describeSObjects()</a> に置き換えられています。
<a href="#">describeSObjects()</a>	describeSObject の配列ベースのバージョン。
<a href="#">describeSoftphoneLayout()</a>	組織のために作成されたソフトフォンレイアウトを示します。
<a href="#">describeTabs()</a>	ユーザのために設定されたアプリケーションとタブを示します。

### [describeGlobal\(\)](#)

組織のデータで利用可能なオブジェクトの一覧を取得します。

#### 構文

```
DescribeGlobalResult = binding.describeGlobal();
```

#### 使用方法

[describeGlobal\(\)](#) を使用し、組織で利用可能なオブジェクトの一覧を取得します。リスト内で繰り返し処理し、[describeSObjects\(\)](#) を使用して個別のオブジェクトのメタデータを取得できます。

組織のデータのメタデータを取得するには、クライアントアプリケーションは条件を満たすアクセス権限でログインする必要があります。詳細は、「[データアクセスに影響する要素](#)」を参照してください。

## コード例—Java

```
private void describeGlobalSample() { try { DescribeGlobalResult describeGlobalResult = null; describeGlobalResult = binding.describeGlobal(); DescribeGlobalSObjectResult[] sobjectResults = describeGlobalResult.getsObjects(); for (int i=0;i < sobjectResults.length;i++) { System.out.println(sobjectResults[i].getName()); } } catch (Exception ex) { System.out.println("\nFailed to return types, error message was: \n" + ex.getMessage()); } }
```

## コード例—C#

```
public void DescribeGlobalSample() { try { // Invoke describeGlobal() call and save results in DescribeGlobalResult object DescribeGlobalResult dgr = binding.describeGlobal();

// Iterate through the results //Loop through the array echoing the object names to the console for (int i = 0; i < dgr.sobjects.Length; i++) {
Console.WriteLine(dgr.sobjects[i].name); } } catch (Exception e) { Console.WriteLine("Failed to return types, error message was: ");
Console.WriteLine(e.Message);
Console.WriteLine(e.StackTrace);
Console.WriteLine(e.InnerException); } }
```

引数

なし。

レスポンス

[DescribeGlobalResult](#)

エラー

[UnexpectedErrorFault](#)

## DescribeGlobalResult

`describeGlobal()` コールが返す `DescribeGlobalResult` object オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
encoding	<code>string</code>	UTF-8 や ISO-8859-1 など、組織データのエンコーディング方法を指定。
maxBatchSize	<code>int</code>	参照のみの項目は <code>create()</code> , <code>update()</code> 、または <code>delete()</code> コールで使用できるレコードの最大数。
sobjects	<code>DescribeGlobalSObjectResult[]</code>	組織に使用できるオブジェクトについての情報を返す結果オブジェクトの一覧。API versions 17.0 以降で利用できます。 <code>types</code> プロパティで以前使用できた情報を拡張します。
types	<code>string[]</code>	組織で利用可能なオブジェクトの一覧。この一覧の内容を繰り返し処理し、 <code>describeSObjects()</code> に渡すオブジェクト文字列を取得します。  API バージョン 17.0 以降では、このプロパティはサポートされていません。 <code>DescribeGlobalSObjectResult</code> では代わりに <code>name</code> プロパティを使用します。

**DescribeGlobalSObjectResult**

組織で使用できるオブジェクトのプロパティを示します。各オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
activateable	boolean	将来の使用のための予備。
createable	boolean	オブジェクトが <a href="#">create()</a> コールを使用して作成できるか ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。
custom	boolean	カスタムオブジェクトであるかどうかを示します (カスタムオブジェクトの場合は <code>true</code> 、そうでない場合は <code>false</code> )。
customSetting	boolean	カスタム設定項目である ( <code>true</code> ) か、そうでない ( <code>false</code> ) かを示します。
deletable	boolean	オブジェクトが <a href="#">delete()</a> call ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。
deprecatedAndHidden	boolean	将来の使用のための予備。
keyPrefix	string	<p>オブジェクト ID の 3 文字の接頭辞コード。オブジェクト ID はオブジェクト型を示す 3 文字のコードが先頭に付けられます。たとえば、<a href="#">取引先</a> オブジェクトの接頭辞は 001、<a href="#">商談</a> オブジェクトの接頭辞は 006 です。主要な接頭辞を複数のオブジェクトで共有する場合があるため、かならずしもオブジェクトを一意に識別するわけではありません。</p> <p>子に 1 つ以上の親オブジェクトが存在する場合 (ポリモーフィック)、親のオブジェクト種別を確認するためにこの項目の値を使用します。たとえば、<a href="#">ToDo</a> または <a href="#">行動</a> の親の <code>keyPrefix</code> 値を取得しなければならない場合にこの値を使用します。</p>
label	string	適用される場合は、ユーザインターフェースで名前が変更されたタブまたは項目のラベルテキスト。適用されない場合はオブジェクト名。たとえば、医療分野の組織では取引先を患者に変更する場合があります。タブや項目は Salesforce.com ユーザインターフェースで名前を変更できます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。
labelPlural	string	オブジェクト名の複数形を表すラベルテキストです。
layoutable	boolean	オブジェクトが <a href="#">describeLayout()</a> コールをサポートしているか ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。
mergeable	boolean	オブジェクトが同じ型の他のオブジェクトとマージ可能か ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。リード、取引先責任者、取引先については <code>true</code> となります。
name	string	オブジェクトの名前。この <code>name</code> は、API バージョン 17.0 以降でサポートされていない <code>types</code> リストと同じです。
queryable	boolean	オブジェクトが <a href="#">query()</a> コールを使用してクエリを実行できるか ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。

名前	型	説明
replicable	boolean	オブジェクトを <code>getUpdated()</code> および <code>getDeleted()</code> コールを使用して複製可能か ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。
retrieveable	boolean	オブジェクトが <code>retrieve()</code> コールを使用して取得できるか ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。
searchable	boolean	オブジェクトが <code>search()</code> コールを使用して検索できるか ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。
triggerable	boolean	オブジェクトが Apex トリガをサポートしているかどうかを示します。
undeletable	boolean	オブジェクトが <code>undelete()</code> コールを使用して復元可能か ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。
updateable	boolean	オブジェクトが <code>update()</code> コールを使用して更新可能か ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。

## describeLayout()

指定されたオブジェクト種別のページレイアウトに関するメタデータを取得します。

### 構文

```
DescribeLayoutResult = binding.describeLayout(string sObjectType, ID recordTypeID[]);
```

### 使用方法

このコールを使用し、指定されたオブジェクト種別のレイアウト情報(ユーザへのデータの表示方法)を取得します。このコールは、詳細ページレイアウト、編集ページレイアウトおよびレコードタイプの関連付けなど、指定されたページレイアウトのメタデータを返します。ページレイアウトの詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「ページレイアウトのカスタマイズ」を参照してください。

一般的に、ユーザプロファイルには各オブジェクトに 1 つのレイアウトが関連付けられています。Enterprise Edition および Unlimited Edition では、ユーザプロファイルにはオブジェクトごとに複数のレイアウトがあり、各レイアウトは指定されたレコードタイプごとに割り当てられています。このコールは、適用される場合複数のレイアウトのメタデータを返します。

`recordTypeId` に null 値を指定した場合、指定されたレコードタイプに対するレイアウトだけではなく、そのユーザのすべてのレイアウトが返されます。同じレイアウトが、ユーザプロファイルの複数のレコードタイプに割り当てられていることもあるため、その場合は 1 つのレイアウトのみが返されます。



メモ: このコールは高度な API コールであり、通常は、特別な端末 (PDA など) のために、カスタムページ表示コードを記述したパートナーが使用します。また、ページの出力結果を表示する前に、レイアウトの詳細を確認する必要があります。

レイアウトを表すには次の手順を使用します。

- 既存のレコードの詳細ページまたは編集ページを表示するには、クライアントアプリケーションはまずレコードの `recordTypeId` を取得し、`recordTypeMapping` を使用してその `recordTypeId` に関連付けられた `layoutId` を見つけます。そのレイアウト情報を使用し、最終的にページを表示します。
- 編集ページの作成バージョンを表示するには、クライアントアプリケーションは最初に 1 つ以上のレコードタイプが利用可能かどうかを確認します。利用可能な場合、ユーザに選択肢を表示します。レコードタイプを選択すると、クライアントアプリケーションはレイアウト情報を使用しページを表示します。また、`RecordTypeMapping` の選択リストの値を使用し、選択リスト項目で使用する有効な選択リスト値を表示します。
- クライアントアプリケーションは `DescribeLayoutResult` を使用しレイアウトのラベルにアクセスできます。

次の制限は個人取引先レコードタイプに適用されます。

- バージョン 7.0 以前の `describeLayout()` は、タブのデフォルトが個人取引先レコードタイプである場合も、デフォルトのレコードタイプとして法人取引先レコードタイプを返します。バージョン 8.0 以降では、デフォルトのレコードタイプは常にタブのデフォルトとなります。
- バージョン 7.0 以前では、`describeLayout()` は個人取引先レコードタイプは一切返しません。

個人取引先レコードタイプについての詳細は、「[個人取引先レコードタイプ](#)」を参照してください。

#### コード例—Java

```
private void describeLayoutSample(){ try { String objectToDescribe = "Account";
DescribeLayoutResult dlr = binding.describeLayout(objectToDescribe, null);
System.out.println("There are " + dlr.getLayouts().length + " layouts for the " +
objectToDescribe + " object."); for (int i=0;i<dlr.getLayouts().length;i++){ DescribeLayout
layout = dlr.getLayouts(i); System.out.println(" There are " +
layout.getDetailLayoutSections().length + " detail layout sections"); for (int
j=0;j<layout.getDetailLayoutSections().length;j++){ DescribeLayoutSection dls =
layout.getDetailLayoutSections(j); System.out.println(j + " This section has a heading of "
+ dls.getHeading()); if (layout.getEditLayoutSections() != null) { System.out.println("There
are " + layout.getEditLayoutSections().length + " edit layout sections"); } for (int
k=0;k<layout.getEditLayoutSections().length;k++){ DescribeLayoutSection els =
layout.getEditLayoutSections(k); System.out.println(k + " This section has a heading of "
+ els.getHeading()); System.out.println("This section has " + els.getLayoutRows().length +
" layout rows."); for (int l=0;l<els.getLayoutRows().length;l++){ DescribeLayoutRow lr =
els.getLayoutRows(l); System.out.println(" This row has " + lr.getNumItems() + " items.");
for (int h=0;h<lr.getLayoutItems().length;h++){ DescribeLayoutItem li = lr.getLayoutItems(h);
if (li.getLayoutComponents() != null) { System.out.println(" " + h + " " +
li.getLayoutComponents(0).getValue()); } } } } } if (dlr.getRecordTypeMappings() != null)
System.out.println("There are " + dlr.getRecordTypeMappings().length + " record type
mappings for the " + objectToDescribe + " object"); else System.out.println("There are no
record type mappings for the " + objectToDescribe + " object."); } catch (Exception e) {
System.out.println("An exceptions was caught: " + e.getMessage()); } }
```

#### コード例—C#

```
private void describeLayoutSample() { try { Console.WriteLine("Enter the name of an object to
describe the layout of: "); string objectToDescribe = Console.ReadLine();
sforce.DescribeLayoutResult dlr = binding.describeLayout(objectToDescribe);
Console.WriteLine("There are " + dlr.layouts.Length + " layouts for the " + objectToDescribe
+ " object."); for (int i=0;i<dlr.layouts.Length;i++) { sforce.DescribeLayout layout =
dlr.layouts[i]; Console.WriteLine(" There are " + layout.detailLayoutSections.Length +
" detail layout sections"); for (int j=0;j<layout.detailLayoutSections.Length;j++) {
sforce.DescribeLayoutSection dls = layout.detailLayoutSections[j]; Console.WriteLine(j + "
This section has a heading of " + dls.heading); } if (layout.editLayoutSections !=
null) { Console.WriteLine(" There are " + layout.editLayoutSections.Length + " edit
layout sections"); for (int j=0;j<layout.editLayoutSections.Length;j++) {
sforce.DescribeLayoutSection els = layout.editLayoutSections[j]; Console.WriteLine(j + "
This section has a heading of " + els.heading); Console.WriteLine("This section has
```

```

" + els.layoutRows.Length + " layout rows."); for (int k=0;k<els.layoutRows.Length;k++) {
    sforce.DescribeLayoutRow lr = els.layoutRows[k]; Console.WriteLine("           This row
has " + lr.numItems + " items."); for (int h=0;h<lr.layoutItems.Length;h++) {
        sforce.DescribeLayoutItem li = lr.layoutItems[h]; if (li.layoutComponents != null)
        Console.WriteLine("           " + h + " " + li.layoutComponents[0].value); } } } }
if (dlr.recordTypeMappings != null) Console.WriteLine("There are " +
dlr.recordTypeMappings.Length + " record type mappings for the " + objectToDescribe + "
object"); else Console.WriteLine("There are no record type mappings for the " +
objectToDescribe + " object."); } catch (Exception e) { Console.WriteLine("An exception was
caught: " + e.Message); } }

```

## 引数

名前	型	説明
sObjectType	string	組織で有効な値を指定します。完全なオブジェクトのセットについては、 <a href="#">Standard Objects</a> を参照してください。オブジェクトが個人取引先である場合、取引先を指定するか、個人取引先が担当者である場合、取引先責任者を指定します。
recordTypeId	ID[]	<p>指定したレコードタイプの情報を返すオプションのパラメータです。</p> <p>マスタレコードタイプのレイアウトを取得するには、オブジェクトに関わらず <code>recordTypeId</code> に 012000000000000AAA を指定します。この値は、<a href="#">DescribeSObjectResult</a> でマスタレコードタイプの <code>recordTypeInfo</code> として返されます。SOQL クエリでは、012000000000000AAA ではなく null 値を返すことにご注意ください。</p> <p>ID についての詳細は、<a href="#">「ID データ型」</a> を参照してください</p>

## レスポンス

### [DescribeLayoutResult](#)

#### エラー

[InvalidSObjectFault](#)

[UnexpectedErrorFault](#)

## **DescribeLayoutResult**

`describeLayout()` コールは、渡された `sObjectType` のトップレベルのレコードタイプ情報を含む `DescribeLayoutResult` オブジェクトを返します。また、レコードタイプからレイアウトへの対応付けも返します。お使いのクライアントアプリケーションは、このオブジェクトを詳細に確認し、レイアウトの詳細なメタデータを取得します。

名前	型	説明
layouts	<a href="#">DescribeLayout[]</a>	指定された <code>sObjectType</code> と関連付けられたレイアウト。通常、レイアウトとオブジェクトは1対応です。ただし、場合によっては1つのオブジェクトにユーザプロファイルによって異なる複

名前	型	説明
		数のレイアウトが割り当てられている場合があります。
recordTypeMappings	RecordTypeMapping[]	ユーザはレコードタイプの対応付けが利用可能です。ユーザプロファイルのオブジェクトには複数のレコードタイプが存在する場合があります。コールしたユーザが利用可能なものだけではなく、すべてのレコードタイプが返されます。これにより、クライアントアプリケーションは指定されたユーザプロファイルに適切なレイアウトで表示できます。たとえば、ユーザ A がレコードの所有者であり、このレコードにはレコードタイプ X が設定されているとします。ユーザ B がレコードを表示しようとした場合、クライアントアプリケーションはユーザ B のプロファイルのレコードタイプに関連付けられたレイアウトを使用しレコードを表示します(そのユーザが利用できないレコードタイプの場合も同様)。
recordTypeSelectorRequired	boolean	true の場合、レコードタイプ選択ページが必要です。false の場合、デフォルトのレコードタイプを使用します。

## DescribeLayout

指定された sObjectType 固有のレイアウトを表します。各 DescribeLayout は一意なレイアウト ID を使用して参照し、2つのタイプのビューが存在します (DescribeLayoutSection の配列としてこのオブジェクトで表されます)。

- 詳細ビュー—オブジェクトを参照のみの形式で表示します。詳細レイアウトでは、特定の情報(詳細な住所など)は 1 つの DescribeLayoutItem にまとめることができます。
- 編集ビュー—オブジェクトを編集可能な形式で表示します。編集レイアウトでは、個別の情報(住所など)はそれぞれの項目に分けられます。

個別の DescribeLayout には、次の項目があります。

名前	型	説明
buttonSection	DescribeButtonSection[]	指定されたレイアウトと関連付けられた標準ボタンとカスタマイズボタン。
detailLayoutSections	DescribeLayoutSection[]	詳細ビューのレイアウトセクション。
editLayoutSections	DescribeLayoutSection[]	編集ビューのレイアウトセクション。
id	ID	このレイアウトの一意な ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
relatedLists	RelatedList[]	指定されたレイアウトと関連付けられた関連リスト。

**DescribeButtonSection**

[DescribeLayout](#) の単一の標準ボタンまたはカスタムボタンを表します。

名前	型	説明
isCustom	boolean	カスタムボタンであるかどうかを示します(カスタムボタンの場合は <code>true</code> 、そうでない場合は <code>false</code> )。
button	string	ボタンの名前。
label	string	Salesforce.com ユーザインターフェースに表示されたボタンのラベル。

**DescribeLayoutSection**

[DescribeLayout](#) のセクションを表し、1つ以上の列および1つ以上の行から構成されます ([DescribeLayoutRow](#) の配列)。

名前	型	説明
columns	int	この <a href="#">DescribeLayoutSection</a> の列数。
heading	string	この <a href="#">DescribeLayoutSection</a> のヘッダーのテキスト(ラベル)。
layoutRows	DescribeLayoutRow[]	1つ以上の <a href="#">DescribeLayoutRow</a> オブジェクトの配列。
rows	int	この <a href="#">DescribeLayoutSection</a> の行数。
useCollapsibleSection	boolean	この <a href="#">DescribeLayoutSection</a> が折りたたみ可能なセクション(別名「ツイスティ」)かどうかを示します(可能な場合は <code>true</code> 、不可能な場合は <code>false</code> )。
useHeading	boolean	heading を使用するかどうかを示します(使用する場合は <code>true</code> 、使用しない場合は <code>false</code> )。

**DescribeLayoutRow**

[DescribeLayoutSection](#) の行を表します。 [DescribeLayoutRow](#) は [DescribeLayoutItem](#) で構成されています。 それぞれの [DescribeLayoutRow](#) について、[DescribeLayoutItem](#) は特定の項目または「空白の」 [DescribeLayoutItem](#) ([DescribeLayoutComponent](#) オブジェクトを含まない [DescribeLayoutItem](#)) を参照します。 空の [DescribeLayoutItem](#) は、指定された [DescribeLayoutRow](#) がまばらである場合返されます(たとえば、左の列より右の列の方が項目が多い場合)。レイアウトに空白がある場合、空の [DescribeLayoutItem](#) がプレースホルダとして返されます。

名前	型	説明
layoutItems	DescribeLayoutItem[]	特定の項目または「空」の LayoutItem ( <a href="#">DescribeLayoutComponent</a> オブジェクトを含まない LayoutItem) を参照します。

名前	型	説明
numItems	int	layoutItems の数。この情報は冗長ですが、一般的な SOAP ツールキットのバグによるシリアル化の問題を避けるために必要です。

### DescribeLayoutItem

DescribeLayoutRow の個別のアイテムを表します。DescribeLayoutItem はコンポーネントセット (DescribeLayoutComponent) で構成され、それぞれは項目または境界です。レイアウトのほとんどの項目で、1つのレイアウトアイテムごとにコンポーネントは1つだけです。ただし、表示のみのビューでは、DescribeLayoutItem は個別項目の組み合わせである場合があります(たとえば、住所は町名、市区郡、都道府県、国、郵便番号のデータから構成することができます)。対応する編集ビューでは、住所項目のそれぞれのコンポーネントは、別個の DescribeLayoutItem に分けられます。

名前	型	説明
editable	boolean	この DescribeLayoutItem が編集可能(true) 不可(false) を示します。
label	string	この DescribeLayoutItem のラベルテキスト。
layoutComponents	DescribeLayoutComponent[]	この DescribeLayoutItem の DescribeLayoutComponent。
placeholder	boolean	この DescribeLayoutItem がプレースホルダか(true) 否か(false) を示します。true の場合、この DescribeLayoutItem は空白となります。
required	boolean	この DescribeLayoutItem が必須項目か(true) 否か(false) を示します。この機能は、目立つ色(赤など)で必須項目を表示する場合などに便利です。

### DescribeLayoutComponent

レイアウトの最小単位である項目または境界を表します。表示するための項目の参照において、クライアントアプリケーションは次の表記法を使用し `describeSObjects()` コールの項目を参照します。

`LayoutComponent.fieldName`。

名前	型	説明
displayLines	int	項目に表示される垂直な線の数。textarea および複数選択リストに適用されます。
tabOrder	int	行のアイテムのタブの順序を示します。
type	LayoutComponentType	この LayoutComponent の LayoutComponentType。
value	string	この LayoutComponent の値。LayoutComponentType の値が Field の場合、項目の名前。

## LayoutComponentType

[DescribeLayoutComponent](#) のタイプを表します。以下の値の 1 つを含みます。

- EmptySpace—ページレイアウトの空白スペース。
- Field—項目名。[describeSObjectResult](#) の `name` 項目への対応付け。
- sControl—今後の使用のための予約。
- Separator—セミコロン (:) やスラッシュ (/) などの区切り文字。

## RecordTypeMapping

[DescribeLayoutResult](#) オブジェクトの `recordTypeMappings` 項目の単一のレコードタイプの対応付けを表します。オブジェクトは、有効な `recordTypeId` の `layoutId` に対するマップです。詳細ビューを表示するために、クライアントアプリケーションはこの対応付けを使用して、レコードのレコードタイプを関連するレイアウトを確認します。編集ビューを表示するために、クライアントアプリケーションはこの対応付けを使用して使用するレイアウトを確認します(また、ユーザによる複数のレコードタイプの選択を許可します)。また、利用可能な選択リストの値セットも確認します。

名前	型	説明
available	boolean	このレコードタイプが利用可能かどうかを示します(利用可能な場合は <code>true</code> 、そうでない場合は <code>false</code> )。利用可能かどうかという情報は、新しいレコードの作成時に利用可能なレコードタイプの一覧をユーザに表示するのに使用します。
defaultRecordTypeMapping	boolean	デフォルトのレコードタイプの対応付けかどうかを示します(デフォルトの場合は <code>true</code> 、そうでない場合は <code>false</code> )。
layoutId	ID	このレコードタイプに関連付けられたレイアウトの ID。
name	string	レコードタイプの名前。
picklistsForRecordType	PicklistForRecordType[]	<code>recordTypeId</code> に対応付けられたレコードタイプ選択リスト。
recordTypeId	ID	レコードタイプの ID。



メモ: この結果に以前含まれていたいくつかの項目は [RecordTypeInfo](#) へと移動しました。

## PicklistForRecordType

[RecordTypeMapping](#) の単一のレコードタイプ選択リストを表します。`picklistName` は、[describeSObjectResult](#) の `fields` 配列の各項目の `name` 属性に一致します。`picklistValues` は、`recordType` の利用可能な値セットです。

名前	型	説明
picklistName	string	選択リストの名前。
picklistValues	PicklistEntry[]	RecordTypeMapping の recordTypeId に関連付けられた選択リストの値セット。  注意: picklistValues を取得した場合、validFor の値は null 値となります。validFor 値が必要な場合、DescribeSObjectResult に関連付けられた Field オブジェクトから取得した PicklistEntry から取得します。

## RelatedList

DescribeLayoutResult の単一の関連リストを表します。

名前	型	説明
columns	RelatedListColumn[]	関連リストに関連付けられた列。  この値を Field と組み合わせ、次のような数々の便利なタスクを実行できます。 <ul style="list-style-type: none"> <li>詳細へのリンクを表すため、項目が名前項目かどうかを確認</li> <li>項目が並び替え可能かどうかを確認 (指定された列で行を並び替えるため、ユーザによる ORDER BY 句の使用を許可するため)</li> <li>通貨記号またはコードを含めるため、項目が通貨項目かどうかを確認</li> </ul>
custom	boolean	true の場合、関連リストはカスタムとなります。
field	string	関連するオブジェクトとのリレーションを確立する関連オブジェクトの項目名。たとえば、取引先の取引先責任者関連リストにおいて、値は AccountId となります。
label	string	Salesforce.com ユーザインターフェースに表示された関連リストのラベル。
limitRows	int	表示する行数。
name	string	DescribeLayout の引数として提供されている sObjectType の DescribeSObjectResult の中の ChildRelationship の名前。
object	string	関連リストの行の行タイプである sObjectType の名前。
sort	RelatedListSort[]	null 値でない場合、関連オブジェクトの並び替えに使用される列。

**RelatedListColumn**

[DescribeLayoutResult](#) が返した関連リストの単一項目を表します。

名前	型	説明
field	<a href="#">string</a>	項目の API 名。この値は常に <code>object_type.field_name</code> の形式で表されます。たとえば、名前が <code>Contact.Account.Owner.Alias</code> の場合、値は <code>User.Alias</code> となります。
format	<a href="#">string</a>	date または dateTime 形式で表します。
label	<a href="#">string</a>	項目のラベル。
name	<a href="#">string</a>	関連リストのメインの <code>sObject</code> に関連付けられた項目の SOQL 項目構文。この値は、 <a href="#">SOQL リレーションのクエリドット表記</a> で表すか、 <code>toLabel()</code> または <code>convertCurrency()</code> 形式を使用します。 たとえば、関連リスト <code>sObjectType</code> が Case の場合、値は <code>Owner.Alias</code> または <code>toLabel(Case.Status)</code> となります。

**RelatedListSort**

関連リストのオブジェクトの並び替え設定を表します。

名前	型	説明
column	<a href="#">string</a>	関連オブジェクトの並び替えに使用する項目名。
ascending	<a href="#">boolean</a>	<code>true</code> の場合、並び替え順序は昇順です。 <code>false</code> の場合、並び替え順序は降順です。

ほとんどの場合、配列には `RelatedListSort` は 1 つしか存在しませんが、特別な標準関連リストには 1 つ以上存在する場合があります。1つ以上存在する場合、`RelatedListSorts` は、下記のように対応する SOQL クエリに含める方法によって並び替えられます。

```
ORDER BY relatedListSort[0].getColumn() DIRECTION, relatedListSort[1].getColumn() DIRECTION
```

---

**describeSObject()**

指定されたオブジェクトのメタデータ（項目リストとオブジェクトプロパティ）を表します。



メモ: `describeSObjects()` は、`describeSObject()` に代わるもので、`describeSObjects()` は、`describeSObject()` の代わりに使用されます。

**構文**

```
DescribeSObjectResult = binding.describeSObject(string sObjectType);
```

## 使用方法

指定されたオブジェクトのメタデータを取得するには `describeSObject()` を使用します。最初に `describeGlobal()` をコールして組織のすべてのオブジェクトのリストを取得し、その後リスト内を繰り返し処理して `describeSObject()` を使用して個別のオブジェクトのメタデータを取得します。

組織のデータのメタデータを取得するには、クライアントアプリケーションは条件を満たすアクセス権限でログインする必要があります。詳細は、「[データアクセスに影響する要素](#)」を参照してください。

## コード例—Java

```
public void describeSample() { try { // describeSObject を起動し、結果を DescribeSObjectResult に保存。DescribeSObjectResult describeSObjectResult = binding.describeSObject("Account");
// describeSObject コールが成功したかどうかを確認。if (! (describeSObjectResult == null)) { // 結果から項目を取得。Field[] fields = describeSObjectResult.getFields(); // オブジェクトの名前を取得。String objectName = describeSObjectResult.getName(); // フラグを取得。boolean isActivateable = describeSObjectResult.isActivateable(); // 他の多くの値もアクセス可能。if (! (fields == null))
{ // 項目を繰り返し処理し、各項目のプロパティを取得。for (int i = 0; i < fields.length; i++) {
Field field = fields[i]; int byteLength = field.getByteLength(); int digits =
field.getDigits(); String label = field.getLabel(); int length = field.getLength(); String name =
field.getName(); PicklistEntry[] picklistValues = field.getPicklistValues(); int precision =
field.getPrecision(); String[] referenceTos = field.getReferenceTo(); int scale =
field.getScale(); FieldType fieldType = field.getType(); boolean fieldIsCreateable =
field.isCreateable(); // 選択リストの値の有無を確認。if (picklistValues != null) {
System.out.println("Picklist values = "); for (int j = 0; j < picklistValues.length; j++)
{ if (picklistValues[j].getLabel() != null) { System.out.println(" Item: " +
picklistValues[j].getLabel()); } } } // この項目が他のオブジェクトを参照しているかどうかを確認。if (referenceTos != null) { System.out.println("Field references the following objects:");
for (int j = 0; j < referenceTos.length; j++) { System.out.println(" " + referenceTos[j]); }
} } } } catch (Exception ex) { System.out.println("\nFailed to get Account description,
error message was: \n" + ex.getMessage()); } getUserInput("Press enter to continue..."); }
```

## コード例—C#

```
private void sObjectDescribe() { //Invoke describeSObject and save results in
DescribeSObjectResult DescribeSObjectResult dsr = binding.describeSObject("Account");

//Get value that indicates whether we can create a record bool canCreate = dsr.createable;
//Get a field and save its name String fldName = dsr.fields[0].name; }
```

## 引数

名前	型	説明
sObjectType	string	Object.組織で有効な値を指定します。完全なオブジェクトのセットについては、 <a href="#">Standard Objects</a> を参照してください。

## レスポンス

[DescribeSObjectResult](#)

## エラー

[InvalidSObjectFault](#)

UnexpectedErrorFault

## describeSObjectResult

`describeSObject()` コールは `DescribeSObjectResult` オブジェクトを返します。



メモ: `describeSObjects()` は、`describeSObject()` に代わるものです。`describeSObjects()` は、`describeSObject()` の代わりに使用されます。

## describeSObjects()

`describeSObject()` の配列をベースとしたもので、指定されたオブジェクトのメタデータ(項目リストとオブジェクトプロパティ)を表します。



メモ: `describeSObject()` の代わりにこのコールを使用してください。

### 構文

```
DescribeSObjectResult [] = binding.describeSObjects(string sObjectType[] );
```

### 使用方法

指定されたオブジェクトまたはオブジェクト配列のメタデータを取得するには `describeSObjects()` を使用します。最初に `describeGlobal()` をコールして組織のすべてのオブジェクトのリストを取得し、その後リスト内を繰り返し処理して `describeSObjects()` を使用して個別のオブジェクトのメタデータを取得します。

`describeSObjects()` コールが返すことができるオブジェクトの最大数は 100 個です。

組織のデータのメタデータを取得するには、クライアントアプリケーションは条件を満たすアクセス権限でログインする必要があります。詳細は、「[データアクセスに影響する要素](#)」を参照してください。

個人取引先が有効な組織では、プロファイルからいずれかの法人取引先へのアクセス権がない限り、このコールでは取引先が作成不可能として表されます。

### コード例—Java

```
private void describeSObjectsSample() { try { DescribeSObjectResult[] describeSObjectResults  
= binding.describeSObjects(new String[] {"account", "contact", "lead"}); for (int  
x=0;x<describeSObjectResults.length;x++) { DescribeSObjectResult describeSObjectResult =  
describeSObjectResults[x]; // 結果から項目を取得。Field[] fields =  
describeSObjectResult.getFields(); // オブジェクトの名前を取得。String objectName =  
describeSObjectResult.getName(); // フラグを取得。boolean isActiveable =  
describeSObjectResult.isActiveable(); System.out.println("Object name: " + objectName);  
// 他の多くの値もアクセス可能。if (fields != null) { // 項目を繰り返し処理し、各項目のプロパティを取得。  
for (int i = 0; i < fields.length; i++) { Field field = fields[i]; int byteLength =  
field.getByteLength(); int digits = field.getDigits(); String label = field.getLabel(); int  
length = field.getLength(); String name = field.getName(); PicklistEntry[] picklistValues  
= field.getPicklistValues(); int precision = field.getPrecision(); String[] referenceTos  
= field.getReferenceTo(); int scale = field.getScale(); FieldType fieldType = field.getType();  
boolean fieldIsCreateable = field.isCreateable(); System.out.println("Field name: " +
```

```

name); // 選択リストの値の有無を確認。if (picklistValues != null && picklistValues[0] != null)
{ System.out.println("Picklist values = "); for (int j = 0; j < picklistValues.length; j++)
{ if (picklistValues[j].getLabel() != null) { System.out.println(" Item: " +
picklistValues[j].getLabel()); } } } // この項目が他のオブジェクトを参照しているかどうかを確認。if
(referenceTos != null && referenceTos[0] != null) { System.out.println("Field references
the following objects:"); for (int j = 0; j < referenceTos.length; j++) { System.out.println(" " +
referenceTos[j]); } } } } catch (Exception ex) { System.out.println("\nFailed to
get object descriptions, error message was: \n" + ex.getMessage()); } }

```

## コード例—C#

```

private void describeSObjectsSample() { sforce.DescribeSObjectResult[] describeSObjectResults
= binding.describeSObjects(new string[] {"account", "contact", "lead"}); for (int
x=0;x<describeSObjectResults.Length;x++) { sforce.DescribeSObjectResult describeSObjectResult
= describeSObjectResults[x]; // 結果から項目を取得。 sforce.Field[] fields =
describeSObjectResult.fields; // オブジェクトの名前を取得。 String objectName =
describeSObjectResult.name; // フラグを取得。 bool isActiveable =
describeSObjectResult.activateable; // 他の多くの値もアクセス可能。 if (fields != null) { // 項
目を繰り返し処理し、各項目のプロパティを取得。 for (int i = 0; i < fields.Length; i++) { sforce.Field
field = fields[i]; int byteLength = field.byteLength; int digits = field.digits; string
label = field.label; int length = field.length; string name = field.name;
sforce.PicklistEntry[] picklistValues = field.picklistValues; int precision = field.precision;
string[] referenceTos = field.referenceTo; int scale = field.scale; sforce.fieldType
fieldType = field.type; bool fieldIsCreateable = field.createable; // 選択リストの値の有無を確
認。 values if (picklistValues != null && picklistValues[0] != null) {
Console.WriteLine("Picklist values = "); for (int j = 0; j < picklistValues.Length; j++) {
if (picklistValues[j].label != null) { Console.WriteLine(" Item: " +
picklistValues[j].label); } } } // この項目が他のオブジェクトを参照しているかどうかを確認。 if
(referenceTos != null && referenceTos[0] != null) { Console.WriteLine("Field references the
following objects:"); for (int j = 0; j < referenceTos.Length; j++) { Console.WriteLine(" " +
referenceTos[j]); } } } } }

```

## 引数

[describeSObjects\(\)](#) コールは sObjects のすべての配列を取ることができます。

名前	型	説明
sObjectType	string	Object.組織で有効な値を指定します。完全なオブジェクトのセットについて は、 <a href="#">Standard Objects</a> を参照してください。

## レスポンス

[DescribeSObjectResult](#)

## エラー

[InvalidSObjectFault](#)

[UnexpectedErrorFault](#)

## DescribeSObjectResult

[describeSObjects\(\)](#) コールは [DescribeSObjectResult](#) オブジェクトを返します。各オブジェクトには次の  
プロパティがあります。

名前	型	説明
activateable	boolean	将来の使用のための予備。
childRelationships	ChildRelationship[]	子リレーションの配列で、記述されている sObject への外部キーを持つ sObject の名前です。
createable	boolean	オブジェクトが <code>create()</code> コールを使用して作成できるか ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。
custom	boolean	カスタムオブジェクトであるかどうかを示します (カスタムオブジェクトの場合は <code>true</code> 、そうでない場合は <code>false</code> )。
customSetting	boolean	カスタム設定項目である ( <code>true</code> ) か、そうでない ( <code>false</code> ) かを示します。
deletable	boolean	オブジェクトが <code>delete()</code> call ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。
deprecatedAndHidden	boolean	将来の使用のための予備。
fields	Field[]	オブジェクトに関連付けられた項目の配列。このリストから情報を取得するメカニズムは、開発ツールにより異なります。
keyPrefix	string	オブジェクト ID の 3 文字の接頭辞コード。オブジェクト ID はオブジェクト型を示す 3 文字のコードが先頭に付けられます。たとえば、 <a href="#">取引先</a> オブジェクトの接頭辞は 001、 <a href="#">商談</a> オブジェクトの接頭辞は 006 です。主要な接頭辞を複数のオブジェクトで共有する場合があるため、かならずしもオブジェクトを一意に識別するわけではありません。  子に 1 つ以上の親オブジェクトが存在する場合 (ポリモーフィック)、親のオブジェクト種別を確認するためにこの項目の値を使用します。たとえば、 <a href="#">タスク</a> または <a href="#">イベント</a> の親の keyPrefix 値を取得しなければならない場合にこの値を使用します。
label	string	適用される場合は、ユーザインターフェースで名前が変更されたタブまたは項目のラベルテキスト。適用されない場合はオブジェクト名。たとえば、医療分野の組織では取引先を患者に変更する場合があります。タブや項目は Salesforce.com ユーザインターフェースで名前を変更できます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。
labelPlural	string	オブジェクト名の複数形を表すラベルテキストです。
layoutable	boolean	オブジェクトが <code>describeLayout()</code> コールをサポートしているか ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。
mergeable	boolean	オブジェクトが同じ型の他のオブジェクトとマージ可能か ( <code>true</code> ) 否か ( <code>false</code> ) を示します。リード、取引先責任者、取引先については <code>true</code> となります。
name	string	オブジェクトの名前。 <code>sObjectType</code> パラメータとして渡された文字列と同じです。

名前	型	説明
queryable	boolean	オブジェクトが <a href="#">query()</a> コールを使用してクエリを実行できるか (true) 否か (false) を示します。
recordTypeInfos	RecordTypeInfo[]	このオブジェクトがサポートするレコードタイプの配列。ユーザはここに表示されるものすべてを参照するのに、返されたすべてのレコードタイプへのアクセス権を所有している必要はありません。
replicable	boolean	オブジェクトを <a href="#">getUpdated()</a> および <a href="#">getDeleted()</a> コールを使用して複製可能か (true) 否か (false) を示します。
retrieveable	boolean	オブジェクトが <a href="#">retrieve()</a> コールを使用して取得できるか (true) 否か (false) を示します。
searchable	boolean	オブジェクトが <a href="#">search()</a> コールを使用して検索できるか (true) 否か (false) を示します。
triggerable	boolean	オブジェクトが Apex トリガをサポートしているかどうかを示します。
undeletable	boolean	オブジェクトが <a href="#">undelete()</a> コールを使用して復元可能か (true) 否か (false) を示します。
updateable	boolean	オブジェクトが <a href="#">update()</a> コールを使用して更新可能か (true) 否か (false) を示します。
urlDetail	string	オブジェクトの参照のみ詳細ページへの URL。参照・更新である urlEdit と比較してください。クライアントアプリケーションはこの URL を使用し標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトの Salesforce.com ユーザインターフェースヘリダイレクトまたはアクセスできます。柔軟性を持たせ、将来の拡張に備えるために、返される urlDetail 値は動的です。クライアントアプリケーションの上位互換性を保証するため、できる限りこの機能を使用することをお勧めします。一定の URL が利用できないオブジェクトについては、この項目は空の値を返します。
urlEdit	string	オブジェクトの編集ページへの URL。たとえば、取引先オブジェクトの urlEdit 項目は <a href="https://na1.salesforce.com/{ID}/e">https://na1.salesforce.com/{ID}/e</a> を返します。{ID} 項目を現在のオブジェクト ID で置き換えると、Salesforce.com ユーザインターフェースの指定された取引先の編集ページを返します。参照のみである urlDetail と比較してください。クライアントアプリケーションはこの URL を使用し標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトの Salesforce.com ユーザインターフェースヘリダイレクトまたはアクセスできます。柔軟性を持たせ、将来の拡張に備えるために、返される urlDetail 値は動的です。クライアントアプリケーションの上位互換性を保証するため、できる限りこの機能を使用することをお勧めします。一定の URL が利用できないオブジェクトについては、この項目は空の値を返します。

名前	型	説明
urlNew	string	オブジェクトの新規作成ページへの URL。クライアントアプリケーションはこの URL を使用し標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトの Salesforce.com ユーザインターフェースヘリダイレクトまたはアクセスできます。柔軟性を持たせ、将来の拡張に備えるために、返される urlNew 値は動的です。クライアントアプリケーションの上位互換性を保証するため、できる限りこの機能を使用することをお勧めします。一定の URL が利用できないオブジェクトについては、この項目は空の値を返します。



メモ: Boolean 値を持つプロパティは、特定の API コールがオブジェクトで使用できるかどうかを示します。しかし、ユーザプロファイルでの権限の有無もまた、オブジェクトでその操作を実行できるかどうかに影響します。

### ChildRelationship

表されている sObject への外部キーを持つ sObject の名前です。

名前	型	説明
cascadeDelete	boolean	親オブジェクトが削除されたときに子オブジェクトも削除されたかどうかを示します (削除された場合は true、削除されていない場合は false)。
childSObject	string	親の sObject への外部キーを持つオブジェクトの名前。
deprecatedAndHidden	boolean	将来の使用のための予備。
field	string	親の sObject への外部キーを持つ項目の名前。
relationshipName	string	リレーションの名前。通常は <a href="#">childSObject</a> の値の複数形。

### 項目

[DescribeSObjectResult](#)において、項目プロパティには項目オブジェクトの配列が含まれます。各項目は API オブジェクトの項目を表します。配列は、ユーザの項目レベルのセキュリティ設定の定義に基づき、ユーザが参照できる項目のみを含みます。

名前	型	説明
autonumber	boolean	この項目が自動採番項目であるか (true) 否か (false) を示します。SQL の IDENTITY 型に似て、自動採番項目は参照のみ可能で、作成できない項目であり、最長 30 文字です。自動採番項目は参照のみの項目であり、内部オブジェクト ID に依存しない一意な ID を提供します (購入注文や請求書番号など)。自動採番項目は、全体的に Salesforce.com ユーザインターフェースで構成されています。API はこの属性へのアクセスを提供しているため、クライアントアプリケーションは指定された項目が自動採番項目かどうかを確認できます。

名前	型	説明
byteLength	int	可変長項目(バイナリ項目も含む)の最大サイズをバイトで指定。
calculated	boolean	項目がカスタム式項目である(true)か、そうでない(false)かを示します。カスタム式項目は常に参照のみ可能であることにご注意ください。
caseSensitive	boolean	この項目が大文字小文字を区別するかどうかを示します(区別する場合は true、しない場合は false)。
controllerName	string	この選択リストの値を制御する項目の名前。型が選択リストまたは複数選択リストであり、dependentPicklistがtrueの場合のみ適用されます。「 <a href="#">連動選択リストについて</a> 」を参照してください。制御項目から連動項目への対応付けは、この選択リストの各 PicklistEntry の validFor 属性に格納されます。「 <a href="#">validFor</a> 」を参照してください。
createable	boolean	項目を作成できる(true)かそうでない(false)かを示します。true の場合、この項目値を <a href="#">create()</a> コールで設定できます。
custom	boolean	項目がカスタム項目である(true)か、そうでない(false)かを示します。
defaultValueCreate	boolean	作成時にこの項目がデフォルト設定されている(true)かそうでない(false)かを示します。true の場合、この項目の値が <a href="#">create()</a> コールで渡されない場合であっても、Salesforce.com は、オブジェクト作成時にこの項目の値を暗黙的に割り当てます。たとえば、 <a href="#">Opportunity</a> オブジェクトで、値が <a href="#">Stage</a> 項目から取得されているため、 <a href="#">Probability</a> 項目にはこの属性が指定されています。同様に、ほとんどのオブジェクトの所有者にはこの属性が設定されています。所有者項目が特に指定されない限り、値は現在のユーザから導出されます。
defaultValueFormula	string	数式が使用されていない場合、この値に指定されたデフォルト値。値が指定されていない場合、この項目は返されません。
dependentPicklist	boolean	選択リストが連動選択リストであるかどうかを示します(利用可能な値が制御項目で選択された値に従う場合は true、そうでない場合は false)。「 <a href="#">連動選択リストについて</a> 」を参照してください。
deprecatedAndHidden	boolean	将来の使用のための予備。
digits	int	整数型の項目で使用。最大桁数。整数値が桁数を超えた場合、API はエラーを返します。
filterable	boolean	検索条件として指定できる(true)かできない(false)かを示します。true の場合、この項目を <a href="#">query()</a> コールのクエリ文字列の WHERE 句で指定できます。
formula	string	この項目に指定された数式。数式が指定されていない場合、この項目は返されません。

名前	型	説明
htmlFormatted	boolean	ハイパーリンクカスタム数式項目などの項目が HTML のために形式化されており、HTML として表示するためのエンコーディングが必要かどうかを示します(必要な場合は <code>true</code> 、必要な場合は <code>false</code> )。カスタム数式項目の項目に IMAGE テキスト関数があるかどうかも示します。
idLookup	boolean	<code>upsert()</code> コールのレコードの指定に項目を使用できるかどうか指定する(指定できる場合は <code>true</code> 、できない場合は <code>false</code> )。
inlineHelpText	string	この項目の項目レベルヘルプフロート表示テキストとして表示されるテキスト。   メモ: このプロパティは、オブジェクトの 1 つ以上の項目に値が含まれていないと返されません。少なくとも 1 つの項目に項目レベルのヘルプが存在する場合、オブジェクトのすべての項目がプロパティを項目レベルのヘルプ値で表示します。項目レベルのヘルプが空の項目では null 値となります。
label	string	Salesforce.com ユーザインターフェースの項目の隣に表示されるテキストラベル。このラベルはローカライズが可能です。
length	int	文字列項目において、Unicode 文字での最大サイズを指定(バイトではないことに注意)。
name	string	<code>create()</code> 、 <code>delete()</code> 、および <code>query()</code> など、API コールで使用される項目名。
nameField	boolean	項目が名前項目である( <code>true</code> )か、そうでない( <code>false</code> )かを示します。標準オブジェクトの名前項目( <code>Account</code> オブジェクトの <code>AccountName</code> など)やカスタムオブジェクトの名前項目を識別するために使用します。取引先責任者オブジェクトなど、 <code>FirstName</code> および <code>LastName</code> 項目が使用されている場合を除き、1 オブジェクトにつき 1 つに制限されます。  個人取引先の名前項目など複合名が存在する場合、そのレコードの <code>nameField</code> は <code>true</code> に設定されます。複合名が存在する場合、 <code>FirstName</code> および <code>LastName</code> ではこの項目が <code>true</code> に設定されます。
namePointing	boolean	項目の値が、このオブジェクトの親の名前であるか( <code>true</code> )否か( <code>false</code> )を示します。親が 1 つ以上のオブジェクト型である可能性のあるオブジェクトで使用します。たとえば、タスクは取引先と取引先責任者が親であることが考えられます。
nillable	boolean	項目を空白にできる( <code>true</code> )かできない( <code>false</code> )かを示します。null 値が許可される項目は、中身を空にすることができます。null 値が許可されないオブジェクトでは、オブジェクトを作成して保存するには必ず値を設定する必要があります。
picklistValues	PicklistEntry[]	選択リストの有効な値のリストを提供します。 <code>restrictedPicklist</code> が <code>true</code> に設定されている場合のみ指定します。

名前	型	説明
precision	int	double 型の項目で使用します。小数点の右側と左側の両方をあわせた(ただし小数点自体は含まない)、格納可能な最大桁数を示します。
relationshipName	string	主従関係の項目の場合、リレーションの名前。
relationshipOrder	int	主従関係の項目の場合、リレーションの種類。有効な値は次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> <li>0: 項目が主のリレーションの場合</li> <li>1: 項目が従のリレーションの場合</li> </ul>
referenceTo	string[]	他のオブジェクトを参照する項目において、この配列は参照されるオブジェクトのオブジェクト種別を示します。
restrictedPicklist	boolean	項目が制限された選択リストである(true)か、そうでない(false)かを示します。
scale	int	double 型の項目で使用します。小数点の右側の最大桁数です。API は小数点の右側の余分な桁は通知することなく切り捨てます。しかし、小数点の左側の桁数が多すぎる場合は、エラーのレスポンスを返します。
soapType	<a href="#">SOAPType</a>	設定可能な値のリストは、「 <a href="#">SOAPType</a> 」を参照してください。
sortable	boolean	クエリでこの項目を並び替え可能か(true)否か(false)を示します。
type	<a href="#">FieldType</a>	設定可能な値のリストは、「 <a href="#">FieldType</a> 」を参照してください。
unique	boolean	この項目が一意である必要があるかどうかを示します(一意である必要がある場合は true、そうでない場合は false)。
updateable	boolean	項目を更新できる(true)かできない(false)かを示します。true の場合、この項目値を <code>update()</code> コールで設定できます。
writeRequiresMasterRead	boolean	この項目は主従関係にのみ適用されます。ユーザが、子レコードの挿入、更新および削除を行うのに親レコードに対して必要なのは、参照共有アクセス権限(true)または編集アクセス権限(false)化を示します。いずれの場合も、ユーザはプロファイルでも子オブジェクトに対して、作成、編集および削除のオブジェクト権限が必要です。

## FieldType

[DescribeSObjectResult](#) で関連付けられた項目オブジェクトにおいて、型項目には次の文字列の 1 つを格納できます。項目のデータ型の詳細は、「[項目のデータ型](#)」を参照してください。

type 項目値	項目オブジェクトに含まれる内容
string	文字列の値
boolean	Boolean 型の (true / false) の値。

type	項目値	項目オブジェクトに含まれる内容
int		整数値。
double		double 値。
date		日付の値。
datetime		日付/時間の値。
base64		Base64 でエンコーディングされた任意のバイナリデータ (型は base64Binary)。添付ファイル、ドキュメントおよび Scontrol オブジェクトで使用します。
ID		オブジェクトの主キー項目。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください
reference		別のオブジェクトへの相互参照。SQL の外部キー項目に似ています。
currency		通貨の値。
textarea		複数行のテキスト項目として表示される文字列。
percent		パーセント値。
phone		電話番号。値にはアルファベットを含めることができます。電話番号の書式は、クライアントアプリケーションが指定します。
url		URL 値。通常クライアントアプリケーションではハイパーリンクとして表示されます。
email		電子メールアドレス。
combobox		enum 値のセットを提供するコンボボックスで、ユーザはリストにない値も指定できます。
picklist		単一の値を選択可能な enum 値のセットを含んだ 1 つの値しか選択できない選択リスト。
multipicklist		複数の値を選択可能な enum 値のセットを提供する複数選択の選択リスト。
anyType		次のいずれかの型の値を指定できます。string、picklist、boolean、int、double、percent、ID、date、dateTime、url または email。

## SOAPType

[DescribeSObjectResult](#) は、記述されるオブジェクトについての情報を提供する値の項目の配列を含む `fields` プロパティを返します。その項目の 1 つである `soapType` は、次の文字列値の 1 つを含みます。`xsd:` から始まるすべての値は、XML スキーマのプリミティブデータ型です。XML スキーマのプリミティブデータ型の詳細は、<http://www.w3.org/TR/xmlschema-2/> の World Wide Web Consortium の出版物『*XML Schema Part 2: Data Types*』を参照してください。

値	説明
<code>tns:ID</code>	<code>sObject</code> に関連付けられた一意な ID。ID についての詳細は、「 <a href="#">ID データ型</a> 」を参照してください

値	説明
xsd:anyType	ID、Boolean、double、integer、string、date または dateTime のいずれかを指定できます。
xsd:base64Binary	Base 64 でエンコーディングされたバイナリデータ。
xsd:boolean	Boolean 型の (true / false) の値。
xsd:date	日付の値。
xsd:dateTime	日付/時間の値。
xsd:double	double 値。
xsd:int	整数値。
xsd:string	文字列。

## PicklistEntry

DescribeSObjectResult で関連付けられた項目オブジェクトにおいて、picklistValues 項目は PicklistEntry プロパティの配列を含みます。各 PicklistEntry は次の文字列値の 1 つを含むことができます。詳細は、「[Picklist データ型](#)」を参照してください。

名前	型	説明
active	boolean	ユーザインターフェースの選択リスト項目のドロップダウンリストに項目を表示する必要がある (true) か、必要がない (false) かを示します。
validFor	byte[]	ビットセットで、各ビットはこの PicklistEntry が有効かどうかを表す制御値を示します。「 <a href="#">連動選択リストについて</a> 」を参照してください。
defaultValue	boolean	この項目が選択リストのデフォルト項目である (true) かそうでない (false) かを示します。選択リスト内の 1 つのアイテムのみをデフォルトに設定できます。
label	string	選択リスト内のこのアイテムの名前を表示します。
value	string	選択リスト内のこのアイテムの値。

## 連動選択リストについて

連動選択リストは、制御項目とともに動作し、その値に検索条件を適用します。制御項目で選択した値は、連動選択リストの値にも適用されます。

連動選択リストには、対応する制御項目で選択された値に基づいて、使用可能な値が表示される、カスタムの選択リストまたは複数選択の選択リストの項目を使用できます。制御項目には、対応する 1 つ以上の連動項目で使用可能な値を制御する、標準またはカスタムの選択リスト (1 つ以上、200 以下の値を含む) やチェックボックスの項目を使用できます。

次の例では、制御選択リスト 飲み物 には 2 つの値があり、その値は連動選択リスト 飲み物の種類 に関連付けられています。

飲み物	飲み物の種類
コーヒー	カフェインなし レギュラー
紅茶	カモミール アールグレイ
	イングリッシュブレックファスト

連動選択リストの値を表す各 `PicklistEntry` では、`validFor` にビットセットが含まれています。各ビットは、`PicklistEntry` が有効かどうかを表す制御値を示します。ビットは左から右へと読みます。

連動選択リストの詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「連動項目について」を参照してください。

#### 連動選択リストのサンプル Java コード

```
public void dependentPicklistSample() throws Exception {
    // helper class to decode a "validFor" bitset
    class Bitset { byte[] data; }

    public Bitset(byte[] data) { this.data = data == null ? new byte[0] : data; }

    public boolean testBit(int n) { return (data[n >> 3] & (0x80 >> n % 8)) != 0; }

    public int size() { return data.length * 8; } }

    DescribeSObjectResult describeSObjectResult = binding.describeSObject("Case");
    Field[] fields = describeSObjectResult.getFields(); // create a map of all fields for later lookup
    Map fieldMap = new HashMap();
    for (int i = 0; i < fields.length; i++) {
        fieldMap.put(fields[i].getName(), fields[i]);
    }
    for (int i = 0; i < fields.length; i++) {
        // check whether this is a dependent picklist if (fields[i].getDependentPicklist()) {
        // get the controller by name
        Field controller =
            (Field) fieldMap.get(fields[i].getControllerName());
        System.out.println("Field '" + fields[i].getLabel() + "' depends on '" + controller.getLabel() + "'");
        PicklistEntry[] picklistValues = fields[i].getPicklistValues();
        for (int j = 0; j < picklistValues.length; j++) {
            // for each PicklistEntry: list all controlling values for which it is valid
            System.out.println("Item: '" + picklistValues[j].getLabel() + "' is valid for:");
            Bitset validFor = new Bitset(picklistValues[j].getValidFor());
            if ("picklist".equals(controller.getType().getValue())) {
                // if the controller is a picklist, list all // controlling values for which this entry is valid for
                for (int k = 0; k < validFor.size(); k++) {
                    if (validFor.testBit(k)) {
                        // if bit k is set, this entry is valid for the // controlling entry at index k
                        System.out.println(controller.getPicklistValues()[k].getLabel());
                    }
                }
            } else if ("boolean".equals(controller.getType().getValue())) {
                // the controller is a checkbox // if bit 1 is set this entry is valid if the controller is checked if (validFor.testBit(1))
                System.out.println("checked");
            } else if ("checkbox".equals(controller.getType().getValue())) {
                // if bit 0 is set this entry is valid if the controller is not checked if (validFor.testBit(0))
                System.out.println("unchecked");
            }
        }
    }
}
```

#### RecordTypeInfo

古い `RecordTypeMapping` オブジェクトのベースクラスです。このオブジェクトには、`layoutId` と `picklistForRecordType` 以外の `RecordtypeMapping` のすべての既存項目が含まれています。

名前	型	説明
available	boolean	このレコードタイプが利用可能かどうかを示します (利用可能な場合は <code>true</code> 、そうでない場合は <code>false</code> )。利用可能かどうかという情報は、新しいレコードの作成時に利用可能なレコードタイプの一覧をユーザに表示するのに使用します。
defaultRecordTypeMapping	boolean	デフォルトのレコードタイプの対応付けかどうかを示します (デフォルトの場合は <code>true</code> 、そうでない場合は <code>false</code> )。
name	string	レコードタイプの名前。
recordTypeId	ID	レコードタイプの ID。

## describeSoftphoneLayout()

Salesforce CRM Call Center SoftPhone のレイアウト情報を取得します。

### 構文

```
DescribeSoftphoneLayoutResult[] = binding.describeSoftphoneLayout();
```

### 使用方法

ソフトフォンレイアウト情報の取得にこのコールを使用します。Salesforce CRM Call Center のコンテキストでのみ使用し、クライアントプログラムから直接コールしないでください。

### 引数

このコールはオブジェクトを取りません。

### レスポンス

レスポンスは `DescribeSoftphoneLayoutResult` オブジェクトです。

名前	型	説明
<code>CallType</code>	string	許可された各通話種別と関連付けられた属性のセット。通話種別は、着信、発信、および内線通話のいずれかとなります。
<code>id</code>	ID	レイアウトの ID。レイアウトオブジェクトは API からは公開されないことにご注意ください。
<code>name</code>	string	通話種別名。着信、発信、および内線通話のいずれかとなります。

### `CallType`

各 `describeSoftphoneLayoutResult` オブジェクトは 1 つ以上の通話種別を含みます。

名前	型	説明
infoFields (1つ以上 name の場合もあり)		ソフトフォンレイアウトの中で Salesforce.com オブジェクトに対応しない情報項目の名前。たとえば、通話者 ID は情報項目で指定することができます。情報項目には通話種別の静的情報が格納されます。
name	string	レイアウトの名前。
Sections	string	ソフトフォンレイアウトのオブジェクト名と対応するアイテム名のセットで、通話種別あたり各オブジェクトに 1 つのセクションが存在します。

## セクション

describeSoftphoneLayoutResult オブジェクトで返される各通話種別は、通話種別あたりに 1 つのセクションを含みます。各セクションには、オブジェクトとアイテムのペアが含まれます。

名前	型	説明
entityApiName	string	取引先とケースのセットなど、ソフトフォンレイアウトに表示されるアイテムに対応する Salesforce.com アプリケーションのオブジェクト名。
itemApiName	string	取引先など、ソフトフォンレイアウトに表示されるアイテムに対応する Salesforce.com アプリケーションのレコード名。

## サンプルコード—C#

```
/// Demonstrates how to retrieve the layout information /// for a Salesforce CRM Call Center
SoftPhone public void DescribeSoftphoneLayoutSample() { try { DescribeSoftphoneLayoutResult
dsplResult = binding.describeSoftphoneLayout();

// Display the ID and Name of the layout Console.WriteLine("ID of retrieved Softphone layout:
{0}", dsplResult.id); Console.WriteLine("Name of retrieved Softphone layout: {0}",
dsplResult.name);

// Display the contents of each Call Type Console.WriteLine("\nContains following Call Type
Layouts\n"); foreach (DescribeSoftphoneLayoutCallType dsplCallType in dsplResult.callTypes)
{ Console.WriteLine("Layout for {0} calls", dsplCallType.name);

// Display the call-related fields contained in the call type
Console.WriteLine("\tCall-related fields:"); foreach (DescribeSoftphoneLayoutInfoField
dsplInfoField in dsplCallType.infoFields) { Console.WriteLine("\t\t{0}", dsplInfoField.name);
}

// Display the objects that are included in the layout Console.WriteLine("\tDisplayed
Objects:"); foreach (DescribeSoftphoneLayoutSection dsplSection in dsplCallType.sections)
{ Console.WriteLine("\t\tFor entity {0} following records are displayed:",
dsplSection.entityApiName); foreach (DescribeSoftphoneLayoutItem dsplItem in
dsplSection.items) { Console.WriteLine("\t\t\t{0}", dsplItem.itemApiName); } } } } catch
(SoapException e) { Console.WriteLine(e.Message); Console.WriteLine(e.StackTrace);
Console.WriteLine(e.InnerException); } }
```

## describeTabs()

describeTabs コールは、ログインしているユーザが利用可能な標準アプリケーションとカスタムアプリケーションの情報を返します。アプリケーションとは、タブのグループのことです。たとえば、Salesforce.com の 2 つの標準アプリケーションには「セールス」と「サポート管理」があります。

### 構文

```
describeTabSetResult [] = binding.describeTabs();
```

### 使用方法

ログインしているユーザがアクセスできる標準アプリケーションとカスタムアプリケーションの情報を取得するのに、`describeTabs()` コールを使用します。describeTabs コールは、アプリケーションを別のユーザインターフェースで表示するのに必要な最小限のメタデータを返します。通常このコールは、Salesforce.com データを別のユーザインターフェースで表示するためにパートナーアプリケーションからコールされます。

Salesforce.com ユーザインターフェースでは、ページ上部の Force.com アプリケーションメニューに示されているとおり、ユーザは標準的なアプリケーションへのアクセス権があります（カスタムアプリケーションへのアクセス権があることもあります）。メニューでアプリケーション名を選択すると、表示されるアプリケーションをいつでも切り替えることができます。

コールを実行すると、各アプリケーションのアプリケーション名、ロゴの URL、ユーザの現在選択されているアプリケーションかどうか、そのアプリケーションに含まれているタブの詳細を返します。

コールを実行すると、各アプリケーションのタブ名、タブに表示されるプライマリ `sObject` カスタムタブかどうか、タブを表示するための URL を返します。「すべてのタブ」タブはタブリストには決して含まれないことにご注意ください。

### コード例—Java

```
private void describeTabSet () { try { DescribeTabSetResult[] dtsrs = binding.describeTabs(); System.out.println("There are " + dtsrs.length + " tabs defined."); for (int i=0;i<dtsrs.length;i++) { System.out.println("Tabset " + (i+1) + ":" ); DescribeTabSetResult dtsr = dtsrs[i]; String tabsetLabel = dtsr.getLabel(); String logoUrl = dtsr.getLogoUrl(); boolean isSelected = dtsr.isSelected(); DescribeTab[] tabs = dtsr.getTabs(); System.out.println("Label is " + tabsetLabel + " logo url is " + logoUrl + ", there are " + tabs.length + " tabs defined in this set." + " This tab is selected: " + isSelected); for (int j=0;j<tabs.length;j++) { DescribeTab tab = tabs[j]; String tabLabel = tab.getLabel(); String objectName = tab.getSobjectName(); String tabUrl = tab.getUrl(); System.out.println("\tTab " + j + ":" + "\n\t\tLabel = " + tabLabel + "\n\t\tObject details on tab: " + objectName + "\n\t\tUrl to tab: " + tabUrl); } } } catch (Exception ex) { System.out.println("\nFailed to describe tabs, error message was: \n" + ex.getMessage()); } }
```

### コード例—C#

```
private void describeTabsSample() { sforce.DescribeTabSetResult[] dtsrs = binding.describeTabs(); Console.WriteLine("There are " + dtsrs.Length.ToString() + " tabs defined."); for (int i=0;i<dtsrs.Length;i++) { Console.WriteLine("Tabset " + (i + 1).ToString() + ":" ); sforce.DescribeTabSetResult dtsr = dtsrs[i]; String tabsetLabel = dtsr.label; String logoUrl = dtsr.logoUrl; bool isSelected = dtsr.selected; DescribeTab[] tabs = dtsr.tabs; Console.WriteLine("Label is " + tabsetLabel + " logo url is " + logoUrl + ", there are " + tabs.Length.ToString() + " tabs defined in this set."); for (int
```

```
j=0;j<tabs.Length;j++) { sf.force.DescribeTab tab = tabs[j]; String tabLabel = tab.label;
String objectName = tab.sObjectName; String tabUrl = tab.url; Console.WriteLine("\tTab " +
(j + 1).ToString() + ": \n\t\tLabel = " + tabLabel + "\n\t\tObject details on tab: " +
objectName + "\n\t\t" + "Url to tab: " + tabUrl); } }
```

引数

なし。

レスポンス

[describeTabSetResult](#), [describeTab](#)

## describeTabSetResult

[describeTabs\(\)](#) コールは `DescribeTabSetResult` オブジェクトの配列を返します。このオブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
label	<a href="#">string</a>	この標準アプリケーションまたはカスタムアプリケーションの表示ラベル。この値は、Salesforce.com ユーザインターフェースで名前を変更する場合に変わります。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。
logoUrl	<a href="#">string</a>	関連付けられている標準アプリケーションまたはカスタムアプリケーションのロゴ画像への完全修飾 URL。
namespace	<a href="#">string</a>	カスタムアプリケーションで、カスタムアプリケーション内のタブのセットが管理パッケージの一部としてインストールされている場合、Developer Edition 組織が管理パッケージの公開を許可したときにパッケージ作成者が設定した値が、この属性の値となります。この属性は、Force.com AppExchange パッケージの要素を識別します。
selected	<a href="#">boolean</a>	<code>true</code> の場合、この標準アプリケーションまたはカスタムアプリケーションがユーザの現在の選択されたアプリケーションとなります。
タブ	<a href="#">describeTab</a>	標準アプリケーションまたはカスタムアプリケーションで表示されたタブの配列。

## describeTab

[describeTabs\(\)](#) コールは `describeTabSetResult` オブジェクトの配列を返します。このオブジェクトには `describeTab` のプロパティがあります。

名前	型	説明
custom	<a href="#">boolean</a>	カスタムタブの場合は <code>true</code> 、標準タブの場合は <code>false</code> となります。
iconUrl	<a href="#">string</a>	タブのメインの 32x32 ピクセルのアイコンの URL。アイコンは、ほとんどのページの上部のヘッダーの横に表示されます。
label	<a href="#">string</a>	このタブに表示されるラベル。

名前	型	説明
miniIconUrl	string	タブを表す 16x16 ピクセルのアイコンの URL。このアイコンは、関連リストなどに表示されます。
sObjectName	string	このタブに主に表示される <a href="#">sObject</a> の名前 (特定の SObject を表示するタブ)。オブジェクトのリストは、 <a href="#">「標準オブジェクト」</a> を参照してください。
url	string	このタブを表示するための完全修飾 URL。

# 第 11 章

## ユーティリティコール

ここでは、クライアントアプリケーションがシステムのタイムスタンプ、ユーザ情報を取得し、ユーザのパスワードを変更するために呼び出すことができる API コールについて説明しています。



メモ: 一般的な API コールのリストは、「[主要なコール](#)」を参照してください。describe コールのリストは、「[Describe コール](#)」を参照してください。

次は、このトピックで説明されている API ユーティリティコールの一覧表です。

タスク/コール	説明
<code>getServerTimestamp()</code>	API の現在のシステムタイムスタンプを取得します。
<code>getUserInfo()</code>	現在のセッションに関連するユーザの個人情報を取得します。
<code>resetPassword()</code>	ユーザのパスワードをシステムで生成された値に変更します。
<code>sendEmail()</code>	電子メールメッセージをすぐに送信します。
<code>setPassword()</code>	指定されたユーザのパスワードを指定された値に設定します。

### `getServerTimestamp()`

API からシステムの現在のタイムスタンプ (協定世界時 (UTC)) を取得します。

#### 構文

```
GetServerTimestampResult timestamp = binding.getServerTimestamp();
```

#### 使用方法

API からシステムの現在のタイムスタンプを取得するには、`getServerTimestamp()` を使用します。たとえば、タイミングまたはデータ同期のために正確なタイムスタンプが必要な場合に実行します。オブジェクトへの `create()` コールまたは `update()` コールを実行する際、API はシステムのタイムスタンプを使用してオブジェクトの `CreatedDate` および `LastModifiedDate` 項目をそれぞれ更新します。

`getServerTimestamp()` コールはタイムスタンプを常に協定世界時 (UTC) で返します。しかし、ローカルシステムは結果をシステムが属するタイムゾーンの設定に基づき自動的に表示してしまうことがあります。



メモ: 時間データの処理方法は、開発ツールごとに異なります。開発ツールによってはローカル時間を表示するものも、協定世界時(UTC)を表示するものもあります。開発ツールごとの時間の処理方法はツールのドキュメントを参照してください。

#### コード例—Java

```
public void getServerTimestampSample() { // Invoke the getServerTimestamp call and save the results try { Calendar serverTime = binding.getServerTimestamp().getTimestamp(); System.out.println("Server time is: " + serverTime.getTime().toString()); } catch (Exception ex) { System.out.println("An unexpected error has occurred." + ex.getMessage()); } }
```

#### コード例—C#

```
private void getServerTimeStamp() { //Invoke the getServerTimeStamp call and save the results GetServerTimestampResult ts = binding.getServerTimestamp(); // Write the server timestamp to the diagnostics window System.Diagnostics.Trace.WriteLine(ts.timestamp.ToUniversalTime); }
```

引数

なし。

レスポンス

[getServerTimestampResult](#)

エラー

[UnexpectedErrorFault](#)

### getServerTimestampResult

[getServerTimestamp\(\)](#) コールが返す [GetServerTimestampResult](#) オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
timestamp	dateTime	<a href="#">getServerTimestamp()</a> コールが実行されたときの API のシステムタイムスタンプ。

### getUserInfo()

現在のセッションに関連付けられたユーザの個人情報を取得します。

構文

```
getUserInfoResult result = binding.getUserInfo();
```

## 使用方法

現在ログインしているユーザの個人情報を取得するには、[getUserInfo\(\)](#) を使用します。この便利な API コールは、クライアントアプリケーションで表示や通貨計算などを行うための一般的なプロファイル情報を取得し、まとめます。

[getUserInfo\(\)](#) は、クライアントアプリケーションがログインしたユーザ名にのみ適用されます。[getUserInfoResult](#) オブジェクトでは見つからないその他の個人情報を取得するには、[User](#) オブジェクトに対して [retrieve\(\)](#) を実行し、このコールで返された [userID](#) を渡します。他のユーザの個人情報を取得するには、[retrieve\(\)](#) をコールするか(ユーザ ID が分かっている場合)、[User](#) オブジェクトに対して [query\(\)](#) コールを実行します。

## コード例—Java

```
public void getUserInfoSample() { GetUserInfoResult getUserInfoResult = null; try { // Invoke the getUserInfo call getUserInfoResult = binding.getUserInfo(); // Display the returned user information System.out.println("User's currency symbol: " + getUserInfoResult.getCurrencySymbol()); System.out.println("User's organization name: " + getUserInfoResult.getOrganizationName()); System.out.println("User's default currency code: " + getUserInfoResult.getUserDefaultCurrencyIsoCode()); System.out.println("User's email: " + getUserInfoResult.getUserEmail()); System.out.println("User's full name: " + getUserInfoResult.getUserFullName()); System.out.println("User's user id: " + getUserInfoResult.getUserId()); System.out.println("User's language: " + getUserInfoResult.getUserLanguage()); System.out.println("User's locale: " + getUserInfoResult.getUserLocale()); System.out.println("User's timezone: " + getUserInfoResult.getUserTimeZone()); System.out.println("User's org is multi currency: " + getUserInfoResult.isOrganizationMultiCurrency()); } catch (Exception ex) { System.out.println("An unexpected error has occurred." + ex.getMessage()); } }
```

## コード例—C#

```
private void getUserInfo() { //getUserInfo コールを起動し、結果を userInfoResult に保存。
    GetUserInfoResult ui = binding.getUserInfo(); // いくつかのユーザ情報を取得。 String
    orgName = ui.organizationName; String userFullName = ui.userFullName; }
```

## 引数

なし。

## レスポンス

[getuserInfoResult](#)

## エラー

[UnexpectedErrorFault](#)

## getuserInfoResult

[getUserInfo\(\)](#) コールが返す [GetUserInfoResult](#) オブジェクトには次のプロパティがあります。

名前	型	説明
accessibilityMode	boolean	API バージョン 7.0 以降で使用できます。視覚エラー者のためのユーザインターフェースの変更が可能かどうかを示します(可能な

名前	型	説明
		場合は <code>true</code> 、不可能な場合は <code>false</code> )。変更により、JAWS などの画面リーダーを簡単に利用できるようになります。
currencySymbol	string	通貨の値を表示するために使用する通貨記号。 <code>organizationMultiCurrency</code> が <code>false</code> に設定されている場合のみ有効です。
userType	string	ユーザに関連付けられた <a href="#">プロファイル</a> のユーザライセンスの種別。
profileID	ID	現在ユーザに割り当てられているロールに関連付けられた ID。
organizationId	ID	組織の ID。サードパーティ製のツールが Salesforce.com の各組織を一意に識別できます。請求書または組織全体の設定情報の取得に役立ちます。
organizationMultiCurrency	boolean	ユーザの組織が複数の通貨を使用する( <code>true</code> )か使用しない( <code>false</code> )かを示します。
organizationName	string	ユーザの組織または企業の名前。
roleID	ID	現在ユーザに割り当てられているロールの ID。
userDefaultCurrencyIsoCode	string	デフォルトの通貨 ISO コード。 <code>organizationMultiCurrency</code> が <code>true</code> に設定されている場合のみ有効です。ログインしているユーザが、通貨 ISO コードのあるオブジェクトを作成する場合、 <a href="#">create()</a> コールで明示的に指定しなければ API はこの通貨 ISO コードを使用します。
userEmail	string	ユーザの電子メールアドレス。
userFullName	string	ユーザの氏名。
userID	ID	ユーザ ID。
userLanguage	string	ユーザの言語で、アプリケーションに表示されるラベルの言語を制御します。文字列の長さは、2 - 5 文字です。最初の 2 文字は常に、「fr」や[en]などの ISO 言語コードです。値がさらに国別に評価される場合、文字列はアンダースコア(_)に続き、「US」や「UK」などの ISO 国コードが続きます。たとえば、アメリカを示す文字列は「en_US」、カナダのフランス語圏を示す文字列は「fr_CA」です。  Salesforce.com がサポートする言語の一覧は、Salesforce.com オンラインヘルプの「Salesforce.com がサポートする言語」を参照してください。
userLocale	string	ユーザのロケールで、日付の形式や通貨記号の選択を制御します。最初の 2 文字は常に、「fr」や[en]などの ISO 言語コードです。値がさらに国別に評価される場合、文字列はアンダースコア(_)に続き、「US」や「UK」などの ISO 国コードが続きます。たとえば、アメリカを示す文字列は「en_US」、カナダのフランス語圏を示す文字列は「fr_CA」です。

名前	型	説明
userName	string	ユーザのログイン名。
userTimeZone	string	ユーザのタイムゾーン。
userUiSkin	string	API versions 7.0 以降で利用できます。ユーザがオンラインアプリケーションで「Salesforce.com」というラベルを付けられた新しいユーザインターフェーステーマを使用している場合、値 Theme2 を返します。ユーザが「Salesforce.com クラシック」というラベルを付けられた古いユーザインターフェーステーマを使用している場合、値 Theme1 を返します。オンラインアプリケーションでは、このデザイン設定は[設定]▶[カスタマイズ]▶[ユーザインターフェース]で設定できます。「ユーザインターフェースのテーマ」を参照してください。

## resetPassword()

一時的なシステム生成値にユーザパスワードを変更します。

### 構文

```
string password = binding.resetPassword(ID userID);
```

### 使用方法

APIが[User](#) のパスワードまたは[SelfServiceUser](#) を変更する要求をするために、また、ランダムな文字と数字のシステム生成パスワードstringを戻すために、[resetPassword\(\)](#)を使用します。特定値にパスワードを設定したい場合は、[setPassword\(\)](#)を代わりに使用します。

クライアントアプリケーションは、特定ユーザ用のパスワード変更に足るアクセス権限でログインされている必要があります。詳細については、[Factors that Affect Data Access](#)を参照してください。

IDについては、[ID Field Type](#)を参照してください。

### サンプルコード Java

```
public void resetPasswordSample() { // Specify the user ID of the password to reset ID
idToReset = new ID("005x0000000fFLnAAM"); // Invoke the resetPasswordResult call try {
ResetPasswordResult resetPasswordResult = binding.resetPassword(idToReset); // Display the
new server-generated password System.out.println(resetPasswordResult.getPassword()); }
catch (Exception ex) { System.out.println("An unexpected error has occurred."+ex.getMessage()); } }
```

## サンプルコード C#

```
private void resetPassword() { //Invoke resetPassword call and save results in
ResetPasswordResult ResetPasswordResult rpr = binding.resetPassword("userID"); // Get the
generated password System.Diagnostics.Trace.WriteLine(rpr.password); }
```

### 引数

名前	型	説明
userID	ID	UserのID、またはあなたがリセットしたいパスワードのSelfServiceUser。IDについては、 <a href="#">ID Field Type</a> を参照してください。

### レスポンス

名前	型	説明
password	string	APIによって生成された新しいパスワード。このパスワードでユーザがログインすると、そのユーザは新しいパスワードを提供するように求められます。このパスワードは一時的なもので、ユーザが新しいパスワードを設定したら再利用することができないパスワードです。

### エラー

[InvalidIdFault](#)

[UnexpectedErrorFault](#)

## sendEmail()

ただちに、電子メールメッセージを送ります。

### 構文

単一の電子メールメッセージに関して、次のようにになります。

```
SendEmailResult = binding.sendEmail( BaseEmail SingleEmailMessage emails[]);
```

多量の電子メールメッセージに関して、次のようにになります。

```
SendEmailResult = binding.sendEmail( BaseEmail MassEmailMessage emails[]);
```

### 使用方法

個別および一括電子メールを送るために、このコールを、Force.com AppExchangeアプリケーション、カスタムアプリケーション、または他のSalesforce.com外アプリケーションを使用します。電子メールにすべての標準電子メール属性 件名行およびブラインド・カーボン・コピー宛先などを含むことができ、Salesforce.com電子メールテンプレートを使うこと、そして、プレーンテキストまたはHTMLフォーマットで書くことが可能です。HTML電子メールの状態を追跡するためにSalesforce.comが使用可能です。情報には、送信日、最初に開かれた日、最後

に開かれた日、および開かれた回数が含まれます。(詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「HTML 電子メールの追跡」を参照してください。)

ログインユーザの電子メールアドレスは、電子メールヘッダのFrom Address項目に挿入されます。すべての返された電子メールとオフィス外の返信は、ログインユーザに送信されます。バウンスマネージメントが可能な場合、バウンスは、Salesforce.comによって自動的に処理され、適切なレコードが更新されます。そうでない場合、ログインユーザに行きます。



メモ: このコールカウントによって送られるすべての一括電子メールと単一電子メールのメッセージは、送っている組織の1日の大量メッセージ制限に対してカウントされます。組織の1日の大量メッセージ制限に達した時に、すべてのAPIを通ったsendEmail() コールは、却下され、ユーザは、MASS\_MAIL\_LIMIT\_EXCEEDEDエラーコードを受け取ります。しかしながら、アプリケーションを通して送られた単一電子メールメッセージは、まだ許可されます。

このコールを、EmailOptOutオプションを選択した1人以上の受信者に送る電子メールの送信に使正在する場合、コールは、UNKNOWN\_EXCEPTIONを返します。そのような場合は、エラーを報告しないでください。代わりに、受信者を削除するか、管理者にその受信者のオプション選択を外してもらってください。

SingleEmailMessage には、OrgWideEmailAddressIdというオプション項目があります。OrgWideEmailAddress オブジェクトのオブジェクト ID です。OrgWideEmailAddressId が設定されている場合、OrgWideEmailAddress.DisplayName 項目が、ログインユーザの表示名ではなく、電子メールヘッダーに使用されます。ヘッダーの送信電子メールアドレスが、OrgWideEmailAddress.Address で定義された項目にも設定されます。



メモ: OrgWideEmailAddress の DisplayName および senderDisplayName の両方が定義されると、DUPLICATE\_SENDER\_DISPLAY\_NAMEエラーが発生します。

詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「組織のアドレス」を参照してください。

## サンプルコード Java

```
private void sendEmailSample() { byte[] fileBody = new byte[1000000]; EmailFileAttachment[] fileAttachments = new EmailFileAttachment[1]; EmailFileAttachment fileAttachment = new EmailFileAttachment(); fileAttachment.setBody(fileBody); fileAttachment.setFileName("attachment"); fileAttachments[0] = fileAttachment; SingleEmailMessage[] messages = new SingleEmailMessage[1]; messages[0] = new SingleEmailMessage(); messages[0].setBccAddresses(new String[] { "jdoe@acme.com", "jdoe@merce.com" }); messages[0].setCcAddresses(new String[] { "jdoe@gmail.com", "jdoe@salesforce.com" }); messages[0].setBccSender(true); messages[0].setEmailPriority(EmailPriority.High); messages[0].setReplyTo("dcarroll@salesforce.com"); messages[0].setSaveAsActivity(true); messages[0].setSubject("This is how you use the sendEmail call."); // We can also just use an id for an implicit to address messages[0].setTargetObjectId(new ID("003D0000005OV0g")); messages[0].setUseSignature(true); messages[0].setPlainTextBody("This is the humongous body of the message."); messages[0].setFileAttachments(fileAttachments); String[] toAddresses = new String[] { "jdoe@salesforce.com" }; messages[0].setToAddresses(toAddresses);

// Now send the email. try { SendEmailResult[] result = binding.sendEmail(messages); if (result[0].isSuccess()) { System.out.println("The email was sent successfully."); } else { System.out.println("The email failed to send: " + result[0].getErrors(0).getMessage()); } } catch (UnexpectedErrorHandler e) { e.printStackTrace(); } catch (RemoteException e) { e.printStackTrace(); } }
```

## サンプルコード C#

```

/// Demonstrates how to send an email public void SendEmailSample() { // Create the byte
array that needs to be attached to the email.// For demonstration, we're just attaching a
blank array of roughly 1KB.// For a real attachment, the file would need to be loaded into
the byte array. byte[] fileBody = new byte[1000]; EmailFileAttachment[] fileAttachments =
new EmailFileAttachment[1]; EmailFileAttachment fileAttachment = new EmailFileAttachment();
fileAttachment.body = fileBody; fileAttachment.fileName = "Marketing Flyer";
fileAttachments[0] = fileAttachment;

// Create the Email Message SingleEmailMessage[] messages = new SingleEmailMessage[1];
messages[0] = new SingleEmailMessage(); messages[0].bccAddresses = new string[] {
"marketing@mycompany.com", "sales@mycompany.com" }; messages[0].ccAddresses = new string[]
{ "yourboss@yourcompany.com" }; messages[0].bccSender = true; messages[0].emailPriority =
EmailPriority.Normal; messages[0].replyTo = "john.doe@mycompany.com";
messages[0].saveAsActivity = true; messages[0].subject = "Sample email sent via the API";
messages[0].useSignature = true; messages[0].plainTextBody = "Dear Customer,\n\nPlease buy
our products.\n" + "Thanks,\n\nJohn Doe\nMarketing Vice President";
messages[0].fileAttachments = fileAttachments; // We can either set the To Address or just
use an ID of a Contact, // Lead or User for an implicit To Address //
messages[0].targetObjectId("00ID00000FooVsr"); messages[0].toAddresses = new string[] {
"jane.doe@yourcompany.com" };

// Now send the email try { SendEmailResult[] result = binding.sendEmail(messages); if
(result[0].success) { Console.WriteLine("The email was sent successfully"); } else {
Console.WriteLine("The email failed to send: " + result[0].errors[0].message); } } catch
(SoapException e) { Console.WriteLine(e.Message); Console.WriteLine(e.StackTrace);
Console.WriteLine(e.InnerException); } }

```

**BaseEmail**

以下の表は、单一と一括電子メールの両方で使われる引数を含んでいます。



メモ: テンプレートが使用されていない場合、すべての電子メールコンテンツはプレーンテキスト、HTML、またはその両方で書かれている必要があります。

名前	型	説明
bccSender	boolean	<p>送られる電子メールのコピーを、電子メール送信者が受け取るかどうかを示します。一括電子メールに関しては、送信者は最初に送られる電子メールにのみコピーされます。</p> <p> メモ: BCCコンプライアンスオプションが組織レベルに設定されている場合、ユーザはBCCアドレスを標準のメッセージに追加することができません。次のエラーコードが返されます。BCC_NOT_ALLOWED_IF_BCC_COMPLIANCE_ENABLED。BCCコンプライアンスについては、salesforce.com担当営業にお問合せください。</p>
saveAsActivity	boolean	<p>オプション。デフォルト値はtrueで、電子メールはアクティビティとして保存されます。この引数は、受信者リストはtargetObjectIdまたはtargetObjectIdsに基づいている場合のみ適用されます。HTML電子メールのトラッキングがあなたの組織にとって可能な場合、オープンレートの追跡が可能です。</p>

名前	型	説明
useSignature	boolean	そのユーザが設定された署名を持っている場合、電子メールが電子メール署名を含むかどうか示します。デフォルトは、trueで、falseを指定しない限り、ユーザは電子メールに署名を含めます。
emailPriority	picklist	オプション。電子メールの優先度。 <ul style="list-style-type: none"><li>• 最高</li><li>• 高</li><li>• 通常</li><li>• 低</li><li>• 最低</li></ul> デフォルト値は通常です。
replyTo	string	オプション。受信者が返信した場合に、メッセージを受け取る電子メールアドレス。
subject	string	オプション。電子メールの件名行。電子メールテンプレートを使っていて、件名行を無効にしようとしている場合、エラーメッセージが返されます。
templateId	ID	この電子メールを作成するためにメージされるテンプレートのID。
senderDisplayName	string	オプション。電子メールの From 行に表示される名前。SingleEmailMessage の OrgWideEmailAddressId に関連するオブジェクトが DisplayName 項目を定義している場合、設定できません。

### SingleEmailMessage

以下の行には、基本の電子メール引数に加えて、单一電子メールが使う引数が含まれます。

名前	型	説明
bccAddresses	string[]	オプション。ブラインド・カーボン・コピー(BCC)アドレスの配列。最大値は 25 です。テンプレートを使用していない場合のみこの引数を使用できます。  BCCコンプライアンスオプションが組織レベルに設定されている場合、ユーザはBCCアドレスを標準のメッセージに追加することができません。次のエラーコードが返されます。 <a href="#">BCC_NOT_ALLOWED_IF_BCC_COMPLIANCE_ENABLED</a> 。  すべての電子メールは、以下の最低1つの中で受信者の値を持っている必要があります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• toAddresses</li><li>• ccAddresses</li><li>• bccAddresses</li><li>• targetObjectId</li><li>• targetObjectIds</li></ul>

名前	型	説明
ccAddresses	string[]	オプション。カーボン・コピー(CC)アドレスの配列。最大値は 25 です。テンプレートを使用していない場合のみこの引数を使用できます。
charset	string	オプション。電子メール用の文字セット。この値が空値の場合、ユーザのデフォルト値が使われます。
documentAttachments	ID[]	オプション。電子メールに添付したい各DocumentのIDを列記した配列。添付文書の合計が10MBを超えない限り、いくつでも文書を追加できます。
fileAttachments	EmailFileAttachment[]	オプション。あなたが、電子メールに添付したいバイナリとテキストファイルのファイル名を列記している配列。添付ファイルの合計が10MBを超えない限り、いくつでもファイルを追加できます。
htmlBody	string	オプション。電子メールのHTML版(送信者による指定)。組織に関連付けられた仕様に従って、値はエンコードされます。
inReplyTo	string	任意送信電子メールの In-Reply-To 項目。このメールが返信している電子メール(親電子メール)を識別します。親電子メールのメッセージIDが含まれています。「 <a href="#">RFC2822 - インターネットメッセージ形式</a> 」を参照してください。
orgWideEmailAddressId	ID	任意送信電子メールに関連付けられている OrgWideEmailAddress のオブジェクト ID。OrgWideEmailAddress。DisplayName は、senderDisplayName 項目がすでに設定されている場合は設定できません。
plainTextBody	string	オプション。電子メールのテキスト版(送信者による指定)。
references	string	任意送信電子メールの References 項目。電子メールのスレッドを識別します。親電子メールのMessage-ID 項目および References 項目、および場合によっては In-Reply-To 項目が含まれています。「 <a href="#">RFC2822 - インターネットメッセージ形式</a> 」を参照してください。
targetObjectId	ID	オプション。取引先責任者、リード、または電子メールの送信先ユーザのオブジェクトID。あなたが入力するオブジェクトIDはコンテキストを設定し、テンプレート内のマージ項目が正しいデータを含んでいると保証します。 Email Opt Outオプションが選択されたレコードのオブジェクトIDを入力しないでください。

名前	型	説明
		<p>すべての電子メールは、以下の最低1つの中で受信者の値を持っている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• toAddresses</li> <li>• ccAddresses</li> <li>• bccAddresses</li> <li>• targetObjectId</li> <li>• targetObjectIds</li> </ul>
toAddresses	string[]	<p>オプション。あなたがEメールを送っている電子メールアドレスの配列。最大値は100です。テンプレートを使用していない場合のみこの引数を使用できます。</p> <p>すべての電子メールは、以下の最低1つの中で受信者の値を持っている必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• toAddresses</li> <li>• ccAddresses</li> <li>• bccAddresses</li> <li>• targetObjectId</li> <li>• targetObjectIds</li> </ul>
whatId	ID	<p>オプション。targetObjectId項目用のと取引先責任者を指定する場合、whatIdも指定可能です。これは、テンプレート内のマージ項目が正しいデータを含むことをさらに保証することに役立ちます。値は、次のタイプのいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 取引先</li> <li>• 納入商品</li> <li>• キャンペーン</li> <li>• ケース</li> <li>• 契約</li> <li>• 商談</li> <li>• 注文</li> <li>• 商品</li> <li>• ソリューション</li> <li>• カスタム</li> </ul>

### MassEmailMessage

以下の行には、基本の電子メール引数に加えて、一括電子メールが使う引数が含まれます。

名前	型	説明
description	string	一括電子メールキーでオブジェクトを識別するために内部で使用する値。

名前	型	説明
targetObjectIds	ID[]	<p>取引先責任者、リード、または電子メールの送信先ユーザーのオブジェクトIDの配列。あなたが入力するオブジェクトIDはコンテキストを設定し、テンプレート内のマージ項目が正しいデータを含んでいると保証します。オブジェクトは同じタイプ(すべての取引先責任者、すべてのリード、またはすべてのユーザー)である必要があります。1件の電子メールあたり最高250までIDをリストすることができます。targetObjectIds項目の値を指定した場合、ユーザ、取引先責任者、またはリードを設定するためと同様に、任意にwhatIdを指定することができます。これは、テンプレート内のマージ項目が正しいデータを含んでいると保証します。</p> <p>Email Opt Outオプションが選択されたレコードのオブジェクトIDを入力しないでください。</p> <p>すべての電子メールは、以下の最低1つの中で受信者の値を持つ必要があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• toAddresses</li> <li>• ccAddresses</li> <li>• bccAddresses</li> <li>• targetObjectId</li> <li>• targetObjectIds</li> </ul>
whatIds	ID[]	<p>オプション。targetObjectIds項目用の取引先責任者の配列を指定する場合、whatIdの配列も指定可能です。これは、テンプレート内のマージ項目が正しいデータを含むことをさらに保証することに役立ちます。値は、次のタイプのいずれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 契約</li> <li>• ケース</li> <li>• 商談</li> <li>• 商品</li> </ul> <p>whatIdsを指定した場合、targetObjectIdごとに1つ指定します。それ以外の場合、INVALID_ID_FIELDエラーが発生します。</p>

### EmailFileAttachment

以下の表は、documentAttachments引数を使って渡されるドキュメントの存在とは対照的に、要求の一部として渡される添付ファイルを指定するためにSingleEmailMessageオブジェクト内でEmailFileAttachmentが使う引数を示しています。

プロパティ	型	説明
body	base64	添付ファイル自身。
contentType	string	任意添付ファイルのコンテンツタイプ。
fileName	string	添付するファイルの名前。

プロパティ	型	説明
inline	boolean	任意Content-Dispositionsがインラインか(true)添付ファイルか(false)を示します。インラインコンテンツは、メッセージ表示時にユーザに表示されます。添付ファイルコンテンツは、ユーザのアクションを表示します。

レスポンス

**SendEmailResult**

エラー

[BCC\\_NOT\\_ALLOWED\\_IF\\_BCC\\_COMPLIANCE\\_ENABLED](#)  
[BCC\\_SELF\\_NOT\\_ALLOWED\\_IF\\_BCC\\_COMPLIANCE\\_ENABLED](#)  
[DUPLICATE\\_SENDER\\_DISPLAY\\_NAME](#)  
[EMAIL\\_NOT\\_PROCESSED\\_DUE\\_TO\\_PRIOR\\_ERROR](#)  
[ERROR\\_IN\\_MAILER](#)  
[INSUFFICIENT\\_ACCESS\\_ON\\_CROSS\\_REFERENCE\\_ENTITY](#)  
[INVALID\\_CONTENT\\_TYPE](#)  
[INVALID\\_EMAIL\\_ADDRESS](#)  
[INVALID\\_ID\\_FIELD](#)  
[INVALID\\_MESSAGE\\_ID\\_REFERENCE](#)  
[INVALID\\_SAVE\\_AS\\_ACTIVITY\\_FLAG](#)  
[LIMIT\\_EXCEEDED](#)  
[MALFORMED\\_ID](#)  
[MASS\\_MAIL\\_LIMIT\\_EXCEEDED](#)  
[NO\\_MASS\\_MAIL\\_PERMISSION](#)  
[REQUIRED\\_FIELD\\_MISSING](#)  
[TEMPLATE\\_NOT\\_ACTIVE](#)  
[UNVERIFIED\\_SENDER\\_ADDRESS](#)

**SendEmailResult**

`sendEmail()` コールは、SendEmailResultオブジェクトのリストを返します。各SendEmailResultオブジェクトには、以下のプロパティがあります。

名前	型	説明
success	boolean	電子メールが、メッセージトランスマーケットによって、配信のために正常に受け取られた(true)か受け取られなかった(false)かを示します。success = trueの場合であっても、電子メールがスパムブロッカーによって拒否されたかブロックされた可能性があるので、

名前	型	説明
		相手の受信者がその電子メールを受け取ったわけではありません。また、電子メールが、メッセージトランスマネージャによって、配信のために正常に受け取られた場合でさえ、電子メール内の個別アドレスに関連したエラー配列内にエラーがある場合があります。
SendEmailError Error[]		<code>sendEmail()</code> コールの最中にエラーが発生した場合、SendEmailError オブジェクトが返されます。

### SendEmailError

SendEmailError には、以下の属性があります。

名前	型	説明
項目	Field[]	将来の使用のための予備。1つ以上の項目名の配列。存在する場合、エラー状態によって影響されたオブジェクト内の項目を判別します。
Message	string	エラーメッセージテキスト。
StatusCode	StatusCode	エラーを特徴付けるコード。ステータスコードの完全なリストは、 <a href="#">組織の WSDL ファイル</a> (ページ 13)から入手できます。
TargetObjectId	ID	エラー発生先のターゲットのオブジェクトID。



メモ: 単一の電子メールを送るために `sendEmail()` を使う場合、SendEmailResult内のエラーは、電子メールがまったく送られなかったことを示します。一括電子メールを送るために `sendEmail()` を使う場合は、SendEmailResultには複数のエラーが含まれることがあります。`sendEmail()` が1箇所以上に電子メールを送信することを防ぐためにエラーが発生した場合、そのTargetObjectIdは、それぞれSendEmailResult内に関連エラーを持っています。SendEmailResult内に関連付けられたエラーを持たないTargetObjectIdは、電子メールがターゲットに送られたことを示します。SendEmailResultが、関連付けられたTargetObjectIdを持たないエラーを持っている場合、どの電子メールも送られていません。

次は、一連のエラーの解析方法の例です。

```
Messaging.SingleEmailMessage email = new Messaging.SingleEmailMessage();
email.setToAddresses(new String[] { 'admin@acme.com' });
email.setSubject('my subject');
email.setPlainTextBody('plain text body');
List<Messaging.SendEmailResult> results =
Messaging.sendEmail(new Messaging.Email[] { email });
if (!results.get(0).isSuccess()) {
    System.StatusCode statusCode = results.get(0).getErrors()[0].getStatusCode();
    String errorMessage = results.get(0).getErrors()[0].getMessage();
}
```

### setPassword()

指定されたユーザのパスワードを指定された値に設定します。

## 構文

```
SetPasswordResult setPasswordResult = binding.setPassword(ID userID, string password);
```

## 使用方法

UserのパスワードまたはSelfServiceUserを指定の値に変更するには、[setPassword\(\)](#)を使用します。たとえば、クライアントアプリケーションは、ユーザに異なるパスワードを指定するように求め、ユーザのパスワード変更のために[setPassword\(\)](#)を呼び出す場合があります。APIによって生成されたランダム値にパスワードをリセットしたい場合は、代わりに、[resetPassword\(\)](#)を使用します。

クライアントアプリケーションは、特定ユーザ用のパスワード変更に足るアクセス権限でログインされている必要があります。詳細については、[Factors that Affect Data Access](#)を参照してください。

IDについては、[ID Field Type](#)を参照してください。

パスワードが失効していた場合、このコールは、[LoginResult](#)内で返されたセッションIDを使用可能です。詳細は、[passwordExpired](#)を参照してください。

## サンプルコード Java

```
public void setPasswordSample() { // Specify the userID and new password ID idToReset =  
new ID("005x0000000fFLnAAM"); String newPassword = "password"; try { // Invoke the setPassword  
call SetPasswordResult setPasswordResult = binding.setPassword(idToReset, newPassword);  
// If the call fails, an exception is raised; otherwise, the return is empty.} catch  
(Exception ex) { System.out.println("An unexpected error has occurred." + ex.getMessage());  
} }
```

## サンプルコード C#

```
private void setPassword() { //Invoke setPassword call; returns nothing if successful  
binding.setPassword("userid", "newpassword"); }
```

## 引数

名前	型	説明
userID	ID	UserのID、またはあなたがリセットしたいパスワードのSelfServiceUser。IDについては、 <a href="#">ID Field Type</a> を参照してください。
password	string	指定されたユーザのために使われる新しいパスワード。

## レスポンス

なし。

## エラー

[InvalidIdFault](#)

[UnexpectedErrorFault](#)

## 第 12 章

### SOAP ヘッダー

API は、クライアントアプリケーションに SOAP ヘッダーを提供します。これらのヘッダーはすべてエンタープライズ WSDL ファイルおよびパートナー WSDL ファイルの両方で使用できます。

タスク/コール	説明
<a href="#">AllowFieldTruncationHeader</a>	API バージョン 15.0 以降のいくつかの項目データ型に切り捨て動作を指定します。
<a href="#">AssignmentRuleHeader</a>	取引先、ケース、またはリードを作成または更新する場合に使用する割り当てルールを指定します。
<a href="#">CallOptions</a>	API 要求のコールオプションを指定します。
<a href="#">EmailHeader</a>	要求が処理されるときに電子メール情報を送信します。Salesforce.com ユーザインターフェースと同等の機能を提供します。
<a href="#">LocaleOptions</a>	返されるラベルの言語を指定します。de_DE または en_GB など、値は有効なユーザロケール(言語および国)である必要があります。ロケールの詳細は、「CategoryNodeLocalization オブジェクトの <a href="#">Language</a> 項目」を参照してください。
<a href="#">LoginScopeHeader</a>	組織 ID を指定し、 <code>login()</code> コールを使用して組織のセルフサービスユーザを認証できるようにします。
<a href="#">MruHeader</a>	最近使用した項目のリストを更新する ( <code>true</code> ) か更新しない ( <code>false</code> ) かを示します。
<a href="#">PackageVersionHeader</a>	API バージョン 16.0 以降で、インストールされた管理パッケージのパッケージバージョンを指定します。
<a href="#">QueryOptions</a>	クエリ結果のバッチサイズを指定します。
<a href="#">SessionHeader</a>	<code>login()</code> が正常に行われた後にログインサーバから返される、セッション ID を指定します。
<a href="#">UserTerritoryDeleteHeader</a>	現在の所有者がテリトリーから削除された場合に進行中の商談が割り当たるユーザを指定します。

## AllowFieldTruncationHeader

AllowFieldTruncationHeader ヘッダーは、文字列を含む次の項目データ型の切り捨て動作を指定します。

- anyType、このリストのその他のデータ型のいずれかを示す場合
- 電子メール
- encryptedstring
- mulitpicklist
- phone
- picklist
- string
- textarea

バージョン 15.0 より前の API では、一覧表示されたデータ型の 1 つである項目に値を指定し、その値が大きすぎる場合、値は切り捨てられます。API バージョン 15.0 以降では、大きすぎる値が指定されると、操作は失敗し、失敗コード STRING\_TOO\_LONG が返されます。AllowFieldTruncationHeader ヘッダーを使用すると、API バージョン 15.0 以降の新しい動作ではなく、以前の動作である切り取りを使用するように指定できます。このヘッダーはバージョン 14.0 以前の製品には無効です。

### API コール

`convertLead()`、`create()`、`merge()`、`process()`、`undelete()`、`update()`、および `upsert()`

Apex: `executeanonymous()`

### 項目

要素名	型	説明
allowFieldTruncation	boolean	<p><code>true</code> の場合、長すぎる項目値を切り捨てます。これは API バージョン 14.0 以前の動作です。</p> <p>デフォルトは <code>false</code> です。変更は行われません。<code>string</code> 値および <code>textarea</code> が大きすぎる場合、操作は失敗し、失敗コード STRING_TOO_LONG が返されます。</p> <p>次のリストには、切り捨ておよびこのヘッダーの影響を受ける項目のデータ型を示しています。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• anyType、このリストのその他のデータ型のいずれかを示す場合</li><li>• 電子メール</li><li>• encryptedstring</li><li>• mulitpicklist</li><li>• phone</li><li>• picklist</li><li>• string</li><li>• textarea</li></ul>

## サンプル

```
public void allowFieldTruncationSample() throws InvalidSObjectFault, InvalidFieldFault, InvalidIdFault, UnexpectedErrorFault, RemoteException { Account account = new Account(); // 256 文字の文字列を作成Account.Name's limit // 255 文字。String accName = ""; for (int i = 0; i < 256; i++) { accName += "a"; } account.setName(accName); // 取引先を保持する sObjects の配列を作成。 SObject[] sObjects = new SObject[1]; sObjects[0] = account; // 取引先を作成。15.0 以上で失敗。 // 取引先名が長すぎるため。SaveResult[] results = binding.create(sObjects); System.out.println("The call failed because: " + results[0].getErrors(0).getMessage()); // SOAP ヘッダーを設定して項目切り捨てを許可。 AllowFieldTruncationHeader afth = new AllowFieldTruncationHeader(); afth.setAllowFieldTruncation(true); binding.setHeader(new SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(), "AllowFieldTruncationHeader", afth); // 取引先の作成を試行。 results = binding.create(sObjects); System.out.println("The call: " + results[0].isSuccess()); }
```

## AssignmentRuleHeader

AssignmentRuleHeader を、指定された割り当てルールの [ケース](#) または [リード](#) の `create()` または `update()` コールに指定する必要があります。また、適用されるテリトリリー割り当てルールの [取引先](#) の `update()` コールに指定する必要があります。

### API コール

`create()`, `merge()`, `update()`, `upsert()`

### 項目

要素名	種類	説明
assignmentRuleId	ID	Case または Lead を実行するための特定の割り当てルールの ID。割り当てルールを有効または無効にできます。ID は、AssignmentRule オブジェクトを問い合わせて取得することができます。assignmentRuleId が指定されている場合は、useDefaultRule を指定しないでください。すべてのテリトリールールが適用されているため、取引先についてこの要素は無視されます。 値が適切な ID 形式 (15 文字または 18 文字の Salesforce.com ID) でない場合、コールは失敗し、MALFORMED_ID 例外が返されます。

要素名	種類	説明
useDefaultRule	boolean	ケースまたはリードについて true の場合、ケースまたはリードのデフォルトの(有効な)割り当てルールを使用します。useDefaultRule が指定されている場合は、assignmentRuleId を指定しないでください。取引先について true の場合、すべての割り当てルールが適用され、false の場合は、テリトリー割り当てルールは適用されません。

### サンプルコード

コードの例については、「リード」を参照してください。

## CallOptions

特定のクライアントで使用する必要があるオプションを指定します。このヘッダーは、パートナー WSDL で使用する場合にのみ有効です。

### API コール

defaultNamespace 要素は、`create()`、`merge()`、`queryAll()`、`query()`、`queryMore()`、`retrieve()`、`search()`、`update()`、および`upsert()` のコールをサポートしています。

client 要素は上記のすべてのコールと、`convertLead()`、`login()`、`delete()`、`describeGlobal()`、`describeLayout()`、`describeTabs()`、`describeSObject()`、`describeSObjects()`、`getDeleted()`、`getUpdated()`、`process()`、`undelete()`、`getServerTimestamp()`、`getUserInfo()`、`setPassword()`、および`resetPassword()` のコールをサポートしています。

### 項目

要素名	種類	説明
client	string	クライアントを識別する文字列。
defaultNamespace	string	<p>開発者の名前空間プレフィックスを識別する文字列。この項目を使用して、<code>fieldName</code>をすべての場所で完全に指定することなく、管理パッケージの項目名を解決します。</p> <p>たとえば、開発者名前空間プレフィックスが <code>battle</code> で、<code>botId</code> というパッケージにカスタム項目がある場合、このヘッダーを設定でき、次のような問い合わせが正常に行われます。</p> <pre>query("SELECT id, botId__c from Account");</pre> <p>この場合、実際に問い合わせられる項目は、<code>battle__botId__c</code> 項目です。</p>

要素名	種類	説明
		この項目を使用すると、名前空間プレフィックスを指定せずにクライアントコードを作成することができます。この項目を指定しない場合、クエリを正常に行うには、この項目の完全名を使用する必要があります。上記の例では、battle__botId__c を指定する必要があります。
		この項目が設定され、クエリが名前空間を指定している場合、レスポンスにはプレフィックスは含まれません。たとえば、このヘッダーをbattleに設定し、query("SELECT id, battle__botId__c from Account");のようなクエリを発行すると、レスポンスはbattle__botId__c 要素ではなく、botId__c 要素を使用します。
		Describe コールはこのヘッダーを無視するため、名前空間プレフィックスを持つ項目と、プレフィックスのない同じ名前のカスタマー項目との間に曖昧さはありません。

### サンプルコード—C#

```
/// CallOptions ヘッダーの設定方法を示します。 public void CallOptionsSample() { // インポートされた Partner WSDL への Web 参照。 APISamples.partner.SforceService partnerBinding;
string username = "USERNAME"; string password = "PASSWORD";
// 実際の Client ID は salesforce.com から // パートナーアプリケーションに提供された API トークンです。 // 詳細は、オンラインヘルプの「セキュリティレビューの FAQ」を参照してください。 string clientId =
"SampleCaseSensitiveToken/100";
partnerBinding = new SforceService(); partnerBinding.CallOptionsValue = new CallOptions();
partnerBinding.CallOptionsValue.client = clientId;
// Optionally, if a developer namespace prefix has been registered for // your Developer Edition organization, it may also be specified // string prefix = "battle"; //
partnerBinding.CallOptionsValue.defaultNamespace = prefix;
try { APISamples.partner.LoginResult lr = partnerBinding.login(username, password); } catch
(SoapException e) { Console.WriteLine(e.Code); Console.WriteLine(e.Message); } }
```

## EmailHeader

Salesforce.com ユーザインターフェースを使用して、次のようなイベントが発生した場合に電子メールを送信するかしないかを指定します。

- ケースまたはタスクを新規作成する
- CaseComment を作成する
- ケースの電子メールを取引先責任者に変換する
- 新規ユーザの電子メール通知
- resetPassword() コール

API バージョン 8.0 以降で、電子メールを送信する API 要求も送信できます。

グループイベントとは、`IsGroupEvent` が真であるイベントです。`EventAttendee` オブジェクトは、グループイベントに招待されているユーザ、リード、または取引先責任者を追跡します。API を使用して送信されるグループイベント電子メールの次のような動作に注意してください。

- ・ [ユーザ](#) にグループイベントの招待状を送信する場合、`triggerUserEmail` オプションに関係します。
- ・ [リード](#) または[取引先責任者](#) にグループイベントの招待状を送信する場合、`triggerOtherEmail` オプションに関係します。
- ・ グループイベントの更新または削除時に送信される電子メールは、必要に応じて `triggerUserEmail` および `triggerOtherEmail` に関係します。

## API コール

`create()`, `delete()`, `resetPassword()`, `update()`, `upsert()`

## 項目

要素名	種類	説明
<code>triggerAutoResponseEmail</code>	<code>boolean</code>	リード、ケースに対して自動応答ルールをトリガする( <code>true</code> )かトリガしない( <code>false</code> )かを示します。Salesforce.com ユーザインターフェースで、この電子メールは、ケースの作成やユーザパスワードのリセットなど、さまざまなイベントによって自動的にトリガされます。この値が <code>true</code> に設定されている場合、 <a href="#">ケース</a> が作成されると、 <code>ContactId</code> に指定された取引先責任者の電子メールアドレスがあれば、電子メールはそのアドレスに送信されます。アドレスがない場合、電子メールは <code>SuppliedEmail</code> で指定されたアドレスに送信されます。
<code>triggerOtherEmail</code>	<code>boolean</code>	組織外の電子メールをトリガする( <code>true</code> )か、トリガしない( <code>false</code> )かを示します。Salesforce.com ユーザインターフェースで、この電子メールは、ケースの取引先責任者の作成、編集、削除によって自動的にトリガされます。
<code>triggerUserEmail</code>	<code>boolean</code>	組織内のユーザに送信される電子メールをトリガする( <code>true</code> )か、トリガしない( <code>false</code> )かを示します。Salesforce.com ユーザインターフェースで、この電子メールはパスワードのリセット、ユーザの新規作成、コメントのケースへの追加、タスクの作成または変更など、さまざまなイベントによって自動的にトリガされます。

## 例

次のコールは、ケースが作成された場合に電子メールをトリガします。ケースに自動応答ルールが設定され、電子メールアドレスが `ContactId` で参照される取引先責任者に指定されていると想定しています。

```
public void createCaseWithAutoResponse(String contactId) throws Exception { _EmailHeader  
emailHeader = new EmailHeader(); emailHeader.setTriggerAutoResponseEmail(true);  
binding.setHeader("urn:enterprise.soap.sforce.com", "EmailHeader", emailHeader); _case c =  
new _case(); c.setSubject("Sample Subject"); c.setContactId(new ID(contactId)); SaveResult[]
```

```
sr = binding.create(new SObject[] { c }); // parse sr to see if case was created successfully
}
```

## LocaleOptions

返されるラベルの言語を指定します。

### API コール

`describeSObject()`、`describeSObjects()`

#### 項目

要素名	種類	説明
language	string	返されるラベルの言語を指定します。de_DE または en_GB など、値は有効なユーザロケール（言語および国）である必要があります。ロケールの詳細は、「CategoryNodeLocalization オブジェクトの <code>Language</code> 項目」を参照してください。

#### サンプルコード

LocaleHeader をログインしたユーザのロケールに設定するには次のようにします。

```
public void localeOptionsExample() { LocaleOptions options = new LocaleOptions(); // change en_US to another valid locale to vary the behavior of the describe call
options.setLanguage("en_US"); binding.setHeader( new
SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(), "LocaleOptions", options ); try
{ binding.describeSObject("Account"); } catch (RemoteException e) { System.out.println("An
unexpected error occurred: " + e.getMessage()); } }
```

## LoginScopeHeader

組織 ID を指定し、既存の `login()` コールを使用して組織のセルフサービスユーザを認証できるようにします。

### API コール

`login()`

#### 項目

要素名	種類	説明
organizationId	ID	セルフサービスユーザを認証する組織の ID。

要素名	種類	説明
portalId	ID	<p>カスタマーportalユーザである場合にのみ指定します。この組織のportalのID。IDは、Salesforce.comユーザーインターフェースで使用できます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>[設定]▶[カスタマイズ]▶[カスタマーportal]▶[設定]を選択します。</li> <li>カスタマーportal名を選択すると、[カスタマーportalの詳細]ページに、カスタマーportalのURLが表示されます。portal IDはURLにあります。</li> </ul>

### サンプルコード—C#

```
/// LoginScopeHeader 値の設定方法を示します。 public void LoginScopeHeaderSample() { // インポートされた Partner WSDL への Web 参照。 APISamples.partner.SforceService partnerBinding;
string username = "USERNAME"; string password = "PASSWORD";

// 実際の Client ID は salesforce.com から // パートナーアプリケーションに提供された API トークンです。 詳細は、オンラインヘルプの// 「セキュリティレビューの FAQ」を参照してください。 string clientId =
"SampleCaseSensitiveToken/100";

partnerBinding = new SforceService(); partnerBinding.CallOptionsValue = new CallOptions();
partnerBinding.CallOptionsValue.client = clientId;

// To authenticate Self-Service users we need to set the OrganizationId // in the
LoginScopeHeader string orgId = "00ID0000OrgFoo"; partnerBinding.LoginScopeHeaderValue =
new LoginScopeHeader(); partnerBinding.LoginScopeHeaderValue.organizationId = orgId; // Specify the Portal ID if the user is a Customer Portal user string portalId =
"00ID0000FooPtl"; partnerBinding.LoginScopeHeaderValue.portalId = portalId;

try { APISamples.partner.LoginResult lr = partnerBinding.login(username, password); } catch
(SoapException e) { Console.WriteLine(e.Code); Console.WriteLine(e.Message); } }
```

## MruHeader

API バージョン 7.0 以降では、`create()`、`update()`、および`upsert()` コールは、ヘッダーが使用されていないかぎり、Salesforce.com ユーザインターフェースのサイドバーの最近使ったデータの最近使用した MRU 項目のリストは更新しません。このヘッダーを使用して最新項目リストを更新すると、パフォーマンスに悪影響を及ぼす場合があります。

### API コール

`create()`、`merge()`、`query()`、`retrieve()`、`update()`、`upsert()`

## 項目

要素名	種類	説明
updateMru	boolean	<p>最近使用した項目のリストを更新する (<code>true</code>) か更新しない (<code>false</code>) かを示します。</p> <p><code>retrieve()</code> について、結果に 1 行しかない場合、MRU を <code>retrieve</code> の結果の ID に更新します。</p> <p><code>query()</code> について、結果に 1 行しかなく、ID 項目が選択されている場合、MRU を <code>query</code> の結果の ID に更新します。</p>

## サンプルコード

```
public void mruHeaderSample() { // Make a SOAP MRU Header to be sent on subsequent API calls: _MruHeader mru = new _MruHeader(); mru.setUpdateMru(true); // or false binding.setHeader(new SforceServiceLocator().getserviceName().getNamespaceURI(), "MruHeader", mru); //create an account, updating MRU header Account account = new Account(); account.setName("Bobby User"); try { SaveResult[] saveResults = binding.create(new SObject[]{account}); } catch (RemoteException e) { System.out.println("An unexpected error occurred: " + e.getMessage()); } }
```

## PackageVersionHeader

インストールされた管理パッケージのパッケージバージョンを指定します。パッケージバージョンは、パッケージでアップロードされる一連のコンポーネントです。2.1.3 のように、`majorNumber.minorNumber.patchNumber` という形式のバージョン番号で示されます。`patchNumber` は、パッチが作成された場合にのみ生成されます。`patchNumber` がない場合、0 であるものとします。パッチバージョンは現在、パイロットプログラムで使用できます。組織のパッチバージョンの有効化に関する詳細は、salesforce.com までお問い合わせください。一連のコンポーネントのほか、パッケージバージョンには特定の動作が含まれています。公開者は、パッケージバージョンを使用して、パッケージを使用する既存の連携に影響を与えることなく後続のパッケージバージョンをリリースすることにより、管理パッケージのコンポーネントを発展させることができます。

管理パッケージには、異なる内容および動作のさまざまなバージョンを指定できます。このヘッダーを使用して、API クライアントに参照される各パッケージに使用されるバージョンを指定できます。パッケージのバージョンが指定されていない場合、API クライアントは [設定] ▶ [開発] ▶ [API] の [バージョン設定] で選択されているパッケージのバージョンを使用します。このヘッダーは、API バージョン 16.0 以降で使用できます。

## 関連する API コール

`convertLead()`, `create()`, `delete()`, `describeGlobal()`, `describeLayout()`, `describeSObject()`, `describeSObjects()`, `describeSoftphoneLayout()`, `describeTabs()`, `merge()`, `process()`, `query()`, `retrieve()`, `search()`, `undelete()`, `update()`, `upsert()`

## 項目

要素名	型	説明
packageVersions	PackageVersion[]	この Apex クライアントによって参照される、インストールされた管理パッケージバージョンのリスト。

### PackageVersion

インストールされた管理パッケージのバージョンを指定します。次の項目があります。

項目	型	説明
majorNumber	int	パッケージバージョンのメジャー番号。パッケージバージョンは、2.1 のように、 <code>majorNumber.minorNumber</code> と表されます。
minorNumber	int	パッケージバージョンのマイナー番号。パッケージバージョンは、2.1 のように、 <code>majorNumber.minorNumber</code> と表されます。
namespace	string	管理パッケージの一意の名前空間。

## サンプルコード

次の Java コードサンプルは、SOAP ヘッダーでインストールされたパッケージのパッケージバージョンを設定し、メソッドに渡すコードを実行します。

```
public void PackageVersionHeaderSample(String code) throws Exception { _PackageVersionHeader
    pvh = new _PackageVersionHeader(); PackageVersion pv = new PackageVersion();
    pv.setNamespace("installedPackageNameHere"); pv.setMajorNumber(1); pv.setMinorNumber(0);
    // In this case, we are only referencing one installed package PackageVersion[] pvs = new
    PackageVersion[]{pv}; pvh.setPackageVersions(pvs);

    apexBinding.setHeader(new SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(),
    "PackageVersionHeader", pvh); // execute the code passed into the method
    ExecuteAnonymousResult r = apexBinding.executeAnonymous(code); if (r.isSuccess()) {
        System.out.println("Code executed successfully"); } else { System.out.println("Exception
        message: " + r.getExceptionMessage()); System.out.println("Exception stack trace: " +
        r.getExceptionStackTrace()); } }
```

## QueryOptions

クエリのバッチサイズを指定します。指定されたサイズより大きいまたは小さいバッチを使用して、パフォーマンスを最大限に向上させることができます。

### 関連する API コール

[query\(\)](#)、[queryMore\(\)](#)、[retrieve\(\)](#)

## 項目

要素名	種類	説明
batchSize	int	<p><code>query()</code> コールまたは<code>queryMore()</code> コールで返されるレコード数のバッチサイズ。子オブジェクトは、バッチサイズのレコード数に対してカウントします。たとえば、<code>relationship queries</code> の場合、返される親行ごとに複数の子オブジェクトが返される場合があります。</p> <p>デフォルト値は 500、最小値は 200、最大値は 2,000 です。</p>

## サンプルコード

コードの例は、「[クエリのバッチサイズの変更](#)」を参照してください。

## SessionHeader

`login()` が正常に行われた後にログインサーバから返される、セッションIDを指定します。このセッションIDはすべての後続コールで使用されます。

バージョン 12.0 以降では、このヘッダーに関連する SOAP メッセージに API 名前空間を追加する必要があります。名前空間は、エンタープライズ WSDL またはパートナー WSDL で定義されています。

### API コール

ユーティリティコールを含むすべてのコール。

## 項目

要素名	種類	説明
sessionId	string	<code>login()</code> コールで返され、後続のコール認証に使用されるセッション ID。

## サンプルコード

`login()` に対する例を参照してください。

## UserTerritoryDeleteHeader

現在の所有者がテリトリーから削除された場合に進行中の商談が割り当てられるユーザを指定します。このヘッダーが使用されない場合、またはこの要素の値が`null`の場合、上記のテリトリーに売上予測マネージャーがある場合に商談が転送されます。売上予測マネージャーが存在しない場合、テリトリーから削除されたユーザが商談を保持します。

**API コール**`delete()`

## 項目

要素名	種類	説明
transferToUserId	ID	商談の所有者(ユーザ)がテリトリーから削除されたときに、そのユーザのテリトリーの進行中の商談が割り当てるユーザの ID。

# Salesforce 機能での API の使用

## 第 13 章

### 実装時の検討事項

#### トピック:

- ログインサーバの URL
- ログインサーバへのログインによる開始
- 一般的な API コールシーケンス
- Salesforce.com Sandbox
- Salesforce.com データベースサーバの複数インスタンス
- コンテンツタイプの要件
- API トラフィックの監視
- API 使用率の測定
- 圧縮
- HTTP 永続接続
- HTTP のチャンク
- 国際化と文字コード
- XML 準拠
- .Net、非文字列項目および Enterprise WSDL

統合アプリケーションまたはその他のアプリケーションを作成する前に、この項で説明しているデータ管理、使用制限、通信問題について考慮してください。

## ログインサーバの URL

API の SOAP 実装は、単一のログインサーバを提供します。組織のインスタンスをハードコード化することなく、単一のエントリポイントからどの組織へもログインできます。API から組織にアクセスするには、まず次の URL のログインサーバに [login\(\)](#) 要求を送信し、セッションの認証を受けます。

```
https://login.salesforce.com/services/Soap/c/17.0
```

よりセキュリティの低い URL もサポートしています。

```
http://login.salesforce.com/services/Soap/c/17.0
```

よりセキュリティの低い URL もサポートしていますが、お勧めできません。プロキシサーバ経由でデバッグする場合に役立ちます。

これ以降のセッション中のすべてのコールは、[login\(\)](#) のレスポンスで返された URL に対して実行します。この URL は組織のサーバインスタンスを示しています。

## ログインサーバへのログインによる開始

クライアントアプリケーションは、他のコールを起動する前に [login\(\)](#) コールを起動してログインサーバとのセッションを確立しなければなりません。返されたサーバの URL を次の API 要求のターゲットサーバに設定し、返されたセッション ID を SOAP ヘッダーに設定し次の API 要求のサーバ認証を提供します。詳細は、[login\(\)](#) および 「手順4: コード例の説明」 を参照してください。

Salesforce.com は、クライアントアプリケーションがログインしている IP アドレスを確認し、不明な IP アドレスからのログインをブロックします。API 経由でブロックされたログインに関しては、Salesforce.com がログイン失敗エラーを返します。それから、ログインパスワードにセキュリティトークンを追加する必要があります。セキュリティトークンは Salesforce.com から自動生成されるキーです。たとえば、ユーザのパスワードが mypassword で、セキュリティトークンが XXXXXXXXXXXX の場合、ユーザはログインするために mypasswordXXXXXXXXXX と入力する必要があります。ユーザは、Salesforce.com ユーザインターフェース経由で、自身のパスワードを変更し、セキュリティトークンをリセットすることによって、セキュリティトークンを取得することができます。ユーザがパスワードを変更するか、セキュリティトークンをリセットすると、ユーザの Salesforce.com レコードに指定された電子メールアドレス宛に新しいセキュリティトークンが送信されます。セキュリティトークンは、ユーザがセキュリティトークンをリセットするか、パスワードを変更するか、またはパスワードをリセットするまで有効です。セキュリティトークンが無効である場合、ユーザはこのログインプロセスを再度繰り返してログインしなければなりません。このような状態を発生させないために、管理者は組織の所有する信頼できる IP アドレスの一覧にクライアントの IP アドレスが追加されていることを確認しなければなりません。詳細は、「[セキュリティトークン](#)」 を参照してください。

ログイン後は、API コールを実行できます。それぞれの操作に対し、クライアントアプリケーションは同期要求を API に送信し、レスポンスを待ち、結果を処理します。API は変更されたデータすべてを自動的にコミットします。API コールのリストは、次を参照してください。

- [コアコール](#)
- [ディスクライプコール](#)

- ユーティリティコール

## 一般的な API コールシーケンス

---

各コールに対し、クライアントアプリケーションは一般的に次の処理を行います。

1. パラメータを使用する場合、要求パラメータを定義して要求の準備を行います。
2. 要求とパラメータを Force.com Web サービスに渡し処理するためにコールを起動します。
3. API からのレスポンスを受け取ります。
4. 返されたデータを処理するか(呼び出しが成功した場合)、エラーを処理し(呼び出しが失敗した場合)、レスポンスを処理します。

## Salesforce.com Sandbox

---

Enterprise Edition および Unlimited Edition を使用している場合、Salesforce.com Sandbox にアクセスできます。これは、組織の実際のデータの全部または一部を提供するテスト環境です。Salesforce.com Sandbox の詳細は、[www.salesforce.com/community](http://www.salesforce.com/community) の Salesforce.com Community Web サイトにアクセスするか、顧客サポートにお問い合わせください。

API から組織の Salesforce.com Sandbox にアクセスするには、次の URL からログイン要求を行ってください。

- <https://test.salesforce.com/services/Soap/c/10.0> (enterprise WSDL)
- <https://test.salesforce.com/services/Soap/u/10.0> (partner WSDL)

## Salesforce.com データベースサーバの複数インスタンス

---

Salesforce.com は数多くのデータベースサーバインスタンスを提供しています。通常組織は地理的な地域ごとに分けられていますが、組織はどのインスタンスにも置くことができます。

## コンテンツタイプの要件

---

API バージョン 7.0 以降では、すべての要求には Content-Type: text/xml; charset=utf-8 などの正しいコンテンツタイプの HTTP ヘッダーを含んでいなければなりません。これ以前のバージョンの API ではこの要件は適用されません。

## API トラフィックの監視

---

組織が生成した API 要求の数を確認する方法は、次の 2 通りです。

- すべてのユーザが 24 時間以内に送信された API 要求の数を確認できます。情報を参照するには、[設定]▶[組織プロファイル]▶[組織情報]を選択します。右の列の [API 要求数(この 24 時間以内)] を参照します。
- ユーザが「すべてのデータの編集」権限を持つ場合、7 日以内に送信された API 要求のレポートを参照できます。情報を参照するには、[レポート]タブをクリックし、[管理レポート]セクションにスクロールして[過去 7 日間の API 使用状況]リンクをクリックします。[集計情報:] ドロップダウンリストにある任意の項目でレポートを並び替えることができます。レポートの並び替え、絞り込み、カスタマイズの詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプのレポートについての記述を参照してください。

## API 使用率の測定

最適なパフォーマンスを維持し、ユーザ全員がAPIを利用できるようにするために、salesforce.com は、組織が同時に実行できる API 要求(またはコール)の数を制限して、処理負荷のバランスを図ります。制限は、次の表に示すとおりエディションによって異なります。

Salesforce.com Edition	制限
Developer Edition	<ul style="list-style-type: none"><li>1 組織 24 時間につき 5,000 コールまたは</li><li>一度に同時 5 コール</li></ul>
Enterprise Edition	<ul style="list-style-type: none"><li>1 ライセンス 24 時間につき 1,000 コールまたは 1 組織 24 時間につき 1,000,000 コールのいずれかの少ないコール数最小数は、ライセンス数に関わらず 24 時間につき 5,000 コールまたは、</li><li>一度に同時 50 コール</li></ul>
API アクセスが有効化された Professional Edition	
Unlimited Edition	<ul style="list-style-type: none"><li>1 ライセンス 24 時間につき 5,000 コールまたは 1 組織 24 時間につき 5,000,000 コールのいずれかの少ないコール数または、</li><li>一度に同時 50 コール</li></ul>
Sandbox	<ul style="list-style-type: none"><li>1 組織 24 時間につき 5,000,000 コールまたは</li><li>一度に同時 50 コール</li></ul>

制限は、1 組織 24 時間につきコールされたすべての API コールの合計であり、ユーザごとではありません。組織が上記の制限を超えた場合、組織内のすべてのユーザは一時的にコールを実行できなくなります。制限を越えてから 24 時間経過し、制限値を越えていないとみなされるまで、コールはブロックされます。その間、使用率はユーザごとにリストアされます。

salesforce.com アプリケーションでは、システム管理者が [組織情報] ページで過去 24 時間に発行された API 要求数を参照することができます。[組織情報] ページを表示するには、[設定]▶[組織プロファイル]▶[組織情報]を選択します。



メモ: 制限はすべてのエディションに対して自動的に適用されます。

API へコールを実行するすべてのアクションは制限の数に含まれますが、次のコールは除外されます。

- アウトバウンドメッセージ
- Apex コールアウト

API の使用率測定通知を作成することができます。これにより、Salesforce.com は定義された時間内の API の上限を超えたときに、事前に定義されたユーザに電子メールを送信します。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「API 使用率通知について」を参照してください。

Salesforce.com ユーザインターフェースからの組織あたりの要求数の上限もあります。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「同時使用の制限」を参照してください。

### API 使用率の測定の算出例

次に、いくつかのシナリオでの API 使用率の測定の算出例を示します。

- Enterprise Edition を 5 ライセンス使用している組織では、要求の上限は 5,000 個です (5 ライセンス X 1000 コール)。
- Enterprise Edition を 15,000 ライセンス使用している組織では、要求の上限は 1,000,000 個です (ライセンス数 X 1000 コールは 1,000,000 より大きいため、より低い制限値である 1,000,000 となります)。
- 木曜日の午前 5 時に 4,500 コール、水曜日の午後 11 時に 499 コールを行った Developer Edition を使用している組織では、木曜日の午前 5 時までに実行できるコールは 1 つのみです。

## 圧縮

API は、HTTP 1.1 の仕様で定義された標準を使用した要求とレスポンスの圧縮をサポートしています。いくつかの SOAP/WSDL クライアントでは自動的にサポートされており、他のクライアントへも手動で追加できます。クライアント別の詳細は、<http://wiki.apexdevnet.com/index.php/Tools> を参照してください。

圧縮は、クライアントが明示的に指定しない限り使用されません。パフォーマンス向上のため、HTTP 1.1 の仕様に従ったクライアント側での圧縮のサポートをお勧めします。

クライアントが圧縮をサポートしていることを示すには、HTTP ヘッダー「Accept-Encoding: gzip, deflate」または同様のヘッダーを含める必要があります。クライアントのヘッダーで正しく指定されている場合、API はレスポンスを圧縮します。レスポンスには、「Content-Encoding: deflate」または「Content-Encoding: gzip」のいずれか適切な方が含まれます。また、「Content-Encoding: deflate」または「gzip」をヘッダーに含めることで、要求を圧縮することもできます。

ほとんどのクライアントは、たとえ企業内 LAN を使用している場合も、ある程度のネットワーク接続の制限があります。API は圧縮をサポートすることでパフォーマンスを向上します。ほとんどすべてのクライアントでは、レスポンスを圧縮することのメリットがあり、多くのクライアントでは要求の圧縮でもメリットがあります。API は HTTP 1.1 の仕様に従い deflate と gzip 圧縮をサポートします。

### レスポンスの圧縮

API はオプションでレスポンスを圧縮することができます。クライアント側から Accept-Encoding ヘッダーで gzip または deflate 圧縮を指定した場合、レスポンスは圧縮されます。Accept-Encoding が指定された場合でも API ではレスポンスを圧縮する必要はありませんが、通常は圧縮されます。API がレスポンスを圧縮した場合、API は gzip または deflate のいずれかの、指定されたものと同じ圧縮アルゴリズムの名前を使用した Content-Encoding ヘッダーを指定します

## 要求の圧縮

クライアントは要求を圧縮することもできます。API は、処理前にすべての要求を解凍します。クライアントは、適切な圧縮アルゴリズムの名前を記した Content-Encoding HTTP ヘッダーを送信しなければなりません。詳細は、以下を参照してください。

- Content-Encoding については、[www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.11](http://www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.11)
- Accept-Encoding については、[www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.3](http://www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec14.html#sec14.3)
- Content Codings については、[www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec3.html#sec3.5](http://www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec3.html#sec3.5)



メモ: Java with Apache Axis での SOAP 圧縮の実装方法の詳細は、次の salesforce.com 開発者 Web サイト を参照してください。[http://wiki.apexdevnet.com/index.php/Compression\\_with\\_Axis\\_1.3](http://wiki.apexdevnet.com/index.php/Compression_with_Axis_1.3)

## HTTP 永続接続

ほとんどのクライアントでは、HTTP 1.1 の永続接続を使用し、複数の要求のソケット接続を再利用したほうがパフォーマンスが向上します。永続接続は通常 SOAP/WSDL クライアントが自動的に処理します。詳細は、次の HTTP 1.1 の仕様を参照してください。

<http://www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec8.html#sec8.1>

## HTTP のチャンク

HTTP 1.1 を使用しているクライアントは、チャンクレスポンスを受け取ることがあります。チャンクは通常 SOAP/WSDL クライアントが自動的に処理します。

## 国際化と文字コード

API は Unicode または ISO-8859-1 のいずれかの文字を完全にサポートしています。組織の使用する文字コードは、組織が使用している Salesforce.com インスタンスにより異なります。組織が `ssl.salesforce.com` にログインする場合、エンコードは ISO-8859-1 です。その他のすべてのインスタンスは UTF-8 を使用します。

`describeGlobal()` をコールし、`DescribeGlobalResult` で返された `encoding` 値を確認することで、組織の文字セットを確認できます。

組織で ISO-8859-1 エンコーディングを使用している場合、API に送信されるすべてのデータを ISO-8859-1 でエンコードする必要があります。有効な ISO-8859-1 の範囲外の文字は、切り捨てられるか、エラーとなります。



メモ: API レスポンスは、組織が使用している文字セットにエンコードされます (UTF-8 または ISO-8859-1)。いずれにしても、エンコードされたデータは通常 SOAP クライアントが処理します。

## XML 準拠

API は XML をベースとしています。XML では、すべてのドキュメントが正しい形式であることが求められます。その要件の一部には、エスケープ文字などを使用してもある特定の Unicode 文字は XML ドキュメントでは許可されないと定められています。また、その他の文字も地域に応じたエンコードが必要です。通常、標準 SOAP クライアントまたは XML クライアントが処理します。クライアントは、一般的な XML エスケープシーケンスすべての解析する機能を持ち、無効な XML 文字を渡さないようにする必要があります。

前述のとおり、文字によってはエスケープ文字などを使用していても無効です。無効な文字には、Unicode サロゲートブロックやその他のいくつかの Unicode 文字が含まれます。これらの文字は滅多に使用されず、どのデータでも通常は重要視されない制御文字であるため、多くのプログラムで問題となる場合があります。それらの文字は XML ドキュメントでは許可されていませんが、HTML ドキュメントでは許可されており、Salesforce.com データにも含まれている場合があります。無効な文字は、すべての API レスポンスから除外されます。

無効な文字は次のとおりです。

- 0xFFFFE
- 0xFFFFF
- 制御文字 0x0 から 0x19。ただし、有効な次の文字を除く。0x9、0xA、0xD、タブ、改行、キャリッジリターン。
- 0xD800 から 0xDFFF

UTF-8 エンコードでは、Salesforce.com は基本的な UCS-2 エンコード (2 バイト、多言語面) のみをサポートしており、拡張 UCS-4 文字はサポートしていません。UCS-4 のサポートは、どのシステムにおいても非常にまれです。UCS-2 は、Java や Windows がサポートしているエンコードです。XML 文字や文字セットの詳細は、<http://www.w3.org/TR/REC-xml#charsets> を参照してください。

## .Net、非文字列項目および Enterprise WSDL

.Net と Enterprise WSDL を共に使用した場合、.Net は各非文字列項目に追加の Boolean 型の項目を生成します。たとえば、MyField\_c または標準項目の LastModifiedDate に値が設定されている場合、.Net はそれぞれに Boolean 型の項目を生成します。この例では、生成された項目は MyField\_cSpecified と LastModifiedSpecified です。これらの値は、デフォルトでは False です。指定された項目値が False である場合、対応する元の項目の値は SOAP メッセージには含まれません。

たとえば、通貨項目 annualRevenue の値をクライアントアプリケーションが生成した SOAP メッセージに含める前に、annualRevenueSpecified の値を True に設定する必要があります。

```
account.annualRevenue = 10000; account.annualRevenueSpecified = true;
```

## 第 14 章

### アウトバウンドメッセージ

---

#### トピック:

- [アウトバウンドメッセージについて](#)
- [通知について](#)
- [アウトバウンドメッセージの設定](#)
- [重要なセキュリティの検討事項](#)
- [Outbound Messaging WSDLについて](#)
- [リスナーの構築](#)

アウトバウンドメッセージを使用すると、Salesforce.com 内の項目への変更によって項目値を指定したメッセージを、指定した外部サーバに送信するよう指定することができます。

アウトバウンドメッセージは、Salesforce.com のワークフロールール機能の一部です。ワークフロールールは、電子メール警告の送信、タスクコードを作成、またはアウトバウンドメッセージの送信など、特殊な項目変更を確認し、自動的な Salesforce.com アクションをトリガします。

## アウトバウンドメッセージについて

アウトバウンドメッセージは [notifications\(\)](#) コールを使用し、ワークフロールールでトリガした場合に、SOAP メッセージを HTTP(S) を経由して指定されたエンドポイントに送信します。



アウトバウンドメッセージを設定した後、トリガイベントが発生すると、メッセージが指定されたエンドポイント URL に送信されます。メッセージには、アウトバウンドメッセージを作成した際に指定された項目が含まれています。エンドポイント URL がメッセージを受信すると、メッセージから情報を取得して処理することができます。これを実行するには、Outbound Messaging WSDL を実行する必要があります。

## 通知について

1 通の SOAP メッセージには、最大 100 件の通知を格納できます。それぞれの通知には、オブジェクト ID と、関連付けられた [sObject](#) データへの参照が記載されています。そのため、通知の送信後にオブジェクト内の情報が変更されるという場合は、通知の配信前であれば、更新された情報のみが配信されます。

複数のコールを発行すると、コールは 1 つまたは複数の SOAP にまとめられます。

メッセージはローカルでキューされます。各バックグラウンドプロセスでは実際の送信を実行し、次のようにしてメッセージの信頼性を保ちます。

- エンドポイントが利用できない場合、メッセージは正常に送信されるまで、または 24 時間が経過するまでキューに留まります。24 時間を過ぎると、メッセージがキューから削除されます。
- メッセージが配信できない場合には、再試行の間隔が、最長 2 時間まで大幅に増えます。
- メッセージは、キュー内の順番とは無関係に再試行されます。そのため、メッセージが順番に配信されない場合があります。
- アウトバウンドメッセージを使用して監査履歴を作成することはできません。どのメッセージも 1 回は配信される必要がありますが、2 回以上配信される場合もあります。また、24 時間以内に配信できない場合には、まったく配信されないこともあります。最後に、上記のとおり、通知の送信後でも、配信前であれば、ソースオブジェクトの変更が可能です。エンドポイントは、途中の変更内容ではなく、最新のデータだけを受信します。
- メッセージが複数回送信される場合があるため、リスナークライアントは、処理前の通知に配信された通知 ID を確認する必要があります。



メモ: 以前のリリースで必要だったポーリングの代わりに、イベントが発生したときはアウトバウンドメッセージを使用して実行ロジックをトリガできます。以前のバージョンの API では、クライアントアプリケーションは Salesforce.com にポーリングを行って関連する変更が行われたかどうかを確認する必要がありました。ルールが存在する場合、多くの変更によってワークフローをトリガするため、ワークフローを使用して Salesforce.com イベントに基づいてアクションをトリガします。

アウトバウンド SOAP メッセージを外部サービスに送信する [notifications\(\)](#) コールの定義など、アウトバウンドメッセージに必要なメタデータは、個別の WSDL にあります。ワークフロールールがアウトバウンドメッ

セージに関連付けられると、WSDLがSalesforce.comユーザインターフェースから作成され、使用できます。メッセージで配信される項目も、このWSDLに定義されます。アウトバウンドメッセージの設定に関する詳細は、Salesforce.comオンラインヘルプの「アウトバウンドメッセージの定義」を参照してください。

Outbound Messaging WSDLは、APIでアクセスできるWSDLのみです。

## アウトバウンドメッセージの設定

アウトバウンドメッセージを使用する前に、Salesforce.comユーザインターフェースで設定する必要があります。

- ・ [ユーザプロファイルの設定](#)
- ・ [アウトバウンドメッセージの定義](#)
- ・ [Salesforce.com クライアント証明書のダウンロード](#)
- ・ [アウトバウンドメッセージの参照](#)
- ・ [アウトバウンドメッセージの状況](#)

### ユーザプロファイルの設定

アウトバウンドメッセージで、循環変更を作成することができます。たとえば、ワークフローが実行され、ワークフローアクションが取引先更新をトリガする場合、これらの取引先更新のより新しいワークフローがトリガされるなどが行われます。これらの循環の変更を回避するために、アウトバウンドメッセージを送信するユーザの機能を無効にできます。

次に、循環原稿シナリオのもう1つの例を示します。

1. アウトバウンドメッセージを設定して、`sessionId`を指定し、[送信ユーザ]項目でユーザを指定します。ユーザはアウトバウンドメッセージを無効化しません。
2. 取引先責任者レコードを変更すると、アウトバウンドメッセージ受信者への`sessionId`により、指定されたユーザからのアウトバウンドメッセージがトリガします。
3. アウトバウンドメッセージ受信者はForce.com APIをコールして、アウトバウンドメッセージをトリガした同じ取引先責任者レコードを更新します。
4. 更新によりアウトバウンドメッセージがトリガします。
5. アウトバウンドメッセージ受信者がレコードを更新します。
6. 更新によりアウトバウンドメッセージがトリガします。
7. アウトバウンドメッセージ受信者がレコードを更新します。

ユーザのアウトバウンドメッセージ通知を無効化するには、ユーザの[プロファイル](#)で「アウトバウンドメッセージの送信」の選択を解除します。アウトバウンドメッセージに応答する1人のユーザを指定し、このユーザのアウトバウンドメッセージを無効化することをお勧めします。

### アウトバウンドメッセージの定義

アウトバウンドメッセージを定義するには、Salesforce.comユーザインターフェースでこの手順を実行します。

1. [設定]▶[作成]▶[ワークフローと承認申請]▶[アウトバウンドメッセージ]をクリックします。
2. [新規アウトバウンドメッセージ]をクリックします。
3. アウトバウンドメッセージに含める情報を持つオブジェクトを選択し、[次へ]をクリックします。

#### 4. アутバウンドメッセージを設定します。

1. アутバウンドメッセージの名前と説明を入力します。
2. メッセージを受信するエンドポイント URL を入力します。Salesforce.com は、このエンドポイントに SOAP メッセージを送信します。

セキュリティ上の理由から、Salesforce.com では、指定できる送信ポートを、次の 1 つに制限します。

- 80: このポートは、HTTP 接続のみを受け付けます。
- 443: このポートは、HTTPS 接続のみを受け付けます。
- 7000-10000 (7000 と 10000 も含む): これらのポートは、HTTP 接続または HTTPS 接続を受け付けます。

3. [送信ユーザ] 項目でユーザ名を指定して、メッセージを送信する場合に使用する Salesforce.com ユーザを選択します。選択したユーザにより、エンドポイントに送信されるメッセージのデータのアクセス権が制御されます。
4. アутバウンドメッセージに Salesforce.com `sessionId` を含める場合には、[セッション ID を含む] を選択します。受信者から Salesforce.com への API コールバックを作成する場合、`sessionId` をメッセージに含めます。`sessionId` は、ワークフローをトリガしたユーザではなく、前のステップで定義されたユーザを表します。
5. アутバウンドメッセージに含める項目を選択し、[追加] をクリックします。

#### 5. [保存] をクリックします。

6. アутバウンドメッセージの詳細ページで [WSDL はこちら] リンクをクリックすると、このメッセージと関連付けられている WSDL を参照できます。

この WSDL はアウトバウンドメッセージにバインドされており、エンドポイントサービスへの到達方法に関する説明と、エンドポイントサービスに送信されるデータを記載しています。



メモ: これらのオプションがない場合は、組織がアウトバウンドメッセージを有効にしていません。salesforce.com に連絡して、組織のアウトバウンドメッセージを有効にします。

## Salesforce.com クライアント証明書のダウンロード

アプリケーション(エンドポイント)サーバの SSL/TLS を、クライアント証明書(双方向 SSL/TLS)を要求するよう設定して、サーバに対するクライアントのロールを取得する際に Salesforce.com の ID を検証することはできます。この場合、Salesforce.com アプリケーションユーザインターフェースから Salesforce.com クライアント証明書をダウンロードできます。Salesforce.com が認証のためにアウトバウンドメッセージとともに送信するクライアント証明書です。

証明書をダウンロードするには、次の手順を行います。

- [設定] ▶ [開発] ▶ [API] をクリックして、[WSDL ダウンロード] ページを表示します。
- [WSDL ダウンロード] ページで、[クライアント証明書をダウンロード] をクリックして、ローカルドライブの適切な場所に保存します。
- ダウンロードした証明書はアプリケーションサーバにインポートし、そのサーバがクライアント証明書を要求するように設定します。アプリケーションサーバは SSL/TLS ハンドシェイクで使用する証明書がダウンロードした証明書を一致しているかを確認します。



メモ: アプリケーション(エンドポイント)サーバーは、証明書チェーンの中間証明書を送信する必要があります。そして証明書チェーンは、適切な順序でなければなりません。適切な順序は次のとおりです。

1. サーバー証明書。
2. サーバー証明書がルート証明書によって直接署名されていない場合、サーバ証明書に署名した中間証明書。
3. 手順 2 で証明書に署名した中間証明書。
4. その他残りの中間証明書。ルート証明書の認証機関の証明書は使用しないでください。ルート証明書はサーバーからは送信されません。Salesforce.com には、信頼できる証明書の一覧がファイルに収納されています。そしてチェーンの証明書は、ルート証明書の認証機関によって署名されている必要があります。

## アウトバウンドメッセージの参照

既存のアウトバウンドメッセージを参照するには、Salesforce.com ユーザインターフェースで、[設定]▶[作成]▶[ワークフローと承認申請]▶[アウトバウンドメッセージ] をクリックします。

- ・ アウトバウンドメッセージを新規に定義するには、[新規アウトバウンドメッセージ] をクリックします。
- ・ アウトバウンドメッセージの状況を追跡するには、[メッセージ送信状況の参照] をクリックします。
- ・ 既存のアウトバウンドメッセージの詳細や、既存のアウトバウンドメッセージを使用するワークフロールールと承認プロセスを表示するには、そのアウトバウンドメッセージを選択します。
- ・ 既存のアウトバウンドメッセージに変更を加えるには、[編集] をクリックします。
- ・ アウトバウンドメッセージを削除するには、[削除] をクリックします。

## アウトバウンドメッセージの状況

アウトバウンドメッセージの状況を追跡するには、Salesforce.com インターフェースで、[設定]▶[監視]▶[アウトバウンドメッセージ] をクリックします。または、[設定]▶[作成]▶[ワークフローと承認申請]▶[アウトバウンドメッセージ] をクリックし、[メッセージ送信状況の参照] をクリックします。このページでは、次のタスクを実行できます。

- ・ 送信の合計試行回数など、アウトバウンドメッセージの状況を参照する。
- ・ ワークフローまたは承認プロセス活動IDをクリックして、アウトバウンドメッセージをトリガした活動を参照する。
- ・ [次回の試行] 日を現在に変更するには、[再試行] をクリックする。これにより、メッセージの配信がただちに再試行されます。
- ・ アウトバウンドメッセージをキューから完全に削除するには、[削除] をクリックする。

## 重要なセキュリティの検討事項

安全にアウトバウンドメッセージを使用するために、Salesforce.com から送信するように、サードパーティがメッセージをエンドポイントに送信できることを確認する必要があります。

- ・ クライアントアプリケーションのリスナーを、Salesforce.com IP 範囲からの要求のみを受け入れるようロックダウンします。これにより、Salesforce.com からメッセージが送信されることを保証しますが、別の顧客がご

使用のエンドポイントを示し、メッセージを送信することを保証するわけではありません。Salesforce.com IP の範囲は次のとおりです。

- 204.14.232.64 204.14.232.79
- 204.14.234.64 204.14.234.79

- SSL/TLS を使用します。SSL/TLS を使用すると、データがインターネットで転送される間の機密保持を可能にします。SSL/TLS を使用しない場合、悪質なサードパーティがデータに進入する場合があります。この問題は、プライバシーの要件によってデータを渡し、メッセージで SessionId を渡す場合に特に重要です。また、接続の証明書を認証し、その証明書が有効な認証機関から発行されていることを確認し、証明書のドメインと Salesforce.com が接続しようとしているドメインと一致していることを確認します。これにより、不正なエンドポイントと通信できないようにします。
- アプリケーション(エンドポイント)サーバの SSL/TLS 設定が可能な場合、サーバへのクライアントのロールを取得する際に、Salesforce.com クライアント証明書を使用して、Salesforce.com サーバの ID を検証します。証明書のダウンロードの詳細は、「[Salesforce.com クライアント証明書のダウンロード](#)」を参照してください。
- 組織 Id が各メッセージに記載されています (ID データ型の詳細は、「[ID データ型](#)」を参照してください)。クライアントアプリケーションは、メッセージに組織 Id が記載されていることを確認する必要があります。

## Outbound Messaging WSDL について

このトピックの残りの部分は、Outbound messaging WSDL の関連セクションについて説明しています。特定のオブジェクトの特定のイベントにアウトバウンドメッセージを設定した際に選択した内容によって、ご使用の WSDL は異なります。

`notifications()`

ここでは、`notifications()` コールを定義します。このコールは特定のオブジェクトの指定された項目および値を記載したアウトバウンドメッセージを作成し、指定されたエンドポイント URL に値を送信します。

```
<schema elementFormDefault="qualified" xmlns="http://www.w3.org/2001/XMLSchema"
targetNamespace="http://soap.sforce.com/2005/09/outbound"> <import
namespace="urn:enterprise.soap.sforce.com" /> <import
namespace="urn:sobject.enterprise.soap.sforce.com" />

<element name="notifications"> <complexType> <sequence> <element name="OrganizationId"
type="ent:ID" /> <element name="ActionId" type="ent:ID" /> <element name="SessionId"
type="xsd:string" nillable="true" /> <element name="EnterpriseUrl" type="xsd:string" />
<element name="PartnerUrl" type="xsd:string" /> <element name="Notification" maxOccurs="100"
type="tns:OpportunityNotification" /> </sequence> </complexType> </element> </schema>
```

次の表で、通知メソッド定義で指定される要素について説明します。

名前	型	説明
OrganizationId	ID	メッセージを送信する組織の ID。
ActionId	string	メッセージをトリガするワークフロールール(活動)。
SessionId	string	オプションで、アウトバウンドメッセージに応答するエンドポイント URL クライアントが使用するセッション ID。Salesforce.com にコードバックする受信コードによって使用します。

名前	型	説明
EnterpriseURL	string	Enterprise WSDL を使用して Salesforce.com に API コールバックするために使用する URL。
PartnerURL	string	Partner WSDL を使用して Salesforce.com に API コールバックするために使用する URL。
Notification	Notification	次のセクションで定義され、OpportunityNotification または ContactNotification など、オブジェクトデータ型と Id が指定されています。

Notification データ型は WSDL で定義されます。次の例では、`notifications()` コール定義の Notification エントリに基づいて、商談の Notification が定義されます。

```
<complexType name="OpportunityNotification"> <sequence> <element name="Id" type="ent:ID" /> <element name="sObject" type="ens:Opportunity" /> </sequence> </complexType>
```

各オブジェクト要素(例では商談)には、[アウトバウンドメッセージを作成](#)した場合に選択した項目のサブセットが指定されます。各メッセージの Notification にはオブジェクト ID が指定され、すでに処理された通知の再送信を追跡するために使用する必要があります。

### notificationsResponse

この要素は、確認 (ack) レスポンスを Salesforce.com に送るためのスキーマです。

```
<element name="notificationsResponse"> <complexType> <sequence> <element name="Ack" type="xsd:boolean" /> </sequence> </complexType> </element> //このセクションは、データ型定義セクションの最後の部分です。
```

複数の通知がある場合、メッセージ内ですべての通知を確認します。

## リスナーの構築

アウトバウンドメッセージを定義し、アウトバウンドメッセージのエンドポイントを設定した後、WSDL をダウンロードしてリスナーを作成します。

- [WSDLはこちら]を右クリックして、[名前をつけて保存]を選択し、適切なファイル名で WSDL をローカルディレクトリに保存します。たとえば、リードを扱うアウトバウンドメッセージについて、WSDL ファイルに `leads.wsdl` という名前をつけます。
- クライアントが Salesforce.com に送信するメッセージを説明する Enterprise WSDL や Partner WSDL と異なり、この WSDL は、Salesforce.com がクライアントアプリケーションに送信するメッセージを定義します。
- 多くの Web サービスツールはスタブリスナーを生成します。多くは、Enterprise WSDL または Partner WSDL のクライアントスタブを生成する方法と同じです。サーバ側スタブオプションを検索します。

たとえば .Net 2.0 の場合、次のようにになります。

1. .Net 2.0 で wsdl.exe /serverInterface leads.wsdl を実行します。これにより、通知インターフェースを定義する NotificationServiceInterfaces.cs を生成します。
2. NotificationServiceInterfaces.cs を実行するクラスを作成します。
3. インターフェースを実装するクラスを作成して、リスナーを実装します。実装するには、さまざまな方法があります。まずインターフェースを DDL にコンパイルすると最も簡単です (DLL は、次のような ASP.NET の bin ディレクトリに必要です)。

```
mkdir bin csc /t:library /out:bin\nsi.dll NotificationServiceInterfaces.cs
```

このインターフェースを実行する ASMX ベースの Web サービスを作成します。たとえば、MyNotificationListener.asmx では次のようにになります。

```
<%@WebService class="MyNotificationListener" language="C#"%> class  
MyNotificationListener : INotificationBinding { public notificationsResponse  
notifications(notifications n) { notificationsResponse r = new notificationsResponse();  
r.Ack = true; return r; } }
```

この例は単純な実装で、実際の実装はより複雑になります。

4. MyNotificationListener.asmx を含むディレクトリの IIS の仮想ディレクトリを新規作成して、サービスを展開します。
5. ブラウザでサービスページを参照して、サービスが展開されていることをテストすることができます。たとえば、仮想ディレクトリ salesforce を作成する場合、<http://localhost/salesforce/MyNotificationListener.asmx> にアクセスします。

その他の Web サービスツールのプロセスは類似していますので、Web サービスツールのマニュアルを参照してください。Axis の場合、バージョン 1.1 以降をお勧めします。

リスナーは、次の要件を満たす必要があります。

- 公開インターネットから接続可能であること。
- セキュリティ上の理由から、Salesforce.com では、指定できる送信ポートを、次の 1 つに制限します。
  - 80: このポートは、HTTP 接続のみを受け付けます。
  - 443: このポートは、HTTPS 接続のみを受け付けます。
  - 7000-10000 (7000 と 10000 も含む): これらのポートは、HTTP 接続または HTTPS 接続を受け付けます。
- 有効にするために、証明書の一般名 (CN) はエンドポイントのユーザのドメイン名に一致し、証明書は Java 2 Platform、Standard Edition (J2SE) 5.0 (JDK 1.5) で信頼された認証機関で発行されている必要があります。
- 証明書の有効期限が終了している場合、メッセージの送信ができません。



警告: さらにアウトバウンドメッセージをトリガする変更をトリガするアウトバウンドメッセージの無限ループを防ぐためには、プロファイルが [アウトバウンドメッセージの送信] を Salesforce.com ユーザインターフェースで選択解除しているユーザでオブジェクトを更新することをお勧めします。

## 第 15 章

### データのロードと統合

---

トピック:

- クライアントアプリケーションのデザイン
- Salesforce.com の設定
- すべてのデータローダでのベストプラクティス
- 統合とシングルサインオン

大容量のデータ(数十万から数百万のレコード数)をロードする必要がある場合、データロードプロセスを高速化できるさまざまな方法があります。この項のトピックを読んで、クライアントアプリケーションのデザイン、組織の構成、およびデータローダのベストプラクティスについて理解してください。

## クライアントアプリケーションのデザイン

アプリケーションを設計し、大きいデータの読み込みの速度を改善する方法は数多くあります。

- クライアントがデータを効率的に準備する。クライアントは、.CSVファイル、データベース、またはその他のデータソースから読み込む場合があります。多くのレコードを読み込む場合、クライアントのデータアクションは通常高速です。ただし、大規模な処理の場合、それぞれの効率性には計り知れない影響があります。クライアントが多数のレコードを読み込んでいる場合、各行の操作を 100 分の 1 秒短縮すると、55.5 時間処理の時間が短くなります。多くのクライアントアクションはミリ秒で測定されていますが、クライアントがレコードごとに 0.5 秒費やすと、クライアントを最適化する方法を検出します。

Force.com データローダは、Salesforce.com オブジェクト内にまたはオブジェクト外にデータを読み込むクライアントアプリケーションです。一括挿入または一括更新を実行するには、データローダを使用することをお勧めします。データローダについての詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「データローダの概要」を参照してください。

- 永続接続を使用する。SSL/TLS ネゴシエーションからソケットシステムを開く場合、時間がかかる場合が多くあります。(SSL または TLS がない場合、API 要求は安全ではありません。)HTTP 1.0 のように要求ごとにソケットを開きなおす必要なく、HTTP 1.1 では、要求間(永続接続)でソケットを再利用することができます。ご使用のクライアントが永続接続をサポートしているかどうかは、使用している SOAP スタックによって異なります。デフォルトでは、.Net は永続接続を使用しますが、Apache Axis では使用していません。設定を変更して、Apache http 共通ライブラリを使用する場合、クライアントは HTTP 1.1 仕様および永続接続を使用します。

HTTP 1.1 の詳細については、[HTTP Persistent Connections](#) および

<http://www.w3.org/Protocols/rfc2616/rfc2616-sec8.html#sec8.1> を参照してください。

- 要求の数を最小化する。クライアントが要求ごとにできるかぎり多くのレコードをバッチする時間を節約するような、各要求に関連する処理がいくつかあります。`batchSize` を設定して 2,000 に制限します。これが最も効率的なバッチサイズでない場合、API がバッチサイズを変更します。バッチサイズの詳細については、「[QueryOptions](#)」を参照してください。
- 要求のサイズを最小化する。クライアントはできるかぎり多くのレコードを送信する必要がありますが、できるかぎり小さい要求を送る必要があります。100 MB ファイルよりも 2 MB ファイルのダウンロードが容易で高速であるため、クライアントアプリケーションが送信するバイト数が小さいほど、より早く送信できます。要求サイズを最小化するには、要求および応答で圧縮を使用します。Gzip が最も一般的な圧縮方法ですが、さまざまな SOAP スタックで圧縮を実施する方法について説明している [Force.com 開発者ボード](#) のコミュニティボードで複数の投稿があります。Gzip の詳細な分析および検証については、Simon Fell のブログ (<http://www.pocketsoap.com/weblog/2005/12/1583.html>) を参照してください。
- 最も速いインターネット接続を使用する。ダイアルアップモデムで多くのレコードを読み込むことはお勧めしません。API は、データの取得と同じくらいの速度で読み込みが可能です。
- マルチスレッドプロセスに注意する。一部のクライアントアプリケーションは、大規模なトランザクションをレコードを各セットに分割します。複数のスレッドでは、異なるデータセットで同じ統合プロセスを実行します。ただし、`UNABLE_TO_LOCK_ROWS` エラーが発生し、トランザクション全体が失敗するため、異なる親オブジェクトを持つレコードを処理する場合、マルチスレッドプロセスは使用しないでください。

たとえば、毎晩取引先責任者を更新するとします。あるスレッドで「A」から始まる取引先責任者、別のスレッドで「B」から始まる取引先責任者を処理するマルチスレッドプロセスを実行します。ただし、ある取引先には「A」で始まる取引先責任者と、「B」で始まる取引先責任者があるため、これら 2 つの取引先責任者

は異なるスレッドで処理されます。2番目のスレッドが親取引先をロックしようとすると、最初のスレッドに既に設定されたロックにヒットし、デッドロックが発生します。2番目のスレッドはタイムアウトし、トランザクションは失敗します。代わりに、「A」で始まる取引先のすべての取引先責任者があるスレッドに投入し、「B」で始まる取引先の取引先責任者を別のスレッドに投入すると、こうした競合は発生しません。

## Salesforce.com の設定

ほとんどの処理はデータベース内で実行されます。これらのパラメータを正しく設定することで、データベースの処理を高速化するのに役立ちます。

- 最後に使用 (MRU) 機能を有効または無効にする。最後に使用 (MRU) とマークが付けられたレコードは、Salesforce.com ユーザインターフェースのサイドバーの [最近使ったデータ] セクションにリストされます。不要な場所でコードを有効にしていないことを確認してください。

API バージョン 7.0 以降では、MRU 機能はデフォルトで無効になっています。MRU 機能を有効にするには、このヘッダーを作成して `updateMru` を `true` に設定します。次のサンプルは、MRU 機能の使用方法を示しています。

```
public void mruHeaderSample() { _MruHeader mru = new _MruHeader(); mru.setUpdateMru(true); binding.setHeader(new SforceServiceLocator().getServiceName().getNamespaceURI(), "MruHeader", mru); Account acc = new Account(); acc.setName("This will be in the MRU"); try { SaveResult[] sr = binding.create(new SObject[]{acc}); System.out.println("ID of account added to MRU: " + sr[0].getId()); } catch (RemoteException e) { System.out.println("An unexpected error occurred: " + e.getMessage()); } }
```

- 共有ルールを避けるために、「すべてのデータの編集」権限を持つユーザとしてログインする。共有ルールを介してデータにアクセスするユーザとしてログインすると、API はアクセスを確認する余分なクエリを発行する必要があります。それを避けるために、「すべてのデータの編集」権限を持つユーザとしてログインします。通常、共有ルールが少ないほど所有者などのプロパティを設定する処理が少なくて済むため、読み込み速度が早くなります。

逆に、読み込み時間のために、オブジェクトによっては組織全体のデフォルトとして公開/参照・更新可能などを設定することができます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「組織のデフォルト共有モデルの設定」を参照してください。

- ワークフローまたは割り当てルールを避ける。操作後のアクションが必要な処理はすべて読み込みに時間がかかります。読み込まれたオブジェクトに適用されない場合、自動ルールを一時的に無効にすることもできます。
- カスケード更新のトリガを避ける。たとえば、取引先の所有者を更新した場合、その取引先に関連付けられた取引先責任者と商談にも更新が必要です。単一のオブジェクトを更新する代わりに、クライアントアプリケーションは複数のオブジェクトにアクセスしなければならず、読み込みが遅くなります。

Force.com データローダーは、データ読み込みのよい参考となります。MRU を無効にし、HTTP/1.1 永続接続を使用し、要求とレスポンスに GZIP 圧縮を使用します。データ読み込みを行う場合、または独自の Java インテグレーションを記述する際にどこから始めればよいか分からない場合、Force.com Data Loader を使用し高速で安定したソリューションを実現することができます。Force.com データローダーについての詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「データローダーの概要」を参照してください。

## すべてのデータローダでのベストプラクティス

この項では Force.com データローダを使用したベストプラクティスについて説明していますが、基本的な原則はどのようなクライアントデータローダにも適用できます。

### 1. 移行するデータを指定します。

データセット全体を移行したくない、または移行する必要がない場合は、移行するオブジェクトを選択します。たとえば、各取引先の取引先責任者情報のみを移行することや、特定のディビジョンの取引先情報のみを移行することもできます。

### 2. データのテンプレートを作成します。

オブジェクトごとのテンプレートを、Excel ワークシートなどで作成します。

各オブジェクトで必要な項目を指定します。標準オブジェクトごとに必要な項目を指定するだけではなく、ビジネスルールや過去の ID 項目などで必要な項目もあります。このガイドまたは Salesforce.com ユーザインターフェースのページレイアウト定義を使用し、標準オブジェクトで必要な項目を洗い出します。

必要な項目を赤でハイライトすると、テンプレート生成後のデータ確認が容易になります。

順序の依存性がある場合は指定します。オブジェクトには必須の関係が存在することがあります。たとえば、すべての取引先には所有者がおり、またすべての商談は取引先に関連付けられています。これらの関係の依存性により、データ移行の順序が決定します。Salesforce.com の場合、たとえば、ユーザをまず読み込み、次に取引先、そして商談を読み込みます。

依存性を洗い出すには、指定されたオブジェクトのページレイアウトの関連リストと参照項目を確認し、そしてデータベースの ID (外部キー) を確認します。

### 3. テンプレートを生成します。

テンプレートを生成する前にデータのクリーンアップを行い、テンプレートのデータを確認します。

### 4. データを移行します。

過去の ID 情報を格納するカスタム項目を作成します。オプションで、カスタム項目に External ID 属性を割り当てると、インデックスが付けられます。インデックスは関係を保持し、検証のためのカスタムレポートの構築に役立ちます。

レコードを 1 つロードして結果を確認してから、全レコードをロードします。

### 5. データを検証します。

移行を検証するために、下記のすべての手法を使用します。

- レコード件数を検証し、移行のスナップショット全体を提供するカスタムレポートを作成します。
- データのスポットチェックを行います。
- 例外レポートを参照し、移行されなかったデータを確認します。

### 6. 必要に応じてデータの再移行または更新を行います。

## 統合とシングルサインオン

---



警告: リカバリが不可能な状態を避けるために、システム管理者アカウントのシングルサインオンを有効にしてはなりません。シングルサインオンを有効にしており、シングルサインオンの統合が失敗した場合、リカバリのためのログインが不可能になります。

# 第 16 章

## データ複製

---

### トピック:

- データ複製のための API コール
- データ複製の範囲
- データ複製手順
- データ複製のオブジェクト固有の要件
- 変更のポーリング
- オブジェクトの構造変更のチェック

API はデータ複製をサポートしており、組織の関連する Salesforce.com データのローカルで個別のコピーを保存および保持して、データの格納、データマイニング、カスタムレポート作成、分析、その他のアプリケーションとの統合など、特別に使用することができます。データ複製により、ローカルコントロールと、ネットワーク全体のすべてのデータを送信することなく、データセット全体の大きなまたはアドホックの分析クエリを実行する機能を使用することができます。

この項のトピックを読んで、データ複製のベストプラクティスについて理解してください。

## データ複製のための API コール

API コールを通じてデータ複製をサポートしています。

API コール	説明
<code>getUpdated()</code>	オブジェクトに対して指定された期間内に更新された(または追加、変更された)オブジェクトのリストを取得します。
<code>getDeleted()</code>	オブジェクトに対して指定された期間内に削除されたオブジェクトのリストを取得します。

クライアントアプリケーションからこれらの API コールを起動し、組織内のデータの中で、指定された期間内で更新または削除されたオブジェクトを確認できます。これらの API コールは更新された(または追加、変更された)オブジェクトの ID のセットを返します。同様に、最後に更新された時間または削除された時間を示すタイムスタンプ(ローカル時間ではなく、協定世界時(UTC))を返します。クライアントアプリケーションはこれらの結果を処理し、必要な変更をデータのローカルコピーに適用します。

## データ複製の範囲

この機能は、データ複製をターゲットとしたメカニズムを提供します(一方向へのデータのコピー)。この機能は、データの同期(双方向へのデータのコピー)やデータのミラーリングは提供しません。

## データ複製手順

次に、オブジェクトの一般的なデータ複製手順を示します。

- 「オブジェクトの構造変更の確認」で説明したとおり、最後の複製要求以降オブジェクトの構造が変更されたかどうかをオプションで確認できます。
- `getUpdated()` をコールし、データを取得するオブジェクトと期間を渡します。  
`getUpdated()` は、ログインしたユーザがアクセス権限を持つデータの ID を取得することにご注意ください。ユーザの共有モデル外のデータは取得されません。API は、ユーザが参照可能なオブジェクトの中で変更されたすべてのオブジェクトの ID を、変更内容に関わらず返します。ID についての詳細は、「[ID データ型](#)」を参照してください。
- すべての ID を配列に挿入します。配列の各 ID 要素に対し、`retrieve()` をコールして関連するオブジェクトからの必要な最新情報を取得します。その後、新しい行の挿入や既存の行の最新情報への更新などローカルデータに適切な処理を行います。
- `getDeleted()` をコールし、データを取得するオブジェクトと期間を渡します。`getUpdated()` 同様、`getDeleted()` は、ログインしたユーザがアクセス権限を持つデータの ID を取得することにご注意ください。ユーザの共有モデル外のデータは取得されません。API は、ユーザが参照可能なオブジェクトの中で変

更されたすべてのオブジェクトの ID を、変更内容に関わらず返します。ID についての詳細は、「[ID データ型](#)」を参照してください。

5. ID の配列すべてに対して繰り返し処理を行います。その後、クライアントアプリケーションは削除されたオブジェクトをローカルデータからも削除(または削除済みのフラグを設定)し、適切な処理を行います。クライアントアプリケーションが、取得したオブジェクト ID に一致する行をローカルデータに見つけられなかった場合、ローカルデータの行が削除されているか、作成されいなかったということになり、処理は実行されません。
6. オプションで、今後の参照のために要求の期間を保存します。`getDeleted()` `latestDateCovered` 値または `getUpdated()` `latestDateCovered` 値を使用して実行できます。

## データ複製のオブジェクト固有の要件

API オブジェクトは、データ複製について次の条件を満たさなければなりません。

- `getUpdated()` および `getDeleted()` コールは、ログインしているユーザがアクセス権を付与されているオブジェクトの作成または更新についての ID のみを受け取るよう、結果を絞り込みます。ID についての詳細は、「[ID データ型](#)」を参照してください。
- クライアントアプリケーションは、必要な権限のあるオブジェクトを複製できます。たとえば、組織のすべてのデータを複製するには、クライアントアプリケーションは「すべてのデータの参照」権限をもってログインしなければなりません。詳細は、「[データアクセスに影響する要素](#)」を参照してください。
- ログインしているユーザは、オブジェクトの参照権限を付与されている必要があります。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「組織のデフォルト共有モデルの設定」を参照してください。
- オブジェクトは複製可能として設定 (`replicable` を `true` に設定) しなければなりません。指定されたオブジェクトが複製可能かどうかを確認するには、アプリケーションでオブジェクトに対する `describeSObject()` コールを実行し、`describeSObjectResult` の `replicable` プロパティを確認します。

## 変更のポーリング

クライアントアプリケーションは、定期的にデータ変更のポーリングを行います。ポーリングについては、次の点を考慮する必要があります。

- ポーリングの頻度は、組織の Salesforce.com データのローカルデータへの適用の時差の許容範囲、という業務上の要件により異なります。クライアントアプリケーションによっては、日に 1 度の変更で十分であり、他のアプリケーションはより正確なデータを得るために 5 分ごとにポーリングを実施する必要があるかもしれません。
- 削除されたレコードは、`getDeleted()` + からアクセス可能な削除ログに記述されます。2 時間ごとに実行されるバックグラウンドプロセスは、削除ログのレコード数が制限を超えた場合、削除ログに書き込まれてから 2 時間以上経過したレコードを消去します。最も古いレコードから順に、削除ログが制限を下回るまで消去を行います。大量の削除ログによる Salesforce.com のパフォーマンス上の問題を防ぐためにこの処理を行います。制限値は次の数式を使って算出します。

5000 \* 組織のライセンス数

たとえば、1,000 ライセンスを所有する組織では、削除ログのレコード数が 5,000,000(5 百万) レコード以上になると消去処理を開始します。`getDeleted()` コールを実行する前に消去処理を実行すると、`INVALID_REPLICATION_DATE` エラーを返します。この例外が発生した場合、表全体に対するプル処理を実行する必要があります。

- API は、`dateTime` 値の秒の値を切り捨てます。たとえば、クライアントアプリケーションが 12:30:15 から 12:35:15 (協定世界時 (UTC)) までの時間を送信した場合、API は、12:30:00 から 12:35:00 (UTC) までに変更された項目(両端の値を含む) の情報を取得します。



メモ: 時間データの処理方法は、開発ツールごとに異なります。開発ツールによってはローカル時間表示するものも、協定世界時(UTC)を表示するものもあります。開発ツールごとの時間の処理方法はツールのドキュメントを参照してください。

- ポーリングの頻度は、5 分以上に設定することをお勧めします。アプリケーションの誤った処理により API コールを頻繁に実行しないように制御するよう設計されています。
- クライアントアプリケーションは、以前のデータ複製 API コールで使用した期間を保存する必要があります。それにより、データ複製が最後に正常に実行された時間をアプリケーション側で把握することができます。
- ローカルデータの整合性を確保するために、クライアントアプリケーションはポーリング中の関連する変更すべてを取得し、差異がないようにする必要があります(これにより、データを重複して処理しなければならないこともあります)。クライアントアプリケーションには、ローカルデータに既に統合済みのデータの処理を避けるためのビジネスロジックを組み込むことができます。
- ハードウェアエラーや接続エラーなど何らかの理由でクライアントアプリケーション側でデータのポーリングが失敗した場合も、データに差異が生じる場合があります。最後に正常に実行されたデータ複製とポーリングを確認し、次の処理期間を設定するためのビジネスロジックを、クライアントアプリケーションに組み込むことができます。
- 何らかの理由でローカルデータに変更が加えられた場合、ローカルデータを一から構築しなおすためのビジネスロジックを、クライアントアプリケーションに組み込む必要があることも考えられます。



メモ: ここで [アウトバウンドメッセージ](#) を使用し、ポーリングの代わりにアクションをトリガすることも可能です。

## オブジェクトの構造変更のチェック

API では、データの複製はオブジェクトレコードに対して行われた変更にのみを反映します。変更をオブジェクトの構造に加えるかどうかは指定しません(たとえば、カスタムオブジェクトに追加または削除する項目など)。指定されたオブジェクトの構造が最新の更新以降変更されたかどうかを確認するのは、クライアントアプリケーションです。データを複製する前に、クライアントアプリケーションはオブジェクトに対して `describeSObjects()` をコールし、`DescribeSObjectResult` で返されたデータと以前の `describeSObjects()` 呼び出しで返され、保存されたデータとを比較できます。

# 第 17 章

## 機能固有の考慮事項

---

### トピック:

- [アーカイブ済みの活動](#)
- [個人取引先のレコードタイプ](#)
- [商談売上予測上書きのビジネスルール](#)
- [コールセンターと API](#)
- [Force.com の Salesforce.com 統合の実行](#)

API を使用してアクセスする場合、一部の Salesforce.com 機能に以下のような特別な考慮事項が必要です。この項のトピックを読んで、活動、個人取引先、売上予測、業務規則、独自のアプリケーション作成についての特別な考慮事項について理解してください。

## アーカイブ済みの活動

Salesforce.com は、1 年以上経過した活動（タスクやイベント）をアーカイブします。

アーカイブされた、またはされていないすべての [ToDo](#) および [イベント](#) レコード上でクエリするために、[queryAll\(\)](#) を使用可能です。また、アーカイブ済みのオブジェクトのみを探すために、`isArchived` 項目を絞り込むことが可能です。`isArchived` が `true` に設定されている場合、自動的にすべてのレコードを除去してしまうので、[query\(\)](#) は使用不可能です。アーカイブ済みのレコードを更新または削除できますが、`isArchived` 項目を更新することはできません。API を使用して下記に示す基準を満たす活動を挿入すると、アーカイブのバックグラウンドプロセスを次に実行するときに活動がアーカイブされます。

古い [イベント](#) および [タスク](#) は、下記の基準に従ってアーカイブされます。Salesforce.com ユーザインターフェースでは、[印刷可能領域の表示] で、または活動履歴関連リストで [すべてを表示] をクリックするか、詳細検索を実行することによってのみ、アーカイブ済み活動を表示することができます。ただし、API では、アーカイブ済み活動は [queryAll\(\)](#) を使用してのみ問い合わせをすることができます。

次の基準に従って、活動がアーカイブされます。

- 365 日以上の [ActivityDateTime](#) または [ActivityDate](#) 値を持つ [イベント](#)
- [IsClosed](#) の値が `true` であり、365 日以上の [ActivityDate](#) の値を持つ [タスク](#)
- [IsClosed](#) の値が `true` であり、[ActivityDate](#) が空白で、作成日が 365 日以上前の [タスク](#)

## 個人取引先のレコードタイプ

API version 8.0 以降、[取引先](#) オブジェクトレコードタイプの新しいファミリ「個人取引先」レコードタイプを使用できます。個人取引先レコードタイプを使用すると、個人に販売または取引する特別なビジネス対コンシャー マー機能を使用できます。たとえば、医師、美容師、またはクライアントが個人である不動産代理店などです。個人取引先についての詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「個人取引先とは?」および「個人取引先の行動」を参照してください。

[取引先](#) 項目 [IsPersonAccount](#) が `true` に設定されている場合、レコードタイプは個人取引先レコードタイプとなります。Salesforce.com では 1 つのデフォルトの個人取引先レコードタイプ、PersonAccount がありますが、管理者は、追加の個人取引先レコードタイプを作成できます。それに対し、[取引先](#) 項目 [IsPersonAccount](#) を `false` に設定しているレコードタイプは「法人取引先」レコードタイプで、通常のビジネス対ビジネス (B2B) の Salesforce.com アカウントです。

個人取引先が作成されると（または既存の法人取引先が個人取引先に変更されると）、対応する取引先責任者レコードも作成されます。この取引先責任者レコードは、「個人取引先責任者」といいます。個人取引先責任者を使用すると、個人取引先は、取引先および取引先責任者と同時に機能することができます。これは、個人取引先と直接関連付ける唯一の取引先責任者レコードです。また、対応する個人取引先責任者レコードの ID は、個人取引先の [PersonContactId](#) 項目に保存されます。

個人取引先レコードタイプを使用する前に、それらについての詳細のリストを確認してください。

- 個人取引先機能を有効化するために、取引先の代表への連絡が必要な場合があります。

- 次の例のようなクエリを使用して、個人取引先レコードタイプのすべてのレコードを検索することができます。

```
SELECT Name, SObjectType, IsPersonType FROM RecordType WHERE SObjectType='Account' AND IsPersonType=True
```

- 取引先に対して `query()` コールを発行する場合、結果は `SObjectType` 項目のルートオブジェクトタイプを返します。つまり返される値は、常に `取引先` です。
- 個人取引先は変更できますが、作成または削除することはできません。これらの種類の取引先責任者には独自のレコード詳細ページがないため、クライアントは、ユーザを対応する個人取引先 (`取引先`) ページにリダイレクトする必要があります。SOSL の結果には、`IsPersonAccount` が `true` に設定されている場合に使用できる取引先責任者項目は指定されません。取引先責任者 `ReportsToId` 項目は参照できません。
- 取引先を削除すると、取引先責任者も削除されます。取引先責任者を直接削除することはできません。取引先を削除する必要があります。
- レコードタイプファミリ全体で取引先のレコードタイプを変更することができます(通常、法人取引先から個人取引先へ移行する場合に実行され、また逆の操作もサポートされています)。レコードタイプを法人取引先から個人取引先に変更すると、個人取引先が作成されます。個人取引先から法人取引先にレコードタイプを変更すると、個人の項目が `null` に設定され、個人取引先責任者が、変更前に同じ親取引先であった通常の取引先責任者となります。



メモ: Salesforce.com ユーザインターフェースではレコードタイプファミリーのレコードタイプを変更することはできません。

- 法人取引先のレコードタイプを、`update()` または `upsert()` を使用して個人取引先に変更する場合、同じコールの該当する取引先の項目に別の変更を行うことはできません。変更しようとすると、エラー `INVALID_FIELD_FOR_INSERT_UPDATE` が発生します。ただし、ある個人取引先レコードタイプから別の個人取引先レコードタイプに、またはある法人取引先レコードタイプから別の法人取引先レコードタイプへ、同じコールの別の変更であれば、レコードタイプの値を変更することができます。
- 法人取引先から個人取引先に変換する場合、それぞれの法人取引先レコードと、対応する取引先責任者レコードとの間に一対一のリレーションが必要です。さらに、所有者や通貨などの 2 つのレコードに共通する項目は、同じ値を指定する必要があります。
- ワークフローおよび入力規則式は、個人取引先との間でレコードタイプの変更を行っている間は起動しません。個人取引先レコードタイプが法人取引先に変更される場合(または法人取引先レコードタイプが個人取引先に変更される場合)に、ワークフローまたは入力規則式をトリガさせるには、更新が行われた後に発生する個別のトリガを設定します。
- 法人取引先を個人取引先に変更する場合、有効なレコードは変更され、無効なレコードについては結果配列にエラーが表示されます。
- 個人取引先を法人取引先に変更する場合、入力規則は実行されません。
- バージョン 7.0 以前の `describeLayout()` は、タブのデフォルトが個人取引先レコードタイプである場合も、デフォルトのレコードタイプとして法人取引先レコードタイプを返します。バージョン 8.0 以降では、デフォルトのレコードタイプは常にタブのデフォルトとなります。
- バージョン 7.0 以前では、`describeLayout()` は個人取引先レコードタイプは一切返しません。
- バージョン 7.0 以下の `describeSObject()` では、プロファイルに法人取引先レコードタイプへのアクセス権限がないため、作成できないものとして `取引先` オブジェクトが表示されます。
- 変換後、個人取引先には、作成された取引先責任者レコードとの一意の一対一リレーションがあります。すべての個人取引先に当てはまるため、別の取引先責任者は個人取引先に関連付けることはできません。

- 変換後、既存の取引先項目の履歴情報は個人取引先に残ります。既存の取引先責任者項目の履歴情報は取引先責任者に保持されますが、個人取引先項目の履歴には追加されません。

個人取引先の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

## 商談売上予測上書きのビジネスルール

カスタマイザブル売上予測は、Salesforce.com の年間売上データを追跡するのに望ましい方法です。組織のカスタマイザブル売上予測を有効化すると、「売上予測を上書き」権限を持つユーザは、売上予測の金額および直接のレポートを上書きすることができます。詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプの「カスタマイザブル売上予測の上書き」を参照してください。

次のオブジェクトを使用して、商談売上予測の上書き情報を取得します。

- [OpportunityOverride](#)
- [LineitemOverride](#)

これらの参照専用オブジェクトは、売上予測に関連する現在の値のが、商談から直接継承されるか、または処断売上予測の上書きを反映するかに関係なく、これらの値の最新レコードを保持します。継承された値は、商談オブジェクトとは別に、これらのオブジェクトに保存され、パフォーマンスを改善します。

上書きレコードが存在する場合(特定の値が上書きされたかどうかにかかわらず)、金額、数量、売上予測期間、売上予測分類の値、およびOpportunityOverride または LineitemOverride に保存された LineitemOverride 値の単価を使用して、レコードで指定された ownerId の売上予測を計算します。これらのオブジェクトは、売上予測に関する Opportunity または OpportunityLineItem のユーザの表示を表し、売上予測階層で指定されたユーザ下の商談所有者または売上予測マネージャーの上書きされた値を反映します。上書きレコードが存在しない場合、Opportunity レコードまたは OpportunityLineItem レコードを使用し、上書き情報は表示されません。

売上予測階層では、非リーフレベルごとに1人のユーザが売上予測マネージャーとして指定されます。売上予測マネージャーは、部下のユーザが所有する商談を表示する場合(売上予測有効化権限がある場合)、[商談の詳細] ページに商談売上予測関連リストを表示します。売上予測マネージャーの予測には、これら同じ部下からの貢献度が含まれます。売上予測マネージャと同じ役割のその他のユーザには、売上予測に反映される自身の商談のみが表示されます。



メモ: このセクションでは、売上予測マネージャと商談所有者について説明しています。ユーザからのトラバーサルについて説明し、売上予測階層について検証する場合、指定のない限りは順番に説明します。売上予測マネージャおよび売上予測階層の詳細は、Salesforce.com オンラインヘルプを参照してください。

組織でテリトリー管理が有効化されている場合、テリトリー階層は売上予測データを運用します。 Salesforce.com オンラインヘルプの「テリトリー管理の概要」を参照してください。

### OpportunityOverride ライフサイクル

OpportunityOverride レコードは、特定の条件の下、関連するユーザに対してのみ作成、更新、削除できます。



メモ: LineitemOverride レコードについては、同じ opportunityId と ownerId の親レコードが OpportunityOverride オブジェクトに常に存在するため、この項では OpportunityOverride レコードのライフサイクルについてまず説明し、続いて LineitemOverride レコード固有の動作について説明します。

## 商談のオーバーライドの作成

売上予測マネージャは、下位のユーザが所有する商談売上予測の関連リストを編集することで、Amount、Quantity、Forecast Period および ForecastCategory などの売上予測に関連する値をオーバーライドできます。また、商談の所有者は、所有する [商談](#) の ForecastCategory、StageName、Amount および CloseDate などの商談の売上予測に関連する値を変更できます。ForecastCategory を制御するルールは他にもあります。詳細は、「[特別なケース 売上予測分類](#)」を参照してください。

ユーザが特定の商談レコードに最初のオーバーライドを設定すると、[OpportunityOverride](#) レコードが作成され、商談所有者および売上予測階層の商談所有者より上の階層にいる売上予測マネージャに対し適切な値が作成されます。各ユーザのレコードに保存されている値は、階層での位置により異なります。オーバーライドを作成したユーザより下位のユーザには元の値が設定されます。他のユーザには、オーバーライドされた値が書き込まれ、オーバーライドされていない値には商談の値が設定されます。

その後もオーバーライド値が設定されると、新しい値はオーバーライドを設定したユーザと、売上階層内の上位の売上予測マネージャの OpportunityOverride に書き込まれ、既存のオーバーライド値に達するまで繰り返されます。

[売上予測設定] ページで数量予測が有効になっている場合、Salesforce.com ユーザーインターフェースで数量をオーバーライドできます。同様に、収益予測が有効になっている場合のみ、Amount をオーバーライドできます。



メモ: [商談予測編集] ページで商談所有者が変更可能な内容は、Opportunity レコードと関連する OpportunityOverride レコードに適用されます。

## 商談値と商談オーバーライド値の更新

商談レコード自身で商談予測関連の値が更新されるとときはいつでも、商談所有者と、売上予測階層の上位の売上予測マネージャの更新に対応する [OpportunityOverride](#) の値が更新され、最初のオーバーライド値に達するまで繰り返されます。商談所有者は ForecastCategory 以外はオーバーライドできませんが、ForecastCategory に加え [商談予測編集] ページの CloseDate と StageName を編集できます。この 3 つの項目はすべて商談レコードに対応しており、[商談予測編集] ページまたは [商談編集] ページのどちらで変更しても結果は同じです。

次の商談項目への変更も OpportunityOverride のレコードに影響します。

- 新しい CloseDate が古い CloseDate と比べて別の売上予測期間に含まれる場合、CloseDate は売上予測の PeriodId に影響します。この場合、OpportunityOverride の PeriodId は商談所有者および売上予測階層で所有者より上位のすべての売上予測マネージャの商談オーバーライドレコードで更新され、最初にオーバーライドされた PeriodId の値に達するまで繰り返されます。
- CurrencyType の IsoCode が変更されると、商談所有者の OpportunityOverride も必ず更新されます。他のオブジェクトが更新されるのは Amount が変更された場合に限られますが、Amount が変更される場合がほとんどです。
- テリトリリー管理が有効になっている場合、商談のテリトリリー変更により OpportunityOverride レコードにも影響を与えます。商談所有者の OpportunityOverride は新しいテリトリリーで更新され、売上予測階層で商談所有者より上位の売上予測マネージャの OpportunityOverride レコードは挿入または更新されます。新しい商談テリトリリーにおいて、オーバーライドされたレコードに保存されたテリトリリーが商談所有者より上位にない場合、その売上予測マネージャの OpportunityOverride レコードも削除されます。つまり、商談所有者は更新の前でも後でも売上予測マネージャより下位のままとなります。別のテリトリリーにロールアップした場合、その売上予測マネージャは古いテリトリリーの OpportunityOverride を失い、新しいテリトリリーで新しいレコードが作成されます。
- 商談が商談成立に設定されている場合 (StageName の値が Closed Won)、OpportunityOverride の AmountInherited、QuantityInherited および PeriodInherited 項目は true に設定され、対応する値が

異なる場合は商談に一致するように更新されます。OpportunityOverride の ForecastCategoryInherited フラグも true に設定され、商談の ForecastCategory は Omitted にオーバーライドされていない限り、Closed に設定されています。Omitted は、商談成立した ForecastCategory オーバーライドの唯一の有効値です。

- 商談が Closed Lost に設定されている場合、Amount および PeriodInherited フラグは true に設定されます。また、対応する値が商談と一致しない場合、一致するように更新されます。ForecastCategoryInherited フラグは true に設定され、ForecastCategory の現在の値が Omitted 以外の場合は Omitted に設定されます。

#### 商談のオーバーライドの削除

OpportunityOverride レコードは次のトリガイベントのいずれかが発生しない限りは削除されません。

- 商談が削除された。
- 特定の OpportunityOverride 所有者が 商談所有者より上位にいない、または関連するロールやテリトリーの売上予測マネージャではない、など売上予測階層に変更が生じた。
- 商談が、個別に、または取引先の移行の一環として新しい所有者またはテリトリーに移行された。
- 「売上予測を許可」権限がユーザで無効になった。

商談が新しい所有者に移行すると、新しい所有者の OpportunityOverride レコードが必要に応じて追加されます。また、売上予測階層で新しい所有者より上位にいない売上予測マネージャの OpportunityOverride レコードは削除されます。この売上予測マネージャには、商談の以前の所有者が含まれる可能性があります。また、売上予測階層で新しい所有者より上位のすべての売上予測マネージャに対し、OpportunityOverride レコードが必要に応じて更新または追加されます。商談所有者への制限は、移行中に厳密に適用されます。新しい所有者が前の所有者の売上予測階層に含まれており、Amount オーバーライドなど商談の所有者として既に有効でないオーバーライドを作成していた場合、対応する継承フラグは true に設定され、値は商談から更新されます。

#### 特別なケース 売上予測分類

ForecastCategory の値には、次の特別なルールが適用されます。選択されたフェーズのデフォルトの売上予測分類ではない新しい商談の ForecastCategory を設定した場合、または商談の既存の ForecastCategory を更新した場合、上に示すように関連するユーザの OpportunityOverride レコードが作成されます。商談所有者のみが商談レコードの ForecastCategory を直接更新できるため、このシナリオは商談所有者の ForecastCategory オーバーライドとして扱われます(ユーザの OpportunityOverride レコードの ForecastCategoryInherited フラグは false です)。

## LineitemOverride オブジェクトのライフサイクル

この項で説明するとおり、商品名のオーバーライドには他にも適用されるルールがあります。

#### 商品名オーバーライドの作成

各 OpportunityOverride レコードの LineitemOverride レコードの完全なセットは常に、商談 レコードに存在する商品名レコードを複製するように作成されます。ユーザが商談レベルまたは商品名レベルのいずれかでオーバーライドを行った場合、または [商談の編集] で [売上予測分類] を編集(商談所有者のみが可能)した場合のいずれにおいても、作成される Opportunity および LineitemOverride レコードから見れば結果は同一となります。

#### 商品名オーバーライドの更新

「商談値と商談オーバーライド値の更新」に記述されたすべての情報は、LineitemOverride レコードの更新に適用されます。その際、次の点が変更されます。

- 商談レベルでの売上予測分類のオーバーライドは、売上予測分類の特定の商品名がそのユーザまたは下位のユーザによってオーバーライドされていない場合、子の LineitemOverride レコードにオーバーライドされます。つまり、ユーザが商談レベルの売上予測分類のオーバーライドを確立すると、このユーザおよび上位のユーザの商品名の売上予測分類値の更新において、このユーザより下位の売上予測マネージャによる任意の商品名レベルの売上予測分類のオーバーライドが優先されます。ただし、逆は真ではありません。 OpportunityOverride レコードの売上予測分類は、任意のユーザによる LineitemOverride レコードでの売上予測分類のオーバーライドへのレスポンスとして更新されることはありません。ユーザが商品名レベルで売上予測分類のオーバーライドを設定する場合、オーバーライドを設定したユーザおよび売上予測階層におけるそのユーザより上位にいる売上予測マネージャの LineitemOverride レコードにそのオーバーライド値が書き込まれます。この処理は、既存のオーバーライド値に達するまで繰り返されます。
- Unit Price、Total Price および Quantity の商談商品名の値が変更された場合、商談所有者および売上予測階層の上位の所有者の LineitemOverride レコードに保存されます。この処理は、その項目の最初のオーバーライド値が見つかるまで繰り返されます。[売上予測の設定] ページで数量予測が有効になっている場合のみ、Salesforce.com ユーザインターフェースでの数量のオーバーライドが可能です。Unit Price と Total Price は、収益予測が有効になっている場合のみオーバーライドできます。

Quantity または Unit Price がオーバーライドされると、Total Price が算出され関連する LineitemOverride レコードに書き込まれます。Total Price のみがオーバーライドされ、Unit Price がオーバーライドされていない場合、Unit Price が算出され関連する LineitemOverride レコードに書き込まれます。両方がオーバーライドされた場合は算出されません。算出結果は、オーバーライドされた値と、オーバーライド値を継承した関連する LineitemOverride レコードを含む LineitemOverride レコードに適用されます。つまり、現在のレコードがオーバーライドされた場合、または下位の売上予測マネージャによるオーバーライドをレコードが継承している場合、指定された LineitemOverride レコードに対し、上記ルールに従い Total Price または Unit Price を算出します。

[設定] ▶ [カスタマイズ] ▶ [売上予測] ▶ [売上予測の設定] ▶ [売上予測の計上日付][スケジュール日] 選択リストで値を選択した場合、次の値はオーバーライドできません。

- 収益予測、または収益と数量の予測を行い、OpportunityLineItem レコードには収益によるスケジュールが含まれている場合、Unit Price および Total Price はオーバーライドできません。
- 数量予測、または収益と数量の予測を行い、OpportunityLineItem レコードには数量によるスケジュールが含まれている場合、数量はオーバーライドできません。

#### 商品名オーバーライドの削除

商品名が削除されると、その商品に関連するすべてのユーザの LineitemOverride は削除されます。この処理は商談と同様です。また、商談の移行および売上予測階層の変更は、商談のオーバーライド時の影響と同様に商品名のオーバーライドへも影響を与えます。つまり、OpportunityOverride レコードが削除されると、OpportunityId および OwnerId が一致する子の LineitemOverride レコードも削除されます。

## コールセンターと API

API は、`describeSoftphoneLayout()` コールで、コンピュータテレフォニー統合 (CTI) コールセンターについての情報へのアクセス権限を提供します。組織に CTI 統合機能を有効にする必要があります。取引先の担当者に連絡してください。

API は、コールセンターを作成し、コールセンターの追加番号を作成または変更できるようにするなど、コールセンター関連オブジェクトへの、制限つきアクセス権限をサポートします。

トピック	説明
CallCenter	項目や使用方法など、コールセンターオブジェクトの説明。
AdditionalNumber	ユーザ、取引先責任者、リード、取引先、またはその他のオブジェクトとして容易に分類できない場合、追加番号を追加できるようにする構成設定。例には、電話の待ち行列または会議室が含まれます。

また、いくつかの項目が既存オブジェクトに追加され、コールセンターをサポートします。次の項目は、コールセンターを操作するための構成設定が提供されています。

オブジェクト名	項目名	項目の種別	項目のプロパティ	説明
OpenActivity	CallDisposition	string	Create (タスクのみ) Filter Nillable Update (タスクのみ)	「コールバックします」または「コールに失敗しました」など、指定されたコールの結果を表します。最大 255 文字です。
ActivityHistory				
ToDo				タスクオブジェクトの場合、Salesforce.com ユーザインターフェースのラベルコールの結果に対応しています。ToDo のこの項目の値を作成および更新することもできます。
OpenActivity	CallDurationInSeconds	int	Create (ToDoのみ) Filter Nillable Update (ToDoのみ)	コールの時間(秒単位)。ToDoについては、この項目の値を作成および更新できます。
ActivityHistory				
ToDo				
OpenActivity	CallObject	string	Filter Nillable Update (ToDoのみ)	コールセンターの名前。最大 255 文字です。
ActivityHistory				
ToDo				ToDoについては、この項目の値を作成および更新できます。
OpenActivity	CallType	picklist	Create (ToDoのみ) Filter Nillable	応答するコールの種類(着信、社内、発信)。
ActivityHistory				
ToDo				ToDoについては、この項目の値を作成および更新できます。

オブジェクト名	項目名	項目の種別	項目の説明
		プロパティ	
		Restricted picklist	
		Update	
User	CallCenterId	reference	Create Filter Nillable Update
User	UserPermissionsCallCenterAutoLogin	boolean	Create Update
			Salesforce.com アプリケーションにログインする際にコールセンターに自動的にログインする (true) か、ログインしない (false) かを示します。

## Force.com の Salesforce.com 統合の実行

Force.com AppExchange アプリケーションを作成して、Force.com プラットフォームで Salesforce.com の統合またはその他のクライアントアプリケーションを実行することができます。

- 外部サイトにユーザセッション ID と API サーバ URL を渡す [WebLink](#) を作成します。

```
https://www.your_tool.com/test.jsp?sessionid={!API_Session_ID}&url={!API_Partner_Server_URL_80}
```

https を使用して、セッション ID が検出できないようにします。

- 上記で示されたページはセッション ID を取得し、それを使用して API にコールバックします。[getUserInfo\(\)](#) を使用して、セッションや関連情報に関する [userID](#) を返します。必要に応じて、User オブジェクトで [retrieve](#) を使用して、ユーザに関して必要な追加情報を取得します。
- [UserId](#) またはユーザ ID との相互参照を保持します。ユーザがタブを実行される [WebLink](#) またはページレイアウトの [WebLink](#) を使用して保持することができます。
- Salesforce.com オンラインヘルプのトピック「リリース用のアプリケーションの準備」の指示に従って、このアプリケーションをパッケージ化およびアップロードします。

# 用語集

---

[A](#) | [B](#) | [C](#) | [D](#) | [E](#) | [F](#) | [G](#) | [H](#) | [I](#) | [J](#) | [K](#) | [L](#) | [M](#) | [N](#) | [O](#) | [P](#) | [Q](#) | [R](#) | [S](#) | [T](#) | [U](#) | [V](#) | [W](#) | [X](#) | [Y](#) | [Z](#)

## A

### AJAX Toolkit

API周辺のJavaScriptラッパーで、APIコールを実行し、JavaScriptコードで表示する権限を持つオブジェクトにアクセスできます。詳細については、『[AJAX Toolkit Developer's Guide](#)』を参照してください。

### 匿名ブロック、Apex

Salesforce.comに格納できないが、`ExecuteAnonymousResult()` APIコールまたはAJAX Toolkitの同等のコードを使用してコンパイルおよび実行することができるApexスクリプトです。

### Apex

Force.com Apexコードは、開発者がForce.comプラットフォームサーバでフローとトランザクションの制御文をForce.com APIと組み合わせて実行できるようにした、強く定型化されたオブジェクト指向のプログラミング言語です。Javaに似た構文を使い、データベースのストアドプロシージャのように動作するApexコードを使用して、開発者は、ボタンクリック、関連レコードの更新、およびVisualforceページなどのほとんどのシステムイベントに対しビジネスロジックを追加できます。Apexスクリプトは、Webサービス要求から、およびオブジェクトのトリガから開始できます。

### Apexによる共有管理

開発者は、アプリケーションの動作をサポートする共有をプログラムで操作できるようになります。Apexによる共有管理は、カスタムオブジェクトでのみ有効です。

### App

「アプリケーション」の短縮形です。特定のビジネス要件を扱うタブ、レポート、ダッシュボードおよびVisualforceページなどのコンポーネントの集合です。Salesforce.comでは、セールスおよびコールセンターなどの標準アプリケーションを提供しています。お客様のニーズに合わせてこれらの標準アプリケーションをカスタマイズできます。また、アプリケーションをパッケージ化して、カスタム項目、カスタムタブ、カスタムオブジェクトなどの関連コンポーネントとともにForce.com AppExchangeにアップロードすることができます。そのアプリケーションをAppExchangeから他のSalesforce.comユーザが利用できるようにすることもできます。

### AppExchange

AppExchangeは、Force.comプラットフォーム用に作成されたアプリケーションとコンポーネントの参照、インストールおよび共有を可能にするsalesforce.comのオンデマンドアプリケーション共有サービスです。

## AppExchange のアップグレード

アプリケーションのアップグレードは、新しいバージョンをインストールするプロセスです。

## アプリケーションプログラミングインターフェース (API)

コンピュータシステム、ライブラリ、またはアプリケーションが、その他のコンピュータプログラムがサービスを要求したりデータを交換できるようにするために提供するインターフェース。

## B

### Boolean 演算子

Boolean 演算子をレポートプロファイルで使用して、2つの値の間の論理関係を指定できます。たとえば、2つの値の間で AND 演算子を使用すると、両方の値を含む検索結果が生成されます。同様に、2つの値の間で OR 演算子を使用すると、どちらかの値を含む検索結果が生成されます。

## C

### Callout

外部 Web サービスに情報を送信したり、結果を受信したりするメソッド。たとえば Apex の場合、コールアウトメソッドは、`@future` とアノテーションを付ける必要があります。

### 子リレーション

別の sObject を一对多リレーションの片方として参照する sObject に定義されたリレーション。たとえば、取引先責任者、商談および行動は取引先との子リレーションがあります。

sObject も参照してください。

### クラス、Apex

Apex オブジェクト作成するためのテンプレートまたはつまり設計図。他のクラス、ユーザ定義メソッド、変数、例外タイプ、および static 初期設定化コードで構成されます。多くの場合、Apex クラスは、Java 内のその対応物に基づいています。

### クライアントアプリケーション

Salesforce.com ユーザインターフェース外で稼動し、Force.com API または Bulk API のみを使用するアプリケーション。通常、デスクトップまたはモバイルデバイス上で稼動します。これらのアプリケーションは、プラットフォームをデータソースとして扱い、設計されたツールおよびプラットフォームの開発モデルを使用します。複合アプリケーションおよびネイティブアプリケーションを参照してください。

### コンポーネント、Visualforce

`<apex:detail>`などの一連のタグを使用して Visualforce ページに追加できます。Visualforce には、多くの標準コンポーネントが含まれていますが、独自のカスタムコンポーネントを作成することもできます。

### コンポーネントの参照、Visualforce

組織で使用できる Visualforce の標準コンポーネントおよびカスタムコンポーネントの説明。Visualforce ページの開発フッターまたは『Visualforce Developer's Guide』からコンポーネントライブラリにアクセスできます。

### コントローラ、Visualforce

Visualforce ページに実行する必要のあるデータおよびビジネスロジックを提供する Apex クラス。Visualforce ページは、デフォルトですべての標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクトに付属する標準コントローラを使用、またはカスタムコントローラを使用できます。

## 制御項目

対応する 1 つ以上の連動項目で使用可能な値を制御する、標準またはカスタムの選択リストやチェックボックスの項目。

## カスタムアプリケーション

「アプリケーション」を参照してください。

## カスタムリンク

Salesforce.com データを外部 Web サイトおよびバックエンドのオフィスシステムと統合するためにシステム管理者が定義したカスタム URL。以前は Web リンクと呼ばれていました。

## カスタムオブジェクト

組織固有の情報を保存することが可能なカスタムレコード。

## カスタム S コントロール

カスタムリンクで使用するカスタム Web コンテンツ。カスタム S コントロールには、Java アプレット、Active-X コントロール、Excel ファイル、カスタム HTML web フォームなど、ブラウザに表示できるあらゆる種類のコンテンツを入れることができます。

## D

### データベース

情報の編成された集合。Force.com プラットフォームの基底となるアーキテクチャには、データが格納されているデータベースが含まれています。

### データベース表

追跡する必要のある人物、物事、またはコンセプトに関する情報のリストで、行および列で表示されます。オブジェクトも参照してください。

### データローダ

Salesforce.com 組織のデータをインポートおよびエクスポートするために使用する Force.com プラットフォーム。

### データ操作言語 (DML)

Force.com プラットフォームデータベースからレコードを挿入、更新、削除する Apex のメソッドまたは操作。

### 日付リテラル

`last month` または `next year` など、時間の相対的範囲を示す SOQL クエリまたは SOSL クエリのキーワード。

### 小数点の位置

数値、通貨、パーセント項目で、小数点の右に入力できる桁数合計。たとえば、4.98 の場合は 2 となります。これ以上の桁の数値を入力した場合は、四捨五入されます。たとえば、[小数点の位置] が 2 の場合に 4.986 と入力すると、その数値は 4.99 となります。

### 代理認証

外部の権限を使用して Force.com プラットフォームユーザを認証するセキュリティ処理。

## 連動項目

対応する制御項目で選択された値に基づいて、使用可能な値が表示される、カスタムの選択リストまたは複数選択の選択リストの項目。

## Developer Force

Developer Force Web サイト ([developer.force.com](http://developer.force.com)) では、サンプルコード、ツールキット、オンラインの開発者コミュニティ、そして制限された Force.com プラットフォーム環境を取得する機能など、プラットフォーム開発者の幅広い範囲のリソースを提供しています。

## ドキュメントライブラリ

ドキュメントの保存場所。これらのドキュメントは、取引先や取引先責任者、商談、またはその他のレコードに添付しません。

## E

### 電子メールアラート

電子メールアラートは、電子メールテンプレートを使用してワークフロールールまたは承認プロセスによって生成され、Salesforce.com ユーザなど、指定された受信者に送信されるワークフローおよび承認アクションです。

## Enterprise WSDL

Salesforce.com 組織のみとの統合を構築する顧客、または強い定型化が必要な統合を構築するために Tibco や webMethods のようなツールを使用しているパートナー向けの、強く定型化された WSDL。Enterprise WSDL の欠点は、組織のデータモデルに存在するすべての一意のオブジェクトおよび項目にバインドされているため、1つの Salesforce.com 組織のスキーマだけを扱うという点です。

## エンティティ関係図 (ERD)

データをエンティティ (または Force.com プラットフォームではオブジェクト) に整理し、それらのリレーションを定義することができるデータモデリングツール。主要な Salesforce.com オブジェクトの ERD ダイアグラムについては、『*Force.com Web Services API Developer's Guide*』を参照してください。

## F

### 項目

テキストまたは通貨の値など、情報の特定の部分を保持するオブジェクトの一部。

## Force.com

アプリケーションを構築する salesforce.com プラットフォーム。Force.com は、強力なユーザインターフェース、オペレーティングシステムおよびデータベースを結合して、企業全体でアプリケーションをカスタマイズおよび展開できます。

## Force.com サイト

Salesforce.com 組織外のユーザが Force.com アプリケーションにアクセスできる機能。

## Force.com Web サービス API

Salesforce.com 組織の情報へのアクセスを提供する Web サービスベースのアプリケーションプログラミングインターフェース。

## 外部キー

値が別のテーブルのプライマリキーと同じ項目。外部キーは、別のテーブルのプライマリキーのコピーとしてみなすことができます。2つのテーブルのリレーションは、あるテーブルの外部キーの値と、別のテーブルのプライマリキーの値が一致することによって成り立ちます。

## 数式項目

カスタム項目の一種。差し込み項目、式、またはその他の値に基づいて、値を自動的に計算します。

## 関数

あらかじめ用意されている数式。入力パラメータを使用してカスタマイズできます。たとえば、DATE 関数は、年、月、および日付から日付データ型を作成します。

## G

### グレゴリオ暦

世界中で使用されている、12か月構造に基づいたカレンダー。

## H

### HTTP デバッガ

AJAX Toolkit から送信される SOAP 要求を識別し、調査するために使用できるアプリケーション。ローカルコンピュータで稼動するプロキシサーバとして動作し、各要求を調査および認証できます。

## I

### ID

Salesforce.com レコード ID を参照してください。

### インライン Sコントロール

各ページでなく、レコード詳細ページまたはダッシュボード内に表示されるSコントロール。

### インスタンス

組織のデータをホストし、アプリケーションを実行する单一の論理サーバとして示されるソフトウェアおよびハードウェアのクラスタ。Force.com プラットフォームは複数のインスタンスで稼動しますが、1つの組織のデータは常に1つのインスタンスに一元管理されています。

### 統合ユーザ

クライアントアプリケーションまたは統合に単独で定義された Salesforce.com ユーザ。Force.com Web サービス API コンテキストでは、ログインユーザともいいます。

### ISO コード

国際標準化機構が定める国コードで、各国を2文字で表します。

**J****連結オブジェクト**

2つの主従関係を持つカスタムオブジェクトです。カスタム連結オブジェクトを使用して、2つのオブジェクト間の「多対多」リレーションをモデル化できます。たとえば、「バグ」という名前のカスタムオブジェクトを作成し、1つのバグを複数のケースに、また1つのケースを複数のバグに関連付けることができます。

**K**

該当用語はありません。

**L****ライセンス管理アプリケーション(LMA)**

無料の AppExchange アプリケーションで、AppExchange から管理パッケージをダウンロードするすべてのユーザのセールスリードおよび取引先を追跡できます。

**ライセンス管理組織(LMO)**

パッケージをインストールするすべての Salesforce.com ユーザを追跡するために使用する Salesforce.com 組織。ライセンス管理組織には、ライセンス管理アプリケーション(LMA)をインストールする必要があります。ライセンス管理アプリケーションは、パッケージがインストールまたはアンインストールされるたびに自動的に通知を受信するため、簡単にユーザにアップグレードを通知できます。Enterprise Edition、Unlimited Edition、または Developer Edition の組織をライセンス管理組織として指定できます。詳細は、<http://sites.force.com/appexchange/publisherHome> にアクセスしてください。

**リストビュー**

特定の条件による項目(リード、取引先、または商談など)のリスト表示。Salesforce.com では、定義済みのビューを提供しています。

コンソールでは、リストビューが、具体的な条件に基づいてレコードのリストビューを表示する最上位のフレームです。[コンソール] タブに表示して選択できるリストビューは、各オブジェクトのタブで定義されたリストビューと同じです。コンソール内でリストビューを作成することはできません。

**ログインユーザ**

Force.com Web サービス API コンテキストで、Salesforce.com にログインするために使用するユーザ名。クラウドアントアプリケーションは、ログインユーザの権限および共有で稼動します。また、統合ユーザとも呼ばれます。

**M****管理パッケージ**

ユニットとして AppExchange に投稿され、名前空間とライセンス管理組織に関連付けられるアプリケーションコンポーネントの集合。パッケージは、AppExchange で広く公開し、アップグレードをサポートするために管理する必要があります。組織は、他の多くの組織でダウンロードおよびインストールできる単一の管理パッケージを作成できます。管理パッケージは、未管理パッケージとは異なり、コンポーネントの一部がロックされていて、後でアップグレードできます。未管理パッケージには、ロックされたコンポーネントは含まれておらず、アップグレードはできません。また、管理パッケージでは、開発者の知的財産保護のため、登録している組織では特定のコンポーネント(Apex など)は隠されます。

## 共有の直接設定

レコード所有者はレコードにアクセス権限を持たないユーザに参照権限および編集権限を与えることができるレコードレベルのアクセスルール。

## 多対多リレーション

リレーションの両端に多くの子があるリレーション。多対多リレーションは、連結オブジェクトを使用して実装されます。

## メタデータ

組織およびいざれかの部署の構造、外観、機能に関する情報。Force.com では、メタデータを記述するのに XML を使用します。

## メタデータ WSDL

Force.com Metadata API コールを使用するユーザの WSDL。

## マルチテナンシー

すべてのユーザおよびアプリケーションが单一で共通のインフラストラクチャおよびコードベースを共有するアプリケーションモデル。

## N

### 名前空間

パッケージコンテキストでは、ドメイン名と同様、AppExchange にある自社パッケージとそのコンテンツを他の開発者のパッケージと区別するための 1 - 15 文字の英数字で構成される識別子。Salesforce.com では、Salesforce.com 組織のすべての一意のコンポーネント名に自動的に名前空間プレフィックスを 2 つのアンダースコア (“\_”) の前に追加します。

### ネイティブアプリケーション

Force.com の設定(メタデータ)定義で排他的に開発されたアプリケーションです。ネイティブアプリケーションには、外部サービスまたは外部インフラストラクチャは必要ありません。

## O

### オブジェクト

Salesforce.com 組織に情報を保存するために使用するオブジェクト。オブジェクトは、保存する情報の種類の全体的な定義です。たとえば、ケースオブジェクトを使用して、顧客からの問い合わせに関する情報を保存できます。各オブジェクトについて、組織は、そのデータ型の具体的なインスタンスに関する情報を保存する複数のレコードを保有します。たとえば、佐藤次郎さんから寄せられたトレーニングに関する問い合わせに関する情報を保存するケースレコードと、山田花子さんから寄せられたコンフィグレーションの問題に関する情報を保存するケースレコードなどです。

### オブジェクトレベルセキュリティ

特定のユーザに対してタブやオブジェクト全体を非表示にできる設定。ユーザはそうしたデータの存在を知ることもできません。プラットフォームでは、ユーザプロファイルのオブジェクト権限を使用して、オブジェクトレベルのアクセスルールを設定します。

### onClick JavaScript

ボタンまたはリンクをクリックすると実行する JavaScript コード。

## 一对多リレーション

1つのオブジェクトが多数のオブジェクトに関連するリレーション。たとえば、取引先に1つまたは複数の関連取引先責任者がある場合があります。

## 組織の共有設定

ユーザが組織で持つデータアクセスのベースラインレベルを指定できる設定。たとえば、ユーザプロファイルで有効化されている特定のオブジェクトの任意のレコードを参照できますが、編集するには別の権限が必要となるよう、設定できます。

## アウトバウンドコール

Salesforce CRM Call Center のコールセンターの外部にユーザがから発信するコール。

## アウトバウンドメッセージ

外部サービスなどの指定したエンドポイントに指定の情報を送信するワークフローおよび承認活動です。アウトバウンドメッセージは、エンドポイントに対し、特定の項目内のデータを SOAP メッセージとして送信します。アウトバウンドメッセージは、Salesforce.com の設定メニューで設定します。その後で、外部エンドポイントを設定する必要があります。Force.com Web サービス API を使用して、メッセージのリスナーを作成できます。

## P

### PaaS

サービスプラットフォームを参照してください。

### パッケージ

AppExchange を介して他の組織で使用可能な Force.com のコンポーネントおよびアプリケーションのグループです。Force.com AppExchange にまとめてアップロードできるように、パッケージを使用してアプリケーションおよび関連するコンポーネントをバンドルします。

### パッケージの連動関係

1つのコンポーネントが、そのコンポーネントが有効であるために存在する必要がある他のコンポーネント、権限、または設定を参照する場合に作成されます。コンポーネントに含めることができるのは、次のとおりです(ただし、それに限定するものではありません)。

- 標準項目またはカスタム項目
- 標準オブジェクトまたはカスタムオブジェクト
- Visualforce ページ
- Apex スクリプト

権限と設定に含めることができるのは、次のとおりです(ただし、それに限定するものではありません)。

- ディビジョン
- マルチ通貨
- レコードタイプ

### パッケージのインストール

パッケージのコンテンツを Salesforce.com 組織に組み込みます。AppExchange のパッケージには、アプリケーション、コンポーネントまたはこの 2 つの組み合わせを含めることができます。パッケージをインストール

した後に、適宜パッケージのコンポーネントをリリースして組織のユーザが一般的に使用できるようにします。

#### パッケージの公開

パッケージを公開すると、Force.com AppExchange 上で公開して使用できるようになります。特定のカテゴリ内でキーワード検索を実行すると、アプリケーションが見つかります。

#### パッケージの登録

パッケージを登録すると、Force.com AppExchange からアプリケーションにアクセスまたはダウンロードするユーザに関する情報にアクセスできます。

#### パッケージバージョン

パッケージバージョンは、パッケージでアップロードされる一連のコンポーネントです。2.1 のように、*majorNumber.minorNumber.patchNumber* という形式のバージョン番号で示されます。*patchNumber* は、パッチが作成された場合にのみ生成されます。*patchNumber*がない場合、0 であるものとします。パッチバージョンは現在、パイロットプログラムで使用できます。組織のパッチバージョンの有効化に関する詳細は、salesforce.com までお問い合わせください。

未管理パッケージはアップグレードできないため、各パッケージバージョンは単に配布用コンポーネントのセットです。パッケージバージョンは管理パッケージでより大きな意味を持ちます。パッケージは異なるバージョンで異なる動作をします。公開者は、パッケージバージョンを使用して、パッケージを使用する既存の連携に影響を与えることなく後続のパッケージバージョンをリリースすることにより、管理パッケージのコンポーネントを発展させることができます。

#### パッケージ

AppExchange を介して他の組織で使用可能な Force.com のコンポーネントおよびアプリケーションのグループです。Force.com AppExchange にまとめてアップロードできるように、パッケージを使用してアプリケーションおよび関連するコンポーネントをバンドルします。

#### Partner WSDL

複数の Salesforce.com 組織にわたって機能できる統合または AppExchange アプリケーションを構築する顧客、パートナー、ISV 向けの弱く定型化された Partner WSDL。この WSDL を使用すると、開発者は、通常は XML の編集が行われる適切なオブジェクト表示でのデータのマーシャリングに対応します。ただし、開発者は特定のデータモデルまたは Salesforce.com 組織に依存しません。これに対し、Enterprise WSDL は強く定型化されています。

#### 個人情報

ユーザ一般情報。個人の取引先責任者情報、目標、非公開グループ情報、およびデフォルトの営業チームなどが含まれます。

#### 選択リスト

Salesforce.com オブジェクトの特定の項目で選択できる選択肢。たとえば、取引先の [業種] 項目など。ユーザは、項目に直接入力せずに、選択リストから 1 つの値を選択できます。「マスタ選択リスト」も参照してください。

#### 選択リスト(複数選択)

Salesforce.com オブジェクトで特定の項目について使用できるオプションの選択リスト。複数選択の選択リストを使用して 1 つまたは複数の値を選択できます。ユーザは値をダブルクリックして選択するか、Control

キーを押したまま値をクリックしてスクロールリストから複数の値を選択し、矢印アイコンを使用して選択されたボックスに値を移動できます。

### サービスプラットフォーム (PaaS)

開発者が、アプリケーションを作成し、クラウドで展開するためにサービスプロバイダに提供されたプログラムツールを使用する環境。アプリケーションはサービスとしてホストされ、顧客にインターネットを経由して提供されます。PaaS ベンダは、専門アプリケーションを作成し、展開する API を提供します。PaaS ベンダは、展開アプリケーションおよび各顧客データの日常メンテナンス、操作およびサポートを行う責任があります。このサービスで、プログラマが独自のハードウェア、ソフトウェア、そして関連ITリソースを使用してアプリケーションをインストール、構成、保守する必要性を緩和します。PaaS 環境を使用して、あらゆる市場区分にサービスを配信することができます。

### Platform Edition

Sales や Service & Support などの標準 Salesforce.com CRM アプリケーションを含まない Enterprise Edition または Unlimited Edition に基づいた Salesforce.com のエディション。

### プライマリキー

リレーションナルデータベースのコンセプト。リレーションナルデータベースの各テーブルには、データ値が一意にレコードを識別する項目があります。この項目を、プライマリキーと呼びます。2つのテーブルのリレーションは、あるテーブルの外部キーの値と、別のテーブルのプライマリキーの値が一致することによって成り立ちます。

### 運用組織

実際の運用データにアクセスするユーザを持っている Salesforce.com 組織。

## Q

### キュー

処理する前にアイテムを置いておく領域。Salesforce.com では、さまざまな機能やテクノロジーにキューを使用します。

### クエリロケータ

返された最後の結果レコードのインデックスを指定する、`query()` または `queryMore()` API コールから返されるパラメータ。

### クエリ文字列パラメータ

通常 URL の「?」文字の後に指定されている名前-値のペア。例:

```
http://na1.salesforce.com/001/e?name=value
```

## R

### レコード

Salesforce.com オブジェクトの单一インスタンス。たとえば、「John Jones」は取引先責任者レコードの名前となります。

## レコード名

すべての Salesforce.com オブジェクトの標準項目。レコード名が Force.com アプリケーションに表示されると、値はレコードの詳細ビューへのリンクとして表示されます。レコード名は自由形式のテキストまたは自動採番項目です。□レコード名□は一意の値である必要はありません。

## レコードタイプ

レコードタイプごとに標準あるいはカスタムの選択リスト項目で定義された選択リスト値のサブセットを保持可能です。利用可能なレコードタイプはプロファイルごとに決められ、用途に応じて必要な選択リスト値のみを使用可能にすることができます。

## レコードレベルセキュリティ

データを制御する方法で、特定のユーザがオブジェクトを参照および編集でき、ユーザが編集できるレコードを制限できます。

## ごみ箱

削除した情報を表示し、復元できるページ。ごみ箱には、サイドバー内のリンクからアクセスします。

## 関連オブジェクト

特定の種類のレコードがコンソールの詳細ビューに表示されたときに、システム管理者がコンソールのミニビュー表示するために選択したオブジェクト。たとえば、システム管理者は、ケースが詳細ビューに表示されているときにミニビューに表示されるアイテムとして、関連する取引先、取引先責任者、納入商品などを指定できます。

## リレーション

ページレイアウト内の関連リストおよびレポート内の詳細レベルを作成するために使われる、2つのオブジェクトの間の接続。両方のオブジェクトの特定の項目において一致する値を使用して、関連するデータにリンクします。たとえば、あるオブジェクトには会社に関連するデータが保存されていて、別のオブジェクトには人に関連するデータが保存されている場合、リレーションを使用すると、その会社で働いている人を検索できます。

## リレーションクエリ

SOQL コンテキストで、オブジェクト間のリレーションを検証し、結果を識別および返すクエリ。親対子および子対親の構文は、SOQL クエリでは異なります。

## レポートタイプ

レポートの基本として使用できるオブジェクトおよび項目を指定します。定義済みの標準レポートタイプのほか、より高度なレポート要件のカスタムレポートタイプを作成できます。

## ロール階層

組織の共有モデルとは無関係に、上位レベルのユーザはロール階層において下位のユーザによって所有または共有されているすべてのデータを参照、編集、およびレポートを作成できるよう、ユーザのさまざまなレベルを定義するレコードレベルのセキュリティ設定。

## 積み上げ集計項目

主従関係の子レコードの値の集計値を自動的に提供する項目の種類。

## レポート実行ユーザ

セキュリティ設定がダッシュボードに表示されるデータを指定するユーザ。1つのダッシュボードには1人の実行ユーザのみが指定されるため、そのダッシュボードにアクセスできる全員に対して、各個人のセキュリティ設定に関係なく同じデータが表示されます。

## S

### SaaS

「サービスソフトウェア (SaaS)」を参照してください。

### Sコントロール

カスタムリンクで使用するカスタムWebコンテンツ。カスタムSコントロールには、Javaアプレット、Active-Xコントロール、Excelファイル、カスタムHTML webフォームなど、ブラウザに表示できるあらゆる種類のコンテンツを入れることができます。



注意: Sコントロールは、Visualforceページに置き換えられました。2010年以降のいずれかの時期に、新しいSコントロールを作成、配布する機能が廃止されます。既存のSコントロールに影響はありません。

### Salesforce.com SOA (サービス指向アーキテクチャ)

Apex内から外部Webサービスへのコールを作成できるForce.comの強力な機能。

### Sandbox組織

Salesforce.com運用組織のほぼ同一コピー。テストやトレーニングなど様々な目的のために、運用組織のデータとアプリケーションに影響を与えることなく、複数のSandboxをそれぞれの環境に作成できます。

### 検索条件

リストビューまたはレポートに含まれる項目に該当する、特定の項目に対する条件。たとえば「都道府県」「次の文字列と一致する」「東京都」など。

### 検索語句

検索語句は、www.google.comで検索するときにユーザが入力するクエリです。

### セッションID

ユーザが正常にSalesforce.comにログインした場合に返される認証トークン。セッションIDを使用すると、ユーザがSalesforce.comで別のアクションを実行したいときに再度ログインできなくなります。レコードIDまたはSalesforce.com IDと異なり、Salesforce.comレコードの一意のIDを示す用語です。

### セッションタイムアウト

单一のセッションIDが、期限が切れるまで有効である間の時間。セッションが有効である間、ユーザはWebインターフェースで作業しますが、行われるトランザクション数とは無関係に、セッションタイムアウトの期間を過ぎるとAPI経由でインスタンス化されたセッションは無効になります。

### 設定

Force.comアプリケーションをカスタマイズおよび定義できる管理領域。Salesforce.comページ上部の設定リンクから設定にアクセスします。

## Sites

Force.com Sites では、Salesforce.com 組織と直接統合された公開 Web サイトやアプリケーションを作成できます。ユーザは、ユーザ名やパスワードを使用してログインする必要がありません。

## スニペット

スニペットは、他の Sコントロールに組み込めるよう設計された Sコントロールです。コードの一部で他のメソッドによって使用されるヘルパーメソッドと同様、スニペットを使用して、複数のSコントロールで再利用できる HTML や JavaScript の 1つのコピーを保持できます。

## SOAP (Simple Object Access Protocol)

XML エンコードデータを渡す一定の方法を定義するプロトコル。

## サービスソフトウェア (SaaS)

ソフトウェアアプリケーションがサービスとしてホストされ、顧客にインターネットを経由して提供される配信モデル。SaaS ベンダは、アプリケーションおよび各顧客データの日常メンテナンス、操作およびサポートを行う責任があります。このサービスで、顧客が独自のハードウェア、ソフトウェア、そして関連ITリソースを使用してアプリケーションをインストール、構成、保守する必要性を緩和します。SaaS モデルを使用して、あらゆる市場区分にサービスを配信することができます。

## SOQL (Salesforce.com オブジェクトクエリ言語)

Force.com データベースからデータを選択するために使用する必要のある単純で強力なクエリ文字列を構築し、基準を指定できるクエリ言語。

## SOSL (Salesforce.com オブジェクト検索言語)

Force.com API を使用して、テキストベースの検索を実行できるクエリ言語。

## 標準オブジェクト

Force.com プラットフォームに含まれる組み込みオブジェクト。アプリケーション独自の情報を格納するカスタムオブジェクトを作成することもできます。

## シンジケーションフィード

ユーザに、Force.com サイト内の変更を登録し、外部のニュースリーダの更新を受け取る機能を提供します。

## システムログ

コードスニペットのデバッグに使用できる独立したウィンドウ。ウィンドウの下部にテストするコードを入力して、[実行] をクリックします。[システムログ] の本文には、実行する行の長さや、作成されたデータベースコール数などのシステムリソース情報が表示されます。コードが完了しなかった場合は、コンソールにデバッグ情報が表示されます。

## T

### Test メソッド

特定のコードが適切に動作しているかを確認する Apex クラスマソッド。Test メソッドは引数を採用せず、データをデータベースにコミットしません。また、コマンドラインまたは Force.com IDE のような Apex IDE で `runTests()` システムメソッドによって実行できます。

## トランスレーションワークベンチ

ユーザがカスタム項目名、選択リストの値、レコードタイプ、およびページレイアウトセクションを翻訳することのできる管理設定エリア。トランスレーションワークベンチでは、他言語への翻訳が可能なユーザを決定することもできます。

## トリガ

データベースの特定の種類のレコードが挿入、更新、または削除される前後で実行する Apex の一部です。各トリガは、トリガが実行されるレコードへのアクセス権限を提供する一連のコンテキスト変数で実行し、すべてのトリガは一括モードで実行します。つまり、一度に 1 つずつレコードと処理するのではなく、複数のレコードを一度に処理します。

## トリガコンテキスト変数

トリガおよびトリガが起動するレコードに関する情報へのアクセス権限を提供するデフォルト値。

## U

## V

### 入力規則

指定される基準に一致しない場合、レコードを保存しない規則。

### Visualforce

開発者が、プラットフォームに作成されたアプリケーションのカスタムページおよびコンポーネントを容易に定義できる、シンプルなタグベースのマークアップ言語。各タグが、ページのセクション、関連リスト、または項目など、大まかなコンポーネントときめの細かいコンポーネントのどちらにも対応しています。コンポーネントの動作は、標準の Salesforce.com ページと同じロジックを使用して制御することも、開発者が独自のロジックを Apex で記述されたコントローラと関連付けることもできます。

## W

### Web コントロール

### Web サービス

様々なプラットフォームで稼動、さまざまな言語で作成、またはお互い地理的に離れている場合であっても、2つのアプリケーションがインターネットを経由してデータを容易に交換できるメカニズム。

### WebService メソッド

Sコントロールやサードパーティのアプリケーションのマッシュアップなど、外部システムによって使用できる Apex クラスメソッドまたは変数。Web サービスマソッドは、グローバルクラスで定義する必要があります。

### Web タブ

ユーザがアプリケーション内から外部 Web サイトを使用できるカスタムタブ。

### ワークフローと承認時のアクション

ワークフローと承認時のアクションは、ワークフロールールまたは承認プロセスで起動できる電子メールアラート、ToDo、項目自動更新、アウトバウンドメッセージで構成されています。

## ワークフローアクション

ワークフロールールの条件を満たす場合に行われる電子メールアラート、項目自動更新、アウトバウンドメッセージ、または ToDo。

## ワークフロー電子メールアラート

ワークフロールールが起動したときに電子メールを送信するワークフローアクション。ワークフロータスクと異なり、アプリケーションユーザにのみ割り当てることができ、ワークフローアラートは有効な電子メールアドレスがある限り、ユーザまたは取引先責任者に送信できます。

## ワークフロー項目自動更新

ワークフロールールが起動したときに、レコードの特定の項目の値を変更するワークフローアクション。

## ワークフローアウトバウンドメッセージ

別のクラウドコンピューティングアプリケーションなど、外部 Web サービスにデータを送信するワークフローアクション。アウトバウンドメッセージは、主に複合アプリケーションで使用されます。

## ワークフローキュー

1つまたは複数の時間ベースワークフローアクションがあるワークフロールールに基づいて起動するようスケジュールされたいる、ワークフローアクションのリスト。

## ワークフロールール

ワークフロールールは、指定された条件に該当するときに、ワークフローアクションを実行します。ワークフローアクションは、ワークフロールールで指定された条件をレコードが満たすと直ちに実行するか、タイムトリガを設定して特定の日に実行するように設定することができます。

## ワークフロー ToDo

ワークフロールールが起動したときに ToDo をアプリケーションに割り当てるワークフローアクション。

## ラッパークラス

ログイン、セッションの管理、レコードのクエリおよびバッチなど、一般的な機能を抽象化するクラス。ラッパークラスを使用すると、統合でより容易にプログラムロジックを開発、保持、および一か所に保存でき、コンポーネント間で容易に再利用できるようになります。Salesforce.com のラッパークラスには、Salesforce.com Web Services API 周辺の JavaScript ラッパーである AJAX Toolkit、CTI Adapter for Salesforce CRM Call Center の `CCritical Section` などのラッパークラス、Force.com Web Services API を使用して Salesforce.com もアクセスするクライアント統合アプリケーションの一部として作成されたラッパークラスがあります。

## WSDL (Web Services Description Language) ファイル

Web サービスと送受信するメッセージの形式を説明する XML ファイル。開発環境の SOAP クライアントは、Salesforce.com Enterprise WSDL または Partner WSDL を使用して、Salesforce.com Web サービス API を使用する Salesforce.com と通信します。

## X

該当用語はありません。

## Y

該当用語はありません。

**Z**

該当用語はありません。

# 索引

## A

Account オブジェクト 98  
 AccountContactRole オブジェクト 107  
 AccountHistory オブジェクト 108  
 AccountOwnerSharingRule オブジェクト 108  
 AccountPartner オブジェクト 110  
 AccountShare オブジェクト 111  
 AccountTag オブジェクト 113  
 AccountTeamMember オブジェクト 114  
 AccountTerritoryAssignmentRule オブジェクト 116  
 AccountTerritoryAssignmentRuleItem オブジェクト 117  
 ActivityHistory 119  
 AdditionalNumber オブジェクト 122  
 AllowFieldTruncationHeader ヘッダー 554  
 Apex および SOSL 487  
 Apex の使用時期 10  
 ApexClass オブジェクト 124  
 ApexComponent オブジェクト 126  
 ApexPage オブジェクト 128  
 ApexTrigger オブジェクト 130  
 API データ型を Salesforce.com 項目にマッピングするデータ型 34  
 API データ型を Salesforce.com 項目へのマッピング 34  
 API 使用率の測定 568  
 API 要求の制限 (API 使用率の測定) 568  
 Approval オブジェクト 132  
 AssetTag オブジェクト 137  
 AssignmentRule オブジェクト 137  
 AssignmentRuleHeader ヘッダー 555  
 AsyncApexJob オブジェクト 138  
 Attachment オブジェクト 139

## B

Boolean 項目  
 絞り込み 452  
 BrandTemplate 143  
 BusinessProcess オブジェクト 148

## C

CallCenter オブジェクト 149  
 CallOptions ヘッダー 556  
 CallOptions ヘッダーの client パラメータ 556  
 CampaignMember オブジェクト 155  
 CampaignMemberStatus オブジェクト 158  
 CampaignOwnerSharingRule オブジェクト 159  
 CampaignShare オブジェクト 160  
 CampaignTag オブジェクト 161  
 CaseComment オブジェクト 167  
 CaseContactRole オブジェクト 168  
 CaseHistory オブジェクト 169  
 CaseOwnerSharingRule オブジェクト 170  
 CaseShare オブジェクト 171  
 CaseSolution オブジェクト 173  
 CaseStatus オブジェクト 173

CaseTag オブジェクト 174  
 CaseTeamMember オブジェクト 175  
 CaseTeamRole オブジェクト 176  
 CaseTeamTemplate オブジェクト 176  
 CaseTeamTemplateMember オブジェクト 177  
 CaseTeamTemplateRecord オブジェクト 177  
 CategoryData オブジェクト 178  
 CategoryNode オブジェクト 179  
 CategoryNodeLocalization オブジェクト 180  
 ContactHistory オブジェクト 188  
 ContactOwnerSharingRule オブジェクト 189  
 ContactShare オブジェクト 190  
 ContactTag オブジェクト 192  
 ContentDocument オブジェクト 193  
 ContentDocumentHistory オブジェクト 194  
 ContentVersion オブジェクト 195  
 ContentVersionHistory オブジェクト 201  
 ContentWorkspace オブジェクト 202  
 ContentWorkspaceDoc オブジェクト 203  
 ContractContactRole オブジェクト 209  
 ContractHistory オブジェクト 210  
 ContractStatus オブジェクト 210  
 ContractTag オブジェクト 211  
 convertLead() コール 415  
 count() 462  
 create() コール 420  
 CreatedById 項目 53  
 CreatedDate 項目 53  
 CronTrigger オブジェクト 212  
 CurrencyType オブジェクト 214

## D

DatedConversionRate オブジェクト 215  
 delete() コール 424  
 describeGlobal() コール 509  
 describeLayout() コール 512  
 describeSObject() コール 520  
 describeSObjects() コール 522  
 describeSObjects() コール 522  
 describeSoftphoneLayout() コール 533  
 describeTabs() コール 535  
 DivisionLocalization オブジェクト 217  
 DocumentAttachmentMap 222  
 DocumentTag オブジェクト 222

## E

EmailHeader ヘッダー 557  
 EmailMessage オブジェクト 223  
 EmailServicesAddress オブジェクト 225  
 EmailServicesFunction オブジェクト 227  
 EmailStatus 231  
 EmailTemplate オブジェクト 222, 232  
 emptyRecycleBin() コール 426

Enterprise WSDL と .Net 571  
EntityHistory オブジェクト 235  
EventAttendee オブジェクト 244  
EventTag オブジェクト 245

**F**

FIND および Apex 487  
FIND 句 (SOSL) 485  
FiscalYearSettings オブジェクト 246  
ForecastShare オブジェクト 250

**G**

getDeleted() コール 428  
getServerTimestamp() コール 538  
getUpdated() コール 432  
getUserInfo() コール 539  
GroupMember オブジェクト 252

**H**

Headers  
AllowFieldTruncationHeader 554  
AssignmentRuleHeader 555  
CallOptions 556  
EmailHeader 557  
LocaleOptions 559  
LoginScopeHeader 559  
MruHeader 560  
PackageVersionHeader 561  
QueryOptions 562  
SessionHeader 563  
SOAP 553  
UserTerritoryDeleteHeader 563  
Holiday オブジェクト 253  
HTTP のチャンク 570  
HTTP 永続接続 570

**I**

ID 項目 53  
IdeaComment オブジェクト 258  
IN 句 (SOSL) 488  
invalidateSessions() コール 434  
ISO-8859-1 570

**L**

LastModifiedById 項目 53  
LastModifiedDate 項目 53  
LeadHistory オブジェクト 268  
LeadOwnerSharingRule オブジェクト 269  
LeadShare オブジェクト 270  
LeadStatus オブジェクト 271  
LeadTag オブジェクト 272  
LIMIT 463  
LIMIT 句 (SOSL) 496  
LineItemOverride オブジェクト 273  
LocaleOptions ヘッダー 559  
login() コール 435  
LoginScopeHeader 559

logout() コール 438

**M**

MailMergeTemplate オブジェクト 274  
merge() コール 439  
MruHeader ヘッダー 560  
MruHeader ヘッダーの updateMru パラメータ 560

**N**

NoteAndAttachment オブジェクト 278  
NoteTag オブジェクト 279  
null 値と外部キーリレーションクエリ 469

**O**

OpenActivity オブジェクト 280  
OpportunityCompetitor オブジェクト 289  
OpportunityContactRole オブジェクト 290  
OpportunityFieldHistory オブジェクト 291  
OpportunityHistory オブジェクト 292  
OpportunityLineItem オブジェクト 293  
OpportunityLineItemSchedule オブジェクト 297  
OpportunityOverride オブジェクト 300  
OpportunityOwnerSharingRule オブジェクト 301  
OpportunityPartner オブジェクト 302  
OpportunityShare オブジェクト 303  
OpportunityStage オブジェクト 304  
OpportunityTag オブジェクト 307  
OpportunityTeamMember オブジェクト 306  
ORDER BY  
  SOQL SELECT 462  
ORDER BY 句  
  SOSL FIND 495  
OrgWideEmailAddress オブジェクト 317

**P**

PackageVersionHeader ヘッダー 561  
PartnerNetworkConnection オブジェクト 319  
PartnerNetworkRecordConnection オブジェクト 320  
PartnerRole オブジェクト 323  
Pricebook2 オブジェクト 325  
PricebookEntry オブジェクト 327  
process() コール 442  
ProcessInstance オブジェクト 329  
ProcessInstanceHistory オブジェクト 330  
ProcessInstanceStep オブジェクト 331  
ProcessInstanceWorkitem 332  
Product2 オブジェクト 333

**Q**

QuantityForecast オブジェクト 341  
QuantityForecastHistory オブジェクト 345  
query()  
  パッチサイズ操作 473  
query() コール 444  
  SOQL の概要 447  
query() のパッチサイズ操作 473

queryAll() コール 473  
 queryMore() コール 475  
QueryOptions ヘッダー 562  
Question オブジェクト 347  
QueueSobject オブジェクト 348

**R**

RecordType オブジェクト 348  
RecordTypeLocalization オブジェクト 351  
Reply オブジェクト 352  
 resetPassword() コール 542  
 retrieve() コール 478  
 RETURNING 句 (SOSL) 489  
RevenueForecast オブジェクト 353  
RevenueForecastHistory オブジェクト 358

**S**

Salesforce.com Sandbox 567  
 salesforce.com インスタンス 567  
 Salesforce.com 外観の CSS 81  
 Salesforce.com 外観のスタイルシート 81  
Scontrol オブジェクト 360  
ScontrolLocalization オブジェクト 362  
 search() コール 479  
 SOSL の概要 481  
**SELECT**  
 count() 462  
 LIMIT 463  
 ORDER BY 462  
SOQL 450  
 toLabel() 451  
 項目式 453  
 条件表現 (WHERE 句) 450  
 日付形式 450  
 日付形式と日付リテラル 458  
 例 句 464  
**SELECT** 句の例 464  
SelfServiceUser オブジェクト 365  
 sendEmail() コール 543  
SessionHeader ヘッダー 563  
 setPassword() コール 551  
SOAP ヘッダー 553  
SolutionHistory オブジェクト 369  
SolutionStatus オブジェクト 370  
SolutionTag オブジェクト 371  
SOQ-R、リレーションクエリ参照) 465  
SOQL

null 値 451  
 SOSL との比較 482  
 引用された string のエスケープシーケンス 449  
 概要 447  
 構文規則 448  
 予約文字 449  
SOQL SELECT 内で予約された文字 449  
SOQL SELECT 内の予約文字 449  
SOQL クエリの null 値 451  
SOQL リレーションクエリ 465  
SOSL  
 Apex 構文 487  
 CJK 言語でのテキスト検索 498

**SOSL (つづき)**

FIND 句 485  
 IN 句 488  
 LIMIT 句 496  
 ORDER BY 句 495  
 RETURNING 句 489  
 SOQL との比較 482  
 toLabel() コール 496  
 WHERE 句 491  
 WITH 句 496  
 印字規則 483  
 概要 481, 482  
 構文 484  
 通貨項目のクエリを行う 497  
 例 498  
 SOSL FIND 内の予約文字 486  
 SSL 要件 72  
 StaticResource オブジェクト 372  
 SystemModstamp 項目 53

**T**

TagDefinition オブジェクト 374  
TaskPriority オブジェクト 381  
TaskStatus オブジェクト 382  
TaskTag オブジェクト 383  
 TLS 要件 72

**U**

undelete() 499  
 Unicode 570  
 update コール  
     と最新項目リスト 560  
 update() コール 500  
 upsert() コール 504  
UserAccountTeamMember オブジェクト 397  
UserLicense オブジェクト 399  
UserPreference オブジェクト 401  
UserRole オブジェクト 402  
UserTeamMember オブジェクト 404  
UserTerritory オブジェクト 405  
UserTerritoryDeleteHeader ヘッダー 563  
 UTF-8 570

**V**

Visualforce、使用するケース 10

**W**

Web サービス API コール  
     使用するケース 10  
WebLink オブジェクト 407  
WebLinkLocalization オブジェクト 411  
 WHERE 句  
     Boolean 項目の絞込み 452  
 WHERE 句 (SOSL) 491  
 WITH 句 (SOSL) 496  
WSDL  
     バージョン設定 66

**X**

XML 準拠 571

**あ**

アイデアオブジェクト 256  
 アウトバウンドメッセージ  
   WSDL の通知コール 577  
   および通知 573  
   セキュリティ 576  
   はじめに 572  
   ポート制限 574  
   ユーザプロファイルの設定 574  
   リストの構築 578  
   設定 574  
   追跡 576  
   定義 574  
   表示 576  
   理解 573  
 アウトバウンドメッセージ WSDL の notifications() コール 577

**え**

エラー処理 69

**お**

オブジェクト  
   Account 98  
   AccountContractRole 107  
   AccountHistory 108  
   AccountOwnerSharingRule 108  
   AccountPartner 110  
   AccountShare 111  
   AccountTag 113  
   AccountTeamMember 114  
   AccountTerritoryAssignmentRule 116  
   AccountTerritoryAssignmentRuleItem 117  
   ActivityHistory 119  
   AdditionalNumber 122  
   ApexClass 124  
   ApexComponent 126  
   ApexPage 128  
   ApexTrigger 130  
   Approval 132  
   AssetTag 137  
   AssignmentRule 137  
   AsyncApexJob 138  
   Attachment 139  
   BrandTemplate 143  
   BusinessProcess 148  
   CallCenter 149  
   CampaignMember 155  
   CampaignMemberStatus 158  
   CampaignOwnerSharingRule 159  
   CampaignShare 160  
   CampaignTag 161  
   CaseComment 167  
   CaseContactRole 168  
   CaseHistory 169  
   CaseOwnerSharingRule 170  
   CaseShare 171  
   CaseSolution 173

**オブジェクト (つづき)**

  CaseStatus 173  
   CaseTag 174  
   CaseTeamMember 175  
   CaseTeamRole 176  
   CaseTeamTemplate 176  
   CaseTeamTemplateMember 177  
   CaseTeamTemplateRecord 177  
   CategoryData 178  
   CategoryNode 179  
   CategoryNodeLocalization 180  
   ContactHistory 188  
   ContactOwnerSharingRule 189  
   ContactShare 190  
   ContactTag 192  
   ContentDocument 193  
   ContentDocumentHistory 194  
   ContentVersion 195  
   ContentVersionHistory 201  
   ContentWorkspace 202  
   ContentWorkspaceDoc 203  
   ContractContactRole 209  
   ContractHistory 210  
   ContractStatus 210  
   ContractTag 211  
   CronTrigger 212  
   CurrencyType 214  
   DatedConversionRate 215  
   DivisionLocalization 217  
   DocumentAttachmentMap 222  
   DocumentTag 222  
   EmailMessage 223  
   EmailServicesAddress 225  
   EmailServicesFunction 227  
   EmailStatus 231  
   EmailTemplate 232  
   EntityHistory 235  
   EventAttendee 244  
   EventTag 245  
   FiscalYearSettings 246  
   ForecastShare 250  
   GroupMember 252  
   LeadHistory 268  
   LeadOwnerSharingRule 269  
   LeadShare 270  
   LeadStatus 271  
   LeadTag 272  
   LineItemOverride 273  
   MailMergeTemplate 274  
   NoteAndAttachment 278  
   NoteTag 279  
   OpenActivity 280  
   OpportunityCompetitor 289  
   OpportunityContactRole 290  
   OpportunityFieldHistory 291  
   OpportunityHistory 292  
   OpportunityLineItem 293  
   OpportunityLineItemSchedule 297  
   OpportunityOverride 300  
   OpportunityOwnerSharingRule 301  
   OpportunityPartner 302  
   OpportunityShare 303  
   OpportunityStage 304  
   OpportunityTag 307  
   OpportunityTeamMember 306  
   OrgWideEmailAddress 317  
   PartnerNetworkConnection 319  
   PartnerNetworkRecordConnection 320

オブジェクト (つづき)  
 PartnerRole 323  
 Pricebook2 325  
 PricebookEntry 327  
 ProcessInstance 329  
 ProcessInstanceHistory 330  
 ProcessInstanceStep 331  
 ProcessInstanceWorkitem 332  
 Product2 333  
 QuantityForecast 341  
 QuantityForecastHistory 345  
 QueueSobject 348  
 RecordType 348  
 RecordTypeLocalization 351  
 RevenueForecast 353  
 RevenueForecastHistory 358  
 Scontrol 360  
 ScontrolLocalization 362  
 SelfServiceUser 365  
 SolutionHistory 369  
 SolutionStatus 370  
 SolutionTag 371  
 StaticResource 372  
 TagDefinition 374  
 TaskPriority 381  
 TaskStatus 382  
 TaskTag 383  
 UserAccountTeamMember 397  
 UserLicense 399  
 UserPreference 401  
 UserRole 402  
 UserTeamMember 404  
 UserTerritory 405  
 WebLink 407  
 WebLinkLocalization 411  
 アイデア 256  
 アイデアコメント 258  
 カスタムオブジェクト 59  
 キャンペーン 150  
 グループ 251  
 ケース 162  
 コミュニティ 182  
 ソリューション 367  
 タスク 376  
 ディビジョン 215  
 テリトリー 384  
 ドキュメント 218  
 パートナー 317  
 フォルダ 247  
 ブックマーク 142  
 プロファイル 338  
 メモ 277  
 ユーザ 386  
 リード 259  
 期間 324  
 休日 253  
 契約 205  
 行動 236  
 質問 347  
 取引先責任者 183  
 商談 283  
 投票 406  
 納入商品 134  
 標準オブジェクト 89

オブジェクト (つづき)  
 返信 352  
 オブジェクトおよび項目の暗黙的なセキュリティ上の制限 75  
 か  
 カスタムオブジェクト 59  
 き  
 キャンペーンオブジェクト 150  
 く  
 クライアント証明書のダウンロード 575  
 グループオブジェクト 251  
 け  
 ケースオブジェクト。 162  
 こ  
 コール  
 convertLead 415  
 create() 420  
 delete() 424  
 describe コールのリスト 509  
 describeGlobal() 509  
 describeLayout() 512  
 describeSObject() 520  
 describeSObjects 522  
 describeSObjects() 522  
 describeSoftphoneLayout() 533  
 describeTabs() 535  
 emptyRecycleBin() 426  
 getDeleted() 428  
 getServerTimestamp() 538  
 getUpdated() 432  
 getUserInfo() 539  
 invalidateSessions() 434  
 login() 435  
 logout() 438  
 merge() 439  
 process() 442  
 query() 444  
 queryAll() 473  
 queryMore() 475  
 resetPassword() 542  
 retrieve() 478  
 search() 479  
 sendEmail() 543  
 setPassword() 551  
 undelete() 499  
 update() 500  
 upsert() 504  
 コアコールのリスト 414  
 ユーティリティコールのリスト 538  
 コールセンターと API 595  
 コミュニティオブジェクト 182  
 コンテンツタイプの要件 567

さ

サポートポリシー  
API 12  
後方互換性 12  
廃止された API バージョン 12  
有効期限の通知 12

し

システム項目 53  
シンジケーションフィードサービス API の URL 構文 473

せ

セキュリティ 71  
アウトバウンドメッセージ 576  
オブジェクトおよび項目の暗黙的な制限 75  
とパッケージ 75  
ユーザプロファイル構成 72  
共有 74  
送信ポートの制限 77  
セキュリティトークン 72  
セッション ID の終了 70

そ

ソリューションオブジェクト 367

た

タスクオブジェクト 376  
  
ディビジョン、 SOSL内の絞込み 496  
ディビジョンオブジェクト 215  
データベースサーバインスタンス 567  
テリトリーオブジェクト 384

と

ドキュメントオブジェクト 218

は

バージョン設定  
  管理パッケージ 66  
パートナーオブジェクト 317  
パッケージ API アクセス 75

ふ

フィードサービス API URL 構文 473  
フォルダオブジェクト 247  
ブックマークオブジェクト 142  
プロファイルオブジェクト 338

ま

マルチ通貨組織、 SOSL で通貨項目のクエリを行う 497

め

メモオブジェクト 277

ゆ

ユーザインターフェースのテーマ 81  
ユーザオブジェクト 386  
ユーザプロファイル  
  アウトバウンドメッセージの設定 574  
ユーザプロファイル構成 72  
ユーザ認証 72

り

リードオブジェクト 259  
リレーション  
  子オブジェクトの親参照項目 54  
リレーションクエリ 465  
  partner WSDL 472  
  および null 値を伴う外部キー 469  
  概要 466  
  結果について 468  
  親と子のリレーションを識別する 470  
  制限 471  
  多構造キー 471  
  履歴オブジェクト 472  
リレーションクエリを持つ外部キー内の Null 値 469  
リレーション名 465  
  カスタムオブジェクトとカスタム項目の 467

ろ

ローカライズと文字コード 570  
ロール、 UserRole を参照 402  
ログイン 72  
ログインサーバの URL 566